

芸能部プロジェクト報告書  
伝統芸能の特殊な上演に関する調査研究

独立行政法人文化財研究所  
東京文化財研究所芸能部

## 目次

はじめに

二番叟・三番三の調査報告

1 二番叟・三番三の技法

高桑いづみ

3

2 「二番叟問答」の考察と翻刻

小田幸子

57

3 近世邦楽の二番叟物

蒲生郷昭

81

〔聞き書き〕人形浄瑠璃文楽    その上演演目 演出 首など  
吉田玉男師と吉田文雀師に聞く

鎌倉恵子

129

能「卒都婆小町」の旋律復元

高桑いづみ

149

『系統別歌舞伎戯曲解題』索引

飯島満

169

はじめに

本冊は芸能部プロジェクト「伝統芸能の特殊な上演に関する調査研究」の報告書である。本プロジェクトでは能楽、文楽及び歌舞伎を対象に、伝承上の問題や社会的な趨勢によって上演が稀少となった演目、秘伝とされて外部には伝承の詳細が明らかにされずにきた特殊な技法の調査・研究をおこなった。能楽・文楽・歌舞伎が「人類の口承及び無形遺産の傑作」に宣言され、世間の関心を呼び起こしたことは事実であるが、その一方で伝統芸能全般にわたって伝承状況に大きな変化が起こり、人気のあるわかりやすい演目だけがくり返し上演され、一部については伝承があやぶまれていることは否定しよのない事実である。

ただ、伝統芸能はジャンルによって伝承状況が異なり、上演稀少演目や秘伝に関する問題意識も異なっている。たとえば、能では所作を記した型付け、音楽情報を記した謡本や付けの類は非公開であっても豊かに残されている。その上、現行曲に含まれていれば、上演はまれであっても一通りの稽古は受けているので、多少の稽古をすれば上演がいつでも可能であるのに対し、文楽では、明治以降、舞台での上演が遠のいてしまった結果、素浄瑠璃の演奏は可能でも、具体的な舞台の様子や演出上の資料が残されていない作品は少なくない。歌舞伎については、これまで上演されてきた上演台本の全貌を提示すること自体、容易ではないのである。

こうした温度差のある芸能を同じ土俵で論じても、伝承の実態にそぐわないことは目に見えている。そこで、それぞれのジャンルごとにプロジェクトの目的に沿った調査を行い、別々に報告することとした。

本編は四部で構成されている。なお、第二部と第四部は、報告内容の都合上、横書きで作成した。そのため、本編での掲載順は、第一部、第三部、第二部、第四部となっている。

まず第一部は「三番叟・三番三の調査報告」である。三番叟は儀式的が強いため以前に比べると上演回数が少なくなっているが、年頭や能楽堂の舞台開きなどで上演される機会がないわけではない。しかし、祝言という性格上技法が公にしにくく、三番叟と千歳の間答に至っては、今日「四日の式」とされる詞章以外はほとんど上演されなくなっている。そこで、技法の解明のため部専用の舞台で装束をつけずに舞っていただき、技法を映像に収めるとともに、各機関に残る三番叟の間答について調査をおこなった。三番叟が近世芸能に与えた多大な影響については、元芸能部長である蒲生郷昭氏の講義録を掲載させていただくこととした。技法記録、問答については遺漏や誤記が懸念されるが、これまで類似の調査記録がなかったので、少なからぬ価値はあるのではないかと思っている。

第二部は、平成十四年十一月に横浜能楽堂で上演した「卒都婆小町」の上演資料である。「卒都婆小町」は、現在老女物の一曲として秘曲扱いされているが、重く扱われるようになったのは江戸時代以降のことである。横浜能

楽堂では「秀吉が見た卒都婆小町」という企画を立て、桃山時代には現在のほぼ半分の時間で上演が可能であったことを実証しようと試みた。上演時間が短かったのは、ひとつには謡のリズムが現行とは異なり、リズムカルだったためである。桃山時代の演出を復元する中で、当時のリズム、メロディも再現することになった。近年、廃曲のテキストを現行の演出で上演する復曲はさかんに行われているが、現行曲を過去のメロディやリズムに戻して演奏する方法はこれまでにない斬新な試みである。そこで横浜能楽堂、及び早稲田大学演劇博物館長竹本幹夫氏、玉川大学助教授兼築清恵氏のご許可をいただいてその際使用した五線譜を掲載することとした。復元の研究過程は放送大学の特別講義で放映したが、その要旨も前説として掲げることとした。

第三部は、重要無形文化財保持者である文楽人形遣いの吉田玉男師と吉田文雀師への聞き取り調査の一部をまとめたものである。吉田玉男師は戦前昭和期の文楽を知る数少ない技芸員であり、吉田文雀師は戦後一貫して首割を担当されてきた。現在、文楽の実際に最も通曉されているお二方からは、舞台演出や上演稀少演目といった技芸に関わるものだけではなく、いわゆる裏方事情にまでわたる広範で貴重な内容のお話をうかがうことができた。

第四部として、渥美清太郎『系統別歌舞伎戯曲解題』の系統名索引と戯曲名索引を作成、収録することとした。一個人の著作である以上少なからぬ不備はあるが、いまなお歌舞伎戯曲名総覧としては最大規模であり、歌舞伎戯曲の全体像を把握する上で最も重要な文献の一つである。およそ四半世紀をかけて雑誌に分割掲載（通算で二六八回）されたこともあって、豊かな情報

量を備えた名著でありながら、これまで極めて利用しにくい文献であった。本索引によって、近世演劇研究の基礎文献として十全の活用が可能となったといえる。

このように各ジャンルで調査対象は異なるが、いずれもこれまで未公開の資料や調査であり、今後の伝統芸能の伝承及びその研究に資するところが少なくなく、と自負している。最後になったが、調査に協力して下さい。個人、機関各位に対して深謝申し上げます。



# 二番叟・三番二の調査報告

本編は、第一「技法調査報告」、第二「問答編」、第三「近世の三番叟物」の三部分で構成されている。

高桑は、『芸能の科学』二七号（一九九九年三月発行）に「翁の技法」と題して各流の「翁」の技法記録を掲載したが、第一部はその続編に当たる。前編に引き続き高桑いづみが担当した。

第一部は小田幸子が担当した。小田はかつて『芸能』一九九〇年一月号（芸能学会編）に「二番叟の問答の変遷」と題して論者を掲載したが、紙面の都合上、資料の掲載がかなわなかった。今回、プロジェクトとして新たに翻刻を試み、三番叟の問答に関わる主要な資料を掲載することとし、あわせて考察を加えた。『芸能の科学』三〇号（二〇〇三年三月発行）に高桑が大蔵虎明筆「式三番」の翻刻を行っているが、そこにも「問答」が含まれている。あわせて参照していただければ幸いである。

第三部は一九九七年七月九日、芸能部夏期学術講座「翁（式三番）の種々相」において当時の蒲生郷昭部長がニコマにわたっておこなった講義の記録である。本プロジェクトとも関連の深い内容だったので、蒲生氏のご許可をいただき、掲載することとした。ご快諾いただいた蒲生氏に感謝申し上げます。なお、第一部、第三部の資料作成に当たっては中司由起子の協力を得た。

（高桑いづみ）

# 二番叟・三番三の技法

高桑 いづみ

## 凡例

一、本稿は、現行の「二番叟・三番三」にかかわる所作、笛の地について立ち方・笛方全流儀を対象として作成した比較図である。狂言は、同一流儀内でも家によって型が異なるので、各流とも二名の能楽師におこしいたゞ、流儀別に型の比較を行うことにした。

一、三番叟・三番三は、正式の型を省略した演奏も多く行われている。正式の型を中心に記述を行ったが、家によっては、省略形で記したところもある。地の回数が家によって異なる場合は、型の対応を優先させた。地の開始位置は 印を付けた。空欄は、その箇所では唱歌の演奏が一巡ないことを表している。

一、舞台の進行に従い、唱歌の横に型やカケ声を併記した。笛の流儀によって唱歌は微妙に異なるが、あえて流儀を揃えず、日頃相手をすることの多い流儀の唱歌を用いることとした。唱歌と所作が細かく対応する場合は唱歌の右肩に数字を付し、所作を注記として示した。カケ声は行書体で表したが、同一パターンが継続する場合は特に記さず、変化する箇所のみに記している。

一、足拍子に関しては、唱歌の左に左足の拍子、右に右足の拍子を記した。白丸は大きな音を立てて踏む拍子、黒丸は音を立てずに踏む拍子であ

る。その他、鳥飛び、又キ足など特殊なものについてはアステリスク等異なる記号を用いて唱歌の横に明記することとした。

一、写真の掲載は、特徴のある型に限った。同一流儀内で同じ動きをする場合、和泉流は野村萬氏、大蔵流は茂山千五郎氏の写真を掲載している。写真は、比較図のあとに一括して掲載した。写真に付した番号によって本文中の説明と対応させている

一、笛は流儀によって地の句数が異なるが、縦のラインで対応するよう配置した。該当する句がない場合は空欄とし、くり返す場合は、+や\*などの記号で示した。

調査に際して次の方々のご協力をいただいた。この場を借りて深謝申し上げます。

### 狂言方

野村萬（和泉流三宅派）

野村又三郎（和泉流又三郎家）

山本則直（大蔵流）

茂山千五郎（大蔵流）

### 笛方

一 噌庸二（一噌流）

杉市和（森田流）

藤田六郎兵衛（藤田流）

揉ノ段・舞譜（和泉流）

三宅派（野村萬） 笛 一噌流

後見座にクツロギ、土烏帽子を剣先烏帽子に替え、小サ刀を抜いて直垂の後ろをハネ、「天下泰平」の謡でアイ座に来て坐す

揉出シ

アイ、座にて扇を取つて左、右と膝立て替えて一膝分前に進み、居して待つ

立頭

二度目の立頭で左膝立てて立ち、扇をサシて正先へ向かつてハコビ出す  
橋掛りより出、正先で止まる

扇戻して右一足引き、左半身になって伸あがる

おおさえ おおさえ おう

正面をサシて一歩出、再び幕の方までサシ回シ

喜びありや 喜びありや

正へ直して足引きながら左・右とツユを取り左回り、常座に行く

わがこの所よりほかへは

大鼓前で回り返して脇座へ向き、両手頭上で達拝後

やらじとぞ

目付柱へ向いて両袖カケて前へツキ出し

おもつ

野村派（野村又三郎） 笛 一噌流

立頭

二度目の立頭で立ち、舞台に入ったところで膝まげてから伸び上がり

常座より正面へ出、脇座の方へサシ

おおさえ おおさえ おう

橋掛りまでサシ回シ二回

喜びありや 喜びありや

左右、両袖のツユを取りながら左に小回りして常座に戻る

わがこの所よりほかへは

両手前へ出し、常座より正先へ出ながらツユ払い

やらじとぞ

両袖を内へカケて前に出す

おもつ

(大鼓の粒聞き)

イヤ

ハ  
ン  
ハ  
ヒ  
ー  
ヒ  
ウ  
ー  
リ  
ウ  
ヒ  
ー

「ヤ」

<sup>1</sup>ここではかけないが  
以下「ヤハンハ」と  
カケ声をかける

イヤ

ハ  
ン  
ハ  
ウ  
ラ  
ア  
ラ  
リ

両手ツキ出し足拍子を踏みながら笛前より目付へ進む

【萬一】

オ  
ビ  
ー  
オ  
ビ  
ー  
ウ  
ヒ  
ヤ  
リ

ヒ  
ヤ  
リ  
ー  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ  
ハ  
イ  
ヤ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
リ  
ウ  
リ  
ー  
ヤ

リ  
ウ  
ー  
リ  
ー  
ヒ  
ウ  
ー  
リ

(大鼓の粒に合せて)

イヤ

ハ  
ン  
ハ  
ヒ  
ー  
ヒ  
ウ  
ー  
リ  
ウ  
ヒ  
ー

イヤ

ハ  
ン  
ハ  
ウ  
ラ  
ア  
ラ  
リ

両手ツキ出し足拍子を踏みながら常座前より目付へ進む

オ  
ビ  
ー  
オ  
ビ  
ー  
ウ  
ヒ  
ヤ  
リ

ヒ  
ヤ  
リ  
ー  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
ヒ  
ー  
ヤ  
ロ

ヒ  
ー  
ル  
ラ  
リ  
ウ  
リ  
ー

リ  
ウ  
ー  
リ  
ー  
ヒ  
ウ  
ー  
リ

- 1 右足引く
- 2 左足引く
- 3 右左と引き
- 4 膝軽く曲げ

<sup>5</sup>ハコビを止めて  
その場で足拍子

<sup>6</sup>膝一瞬曲げて

足拍子を踏みながら後ろ向きに目付より正中へ戻る

オハ ● オハ ○ーウヒ ヤ ● リ

ビ ● ヤ ● リー ビ ● ハ  
ーヤ ● イ  
● ヤ

1 右ウケ  
2 左ウケ  
3 右ウケ  
4 戻す

袖払って左へ大回り

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

目付を経て舞台を一周して正中に戻る

ハ (袖払いながらカケ声変える)

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ リ ウ リ ー

リ ウ リ ー ヒ ● ウ リ

オハ ● オハ ○ーウヒ ヤ リ

5 脇座辺  
6 大小前

ヒ ● ヤ リ ー ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

7 脇座辺

大小前で両袖なびかしたあとカケて前へツキ出し、目付へ進む

ヒ ● ー ル ● ラ リ ウ リ ー

足拍子を踏みながら後ろ向きに目付より常座へ戻る

オハ ● オハ ○ーウヒ ヤ ● リ

ヒ ● ヤ ● リ ー ● ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

1 常座で

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ リ ● ウ リ ● ー

リ ● ウ リ ー ヒ ● ウ リ

両袖払い、常座より左へ大回り、大小前に戻って再び中回り

オハ ● オハ ○ーウヒ ヤ リ

ヒ ● ヤ リ ー ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ ヒ ● ー ヤ ● 口

ヒ ● ー ル ● ラ リ ウ リ ー

リウリーヒウリ

大小前より目付まで一気に斜めに進み、角取り  
正先まで右足を左足にかけて横足で進み【萬々】（二丁四回）正先で向きを変えて脇座へ行き、脇座から大小前へ三角形を描くようにハコブ（三角と称する）

ハ

オヤ オヤ ーウヒヤリ

ビヤ リーヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

リウリーヒウリ

1 横足

2 向きを変える

大小前から目付へ一気に斜めに進み、小角<sup>コスキ</sup>より正中まで横足で進み、正中で向きを変えて地ノ上まで行く（二度目の三角）

ハ

オヤ オヤ ーウヒヤリ

ヒヤ リーヒーヤロ

ビル ーラヒーヤロ

ビル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

リウリーヒウリ

3 横足

4 向きかえる

リウリーヒウリ

笛前で右手突き出し、両袖内にカケて前へ出し、笛前で右手突き出し、両袖内にカケて前へ出し、まっすぐ目付へ進み、目付で正向き、大きく膝をまげて横足をし、正先より向きを変えて脇座へ行く

オヤ オヤ ーウヒヤリ

ヒヤ リーヒーヤロ

ビル ーラヒーヤロ

ビル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

ヒル ーラヒーヤロ

リウリーヒウリ

1 目付へ進む

2 横足

3 向き変え

地ノ上から大小前へ行き、後ろを向いて袖払い、大きく左回りして大小前に戻る

オヤ オヤ ーウヒヤリ

ヤ  
 ハ  
 ヒ ヤリ ーヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ

呂ノ手

正中で右手下方斜め前に出した後右斜め上にあげ

【萬3】

フーヒ ーイタルラー

再び下方斜め前に下ろして右袖巻く

ヤ  
 ハ  
 ヤ ーヒ ーイタイウリ ー  
 ーオ。 ○ヤ ーヒ ーヤロ。

右袖巻いたまま、いったん目付の方を向き、改めて足拍子をふみながら脇座へ行く

【萬4】

ヒ白 ールラヒーヤロ。

ヒ白 ールラヒーヤロ。

1 脇座の方向く

再び両手を前へ付きだし、脇座よりまっすぐ正中へ戻る

オヤ オヤ ーウヒヤリ

後ろ向きのまま右へ一足大きく出て袖払い、左へ小回り二回  
 ヒ ヤリ ーヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ  
 ヒ白 ールラヒーヤロ

呂ノ手

大小前で下向き、右袖巻いて肩に担げて身体を起こし、足拍子

フーヒ ーイタルラー

ヤ  
 ハ  
 ヤ ーヒ ーイタイウリ ー  
 ーオ。 ○ヤ ーヒ ーヤロ。

ヒ白 ールラヒーヤロ

ヒ白 ールラヒーヤロ

体を直し、左へ向きを変えて地前へ斜めに進む

1 右斜め下方を向いて膝一瞬曲げる

ヒ白 ー・ル・ラ・リ・ウ・リ・  
 リ・ウ・リ・ヒ白。ウ・リ・ハ・イ・ヤ  
 1 正面向く

右袖巻いたまま脇座より正先へ横足で進み、向きを変えて目付に行く

オハ。オハ。ーウヒ。ヤリ  
 2 横足  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ  
 3 向きかえる  
 リウリーヒ白ウリ

目付から大小前に戻り、小さく右回りして再び大小前に戻る

ヒヤリーヒーヤロ  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ

ヒ白。ー・ル・ラ・リ。ウ・リ。ー  
 リ・ウ・リーヒ白。ウリ  
 1 地前より脇座へまっすぐ進む

脇座で左袖なびかせた後、内へカケて前へ突き出す

脇座から、身体正面に向いたまま足拍子踏みながら正先へ行く

オハ。オハ。ーウヒ。ヤリ  
 ヒヤ。ーリーヒーヤロ。  
 ヒ白 ー・ル・ラ・ヒ・ーヤロ  
 ヒ白。ー・ル<sup>2</sup>・ラ・ヒ・ーヤロ  
 2 ハネ足  
 (右足カカトを立てて静止)

正先で向きを変えて目付へ進み、目付から正中へ戻る  
 大小前で後ろ向きのまま左へ一足大きく出て左袖戻し、右に小回り二回して大小前に戻る



呂ノ手

大小前で左手下方斜め前に出してから左斜め上にあげ

ヒ白 | ル | ラ | リ | ウ | ラ |  
フ | | ヒ | | イ | タ | ル | ラ | |  
ハ | | ヒ | | イ | タ | イ | ウ | リ | |

1 左袖巻いて挙げる

ヤ  
ハ  
オ● | ハ  
○ハ | ヒ | ヤ | ロ○

両手あげたままいったん脇座の方を向き、改めて足拍子を踏みながら目付へ行

【萬5】

ヒ白 | ル | ラ | ヒ | ヤ | ロ○

向きを変える

●ヒ | ル | ラ | ●ヒ | ヤ | ロ○

ヒ白 | ル | ラ | ウ | リ | |

リ● | ウ | リ | | ヒ | ヒ○ | ウ | ハ | イ | ヤ | ●

オハ○ | オハ○ | ウ | ヒ○ | ヤ | リ

呂ノ手

下向いて左袖も巻いて左肩に担げ、足拍子を踏みながら常座に向かい、常座よりまっすぐ目付へ行く

ヒ白 | ル | ラ | リ | ウ | ラ | |  
ブ | | ヒ | | イ | タ | ル | ラ | |  
ハ | | ヒ | | イ | タ | イ | ウ | リ | |

1 左袖巻く

ヤ  
ハ  
オ● | ハ  
○ハ | ヒ | ヤ | ロ○

ヒ白 | ル | ラ | ヒ | ヤ | ロ

体を直し、向きを変えて常座に行く

2 左斜め下方を向いて膝一瞬曲げる

●ヒ | ル | ラ | ●ヒ | ヤ | ロ

ヒ白 | ル | ラ | ウ | リ | ● |

リ<sup>3</sup> | ウ | リ | | ヒ | ヒ○ | ウ | リ | ●

3 正へ向き直す

オハ● | オハ● | ウ | ヒ○ | ヤ | リ<sup>4</sup>

4 膝曲げる

イヤー

ヒヤ・リー・ヒーヤロ

目付で右足を挙げて静止し（陰ノ拍子）、正先へ両手上げたまま横足で進み、正先で向きを変えて脇座に行く

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ 1 陰ノ拍子

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ 2 横足

ヒ白 ー ル ラ リウリ ー 3 向き変える

リウリ ー ヒ白 ウリ

脇座から大小前に戻り、左へ中回りして再び大小前に戻る

大小前より脇座へ大きく右左と踏みだし、左パツと大きく又キ足（顔も同時に後ろへ向ける）【萬6】、三回して脇座へ斜めに進み、又キ足あとはまっすぐ脇座へ進んで左袖払い左袖カケル

八（踏み出すとき、カケ声変える）

オヤ・オヤ ー ウヒヤリ 4 又キ足

ヒヤ・リー・ヒーヤロ

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ 5 まっすぐ脇座へ向かう

ビヤ・リー・ヒーヤロ 1 目付へ出る

目付で横足して正先へ進み、向きを変えて脇座へ行く

ヒ白 ー ル<sup>2</sup> ラ ヒーヤロ 2 ハネ足 【又三郎1】

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ 3 横足

ヒ白 ー ル ラ リウリ ー 4 向き変える

リウリ ー ヒ白 ウリ

脇座から大小前に戻り、右へ中回りして再び大小前に戻る

ドロ足しながら常座より地前に行く 【又三郎2】

オヤ・オヤ ー ウヒヤリ

ヒヤ・リー・ヒーヤロ 5 下口足

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ

ハ

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ リ ウ リ |

1 左袖払い

ヰ ウ リ | ヒ<sub>ハ</sub> ウ リ

2 左袖カケ

正先まで足拍子踏みながら進む

ハ

オ<sub>ハ</sub> | オ<sub>ハ</sub> | ウ ヒ ヤ |

ヒ ヤ | リ | ヒ | ヤ |

正先から目付へ横足で進む

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ ヒ | ヤ |

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ ヒ | ヤ |

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ ヒ | ヤ |

目付で向きを変えて笛前に行き、小さく右へ回り返シ

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ リ | ウ リ |

リ | ウ リ | ヒ<sub>ハ</sub> | ウ リ

脇座で左袖戻し、なびかせた後再びカケて、身体正面向きながら足拍子踏んで目付へ行く

オ<sub>ハ</sub> | オ<sub>ハ</sub> | ウ ヒ ヤ |

ハ (ここと次の二句のみカケ声変わる)

ヒ ヤ | リ | ヒ | ヤ |

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ | ヒ | ヤ |

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ ヒ | ヤ |

ヒ<sub>ハ</sub> | ル ラ ヒ | ヤ |

目付から笛前へ戻る  
笛前で左袖直して二回左へ小回りし、左袖を横になびかせる

鳥飛ビ（笛前より目付方向へ三回）

【萬7】

エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup> 鳥飛ビ  
 オビ オビ ーウヒ ヤリ

両袖カケながら目付へ行き、正先へ横足で進み、正先で向きを変えて脇座に進む

↓ 八（目付へ行きながらカケ声変える）

ヒヤリ ーヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ 2 横足  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 リウリ ーヒ白 ウリ 3 向きかえ

脇座より大小前に戻り、両袖払い、左回りして再び大小前に戻る

オビ オビ ーウヒ ヤリ

↓ 八（両袖払いながらカケ声変える）

ヒヤリ ーヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 リウリ ーヒ白 ウリ

正先へ出、後ろへ下がりがりながら左袖見せ（知ラセ）【萬8】、左袖、右袖とカケ

オビ オビ ーウヒ ヤリ  
 ヒヤリ ーヒーヤロ

鳥飛ビ（笛前より目付方向へ三回）

【又三郎3】

エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup> 鳥飛ビ  
 オビ オビ ーウヒ ヤリ

両袖返して前へ出しながら目付へ行く

目付で膝を大きく曲げてから戻して横足をし、正先で向きを変えて脇座に進む

ヒヤリ ーヒーヤロ

ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 リウリ ーヒ白 ウリ

脇座より大小前に戻り、右へ一足出て両袖払い、左へ小回りして再び大小前に戻る

オビ オビ ーウヒ ヤリ

↓ 八（両袖払いながらカケ声変える）

ヒヤリ ーヒーヤロ  
 ヒ白<sup>2</sup> ー ル ラ ヒーヤロ 2 両袖払い小廻り  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 ヒ白 ー ル ラ ヒーヤロ  
 リウリ ーヒ白 ウリ

右左右と三足出、右左と二足下がりながら左袖見せ（知ラセ）、左袖、右袖とカケ

オビ<sup>3</sup> オビ ーウヒ ヤリ  
 ビ<sup>4</sup> ヤリ ーヒーヤロ

3 右左右と三足出  
 4 右左と二足下がり

トメ

ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ー  
ル<sup>1</sup>ル<sup>1</sup>  
ラ<sup>2</sup>ラ<sup>2</sup>  
ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ーヤ<sup>1</sup>ーヤ<sup>1</sup>  
ロ<sup>1</sup>ロ<sup>1</sup>

1 袖見せ  
2 左袖カケ

オ<sup>3</sup>ハ<sup>3</sup>  
ー  
ヒ<sup>3</sup>ヒ<sup>3</sup>  
ーヤ<sup>3</sup>ーヤ<sup>3</sup>  
ロ<sup>3</sup>ロ<sup>3</sup>

3 右袖カケ

ヒ<sup>3</sup>ヒ<sup>3</sup>  
ー  
ル<sup>3</sup>ル<sup>3</sup>  
ラ<sup>3</sup>ラ<sup>3</sup>  
ヒ<sup>3</sup>ヒ<sup>3</sup>  
ーヤ<sup>3</sup>ーヤ<sup>3</sup>  
ロ<sup>3</sup>ロ<sup>3</sup>

ヒ<sup>4</sup>ヒ<sup>4</sup>  
ー  
ル<sup>4</sup>ル<sup>4</sup>  
ラ<sup>4</sup>ラ<sup>4</sup>  
ヒ<sup>4</sup>ヒ<sup>4</sup>  
ーヤ<sup>4</sup>ーヤ<sup>4</sup>  
ロ<sup>4</sup>ロ<sup>4</sup>

4 右ウケ

オ<sup>5</sup>ヒ<sup>5</sup>  
ーヤ<sup>5</sup>ーヤ<sup>5</sup>  
ロ<sup>5</sup>ロ<sup>5</sup>  
ー  
ヒ<sup>5</sup>ヒ<sup>5</sup>  
ーヤ<sup>5</sup>ーヤ<sup>5</sup>  
ロ<sup>5</sup>ロ<sup>5</sup>  
ハ<sup>5</sup>イ<sup>5</sup>ヤ<sup>5</sup>

5 左ウケ

正へ直シ

ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ー  
ラ<sup>1</sup>ラ<sup>1</sup>  
ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ーヤ<sup>1</sup>ーヤ<sup>1</sup>  
ロ<sup>1</sup>ロ<sup>1</sup>

ヒ<sup>1</sup>ー

イヤー

左半身になり、袖戻し、カケ声かけながら膝付く

トメ

ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ー  
ル<sup>1</sup>ル<sup>1</sup>  
ラ<sup>1</sup>ラ<sup>1</sup>  
ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ーヤ<sup>1</sup>ーヤ<sup>1</sup>  
ロ<sup>1</sup>ロ<sup>1</sup>

1 袖見せ

オ<sup>2</sup>ハ<sup>2</sup>  
ー  
ヒ<sup>2</sup>ヒ<sup>2</sup>  
ーヤ<sup>2</sup>ーヤ<sup>2</sup>  
ロ<sup>2</sup>ロ<sup>2</sup>

2 左袖カケ

ヒ<sup>3</sup>ヒ<sup>3</sup>  
ー  
ル<sup>3</sup>ル<sup>3</sup>  
ラ<sup>3</sup>ラ<sup>3</sup>  
ヒ<sup>3</sup>ヒ<sup>3</sup>  
ーヤ<sup>3</sup>ーヤ<sup>3</sup>  
ロ<sup>3</sup>ロ<sup>3</sup>

3 右袖カケ

ヒ<sup>4</sup>ヒ<sup>4</sup>  
ー  
ル<sup>4</sup>ル<sup>4</sup>  
ラ<sup>4</sup>ラ<sup>4</sup>  
ヒ<sup>4</sup>ヒ<sup>4</sup>  
ーヤ<sup>4</sup>ーヤ<sup>4</sup>  
ロ<sup>4</sup>ロ<sup>4</sup>

右左と身体をひねりながら足拍子踏み

オ<sup>5</sup>ヒ<sup>5</sup>  
ーヤ<sup>5</sup>ーヤ<sup>5</sup>  
ロ<sup>5</sup>ロ<sup>5</sup>  
ー  
ヒ<sup>5</sup>ヒ<sup>5</sup>  
ーヤ<sup>5</sup>ーヤ<sup>5</sup>  
ロ<sup>5</sup>ロ<sup>5</sup>

左右左と半身になり

ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ー  
ラ<sup>1</sup>ラ<sup>1</sup>  
ヒ<sup>1</sup>ヒ<sup>1</sup>  
ーヤ<sup>1</sup>ーヤ<sup>1</sup>  
ロ<sup>1</sup>ロ<sup>1</sup>

ヒ<sup>1</sup>ー

イヤー

袖戻し、カケ声かけながら膝付く

鈴ノ段・舞譜（和泉流）

三宅派（野村萬） 笛 一噌流

野村派（野村又三郎）

笛 一噌流

序

ヲヒャーラヒャーロ

後ろ向きになって右手に鈴を持ち替え、扇をヒラいて左手に持ち、鈴をカイ込  
んで身をかがめる

イヤライツ リイツ

正面向く 達拝しながら四足前へ出る

ヒヒャルラ ヒウヤ リイツリイツ ヒウヒャ

右左と足引き、腰入れて再び達拝

大鼓の止めの頭と一緒に顔起こして両手開き、鈴振り分ける

（鈴は内側にひねるよつに振る）

ロルラ

大小前よりゆっくり正先へ出

♣ ♣ ♣ ♣（この位置で鈴振る以下同）

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー

左ウケし、戻す

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー

右ウケし、戻す

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ー

扇をカエシ、鈴をカイ込んでかがみながら後ろ向きに正中まで下がる

リ ウ リ ヒヒルリ ー

ヲヒャーラヒャーロ

後ろ向きになりながら両ツユ取り、扇開いて鈴右手に扇左手に持ち替える

イヤライツ リイツ

ヒヒャルラ ヒウヤ リイツリイツ ヒウヒャ

正向き、達拝

大鼓の止めの頭と一緒に顔起こして両手開く

ロルラ

一句聞いてから大小前よりゆっくり正先へ出

♣ ♣ ♣ ♣（この位置で鈴振る以下同）

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー

ホ ン ホ ビ リ ウ リ ー

鈴を身体の前に出し、扇を抱いこんで鈴を覆いながら脇座の方向き

リ ウ リ ヒヒルリ ー

1 正先で止まる

2 顔だけ正向く

かいこんだ姿勢のまま足拍子を踏む（並ビ拍子）

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー<sup>1。</sup>

1 姿勢を直し、両手広げる

正中より脇座へ行く

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ<sup>2</sup>  
ウ  
リ  
ー

リ  
ウ  
リ  
ヒ<sup>3</sup>  
白  
ル  
リ  
ー

2 脇座へつめる  
3 笛座の方に向き変える

笛座に戻る

目付へ向かう

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ビ<sup>4</sup>  
リ  
ウ  
リ  
ー

4 右半身になり、左手を腰の後ろに当てて目付柱に鈴を打ち込む

リ  
ウ  
リ  
ヒ<sup>5</sup>  
白  
ル  
リ  
ー

5 姿勢を戻す

両手開いて目付柱で足拍子踏む（並拍子）

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

【萬10】

表面<sup>おもておも</sup>返り【又三郎<sup>4</sup>】この型をくり返しながら、大小前へ下がっていく

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト<sup>3</sup>  
ウ  
口  
ー

1 抱いこんだまま地謡座の方向く  
2 顔だけ正向  
3 カマ工戻す  
4 抱いこんだまま脇座の方向く

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ<sup>2</sup>  
ヒ  
リ<sup>5</sup>  
ウ  
リ  
ー

リ  
ウ  
リ  
ヒ<sup>3</sup>  
白  
ル  
リ  
ー

5 カマ工戻し、目付の方向く

大小前で目付の方向きながら足拍子

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

両手開き、脇座の方へ向きを変える

一足出、左足をカケテ目付の方へ向き変える

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ  
ー

目付へハコビ出ス

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
ー

ホ・  
ン  
ホ・  
ヒ  
ト・  
ウ  
口  
。

大鼓の方へ向きを変え、ハコビ出す

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ  
。

リ  
ウ  
リ  
ヒ  
白  
ル  
リ  
。

大鼓の前より向きを変えて脇座へ行く

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

大きく右半身になって止まり、左手を腰の後ろに当ててワキ柱に鈴打ち込む

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

一足下がって両手開く

リ  
ウ  
リ  
ヒ  
白  
ル  
リ  
。

そのままの位置で足拍子

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ・  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

シテ柱の方向いて小さく左回り

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

リ  
ウ  
リ  
ヒ  
白  
ル  
リ  
。

目付より大小前に行く

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
口  
。

大小前で向きを変え、脇座へ行く

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ<sup>1</sup>  
。

<sup>1</sup> 目付柱に鈴付きだして達拝

<sup>2</sup> 鈴、脇柱へ付きだして達拝



リウリ ヒルリ 1 姿勢戻して両手開ク

ワキ柱で足拍子 これを合図に呂ノ手(割拍子)

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。

向きを変えて大小前へ向かう

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。

呂ノ手

大小前より大きく左廻り、脇座よりシテ柱へまっすぐ向かう

リウラアフー  
ハア | | ハウラ | |  
ハウラ | | トウラ | | イ  
トウラ | | リツロ | |

両手上であわせてシテ柱に鈴打ち込む(種下ろし)

ヲハ | | イタウハ | | | | | |  
正中へ向きを変え、かがんで左手の扇を腰の後ろに付ける(種時キ) 【萬12】

【萬11】

一足下がって両手開ク

リウリ ヒルリ

そのままの位置で足拍子(又キ拍子)

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。

脇座の方へ向きを変え、小さく左廻りしたあと大小前へ戻る

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ウ。ロ。イ。

呂ノ手

扇を次第に高く掲げながら大小前で小さく左廻り

リウラアフー  
ハア | | ハウラ | |  
ハウラ | | トウラ | | イ  
トウラ | | リツロ | |

大小前で扇腰に当てながら前屈みになり、鈴を打ち込む

ヲハ | | イタウハ | | | | | |  
そのままのカマエで地前の方へハコビ出す

【又三郎5】

地前へ向かう

ラ イ タ ウ ヲ | | |

地前より後ろ向きに大鼓前へ戻る

ヲ ヲ | | | ラ |

リ ウ ヤ | ヒ | ヤ |

大鼓前で脇座を向き、左手腰にあてたまま足拍子

【萬13】

ホ・  
○ン ホ ヒ ト・  
○ウ ○ロ |

ホ・  
●ン ホ・  
●ヒ ト・  
○ウ ロ |。

右に一步踏み出して三回、左に下がって三回り分ける

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ |

右に下がって三回振る

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ |

リ ウ リ ビ 白 ル リ |

1元へ戻す

右大回り(大中小と三回)

ホ ン ホ ヒ ト ウ |

ホ ン ホ ヒ ト ウ |

ホ ン ホ ヒ ト ウ |

ホ ン ホ ヒ ト ウ |

リ ウ リ ビ 白 ル リ |

ラ イ タ ウ ヲ | | |

地前よりタラタラと大小前へ戻る

ヲ ヲ | | | ラ |

リ ウ ヤ | ヒ | ヤ |

大小前で脇座を向き、左手腰にあてたまま足拍子

ホ・  
○ン ホ ヒ ト・  
○ウ ○ロ |

ホ・  
●ン ホ・  
●ヒ ト・  
●ウ ロ |。

右・左・右と足をぬくようにして下がる

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ |

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ |

リ ウ リ ビ 白 ル リ |

1左向いて二足出、右向いて二足出、脇座の方を向いて大きく右回り

呂ノ手

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ  
ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ

リ  
ウ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ

正先より後ろ向きに正中へ下がる

正先へ進む

1  
両手ヒラク

呂ノ手

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ  
ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
リ  
ウ  
リ

リ  
ウ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ  
ヒ  
ヒ  
ヤ  
ハ

正先へ進み、タラタラ大小前へ下がる

大小前

目付へ向きながら

ホ  
ン。

面返り(両手下であわせ、右手下で鈴振り、左手上げ、扇カイ込み面をすこしづつ切りながら左上の扇を見る) 【萬14】

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ー  
 リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー  
 1 面返り終わり

地前

角へ進む

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー

左手腰の後ろにあて、半身になって目付柱に鈴を打ち込む

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ー  
 リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー

そのままの姿勢で足拍子

ホ ン ー  
 ホ ン ー  
 ホ ン ー

ホ ン ー  
 ホ ン ー  
 ホ ン ー

両手広げる 足踊るように大きく拳げながら横足で進む

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー

リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー

2 面返り始め

3 面返り終わり

面返り(左・右・左・右と足を踊るように又キながら右手下で鈴を振り、左手扇抱いこみながら面を少しづつ切って左上の扇を見る) 【又三郎6】

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ー  
 リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー

両手開いて脇正の方向き、大小前へ戻る

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー

大小前で鈴前に出し、達拝して両手開く

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ー  
 リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー

ホ ン ー  
 ホ ン ー  
 ホ ン ー

少し右へ向きながら

ホ ン ー  
 ホ ン ー  
 ホ ン ー

両手広げ、足踊るように大きく左右左右と拳げながら横足で進む

ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ 口 ー

面返り  
 リ ウ リ ヒ 白 ル リ ー

1 両手下で合わせ

地前	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	地前より角方向へ	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>1</sup> リ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>2</sup> リ ト ウ □  </p>	角で両手広げて足拍子	<p>ホ・ ン・ ホ・ ヒ ト・ ○ウ □  。</p>	足踊るようになら大きくあげながら横足で進む	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>3</sup> リ ト ウ □  </p>	4 面返り終わり	地前	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	大小前へ行く	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	左大回り	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>
脇座の方向いて大小前へ行く	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>1</sup> リ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>2</sup> リ ト ウ □  </p>	1 鈴を前に出し、 達押して両手開く	両手広げ、足踊るようになら大きくあげながら横足で進む	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □            リ ウ リ ヒ<sup>3</sup> リ ト ウ □  </p>	2 両手下で合わせ	面返り	脇座より大小前へ戻り、左へ大きく廻る	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>	<p>ホ ン ホ ヒ ト ウ □            ホ ン ホ ヒ ト ウ □  </p>			

大小前

正先へ出る

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 リ ウ リ ヒ ヒ ル プ ー

1 後ろへ下がる

2 正中

かがんで扇を8の字を描くようにまず左へ扱いながら振り上げる

鈴を右に振り上げる

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー

大小前で両手サツと左右にヒラキ、鈴を左右に振って達拝

【萬16】

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 リ ー。 ウ ー。 リ ウ ヒ ー  
 ヒ ー。 ヒ ー。 ウ ー。 ー。

正先へ出 左右

達拝しながら下がる

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 リ ウ リ ヒ ヒ ル リ ー

上げる

【又三郎7】

達拝

大小前でかがんで扇を8の字を描くように左・右と扱いながら鈴と扇を振り上げる

ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 リ ー。 ウ ー。 リ ウ ヒ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ホ ン ホ ヒ ト ウ ロ ー  
 ヒ ー。 ヒ ー。 ウ ー。 ー。

左回り

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

大小前より正先へ出、左ウケ右ウケして鈴を振りあげ、後ろに下がる

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

カイ込ミながら下に居る

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

再達拝

ヒ  
ー

【萬17】

扇を前へ突き出しながら左へ大きく廻り

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

正先より達拝しながら大小前へ下がり

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

カイ込ミながら下に居る

ホ  
ン  
ホ  
ヒ  
ト  
ウ  
ロ  
ー

再達拝

ヒ  
ー

揉ノ段・舞譜（大蔵流）

茂山家（茂山千五郎） 笛 森田

揉出シ

後ろを向いて坐している  
ヒシギを聞いて右回りに立ち、右・左と足を引き、大鼓の打出と同時に  
小さく右回り 目付柱までサシながら出、常座に戻って左・右と袖を払い  
ながら、座す

立頭

立頭で立ち上がり、目付柱際へ出る  
左半身で伸び上がり

おお

半身のまま一足大きく引き

おおさえ おおさえ おう

正面へサシ扇、幕まで再びサシ廻シ

喜びありや 喜びありや

大左右 打込

左右とツユ取りながら左へ中廻り常座へ戻って正面向き

わがこの所よりほかへは

手を前方へあわせて ツユ離シ

やらじとぞ

山本家（山本則直） 笛 森田

揉出シ

後ろを向いて坐している  
大鼓の打出を聞いて右回りに立ち、前に出ながらサシ、右左と足を引き  
ながら坐す

立頭

立ち上がり

おお

前へ出て両手ヒラキながら伸び上がり

【則直一】

右左と足引きカマ工戻す

おおさえ おおさえ おう

サシ、左半身になってヒラキ

喜びありや 喜びありや

左右打込しながら常座までシサリ

右へ一歩移りながら左右の袖のツユ取り左へ中廻り

わがこの所よりほかへは

常座で廻り込ミ 両手前に出してツユ離シ

やらじとぞ



左半身になって袖かける

おもつ

カカリ

袖かけたまま半身で

イヤ  
イヤ<sup>1</sup>。

<sup>1</sup> 大鼓に合わせて右足拍子  
【千五郎1】

イヤ  
イヤ<sup>2</sup>。

<sup>2</sup> 左足拍子

正面向く

ヒ<sup>白</sup> ウラリヤリ

足拍子踏みながら前へ少しづつハコブ

【千五郎2】

オヒ。 オヒーウリヤリ

ヒ。 ヤルリヒウイヤロ。

ヒ<sup>白</sup>。 ーウ。ラヒウイヤロ。

ヒ<sup>白</sup>。 ーウ。ラリ。ーウリ。ヤア

あとずさりしながら拍子踏む

ハ

リーウリ。ヒヤ。リ

両手ヒラキながら下にオロシ、左半身になって両袖力ケて前へ突き出す  
(手は逆手)

おもつ

カカリ

袖かけたまま半身で

イヤ  
イヤ<sup>2</sup>。

<sup>1</sup> 大鼓の粒に合わせて  
—瞬腰を沈める

イヤ  
イヤ<sup>3</sup>。

<sup>2</sup> カケ声なしで右足拍子  
<sup>3</sup> カケ声なしで左足拍子

正面向く

ヒ<sup>白</sup> ウラリヤリ

足拍子踏みながら前へ少しづつハコブ

オヒ。 オヒーウリヤリ

ヒ。 ヤルリヒウイヤロ。

ヒ<sup>白</sup>。 ーウ。ラヒウイヤロ。

ヒ<sup>白</sup>。 ーウ。ラリ。ーウリ。ヤイヨ

あとずさりしながら拍子踏む

ハ

リ<sup>5</sup>ーウ<sup>6</sup>リ。ヒ<sup>5</sup>ヤ<sup>6</sup>。リ  
イヨ

<sup>5</sup> 右を向く  
<sup>6</sup> 正へ向く

<sup>4</sup> カケ声以後この位置

【則直2】

ヤア

オヒ。オヒ。ーウリヤ。リ

イ<sup>甲</sup>ーハ

ピ・ヤ。ル<sup>2</sup>リ。ピウイヤロ

カケ声とともに脇正へハズシ、袖払い

「ハ」のカケ声で手を返す

イ<sup>甲</sup>ーハ

ヒ<sup>乙</sup>ーウ<sup>●</sup>ラ。ヒウイヤロ

ゆっくり左へ大廻り

ヒ<sup>乙</sup>ーウ<sup>●</sup>ラ。リ。ーウリヤ

リ。ーウヒ。ヒヤリ

オヒ。オヒ。ーウリヤリ

4 これを合図に大小前に行き、大小前で小廻り

脇座の方向いて「イヨ」で両手下ろし、「ハ」で袖カケ、両袖付きだして目付柱に向く

イ<sup>甲</sup>ーハ

ヒヤルリ。ヒウイヤロ

1 体を右に顔を後ろに向ける  
2 体を左に顔を後ろへ向ける  
3 右半身拍子とともに顔を前へ戻す

【千五郎3】

オヒ。オヒ。ーウリヤ。リ

イ<sup>甲</sup>ーハ

ピ・ヤ。ル<sup>2</sup>リ。ピウイヤロ

カケ声とともに脇正へハズシ、袖払い

イ<sup>甲</sup>ーハ

ヒ<sup>乙</sup>ーウ<sup>●</sup>ラ。ヒウイヤロ

常座で左へ小廻り

ヒ<sup>乙</sup>ーウ<sup>●</sup>ラ。リ。ーウリヤ

リ。ーウヒ。ヒヤリ

オヒ。オヒ。ーウリヤリ

袖カケてシテ柱から正へ廻りこむ

角へ行く

イ<sup>甲</sup>ーハ

ヒヤルリ。ヒウイヤロ

1 半身で体右に向ける  
2 体左へ向ける  
3 左半身拍子とともに顔を前へ戻す

角へ行く

イ申

ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

角取り 左足を大きく開いて【千五郎<sup>4</sup>】右足カケ、脇柱へ向く

ヒ白 | ウラ リーウリヤ

脇柱へいき、大小前へ向く

リ | ウリ・ヒヤリ

大小前へ行く再び大廻り

オヒ | ウリヤリ

目付へ向く

ヒヤルリ ヒウイヤロ

目付へ行く

ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

目付より脇座へ行く

ヒ白 | ウラ リーウリヤ

脇座より大小前へ向く

リ | ウリ・ヒヤリ

大小前に戻る

オヒ | ウリヤリ

右足引いて両袖払い【千五郎<sup>5</sup>】、顔を右、左に向け手を返す

イ申 | 八

ヒヤルリ ヒウイヤロ

角取り

ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

脇座へ向かう

ヒ白 | ウラ リーウリヤ

脇座へドドツと行く

リ | ウリ・ヒヤリ

大小前へ向く

オヒ | ウリヤリ

大小前へドドツと行く 大廻り

ヒヤルリ ヒウイヤロ

目付へ向く

イ申 | 八  
ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

目付へドドツと行く

ヒ白 | ウラ リーウリヤ

脇座へドドツと行く

リ | ウリ・ヒヤリ

大小前に向く

オヒ | ウリヤリ

大小前へドドツと行き

ヒヤルリ ヒウイヤロ

左へ中廻り

ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

初手

大小前

イ<sup>申</sup> | ハ  
ヒ白 | ウラ リーウロロ

大小前で小廻り

フーヒ | イヤ ルラ

脇座向いて右手つきだしてから【千五郎6】右袖内側へ巻いて肩へ上げて大きく右左と引き、左半身になる

イ<sup>申</sup> | ハ  
フーヒ | イヤ リウヒ |

【千五郎7】

イヤ

オ。 | ヒウイヤロ |

脇座の方向く

ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

左手前へ出し、脇座へ進みながら足拍子

ヒ白 | ウラ リーウリヤ

両袖払う

イ<sup>申</sup> | ハ  
ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

初手

左へ中廻り

ヒ白 | ウラ リーウロロ

大小前で小廻りし、脇座へ向く

イ<sup>申</sup> | ハ  
フーヒ | イヤ ルラ

右袖内側へ巻いて肩へ上げて半身になる 左手前へ出し

イ<sup>申</sup> | ハ  
フーヒ | イヤ リウヒ |

イヤ

オ。 | ヒウイヤロ |

脇座の方向いて足拍子

イヨ | ハ  
ヒ白 | ウラ ヒウイヤロ

脇座へ進みながら足拍子

イヨ | ウラ リーウリヤ

【則直3】

リ・  
・  
ーウリ。  
。ヒヤリ。

オヒ。オヒ。ーウリ。ヤリ。  
1 左手下ろして地謡前を向く

イヨ

ピ。ヤルリ ヒウイヤロ  
2 足拍子あと、体ひねって正へ向く

右半身になって左袖カケ  
【千五郎】

ハ  
ヒ白 ーウラ ヒウイヤロ

脇座より目付柱へ進み行く

ヤ  
ヒ白 ーウラ リーウリヤ

目付柱より大小前へ戻る

リ ーウリ・ヒヤリ

大小前へ進み、左肩を入れて右半身

オヒ オヒ ーウリヤリ

左半身に左足引きながら左袖払い【千五郎】、ハで手返す

イ甲  
ハ  
ヒヤルリ ヒウイヤロ

右へゆっくり中廻り

ヒ白 ーウラ ヒウイヤロ

リ。  
。ーウリ。  
。ヒヤリ。

オヒ。オヒ。ーウリ。ヤリ。  
1 左右と足拍子ドドッと続けて踏み

地謡前を向く  
イヨ

ピ。ヤルリ ヒウイヤロ  
2 足拍子あと、体ひねって正へ向き  
左手前へ出す

右半身になって左袖カケ、左足大きくあげておろす  
【則直4】

イ甲  
ハ  
ヒ白 ーウラ ヒウイヤロ

目付柱へ向きを変えハコビ出す

イヨ  
ヒ白 ーウラ リーウリヤ

目付柱へドドドッと行く

リ ーウリ・ヒヤリ

大小前へ向く

オヒ オヒ ーウリヤリ

大小前へドドッと行く

ヒヤルリ ヒウイヤロ

左袖払い右へ中廻り

イ甲  
ハ  
ヒ白 ーウラ ヒウイヤロ

二ノ手

イ申  
ヒ白 | ウラリ | ウロロ  
大小前で小廻り

フ | ヒ | イ | ヤ | ル | ラ

目付に向き左手出し左袖巻き、左・右と大きく引いて左手肩へ 【千五郎10】

フ | ヒ | イ | ヤ | リ | ウ | ロ | ロ

イ申 | ハ

フ | ヒ | イ | ヤ | リ | ウ | ヒ | |

目付柱へ向き、右足引きつけ

イヤ

オ | ヒ | ウ | イ | ヤ | ロ

目付へ進みながら足拍子

ヒ白 | ウラ | ヒウイヤロ

目付へ足拍子踏みながら進む

ヒ白 | ウラリ | ウリヤ

リ | ウリ | ヒヤ | リ

二ノ手

ヒ白 | ウラリ | ウロロ  
大小前でキリリと小廻り

イ申 | ハ  
フ | ヒ | イ | ヤ | ル | ラ

目付に向き左手出し左袖巻き、左手肩へあげて目付へ向く

フ | ヒ | イ | ヤ | リ | ウ | ロ | ロ

イ申 | ハ

フ | ヒ | イ | ヤ | リ | ウ | ヒ | |

目付柱へ向き

イヤ

オ | ヒ | ウ | イ | ヤ | ロ

目付へ進みながら足拍子

イヨ | ハ

ヒ白 | ウラ | ヒウイヤロ

目付へ足拍子踏みながら進む

イヨ

ヒ白 | ウラリ | ウリヤ

リ | ウリ | ヒヤ | リ

目付へ踏み込み

イヤ

オヒ。オヒ。ーウリヤ。リ

左肩入れて角取り、左足を大きく開いて右足カケ

【千五郎11】

ヒ。ヤルリヒウイヤロ

脇柱へ向きを変える

ヒ白ーウラヒウイヤロ

脇座から大小前へ行く

ヒ白ーウラリーウリヤ

大小前へ進み 袖払わずに顔を右へ向け

イヤ

リーウリ・ヒヤリ

「ハ」で顔を左に向け左廻り

イ甲

オヒーウリヤリ

左へ中廻り

ヒヤルリヒウイヤロ

左へ小廻り

イヤ

ヒ白ーウラヒウイヤロ

目付へ踏み込み

イヨ

オヒ。オヒ。ーウリヤ。リ

角取り

イヨ

ヒ。ヤルリヒウイヤロ

イ甲

ヒ白ーウラ<sup>2</sup>ヒウイヤロ

脇座へ向きを変える

イヨ

ヒ白ーウラリーウリヤ

脇座へドドツと行く

リーウリ・ヒヤリ

大小前へ向く

オヒーウリヤリ

大小前へドドツと行く

ヒヤルリヒウイヤロ

左へ中廻り

イ甲

ヒ白ーウラハヒウイヤロ

1 右足高くあげる  
2 足をおろす

【則直5】

三ノ手

脇座へ左肩入れる

イハ  
ヒヒーウラリーウロ

大きく右、左と足引き

フーヒーイハリウヒー

右半身のまま

イヤ

オハーヒウイヤロ

【千五郎12】

アステリスクの箇所、左足爪先より、右足のかかとより、脇座へ踏み込んで行く

【千五郎13】

イハ  
ヒヒーウラ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

イハ  
ヒヒーウラ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

イハ  
ヒヒーウラ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

1 逆脇正へ向く

ヤ

オヒーウリヤリ

2 左袖払う

カケ声「ハ」で袖カケ

イハ  
ヒハルリ

ヒハルリ  
ヒウイヤロ

三ノ手

ヒヒーウラリーウロ

大小前で小回り廻り返ス

イハ  
フーヒーイハリウヒー

脇座へ左肩入れ 右半身のまま

イヤ

オハーヒウイヤロ

1 一瞬腰を入れる

カケ声と同時に一瞬腰を入れ、アステリスクの箇所、足音を立てずに左右と脇座へ踏み込んで行く

【則直6】

イハ  
ヒヒーウラ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

2 一瞬腰を入れる

ハ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

イハ  
ヒヒーウラ

\*ヒヒーウラ  
\*ヒウイヤロ

3 逆脇正へ向く

イヨ

オヒーウリヤリ

4 ひねって半身になり正向き  
左袖払う

カケ声「ハ」で袖カケ

イハ  
ヒハルリ

ヒハルリ  
ヒウイヤロ



右へ動きながら横拍子

イヤ | ハ

ヒ白 | ウ。ラ ヒウイヤロ。

イヤ |

ヒ白 | ウ。ラ リ。 | ウリ。 ヤ

イヨ | ハ

。リ | ウリ。 | ヒ ヤリ

1 正先でとまる

目付柱際まで行く

イヨ |

オヒ | オヒ | ウリ ヤリ

大小前へ行き左肩入れ

ヒヤ | ルリ | ヒウイヤロ

「エイ」とカケ声かけながら左袖払い 中廻り

ヒ白 | | ウラ | ヒウイヤロ

廻りながら「エイ」とカケ声かけ

ヒ白 | | ウラ | リ | ウリ ヤ

右へ動きながら横拍子

イヨ | ハ

ヒ白 | ウ。ラ ヒウイヤロ。

イヤ |

ヒ白 | ウ。ラ リ。 | ウリ。 ヤ

イヨ | ハ

。リ | ウリ。 | ヒ ヤリ

目付へ向く

イヨ |

オヒ | オヒ | ウリ ヤリ

目付へ行き、大小前へ向き変える

ヒヤ | ルリ | ヒウイヤロ

大小前へ行く

ヒ白 | | ウラ | ヒウイヤロ

ヒ白 | | ウラ | リ | ウリ ヤ

エイとカケ声かけながら左袖戻し、大小前でゆっくり右廻り

リ | ウリ。 | ヒ ヤリ

オヒ | オヒ | ウリ ヤリ

小廻りして左袖斜め上方に出しながら

ヒヤ | ルリ | ヒウイヤロ

エイとカケ声かけながら、目付に向かって右足大きく引いて深く右半身になる

【則直7】

ヒ白 | | ウラ | ヒウイヤロ

大小前で小廻り、目付柱を左手でサシ  
リーウリ・ヒヤリ

1 顔を上げる 【千五郎14】  
2 顔を下ろす

目付柱へ向き【千五郎15】 鳥飛ビ

二つは足揃え、最後は高く大きく飛んで正向き、両手前でそろえて指す

エイ<sup>3</sup> エイ<sup>3</sup> ハ<sup>3</sup>

3 鳥飛ビ

オヒ オヒーウリヤリ

左足横へ引き、「ハ」で両袖カケて前へ付きだし、右足カケて脇柱へ向く

イヨ

ヒヤルリ ヒウイヤロ

脇柱へ行く

イヤ

ヒヨーウラ ヒウイヤロ

大小前へ行く 右肩入れ左半身

ヒヨーウラ リーウリヤ

「イヨ」で両袖払い、「ハ」で手直す

イヤ

リーウリ・ヒヤリ

左足引きつけ、再び右足大きく引いて深い右半身になる  
ヒヨーウラ リーウリヤ

左足引きつける

リーウリ・ヒヤリ

目付へ向き鳥飛ビ

三つ目を飛んだ後、両手前下方でそろえる

エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup> エイ<sup>1</sup>

1 鳥飛ビ

オヒ オヒーウリヤリ

両袖カケて前へつき出し

ヒヤルリ ヒウイヤロ

袖払って再びカケ、両手前であわせて右足高くあげ

イヨ

ヒヨーウラ ヒウイヤロ

脇座の方向く

イヨ

ヒヨーウラ リーウリヤ

脇座へダダツと行く

リーウリ・ヒヤリ

大小前へ向く

オヒ オヒーウリヤリ

大小前へ行く

ヒヤルリ ヒウイヤロ

左へ中廻り

オヒ　オヒ　ーウリ　ヤリ

左へ小回り　両手前であわせる

ヒ　ヤル　リ　ヒウイヤロ

「ハ」で左手横に出して左袖カケ（知ラセ）、顔左へ向ける

イヨ  
|  
ハ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

右手左肩より同じく　大鼓に知らせて袖カケ、顔右へ向ける

イヨ  
|  
ハ

オヤ　ー　ヒウイヤロ

トメ拍子

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

大小前で袖払い、ややゆっくりめに左廻り

イヨ  
|  
ハ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

ヒヨ　ーウ　ラ　リ　ーウ　リ　ヤ

リ　ーウ　リ　・　ヒ　ヤ　リ

大小前で小廻り

イヨ  
|  
ハ

オヒ　オヒ　ーウ　リ　ヤ　リ

左手ゆっくり左横に出す

ヒ　ヤル　リ　ヒウイヤロ

左袖カケ

イヨ  
|  
ハ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

ハ  
|  
オ　ヤ　ー　ハ

ヒウイヤロ

イヨ  
|  
ハ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

足拍子踏みながら少し前に出る

イヨ  
|  
ハ

ヒヨ　ーウ　ラ　ヒウイヤロ

【則直 8】

抜キ足しながら左半身・右半身・左半身になり、拍子踏んで袖払い

白\*  
・白  
\*白  
ヤ  
ピ。

「ン」で手返し、「イヤヤー」と片膝、顔正面に向ける

ン  
イヤヤー

ヒー

扇返し、左袖の背を取り【千五郎16】、右へ引くと同時に足替え、手離して立ち、後見座へ行く

抜キ足しながら身体を左右に向けたあと、目付の方向き拍子踏む

白\*  
・白  
\*白  
ヤ  
ピ。

1  
右半身

カケ声カケながら袖払い、片膝付いて左袖の背をとり、後見座へ引く

イヤヤー

ヒー（口吉）

鈴ノ段・舞譜（大蔵流）

茂山家（茂山千五郎） 笛 森田

序

鈴左、扇右に持ち、鼓に合わせて右左右右と足を引き、常座より正先へ出、まっすぐ大小前に戻りながら扇左、鈴右に持ち替えて扇広げ

ヒヒョールリヤロルリ

右回りに正先へ出、タラタラと下がり、体ソラシ

【千五郎17】

オヒャールイヤロ イヤライツ

扇と鈴をあわせたまま高くサシあげ、ゆっくりうつむくように礼

リツ ヒャルラ ヒウイヤ リツ リウヤー ロルラー

ヒシギのイにあわせて鈴振りながら両手開く

ヒイ

両手開いたままその場で鈴を振る

♣ ♣ ♣ ♣（この位置で鈴振る以下同）

ホ ン ホ ヒ ト ル ロ

天地人の型（左へ一足出て半身になり扇傾けて胸の前、鈴右肩の上にあげる）

【千五郎18】

ホ ン ホ ヒ ト ル ロ

左足引き、種撒きの型（扇をひねって鈴を囲むようにしながら鈴と扇前へ出して腰かがめる）脇座の方を向いて左右と一足ツメル

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ

右左と引き、目付を向いて右左と出て右左と引く

リ ウ リ リ ヤ ロ

ヒ ヤ ロ ト ル ロ

<sup>1</sup> 正に直す  
<sup>2</sup> 右左と引く

山本家（山本則直） 笛 森田

序

鈴左、扇右に持ち、正へ直して右へ一歩出、右回りに大小前に行き、扇開いて鈴と扇を持ち替えて正中へ出、タラタラ下がり、扇と鈴を高くさしあげながらうつむくようにして礼

ヒヒョールリヤロルリ

オヒャールイヤロ イヤライツ

リツ ヒャルラ ヒウイヤ リツ リウヤー ロルラー

両手開き、ヒシギのイにあわせて鈴を振る

ヒイ

ゆっくり正先へ出

♣ ♣ ♣ ♣（この位置で鈴振る以下同）

ホ ン ホ ヒ ト ル ロ

ホ ン ホ ヒ ト ル ロ

ホ ン ホ ヒ ト ル ロ

<sup>1</sup> 左半身になり  
扇顔の前にあげる

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ

リ ウ リ リ ヤ ロ

ヒ ヤ ロ ト ル ロ

<sup>2</sup> 扇折り返して左手下ろし、  
地謡の方向く  
<sup>3</sup> 目付の方向く  
<sup>4</sup> 正へ戻し、タラタラ下がる

大小前で足拍子 種まきの型

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー  
 ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー。

大左右の型（鈴腰のあたりで振り、扇は体の前、目の高さに置く）をしなから  
 小角に出、地謡前へ向く 【千五郎19】

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ

地謡前へ行き、目付柱の方を向いて扇を鈴で囲む様になら目の前に掲げる

リ。ウ。リ。ー。リ。ヤ。ロ。ー

足引きながら両手広げ目付を向く

ヒ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

目付柱へ向いてハコビ出し

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

角取り 止まって左・右と踏み込んで柱の前で柱の中側に鈴を振り込む

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

【千五郎20】

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ

1 体直し

リ。ウ。リ。ー。ピ。ヤ。ロ。ー

2 右左と足引き

その場で足拍子

【千五郎21】

ピ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

大小前で足拍子（天ノ拍子）

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー  
 ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー。

両手開いて高く上げ、脇正を向く

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ

2 体をねじるようにして  
 グルッと地ノ上へ向く

リ。ウ。リ。ー。リ。ヤ。ロ。ー

3 地ノ上へ左右左と出る

ヒ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

4 目付の方へ向きを変える

目付へハコビ出す

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

目付へドつと行き、角取り

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

左右と出、柱へ鈴打ち込む

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ

5 体を直し、右左と足を引く

その場で足拍子（地ノ拍子）

リ。ウ。リ。ー。ヒ。ヤ。ロ。ー

ピ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー。

足右左と出し、扇を目付の方に出してから脇座の方に引き、顔は目付の方を向いたまま、右足抜いて脇座へ向く 【千五郎22】

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

脇座へ向き進む 扇横後ろに出して身体ひらきながら脇柱に鈴打ち込む 【千五郎23】

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ  
リ。ウ。リ。ー。リ。ヤ。ロ。ー  
ビ。ヤ。ロ。ー。ド。ル。ロ。ー

1 体直し  
2 右左と足引いてヒラキ

脇座で足拍子

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー。

脇正向き、鈴を振る 体をねじって正へ向き直し、大きく足開いて右足引きつけ、足を交叉させてから脇座の方向きハコビ出す 1しずむ

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

脇座で足拍子(人ノ拍子)

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ  
リ。ウ。リ。ー。リ。ヤ。ロ。ー  
ヒ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

一足踏み込んで脇柱へ鈴打ち込む 2 脇柱の方へ向く

ホ。ン。ホ。ヒ。リ。ウ。リ。ヤ  
リ。ウ。リ。ー。ビ。ヤ。ロ。ー  
ヒ。ヤ。ロ。ー。ト。ル。ロ。ー

3 両手広げるようにし、右左と足を引きながら体を戻す

ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー  
ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ー

4 しずむ

手

右左と出ながら扇脇柱に出して後ろに引き、地謡前からグルッと見回すように  
右足抜いて身体をひねるように回して大小前へ向く

大小前に行く  
ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ

目付柱へ進み大廻り  
リ ウ ロ ロ ラ ー ー ー

目付辺  
ヒ ウ ー ー ー ハ ウ ラ ー ー

脇座辺  
ハ ウ ラ ー イ ト ル ラ ー ー

常座へ戻る  
ハ ウ ラ ー リ ツ ロ ロ

トル ラ ー ハ ウ ラ ー ー

常座で右へ廻り、面返り(扇で顔をなでるように上から下げていく)して左足  
抜き、腰へ扇を付ける(親指が腰に当たるよう・鳥の尾羽のように)【千五郎<sup>24</sup>】

ハ ー イ タ ウ ハ ー ー ー ー

オハ ー ー ラ ー イ タ ウ ハ ー ー

ラ ー イ タ ウ ハ ー ー ー ー

体を脇座へ向けて右足も抜く

手

すばやく大小前へ向きを変え、ツマミ扇して体の前、鈴を腰の後ろに当てて大  
小前へ戻る

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ

扇持ち直し、改めて両手高く掲げて目付へ行く(大廻り)  
リ ウ ロ ロ ロ ラ ー ー ー ー

ヒ ウ ー ー ー ハ ウ ラ ー ー

目付より脇座へ行く  
ハ ウ ラ ー イ ト ル ラ ー ー

脇座より大小前へ向く  
ハ ウ ラ ー リ ツ ロ ロ

トル ラ ー ハ ウ ラ ー ー

大小前へ行く  
ハ ー イ タ ウ ハ ー ー ー ー

大小前で左へ中廻り  
オハ ー ー ラ ー イ タ ウ ハ ー ー

鈴と扇あわせて右斜め上にあげ、面返りのようにして左足抜き、腰へ扇付け、  
鈴を体の前下方に出し右足抜く

ラ ー イ タ ウ ハ ー ー ー ー

1 左足抜く  
2 右足抜く



三足右左右と脇柱の方へ出 鞭打ちの型（鈴を体後方に斜め下におろして扇は腰にあて、左右左と踏み込む）

【千五郎25】

左右と下がり「種まきの型」

オハ オハ ー ー ー ー

リウ ヤー ヒー ヤー

ホ。ン ホ ヒ ト。ル

ホ。ン ホ。ヒ ト。ル

腰かがめたまま大きく廻り

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ リウ リヤ

リウ リー ヒヤ ロー

目付柱より大小前へ進み

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ トル

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ トル

手

大小前

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ リウ リヤ

腰伸ばし、「手」になると再び脇座より目付柱へ大廻り

リウ ロロラ ー ー

ヒウ ラー ヒウ ラー

ハウ ラー トル ラー

左右左と走り込む様に脇座の方へ出、左半身になって鈴を体後方斜め下におろして扇は腰に当てる

オハ オハ ー ー ー ー<sup>1</sup>

左右と足引き、脇柱向いて種蒔きの型

リウ ヤー ヒー ヤー

ホ。ン ホ ヒ ト。ル

ホ。ン ホ。ヒ ト。ル

右・左と一足つつ出、そのあとはスリ足で脇座の方へハコフ

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ リウ リヤ

リウ リー ヒヤ ロー

脇座より目付へ進み

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ トル

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ トル

手

目付より大小前へ行く

ホ<sup>3</sup>ン ホ<sup>4</sup>ヒ リウ リヤ

リウ ロロラ<sup>5</sup> ー ー

ヒウ ラー ヒウ ラー

ハウ ラー トル ラー

【則直9】

1 鈴を体の前に戻す

2 腰しずむ

3 右一足出す

4 左一足出す

5 大小前へ行く

6 脇座へ行く

脇座より目付へ  
ハ ウ ラ ー リ ツ ロ  
ト ル ラ ー ハ ウ ラ ー

正先へ出

ハ ー イ タ ウ ラ ー ー ー

下がる

ハ ー ラ ー イ タ ウ ハ ー  
ラ ー イ タ ウ ハ ー ー ー

正面向きのまま「鞭打ちの型」

オハ オハ ー ー ー ー

左右と二足下がり、「種まきの型」

ヒ ウ ヤ ー ヒ ー ヤ ー

ホ ン ホ ヒ ト 〇 ル ロ ー

ホ ン ホ ヒ ト 〇 ル ロ ー

「天地人」の逆になるよう左右と踏み込み、扇を持ち直す

【千五郎26】

左足抜き、「面ガエリ」しながら右足抜いて左へ廻り

リ ウ リ ー ヒ ヤ ロ ー

天地人の型

ヒ ヤ ロ ー ト ル ロ ー

脇座より目付へ

ハ ウ ラ ー リ ツ ロ  
ト ル ラ ー ハ ウ ラ ー

大小前へ行く

ハ ー イ タ ウ ラ ー ー ー

大小前で右へ中廻り

ハ ー ラ ー イ タ ウ ハ ー  
ラ ー イ タ ウ ハ ー ー ー

正先へ左右と出て左半身になり、鈴を腰の後ろにあてて振る

オハ オハ ー ー ー ー

1 鈴を体の前に戻す

後ろへ左右と二足下がり、「種まきの型」

ヒ ウ ヤ ー ヒ ー ヤ ー

ホ ン ホ ヒ ト 〇 ル ロ ー

ホ ン ホ ヒ ト 〇 ル ロ ー

2 腰しずめる

左右と踏み込み、扇を高く上げて面返ししながら【則直10】右足抜いて左へ廻り、ツマミ扇して体の前へ出し、鈴は高くあげる

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ

リ ウ リ ー ヒ ヤ ロ ー

ヒ ヤ ロ ー ト ル ロ ー

ホ ン ホ ヒ。 ト ル 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ。 ト ル 口 ー  
 前と同じく「逆天地人」から面ガエリ、「天地人」へ

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ  
 リ ウ リ ー ヒ ヤ 口 ー  
 ヒ ヤ 口 ー ト ル 口 ー  
 足拍子踏みながら少し脇正の方へ出る

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 面ガエリ

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ  
 リ ウ ヒ ー ヒ ヤ 口 ー  
 ヒ ヤ 口 ー ト ル 口 ー  
 両手広げ、目付柱より大臣柱から大小前を経て正中に出

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 扇と鈴合わせて持ち、左へ三足出て下がる  
 右へ三足出て下がり、正中で両手広げて拍子、鈴振る

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 ヒ イ ピ イ ウ ー ー ー

ホ ン ホ ヒ。 ト ル 口 ー  
 ホ ン ホ ヒ。 ト ル 口 ー  
 扇抱い込んでから高く上げて面ガエリ

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ  
 リ ウ リ ー ヒ ヤ 口 ー  
 ヒ ヤ 口 ー ト ル 口 ー  
 足拍子踏みながら少し脇正の方へ出る

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 面ガエリ

ホ ン ホ ヒ リ ウ リ ヤ  
 リ ウ ヒ ー ヒ ヤ 口 ー  
 ヒ ヤ 口 ー ト ル 口 ー  
 両手広げ、目付柱より大臣柱から大小前を経て正先に出

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 正先で鈴と扇あわせ、左右とむきを変え、腰をかがめて達拝

ホ ン ホ ヒ ト ル 口 ー  
 ヒ イ ピ イ ウ ー ー ー

1 カマエ戻して両手高く開く

鈴クダキ

目付柱より大臣柱から正中を経て正先へ出、左へ扇と鈴を合わせ、小回りしながら鈴を細かく振って下がり、片膝付く

リ。ウ。リ。ウ。ヒ。リ。  
 ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ロ。ロ。ロ。

ホンホヒトルロ  
 ホンホヒリウリヤ  
 リウヒイヒヤロ  
 ヒヤロトトルロ

ホンホヒトルロ  
 ホンホヒトルロ  
 トルロトルロトルロ

ヒーヤーヒー

前から田を描くように両手開き、再び合わせて再度開く

リ。ウ。リ。ウ。ヒ。リ。  
 ホ。ン。ホ。ヒ。ト。ル。ロ。ロ。ロ。ロ。

右に一足出、左に中廻りして正中へ戻り、鈴と扇あわせて右上にあげてから小廻りしながら手を下ろし、たらたら下がって下居

ホンホヒトルロ  
 ホンホヒトルロ  
 トルロトルロトルロ

達拝

ヒーヤーヒー



萬 4



萬 3



萬 2



萬 1



萬 8



萬 7



萬 6



萬 5



又三郎 4



又三郎 3



又三郎 2



又三郎 1



萬 12



萬 11



萬 10



萬 9



萬 16



萬 15



萬 14



萬 13



又三郎 7



又三郎 6



又三郎 5



萬 17



千五郎 4



千五郎 3



千五郎 2



千五郎 1



千五郎 8



千五郎 7



千五郎 6



千五郎 5



千五郎 12



千五郎 11



千五郎 10



千五郎 9



千五郎 16



千五郎 15



千五郎 14



千五郎 13



則直 4



則直 3



則直 2



則直 1



則直 8



則直 7



則直 6



則直 5





千五郎 20



千五郎 19



千五郎 18



千五郎 17



千五郎 24



千五郎 23



千五郎 22



千五郎 21



則直 10



則直 9



千五郎 26



千五郎 25

二番叟笛譜・比較（揉ノ段）

一噌

森田

藤田

揉出シ

オヒヤーロルラー  
 ラーウラーウラーウラウラーリヤー  
 オヒヤーリヤー フーヒヤロルリ

オヒヤーロルラー  
 ラーウラーウラーウラー リヤーラリ

オヒヤーロルラー  
 ラーウラーウラリヤ  
 オヒヤーリヤ フヒヤロルリ

【揉出シはヒシギのみ  
 立頭を聞いて「高音」を吹き出す】

吹出

1  
 ヒ 2  
 ウ 3  
 ラ 4  
 ア 5  
 ラ 6  
 リ 7  
 ヒ 8  
 ー

1  
 ヒ 2  
 ウ 3  
 ラ 4  
 リ 5  
 ヤ 6  
 リ 7  
 ヒ 8  
 ー

1  
 ヒ 2  
 ル 3  
 ラ 4  
 ラ 5  
 リ 6  
 ヤ 7  
 リ 8  
 ー

干ノ手

オヒ 1  
 ヒ 2  
 ヤ 3  
 リ 4  
 ー 5  
 ヒ 6  
 ヤ 7  
 リ 8  
 ー

オヒ 1  
 ヒ 2  
 ヤ 3  
 リ 4  
 ー 5  
 ヒ 6  
 ヤ 7  
 リ 8  
 ー

ヒ 1  
 ー 2  
 ウ 3  
 ラ 4  
 リ 5  
 ー 6  
 ヨ 7  
 ル 8  
 リ

地（他流より1句短い）

ヒ 1  
 ー 2  
 ウ 3  
 ー 4  
 ヒ 5  
 ヤ 6  
 リ 7  
 ー 8

ヒ	ヒ	オ	ヒ	ヒ	1
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	2
・	ヒ	ル	ル	ヒ	3
ヒ	ヒ	ラ	ラ	ヒ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	5
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	6
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	8

トメ

リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	1
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	2
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	3
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	5
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	6
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	8

手

ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	1
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	2
・	ヒ	ヒ	ヒ	3
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	5
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	6
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	8

\*三ノ手するとき抜く(9句)  
+二ノ手するとき入れる(11句)

リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	1
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	2
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	3
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	5
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	6
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	オ	8

呂ノ手(一ノ手)

ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	1
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	2
・	ヒ	ヒ	ヒ	3
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	5
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	6
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	8

+鳥飛ビノ地 唱歌は地と同じ  
ヒーウヒーウの実音は変わる  
\*長ノ手するとき入る(長・短・長の順)

リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	1
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	2
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	3
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	4
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	5
ウ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	6
リ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	7
ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	フ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	ヒ	8

呂ノ手(長イ手・短イ手)

二番叟笛譜・比較(鈴ノ段)

一噌

森田

藤田

序

オヒヤローラー ヒヤロー  
 イヤローイツリイツ ヒヤールラ  
 ヒウヤ リイツリイツ ヒーウヒヤ  
 ローララー

地

ホ 2  
 ホ 3  
 ホ 4  
 ヒ 5  
 ト 6  
 ウ 7  
 ロ 8  
 ー 1

手(地の4句目から)

ホ 2  
 ウン 3  
 ホ 4  
 ヒ 5  
 フリ 6  
 ウ 7  
 リ 8  
 ー 1

干ノ手

ホ 2  
 ー 3  
 ホ 4  
 ヒ 5  
 ト 6  
 ル 7  
 ロ 8  
 ー 1

呂ノ手

ホ 2  
 ー 3  
 ホ 4  
 ヒ 5  
 ラリ 6  
 ウ 7  
 リ 8  
 ヤ 1

ヒヒョールーヒウーイヤロールヒ  
 オヒヤーヒウーイヤローイヤラーイツ  
 リツーヒヤールラーヒウーイヤ  
 リツリーウヒヤローララー

ホールヒーヤローリー  
 ヒーヤロイヨ ローウ  
 ヒウヒヤールラー リウイヤ  
 リーツーリツ リーツラー ローララー  
 ヒー

【意識として第4拍が1句の始まり  
 ホーは前の句末に付く】

ホ 2  
 ー 3  
 ヒ 4  
 ヤ 5  
 ラリ 6  
 ウ 7  
 ヒ 8  
 ー 1

立拜 鈴碎キ(地の3句目から)

ホ	ホ	ホ	リ	ヒ	ホ	2
ヒ	ン	ン	丨	丨	ン	3
ヨ	ホ	ホ	ウ	ヒ	ホ	4
ヒ	ヒ	ヒ	丨	丨	ヒ	5
シ	ホ	ト	リ	ウ	ト	6
ギ	ヒ	ウ	ウ	丨	ウ	7
	ホ	口	ヒ	丨	口	8
	ヒ	丨	丨	丨	丨	1

リ	ハ	オ	オ	ト	2
ウ	ラ	ハ	ハ	ル	3
ヤ	丨	丨	丨	ラ	4
丨	イ	イ	イ	丨	5
ヒ	タ	ウ	ウ	ハ	6
丨	ハ	ハ	ハ	ハ	7
丨	丨	丨	丨	ウ	8
ヤ	丨	ハ	丨	ラ	1
丨	丨	丨	丨	丨	1

ヒ	ト	ホ	ホ	リ	ヒ	ホ	2
シ	ホ	丨	丨	丨	丨	丨	3
ギ	ホ	ホ	ホ	ウ	リ	ホ	4
	ヒ	ヒ	ヒ	丨	丨	ヒ	5
	ト	ト	ト	リ	ウ	ト	6
			ル	ウ	丨	ル	7
	ホ	ホ	口	ヒ	丨	口	8
	ヒ	ヒ	丨	丨	丨	丨	1

リ	オ	オ	ハ	ト	2
ウ	ハ	ハ	ハ	ル	3
ヤ	丨	丨	丨	ラ	4
丨	イ	ウ	ウ	丨	5
ヒ	ハ	ハ	ハ	ハ	6
丨	丨	丨	丨	ウ	7
ヤ	ラ	ハ	丨	ラ	8
丨	丨	丨	丨	丨	1

ル	ト	ホ	ホ	ヒ	ホ	リ	ヒ	ホ	2
ル	丨	丨	丨	ヤ	丨	丨	丨	丨	3
ル	ヒ	ヒ	・	ト	・	ウ	・	ヒ	4
ル	ヒ	ヤ	ヤ	丨	ヤ	丨	丨	ヤ	5
口	ヒ	ヤ	ト	ト	ト	リ	ウ	ト	6
	ヒ	ト	ト	ル	ル	ウ	丨	ル	7
	ヒ	口	口	口	口	ヒ	ウ	口	8
	ヤ	丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	1

ヒ	オ	ハ	ハ	ハ	ハ	タ	2
ウ	ハ	ハ	ハ	ハ	ハ	ル	3
ヤ	丨	丨	丨	丨	丨	ラ	4
丨	イ	ト	ト	ト	ト	丨	5
ヒ	ハ	ウ	ウ	ウ	ハ	ハ	6
丨	丨	丨	丨	丨	丨	ウ	7
ヤ	ラ	丨	丨	丨	丨	ラ	8
丨	丨	丨	丨	丨	丨	丨	1



# 「三番叟問答」の考察と翻刻

小田 幸子

## 【はじめに】

現行の『翁』(式三番)は、千歳の謡と舞・翁の謡と舞・三番叟の謡と舞(揉の段)・三番叟の問答と舞(鈴の段)という、言葉と舞とを組み合わせた四種類のパートによって構成されている。「三番叟問答」とは、「揉の段」終了後、黒色刷の面を付けた三番叟が、応対役(「アド」とも称する。下掛りは千歳が、上掛りは面箱持ちが担当する)と交わす問答をさし、問答の後、応対役から鈴を受け取って「鈴の段」を舞つ運びとなる。江戸期には、四日間の勸進能を想定したうえで、各日異なる問答を演奏する定まりがあった。翁の連続上演がほとんどなくなった現代でも、形式としてこれは残されている。筆者はかつて、初日から四日にわたる替演出の歴史の変動を、伝存する本文と演出資料から考察した論考「三番叟の問答の変遷」(雑誌『芸能』一九九〇年一月号。以下「前稿」と呼ぶ)を発表した。その要点は次の通りである。

1 江戸中期以降の替演出は、初日 本座(「初日」・「初日式」などとすることが多い)・二日目 烏帽子(「烏帽子の祝儀」とも)・三日目 子徳人(「子宝」・「十人子」とも)・四日目 田歌(「田歌節」とも)がほぼ定着した。ただし、四日目は「初日前前」とするとも多い。

2 江戸初期以前は、田歌は二日目あたりに位置を占めていたが、次第に後退した。逆に 烏帽子は江戸初期頃生まれて享保期以降優勢になった。

3 本座は、室町期から江戸初期かけて、必ずしも初日用というわけではなく、儀式的な催し用だったかもしれない。

4 室町期から江戸初期にかけては、順番も確定しておらず、また、現在では廃れてしまった様々な種類の問答が演奏されていた。

5 三番叟問答の内容には祝言性と滑稽性が共存している。江戸時代の『翁』が儀式的性を強めて厳粛に演奏するようになった傾向に合わせて、三番叟問答も滑稽味よりも祝言性が重視された。田歌と烏帽子の勢力交替は、それを如実に示している。

前稿では、紙数の関係から三番叟問答の本文翻刻を割愛した。また、5についても十分な立論をなしえなかった。そこで、本稿では、主要な三番叟問答を翻刻し、あわせて、資料をもとに変遷をたどった前稿を補足する意味で、主として内容面から三番叟問答に考察を加えることとした。叙述の便宜上、前稿と重複する箇所があることを予めお断りしておく。また、翻刻した書には、適宜括弧内に翻刻番号を付しておいた。

## 【考察】

烏帽子 が参入する以前の三番叟問答には如何なる特色があったのだろうか。『秘事集』( ) 所収の 田歌・鏡宿・子徳人・作り道 が、室町末期から江戸初期以前に実際に演奏されていたのであることは、前稿で述べた。そこで、同書を手がかりに、各問答の内容を略述し、全体の特色を検討していきたい。なお、本文引用に際して、原本表記を改めたり、現代語に意訳するなどの処置を適宜おこなった。

(1) 田歌 三番叟が、拍子にかかってアドを呼ぶから返答してほしいと言い、「やどのや、やどのや……」と調子よく謡い出す。アドがどこで返答すればよいか分からずに尋ねると、三番叟は「人が『や』と言ったら、『や』という言葉の下から返答するものだ」、「うっちゃっておいて、明後日あたりに答えるがよろしい」と皮肉を言う。『舞聞書』( ) にある「近頃ねをびたる(ねばけた)事を承候」のセリフが面白い。そこでもう一度やり直すこととし、アドも拍子にかかって「なぞとよ、なぞとよ……」(なんですか、なんの用ですか)と聞くと、「なんと良い天気ではないか」と答えが返ってくる。いかにも大袈裟に呼んでおきながら、結局は他愛もないことを言って終わるというのが、オチなのだろう。江戸後期和泉流の 田歌 では「なんぼう良い天気にて鶯が鳴いて候」とも言ったという(『和泉流風流伝書』)が、確かに、上天気はのどかで平和な世のしるしではある。拍子にかかって、浮き浮きと単純な言葉を何度も繰り返す趣向は、狂言に多くある。また、平家節・小歌節・踊り節で次々と太郎冠者に案内を乞う 呼び声 や、「何と」

「物と」を繰り返して返答に至る狂言独特の表現方法にも通じる。なお、「やどの」以下拍子にかかって謡う箇所には、鼓の伴奏が加わっていた(後述)。「田歌(節)」の名称と関連して、「五月のさ女房が笠の端をつらね早苗をとって打ち上げて歌つのが面白い」(『仕舞秘伝』 ほか)等と記す本が大半だが、『秘事集』と『舞聞書』にはその件りがない。確証はないが、田歌節に説明が必要になった後代の付加と考えておきたい。また、「やどのや」と記す場合と「あどのや」と記すものがある。「アドの大夫を呼ぶ」という以上「あど」が本来ではあるが、「や」は「おい」という呼びかけの語であり、「はい」という返答の語でもある。また、「やど」を「宿」(亭主)の意味で用いているのかもしれない。「やど」が本来の可能性も捨てきれない。

(2) 鏡の宿 三番叟が近江の国鏡山の宿でもてなしを受けた次第を述べるというもので、十七八の遊君が酒を注ぎながら、いろいろ面白く歌つて、自分もつられて歌を詠じた。その歌をアドに聞かれて、「ヨツヒト」歌つたと行って終わる。脱文や誤写があるのか意味不明の箇所があり、特に肝心の三番叟の返答「ヨツヒ」がわかりにくい。「ヨツヒ」は鳥の鳴き声の擬音で、同じ歌を歌つても、三番叟は鳥の鳴き声を真似て歌った、というオチになっていると解しておきたい(表章氏は後掲論文で「笛の擬音か」とする)。なお、鏡の宿 は『秘事集』だけの所載だが、実演されていた明証があり、鼓がはいって謡になる点(おそらく)他愛もないオチで終了する点が 田歌 と共通する。

(3) 子宝 十人の子持ちである三番叟が、子どもの名前を面白おかし



く付けたという内容。後代には「上五人は玉を延べたるようなる娘……下五人は瑠璃を延べたるようなるめなこ」(『仕舞秘伝』)。要するに十人とも女子、「上五人が男……下五人が女」(鷺流・和泉流諸本)など男女のうちわけが加わったり、「一人を呼べば、みなが答えるので名を付けた」(『祝本』ほか)など名付けの理由が加わったりする。「男子の上座には某、女子の上座には子持の母、拾二人が車座に居長らいて、やれそこな者よと呼べば、我がことかくと思つて立ち騒ぐ」(鷺流『名姉川本』)は母親にも言及して家族円満のめでたさが醸し出され、また、「惣而人間の宝の内別テ調法な物八何にて候ぞ」以下問答をしつつ「子宝」の意味が強調されることもある(『名姉川本』大蔵流式三番)。が、本来は『秘事集』や『舞聞書』のように、おかしな名前が呼び起こす笑いが中心なのだろう。十人の子を持つとの話題から、その名前に及び、「オト」や「ヒメ」といった普通の名から次第に「ダンダラ・イナゴ」とわけが分からなくなったあげく、「火打袋」「ぶらり」と強引に意味を完結させてしまう。田歌 鏡の宿 同様、名を列挙する箇所が謡いがかかりになり、囃子が入ったらしいから、一つ一つ聞いていくうちにだんだん可笑しくなっていくのだと思う。十人の名は一定しておらず、『秘事集』では九人にしかならないが、「火打袋、ぶらり」で終わる(『祝本』『仕舞秘伝』)のが正しい本文であろう。八人分や九人分にしかならない場合は他本にもある。

(4) 作り道 歌道に好く三番叟が、内裏から「作り道」の歌題をくださったので、「作り道往来の人の通れるは、かな用こそありて通るらう」と詠ん

だというもの。これにも誤写があるらしく、歌の後半の意味が通りにくい。おそらく『和泉流風流伝書』( )所収の「作り道」の和歌「作り道上下りに歩く人、用があればや歩きけるかな」と同様の意味と考えられ、「かな用こそありて」は「全く以て用事があるからこそ」の意であろう。「内裏から下された題詠」という高級感を与えておいて、肝心の歌の内容はどうということもない。ただ、歌はくだらないかもしれないが、道を作り、往来が盛りだということとは平和な御代の象徴となる。なお、『和泉流風流伝書』の「作り道」では、和歌を詠んだ話はほんの付け足しであって、三番叟の顔色がなぜ黒いかの謂われ語りが主体である。すなわち、比叡山の稚児だった三番叟は、人々に惜しまれる余り四十過ぎまで稚児姿を通した。その間ずっと白粉を塗りつけていたので、白粉が顔に焦げ付いて真っ黒になったという内容である。別々の話を無理に結合させたものだろう。

さて、大永元年(一五二一)与五郎権守秦宗智奥書の本を天文十八年に書写したという『与五郎権守小鼓伝書』(『囃子方習書』上)『所収』に次のような記事がある。

三番さるがく八常のごとく大つゞみをきかずして、むらのなきように打べし。……此間のせりふ「やどの」「なごい」「めいとくのく」「なごいひて、又ハ「人の名」、かやうの段八いかにも (に打べし。)

部分は「した」であろう( )

この記事によって、田歌の「やどの」「以下拍子にかかって謡う部分、鏡の宿の遊女が謡う」「めいとくの」「以下の歌」「人の名」(子宝)の子ども

の名を列挙する箇所(違いない)には、それぞれ鼓があしらっていたことがわかる。当然節をつけ歌ったのであろう。右に言及しない 作り道 にも、上演したとすれば(その可能性は高い)、和歌を詠ずる箇所に鼓が加わっていたと推測される。

以上、『秘事集』所収の四番の問答を検討した。比較的まじめな話題から開始して最後にオチがつくこと、囃子が加わり歌って終わることの二点が共通する。このことは、当時における「祝言」の意味合いについていささか考えさせられる。世阿弥は「三番申樂、をかしにはすまじきことなり、近年人を笑はする、あるまじきこと也」(『申樂談義』十七段)と、三番叟を滑稽に演じる傾向を戒めていた。三番叟(問答だけは限らないが)で観客の笑いを取る演技が行われていたわけだが、滑稽感を醸し出す要因としては、仕草と言葉の二側面が想定され、三番叟問答は言葉を主体に滑稽味を与える部分である。『秘事集』所収の問答から類推する室町後期間問答の滑稽感を一言でいえば、狂言の大名役などに顕著な「とぼけたおかしさ」、「おおらかなおかしさ」ということができるかと思つた。どの場合でも三番叟自身の人間的なおとぼけぶりが発揮されるように作られており、観客は、理性のたがが外れてしまったような人物を笑いながら、窮屈な世界から抜け出してリラックスする。このような人物の言動が与える心地よさを「めでたさ」として享受する感覚は、現代日本人の裡にも残っている。また、囃子が入り、謡って終結する点に注目すると、言葉だけではどこがめでたいのか良くわからないとしても、最後に節を付けて歌うこと自体が喜ばしくめでたい感覚を呼び起こし

たのではないだろうか。すなわち、音楽性(歌謡性)と滑稽味が、そのまま「祝言」としての意味を担っているのである。

ところで、『秘事集』の本文は完全形ではない。各々の冒頭に、少なくとも「物に心得たるアドの大夫殿に見参申そつ」、「丁度参つて候」等のやりとりがあつたはずである。ただし、その後アド役が「めでたく舞をまつていたきたい」と頼み、三番叟が「それはおやすいご用だ」と返答するセリフがあつたかどうかは不明である。実は、江戸初期以前の問答( ) ( ) を概観すると、舞所望のセリフは 本座 のみにあつて、他の問答には無い。このやりとりは、本来 本座 特有の文句だったのが、後に他の問答にも付加された可能性が強いのである。そこで、次に『享祿三年奥書能伝書』( ) を中心に 本座 についてみてみよう。

本座 は、アドが三番叟に「三番猿樂さつと舞つて御入り候へ」と頼み、アドがもとの座に戻るのが先か、三番叟が舞うのが先か、互いに順番を譲り合うという内容である。順番を譲り合う趣向は、質は異なるものの道成寺 や 羅生門 のアイ狂言にも見られ、狂言的趣向のひとつである。

の 本座 以外の問答を構成面についてみると、(イ)三番叟がアド役に見参を乞つ、(ロ)三番叟がアドに提案したり話を聞かせたりする、(ハ)謡とオチ、という順で進行する。(イ)から(ハ)の間に、「三番叟が舞つ」モチーフは全く現れず、舞の所望は三番叟問答に不可欠な要素ではない。一方 本座 は、そもそも(ロ)に相当する中心趣向が「舞と座付きの順番を譲り合う」ことなのであつて、あくまで舞の所望を前提にして、譲り合いが

なされる。すなわち、両者は一体なのである。いつの頃からか 本座 特有の「舞の所望」だけが切り出されて他の問答に付加されたのだろう。本座の内容は、オチがなく、滑稽味もなく（演じ方によっては多少出るかもしれないが）、これから三番叟が舞を舞うことだけ伝われば十分という工夫のない作りである。前稿で、もともとは、儀式専用で作られた問答ではないかと推測したのは、そのためである。

『享禄三年奥書能伝書』には、もうひとつ問題がある。通常 本座 の問答が終わったところで三番叟は鈴を受取り、「鈴の段」開始となるが、この本座だけは「雉の尾は笙の笛にぞ似たりける」、「座」似たりけり、笙に合わせて音をぞ鳴く」との文句が続いている。謡で終わる点は先述の四番の問答と共通しており、室町期の三番叟問答には歌う要素が強かったと考えるのはよいとして、この謡を 本座 本来のものと判断してよいのであろうか。表章氏が指摘するように、和歌仕立ての後半は「座」（地謡）が引き取って謡うと解されるものの、前半は誰が謡ったのか判然とせず、順番からすればアド役だが、三番叟とアドの同吟の可能性もある。それよりも、先を譲り合っていたはずなのに唐突に意味の不連続な歌になってしまう点が不審である。「雉の尾」の歌に関しては、大蔵虎明筆『式三番』（『芸能の科学』30に翻刻）や『神道秘密翁大事』（天野文雄氏後掲書参照）の次の記事が参考になる。

一、さんばさ過てせんざひまふたる者がすとをわたしてから、せんざひの云事、御前二八なし。きぢのお八しやうの笛にぞにたりけるしやうにあわせてねをこころミよ

「せいなふ」（細男）や、「こつのみひ」など式三番の異式演出に言及する一連の記事の中に記されている。内容を意識すると、「三番叟」揉の段をさすか）の後、千歳が三番叟に鈴を渡してから、千歳の言葉があるが、これは『御前』では言わないのだ」ということになる。その千歳の「云事」に相当するのが「雉の尾」の歌なのであろうか。あるいはまったく別のセリフがあったのか、これだけでは分らないが、どこで、誰の前で上演するかによっても問答を替えていたらしいことは、浅野家蔵『脇所作付』（慶長頃の内容）に「三番サウ次第」として

初日本ノ座、二日田歌、三日子徳人、四日えぼし。但、御成又八御前ナトノ時八田歌也。口伝。

とあることから判明する。「雉の尾」以下もあるいは異式演出の一例だったのかもしれない。

次に、江戸初期に参入した 烏帽子 をみよう。先の問答と比較すると、歌謡性も少なく、ばかばかしいオチもなく、「言葉」によって祝言性を表現する点、祝福のありかたは明快である。すなわち、翁着用の「立烏帽子」と千歳着用の「折烏帽子」にひっかけて、「四方に数万（四万）」とする本も（の蔵を建て烏帽子、その中にとつど居り烏帽子」と祝い、さらに自分が着用する「ふり烏帽子」（三番叟着用の烏帽子は通常「剣先烏帽子」と呼ぶ）について問われ、「か様に天下納まり目出度き折かなれば、此の所へ七珍万宝が、ふらりふらりと降り烏帽子候」（以上、鷲流『名姉川本』）と納める。掛詞による洒落がおかしみを醸しだし、同時に、翁・千歳・雛子方・三番叟、

および客席までを視野に入れた演奏の場合全体を祝福するありかたが、室町期の問答と比較すると新味を感じさせる。多数の蔵に取り囲まれたうえに、天から宝が降り下るとの発想は、室町期以来の三番叟問答にはみられない祝言性であって、その点を勘案すると、室町期の問答の中で、子徳人だけが後代に残った理由がよくわかる。おかしな名前よりも、十人の子どもを持つという内容が喜ばれたからに違いない。

和泉流（ほか）に伝承する 三髪祝儀 と 声を引く の成立時期については、残念ながら推測するに足る資料が無い。前者は、鬢の髪が三力所にあることを「近江の国の三上山」がこの場所にやってきた、ととりなしたものの。人間の顔に土地をはめ込んでしまう視点が笑える。後者は、三番叟がアドを「声を引いて呼ぶ」ことになり、「アドの大夫は、いいかげんな筆では絵にかくこともできない」ほど立派である（「と言い、」ではどんな筆で描けばよいのか」と聞かれて、「こまざらえでかこつ」とオチをつける。「細杷」「こまざらえ」「こまざらい」は、落ち葉を掻いたり土をならしたりする一種の熊手で、「こまざらえで集める」は「掃いて捨てるほどある」の意味で用いられる。ここでは「描く」と「掻く」を掛詞として滑稽味を与えている。

鷺流（ほか）に伝える 陰陽三番三 は仏教的内容が独自である。観世元章の著作・編集になる『九番習』の中に式三番の替演出たる「法会の式」の文句を掲出しているが、その注記に「三番叟八錫杖之式也」とある。観世流の「法会式」は元章が整理を加えた新しい形態の異式演出だから、陰陽三番三 もそれにあわせて、鷺流であらたに作られた可能性がある。

式三番は神聖な儀式であり、古い伝承をそのまま受け継いでいると認識されていた。だが、実態は違つ。むしろ、江戸時代を通じて、基本形のほかに様々な異式演出を保持し、あるいは、あらたに作り出していたことの方が、特徴なのである。ここでは、三番叟問答のセリフに注目したが、鈴の段に限っても、舞いかたや囃子演奏に数種のバリエーションがあった。翁の舞に四日の替があり、「揉の段」の和歌に替があり、千歳に替がありと、実に多彩な変奏が可能なのである。メインは決まっても付け合わせや組み合わせで変化をつけるように、その時々にはさまざまな演奏方法を選択するという演奏方法は、おそらく式三番という演目の本質に根ざしているのだろう。江戸時代「翁猿楽」の演奏形態は、まだまだ膨大な未整理の分野であり、さらなる資料の紹介や翻刻が期待される。

三番叟関係の主要な論考として、表章の「式三番の周辺」、『能楽史新考』所収。一九八六年、わんや書店刊）があり、および とほぼ同一本文の寛永十年道伴刊行『式三番』を翻刻し、考察を加えている。また、天野文雄『翁猿楽研究』（一九九五年、和泉書院）のうち、特に「翁猿楽の変遷―詞章と演式をめぐって―」が本稿と関連する。

【解題】

管見に入つた三番叟問答を収録する諸本(12種19本)のうち以下の9本を翻刻する。江戸初期以前のものについては、すでに翻刻済みであっても一般に入手困難な場合は掲載することとし、あらためて原本にあたつた。江戸中・後期以降は各流から一本を選び、他本が替の問答を所収する場合は補つた。前稿での番号を( )に付したうえで、略解題を記しておく。

『享禄三年奥書能伝書』(1)

観世新九郎家文庫蔵。原本は享禄三年(一五三〇)以前の成立。冒頭に「式三番次第」として翁と三番叟の文句(本座のみ)を記載する。翁文句は省略した。

『秘事集』(2)

檜常正氏蔵。原本は慶長頃の成立。田歌・鏡宿・子徳人・作り道。全体は鼓伝書。

『仕舞秘伝』(3の口)

鴻山文庫蔵。原本は正徳二年(一七二二)。乾坤二冊から成り、坤の冊「翁」の一部に三番叟問答を記載する。本座・田歌・子徳人・初日同前。寛永十年(一六三三)二月道伴刊行『式三番』(鴻山文庫)、仮綴本『式三番』(鴻山文庫)、宝暦五年(一七五五)山本長兵衛刊行

『式三番』(観世新九郎家文庫)と順番も本文もほぼ同一。江戸初期三番叟問答のスタンダード。

『舞間書』(4)

法政大学能楽研究所蔵。慶長十年(一六五〇)九月の年記がある。全体は様々な習い事を集めた伝書で冒頭に翁関係の記事がある。本座・田歌・子徳人・初日同前。

『祝本狂言集』(5)

鴻山文庫蔵。江戸初期。子とく人。「能楽研究」十二号に永井猛が翻刻。冒頭のセリフが独特。

『鷺流』名姉川本』所収「式三番」(8)

檜常正氏蔵。多くの古書を参照転写した本。宝暦十一年(一七六一)以前の書写。式三番関係の記事は「習風部」に記載する。本座・烏帽子・子徳人・田歌・鈴のいわれ。ただし、「鈴のいわれ」は本文空白。鷺流『保教本』とは本文に差がある。

『鷺流習伝書』(9の口)

法政大学能楽研究所蔵。本座・烏帽子・子徳人・田歌・陰陽三番叟。陰陽三番叟のみ翻刻した。笹野文庫旧蔵本で、「初日三番三搦之段」

ではじまる三番叟初日の本文と型、「千歳三番三全」と題する舞方の合写。法政大学能楽研究所水野文庫蔵『鷺流狂言習物本』（文化元年鷺定賢書写）、観世宗家蔵『千歳三番叟型付』もほぼ同一本文。鷺流『保教本』所収本文とは近似。

『和泉流風流伝書』（10のイ）

法政大学能楽研究所蔵。江戸後期。本座・子徳人・烏帽子・田歌・作り道・三髪の祝儀・声を引く。『和泉流三番叟』（法政大学能楽研究所）とほぼ同一本文。最も多くの問答を収録する。

なお、昭和五年、わんや書店発行の「狂言名寄」によると和泉流（山脇和泉・野村万蔵）の三番叟は初日以降、「二日目子宝、三日目烏帽子の祝儀、四日目作り道、五日目三髪の祝儀、六日目声を引」となっており、田歌は最終的に脱落したようである。

『名姉川本』所収「大蔵流式三番」（12）

檜常正氏蔵。本座・烏帽子・子徳人・田歌。の冊冒頭の目録部分に「大蔵流式三番」と記す部分に相当する問答と推測され、当該箇所冒頭に「貞享三丙寅歳六月二四日 三番三免之證人之覚」として「大蔵長八郎・高安山三郎・同名弥兵衛」の名をあげる。絵図入りの詳細な内容である。「初日」と記す以下の本文を翻刻した。大蔵流三番叟に関しては、大蔵虎明筆『式三番』（『芸能の科学』30、二〇〇三年、高

桑いづみが翻刻）があり、それと比較したところ、「あどどえつと」ろに「など他にみえない言い回しが若干共通する。『名姉川本』式三番の記事は詳細かつ膨大であり、内容は解明されていない。今後の精査が待たれる。

末尾ながら、資料閲覧と翻刻を許可して下さい下さった能楽研究所、並びに檜書店の檜常正氏に厚く感謝する。なお、資料作成に際して、中司由起子の助力を得た。

## 【凡例】

- 一、漢字・平仮名・片仮名の区別、および仮名遣い・送り仮名は原本のままとした。
- 一、句読点と濁点を加えた。原本の濁点はすべて生かしたが、校訂者のものと区別していない。原本の句読点は参照するにとどめた。
- 一、原本の振り仮名はすべて生かした。
- 一、原本の題名部分に付されている朱筆の 印・ 印や、順番を示す番号は省略した。
- 一、題名を書いていない場合は（ ）に入れて名称を補った。  
名称は「本座・烏帽子・子徳人・田歌」に統一した。
- 一、原本の訂正・加筆の類は で囲んで然るべき箇所に入れた。
- 一、原則として問答部分のみを翻刻することとした。ただし、本文中に挿入されている短文の演奏上の注記類は「」に囲んで然るべき箇所に入れた。長文にわたる仕方付・囃子の付ケ等を、各問答後に連続して記している場合は、(中略)などと表記したうえで、本文は省略した。
- 一、役名はすべて小字で表記した。
- 一、役名交替を示す鉤印は、\印に統一した。役名、および鉤印なしに役が交替していると判断した場合は、\印を付し、役名を（ ）に入れて補った。また、相手役を「アド」とした場合がある。
- 一、節付が施されている部分は、\を付した。
- 一、誤記・宛字などは、注の形で別記し、可能な範囲で訂正した。また、注の形で、適宜語釈を別記した。
- 一、校訂者による注記は（ ）で囲んだ。
- 一、三番叟の型付は省略したが、「搦の段」の替謡を記述する場合は参考のため翻刻した。

『享禄二年奥書能伝書』(1)

(本座)

三バンサルガク、アヲサエイヲウ。ヨロコビアリヤ、コノ此所ニホカエワ、ヤラ  
ジトゾヲモウ。サンバ、物ニコ、ロエタルアドノ大夫殿ニ、キトケンザウマウ<sup>1</sup>  
サウ。アド、チヤウドマイツテソロ。 (三番三) タガラヲタチ候ソ。 (アド) トシ  
ゴロノハウクワンノシミ、アドノヤクニマカリタチテ候。サンバンサルガ  
クサツトマウテ御入候へ。 (三番三) サンバンサルガクノマワウズル事ハヤ  
スク候。マツアドノ大夫殿御ナヲリ候へ。 (アド) ソレガシガナヲラウズル  
事ハヤスク候。ハヤ御マイ候へ。 (三番三) マツヲナヲリ候へ。 (アド) イヤ  
(三番三) イヤ。 <sup>3</sup> キジノヲハ、シヤウノフエニゾニタリケル。座、ニタリ  
ケリ、シヤウニアワセテネヲゾナク

〔右皆神歌ニテ本云ノ和々ノハシク、コトニテ候。此外色く申ゴトハ、ヨ  
キナニモ候ヘドモ、幾度モ此分デ可在能候。クデンアリ〕

1 原本「ケンザウ」を「ケンザン」に訂正する。

2 「シミ」は「ヨシミ」か。

3 役名未詳。

4 以下意味が解しにくい。



『秘事集』(2)

三番サルガクノ云事

(田歌)

(三番三) アド、申所ニ、ハヤぐと御立、祝着に存候。サテモソレガシハ、ヨサナキ時ヨリ、<sup>1</sup>ホナル者ニテ、拍子ニカ、リテ人ヲヨビ申事ガスキにて候間、アドノ大夫殿ヲ、拍子ニカ、リテ、ヨビ申サウズルガ、コタヘアラウズルカ  
 (アド) 先御ヨビ候へ、コタヘテ見申候ベシ (三番三) ヤドノヤ ヤドノヤ  
 ヤドノヤ トノヤ ヤドノヤ ヤドノヤ (アド) ナンドキニコタヘ申サウ  
 (三番三) 人ガヤトイヘバ、ヤト云コトバノ下カラ社コタユ物ナレ。ヨイテ、アサツテ渡ヲコタヘ候へ (アド) サアラバ今一度御ヨビ候へ、コタヘ申サウ。  
 (三番三) ヤドノヤ ヤドノヤ ヤドノヤ ヤドノヤ ヤドノヤ ヤドノヤ  
 ヤ (アド) ナゾトヨく、ナゾト ナゾ給へゼウ殿 (三番三) ヤドノヤ  
 ドノ ヤドノ ヤドノヤ トノヤ ヤドノヤ トノヤ ヤドノヤ (アド) ナゾトヨ (三番三) ナンボウヨイ天氣ニテナイカ

(鏡の宿)

(三番三) アド、申所ニハヤぐと御立、祝着ニ候。爰ニ面白物語ノ候、語ツテ聞せ申サウ (アド) 急テ御物語候へ (三番三) 初モソレガシ、尾張ノ国アツタヘ下シ時、近江国カミ山ノ宿<sup>ヤド</sup>ニ付シカバ、ヤドノ亭主色くモテナシシカバ、十七八ノユウクンノ、ナガヘノ調子ヲツツテ、ハツタトアゲテ、

ウタウタ。メイトクノく、酒ヲバノマデ、メイトクノ、人情ヲノムトカヤ、エイサハ、トウタ、<sup>2</sup>サゾナ、覚ヘタリ。カミヲ乱ハ、ヨ、中シモハカツラ川、アユトル川トハ云ナガラ、又ウルカト問バ、ウコノ物、<sup>3</sup>問ハウコノシレ物。アマリノ面白サニ、物トウタウタ (アド) 何トウタウタ (三番三) ヨツヒト、ウタウタ

(子徳人)

(三番三) アド、申所ニ、早々ト立、近比祝着申て候。就其ソレガシハ一段目度者にて候。其イハレハ、子ヲ十人持て候。(アド) ソノ名ヲバ、何ト申ゾ  
 (三番三) ヲトヤウ、姫ヤウ、松ヤウ、竹ヤウ、ダンダラ、イナゴニ、カイツク、スイツク、ヒウチ袋ト付タ (アド) ヤアラ、ヨモシロイ名ヤ

(作り道)

(三番三) あど、申所に、ハヤぐと御立祝着申て候。夫ニとわずがたりにて候へ共、それがし八歌道をすぎて候 (アド) 先八ちか比浦山しき事にて候  
 (三番三) さても此ほど、大りより、つくり道と云題を御出し候。それがしや、よつで候 (アド) 何御よミ候ぞ ツクリみち、往来の人の、<sup>4</sup>とおれるハ かな用こそありてとをるらう、とよつだ (アド) ちか比面白候

1 原本虫摺。

2 「トウタウタ」か。

3 「ウコ」は「おこ(痴)」に同じ。

4 「とおれるハ」は「ミおれるハ」とも読める。

『仕舞秘伝』(3の口)

三番叟初口(本座)

サンバ おさへくおふ。悦ありや、我この所よりもほかへはやらじとぞおもふ。「モミノダン」

物に心得たるあどの太夫殿にげんざう申さふ アド ちやうど参つて候  
サンバ たが御立候ぞ アド とじころのはうばいつれ友達、御三あどのために罷立て候。今日のさんばさるがく、きりく尋常にまふておりそへ、色のくろい尉殿 サンバ 此色のくろひ尉が、今日の御祈祷を千秋万歳所はんじやうと舞おさめふすることハ、何よりもつてやすつさふ。先あどの大夫殿ハ、もとのざしきにおもくと御なをり候へ アド 某がもとのざしきへなをらふずる事ハ、尉殿の舞よりいとやすつさふ。御舞なつてハなをり候まじ  
サンバ あらやうがましや アド さらば鈴を参らせふ サンバ そなたこそ

二口(田歌)

サンバ おさへくおふ。悦びといふ文をえて、重而所知にぞ下りける。「モミノダン」

物に心得たるあどの大夫殿にそつとげんざう申さふ アド ちやうど参つて候  
サンバ あどの申所にはやくとの御たち、まづもつて祝着申て候 アド されば候 サンバ あどの大夫殿に申たき事の候 アド 何事にて候ぞ サンバ さつきのさ女はうが、かさのはをつらね、さなへをつとりて、うちあげてうたふた

ハ、おもしろうハなく候か アド 実面白きものにて候 サンバ さあらばあどの太夫殿をたうたぶしにてよび申さふが、御こたへあらふずるか アド 御よび候へ、こたへ申さふ サンバ あどのや あどのく あどのや あどのや アド 何時にこたへ申さふぞ サンバ 人がやつといはゞ、やつとこそこたふるものなれ、とつてをいてあさつてわたり御こたへすい アド 尉殿の御ふくりう尤にて候。今一度御よび候へ。ことはの下よりこたへ申さふ サンバ しかと候か アド 中々の事 サンバ あどのや あどの あどの あどのや あどのや アド なぞとよ なぞとく なぞの給へ尉殿 サンバ あどのく あどのく あどのやく アド なぞとよ サンバ あどのや アド なぞとハ サンバ けふハよき天気候よ アド あらめでたや、一さし御まひ候へ

三口(子徳人)

サンバ おさへくおふ。爰をどこぞとこふたれば、びだつ長者のもとかや。「モミノダン」

物に心得たるあどの太夫殿にそつとげんざう申さふ アド ちやうど参て候 サンバ 某がよび申所にはやくとの御立、まづもつて祝着申候 アド されば候 サンバ あどの太夫殿をめきいたひて候 アド 何と御覧じ候ぞ サンバ 福人と見申て候 アド 言語道断、御めがきひて候。また色のくろい尉殿をめきいたひて候 サンバ 何と御覧じて候ぞ アド 徳人と見申て候 サンバ さん候、某八徳人の中にも子徳人にて候。子を十人もつて候が、上五人八玉をのべたるやうなる娘にて候。下五人八るりをのべたるやうなるめ<sup>2</sup>

なごにて候 アドノまづハそろへて御持候よ サンバノ十人の子をくるまざに  
をいて、一口にちぶやうに、なを付て候 アドノ何と御つけ候ぞ サンバノ先お  
つとりちがへて、おとよ、けさよ、たつまつ、いるまつ、だんだら、いなご  
に、かいつく、ひつひく、ひつちぶくろ、ぶらりと付て候 アドノあらめでた  
や、一さし御まひ候へ

〔四日 右初日同前也。但口伝アリ〕

1 「ふくりつ」「は」「腹は」「であるう。

2 「めな」「は」「め」「こ」「こ」「同じく」「女子」の意。

『舞聞書』(4)

初日さんばさ(本座)

サンバサくおさへくおふ。よろこびありや。我この所よりもほかへはやらじとぞ思ふ「マイ」

物に心ゑたるあどの太夫殿にげんぞう申さふ センザイへちやつどまいつて候

(サンバサく)たが御たちにて候ぞ (センザイへ)さんばさるがくつれともだち、

大<sup>1</sup>ミやどの為に罷立候。さんばさるがくきりくじんじやつにまふて、座敷

にさつと御なをり候へ (サンバサく)この色のくろきぜうが、まわふするハや

すつ候。先あどの太夫どの御なをり候へ。あらやつがましや

二日のさんばさ(田歌)

サンくおさへくおふ。よろこびといふなミをえて、かさねてしよちにぞ下りける

サンく物に心得たるあどの太夫殿にそつとげんぞう申さふ <sup>2</sup>サンくちやつどまいつて候

(サンバサく)あどの大夫どのと申にはやく御いで先以祝着申候。され

ばそれにつめて某<sup>3</sup>拍<sup>3</sup>なにかかつてよび申せう。御こたへ候へ (センザイへ)さ

らば御よび候へ。こたへ申せう <sup>4</sup>サンくちやつどのや <sup>5</sup>ちやつどのや

センザイへおて何時にこたへ申せう (サンバく)宿といはど、なぞと御こたへも

なくて、近<sup>4</sup>比<sup>4</sup>ねをびたる事を承候 (センザイへ)おらび今一度御よび候へ。こた

へ申せう (サンバく)ちやつどのや 宿のや (センザイへ)なぞとよ <sup>5</sup>なぞとよ <sup>5</sup>な

ぞたまへ尉殿 (サンバく)ちやつどのくくくくく <sup>5</sup>ちやつどのや (センザイへ)なぞと

よ (サンバく)ちやつどのや (センザイへ)なぞとよ (サンバく)けふ八よき天気な

三日のさんばさ(子徳人)

サンくおさへくおふ。爰をどこそとふたれば、しゆだつちやつじやのも <sup>5</sup>とくかや

物にこころへたるあどの太夫殿にそつとげんぞう申せう <sup>5</sup>サンくちやつど参

て候 (サンく)某がよび申処に、はやく御出先以祝着に候。然者某子を十人

持て候が、かみ五人はむすめ、しも五人八ひめにて候 (センザイへ)まづハそ

ろへて御持物かな。初なをばなにと申ぞ (サンバく)やしやよ、ひめよ、ま

つよ、だんだら、いなごに、かいつく、ひつつく、ひうちぶくると付て候

(センザイへ)先八目出たふ候

「但四日のさんばさハ、右初日と同前、まくのうちよりまふて出る也。たゞしゑぼしをつむるも有之。」

1 「大ミ」は「御身」か。

2 「サン」は「センザイ」の誤記。

3 「拍なに」は「拍子に」か。

4 「ね(寝)をぶ」は「ねぼける」の意。

5 「サン」は「センザイ」の誤記。

『祝本狂言集』(5)

子どく人

はじめの言立、同事。シテ、あど、申所に、はやく御立まんどく申候。此さんばさるがくほどもでたき物八御座なく候。あど、仰のごとく、いろのくろきぜう殿ほどもでたい御かた八御座なく候により、今日の御きたうを仰つけられて候。めでたき御事にて八候八ぬか。シテ、近頃めでたい事にて候。其上人のたからおゝき中に、子ほどのたから八御さないと申すが、何とおぼしめし候ぞ。あど、中く。子ほどのたから八御さなく候。シテ、そうじてそれがし八子を十人以て候が、五人八男子、五人八女子にて候。去程二人の名をよび候へバあまたの子共こたへ申間、此十人の子共の名を付て候。あど、何とつけたまひて候ぞ。シテ、物と付て候。あど、何とつけたまひ候ぞ。シテ、おとよ、けさよ、たつまツ、いるまツ、だんだら、いなごに、かいつく、ひつつく、ひうちぶくろに、ぶらりと付て候。あど、<sup>1</sup>あゆめ木柱やさらバすを参らせう。(シテ、)あちやうがましや

1 「あちやうがまし」は原本ミセケチ。

鷺流『名姉川本』(8)

(初日 本座)

三番二はあ、おふさいおふさいをふ。悦やりや。わが此所より、ほかへハやらじとぞうおんまつ(中略)

三番二あら目出たやな、物に心得たるあどの太夫殿にげんざう申さう 千歳くつとどまいつて候 三番二たかお立にて候ぞ 千歳くあどく仰候程に、某随分物に心得たると存じ、おあどの為に罷立て候 三番二ほう 千歳く今日の御祝義を、千秋万歳と目出度様に、舞ておりそひ、色の黒ひ尉殿 三番二あどく申所に、はやばやとおたち祝着に存る。今日の御祝義を、此色の黒ひ尉が、千秋万歳と目出度やうに舞納めうする八、なにより以テやすう候。先あどの太夫殿八、元の座敷に思ふ元を御なをりそひ 千歳く某座敷になをらふする八、尉殿の舞より以て安う候。先御舞候へ 三番二いや御なをり候へ 千歳くいや御舞候へ 三番二唯御なをり候へ 千歳くさあらバ鈴を参らせう 三番二あら用がましや候 (中略)

二日目 烏帽子

(千歳和歌等省略)

三番二はあ、おふさいおふさいあつ。悦やりや。よろこびといつふミをゑて、重而所知にぞ下りける (中略)

三番二荒目出度やな、物に心得たるあどの太夫殿にげんざう申さう 千歳くち

やつと参つて候 三番二たがお立にて候ぞ 千歳くあどく仰候程に、某随分物

に心得たると存じ、おあどの為に罷立て候 三番二ほう 千歳く今日の御祝義

を、千秋万歳と目出度やうに、舞ておりそひ、色の黒ひ尉殿 三番二あどく

申所に、早ばやとお立祝着に存ル。此色の黒ひ尉が、今日の御祝義を、千秋

万歳と目出度様二、舞納めうする八何寄以て安う候。就夫あどの太夫殿に少不

審申度事の候 千歳く夫八いか様成事にて候ぞ 三番二只今翁の太夫殿のめ

されたる烏帽子八何と申候ぞ 千歳くあれハ立ゑぼしと申候 三番二又あどの

太夫殿、其外何も囃子の衆のきられたるゑぼしお八、何と申候ぞ 千歳く是ハ

折ゑぼしと申候 三番二折ゑぼし立烏帽子、何も目出たき名共にて候。いわ

つて参らせつするが、いかにと候べき 千歳くいか様二も御祝候え 三番二四

方に数万の歳を立烏帽子、其中にとつと折ゑぼし候 千歳く御祝近比祝着申て

候。又尉殿にもふしん申度事の候 三番二夫八いか様成事にて候ぞ 千歳く只

今翁の太夫殿の召たるゑぼしにもちがひ、又あどの太夫何も囃子の衆の着ら

れたるゑぼしとも替り、尉殿のゑぼしハ、せうぎのこまなりにて候が、夫八

何と申ゑぼしにて候ぞ 三番二是八物と申ゑぼしにて候 千歳く何と申候ぞ

三番二物と 千歳く何と 三番二物と 千歳く何と 三番二か様に天下納り万

目出度き折からなれば、此所へ七珍万宝が、ふらりふらりと、ふりゑぼし候

千歳くあら目出たや、さあらば鈴をまいらせう 三番二荒用がましや候

三日目 子徳人

(千歳和歌省略)

三番三はあ、おふさいをふさいおつ。よろこびに、又よろこびをかさめれば、始のよろこびハしもこそあれ（中略）

三番三荒めでたやな、物に心得たるあどの太夫殿にげんざう申さう「是ヨリ初日同前」

三番三千秋万歳と目出度様に舞納するハ、何寄以テ安う候。就夫あどの太夫殿に物語致とう候が、何と候べき 千歳何事にてもあれ御物語候へ、うけ給わらうするにて候 三番三世上に徳人多しと申せ共、子徳人程目出度物ハ有間敷きと存候が、何と思召候ぞ 千歳尤左様にて候 三番三就夫、某八子を拾人持て候。か三五人八玉をのべたごとく成ル男子、下五人八るりをのべたごとくなる女子成ルが、男子の上座に八某、女子の上座ニ八子持の母、拾二人が車座に居ながらいて、やれそこな者よ、とよべば、我が事かくと思ふて立さわぐに仍テ、只一声に呼やうに名を付て候 千歳夫八何と仰付候ぞ 三番三物と付テ候 千歳何と 三番三物と 千歳何と 三番三おとよ、けさよ、だんだら、いなごに、たつまつ、いる松、かいつく、ひつつく、すいつく、火打袋と付て候 千歳何も目出度名共にて候、さあらバ鈴を参らせう 三番三荒用がましや候

「三番三世上の人のつわさハいらざる事なれば、此尉が身の上の目出度子細を語て聞せ申候べし 千歳御物語候へ」

四日目 田歌「又四日目八千歳達ニモスル。此アトニ書テ有リ」

（千歳和歌省略）

三番三はあ、おふさいをふさいおふ。爰をどこそとつたれば、びだつ長者のもととかや

三番三荒目出たや、物に心得たるあどの太夫殿にげんざう申さう 千歳てつど参ツテ候 三番三たがお立にて候ぞ 千歳あど仰候程に、某随分物に心得たると存じ、おあどの為に罷立て候 三番三はう 千歳今日の御祝義を、千秋万歳と目出度様に舞つておりそひ、色の黒い尉殿 三番三あど申所に、早ばやとおたち祝着に存る。就夫、あどの太夫殿に申度事の候 千歳夫は何事にて候ぞ 三番三別成事ニてもおりなひ、惣じて人に名をよばれたるハ、一段と嬉しい物にてハなく候か 千歳誠に人に名を呼れたるハ嬉しい物にて候 三番三さあらバあどの太夫殿を、ようで参らせうするが、何と御座らふするぞ 千歳中々呼て給り候へ 三番三喚共唯ハ喚候まじ。さつきの比さうとめの笠のはをならべて田歌を謡ふたるが、面白い物にて候程に、さあらバ田歌節にかつて喚申さうするにて候 千歳近比にて候。御呼候へ答へ申さう 三番三あどのや あどのや あどのや あどのや 千歳何時に答申さふするぞ 三番三おいてあさつてあたり御いらへ候へ 千歳心得申候 三番三あどのや あどのや あどのや あどのや あどのや 千歳なぞとよ なぞとよく なぞの給へ 尉殿 三番三あどの あどのくくく あどのくくくや あどのや 千歳何事にて候ぞ 三番三今日ハ一段の天気にて候 千歳中々の事、頓而鈴を参せう 三番三荒用がましや候

「四日目千歳達之事。面箱太夫の前へ直して夫より立頭ヲ打也。是より」

五日目（鈴のいわれ）

千歳和歌初日同前

三番二はあ、おふさいくおう。悦に又よるこびをかさねつゝ、我が此所より、外へハやらじとぎょうをんもつ（以下二行分ほど空白）

三番二く荒目出度や、物に心得たるあどの太夫殿にけんざう申さう 千歳くてうど参て候「是より初日のせりふ云テ」 三番二く先あどの太夫殿八元の座敷に

おもをもとを御なをりそひ 千歳く某座敷になをらうずるハ、何より以て安つ候。就夫、尉殿ふしん申度事の候 三番二く何事にて候ぞ 千歳く後の段を鈴に

て御舞候ハ、いか様御事にて候ぞ 三番二く是ハいわれの有事にて候 千歳く其義にて候ハ、卒度御聞せ有て給り候へ（以下一ページ分ほど、空白）

千歳く鈴の段の子細懇に御物語祝着申て候。さあらハ鈴に笹を添て参らせつずる。

（以下、初日～三日の三番叟の文句と、初日～五日の仕方等をまとめて再度記すが省略する。）

1 原本「思ふ元」は「重々」とか。

2 以下、文字が綴目にかかっており、判読困難。

3 原本「を」衍字。



『鷲流習伝書』(9の口)

陰陽三番三

〔錫杖ニテ舞フ。法会杯ノ時相動ル〕

三番二、あゝら目出度や。物に心得たる雇の大夫どのに見参申そふ。千歳、丁ど参つて候。三、誰が御立にて候ぞ。千歳、雇と仰候程に、某随分物に心得たると存じ、お雇の為に罷立て候。三、ほう。千、今日の御祝儀を、千秋万歳と目出度イヤふに舞ておりすい、色の黒イ尉どの。三、雇と申所に、はやくとのお立、祝着に存る。然れば今日の御祝儀の鈴の段を、珍らしう錫杖にて舞ふと存るが、いかにと候べし。千、夫八兔も角もにて候。去ながら錫杖にて御舞有りても苦しからぬ謂バし候か。三、御不審尤に候。夫に付目出たき子細の候。語て聞せ申さふずる。

先我朝八天地開闢より神国なり。夫に付、神道と仏道と八車の輪のごとし。去れば神跡様々有る中に、中にも神樂を奏する事八、天の細女の尊の舞初て、日月明に納る御代となし給ふ。其猿女君の鈴は十二輪なり。又仏法に八六輪なり。此六輪と八錫杖なれば、是に依て鈴も錫杖も同前なり。又錫杖八虚空を形どりて大輪とし、杖を以て定とす。彼六輪と申八仏の六波羅檀を表し給ふ。故に鈴を振り錫杖を振ならしく、御祈祷有れば、上八梵天帝釈四大天王、焰魔法王五道の冥冠、山野江河の鱗までも、錫杖の音を聞、悦勇ニ申さずと云事なし。殊に悪魔外道も納受たれし故、災難さり、一段目出度御祈祷なれば、今日の鈴の段を錫杖にて舞ふずる間、先雇の大夫殿八、元の座敷へ

おもくと御直り候へ。千歳、左あらば、旁の仰に任せ、元の座しきに直らふずる間、急で御舞候へ。三、心得申候

〔此時後見ヨリ錫杖ヲ渡スナリ〕

1 「六波羅檀」は「六波羅密」か。

2 「冥冠」は「冥官」の当て字。

『和泉流風流伝書』(10のイ)

二番叟初日(本座)「一日ナドアル能二八猶以是ヲウタウ也」

「ハアト声ヲカケテモウタウ也」

(三番叟)「おさへくおふ。よろこびありやく。我此所より外へは、やらじとぞおもふ」

(三番叟)「やらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんざう申さつ アド「ちやうど参て候 (三番叟)「たがお立にて候ぞ アド「年比の傍輩つれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたう、きりくじんじやうにまふておりそひ、尉殿 (三番叟)「此色のくろい尉が、今日の御きたう千秋万歳、めでたいやうに舞おさめうするハ、何よりもつてやすう候。先あどの太夫殿八ものざしきへおもくと御なをり候へ アド「それがし」

のものとざしきへなをらうするは、猶以やすふ候。先尉殿の舞を見申さつ(三番叟)「いやたどおなをり候へ アド「いや御舞候へ (三番叟)「いやおなをり候へ アド「やがて鈴をまいらせつ (三番叟)「あらよつがましや候」

「アドスグニ、あらよつがましや、鈴を参らせうト云モ有(中略)

十人子 「二日目ニ云也」

(三番叟)「やあらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんざう申さつ アド「ちやうど参つて候 (三番叟)「たがお立にて候ぞ アド「年比の傍輩つれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたう、きりくじ

んじやうに舞ておりそひ、色のくろい尉殿 (三番叟)「あど申所にはやくとお立何よりもつて祝着申て候。先あどの大夫殿にそと物が不審申たう候

アド「それは如何様なる事にて候ぞ (三番叟)「七珍万宝の中に第一のたから八何にてあらふずると思召候ぞ アド「いやそれがしは何共ぞんじよらず候。尉殿八何と思召候ぞ (三番叟)「いや、子だからと申て、子にまさりたるたから八あるまじい。此尉は十人子を持て候が、上五人はおしならべて男子、下五人はおしならべて女子、此子共が、いながらへている時、やれそこな者よといへば、我事かくかとおもふて立さ八ぐ程に、十人の子共に名を付て候

アド「それはなにと御つけ候ぞ (三番叟)「ものと アド「何と (三番叟)「おとよ、けさよ、たつ松、ふす松、だんだら、いなごに、かいつく、すいつく、ひつつく、ひ打袋と付て候 アド「あらめでたや、鈴を参らせう」

烏帽子祝儀 「三日目ニ云」

(三番叟)「やあらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんざう申さつ アド「ちやうど参て候 (三番叟)「たがお立にて候ぞ アド「年比の傍輩つれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたうきりくじんじやうにまふておりそひ、色のくろい尉殿 (三番叟)「あど申所にはやくとお立、何よりもつて祝着申て候。先あどの大夫殿にそと物が不審申たう候 アド「それは何事にて候ぞ (三番叟)「たいま翁の太夫殿のめされたるゑぼしハ、何と申ゑぼしにて候ぞ アド「あれハたてゑぼしと申ゑぼしにて候 (三番叟)「又あどの太夫殿、いづれもはやしの衆のめされたるゑぼしハ、

翁の大夫殿のゑぼしにもちがひ、かどのあまた候が、是八何と申烏帽子にて候ぞ。アト、是こそ折ゑぼしと申候よ。(三番變) 近比めでたきゑぼしにて候。やがていわひて参らせつするにて候。四はつに四まんのくらをたてゑぼし、中にとつどおりゑぼし候よ。アト、御いわひ祝着申て候。又尉殿に不審申度事の候。(三番變) それは何事にて候ぞ。アト、尉殿のめしたるゑぼしハ、翁の大夫殿のゑぼしにもかわり、又我等のゑぼしにもちがひ申て候が、是は何と申ゑぼしにて候ぞ。(三番變) 是はふりゑぼしと申ゑぼしにて候。アト、近比めでたきゑぼしにて候。(三番變) さあらは三ツのゑぼしをいわひ申せつするにて候。四はつに四まんのくらをたてゑぼし、其中にとつど折ゑぼし、しつちん万宝が此所へふらりくとふりゑぼし候よ。アト、やらめでたや、鈴をまいらせつ

田歌ぶし

(三番變) やあらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの大夫殿にげんざう申せつ。アト、ちやつと参て候。(三番變) たがお立にて候ぞ。アト、年比のほうばいつれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたつ、きりくじんじやうに舞ておりそひ、色のくろい尉殿。(三番變) あど、申所にはやぐとお立、何よりもつて祝着申て候。然ハそれがし此程さつとめ達の田うたぶしを聞て候が、一段おもしろつ候程に、あどの大夫殿を田うたぶしによび申せつ。アト、尤にて候。さあらバわれらも田うたぶしにこたへ申せつ。ずるにて候。(三番變) やどのや やどのや あゝやどの やどのや ーや

どのや アト、なぢよとよ なぢよとよ おんなぢよと なぢよとよ なぢよとよ(三番變) やどのく やどのや あゝやどの やどのや ーやどのや アト、なぢよとく なぢよとよ おんなぢよとよ なぢよとよ なぢよとよ(三番變) やどのや アト、なぢよとや アト、なぢよとや(三番變) なんぼうよひ天氣にて候。アト、あらめでたや、鈴をまいらせつ。

「なんぼうよひ天氣にてとびがないて候トモ云也」

作り道

(三番變) やあらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの大夫殿にげんざう申せつ。アト、ちやつと参つて候。(三番變) たがおたちにて候ぞ。アト、年比の傍輩つれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたつ、きりくじんじやうにまふておりそひ、色のくろい尉殿。(三番變) あど、申所にはやぐとお立、何よりもつて祝着申て候。去程に、長々敷申事にて候へ共、あどの大夫どのにそと物語が仕たう候が、きかせられうか。アト、わぶ、中くきくまらせつ。(三番變) 去程に此尉は、ひえの山そだちにて、廿斗までおちこで有つるが、かミをおささつすると申候へば、御山1よりも使者をたてられ、髪をおるさせられつする事ハ、思ひもよらぬと申つて、ミなくおしミ申されたるによつて、卅、四十斗まで、おちこでいさうよ。其間2に、うしろいをもつてけわいをしたる、其うしろいがこへついて、かやうにまつくろになつてさうハ。アト、それはさておもしろい事候よ。(三番變) 又それがし清水へ参て、都の様躰をミれば、中くおもしろき事、きもをつぶいて候程に、つ

くり道と云五文字をもつて、歌をよぶで候 アドノ初其歌八候 (三番雙)つ  
くり道のほりくだりにありく人、用があればやありきけるかなや、なんどよ  
ぶで候 アドノあらめでたや、すゞをまいらせう

### 三髪之祝儀

(三番雙)くやあらめでたやな、物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんざ  
う申さう アドノちやうど参つて候 なたがお立にて候ぞ アドノ年比の傍輩  
つれ友だち、おあどのために罷立て候。今日の御きたう、きりくじんじ  
やうにまふておりそひ、色のくろい尉殿 (三番雙)くあど申所にはやくと  
お立、何よりもつて祝着申て候、まづあどの太夫殿に、物が不審申たう候  
アドノそれ八何事にて候ぞ (三番雙)くあどの太夫殿の、右の耳の上に候八、何  
と申物にて候ぞ アドノあふ是は、びんのかミと申物にて候よ (三番雙)く切  
又左の耳の上なるは、何と申候ぞ アドノ是もびんのかミ候よ (三番雙)く又  
うしろなる八何と申候ぞ アドノこれもびんのかミと申候 (三番雙)くあらめ  
でたや、近江の国が此所へ参て候 アドノさてそれはいかに候 (三番雙)く先  
御身の、右のみくの上なるもびんのかミ、又左の耳の上なるもびんのかミ、  
うしろなるもびんのかミ、さやうに候へば、三かミいたゞめて御入候程に、  
近江の国がきたつて候は アドノあらめでたや、鈴を参らせう

### 声を引

(三番雙)くやあらめでたやな。物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんざう

申さう アドノちやうど参つて候 (三番雙)くなたがお立にて候ぞ アドノ年比の  
傍輩つれ友だち、おあどのために罷立つて候。今日の御きたうきりくじ  
んじやうにまふておりそひ、色のくろい尉殿 (三番雙)くあど申所に、はや  
くとお立、何よりもつて祝着申て候。あまり心よく御立候程に、声を引て  
よばふ アドノ如何様にも御よび候へ、こたへ申さう (三番雙)く色ノ心ノにう  
ほどもく、あのいとおしきは、あどの太夫殿にて候 アドノ色ノ心ノそもや  
そも、なんでう事にて候ぞ (三番雙)く絵にかくとあだなる筆にてよまかじ  
アドノさていかやうなる筆にて御書あるへきぞ (三番雙)くこまぢらへにてか  
かうぞ アドノあらめでたや、すゞをまいらせう

- 1 「御山」は「三山」とも読める。
- 2 「うしろい」は「おしろい」に同。
- 3 「こまぢらへ」は「こまぢらひ」(細杵)とも。一種の熊手。

『名姉川本』所収 大蔵流式三番 (12)

初日

(千歳和歌・揉の段仕方省略)

(本座)

(三番三) あら目出度やな、物に心得たるあどの、あどの太夫殿にげんぞう申さう。(千歳) ちゃうと参て候 (三番三) 誰お立にて候ぞ (千歳) あど、

仰候程に、随分物に心得たるあど罷立て候。今日の御きたつを千秋万歳目出度ひ様ニまふておりそひ、色のくろひ尉殿。(三番三) 仰のごとく此色のく

ろひじやうが、今日の御きたつを千秋万歳めでたひ様ニまひおさめつずる事ハやすう候。まづあどの太夫殿ハ、もとの座敷へおもくと御なをり候へ

(千歳) 某さしきへなをらふずる事ハげうどの、舞よりもつてやすう候。先御舞候へ (三番三) くいや御なをり候へ (千歳) まづ御舞候へ (三番三) い

や只御なをり候へ (千歳) さあらバ鈴をまいらせう (三番三) あらやうがましや候(以下略)

二日

(千歳和歌省略)

(烏帽子)

(三番三) あど、こふ所にはやくとおたち祝着申て候。初あどの太夫殿に尋申度事の候 (千歳) それは如何様なる事にて候ぞ (三番三) 只今翁の太夫

殿のめされたるゑぼし八何と申ゑぼしにて候ぞ (千歳) あれハたてゑぼし

と申候 (三番三) 初又あどの太夫殿ノめされたるゑぼし、是なる拍子のきられたるゑぼし八何と申候ぞ (千歳) 是ハ折ゑぼしと申候 (三番三) 立烏帽

子、折ゑぼし、近比目出度ゑぼしにて候。さあらばこのゑぼしをいわふてまいらせつずるが、何と御座候あらふずるぞ (千歳) それハ如何様にもいわ

ふて給り候へ (三番三) まづ四方に数万の蔵をたてゑぼし、其中にたうどおりゑぼし。難方めでたきゑぼしにて候 (千歳) 御いわぬ祝着申て候。又尉

殿へふしん申度事の候 (三番三) それハいかやう成事にて候ぞ (千歳) さいぜん翁の太夫どのゑぼしにもかわり、我等、拍子衆のきられたるゑぼし

にもちがひ、尉殿のゑぼしハ将某の馬のなり二候が、何と申ゑぼしにて候ぞ (三番三) 是こそ目出度ゑぼしにて候へ (千歳) 何と申候 (三番三) 物

と (千歳) 何と (三番三) 天下納り目出度折からなれば、天よりも七珍万宝が此所へふらりくとふりゑぼしにて候 (千歳) さあらバ鈴をまいらせ

う (三番三) 心得申候(以下略)

(三日)

(千歳和歌省略)

(子徳人)

(三番三) あど、こふ所にはやくとおたち祝着申て候。さてあどの太夫どのに申度事の候 (千歳) それ如何様なる事にて候ぞ (三番三) 惣而人間の宝の内に別テ調法な物八何にて候ぞ (千歳) 左様の事ハ尉殿こそ御存知候へ

し。我等八不存候 (三番三) 我等の存る八、子だから程調法なる物八有まじきかと存る八、但シ何と思召候ぞ (千歳) 仰のごとく子宝程目出度物八有まじく候 (三番三) 二付此色のくろひ尉は殊更目出度物にて、子をあまた持て候 (千歳) 八近比目出度<sup>2</sup>が事にて候。いか程持せられて候ぞ (三番三) 子を十人持て候が、上五人八おしならべて男子、下五人はおしならべて女子。是等がいながらへて居る所を、やれそこな者といへば、我が事かくとおもふて立さわぐ程に、かれらに名を付て候 (千歳) 何と御付候ぞ (三番三) 物と (千歳) 何と (三番三) おとよ、けさよ、たつまつ、ふすまつ、だんだら、いなごに、かいつく、ひつつく、火打袋と付て候 (千歳) あらめでたや、さあらバ鈴を参せつ (三番三) 心得申て候 (以下略)

#### 四目目

(千歳和歌省略)

(田歌)

(三番三) あどごふ所に早くくと御立祝着申て候。去程にあどの太夫とのに申度事の候 (千歳) それ八何事にて候ぞ (三番三) 別成事でもおりなひ、惣而人に名をよばれたる八、一段嬉しい物にて八なく候か (千歳) 誠に人に名を呼れたる八うれし物にて候 (三番三) さあらばあどの太夫殿をよつてまいらせつずるが、何と御座有ふずるぞ (千歳) 中々呼て給り候へ (三番三) よぶとも只八よび候まじ。さつき<sup>3</sup>の頃 乙女の笠のはをならべて田歌をつたふたるが面白ひ物にて候程に、さあらば田歌節ニかゝつてよび申さつずるにて候

(千歳) 近比にて候。御よび候へ、こたへ申さつ (三番三) あどのや あどのあどの あどのや あどのや (千歳) 何時に答申さつずるぞ (三番三) めておさつてあたり御いらへ候へ (千歳) 八おそひとの御事にて候か (三番三) 中く追付御いらへ候へ (千歳) 心得申て候 (三番三) 中くあどのあどの あどのや あどのや (千歳) なぞとよ なぞとよ (三番三) あどのあどの (三番三) あどのあどの (三番三) 今日<sup>1</sup>は一段の天気にて候 (千歳) 中くの事、やがて鈴を参せつ (三番三) あらやつがましや候 (以下略)

1 原本「それ」は「それは」か。

2 「が」は衍字か。

3 一字分不明。「五」か。

# 近世邦楽の三番叟物

蒲生 郷昭

近世邦楽の翁あるいは三番叟について解説する。その演目の多くは、歌舞伎舞踊の地の音楽として作曲されたものである。

歌舞伎あるいは三味線音楽の三番叟ものについては、ふつう、次のようにいわれている。すなわち、初期の歌舞伎役者は躍動的な三番叟のような芸を得意とし、ひたすら荘重な翁は不得手、不向きであった。観衆が期待するような役柄でもなかったため、しぜん、三番叟部分が中心に据えられることとなった。以後、一面において本来の儀式性を保持しながらも、さまざまな趣向を付け加えることよって、「三番叟もの」と総称される一連の純鑑賞用の演目が、舞踊ばかりでなく純演奏曲としても作られるようになった、というものである。

ごく大まかにいえばその通りかとも思うが、これを絶対的なものと受け取って、初期の歌舞伎の三番叟ものは、みな「翁」部分を含まなかったと考えると大きな間違いになる。「翁」部分も取り入れているものが、かなりあると思われるからである。

## 近世三番叟年表を追いながら

近世三番叟年表(一〇四頁参照)は、いろいろな資料から拾い集めて年代順に並べたものである。音楽本位のもので、幕末以降、同じ音楽で所作だけ新しくしたものは、原則として含めていない。完全な年表ではなく、孫引きもある未完成品と思っていただきたい。舞踊の立場からは、地の音楽より初演時の踊り手が重要だろうが、それは他で補っていただきたい。

近世の三番叟物でもっとも古いのは、「乱曲三番叟」ということになっている。演じたのは初世中村勘三郎で、寛永元年の猿若座、後の中村座という伝えがあるが、実証する資料はないそうだ。日本大学の加藤水男氏によれば、その詞章も分からないのだそうで、いろいろな本に「乱曲三番叟」の詞章として出ているのは、後に「寿世嗣ノ三番叟」と題を改めて演じたときのものとこのことである。

曲名の「乱曲三番叟」の「そう」は「叟」、和泉流と同じ書き方をするのがふつうなので年表でもそう書いたが、このあと見ていくように、初期の記録では、数字の三を使った大蔵流式がふつうである。「乱曲三番叟」という曲名が、このときに存在していたのかどうか分からないが、仮に存在していたのなら、数字の「三」だったのではないかと思う(注1)。

寛文元年の「式三番」は、江戸筑後掾一座による操りである。『松平大和守日記』の万治四年、すなわち寛文元年の三月十九日条に記載された、番組の冒頭に「式三番」とあるものである。資料がそれだが、「但三番三斗」という但し書きがある。したがって、このとき「翁」の役は登場しなかったものと思われる。しかし、揉の段だけという、のちの番立ちの形ができていたのが、鈴ノ段まであったのが、具体的なことは分からない。なお、資料のまでの出典は『大和守日記』だが、スペースの都合で番組の途中までしか出していない。また「式三番」は、歌舞伎の用語としては、ふつう「しきさんば」と読むが、初期の歌舞伎では「しきさんばん」と読んでおく。

音楽の立場からは、この「三番三」で三味線を弾いたかどうかが問題である。むずかしいところだが、太夫の浄瑠璃だけというのも不自然である。

搦ノ段の手の原形ぐらひはできていたのかもしれないとも思う。ただし、資料、貞享四年三月二日の条に「次郎三郎の総領」として名前の出ている「吉右衛門」は、その直前の条で「次郎三郎五十七歳と云、子は吉右衛門とて小鼓打ち也」とある。小鼓打ちのいる操りの座もあつたようなので、鼓だけによる三番叟もあつたのかもしれない。

寛文七年の三つの「式三番」も『大和守日記』によるもので、資料

である。は歌舞伎で、「堺」<sup>1</sup>というのは板東座のことだと思つ。ここには「三番三ばかり」の但し書きがないので、「翁」も出たのかも思つし、三味線を弾いたのかどうかも問題だが、いまの私には何ともいえない。

とは、ともに伊勢大塚の操りである。小さな活字で「上瑠璃御前」、あるいは「上留離」という演目名の肩書きのように翻刻されているが、番立ちのような形で演じられたものかと思つ。の七月二五日では書かれた位置が番組の冒頭ではないのだが、やはり最初に演じられたのだと思つ。このとは、「式三番」ではなくはつきり「三番三」と書いている。翁が登場しないので「三番三」と書いたものに違いないが、番付でもそう書いたのかどうか、私には分からない。

ところで、寛文七年というのは『大和守日記』が書き起こされた明暦四年から数えて九年後である。操りや歌舞伎関係の記事がきわめて多いこの日記で、その年の暮れまでの九年間に三番叟の記載があるのが、おそらくこの四か所だけである。同じ日記で同じ時期の能の番組を書いているところでは、欠かさずというわけではないが、式三番の語をしばしば見出すので、操りで三番三が演じられることは必ずしも多くはなかったのではないかという印象を受ける。こういうことを『大和守日記』のみによって推測するのは危険かもしれないが、たぶんほかには資料がないので、やむをえない。

翌寛文八年から最後の元禄八年まで、二八年間の『大和守日記』の三番叟関係の記載をざっと拾い上げたところ、若干浅れがあるかもしれないが、

から までの十六回、内訳は操りが十回、歌舞伎が五回、それに特殊な物が一回あつた。操りも歌舞伎も「式三番」とも書かれるが、「三番三」のほうが多い。資料にはその全部を載せたが、さきほど同様、番組の後半を切り取つてある（注2）。

年表の早い年代はほとんど『大和守日記』から取つたものだが、延宝六年の最初の「式三番」は、『古今役者物語』に舞台の絵と詞章が掲載されているものである。延宝六年は『古今役者物語』が刊行された年である。この『古今役者物語』にはたぐさんの絵が載つていて、劇場の正面から始めて、茶屋、楽屋と続き、そのあと舞台の絵が並んでいる。その舞台の絵の最初がこの「式三番」で、絵では翁が立つて所作をしている。その絵の上には詞章が書かれていて、それを活字にしたのが、資料Aである。翁部分のみをそのまま書いたもので、三番叟の詞章がない。絵には三番叟も描かれているから三番叟部分も演じられたのかも思つが、とにかく詞章は翁だけである。先ほど、初期の三番叟ものは「翁」部分を含まないと固定的、断定的に考えてはいけないといったが、さつそく、その例が出てきたわけだ。絵空事ということも考える必要があるのだから、当時、歌舞伎で「翁」を演じることもあつたと、私は考えたい。

この詞章は、ほとんど能の翁そのままである。詞章は資料Aに載せたが、ここに「上」とか「下」とか「ハル」などという節付記号が書かれていることから分かるように、これは詞章だけを書いたものではない。実は原本には全体に「コマ」も書かれている。つまり謡本をそっくり引用したわけだ。詞章は観世流に似ている。「君の千歳を経んことも、天つ乙女の羽衣よ」および「渚の砂。さくさくとして朝の日の色を朗し。滝の水。れいれいとして夜の月あざやかに浮かんだり」を含んでいるからである。詳しく見ると、観世流と違つているところがあるが、それについては河東節の「翁三番叟」のところでお話する。「どぶどぶたらり」でなく「とうとうたらり」と書かれて



いるのは、『古今役者物語』では「所ちよまて」とか「あけまきや」などというように、濁点をまったく書いていないということであって、実際には「どうどうたらり」とうたったのだと思う。詞章の最後、「万歳楽万歳楽」に続けて、「シテ口のうちにて、長久多んまん、そくさい多んめい、今日のご祈禱なりと唱へ、口伝あり」とある。表章氏によれば、寛永十年刊行の奥付を持つ謡本にこの詞章が書いてあるとのことなので、これも謡本からそのまま引用したわけだ。

同じ延宝六年の「福神三番叟」は再び『大和守日記』で、資料にあげてある。えびす、大黒、福祿寿、布袋が登場するものだが、「何れも十斗より十二三歳の子共、頭に其面をかふり、式三番をする」とある。音楽の種類は分からない。

元禄三年の「三番三」も『大和守日記』で、資料である。さきほど特殊なのが一回あるといったのがこれにあたる。門弥という盲人の芸人が「八人座頭」の芸を披露した。一人で、三人の声を真似し、かつ、鼓、太鼓、三味線、鈴を演奏するものである。書き上げた五演目のうちの四演目を演奏したというが、鈴とあるから、「三番三」は演奏した中に入っていたと思う。私としては、この「三番三」で三味線を弾いたのかどうかはもっとも関心のあるところだが、そういった具体的なことは何も書いていない。想像だが、使ったのは鼓と鈴で、三味線は入らなかったのではないだろうか。子供が演じたり、「八人座頭」のレパートリーにも入っているということとは、「三番三」が、そのころすでに、かなり広く行われていたということを示すのではなからうか。

「宝永以前」として掲げた「三番叟踊」とは、宝永七年発行の『松の落葉』の巻第四に記載されたものである。「三番叟踊」という題名と、「古来中興踊歌百番」を集めた巻第四の一曲なので、年表では音楽の種類を「踊り歌」とした。詞章は資料Bである。「く短く、冒頭の「喜び」や「ちやう

ど参つた」しか、能の三番叟の詞章との共通点はない。なぜこれが三番叟なのか、ちよつと疑問である。二上りとあって三味線伴奏であるのはたしかなので、これがもう少し三番叟の詞章を取り入れていけば、それを根拠に、寛文・延宝の三番三でも三味線を弾いていたに違いないといってしまうところだが、ちよつと詞章の共通点が少なすぎる。なお、三味線の調子が二上りなのは「三番叟」だからではなく、踊り歌だからだと思う。「の」松の落葉』巻四の百曲は、約九割が二上りで、あとは本調子と調子名無記載のものだからである。内容的には共通性が少ないにしても、とにかくこういう題名の踊りがあったということも、この時期における三番叟の広がりを示すといえなからうか。

「宝永？」とした「式三番」は、竹本筑後掾、つまり初世義太夫の段物集『鶯歌が園』の冒頭の一曲である。この段物集の出版年が正徳二年なので、かりに「宝永？」としておいた。詞章は資料Vである。これは、鎌倉恵子氏所有の写真からごく短時間に大急ぎで読んだものなので、間違いがたくさんあると思う。また黒ずんでいるところがあつて、傍線を引いた箇所のように、まったく読めない字もあつた。それでもおおよその内容は分かる。伊勢、住吉、春日の三神が登場する三人翁の趣向であり、三番叟は登場しない。もちろん、これは三味線で語つたものであろう。

その次の「享保？」が、河東節の「翁三番叟」で、現在伝承されている近世邦楽の三番叟物の曲で、いちばん古いと考えられているものである。河東節として伝承されているが、半太夫からの預り浄瑠璃であると伝えられている。河東節の詞章集である『十寸見要集』の初版の第一曲として掲げられているが、以後、河東節の詞章集ではこの曲が冒頭に置かれることが多いのだそうである。『十寸見要集』初版の刊行は明和年間であるから、もっと後のことになるが、その次に挙げた享保九年の「風流三番叟」がひよつとすると、河東節としてのこの曲の初演かもしれない。とすると半太夫節「翁三番

「翁」は当然それ以前になると考えて、伝えにしたがって「享保？」としての位置に出したものである（注3）。この曲は、現在は河東節の曲であるから、当然、素の浄瑠璃ということになるが、作曲されたときは、操りのためだった可能性もある。

この年表には記載していないが、一九六七年（昭和四二年）二月歌舞伎座興行の「松廼寿翁三番叟」は、「河東節開曲二百五十年」を記念してこの河東節を地として踊られたものだそうだし、ついこの間の五月の歌舞伎座の団菊祭でも、「河東節開曲二百八十年記念」ということで、団十郎の三番叟、菊五郎の千歳、権十郎と羽左衛門の二人翁で演じられている。私も見にいったが、夜の部四演目のうちの三番目というのは、「翁」にはふさわしい位置ではないと思った。九挺九枚の河東節十寸会御連中は上手にすわり、鳴物は奥に舞台上に直接正座して、長唄の「翁千歳三番叟」の手を打っていた。十寸会御連中は太夫は男性だが、三味線は全員女性だった。

ここで、この河東節の「翁」の詞章を見ておこう。伝承曲中もつと古曲で、後の三番叟ものに対する影響が大きく、かつ、詞章の全体を知ることのできる最古の曲だからである。資料は、現在の伝承を書いたものである。

先ほど、初期のものは翁部分を含まないと固定的に考えてはいけないといったが、この曲でも、翁部分をしっかり備えている。三番叟に趣向が加えられるのも鈴ノ段のあとだから、能との違いはそれほど大きくはない。能の流儀との関係を見ると、『古今役者物語』の「式三番」と同じく、翁部分は観世流と似ている。すなわち「とつとつたらり」「でなく」とつとつたらり」であるし、「君の千歳を経んことも、天つ乙女の羽衣よ」および「渚の砂。さくさくとして朝の日の色を朗じ。滝の水。れいれいとして夜の月あざやかに浮かんだり」を含んでいる。しかし、観世流と異なるところもある。まず、「翁」部分では「とつとつたらり」などの祝文的詞章が短縮され、あるいは

は簡略化されていることである。これは初演時の演奏形態が分からないのだが、理解できることである。

もっとも注目すべき違いは、「翁」部分の後半、観世流では「渚の砂。さくさくとして朝の日の色を朗じ。滝の水。れいれいとして夜の月あざやかに浮かんだり」と、対句の前後関係が「日・月」の順になっているのに対して、「滝の水。れいれいと落ちて、夜の月あざやかに浮かんだり、渚の砂さくさくとして、朝の日の色を朗す」と、逆の「月・日」の順になっていることである。これはこの曲だけではない。『古今役者物語』でもそうだったし、近世邦楽でこの部分を含むものは、ほとんど皆そうである。その事実にはずいぶん前に気がついていたが、不思議に思っただけで、なぜそうだったか調べたことがなかった。というか分かるつもりもなかった。だが、大阪大学の天野文雄氏の論考によって、寛永ごろ、観世大夫の章句本という触れ込みで「翁」の謡本が何度か刊行され、流布したことで近世の三番叟ものに影響を及ぼしているのだということが分かった（注4）。そこでの詞章が「滝の水…」「渚の砂…」と月・日の順、つまり観世流とは逆になっているのである。この謡本は、観世大夫の章句本という触れ込みにも拘わらず、実際には観世大夫は刊行に関与していなかったのだそうである。当時の人が観世座の「翁」だと信じ込んで使ったその謡本の「翁」は、観世座でなければ何なのかという点、観世座の年預の「翁」だったのだ。詳しくは天野氏の論考を読んでいただきたい。

そのほかにも能との細かな語句の違いはいくつかあるが、いちいち指摘するのは省略する。三番叟部分についても、部分的な違いがあるが、表氏や天野氏によると、寛永の版本には三番叟部分も含まれているとのことなので、それに基づいた相違であろう。

なお、天野氏は、版本の「翁」つまり観世座の年預の「翁」から取り入れたのは詞章だけであって、芸能は、通常の「翁」を参考にしたといってお

られるが、歌舞伎が取り入れた「翁」が、今日の五流の直接の祖となった「翁」だったかどうかは問題であるという旨を、石橋健一郎氏が書いておられる（注5）。

鈴ノ段のあと、「あどの大夫殿に申したきことの候」以下の問答は、本行の「田歌」から取ったのかと思って調べたら、まったく違う詞章だった。本行ぶつではあるが、三味線音楽のために新しく作ったよつである。最後の「これのお庭に池掘れば」以下も、能にはない。後で取り上げる「寿世嗣三番叟」に、似た句が出てくる（注6）。この間の団菊祭では、鈴の段が終わったところで三番叟が面をはずして千歳と二人の踊りになり、千歳も鈴を振ったりしていた。

享保九年の「風流三番三」とは、評判記の『役者美野雀』に書かれているもので、沢村宗十郎と山下金作の所作である。詳しい内容は分からないが、宗十郎に対しては「細川勝元のお役、第一番目に翁の装束にて、小姓共つれての出端」とか「翁の稽古不調法にしらるゝ所おかし」、金作に対しては「面箱を開き、内を見よといはれて、ふたを取り見れば、おつと勝元が不義の艶状」などあるから、題は「風流三番三」であつても翁の要素もあつたことが分かる。なお、これは『歌舞伎年表』に引用されているが、『歌舞伎年表』ではその直前に「江戸太夫河東上るりにて虚無僧（団十郎）大当たり」ともある。「風流三番三」についての記事ではないし、典拠も突き止めていないが、ことによると少し前に半太夫側から伝承された現河東節の「翁三番叟」が「風流三番三」に使われたのかも知れないと、ひそかに考えている。河東節の「翁三番叟」を、これより前に出した次第である。

「元禄享保」とした「傾城式三番」の詞章は資料D、上方の遊里の歌を集めた『色里迦陵頻』に収録されているものである。『色里迦陵頻』の刊行年は元禄から宝永・正徳・享保のころというだけではつきり分からないので、このようにぼかして掲げておいた。本文のところの題は「色里おきな浄

り」で、「傾城式三番」というのは目次で使われている題である。目次には「おきなやつし上るり」という注記が書き添えられている。もつとも厳肅であるはずの翁部分の詞章をもじりながら遊里の情景にしてしまっているのは、後の「廓三番叟」の先駆といふことができる。こういう詞章がうけたといふのは、「翁」が遊里でもよく知られていたということになる。なおこれは、「おきなやつし上るり」という注記ばかりでなく、詞章に書き添えられた「ハル」とか「地色」「ウ」などといった文字記号からも、浄瑠璃である。「とつとつたり」のような呪文はさすがにもじりにくかったよつだが、ここに三番叟部分の引用がないことを注意しておきたいと思ふ。「とつとつたり」の句がなければ「翁」部分がない、というわけではないのである。

寛延元年の「三番叟」とは、初世中村仲蔵の随筆『月雪花寝物語』に、寛延元年辰として「其顔見世三番叟面箱勤申候」とあるのを記載したものである。詳しいことは分からない。

「宝暦以前」として出した「四季三番三」は、宝暦七年に出た『めりやす豊年蔵』に出ているもので、その第一曲である。現在の荻江節の「翁」の原曲かもしれないので、曲名に？マークをつけておいた。『松の落葉』の「踊り歌」を除けば、はつきり歌いものといえる三番叟物の初出になる。詞章は資料Eである。曲名には「四季」の字を使っているが、詞章は四季をうたったものではない。おそらく儀式の「式」だったのだろうを、後に「四季」が使われるようになり、遡ってこれにも適用してしまったものと思われる（注7）。詞章の前半は、本行の翁部分によっている。「とつとつたり」などの呪文的部分をほとんど取り入れていないが、「傾城式三番」のように近世的な語句を付け加えることもしていない。能の持つ格というか位を保っているといえるが、呪文が少ないところに、能とは違う親密性、親近性を感じたのかも知れない。三番叟部分も同様といつてよく「おおさえおおさえ」などの詞章を使わず、すぐに「鈴を参らせう」になる。その後、「鈴は駅路の」から始

まるこの曲固有といえる部分が続くが、にぎやかで、かつリズムミカルな部分だったのではなからうか。駅路や神楽がうたわれているが、鈴から駅路や神楽を連想するのはごく自然だと思う。「万歳楽万歳楽」のあとに「合モミダシ」とあるが、私が見た範囲では、近世邦楽の文献での「モミダシ」の語の最初の記載だと思う。

つぎの「雛鶴三番叟」は、長唄の現行の三番叟物でもっとも古いとされるもので、宝暦五年作曲とされている。しかし、その根拠は分からない。「近世邦楽年表 江戸長唄付大薩摩浄瑠璃之部」でも、宝暦五年の「備考」欄に「本年の作なりと伝ふ」とあるだけだ(注8)。古い正本が知られていないので、曲名は「おきな」の「叟」を書くのがふつうになっているが、宝暦、あるいはそれ以前の曲ならば、当初は数字の「三」を使っていたのではないかという気がする。

「雛鶴三番叟」は、いろいろ問題の多い曲である。三世吉住小三郎が書き残した『唄の栞』(日吉和人蔵、未公刊)の書き起こしが延宝元年で、この「雛鶴」なのだ。『近世邦楽年表 江戸長唄付大薩摩浄瑠璃之部』の書き起こし、宝永元年に先んじているわけで、そのまま信じることはできないと思うが、「雛鶴」が宝暦より前、という伝えは、かなり以前からあったものらしい。題名の「雛鶴」は、詞章からきたものではないようだ。これを踊った初世中村仲蔵の俳号「秀鶴」に因んだという伝えがある。しかし、宝暦五年といえれば仲蔵はおそらく二〇歳で、まだ評判記の対象になっていない時期である。この曲の芝居での上演は、『近世邦楽年表』によっても、国立音楽大学で出した『正本による近世邦楽年表』によっても、弘化三年まで下る(この『正本による近世邦楽年表』は、東京音楽学校の『近世邦楽年表』と紛らわしいので、この後は『国立年表』と呼ぶことにする)。しかし、稀音家義丸氏によれば、文化三年南呂(八月)の「よせ本長唄 あづまぶり」(式亭三馬序、萱屋町富士屋小十郎)や、文政八年八月の唄本(深川?町喜津川屋蔵)に、現行

と同じ詞章が掲載されているというし、十一代目杵屋六左衛門、つまり根岸の勘五郎が記録した『御屋舖番組控』は、書き起こしの天保二年十二月四日の第一曲がこの「雛鶴」で、以後、多くのお屋敷で頻りに演奏されている。従って、芝居では演じられなくても素の長唄としてはしっかり傳承され、演奏の機会も多かったようだ。ただし、最初の「とうとうたらり」部分は、その時期になってもうたっていないかったのかもしれない。現在でも派によっては、稽古でこの部分を教えないそうだし、三味線文化譜はこの部分を書かずに、「参考」として後ろに出しているのだそうだ。

現在の「雛鶴三番叟」の詞章は資料Fであるが、稀音家義丸氏は、これは後年にいろいろ増補された結果であって、最初は曲の冒頭部分だけだったのではないかと、また「竹は櫓の幕の紋」という詞章は市村竹之丞と関係があるのではないかと発言している(注9)。ただし、文化三年の「よせ本長唄 あづまぶり」に現在と同じ詞章が出ているそうなので、弘化三年の中村座での上演以前にその詞章はできていたことになる。なお、弘化三年の上演は、『唄の栞』にも書いてあり、本名題を「三対榊勝鬨帳貫」としている。『近世邦楽年表』と『正本による近世邦楽年表』では、題名を「雛鶴三番叟」とだけ書いている。劇場はふきや町(『大和守日記』では境町)の市村竹之丞座、囃子連名は、唄が若山五郎兵衛以下五人、三味線が杵屋勘四郎以下三名、鳴り物は小つゞみ庄左衛門など十人である。この曲が古いといっても、はじめから今日の形であったとは考えられない。稀音家義丸氏は「千秋さむろう」まで(根拠は詞章「竹は櫓の幕の紋」あたり)、ほかは九代目か十代目の作であるという。江戸で作られたとすると、当時は二上りが主だったので、二上りで弾いてみたところ、弾けなくはなかったとのこと。「この舞台」と「結んだり」の「四四〇三三二七〇」は繁太夫節の手。「およそ千年のあだつきは」までは繁太夫。

なお、地歌に「雛鶴」という曲がある。藤林検校作曲の本調子の長歌で、

作詞は『歌系図』に「御堂上女房作」とある。作曲されたのは宝暦以前ということしかいえない。「雛鶴がその枝々に巢をくひて」といつつたい出しでめでたくうたいあげるもので、長唄の「雛鶴三番叟」とは関係がない。

古井戸秀夫氏によれば、「三立目の今様の所作事として初演されたものと推定されている」とのこと、雛鶴を特定の個人ではなく、座元の子弟らの御曹子に見立てたのである」ともいわれるのだが、詞章に「雛鶴」ということばがない。とにかく、正体不明の感じの曲だ。「音も住吉の幾夜経ぬらん夜遊の舞楽」、「在原や、高天原に住吉の」とあるのは、翁・千歳・三番叟が住吉の三神、あるいは伊勢、住吉、春日の三神と結びつけられたことの反映だと思ふ。翁と三神とが結びついたのがいつなのか知らないが、近世邦楽の三番叟物にはしばしば住吉がうたい込まれる。この「雛鶴」は、『鶯歌が園』の「式三番」について、その早い例なのかもしれない。

同じ宝暦五年のところにあげた「今様四季三番三」は、『近世邦楽年表』に記載されている三番叟物の最初の曲である。三番叟の所作のあと布晒しとなるので、通称を「晒三番」という。曲は残っている。渥美清太郎氏によれば、「娯楽分子が多くなつた最初の三番叟もの」(注10)というが、なぜか『めりやす豊年蔵』のこの曲は「さらし」部分を含まない。だが、薄もの長唄正本の中でも、上下に分かれていてもっとも古いと思われるもの(注11)に、「寄るへなき」のあと「この間せりふ」としたうえで、「さらし」部分を続けているし、「下」の表紙の絵が布晒しであるから、初演時から「さらし」があったものと思われる。資料Gは『めりやす豊年蔵』の「今様四季三番三」と、浅川玉兔の『長唄稀曲巡り』からとった「さらし」部分を並べたもの。なお、上下に分かれている正本の「下」には、「さらし」のあとに、菊尽くしのせりふも記載されている(注12)。

曲名の「今様」とは、おそらくEの「四季三番三」に対して「当世風」という意味でつけたものだと思う。Dの「傾城式三番」ほどではないが、翁

部分にも遊里の秀囲気を盛り込んで、「在原の、業平さんにも負けやせまい」とぶざけたりしている。踊ったのは女形の瀬川吉次、後の二世菊之丞だが、『長唄原本集成』の古い正本の表紙絵をみると、「上」では剣型の烏帽子をつけ、右手に鈴、左手に開いた扇を持っている。おそらく「翁」の詞章の部分も三番叟の扮装と秀囲気だったのではなからうか。「下」の表紙の布晒しを描いた絵では剣型の烏帽子をつけていないから、「寄るへなき」のあとにせりふのところ、烏帽子をとり、三番叟から離れたものかと思ふ。詞章の途中に「鈴踊」と書かれているが、鈴踊りはそこから「花の姿のいとしらし」までである。その後、「春はよるす夜」から四季の描写になる。「夏は」という詞章はないけれど「夕涼み」のあたりが夏、「秋は」のあと「冬は」がないが「冷たい雪」が冬で、それで「四季三番三」というわけである。

『近世邦楽年表』宝暦八年の「備考」欄に「中村富十郎七変化所作事」とあり、その冒頭が「翁」となっている。しかし、これは「式三番」の翁ではなく「草刈の翁」、つまり「やまがつ」だと思ふので、年表に記入しなかつた。『近世邦楽年表』には、ほかに「草刈の翁」とおぼしい「翁」が出てくる。「翁」とあつても全部が全部、式三番の翁というわけではないのだ。

宝暦十年の「剣烏帽子照葉蓋」は、戦前まで伝承があつたそうだが、現在伝承されていないので私にはよく分からないのだが、これは女形ではなく、平維茂がそのままの扮装で烏帽子だけつけて三番叟の所作をするものだそうである。詞章はHにあげたが、「翁」部分と「三番叟」部分の詞章がまぜこぜに使われている。「おさへたおさへた」の箱を「なご、おどけた部分がある。節付記号として「和歌山」とか「和歌山方カリ」と書かれているが、『声曲類纂』の若山五郎兵衛の項に「貞享・元禄の頃一派を語り出して、若山節と号し、世に賞せらる」とある。また、中山萬大夫の項には『譚海』という本からの引用として「中山佐世之助唄ひは若山節也」と云々とある。ほかではあまり聞かない名前、よく分からない。

宝曆十三年、義太夫節體の「新舞台 式三番 燈始」は、再建された豊竹座の開場興行で、むろん人形浄瑠璃として演じられた。これが後の「寿式三番叟」のもとになったものといわれる。このときの詞章を知らないが、『義太夫年表』を見ると、翁と千歳と三番叟が登場しており、義太夫は掛け合いだったことがわかる。

明和三?年の「呼出三番叟」は、九重左近の『江戸近世舞踊史』には、所演年月不明となっているが、明和三年発行の長唄集『常盤友』に入っているのでこの位置に置いたものである。スペースの関係で「三?」としたが、明和三年より前かもしれない。詞章は資料Iにある。呪文以外の翁の詞章をほとんど変形せずにつたつた後、三番叟を続けている。鈴を受け取ったあと、「鈴は駅路のやんいよえ」から最後の「めでたけれ」までは、「四季三番三」の後半と非常によく似ている。詞章は疑いなくこれから取っていると思うが、旋律も取り入れているのかもしれない。これがなぜ「呼出し」という題名なのか、私には分からない。

明和六年には何も載っていないが、伊原敏郎の『日本演劇史』(一九〇四)や佐々醒雪の『俗曲評釈・江戸長唄』(一九〇八)には「乱曲三番叟」の再演、つまり「寿世嗣三番叟」はこの年だという記述がある。しかし『歌舞伎年代記』や『近世邦楽年表』、ほかならぬ伊原敏郎の『歌舞伎年表』などには出ていない。また加藤水男氏も、「寿世嗣三番叟」という題での上演は天明六年だと言われている。したがって「寿世嗣三番叟」は、天明六年のころに出しておいた。

明和七年の「翁草霜舞女」は、『近世邦楽年表』にも出ているもので、通称「菊三番」という。詞章は資料Jで、翁と三番叟と両方から少しずつ採っているが、全体として、ごく短いものである。踊った瀬川菊之丞の名にちなんで菊づくしの詞章になっており、それで「菊三番」というわけである。曲が残っていないうえに、正本も見えていないので、詞章も孫引きでしか出せ

なかつた(注13)。

安永四年の「翁草恋種時」は通称「種時三番」で、詞章は資料Kである。翁の引用の大部分は曲の中ほど以降にあつて、新しく作った近世的な詞章が、曲の頭に置かれている。翁に限らず、近世邦楽全体をつうじて、謡をこついう位置に取り入れるのは比較的珍しいといえると思う。三番叟部分では本行の二目目と三目目の式の詞章を少しずつ取って接合している。

三番叟の鈴ノ段の所作の一部が種時きだということは、本行でもずっと以前からいわれていたのではないかと思つが、この「種時三番」では、終わりの部分にことさらに「その種時の種時きて」という詞章を加え、本名題も「翁草恋種時」とした。それで「種時三番」と呼ばれるのだが、「種時三番」というと、ふつうはこの曲ではなく、あとに出てくる通称「再春松種時」を清元節だけで演ずるものをいうので、その点混同しないように気をつける必要がある。それで、この講座では「種時三番」ではなく「恋種時」としておく。なお、この曲は残ってはいるが、流行曲ではない。

天明五年の「式三番」は、『国立年表』から取つたもの。詳細はまったく分からない。

天明六年の「寿世嗣ノ三番叟」は、いちばん最初にあげた「乱曲三番叟」、本当は「風流三番叟」というべきかもしれない曲を、演目名を変えてこの年に再演したと解説されているものである。「乱曲三番叟」が寛永元年だとすると、約一六〇年経っていることになる。いくつかの本で、安永六年としてるのは誤りだ。『歌舞伎年代記』の天明六年の項で、中村座の十月興行を述べたところに、「此時中村座大小の舞。三番叟志賀山に相預り一流にて此度十代目ノ寿に付中山小十郎相動申候」とある。ここで「十代目ノ寿」というのは中村座の座元の中村勘三郎がその年の六月に十代目を継承したことを指し、「中山小十郎」というのが外ならぬ中村仲蔵である。演目名が「寿世嗣三番叟」と六文字なのは、ちょっと不思議に思っている。「寿」の一字は

飾りで「世嗣ノ三番叟」が演目名なのかとも考えてみたりしたが、私が見た範囲では、どの文献でも六文字を同じ大きさの同じ字体で書いている。せっかく祝福されたのに、勘三郎は、不入りと火事で借金がかさみ、翌年の四月には隠居してしまつたという。

このときの正本は知られてないようだが、詞章はいちおう分かっている。加藤水男氏が『季刊舞踊研究』に連載した「おどりの歴史」第十四回によれば、町田佳声氏の「寿世嗣ノ三番叟」の紹介」という論文に「その内容を髣髴とさせる形で掲載」されているのだそうだが、確認していない。資料<sup>1</sup>は、国立劇場が出した「歌舞伎資料選書」から取つたものである。「<sup>今様風流</sup>乱曲三番叟」と「<sup>大小の舞</sup>寿世嗣三番叟」と二つあって、二つは別の記事として書き写されているのだが、加藤氏によると、この両方を合わせたものが天明六年の「寿世嗣三番叟」とのことである。最初の「白拍子」から「大芝居」までがオキで、「代々の春風」のあと「乱曲三番叟はすぐ小鼓になる」というのだが、どういふことなのかよく分からない。三味線が入らないということなのだろうか。その次の「これぞ所作の根元なり」は志賀山家に伝えられてから加つたものだそうだ。「ここからまた「小鼓になる」。「寿世嗣三番叟」と書かれているほうに入つて、「あの山見さい」から「大小の舞」と称する祝言舞に相当する部分で、「ほとほとたいた」までは『業平おどり十六番』の詞章の一部を綴り合わせたような形である。「千秋万歳の」から、はじめて本行の翁の詞章が顔を出す。ここでも「住吉様」をちよつと出して「これのお庭に池掘れば」は、先ほどの河東節の翁の詞章に通じている。「ゑいこの振りはおいとし」までが前ジテで白拍子姿、「鳴るは滝の水」からは千歳の詞章だが、ここから三番叟の扮装になると加藤氏はいう。ただ、どこで舌を出したのかは分からないそうである。「春鶯囀の楽の音は」からは能の「難波」のロンギを利用した詞章で、最後の「比翼のちぎり浅からぬ浅からぬ、ばんぜい」までが揉ノ段、「らくこそめでたけれ」が鈴ノ段で橋掛りに入る、

と加藤氏は言っている。町田氏の論文にそうあるのだから、読みたいものだ。なお、佐々醒雪の『俗曲評釈 江戸長唄』を見ると、「春鶯囀の楽の音は」のところに「モミの段」とあり、最後の「楽こそめでたけれ」にはたれかぎと「合」の記入がある。

加藤氏は、この詞章について、内容にまとまりがなく、ありがたいものをただ集めて満足しているだけ、家の芸の伝承を大切にす精神も、いささか妄信的だったように思われると言っている。

なお、『歌舞伎年代記』にはこのときの所作を描いた絵が載っていて、これは方々で引用されているものだが、それによって白拍子姿と三番叟姿を見ることが出来る。三番叟のほうは、右手に鈴を持ち、片足をあげて拍子を踏もうとしているように描かれている。(注<sup>14</sup>)

じつは天明六年の正月に、中村座は火事で焼けている。『歌舞伎年表』によれば、仲蔵はそのために江戸を出て、宇都宮の池上村で興行しており、そのとき「乱曲三番」を本式に舞つた、とある。どうやら江戸の芝居に先駆け、宇都宮で演じているものようである。なお仲蔵の日記に、宇都宮で雨に降られたとき、暇を利用して三味線や鳴り物連中を集めて相談をしたと書かれているそうである(『日本舞踊全集』)。また『月雪花寝物語』を読むと、初世仲蔵は観世大夫の演能を見ているらしい。なお、『近世邦楽年表』の天明六年のところにはこの記載がなく、寛政元年のところに演目名と中村座という劇場名、「白拍子 中村仲蔵」とだけ出ている。『江戸近世舞踊史』も「所演表」では寛政元年としている。しかし、文章中では何度も天明六年と出ているし、『国立年表』でも両方を記載しているから、天明にも寛政にも上演されたということかと思う。天明六年の音楽は不明だが、寛政元年は『国立年表』によれば長唄で、『近世邦楽年表』も「江戸長唄付大薩摩浄瑠璃之部」に出している。おそらく天明のときも長唄だったと思うが、証拠を提示できないので年表では「不明」としておいた。天明六年にこうして復活し

たのが一代の当たり芸になったとか、上方でも評判をとったとかいわれるのだが、それにしても番付や正本などといった歌舞伎資料が少なすぎるように思う。いろいろ伝えられているのは、みな志賀山流の資料に基づいたものらしい。これが、後の「再春またくはるはるすずな・春種はるな・種時たねとき」の原形ということになる。ところで、町田佳声氏は「このときはじめて三味線を加えた」といわれたことがある（注15）。台本にも「この度より三味線入る」と書かれているそつだ。いままで見えてきたとおり、それはありえないのだが、松本龜松氏は、中村座系統が古格を守っていた証として、こういう表現をしたのだと解釈している。（注16）

天明七年の「子宝三番叟」は、常磐津節、つまり初めての豊後系浄瑠璃の三番叟物ということになる。詞章はMである。いきなり「おおさえおおさえ」から始まるのは、今までにない例である。そのあとすぐに太郎冠者物の形になり、大尽が太郎冠者を呼び出す。大尽は、狂言でいう果報者に当たるのだと思う。そのあと、狂言の三番叟の三日月の式「子宝」の詞章を使っているが、本行では子供が男五人女五人の十人であるはずのところ、「恋種時」もそうだったのだが、六人と六人の二人にしてしまうなど、かなり大幅に変えている。その大尽が「まつ・おつ・とり」というように二人の子の名前をいい、その子供たちの四季の遊びを見せようというものである。「左保姫霞のどかに明けそめて」からがその四季の遊びだが、そこに至るやりとりのなかに「元の座敷へおもおもと直り候へ」とか「あらやうがまじや」などという詞章をはめこんでいる。曲は歌舞伎のためのものではなく、この年の二月一日、両国の万屋八郎兵衛宅、これは万八楼としているものもあるのでおそらく料亭だと思いが、そこで行われた初世常磐津文字太夫追善、二世文字太夫襲名披露の席で初演された。作詞者は不明、作曲者は鳥羽屋里長とされている。素の浄瑠璃として作られたのだが、早い段階に振りもつけられているとのこと。常磐津節の祝儀ものの代表的な曲である（注17）。

寛政四年の「七瀬川ななせがわ最中桂女もなかのかつらめ」は、題名に現れているように瀬川菊之丞の七変化だが、これは全体が能がりの七変化で、「翁・三番叟・呉羽・雲林院・檜垣・菫田・祝言加茂」と変わったものらしい。翁と三番叟を別に数えて七つになるので、翁から三番叟に変わって、その両方を一人で所作したものと考えられる。その音楽は長唄ということしか分からない。

享和以前とした「翁」は、これまで取り上げたものとはまったく違った、上方の地歌の曲である。劇音楽ではないし、その形式もとっていない、純音楽である。作曲年代は不明だが、享和元年に出版された『新增大成系のしらべ』に初めて詞章が出ているので「享和以前」としたものである。地歌といふのは、ぼつんぼつんと間遠に弾く三味線にのせて遊女の切ない気持ちをさびしく切々とうたうのが身上だが、一方では、歌を休んで三味線の器楽性を発揮する手事部分を一曲の眼目とする一連の曲があって、手事物という。「翁」はその手事物の一曲で、作曲者は地歌の代表曲「雪」をはじめ、大阪物の名曲の多くを作った峰崎勾当である。詞章はNにある。繰り返しを少し減らしてはいるが、翁部分だけをほとんどそっくりそのまま使っている。注目されるのは、ほかの三番叟物と違って「渚の砂」が先で「滝の水」があと、つまり観世流の翁とおなじ「日・月」の順になっていることである。寛永の年預の謡本や、これまで見てきた江戸の音曲にもとづいたのではなく、観世大夫の謡本から詞章をとったものかと思う。

地歌の「翁」は、いわゆる「十二曲」のうちの現行三曲のひとつだが、あまり演奏される曲ではない（注18）。中井猛氏によると、何よりも緩急がきわめてむずかしく、声に呂が多く、女性には歌にくいのがはやらない理由だといふ。とくに冒頭の「とうとうたらり」は女性には無理である。前歌の最後、手事直前の、ふつうなら盛り上がるどころも低い。しかたなく「秋【滝？】の水は」をカンでうたう人もいるが、それは駄目ということである。また、詞章が具体的に何をいおうとしてなのかさっぱり分からない、とい



うこともあろう。冒頭からずっと意味不明で、「国土安穩」あたりでやっと具体的な意味を持った言葉になる。所作のない純音楽には、こういう詞章はなじまないのではなからうか。もう一つの理由として、琴古流にも都山流にも尺八の公定の手がないので、尺八から合奏の相手をしてほしいという申し出がないということもある。手事物なので、地歌舞として演じられることもない。

文化五年の「倭仮名色七文字」で江戸に戻る。これは三津五郎の七変化で、そのなかのひとつが「三番叟」なのだが、三番叟といながら七変化の最後の所作である点がきわめてユニークである。地は長唄だが、どんな曲か分からない。

文化九年の「再春松種時」は通称「舌出し三番」、あるいは「志賀山三番」としてよく知られた曲である。初演は長唄と豊後路の掛け合いだった。豊後路というのは豊後路清海太夫、すなわち後の初世清元延寿太夫であるから、現在掛合で演奏するときには長唄と清元の掛合となるが、長唄、清元それぞれだけでも演奏される。いまあげた通称のほかに、清元では「種時三番」ともいつている。「翁草恋種時」も通称「種時三番」なのでややこしいのだが、清元にはほかに「種時」という言葉がつく曲がないから、清元の人たちにとっては、少しも不都合はないわけである。現在、志賀山流以外の舞踊の会では、長唄だけで踊るのがぶつうということである。これは、仲蔵に私淑していた三世中村歌右衛門が、この年、五年ぶりに上方に帰るに当たって、そのお名残狂言に、すでにほとんど忘れられていた仲蔵の三番叟を、仲蔵とゆかりの深い中村座で復活しようとしたものだと言説されている。古井戸氏によれば、歌右衛門は幼い時に「寿世嗣」を習っていたとのことだが、加藤氏は、舌を出すこと以外には、芸の雰囲気だけの復活で、両者の内容はまったく異なるという。たしかに、詞章には共通するところがない。しかし、鈴ノ段など、詞章のない合方部分に、仲蔵の型を生かしたということはある。

り得たと思う。

詞章は〇である。古そうな正本の翻刻が二種類あって、その二つで詞章がかなり違うので、それを上下に対照させておいた。たとえば、『舞踊手帖』には「さっぱもおのが…」の詞章があるが、『歌謡音曲集』にはなく、「あらめでたや」以下の問答は『歌謡音曲集』にあって、『舞踊手帖』にはない。『舞踊手帖』のほうに「おこがましくもいつとせの、今日ぞ名残にさむろつち」と、五年ぶりに上方に戻ることを述べている詞章があるので、これが初演のときの正本とも思えるのだが、長唄と掛合つ相手を「清」という字で書いてあるので、これが清元の省略だとしたら初演ではないことになる。もっとも、この字は豊後路清海太夫の「清」でもあるが、長唄と掛け合つときには「浄瑠璃」を略して「浄」または「上」と書くものなので、その点がちょっと疑問である。私は、どちらも初演のものではなく、『歌謡音曲集』のは清元の、『舞踊手帖』のは長唄の正本だろうと思っている。両方とも採出しの詞章がなく、いきなり「秀づる鶴」と仲蔵を讃えたり、「にせ紫もなかなかに及ばぬ筆に写し絵も」あるいは「ほんに鶴の真似鳥跳び」などと謙遜する詞章から始まっている。しかも、本行の「翁」部分なしに、最初から三番叟で、『歌謡音曲集』によれば、子宝の詞章も入れて「さあらば鈴をまいらせう」と鈴の段になる。

初演のときは、この前に三味線なしで本行そのままの「翁」があったのだが、それは現在には伝わっていない、ということだ。(注19)それは渥美清太郎の『日本戯曲全集』の一冊『舞踊劇集』の冒頭に翻刻されている。この台本がどういった性格の資料なのか私には分からないのだが、そこにはまず序として「かつこほろく、すなわち狂言「鍋八撥」があり、そのあと翁千歳があつて三番叟になると書いてある。そしてそのあとに下書き入りで詞章が出ているのだが、それは〇の『歌謡音曲集』と『舞踊手帖』の二つを合わせたものである。浄瑠璃が分担する部分は「浄」の字で示している。

〇の最後に「かつこほろく」の最後のところから、三番叟のはじめの部分だけ載せておいた。「やるまいぞやるまいぞと下座へ追ひかけ入る。トよろしくあってこれより翁千歳三番叟の所作にかかる。翁千歳本行の通りあつて、揉出しになり、三番叟立上がり、おっさへおおさえ喜びありや喜びありや」とあること、つぎの卜書きに「これにてチヨンと正面の看板を打ち返す。これに清見(ママか誤植か)太夫連中居並び…」とあること、「その昔…」のところ、「浄」と書かれていること、「教へ請け地の親方に…」と「さつばもおのが故郷へは…」の両方が書かれていること、そのつぎの卜書きに「この付けにて下の方の看板を打ち返す。これに長唄囃子連中居並び」とある記載に注目していただきたい。この翁は、渥美清太郎の解説には中村七三郎としか書かれていないが、『名作歌舞伎全集』の郡司正勝氏の解説によると、早稲田大学演劇博物館所蔵の台本の表紙に三番叟の歌右衛門と千歳の中村明石のほかに中村七三郎の名があり、中村七三郎が「最初に翁を勤めた」ということである。

ただ、渥美清太郎の翻刻の冒頭には「能舞台の場」とあり、松本龜松氏もこの初演は松葉目だったと言われる。現在の「舌出し」も松葉目だが、松葉目は天保十一年の「勸進帳」が最初というのが定説だと思つので、文化九年の「舌出し」の初演は松葉目ではなかったのではないか。このへん、私は疑問が解けないでいる。

文政六年の「后月名残の島合」<sup>(のちのつきなごのしまあひ)</sup>は、中村松江五節句の所作事のひとつなので通称「松江三番叟」という。五変化の第四である点に注目したい。

ところで、横道萬里雄氏が『東博本鳴物手付』と題を付けて紹介された四冊の楽譜がある。長唄を中心とした囃子の譜で、文政三年をあまり下がない時期、つまり、この「松江三番」が上演されたころに成立したと思われる楽譜のだが、四冊のうち一冊は長唄の鳴物師が書いた能の囃子の手付けで、その冒頭に「式三番叟」がある。「式」の字は「三」の字の右肩のところ

に小さく書かれているので、書いた人は「三番叟」という曲名の積もりだったのかもしいないが(注20)、この時期、歌舞伎あるいは長唄の囃子方が能の囃子を修得しようとしていたこと、しかもそれが「翁」まで及んでいたことを示している。ただし、能の奏法を書こうとしたものではあつても、書き方が能の囃子の譜とはだいぶ違つている。天保十四年に没した今藤長才こと二世田中佐十郎が、この楽譜の著者であるという証拠はないが、『邦楽年表』によるとこの人は金春流の太鼓をよくしたというから、時代は合つ。

文政九年の「廓三番叟」は、「勸進帳」の作曲者、四世杵屋六三郎の作曲で、この年の正月に初演されたということしか分かつていない。振りも各流でつけられていて、歌右衛門も踊つてはいるが、元来は芝居のためのものではなく、粋な臍客に頼まれて作つたのだらうと町田佳声氏は想像しておられる。「翁」の詞章をもじって吉原の情趣を表現したもので、先ほどの「傾城式三番」をさらに徹底させたという感じだ。Pに詞章を載せたので、その様子を見ていただきたい。三番叟と千歳の問答のところを、文のやりとりに見立てているのはしゃれた工夫だと思つ。

天保元年?の「翁千歳三番叟」は、重要な曲である。数ある近世邦楽の三番叟物で、音楽構造がもっとも能に近い。十世杵屋六左衛門の作だが、詞章、旋律ともに、河東節の「翁三番叟」から多くを取っている。『近世邦楽年表』では、安政三年十一月としているため、あちこちの解説で安政三年と書かれているが、養子の十一世杵屋六左衛門が筆録した『御屋舗番組控』では天保二年十二月十三日、番町の「安部様」(人物未詳)の屋敷での演奏記録がある。町田佳声氏は、作曲者が天保元年に十世杵屋六左衛門を襲名したときの披露の曲であろうと推測しているので、?をつけて天保元年とした。能と同じように、長唄でももっとも重い曲になっている(注21)。詞章はQである。「さあらは鈴を参らせつ」までは「滝の水」と「渚の砂」が逆になっている点を含めてほとんど河東節のまま、ということとは本行のままである。「さあ

らは鈴を参らせう」の後も河東節とほとんど同じで、「さあらば太夫殿に歌うて聞かせ申す」のあと、河東節の詞章から離れて、そのまま曲がおわる。

この曲は、お屋敷などで演奏する純音楽として作られたものだが、後にこれを地に踊られるようになった。とくに歌舞伎で三番叟物の前に本行式の翁をつけるときは、この曲が使われるとのことである。たとえば六代目菊五郎の『芸』という題名の芸談に、この曲を使つときの、ものものしい所作や作法が書かれている。ただし、この曲を使つといつていながら、三味線は揉ノ段からあとだけ弾くように書かれているのはちょっと不思議だ。

天保七年の「花誘劇場踊」は三変化の第一で、三番叟と翁と千歳が、引き抜いて唐人と唐女になるといふものだ。その三番叟は通称「櫓三番叟」で、詞章はWにあげてある。「櫓めでたき初芝居」とか「櫓繁盛とうたうたり」などといった詞章からきた通称であることが分かるだろう。なお、三番叟から引き抜いて変わるのはいくつ先、文政十一年の「後の月酒宴島台」に前例があり、これは三番叟から角兵衛獅子に、千歳から鳥追に、翁からいさみになったものである（注22）。

天保九年の「四季三葉草」は清元だが、やはり芝居ではなく祝儀物の素浄瑠璃の曲である。詞章はRである。これは曲名からしてもじっているけれども、「廓三番叟」のようにながされた感じはなく、四季の花の名前をいろいろ織り込んで、むしろ品よく作られているといつていい。

弘化三年の「雛鶴三番叟」は、芝居での初演と思われるので書き上げたのだが、現在の詞章になったのがこれ以前であることは、すでに言及した。

嘉永五年の「三番叟」は一中節である。「菅」といふのは「菅野」の略で、一中節の三つの派のひとつである。一中節には都と宇治と菅野といふ三つの派があり、それぞれ固有のレパートリーを持っている。三番叟物も同様で、宇治は安政、都は明治に、それぞれのものを作っている。

嘉永六年の「柳系引御撰」は通称「操三番」、系操りの人形のように

見せるという面白さから、歌舞伎ではもっともよく取り上げられる三番叟物である。詞章はSである。嵐りかくが江戸初下りのお目見えに踊ったのが嘉永六年なので、この年が初演で、作曲はその時の立三味線の杵屋弥十郎とするのがふつうだが、じつはその前の年、りかくは大坂でこれを演じており、その作曲者は板東定次郎なのだそうである。定次郎はりかくについて江戸に来ており、りかくは定次郎に弾かせたかったのだが、河原崎座の座付きの雛子方とのあいだに悶着がおこり、結局、曲はそのままに演奏するが、定次郎は番付と正本に名前を出すだけ、といふことで我慢をさせられたそうだ。杵屋栄蔵の『続長唄のうたひ方』に、その後、弥十郎や六三郎によつて部分的に改作され、さらに五世菊五郎のために五世杵屋勘五郎が現在の形に完成させたことが具体的に述べられている（注23）。

安政二年の「菊五郎三番叟」は、その年の九月に四世尾上菊五郎が梅幸から改名したのを記念して、おそらく十一月に新菊五郎が演じるために作られた曲である。十月二日に、江戸がいわゆる「安政の大地震」に見舞われて三座が壊滅し、興行が打てなくなったのだが、地の長唄はその前に作曲されていて、その曲が今日まで残っている。つい先日、藤間寿賀子さんが自分の会でこの曲を出されたが、詞章はTである。最後の句が「重ね扇や今日ぞ賑はふ」で、「重ね扇」は菊五郎の定紋だから「げにも色そふ初紅葉」あたりから新菊五郎を祝福しているようである。しかし詞章としては、曲のはじめの方で「千代も八千代も河原崎、櫓の栄え豊かなる」と、河原崎座を祝福するほうが目立っている。河原崎座は、ほかの二座とともに、一年前の十一月にも焼けていて、二月末に落成したばかりだったので、その記念も兼ねようとしていたものかと思う（注24）。

「明治初年」として吾妻能狂言の「翁」を出しておいた。吾妻能狂言とは、三味線音楽を地として演じる新様式の能をいい、日吉吉左衛門が座頭格だった。能の側から見ると、明治三年ごろから約十年間という短期間に咲い

て散ったあた花だったが、近世邦楽の立場からは、能の技法を公然と攝取できる得難い機会となり、音楽史の上ではきわめて重要な意味を持つ。鷺流の狂言方が大勢これに参加し、歌舞伎の松葉目物にその技法が伝えられたという、音楽ばかりでなく、演劇面でもよく知られた見逃せない事柄がある。

吾妻能狂言でも、「翁」をたびたび演じている。吾妻能狂言の番組は、翁付が原則だったのだ。その「翁」の全部が三味線入りというわけではなかったのかもしれないが、三味線入りの「翁」のほうが多かったのではないかと思います。吾妻能狂言の番組は、立ち方の名前は、翁誰々、面箱誰々と役ごとに書かれているのに対し、長唄や浄瑠璃は番組の末尾に連名が出ているだけなのでよく分からないのだが、おそらく長唄を地とする「翁」が演じられたはずである。その長唄は、おそらく十世六左衛門の「翁千歳三番叟」そのもの、あるいはそれに少し手を加えたものだったのではないかと思う。演奏者は唄・三世吉住小三郎、三味線・二世杵屋勝三郎が代表格だった。「翁千歳三番叟」の継承者としては、作曲者の養子の三世杵屋勘五郎が存命だったし、その弟子の六世杵屋三郎助もいたが、当時、歌舞伎長唄の最高の実力者は二世勝三郎だった。なお、参加した鳴物師のなかに、小鼓の中村寿鶴、太鼓の藤舎芦船の名があるのが目を引く。二人ともはつきりとした修業歴は分からないのだが、もともと能の囃子をよくしていて、それで歌舞伎の世界に入ったのだといわれている人物である。

明治の最後にあげた義太夫節の「寿式三番叟」は、宝暦十三年にあげた「三十石さんじゅういっせき おん はじめ」が原曲で、それを明治の中ごろに団平がいったん増補した後、明治後期に現在の形に定着したという。ふつうの浄瑠璃とちがう、大勢の大合奏にのって舞う三番叟は圧巻だ。詞章もあらゆる三番叟物のなかで、もっとも長大ではないかと思う。

昭和になっても、年表に書いたとおり多くの三番叟物が追加されている。そのなかから、昭和十二年の「蝶千鳥風流三番叟」の詞章を出しておいた。

内田水中亭の作詞、三世杵屋栄蔵の作曲である。私は栄二譜が読めないのだが、この詞章からすると、この後お話しする三番叟の手はあまり使っていないような気がする。

以上のほかに作曲年代のよく分からないもの、未調査のものがいくつかあるので、それを最後にまとめておいた。

荻江節の「式三番叟」は、成立年がまったく分からない。詞章は「めりやす豊年蔵」の「四季三番三」と非常によく似ている。豊年蔵の「四季三番三」に「とつとつたり」と三番叟と千歳の間答を加えると荻江節の詞章になる。そもそも荻江節という音曲は、吉原のめりやすを母体にして成立したものであるから、豊年蔵の「四季三番三」が荻江に残った可能性は高いように思う。(注25)

山田流箏曲の「河東三番」は、河東節の「翁三番叟」をそのまま山田流に移し入れたものである。箏は、三味線の手を控えめになぞるだけで、独自の主張はほとんどない。いつ誰が河東節から取り入れたのかまったく分からないのだが、河東節と山田流箏曲は密接な影響関係があつたから、分からないほうがむしろ自然である。これが新しい作曲ならば、河東の影響が大きかつたにしても作曲者の名前は残るのでおよその年代も特定できるのだが、丸写しではどうにもならない。

以上のほか、「翁」の詞章を部分的に引用しているが、三番叟物とはいえないので年表に記入しなかつた曲が、いくつもある。たとえば、明和七年初演の七変化「其その形状かたち七枚起請しちまいきしょう」の第一「住吉踊」には、住吉からの連想だと思つが、うたい出しに「千早ふる神のひこさの昔より、神をいさめの御祭」という詞章、外記節の「泰平住吉踊」は預かり浄瑠璃として河東節で伝えているが、そのうたい出しも同じ詞章であるほか、中ほど以降にも「はんま千鳥のちりやちりくく」。ちりやちりくく。「天津乙女」「今日のご祈祷なり。ありはらや高天原のその昔」「とつとつたりくく、ちりやたりはさてい

かに、これ真言の秘密にて。絶えずたうたり、滝の鼓は福寿円満、太平楽を調ぶるなり、又万代の池の亀、甲に戴く三極は、渚の砂さくくとして神のうちには延命長寿、万歳楽く、「天下泰平国土安穩」などと使われている。節付も、「翁」からの引用部分の何か所かで「ウタイ」としている。

清元「北州」は、吉原を賛美した祝儀物の純演奏曲だが、「翁」からの引用がある。ただし、直接能の「翁」からではなく河東節あたりからとったものかもしれない。節付は、正本にウタヒとある。花柳輔太郎氏の話では、花柳流では冒頭のその部分は家元しかできず、ふつこの師匠は途中からしか知らなかったとのことである。

### 二番叟物の音楽

次に、三番叟物の音楽構造について解説する。音楽構造といっても三番叟物の音楽の全貌をつかむのではなく、本行の鼓の手を移そうとした三味線の手を中心に取り上げる。

まず、現行曲でもっとも古いといわれ、その後の三番叟物の手本ともなつたと考えられる河東節の「翁三番叟」を見ることにする。もちろんこの曲が古いからといって、はじめから今日演奏される形で作曲されたというわけではなく、伝承の過程でいろいろ変わってきた部分が少なくないはずだ。私には、形が整いすぎているように感じられる。しかしその変化の過程を検証する方法はないので、現在の演奏にもとづいて考えていくしかない。

この曲は全曲本調子で、浄瑠璃であるから当然囃子は入らない。しかし囃子は入らなくても、本行の鼓の影響を強く受けて鼓の手を三味線に移そうとした手が、たくさん使われている。

まず、冒頭の「とつとつたらり」の部分は「テン・テン・テン・ツントツツ」という手を繰り返す。これは能の鼓の「二ツ頭」の手を三味線に移し

たもので、前弾き部分では、立三味線が同じようにカケ声をかける。つまり「イヤ・テン・イヤ・テン・ハ・ツントツツ」となる。五線譜資料の「翁三番叟」の手である。「翁千歳三番叟」は河東節の「翁三番叟」を手本にして作曲されているのだが、三味線音楽の三番叟物の典型となっているのでその譜を用いることにする。従って、ではの糸だけで弾く「テン・テン」ではなく、とを一緒に弾く「チャー・チャー」になっている。長唄ではこの手を「翁地」としているようだ。その名称が三味線音楽全体を通じてどれほど普遍的なのか調べていないが、河東節のこの手も翁地と呼ぶことにする。

三味線の翁地は誰が考え出したのだろうか。鼓の「二ツ頭」は本行「翁」の鼓の手の代表だから、三味線のこの手もほかの手に先駆けて考えられたのではないかと思うが、元になっているのが鼓なのだからその手を考えたのは半太夫のような浄瑠璃ではなく、後に長唄と呼ばれることになる分野の人たちであって、あとから浄瑠璃がそれを取り入れたのではないかと思う。とすると最初は二上りか三下りの手だったことになりそうだが、先述したように操りの座にも鼓打ちがいたのだから、案外、浄瑠璃で生まれた手なのかもしれない。しかし、少なくとも半太夫節として作曲した人はその前からあった手を使ったのであって、新しく創作した手でないことは疑いない。そのことは、これから出てくるほかの手についてもたぶん同様である。

河東節では、テンポが速くなるとちよつと違った手をはさんでまたゆつくりした「翁地」の繰り返しになり、「とつとつたらり」の浄瑠璃がはじまる。三味線はカケ声をやめる。浄瑠璃は謡を意識した語り口だが、謡そのものではなく河東節の節である。詞章が「とつとつたらり」でないのは観世流が変わったのに倣ったのであって、作曲当時は「とつとつたらり」だったのではないかと思う。明和の『十寸見要集』に「とつとつたらり」と書いてあるか興味があるが、

確認していない。資料Cの二つ目のたれかぎ（歌括弧）の「たらしあがり」でシメ、「しらりごと」で拍子のないリズムになって一段落する。「所千代まで」から常間、つまり表裏の二拍子で始まりながらしばしば拍節がはつきりしなくなるというふつつの河東節の扱いになり、「幸ひ心にまかせたり」で次の段落。最後の「まかせたり」はオトシというパターンで、長唄の「翁千歳」でもこのパターンを使っている。このパターンは長唄では「河東オトシ」といい、「吾妻八景」の「花の波」や「助六」の「咲き匂ふ」などでも使われている。

続いて千歳になる。「テンツン」のあと、三味線が「ツツンツツン×」という六拍単位の手を繰り返し、その四回目ぐらいから「鳴るは滝の水」を重ねる。の手は、むろん能の千歳の舞の地が三拍子だからこうなっているのだが、三拍子である点が共通しているだけで、冒頭の「翁地」やこのあとに従って「ヤ・ハ」というカケ声もかけない。ここは、やろつと思えば「ヤチンハツン×」などというように本行の小鼓の手を三味線に直訳することはできはずだ。私は、実際にそう弾かれたこともあったに違いないと思う。それがどうして「ツツンツツン」という、寸法は合っけれど雰囲気の違いになったのかわからない。この「ツツンツツン」に乗せての「鳴るは滝の水」は最初の一句だけで、返しからまた浄瑠璃になる。規則的な三拍子を長くつづけるのは、古典の三味線音楽ではやりにくいわけだ。だからこの曲には「千歳ノ舞」に相当する部分もない（注26）。

「角総や」から翁の持ち場になるから大きな段落のはずだが、河東節ではそうなっていない。作曲上、千歳の最後の「絶えずとつたり、ありつとつとつ」から盛り上げておいて、その勢いで三重というパターンを使って「角総や」を最初の頂点とする節付なのだ。しかしその高潮は長くは続かず、「尋ばかりやとんどや」で次第に沈静し、「座していたれども」からまた比較的

淡々とすすむ。河東節の三重は長唄でも「助六」で使っている例があるが、長唄の「翁千歳三番叟」ではあえて原曲の河東節に従わず、ごく簡素な手で物静かにうたうようにしている。「千早ふる」から「天下泰平、国土安穩の今日のご祈禱なり」までは高い音域、あるいは生み字を長く弾く節を使って前半での聞かせどころになっているが、能の技法は取り入れていないので省略する。

「そよやいづくの翁とつとつ」がすむと、三味線が「手をゆつくり繰り返して莊重な雰囲気を出す。能では翁ノ舞が舞われるところである。これは本行の「翁舞」の「二ツ頭」を模した手で、やはり立三味線が、小鼓と同じような掛け声をかける。本行では、「とつとつたり」の「二ツ頭」と翁舞の「二ツ頭」では、位はまったく違っても手組の構造は違わない。しかし「テンテン」、あるいは「チャーンチャーン・ツントツツン」そのままでは翁の舞の雰囲気は出せない、と考えたのかどうか分らないが、三味線ではまったく別の手を考えたわけだ。河東節のこの曲には「一ツ頭」の手も「翁ノ舞」もなく、の手の三回目から「千秋万歳」を重ね、またたつぷりと節を聞かせる。三味線はカケ声をやめる。「よろこびの」から手が変わって、「翁」部分が静かに終わる。最後の「万歳案万歳案」は、の糸の開放弦、つまりいちばん低い音である。

ここから三番叟だが、河東節では翁と三番叟を別の曲として扱う場合と、両方併せて一曲とする場合があり、やや曖昧である。三番叟の詞章の冒頭に「前弾き」とあるが、その第八拍から「の手を数回くり返す。このは長唄譜からの翻訳ではなく、レコードから私が聞き取ったものである。長唄「翁千歳」にはこれに対応する部分がないからだ。見て分かるように三拍子で、二小節六拍単位の「チンツツン」のくり返しになる。これは明らかに大倉流の翁帰りの首型を写したものだ。六拍の翁帰りの手をさらに分割すれば三拍と三拍になるので、こう書いたものである。これがそのまま採出しに続く

ので、この曲では翁帰りが三番叟部分の前弾きの性格を帯びていることになる。これは、能の立場からすると大きな変更である。

の手のくり返しになる前は「チツンツツンツツ」、七拍である。この部分が翁帰りの手だと気づかず採譜すると、小節線を引く位置がこれとは一拍ずつずれた書き方になりやすい。私は、山勢司都子さんに、この部分の小節をどう感じて弾いているのかと質問してみた。山田流には「河東三番」というレパートリーがあるからである。すると、山勢さんは何も意識していないとのことだった。あえて小節線を引くとするとどう引くか、とうかがったところ、少し考えてから「チ・ツン・ツツン・×ツ・チン・ツツン・×ツ」かしらねえ」と答えてくれた。二拍子で取ったのである。山田流の方皆さんがそう感じているのかと聞いたら、話し合ったことがないから分からないとのことだった。ちなみに常磐津の 子宝 の五線譜が旧『音楽全集』にあるが、そこでは二拍子である。現・文字兵衛は「その通り」といわれた。

が、カケ声をかけない大倉流のリズムであるのは明白だが、河東節ではこの部分に幸流のようなカケ声をかける。確かめたところ、本行とは違った拍でかけていることに気がついた。能では「タ」の直後の「ヨミのところ、でいえば最初の「ミ」の次の四分休止符に相当するところで「ヤ」とか「ハ」とかけて、そのクサリいっぱい引くのだが、河東節では二小節目の休止符のところ「チン×ツツンヤ」とかける。潜在的に、本行とは違った拍節を感じている証拠ではないかと思われる。なお、はじめは二クサリにわたって声を引き、つぎに一クサリずつかけるところも本行とは違っている。私は確信を持って のように区切ったのだが、ことによるとこれは正しい書き方ではなく、音楽を実際に演奏する人の感じたりリズムのとおり、あるいはその分野で使われている楽譜のとおりを書くのが正しいのかなと、今になって考えたりしている。

翁帰りの手に揉出し がつづく。揉出しの中心は の四段目の五小節目か

らで、何遍も繰り返される「ツテレ・ツテレ」というたいへん弾きにくい手である。山勢司都子さんの話では、「ツテレ・ツテレ」と弾きつづけるのはたいへんなので、「ツンテレ・ツンテレ」という簡単な手にしてしまつて逃げかたもあるらしい。小鼓の「タポ」の間に対して「ツテレ」と弾くもので、小鼓の手を三味線に直訳したというのではなく、小鼓の「タポ」に大鼓がシンコペーション的に打ち込むことによって作り出される揉出し特有の雰囲気、カケ声も含めて象徴的に真似したといえると思う。三味線音楽の揉出しは、たぶん本行よりテンポがずっと速い。河東節の揉出しはの長唄より規模が大きく、違う手も入る。

何年か前に亡くなった山田流の名手、中能鳥欽一氏は箏と三味線の両方の超絶技巧の持ち主として知られた人だが、若くして東京音楽学校の先生になったとき、学校で、揉出しの「ツテレ・ツテレ」という短いフレーズを、無慮五十分ものあいだ休まずにくり返し弾き続けたことがあったのだそう。襖か壁を隔ててそれが学生たちの耳にいやでも入ってきた、という義太夫三味線の腕固めに通じる話が、語りぐさになっている。

続いて揉ノ段に相当する部分である。を見てほしい。「×チンツン・ツントツン・ツンチンツン・ツントツン」とある。その後半の「ツンチンツン・ツントツン」が揉ノ段の基本の手で、これは本行の「一ツ頭」を、翁地より高い音域を使って三味線に直したものである。河東節ではこれを十回くり返す。そのあと、高音域の細かい動きから次第に音域が低くなり、拍節感もなくなって段落になる。次の問答はコトバではなく、三味線が加わる浄瑠璃特有の技法で語られる。そして「さあならば鈴を参らせう」となるが、河東節には鈴ノ段がない。「あどの太夫に申したきこの候」と問答がつづいたあと最後の「これのお庭に池掘れば」になるが、これはまったく能にない部分であるから省略する。

以上、能の技法を取り入れようとしたところを取りあげたので、この曲の

河東節としてのいちばんの聞きどころは解説していない。この曲は、先述したように「残っているものとしては、もっとも古い三番叟物」だが、非常によく整っている。浄瑠璃なので囃子は入らないが、入れようと思えば、歌舞伎でやったように入れることもできるわけである。こういう浄瑠璃ができるからには、それ以前に長唄に先行作があったか、あるいは後に長唄の影響を受けて現在の形に整えられたか、そのどちらかではないかと考えている。

つぎは、長唄の「翁千歳三番叟」である。これは能の「翁」にもっとも近く、近世の三番叟物としてもっとも形の整った曲、標準となった曲である。河東節の「翁」で、河東節の技法で節付していた部分は外記節、つまり大薩摩の様式で節付けされている。そのためこの曲は別名「外記三番」ともいう。囃子は、能と同じ編成に加えて太鼓が並び、笛は能管のほかに竹笛も持っている。太鼓も竹笛も能にはなく、「これのなんな」以下、曲の最後で用いる。

冒頭の「とうとうたらり」には囃子が入り、小鼓奏者がカケ声をかけるので、三味線は声をかけない。略式、囃子なしの時は、三味線を揃えるための短い声はかけるが、「イヤーイヤー」という小鼓の声を真似することはないそうである。翁地何クサリかあと少しシメて、三味線は譜からのように変わる。位も能と同じように変わり、「とうとうたらり」の唄が入る。

の手は、本行で小鼓の手が「一ツ頭」に変わるのに合わせたものである。河東節ではそこまで考えなかった、というところだろうか。は「らりりじつ」までくり返すが、「ちりやたらり」からはワキ以下の連吟になり、テンポが速くなるばかりでなくピッチも高くなる。「所千代まで」から、外記になる。「とうとうたらり」の唄は能よりいくらか速め、鼓は遅め、と亡くなった田中伝左衛門さんはいっておられた。

「幸い心に任せたり」のあと千歳で、三味線は になる。この二小節が「ヤタハポ」「クサリ」に対応する。曲全体としてはこのテンポが速いとは感じないのだが、小鼓だけについていうと、本行の倍ぐらいの速さではない

かと思う。千歳の役が、それに乗って「鳴るは滝の水」をつたう。三度目は大薩摩四十八手の中でももっとも代表的な本手押重にして、ここからしばらく外記の部分が続く。能にもっとも近いこの曲でも、千歳ノ舞に当たる合方は作られていない。三拍子の合方はどうしても無理なのだろう。

「そよや、いつくの翁ども、そよや」のあと、譜の手からはじまる合方になる。翁の舞である。この合方では「二ツ頭」の手のほかに、河東節にはなかったの手も弾く。これは「一ツ頭」に対応する手である。本行の「人ノ拍子」までと同じで、前半は「くゆくり演奏する。能でも「八ポ」と「ポポ」の間は長めだが、長唄でもそれを取り入れたように打つ。やの手では囃子なしのときにも鼓のカケ声を取り入れなかったが、では、囃子なしならかけるそう、そのカケ声を「天地人の声」という伝えがあるという。「天地人の拍子」が間違っって伝わってしまったらしい。名手とうたわれた山田抄太郎氏は、師匠でやはり名手だった稀音家浄観が囃子なしでこの曲を弾くとき、囃子方のカケ声ではなく河東節の三味線がかかるような声だったと感心している。途中からテンポが急に速くなるのは本行の通りだが、これも本行よりずっと速い。三味線の手も、「二ツ頭」は「チャンチャン・ツーツツン」、「一ツ頭」は「チャーントン・ツーンツツ」と変わる。「千秋万歳の」になると三味線は「二ツ頭」の手を繰り返すが、鼓は「一ツ頭」を打ち行く。

「翁帰り」がすんだところで、三味線の調子を約半音高くする。そのために、舞台での演奏であっても、幕を下ろさずに笛方が竹笛で堂々と基準の音を吹いて知らせる。「万歳楽万歳楽」の節は一曲を終わるためのものではないが、調子も変わることで、「ここから別の曲と意識していることがわかる。

この曲では、能と同じように翁帰りを翁部分の終結としている。ただし三味線は弾かず、囃子なしの時のための手もない。小鼓は、テンポが速くなる前の部分は六拍でも七拍でもなく、八拍で打っている。もっとも、テンポ



が非常にゆっくりかつ等拍ではないので、無理をすれば七拍と考えられないこともないのだが、『長唄』という古い雑誌に当時の望月太左衛門（九代目）が書いている粒付けは、オドリの記号を使っているので八拍にとっていることが分かる。ただし、位が上がる幸流などと同じような七拍の打ち方に変わる。能の翁帰りに六拍と七拍の二通りの打ち方があるというが、日本音楽全体を見渡すと八拍の翁帰りもあるわけで、日本音楽のリズムのさらにおもしろい一面を示していると思う。常識的には、七拍の手が能から長唄に入り、それが八拍に変わったと考えるのだから、かつては能にも八拍の翁帰りがあってそれが長唄に取り入れられ、その後能ではその打ち方が絶えて長唄だけに残った、と考えられないこともないと思う。長唄の他の三番叟物では揉出シの冒頭を六拍で打つものもあるから、六拍、七拍、八拍の三通りが全部あることになる。

続いて揉出シである。小鼓が八拍の翁帰りを速いテンポで本行と同じく三クサリ打ち、二クサリ目から三味線が加わる。三味線は「チーンツツン」「」である。拍の単位を大きく取って付点音符で書きたいリズムだが、の六拍と対比するためにこう書いた。

を三クサリ弾いた後、ちょっと間をおいて がつづく。はじめは小鼓の「タポ・タポ」に合わせて「チンツンチンツン」と弾き、大鼓が入ると「ツテン」となり、大鼓が全部の拍を打つところから「ツテテレツテテレ」になり、大鼓が第一拍を打たないところでは「ツンテレツテテレ」に変わり、大鼓が「イヤーイヤー」と声をかけるところから「ツテテレ・ツテテレ」のくり返しになり、そのカケ声が全部かけ終わったところから「おおさえおおさえ」をつたいこむ。三味線は「ツテテレ・ツテテレ」の回復を示したところに入っている。ここでは上調子も活躍する。河東節もそうだったが、本行の揉出しよりずっと、ことによると倍近く速い。

つぎに から始まる揉ノ段だが、「翁千歳三番叟」に限らず、長唄の三番

叟物ではこの五小節目からの「ツンチンツン・ツンドチン」をくり返さずに、このリズムをベースにしながら細かく発展させて、合方として盛り上げていく。こういうところは三味線、とくに長唄三味線だからできることである。揉出シほどではないけれども、本行よりかなり速いと思う。

能にもっとも近づけたこの曲でも、作曲家十代目杵屋六左衛門は鈴ノ段を入れなかった。河東節に倣ったのかどうか分らないが、それではさびしいというので、養子の十一代目杵屋六左衛門が新たに鈴ノ段を作っている。それについては省略するが、囃子だけの序の後に弾く三味線の手の冒頭はある。三下りの曲に使う「鈴ノ手」を使っていないのは、本調子では弾けないからであろう。なおこの鈴ノ段を弾くときは、「あどの太夫殿に申すべきことの候」から「さらば太夫殿に歌うて聞かせ申さう」までを省略する。

亡くなった日吉小三八さんから聞いた話では、十一世六左衛門は初世花柳寿輔のために作曲した「式三番」で鈴ノ段を作り、それを「翁千歳三番叟」に転用したのだろうとのことである。年表の慶応元年の長唄「式三番」が、それなのかと思う。

近世邦楽の三番叟物は、年表にあげたようにたくさんあり、それぞれ特徴を持っている。そこで、ほかの曲でこれまでの五線譜に対応する部分がどうなっているか、確かめてみよう。

長唄としては古い三下りの曲を見たいのだが、「雛鶴三番叟」は後年の増補が非常に多いともいわれる曲だし、「晒三番」は詞章が違いすぎて比較するところがない。そこで「翁草恋種蒔」と「花誘劇場踊」つまり「櫓三番」、「菊五郎三番」を取り上げてみる。いずれも流行曲ではない、というより、上演が少ない曲である。

「とうとうたらり」のところ、「恋種蒔」と「櫓三番」は、五線譜で表す限りでは譜とまったく同じである。ただ、「チャン」のシの音が本調子ではの系の開放弦だが、三下りでは押さえて弾くという指づかいの違いがあ

り、それに伴って音色が微妙に異なる。これをくり返すのは両方とも「らりどつ」までで、「とすらも」すりやたらり「からは完全な唄になる。能の詞章と能に近い近世的な詞章とが混ざり合っている曲では、能の詞章を能風に、そうでないところを純三味線音楽として節付けするのかもしれないと必ずしもそうではない。近世的な詞章を謡風に節付ける例は少ないが、詞章は謡から借りていながら節付は近世風という例はたくさんあり、三番叟物ではそういう箇所には太鼓を打つ場合もある。この二曲に対して「菊五郎三番」は少し異なり、のように弾く。テンポもわずかに早いようで、カケ声もかけない。音が高い分、ほかよりやや明るい感じである。

「恋種蒔」では、「およそ千年の雛鶴」に「の手が使われている。翁の手の変形である。唄も低い音域で物静かにうたう。これは三下りだからなのか「翁草恋種蒔」だけのことなのか確認していないが、雛鶴にはこの手はない。「鳴るは滝の水」では、三拍子ではないまったく別の常間の手、を弾いている。これは三味線の「鳴るは滝の水」のもう一つの手として定着し、「檀三番」でも使われている。それに対し、「菊五郎三番」では「のように弾く。これは「の指づかいを「の糸ではなく「の糸でするもので、やはり音が高い分、明るい感じになる。

三下りのこの三曲でも、翁帰りの手が揉出しの序のようになっている。ただし「恋種蒔」は六拍の翁帰りにクサリ弱で「になる。譜「や「より音域が低い。その後、「の冒頭「チンシンシンシン」と同じ旋律を弾くが、揉出しではなく外記節になってしまつので楽譜は出していない。前に聞いた二曲よりずっとテンポがおそい。「檀三番」は、勝派の譜によれば「と音は同じ。ただし、「恋種蒔」の「チンシンシンシン」同様、五線譜は同じでも勘所が違っていて、本調子の場合より「全音高いところを押さえて弾く。「菊五郎三番」の揉出しの序は、五線譜では「と同じになる。その後揉出しが続くのだが、揉出しは調子に関係なく「の開放弦の音を使った「ツテレ・ツテレ

レ」という運指が要求されるため、序の相対音高が「全音高い分、「ツテレレ」で旋律が下がることになる。本調子だと「チンシンシンシン」の「シン」の高さで「ツテレツテレレ」なのだ、三下りだと「チンシンシンシン」の「シン」より長二度低い高さで「チンシンシンシン」ツテレツテレレ」となるわけだ。

「恋種蒔」の揉ノ段は「から始まる。前の二曲では「の糸の音域で弾いた旋律をここでは「の糸で弾くのだから、このあといくらか高い音域に発展していくにしても、全体にずっと地味である。一方「檀三番」は、指づかいは「恋種蒔」と違つのだが、譜「の本調子の音域の旋律から弾きはじめる。

「恋種蒔」の「さあらは鈴をまいらせう」のあとの手は譜「である。鈴ノ段の位置ではあるが、段というほどまとまったものではなく、短い合の手である。これは、鈴ノ段のない河東節の「翁」にはなかった手で、鈴の音を象徴的に表現しようとしたものではないかと思う。後の三番叟物には、曲の終わり近くでこの手から始まるまとまった合方を弾くものがあり、「鈴の合方」といふ。いちばん古い例が「舌出三番」なので、それ以外の曲で弾くときは「舌出しの鈴の合方を流用したもの」と解説されるのがふつうである。譜「の鈴ノ手は、その「鈴の合方」の原形かと思う。

そこで「菊五郎三番」なのだが、「引いて袂や三重の帯」のあとと「お前の松風も」のあとと二か所に合方があり、さらにまた「千代の調べのおもしろや」のあとと「三番三丁大入りを」のあとに「ちよつとした合の手がある。「三重の帯」の後の合方は譜「つまり鈴の手からはじまる。そのあと揉ノ段のリズムである程度進んでから、本調子の基本の手と同じ音域の手が出てくる。これが三下りの揉ノ段の基本の手といえるかもしれない。あとのほうの合方は、いきなり揉ノ段のリズムではじまり、やはりある程度進んでから基本の手を弾く。そして「千代の調べの面白や」と「三番三丁大入りを」のあとと合の手は、両方とも鈴ノ手ではじまり、揉ノ手の変形と考えられる手

が続く。さらに、「いづれ若木の枝振りも」の唄のところにも、今の合の手と同じ手を弾いている。つまり、この曲の揉ノ段は一か所だけにあるのではなく、鈴ノ手を揉ノ段、あるいは揉ノ手の序に使っているという感じなのだ。詞章を見ても「鈴」という言葉は入っていないから、弾いているのは鈴の手であっても表現しているのは三番叟であって、鈴そのものではないといえるのではないかとも思うのだが、ついこの間の藤間寿賀子舞踊研究会では、一人の傾城と三人の新造の四人で踊り、「三番三丁大入りを」から段切まで、新造の一人が鈴を振っていた。ちよつと変わった造りの鈴だったようだが、よく分からなかった。そのときのその部分の合方は、義丸譜より拡大され、笛はホンホヒトウ口を吹き、太鼓も加わっていた。なお、揉ノ段の冒頭で鈴ノ手を弾く例は、すでに「舌出」に例がある。

なお、「操三番」の揉出シ以降も三下りである。

次に「操三番」と「廓三番」から、「二上りの手を見てみよう。まず「とうとうたり」の手は、「操三番」では譜である。シャープが多くて複雑に感じるかもしれないが、じつは譜とまったく同じ勘所と指づかいである。とくに譜を出す必要はなかったのだが、つぎの「廓三番」との違いを示すために、ここに載せておいた。「廓三番」の弾き出し、つまり冒頭の手は、譜である。「操り」の手の後半を少し細かくしたようなものだが、これを一クサリ弾いただけで「とうとうたり」をつたい出し、手はハジキを織り交ぜた細かい動きに変わり、「たたりら」のあと、譜を一クサリ弾く。これは譜の手にそっくりで、詞章だけでなく音楽的にもいろいろ楽しい工夫を盛り込んでいることが分かる。「鳴るは滝の水」は、「操三番」は三下りの譜と同じ手で始まるが、「廓三番」にはこの詞章がない。「操三番」では「翁ノ舞」の手を弾くが、その直前の「千早振る」で本調子になっているので比較にはならない。ここを二上りのまま続けて、さきほどの譜をこく静かに弾くことはできなくはないはずだ。それをしなかったということは、翁の舞の荘重

さは本調子でなければ表現できないと考えたからかもしれない。なお、「廓三番」にはこれに対応する部分がない。

「操三番」では揉出シで調子がまた変わり、三下りになる。「揉出シ」から二上りではじまる「舌出」を見ると、導入が八拍の翁帰りである点が異なるが、三下りの「菊五郎三番」と同じ手になっている。二上りと三下りとは、第 弦と第 弦の音程関係は同じなので、第 弦が関わらなければ同じ手を弾くことがありうる。「舌出し三番」の揉出シと「菊五郎三番」の揉出シは、その例である。「廓三番」の揉出シは、これまでのどの曲とも違った独特の手である。むろん作曲者四世杵屋六三郎の独奏だと思う。

「廓三番」は、これまで問題にした手に対応する手がこれ以後出てこないで、比較の対象にならない。「舌出三番」では、「ほんに鶴の真似鳥飛び」と「おこがましくもいつとせの」のあとに同じ合の手を弾く。青柳譜には「拍子の合方」と書かれているが、揉ノ段である。ところがその冒頭が、さつきいったように鈴ノ手なのである。鈴ノ手は、「さつばも己が」と「おこがましくも」という唄のところでも弾く。「舌出三番」は、三下りになつてから「鈴の合方」があるので、「菊五郎三番」とは異なるが、私に「揉ノ段」の独自性を弱めているような気がする。

「舌出三番」の揉ノ段でも基本の手を弾く。これは五線譜に書けば、裝飾音符がないだけで、同じ音高である。裝飾音符の音がないということは、同じ旋律に聞こえても勘所が異なるという意味である。「舌出」の鈴ノ段は、三下りなのでここではとりあげない。

以上で、河東節と長唄の三番叟物の手の検討を終える。三味線音楽としては、常磐津や清元、新内などの曲も重要だが、時間がなかったので、最後に地歌の「翁」を聞いて終わろうと思う。この曲には、五線譜で示したような手はまったく出てこない。前述したようにあまりはやらない曲なのだが、手事部

分はユニークだそうである。三味線と箏の手があるのみで、三味線の地も替手もない。掛合は皆無である。地歌では能にもづく曲を謡物といい、典型的な謡物は三下りだが、「翁」は本調子で始まり、手事の途中で二上りに変わる。

この曲の前歌に、無伴奏でうたう部分が三か所あり、多くの歌本はそこに「うたひ」と記している。『新大成系のしらべ』では二か所しか書いていないが、もう一か所は冒頭の「とつとつたらり」で、「所千代まで」の前までである。三味線が入るところに「うた」あるいは「ナホス」などと書いている。無伴奏の部分は「謡」という意識をつよく持つてうたっているようにあるが、実際の旋律は、今日の能の「翁」の旋律とはずいぶん違っている。長く地歌を伝えてきた盲人音楽家は鋭い音感とたいへんな記憶力の持ち主であつたわけだから、ひよつとするとこの無伴奏部分に幕末の能のツヨ吟のうたいかたの痕跡が残っているのかもしれないと考えたことがあるのだが、それはちよつと無理そうである。

#### 注

- 1 「寿世嗣ノ三番叟」を初演した初世中村仲蔵の伝記の『秀鶴草子』には、志賀山流の元祖の志賀山万作が復活したときに曲名を「今様風流大小舞乱曲三番叟」としたもので、猿若勘三郎が演じたときの曲名は「風流三番叟」だつたと書かれている。この年表でも「風流三番叟」とすべきかと思つたが、取りあへず通説の「乱曲三番叟」のままとした。
- 2 『庶民文化資料集成』の『大和守日記』の式三番の記事のあるところをみると、寛文八年から、急に増えたように感じる。しかし、一年あたりの執筆字数、つまり翻刻のページ数が激減するからで、三番叟の上演が多くなつたといつてくたではなさそうである。

3 『江戸節根元記』に、この曲についてはしばしば引用される逸話がある。半太夫

と河東とが破談になつたときに半太夫のほつで、この曲を作つた、それがおもしろいというので、河東側の弟子がそれを習い盗んだなどというものである。けれども、竹内道敬氏によれば、この話は無視したほうがよいそうだ。

4 「翁猿楽の変遷」、『芸能史研究』一〇九号、一九九〇年四月、「版本の《翁とその影響》」、『鍊仙』三九八、一九九二年一月（天野氏は近世の三番叟もので日・月の順になつてゐるのは、「操三番叟」だけという意味のことを書いておられるが、あとで見るように「操」にはその部分の詞章は使われていない。天野氏の思い違いではないかと思う。

5 雑誌「芸能」一九九〇年一月号

6 『江戸節根元記』には、「これのお庭よりは文七節也」と書かれている。文七節とは河東節や義太夫節などといったような浄瑠璃語りや唄うたいの名前によるものではなく、物語の登場人物の名前による節付である。『声曲類纂』に「たとへは雁金文七が事をつくりたる歌を文七ぶしと呼びて、後の節付に用ゆるの類なり」と書かれており、河東節で用いるといつてゐる。『歌謡音曲集』に載つてゐる河東節をざつと見たところ、「灸すゑ」の「仲良い同士の誰彼と」、「夜の錦」の「あまり限なさ」に文七ブシ、あるいは文七とある。

7 「めりやす豊年蔵」には、ほかの曲と違って、この曲を踊つた俳優の名を書かず「座がかり」と規定している。「座がかり」といふ言葉は、「めりやす豊年蔵」の序文にも出てくるのだが、意味は不明である。

8 宝暦五年という通説について、渥美清太郎は『邦楽舞踊辞典』で「当にはならない」といつてゐる。ただし渥美の発言は、宝暦より下がるという意味のよつた。

9 「長唄再々回」最終回プログラム解説による

10 「邦楽舞踊辞典」の「さんばさつ」の項

11 たとえば「長唄原本集成」所収の正本

12 『邦楽舞踊辞典』によれば大名題は「撲頼峠吉例相撲」

13 出典の「長唄の三番叟をたどる」は、『季刊邦楽』第7号に掲載されたもの

14 加藤氏の卒業論文によると、国会図書館にある初世仲蔵の伝記『秀鶴草子』では、『東都劇場沿革誌料』とは逆に、「あの山見さい」以下の「寿世嗣三番叟」

のほうに前に出ている。また『俗曲評釈江戸長唄』との細かい違いがたくさんある。九重左近の『江戸近世舞踊史』にも天明六年の「寿世嗣三番叟」の演出についての考察があるが、この曲にはいろいろ問題があるようだ。

15 『ラジオ邦楽の鑑賞』（日本放送協会 一九五〇刊）など

16 『日本舞踊全集』（日本舞踊社 一九八三刊）による

17 「左保姫」のところ、「この資料と別の本に「文七ガカリ」と書いてあるものがある。河東節の「これのお庭に池掘れば」も文七だったわけだが、ここを文七ガカリとしたことの意味が分からない。ここからは三番叟から離れて、もっぱら音楽を聞かせる。

18 三曲とは「松竹梅」「神楽初」「翁」。「松竹梅」だけが飛び抜けて流行し、ほかの二曲はあまり演奏されない。

19 渥美清太郎『邦楽舞踊辞典』、町田佳声『ラジオ邦楽の鑑賞』、郡司正勝『名作歌舞伎全集』、古井戸秀夫『舞踊手帖』などがそう言っているが、そのように書いた台本があるらしい。

20 書かれているのは最初の「とつとつたり」から「万歳楽万歳楽」までと、千歳と三番叟の問答である。これは、長唄ではなく能の雛子の手付けだから、年表には書かなかった。

21 この曲の題名は、『御屋舗番組控』の初出のところでは「翁」と書くのみだが、二日後の「谷村様」の席での演奏は「翁三番叟千歳」と書き、以後、この書き方が多い。なぜ、そう書くのか、いろいろ理由を考えるのだが、どうしても分からない。

22 『御屋舗番組控』によれば、「雛鶴」の演奏は非常に多く、「翁三番叟千歳」「種時」「やむじ三番」も、よく演奏されている。

23 『ラジオ邦楽の鑑賞』にも少し違うことが書かれている。

24 「秋も更けたる翁草」の「翁草」とは「菊」の異名だからちうつと名前を出したとも考えられるが、「翁草」という言葉は、菊之丞の「菊三番」や、菊之丞とも菊五郎とも関係のない「雛鶴三番叟」でも使われているので、そこまで考える必要はないかもしれない。通称が「菊五郎三番」であるにしては、表現が控えめのように思う。

25 稀音家義丸氏の推測

26 これは素浄瑠璃として作られたため、ということかもしれない。

以上は、一九九七年度夏期学術講座「翁（式三番）の種々相」の三日目、七月九日の午後に行われた講義の口述原稿に基づくものである。

近世三番叟年表

寛永 1?	* 乱曲三番叟		天保 1?	翁千歳三番叟	唄
寛文 1	* 式三番	筑後	天保 7	花誘劇場踊	唄
寛文 7	* 式三番	不明	天保 8	廓春情恋の種蒔の上	唄
	* 三番三	伊勢	天保 9	四季三葉草	富/清
	* 三番三	伊勢	天保 10	* さきかけ三番叟	唄
寛文 8	* 三番三		天保 12	* 舞奏いろの種蒔	常?
寛文 9	* 式三番		天保 14	* 箱入あやめ木偶	常/唄
	* 式三番		弘化 3	* 未熟松種蒔	常/唄
延宝 1	* 次第三番三	肥前		雛鶴三番叟	唄
	* 式三番		嘉永 3	拙優松種蒔	唄/清
延宝 2	* 三番三	伊勢	嘉永 5	三番叟	一・菅
延宝 3	* 三番三	不明	嘉永 6	柳糸引御撰	唄
延宝 6	* 式三番	不明		式三番	常
	* 福神三番三	不明	安政 1	拙詫松種蒔	常/富/唄
	* 三番三		安政 2	菊五郎三番叟	唄
延宝 7	* 三番三	伊勢	安政 4	松朝扇うつし絵	
延宝 8	* 三番三	不明		家桜幾齡三番叟	富/清
貞享 2	* 式三番	不明	安政 6	寿海式三番	唄
貞享 4	* 三番三	内匠	??	翁	新内
元禄 3	* 三番三	特殊	安政?	寿三番	一・宇
元禄 4	* 三番三	土佐	安政?	式三番岩戸神楽	一・宇
元禄 5	* 三番三	土佐	万延 1	更名所作三番叟	清/唄
宝永以前	* 三番叟踊	踊歌	慶応 1	志賀山流松種蒔	清/唄
宝永?	* 式三番	義		式三番叟	唄
享保?	* 式三番	河	明治初年	翁	吾妻能狂言
享保 9	* 式三番	河?	明治 11	松の翁	唄
享保 20	五斗三番	義	明治 19	三番叟	一・都
享保 21	三番		明治 32	操三番叟(再)	
元禄享保	* 傾城式三番	遊里		寿式三番叟	義
寛延 1	* 三番叟		昭和 11	鶴寿三番叟	哥沢
宝暦以前	? 四季三番三			百寿三番叟	唄
宝暦 5?	雛鶴三番叟	唄	昭和 12	蝶千鳥風流三番叟	唄
宝暦 5	今様四季三番三	唄		寿女夫三番叟	唄
宝暦 10	* 剣烏帽子照葉盞	唄	昭和 13	宝三番叟	唄
宝暦 13	三十石船始の1	義	昭和 16	日の出三番	唄
明和 3?	? 呼出三番	唄	昭和 21	変奏曲三番叟	唄
明和 7	* 翁草霜舞女	唄	昭和 28	柿素襖剣烏帽子	唄
安永 4	翁草恋種蒔	唄	昭和 31	舞鶴三番叟	唄
天明 5	式三番	唄		寿福三番叟	唄
天明 6	* 寿世嗣三番叟	不明	昭和 33	からす三番	唄
天明 7	子宝三番	常	昭和 38	花の三番叟	唄
寛政 4	* 七瀬川最中桂女	唄	年代未詳	式三番	荻江
享和以前	翁	地歌		河東三番	山田
文化 5	* 倭仮名色七文字	唄			
文化 9	再春松種蒔	唄/豊		志賀山	
文化 12	* 寿三番	常		鷺流三番	
文政 5	嶋立沢虎礎	富/清		春日三番叟	小唄春日派
文政 6	* 后月名残の島台	唄		藤内次郎三番叟	
文政 7	* 寿三番叟	唄		式三番叟	唄/常
文政 9	郭三番叟	唄			
文政 11	后月酒宴島台上				
??	子宝	新内			

\*は現在廃曲

資料

A 『古今役者物語』所掲「式三番」

シテ上ハうくたたりくたたりあかりらなり

ちりやたたりあかりらなりシテ所ちよまておはしませ我らもせ

んしうさぶらはうシテ鶴とかめとのよはひにてさいはい心にまかせた

りシテ上ハうくたたりくちりやたたりくたたりあかりらなり

とつ

センサイなるはたきの水なるは滝水なるはたきの水日はてる共たへ

すとふたりありうとつセンサイたえすとふたりつねにとふたり

センサイ君のちとせをへん事はあま津をとめの羽衣よなるはたきの水日は

てる共たえすとふたりありうとつあけまきやとんとつや

シテ下サしていたれ共

まいらふれんけりやらんとつやシテ上ハちはちふる神のひこのむかしよ

り久しかれとそいわるそよやりちやとんとつやシテおよそ千年の鶴は

はんせいらくとつたふたり又はんたいの池のかめはこつにさんきよくをいた

ゝいたり滝の水れいくとおちてよるの月あさやかにうかんたりなきさの砂

さくとしてあしたの日の色をうつす天下たいへい国土あんの今日の

御きたうなり有原や。なしよの翁共あれはなしよの翁共。そやいつての

翁とつシテそよやカエリシテ千秋万歳悦ひの舞なれな一舞まはる万

さいらく万さいらくシテ下ハ万さいらく地下長久系んまんそくさい系  
んめい今日の御きたうなりと唱へくてんあり

(武井協三「古今役者物語の研究」)

B 『松の落葉』所収「三番舞踊」

二上リ喜びの文をえて、ちやうと参つた智殿、勇みて末廣扇御祝儀に、しよ  
ぎつく足元見仰ぎも一つ見あふぎくさしあふぎ、驚足するく張脇扇  
で、拔足揃へてく福々福々、長者々々福々福々、男は大福々  
長者の花聲ぢや、えいけい子宝の、この幸心に任せてめでたいな。

(日本歌謡集成「七」)

C 河東節「翁・三番舞」

翁

(前弾)

とつとつたらりたらりら、たたりあがりららららら。

所千代までおはしませ、我らも千秋さぶらはう、鶴と亀との齡にて幸ひ心  
に任せたり。(合)

鳴るは滝の水、鳴るは滝の水、日は照るとも、絶えずとつたり、ありうと

うどう。君の千歳を経んことも、天つ乙女の羽衣よ、鳴るは滝の水、日は照るとも、絶えずとうたり、ありつとうどう。総角やとんどや、尋ばかりやとんどや、坐して居たれども、参らつれんげりや、とんどや。

千早振る、神のひこさの昔より、久しかれとぞ祝ひ、そよやれいちや、とんどや。

凡そ千年の鶴は、万歳樂と謡うたり、また万代の池の龜は、甲に三極を戴いたり。(合)

滝の水冷々と落ちて、夜の月鮮やかに浮かんだり、渚の砂さくさくとして、朝の日の色を朗す。(合)

天下太平国土安穩の、今日の御祈禱なり、ありはらや、なじよの翁とも、あれはなじよの翁とも、そよや何処の翁とうどう。(合)

千秋万歳の喜びの舞なれば、一さし舞はう万歳樂、万歳樂、万歳樂。

### 三番叟

(前弾)

おうさえおさえ、喜びありや、我がこのところより外へは遣らじと思ふ。(合)

物に心得たる、あどの太夫殿に、そと見参申さう。ちやうど参つて候。

誰が御立ち候ふぞ、あどと仰せ候ふほどに、御身あどのために罷り立つて候、今日の三番叟、千秋万歳と舞つて居り候へ、色の黒い尉殿、この色の黒い尉が、今日の三番叟、千秋万歳、所繁昌と舞ひ納めうずることは、

何よりもつて易う候、まづあどの太夫殿は、元の座敷へ重々とお直り候へ、それがし座敷へ直らうずることは、尉殿の舞よりいと易う候、御舞無つては直り候ふまじ、あら様がましや、あらば鈴を参らせう。

あどの太夫殿に申したきことの候。何事にて候ふぞ、皐月の女房が笠の端を連らね、早苗おつ取つて、うち上げて歌うたは、面白うはなく候ふか、実に面白き物にて候。さあらば太夫殿に歌つて聞かせ申さう。

これのお庭に池掘れば、水も涌き候、黄金も涌き候。池の汀に宝船が着くとの、鱸・舳には恵比寿・大黒、中は毘沙門・吉祥天女・弁財天、琵琶・琴・鞆鼓・笙・箏の、拍子を揃へて、櫓・櫂の音がざわざわ、(合)神風追風吹き立ち吹き立ち、悪魔を払つて御寿命長く、御子孫繁昌、国も豊かに、千秋万歳の御喜び、治まる御代こそめでたけれ。(合)河東節全集(一)

### 『D』色里迦陵頻』所収「傾城式三番」

太夫ハル地色所千代までぬれのさとッレ我等もせんじやういたさふ太夫松と梅とのウいろくらベッレさいはいあけやはよしだやなり太夫上千はやふる上大だいじんはむッかしより中ッ久しかれとぞいはいひッレハルそよ中やりハル市弥よびましや太夫ハルおよそ千年とおもいひし中もひよつとくぜつのしなあしくまたむしんなどいわれては、きつに、中のかんとッもがひたり、ッ手くだとて、またくわッびるふみを見て、あけくれかよひッ出たりぬ、



ハルフシたゞ何事も、中ゆつくとウしめやかなる床にきをのぼす、ハルて  
んと八まん今よりのちッレ小ッ太夫ながとものゐてそもじとねてもさめて  
も、下千代も八千代にハルさんのをざんの、ウ露か涙か〜ウせいもん〜、  
太夫万ねんもッレ〜上ルリかはるまひとぞトメいはひける。

(『日本歌謡集成』八)

『めりやす豊年蔵』所収「四季三番三」

千早振 合上神のひ引こさの昔より合この中君久しうしかれとぞ祝ひそよ  
やれいちやどんどや合凡そ千年の鶴は合上万歳楽と謡つたり合又万代の池の  
亀は合甲に引三極を合戴き滝の水は冷々と落ちて合夜の月は合鮮に浮んだ  
り合な引ぎさの砂は。さく〜として合朝の日の色を朗す難有さ。天下引太  
平国土合安穩長久と。君を祝ひて合千早振一差舞はう万歳楽〜、合モミタシ君  
様も我等も浮れてとりなりや引さて面白や取分めでたや物に心得たるアドの  
太夫殿は元の座敷に重々とお直りそえ合さあらなつ鈴を参らせう合鈴は駅路  
の合ヤアイヨノそれよなう楽の音がナしやん〜と打つてはな太鼓の音がし  
てでんからと打つは〜神々楽御神楽合夜神楽何時もとんと鳴るが合よ  
い合鶴の羽重千代迄も色に皓白枝を垂れ亀は万代の池の青海波を散してど  
ど打ち合入目を招く舞の袖女波となり合男波となり合松吹く風の呪文を唱  
へ常なる世の中やと引拍子を揃へて千早振。千秋楽こそめでたけれ。

『長唄「雛鶴三番叟」

謡ガカリ〜とつ〜たらり、たらり、たらりあがりら〜りどう唄合所千代迄翁  
草、菊の四季咲式三番、可愛らしさの姫小松、木蔭に遊ぶ鶴亀も、座本の名  
にしおひ茂る、竹は檜の幕の紋、御鼻肩頼み揚幕や、とんと居なりにこの舞  
台、我等も千秋候つ〜凡そ千年の縁は二つ枕に結んだり、又万代を掛けし  
契は、水も漏らさぬ仲川に、橋を渡すは何と言つたらよかるやら、つい言  
て言ふ様に鳴るは滝の水、絶えず逢瀬を松の葉の、色は変らじ只何時迄も、  
しやほんに、なじよの翁のあだつきは、添ふも千歳仲人して、心のたけを尋  
ばかり、明かして結ぶ妹背山、さてもよい〜よい仲同士は、天下太平国土  
安穩、今日の御祈禱なり〜お〜さえ〜悦ありや有明の、月の出潮に青  
木が原の、波の声々打つや鼓の松吹く風も、さつ〜として澄むなり〜音  
も住吉の幾代経ぬらん夜遊の舞楽に、拍子を揃へて足拍子揃へて、時も夜明  
の鳥飛び合袖を翻して面白や〜在原や高天原に住吉の、四社の御前で扇  
を拾つた、主にあぶぎの辻占は、そりやほんかいな、逢ふとは嬉し、しんぞ  
こちや嬉し、四社の御田の苗代水に、結ぶ縁の種下し、そりや本かいな、結  
ぶも嬉し、しんぞこちや嬉し、サア住吉様の岸の姫松めでたさよ〜実  
に様々の舞の曲、差す腕に悪魔を払ひ、納むる手には寿福を抱き千秋楽には民

(『日本歌謡集成』九)

を撫で万歳楽こそめでたけれ。

(『歌謡音曲集』)

G 長唄「今様四季三番三」

君が代は。千代を重ねし岸の松合梢梢に巢籠りて合鶴の羽を伸すそよや合んど。鳴るは滝の水。冷々さびさび。鮮に。浮んだりや。天が下恋と情は裏表。惚れて見さんせ愛しけれども堅御座る。止しやれ浮名の立田川。流も敢へぬ紅葉は。絶えず紅葉。絶えずとつたり。ありうごつあり。在原の。業平様にも負けやせまい。あ。負けやせまい狩衣の。姿人は空事よなう徒や鈴鳴ると鳴らぬは袖振る手の内合とつぢやえ合締めてしやんこえ。緩めてにこく。逢ふ夜。逢はぬ夜千早振。合神の昔は二柱。天の岩戸を開くや。梅の見事え。花の姿のいとらし。春は万代。花のさん盛りは合吉野山。御室の御所のよいさん桜群集の中を北山稻荷。山の初午合こんせく夕涼み。鴨川の。川の瀬濡れにぞ濡れし濡る。小女郎小娘伊達。者と誉めては。それ。それくくと。袖を引く。秋は野山の色附く紅葉。枝にさりと。は鹿も焦れて妻恋ふる。さりとほくほんにえ。思い切る瀬と切らぬ瀬と。底の冷い雪の夜やさりとほくほんにえ。さをなぐる間の寄るへなき。

(『歌謡音曲集』)

(二上り) なつなう布は色ますならし野や、さらして振りを見せまいらし

よつ。見せまいらしよつ合さつさ車のわがぎれて。さつさ車のわがぎれて。いづれ思ひはどなたにも合晒す細布手にくるくと、さらす細布手にくるくと、いざや帰らん賤がいおりへ。

(『長唄稀曲めぐり』)

H 長唄「剣烏帽子照葉蔭」

和歌山ガカリ。思ふ心のあればこそ。アドのアドの太夫殿のお顔の色がほに出た。合穂に穂重ねてめでたうこそは。ヨイ候。翁カヘシ今日の御祝儀を。舞うて折添へ寒梅の。白きは翁翁草菊の。ギン葉守の神ありて。モツ霜にも負けぬ。花なれや合花と名さすは桜と云へど。合カンアタル冬の花には何々ぞ合水仙山茶花枇杷の花合春待ちかねて。鶯の。三番片イロ言ながらこの尉が。おさへたくこの箱を合外へはやらじと遣水の。三重カハリ和歌山音もとつたり絶えずたうたり。カハリ絶えずに来るのがアタル誠の心。拍子此方に如才はなけれど。も。其方の心に一物が。ありさうな口説するのも野暮らしい。合和歌山聞かず。にめでたう元の座へ合お直り候へあくらやうがましや此方こそ。拍子合段切千秋万歳万々歳と謡ひ囃して舞ひにけり。

(『歌謡音曲集』)

I 長唄「呼出三番唄」

千早振。神のひこさの昔より。その君久し。久しかれとぞ祝ひそよや。い

ちやどんどや 凡そ千年の鶴は。万歳楽と謡つたり。また万代の池の亀は  
 甲に三極を戴いたり。滝の水は冷々と落ちて。夜の月鮮に浮かんだり。渚  
 の砂はさくくとして 日の入るこそ難有や。天下太平国土安穩長久と。  
 君を祝ひて千早振。一差舞はつ万歳楽 ア、おさへく悦ありや。我この  
 所より外へはやらじとぞおんもふ 何時もより今朝打つ鼓の音のよさ。天  
 の岩戸の晴るく心や。さては又四社の御前のあの御神楽。ちんりからりひや  
 うろうと。吹いたる笛の音のよさ。聞けば誠にくほんに。誠に。君様も我  
 等も浮かれたとりなりぢや。面白や。さためてたさよ。あゝらめでたや。物  
 に心得たるアドの太夫殿にさあと見参申さうよ。てうど参りて候 誰がお  
 館 アドの仰せ候程に今日の三番猿楽。きりく尋ねて常に舞つておりそ  
 へ。仰の如く。この尉が千秋万歳所繁昌と舞ひつるよ。何より以て易う候。  
 先づは。アドの太夫殿は元の座敷へ重々とお直り候へや 某座敷へ直  
 らうずる事尉殿の舞より以て易う候。先づ尉殿の舞を見申し。その後座敷へ  
 直らうずるにて候 三番いやくお直りなつては舞ひ候まじ 只一差  
 御舞ひ候へ 三番御直り候へ 千歳あゝらよつがましやさらばの鈴を参ら  
 しよ 鈴は駅路のやんいよえ。それよの楽の音ちやえ いえいくしや  
 んこしやんこしやんこと。振ればの太鼓の音ちやえ。してんからよう打つ  
 のやんさしてんからよう打つの。神々楽御神楽。いつもどんどと鳴るがよ  
 い 鶴の羽重千代迄も花は紅白枝を垂れ。亀は万代の池の青波。波を散ら  
 してとど打つ。入目を招く舞の袖。女波となり男波となり。松吹く風に寿  
 命を唱へ。とほしないたる世の中やと。拍子を揃へて千早振。千秋楽こそめ

でたけれ。

〔日本歌謡集成〕九

〔J〕 長唄「翁草霜舞女」

人寄せの合方 千早振る神の園生やその菊々に、霜月しも翁草、千歳汲むなる菊  
 水の、久しかれとぞ岩櫛や 三味線拍子 三番叟モミ 天の空なる小女の花と契り草とはた  
 れ岩菊の、菊の百夜に名も残る菊、忍び黄菊も夜は白菊に、乱れ菊かや狸々  
 菊の、都は紅葉こちや恥しの、弟草かや菊重

〔町田佳声〕長唄の三番叟をたどる

〔K〕 長唄「翁草恋種時」

装ひ飾る錦の袂、翳す翳の手馴れ草、その舞扇大様に、隈なき月の光か  
 や、右と左にしやんと坐したは雪やら花やらしをらしく、月雪花の楽みを、  
 今日の前に見る如く、今様姿とりぐに とうくたたりくらたりあ  
 がりたたりとう、ちりやたりや、女子たらしの目許にとんと打込んで、文  
 は千束に及べども、否諾のないはさりとはく辛気な事ぢやえ、筆の手前の  
 恥しく、今宵は逢つて心根の、なるかならぬかなうこれなうなるかならぬか  
 鳴るは滝の水く、日は照るとも絶えずとうたり、常にとつたり君の千年を  
 経ん事は、天津少女の羽衣よ、鳴るは滝の水 凡そ千年の雛鶴は、万歳楽

と謡つたり、また万代の池の汀に龜遊ぶ、甲に三極備へたり滝の水冷々と落ちて、夜の月鮮に浮んだり、渚の砂さくくとして、朝の日の色を潤ほす、天下国土安穩長久と君を祝ひて千早振、一差舞はう万歳樂 おさえく喜びありや喜びの玉章貫つて始めて所知に入りにつり 相撲の拍子鳥飛び、

潔くこそ見えにけれ さても見事や振もよし、舞の姿の可愛らし、様の召したる烏帽子をば、何と申す烏帽子ぞ、仰せの如くこの尉が着たる烏帽子は千代かけて、君を祝ひの立烏帽子、きりつとしゃんと風折烏帽子、右折烏帽子左折り、さて数々のおめでたや 十二の子宝座敷にづらりと並へてく、お直りあれかし、こよけさよ辰松いる松たんだら砂に取付く引付く少女の袂、返すぐも面白や、厭でも心でも是非に一差御舞ひ候へ、あゝらやうがましや、さあらば鈴を参らせう その種蒔の種蒔きて、鳴るは駅路の鈴の音も、尽きせぬ御代の寿を、謡つてやがて、やがて扇を納めけり。

『歌謡音曲集』

### 「寿世嗣三番叟」

今様風流  
大小の舞 乱曲三番叟

白拍子ゑぼし水干和歌のまへ 男舞こそ島の千歳 中村のワキ師はきね  
や江戸げいしや ふりは志賀山 唄は中山 時なれや常盤の御代に大芝居  
言の葉にふし三絃ふり付て こゝに明石の代々の春風 これぞ所作の根

元なり、

### 寿世嗣三番叟

あの山見さい、此山見さい、いたゞきやつれた小原木の、一夜かぎりかも一夜もござれ、あたらし船の船頭どの、やれくだいたんな人じやよの長吉、まんぶのきやうへく参るとて、さつてきしやな小袋おとした、いかなおさむらいも、ナよいおひろやつたらたもれの言はちでくはぢならぬ、中はちつくり茶巾ほど、紅染にそめさせて、はしくはから梅から松から獅子を、ついくついくともめはせた、思ばきしやなこきん小袋おとしたと、いふてはほとくたいた、千秋万歳の悦びの舞なれば一とさし舞ふ、さあさあ住吉さまの岸の姫まつ目出たさよはんや、これのお庭に池ほれば、さあく水はわかいでこがねがわく、はれやこの、えいこのくくくえいこのふりはなをいとし、なるは滝の水く、君の千とせをへんことも、天津乙女の羽衣を、鳴は滝の水、絶ぬ御代こそめでたけれ、しゅんあつでんのがくの音は、春風ともるともに、花をちらしてどふとたつ、千風樂はナいかにぞや、松吹風ともるともに、波をけたてどふと打、青海波とは青うみの波たてうつはさいそうらうせつうらうらう、ばとふの曲はかへり打、入目をまねきひら手にく、今のたいこはなみなれば、寄せてはうちかへりては打、此ふた柱の跡をたれ、ふうふいもせのかたらひは、比翼のちぎり浅からぬ浅からぬ、万歳樂こそ目出たけれ、

(関根只誠『東都劇場沿革誌料』)

【M】 常磐津節「子宝三番」

置鼓詞 おんさへおさへ悦びありやく 我が悦びを。此所より外へはやらじと思ふ。ハア、狂言罷り出でたる者は。八幡大尽でス。太郎冠者あるか。ハアア御前に。念なう早かつた。太郎冠者と召さるゝ故。随分物に罷立つて候。太郎冠者に尋ねたき事のあり。身は福人と見え候か。又徳人と見え候か。ドリヤ、ハア、頼うたる方は。天晴れ福人と見受け候。ヤレ、目利かな。工身どもこそ福者にてあれ。其中にも。子福者にて子供十二人持ち候。上六人は瑠璃の様なる女子にて。下六人は玉の様なる男の子にて候。其十二人の子供等を。車座にぐるりつと直し置き。一度に呼ぶ様に名を付けて候。げに、目出度き御事かなシテ其御名は何と御附け候ぞ。まつ・おつ・とり・ちがひ・おとよ・けさよ・たつ松・ある松・たんだら・いなこにかいつくひつゝ火うち袋ぶらゝと付けてあれ。切々珍しき御名にて候。サレバこの十二人の子供等が四季の遊びの面白さ。それは目出たき御楽しみ其若子たちの御遊び愛にてまなび御見せ候。中々易き御事。先づ太郎冠者には。元の座敷へおもくと直り候。某座敷へ直らうずる事頼うたる方の御字びより易う候。平に御字候。平に直り候。あゝらやうがましやとう御始め候。心得申して候。佐保姫霞のどかに明けそめて。今朝しろくと富士の顔。映る鏡の影添へて松と竹との二柱。賑ふ春の稚こと門に遣羽子すめる代に風吹くな猶吹くな。金の団扇で追羽根せうとおしやる。突くや。手毬の数へ唄。一つと。いひて如月の

種時く小田の神詣り。振分け髪のいたいけに緋無垢は椿白無垢は。梅の苔の風車くるくる廻る日の。はや鶏合せ離遊び。妹背変らぬもろ白髪戴く軒に菖蒲葺く。サハリ幟兜の勇しく。菖蒲打合ふ形姿の。猛きは猶も潔く隙行く駒の竹の尾に鞭くれなぬ手綱かい繰りりんくすゞみに磯の蛸狩柳の水の。カハリキコリ影急ぐ。合手に手を取りて鶺鴒の。逢ふ瀬を渡す天の川笹に一夜の散らし書。さらくさら団扇太鼓の拍子よく皆撫子の手を揃へ優しき声の張つよく。二上り。せりやひ申そはりやひ申そせり合ひ張合ひ石投げいやよこちの踊はア、花踊惚れたらござれ。ギンく惚れてほの字の文書き初めて似合ぬとも縁ぢやもの。その着綿の菊重ね香る袖垣仲もよくほたけ祭の。とりくに花を飾りし襦袢匂ふ。合産神詣黒髪に置く白雪の降りや積れや積れや。合招くや年の貢物。絶えず変らぬ童の竹馬遊びの千代かけて千代に八千代にさゝれ石の動かぬ御代こそ目出たけれ。『歌謡音曲集』

【N】 地歌「翁」

マキキとうくたたりくたたりらがりらりとう。ちりやたらりたらりらくらりらがりらりとう。所ちよまで。おはしませわれらもせんしつ候や。つるとかめとがよはひにて。さいはいひころにまかせたり。君がちとせをへんことも。ウタにあまつをとめの羽衣よなるはたきのみづく日はてるともたえずたうたりありうとう。ナホスたえずとうたりつねにとうたりあ

げまきやとんどつや、ひろばかりやとんどつや、ざしてゐたれどウタヒマま  
 いらうれんげりやとんどつや ナオス合ちはやふる、神のひこさの昔より久し  
 かれとぞいはひそよや、引およせせんねんのつるはばんぜいらくをうたつた  
 りまたばんだいの池の龜は、甲にさんぎよくをそなへ 合なぎさのいさささ  
 くくとして 合あしたのひの色をろうじたきの水はれいくとしてよるの  
 月あざやかに浮かんだり 手事中ニテニ上リ天下太平国土安穩こんにちのごきた  
 うなりありわらやめいじよのおきなどもよ 合あれはめいじよのおきなどもぞ  
 や 合いづくのおきなどうくくそよやせんしうばんぜいのよろこびのまひ  
 なればひとまひまはうまんざいらくくく。 『新大成系のしらべ』

○ 長唄／豊後路節「再春松種時」

平家カ、リ、その昔秀鶴の名にし負ふ  
 都上りの折を得て 合教へ請地の親方  
 に舞の稽古を 合志賀山の 合振もま  
 だなる稚氣に 合忘れてのけし 合三番  
 叟 合探み出し 合繰出し一奏目出度う  
 栄えや仲威を 合にせ紫もなかくに  
 及ばぬ筆に写し絵も 合いけぬ汀の石  
 龜やほんに鵜の真似鳥飛び 合とつば

清マその昔 秀鶴の名にし負う 志  
 賀山ぶりの三番叟  
 清マ似せ紫もなかくに  
 及ばぬ筆に写し絵も いけぬ汀の石  
 龜や ほんに鵜の真似鳥飛び 清マと

一重に 合有難き花のお江戸の御鼻眞  
 を頭に重き立烏帽子

マあら目出度や物に心得たるあど  
 の太夫殿にそとげんざう申さう

マ丁度参つて候 マあどの太夫殿  
 をお見立て申して候 マ何と御覽

じ候や マ福人とお見立て申して  
 候 マ又色の黒き尉殿をお見立申し

て候 マ何と御覽じ候ぞ。 マ徳  
 人とお見立て申して候 マ仰せの

如く徳人の中にも子徳人にて候十  
 人の子供等を車座に並べ一時に名を

付けて候 マ何とお付け候ぞ  
マまづおつとりちがへおとよけさよ

辰松ゆる松だんだらいなづにかいつ  
 くひつつく火打袋にぶらりと付けて

候 マあら目出度やその和子達の  
 祝ひ月一段と賑はしき事に思はれて

つぱひとえに有難き花のお江戸の御  
 鼻眞を頭に重き立烏帽子  
唄さつぱも おのが故郷へは錦と  
 着なすお取り立て烏漕がましくも五  
 年の 清今日ぞ名残りに 唄候よ

候 先づあどの太夫殿には重々と元の座へお直り候へ 先づ色の黒き尉殿には一舞御舞ひ候へ

イヤく御直りなうては舞ひ候まじ イヤく御舞ひ候へ

イヤお直り候へ あらやうが

ましやさあらば鈴を参らせうこなた

こそ 天の岩戸のナ 神楽月と

て 祝ふほんくその歳も 五つ

や七つ三つ見せうと 縫ひの模様の

いとさまづくに 竹に八千代の寿こ

めて 松の齡の幾よろづ代も変ら

ぬためし鶴と龜びんと跳ねたる目出

たいに 海老も曲りし腰のしめ宝

づくしに宝船 やらく目出度たい

のへ 四海波風治まりて 常盤の

えエ木の葉も茂る えいさらさ鯉

の滝のぼり 牡丹に唐獅子唐松を見

事にくさつても見事に手を尽くし

仕立て栄えあるよい子の小袖着せて

きつれて 参るかの肩車にぶん乗せ

て 祝つほんその年も 五つや七つ

見しようと 縫ひの模様のいとさま

まに 竹に八千代の寿こめて 松

の齡の幾万代も替らぬためし鶴と龜

びんとはねたる目出鯛に 海老も曲

りし腰熨斗目 宝づくしや宝船

清 づくく目出たいな 四海波風

おさまりて 常盤の枝ものほんよ

え葉もしげる えいさら鯛の滝のぼ

り 牡丹に唐獅子唐松を見事にく

もさつても見事に手を尽くし仕立

えあるよい子の小袖着せてきつ

れて 参るかの肩車にぶん乗せ

て 参るの氏神詣で 巫覡が鼓の でん

つくでん

吹 笛の拉ぎの音も冴えたりな 冴え

た目もとのしおらしき 中のく 中

娘をひだつ長者が 嫁に欲しいと望

まれて 藤内次郎が栃栗毛に乗

つて エイくくえつちらおつちら

座せられたのでその意にまかせ 申

した

吹 さて婚礼の吉日は 縁をさだん

の日を選び 送る荷物は なになにやる

るな瑠璃の宝箱に珊瑚の櫛笥珠をの

べたる長持に数も調度のいさぎよく

様はナア百までナアエ、わしや九

十九迄ナアエ 何の性だえ 共

にナア白髪はナアエ、生ゆる迄ナア

エ、

吹 嫁とは言へど 世間見ず 駕籠

の内外の思はくが恥かしみく案じら

れ 初に添寝の新枕交はず詞も何

て 参るの氏神詣で 巫覡が鼓の でん

つくでん

吹 笛の拉ぎの音も冴えたりな 冴え

た目もとのしおらしき 中のく 中

娘をひだつ長者が 嫁に欲しいと望

まれて 藤内次郎が栃栗毛に乗

つて エイくくえつちらおつちら

座せられたのでその意にまかせ 申

した

吹 さて婚礼の吉日は 縁をさだん

の日を選び 送る荷物は なになにやる

るな瑠璃の宝箱に珊瑚の櫛笥玉を延べ

たる長持に数も調度のいさぎよく

様はナア百までナアエ、わしや九

十九までナアエ ともにナア白

髪はナアエ、生ゆるまでナアエ

吹 嫁とは言へど 世間見ず 駕籠

の内外の思はくがはつかしみみ案じ

られ 袖に添い寝の新枕交はず言葉

もなんと行って どうした宵の口と口

合互に手さへ鶏鐘の 合声が取持ちや  
うくと明行く空を月にして 妹背  
結んで女夫仲睦まし月と岩田帯やが  
て孫彦玄孫を儲け 合末の楽しみ此の  
上や

心浮き立つ踊り歌

二上り 欲しか 合おましよぞ一枝折  
てそりや誰に 合いとし女郎衆のかざ  
しの花にホウヤレ 合恋の世の中 面  
白や  
直ぐにも帰りお目見得を 又こ  
そ願ふ種時や 合千秋万歳 合万々

唄 女夫の銚子の盃も 呑まぬうちか  
ら殿御にのまれ耳より先へ染めて濃  
き顔も紅葉の色直し それから床に  
差し向かい 怖さ半分 嬉しさも先へ  
はいでず後退り

清 互いに手さへ鶏鐘の音がとりも  
ちようくと明けゆく空を月にして  
唄 妹背結んで女夫仲睦ましと月と  
岩田帯 清 やがて孫彦玄孫をもつ  
け 末の楽しみこの上や 唄 あら喜  
ばしの耐が身と

清 心浮きたつ踊り唄

唄 花が咲き候 黄金の花がてんこち  
ない 今を盛りと咲き匂うてもさて  
も見事な黄金花  
清 欲しかおましよぞ一枝おりてそ  
りや誰に いとし女郎衆の挿頭の花  
にホオヤレ 恋の世の中 唄 じつ恋  
の世の中 清 面白や  
清 すぐにも帰りお目見得を 唄 ま  
たこそ願う種時や 千秋万歳 清 万々

歳の末迄も賑はふ芝居と舞ひ納む  
—— 歳の末までも賑わう芝居と舞い納む  
(『歌謡音曲集』) (『舞踊手帖』)

鞆鼓 今こそ札は拝領いたす。

ト高札を取つて下座へ入る。焙烙売り見て

焙烙 コリヤ、勝負は付かぬ。横道者。やるまいぞく。

ト下座へ追ひかけ入る。トよろしくあつてこれより翁千歳三番叟の所作にか  
ゝる。

翁千歳 本行の通りあつて、揉出しになり、三番叟、立ち上がり

三番 おゝさへく、喜びありやく、我がこの所より。外へはやらじと  
思ふ。

トこれにてチョンと正面の看板を打ち返す。これに清見太夫連中居並び、直ぐ  
に呼び出しの浄瑠璃になる。

浄 その昔、秀鶴の名にしおぶ、都上りの折を得て、教へ請地の親方に、  
舞の稽古を志賀山の、振りもまだなる稚な氣に、忘れてのけし三番叟、  
繰り出し揉み出し一奏で、めでたう栄屋仲蔵を。

トばつくりをしてキツと見得。この付けにて、下の方の看板を打ち返す。これ  
に長唄雛子連中居並び、



唄 似せ紫もなか／＼に、及ばぬ筆に写し絵も、池の汀の石亀や、ほん  
に鶴の真似鳥飛び。

『日本戯曲全集』二十七

**P** 長唄「廓二番叟」

どつく／＼たらり／＼たらりあがり／＼たらり／＼たらり 二上り 千早振袖禿まで、  
その通ぶ神昔より、久しかれとぞ願ふぞよやいぢやごととや名ある末社に  
愛想の、凡そ千年の鶴は、仕着の刺繡に留めたり、又万代の池の亀は、床に三  
盃の高時絵皆滝のみは冷々として、夜の交際鮮に 合 浮れたり、朝の日の流連  
に潤す 合 てんと堪らぬ此処ぞ安心に君を命と痴話やす一差差さつ満座の  
中 おさへく／＼喜びありや、我がこの盃を外へはやらじと面白や 向の  
人に思ひ差し、嬉し顔なる嵐泣き 合 酔つた振して袖の梅、春を告げ鳥微笑む  
声の 合 笑上戸やそりや華魁と威されて、おゝ恐やつい引過ぎの船漕ぐ内に、  
後朝告げる鴉飛 合 あゝら物に心得たるアドの太夫さんにそつと忍んで申さ  
うよ 丁度寝入つてさ もしこのお文 後と仰せ候程にと読みかけて、  
今宵の首尾を待つぞえ 例の如くこの情を立てるは何より安けれど、先づ  
太夫さんのあの許へ サア便聞いたら其後座敷へ行くわいな 否々おい  
でなつては参るまじ 只一走り拝むぞえ まアあの方え あゝらやうが  
ましや内所の鈴の鳴る前に 合 此方こそ 合 来るかくと待つ辻占に 合 土  
手の四つ手の声ゆかしくも、撫子迄出て呼子鳥たつきも知らぬ憎らしさ、ア

レ心なの月の冴え、浮いて寝られぬ船底枕、いつそ浮世ぢやないかいな、思  
ひ草あゝ現なの戯れ事、賑ふ家の四季染に、月雪花の三つ蒲団 合 廓の豊そ  
祝しける。

『歌謡音曲集』

**Q** 長唄「翁千歳三番叟」

翁 どつく／＼たらりたらりたらりあがり／＼らり／＼らり 地 ちりやたらり／＼  
らたらりあがり／＼らり／＼らり 翁 所千代まで御座せ 地 我等も千秋候はう  
翁 鶴と亀との齢にて 地 幸ひ心に任せたり 千歳 鳴るは滝の水く／＼鳴る  
は滝の水日は照るとも 地 絶えずたうたりありう／＼く 千歳 君の千年  
を經ん事は天津少女の羽衣よ鳴るは滝の水日は照るとも 地 絶えずたうた  
りありう／＼く 翁 総角やとんどや尋ばかりやとんどや 坐して居たれ  
ども 地 参らつれんげりやとんどや 翁 千早振神のひこさの昔より久しか  
れとぞ祝ひ 地 そやれいぢやとんどや 翁 凡そ千年の鶴は 合 万歳  
樂と謡つたり又万代の池の亀は甲に三極を戴いたり 合 滝の水冷々と落ちて  
夜の月鮮かに浮かんだり 合 渚の砂さく／＼として朝の日の色を朗す 天  
下太平洋土安穩の今日の御祈祷なり 在原やなじよの翁ともそよや何処の  
翁とも 翁 そよや 舞 千秋万歳の喜の舞なれば一差舞はう万歳樂 地 万  
歳樂 翁 万歳樂。

二番叟

三番 おさへく喜ありや我この所より外へはやらじとぞ思ふ 〽あら目出度や  
 物に心得たるアドの太夫殿にそと見参申さう 〽丁度参りて候 〽誰が  
 お立ちにて候ぞ 〽アドと仰せ候程に御身アドの為に罷立ちて候今日  
 の三番叟千秋万歳と舞うておりそへ色の黒い尉殿 〽この色の黒い尉が今  
 日の三番叟千秋万歳所繁昌と舞納めうする事は何より以て安うさふ先づアド  
 の太夫殿は元の座敷へ重々とお直りそへ 〽某座敷へ直らうする事は尉  
 殿の舞よりはいと安うさふ御舞ひなうては直り候まじ 〽あらやうがまし  
 や 〽さらば鈴を参らせう 〽アドの太夫殿に申すべき事の候 〽何  
 事にて候ぞ 〽五月の女房が笠の端を列ね早苗押取つて打上げて謡ふは面  
 白うはなく候か 〽実に面白き事にて候 〽さらば太夫殿に謡うて聞せ  
 申さう 〽これのなんな池の汀に宝御船が着くとんの 〽艦舳にはんな恵  
 比寿大黒中は毘沙門吉祥天女 〽二上り 〽四海波風静き君が 〽御代は畏き天照  
 る神の影も曇らず怨敵退散五穀成就民豊かに 〽八百万代も国や栄えん。

〔歌謡音曲集〕

R 清元「四季三葉草」

〽とつくたらり。たらり。たらり。あがり。らりとう 〽所千代まで変  
 らぬ色の縁立つ春松の花曾我菊の名も翁草そよやいつくの 〽花の滝 〽玲々

と落ちて水の月素袍の袖も千歳の梅が香したふ鶯も初音ゆかしき我が宿の竹

も直ぐなる一節に 〽うつつして四季の三葉草 〽立舞ふ姿いと栄えて 〽桃は  
 初心に柳はませた風のもつれに解けかゝるこちや海棠苔の俣よつら山吹に若  
 楓藤色衣ぬしとてもかざす袂の桜狩 〽その盃の数よりも 〽おさえく  
 悦びありやく幸ひ心にまかせたり 〽千早振る神の昔にあらなくに 〽卵  
 の花垣根白浪の渚の砂さくくとして朝の花の富貴草 〽女子心は芍薬  
 に思うたばかり姫百合の 〽まだ葉桜も染めぬのにそりやあんまりな梨の  
 花気も石竹に軒の妻 〽菖蒲も知らで折添へていつか手活の床の花 〽元の  
 座敷へおもくとお直り候へえうがましやさあらば一枝参らせう 〽そなた  
 こそ 〽君が由縁の色見草うつろふ水に杜若池の汀に鶴亀の縁つれしき踊り  
 花 〽二上り 〽女郎花 〽宵の約束小萩が元で尾花招けば糸薄 〽通ふ心の百夜草  
 こちやく 〽真実いとしらしさうぢやいなおもしろや 〽ナホル 〽時雨の紅葉  
 寒菊や水仙清き枇杷の花の吹雪のさらくさつと山茶花や恵みに花のいさ  
 をしは 〽千代に八千代の玉椿眺め尽きせぬ花の時今も栄えて清元の始まる  
 家とぞ祝しけるく。

〔歌謡音曲集〕

S 長唄「柳系引御撰」

二上り 〽天照す春の日影も豊にて 〽差手引手の一差は昔を今に式三番あり  
 し姿を狩衣に竹田が作の出立栄 〽とつくたらりくらたらりあがりら

りどつ 〱千代の始の初芝居相河原崎賑はしつ 〱人の山なす蓬葉に鶴の羽  
 重ね亀の尾の長き栄を 〱三つの朝幸ひ心に任せたり 〱鳴るは滝の水く  
 鳴ると言ふのはよい辻占よ天津少女の 〱様が許 〱絶えずとつたり絶えず訪  
 ぶのが誠なら日は照るとも濡るゝ身に 〱着つゝ馴れにし羽衣、松の十返り  
 〱百千鳥絶えずとつたりありつてつ 〱本調子 〱その恋草は千早振 〱神のひこさ  
 の昔より尽きぬ渚の砂路や、落来る滝の 〱末かけて結ぶ妹背の好い仲同士  
 に、天下太平国土安穩、今日の御祈禱なり 〱三下り 〱おさへく喜びありや、  
 く我がこの所より外へはやらじと思ふ 〱天の岩戸を今日ぞ開けるこの  
 初舞台、千代万代も 〱花のお江戸の 〱とつば偏に 〱御取立、をこがま  
 しくも御目見得に、ほんに鶴の真似鳥飛び 〱難波江の岸の姫松葉も茂り、  
 爰に幾年住吉の 〱神の恵のあるならば、君に扇の御田植、逢ふとは嬉し言  
 の葉も、浜の真砂の数々に、詠むとも尽きぬ年波や 〱なじよの翁はあだつ  
 き者よ、つい袖引いて 〱靡かんせ添ふも千歳仲人して、水も漏さぬ仲々は、  
 深い縁ぢやないかいな 〱面白や 〱相生の待つ夜の首尾にあふの松 〱ほん  
 に心の武隈も岩代松や首根の松、上りし闇の睦言に 〱濡れて色増す唐崎の、  
 松の姿の若緑 〱千秋万歳万々歳、五風十雨も穩に、恵を願ふ種時きと 〱謹  
 ひ奏でて祝しける。

（『歌謡音曲集』）

〔T〕 萩江節「式三番叟」

三下り 〱とつくたたり、たらしらたらり、あがりららどつ 〱千早ふる  
 神のひこさの昔より 〱此君ひさししかれとぞ祝ひそよや、れいちゃどん  
 どや 〱凡そ千年の鶴は、万歳樂と唄ふたり 〱又万代の池の龜は、かふに  
 〱甲に三きよくを頂いたり 〱滝の水はれいくと落ちて夜の月、あざやか  
 に浮んだり 〱渚のいささくとして 〱あしたの日の色をうつす有難や  
 〱天下泰平、国土安穩長久と 〱君を祝ひて千早振る 〱一さし舞ふ万歳樂  
 〱万歳樂、〱おさへく喜びありやく 〱我がこの所より、ほかへはや  
 らじと思ふ 〱いつもより、今朝打つ鼓の、音のよさ聞けばまことに、聞け  
 ばまことに、ほんにまこと工 〱君さまも、我らも浮れたりとりなじや、お  
 もしろやな、さて目出度さよ 〱あらめでたやな、物にこころえたる、あ  
 どの大夫殿に、そと見参申そつよ 〱ちやうど参つて候 〱たがおたち 〱あ  
 どと仰せ候ほどに、こん日の三番猿樂、きりくしやんと常に舞ふて居り候  
 へ 〱仰せの如くこの尉が 〱千秋万歳、所繁昌と舞はつづることは、何より  
 もつてやすうさふ、まづはあどの大夫どのは、もとの座敷へおもくとお直り  
 候へ 〱鈴をまいらせつ 〱鈴は、駅路の、やんよへそそれよの樂は音は  
 〱イエイくく 〱ジャンゴくくと振ればの 〱太鼓の音はしててん  
 がらよふ、うつはやんさ、しててんがらよふ、うつは 〱神かぐら、みかぐ  
 ら、夜神樂、いつもどんととなるがよい 〱鶴のはがさね千代までも、花は  
 紅白枝をたれ、龜は万代の池の青波 〱波をけだて、どつとつ、入目を招  
 く舞の袖、女波となり男波となり 〱松吹く風はじゆもんをとなへ、とこし  
 なへなる世の中やと、拍子をそろへて千早振、千秋樂こそめでたけれ。

〔U〕 義太夫節「寿式三番叟」

本調子 〔それ豊秋津洲の大日本 国常立の尊より 天津神七世の後 地神の初め天照らす大神 岩戸に籠らせたまひし時 世は常闇となりけらし その時に四方津神 八百万の御神たち 神集めに集めたまひ 燎火をたいて庭神楽 神すずしめと木綿禪 太祝言の神歌や 式三番のそのいはれ をさをさ申すも恐れあり

〔とつとつたたりたたりら たたりあがり ららりとつ ちりやたたりた  
らりら たたりあがり うらりとつ 〔とこる千代までおはしませ 〔我れら  
も千秋さぶらはん 〔鶴と亀との齡にて 〔幸ひ心に任せたり 〔とつとつた  
らりたたりら ちりやたたり たたりら たたりあがり ららりとつ  
〔鳴るは滝の水 鳴るは滝の水 日は照るとも 絶えずとつたり 常にとつた  
り 〔君の千歳を経んことは 天津少女の羽衣よ 〔鳴るは滝の水 日は照る  
とも 絶えずとつたり ありとつとつとつとつ 〔とつとつと鳴る鼓 宇佐の神  
の御役にて 笛の初音も高田や 笛吹の大明神 大鼓は高野の大明神 太鼓は  
熱田の源太夫 いづれも秘曲の打囃子 合 鳴るは滝の水 日は照る神の神いさ  
めされば春日の大明神 翁の袂ひるがへす 扇の手こそおもしうや  
〔あげまきや とんどつや ひるばかりやとんどつや 座していたれども

〔まいろつれんげりや とんどつや 〔千早ふる 神のひこさの昔より 久し  
かれとぞ祝ひ そよやちりやとんどつや 〔およそ千年の鶴は 万歳楽と唄  
つたり）

〔青にぎて青丹よし奈良の都の三笠山 影もあらたに慈悲万行 七五三の歩  
みの大事 十五の拍子とりどりに 〔万代の池の龜は 甲に三極を戴いたり  
滝の水れいれいと落ちて 夜の月あざやかに浮んだり 渚の砂子さくさくと  
して あしたの日の色を朗ず 天下泰平国土安穩の今日の御祈祷なり

〔あり原や 芦原や なじよその翁ともあれはなじよの翁とも そやいづく  
の翁とつとつそよや 〔千秋万歳 喜びの舞なれば 一舞舞はう 万歳楽 万  
歳楽 万歳楽 万歳楽 長久田満 息才延命今日の御祈祷なり

〔おおさへく おお喜びありや 喜びありや 我がこの所よりも 外へはや  
らじとぞ思ふ

〔物の音につれて 立ち舞ふ小忌衣 千歳は近江なる 白髭の御神なり 黒き  
尉は住吉の大神 鼓は浪のどつと打つ 音は高間が原なれや 岩戸に向ふ神  
かぐら ほそろぐせりと吹く笛も ひいやひしぎの音色まで 春は霞の立ち  
姿 二上り 拍子舞 ナラス

サンバン 〔ああら目出度やな 物に心得たる あどの太夫どのに見参 申さつ  
アト 〔ちようど参つて候ふ

サン 〔誰がお立ち候ふぞ  
アト 〔年ごろの朋輩つれ友達 御あとのために罷り立つて候 今日三番叟  
猿楽きりきり尋常に舞つておりそへ 色の黒い尉どの

サン「色の黒き尉が 今日御祈禱を千秋万歳 所繁昌と舞ひ納みようず  
ることは 何より以て安うぞう ますあどの太夫どのは 元の座敷へ おもお  
もと御直り候へ

アト「某が元の座敷へ直り候ふまじ 御舞ひ候へ  
舞のうては直り候ふまじ 御舞ひ候へ

サン「御直り候へ

アト「御舞ひ候へ

サン「ああらよつがましや

アト「ああらば鈴を参らじよつ 命

サン「そなたこそ

「初日は諸願満足田満 二日の日はまた二つ柱 鈿女の神子が ひとふたみ  
よいつむゆななや このたり ももちよるつの舞の袖 皇月のさ女房が笠  
の端をつらねて 早苗おつとり打ち上げて唄うた 千町 万町 億万町 田を  
ばぞんぶりぞ ぞんぶりぞ ぞんぶりぞんぶりぞ 御田を植えるな  
らば 笠買つて着しよつぞ笠買つてたもるならば なほも田を植よつよ 三  
日は福德寿福田満子徳人の子宝 車座にならべた たつまついるまつかいつ  
くひつつく 火打袋にぶらりとつけて候ぞ

「これ式三の故業にて 三曰これを舞ふとかや」 三社の神の舞樂より 国  
常聞もほがらかに 人の面もしろじろと おもしろやの詞を始め いま人の  
世のわざおぎに 神といふ字の篇をとり 申樂と申すこそ げに恐れある神  
遊び 四海浪風おさまりて 高砂の松の葉も ちりやたらりは真言秘密 狂言

綺語の道すぐに 三仏乗の因縁いはれ 脇能修羅ことかつら事

「柳はみどり花はくれなる数々や 浜の真砂はつきるとも つきせぬ和歌ぞ  
敷島の 神の教への国津民 おさまる家」御代「こそめでたけれ

註 ( ) 内の歌詞を\* 以下に代えて用いる場合もある。

( ) 内の歌詞が付け加えられる場合もある。

「二人三番叟」として上演される場合、オキの「国常立の……から、木綿  
襷……までと、とつとつたらり……から、今日の御祈禱なり……までの  
歌詞が省略されます。

『日本舞踊全集』

### 『鸚唄か茵』所収「式三番 三笠風流」

大夫今日の御きたつなり。ウキッレありはらや。大夫たかまがはらのそのむかし  
あまつ。いはこの神歌を。うたひていざやいのらん。二人とつくたらりたら  
りら。ちりやたらりはさていかに。大夫是しんごんのひみつにて。三人たへず  
とうたり。たきのつづみはふくじゅゑんまん太平洋をしらふなり。ウキ又は  
んだいの池のかめは 大夫かうにいたゞく三きよくの。三人なきさのいさごさ  
くとして神の氏子はゑんめいちやうしゆ。まんざいらくく無上しんれい  
しんたうかざと。はらいひ給へば二人はたちま地いき出こちすゞしく見へ  
にけり。ウキありがたやふしぎやな。さもわれ御身たれやならん 大夫我はせ  
いしういすゞ川。きよきみな くみてしれ。二人扱又是成 人は。大夫われは

津の国住の江の。若松しげるきしかげに。としへて。すめるおきな草。はず  
糸の色をつみてしれ。二人今一人の翁は。大夫当国所此山に。むらさきに  
ほふ。明けくれとはれし嬉しさよ。扱はかすが大明神。ひかりあまて  
るおほんがみすみよしの御神を。三人今こそ見つれみかさ山。みつのみかさ  
を。かさしきて天が下こそたのしかりけれ。大夫神はまことのかうべにあそ  
び。二人仏はじひの心に住す。大夫仏神。ワキすいはの。ッレしるしは。ワキ此。  
大夫いけのしら波たきのつみはほろくく。とろくくとはんぎ  
いやのまゆをひらきて。なを行すゑを。まもるべしとの御こゑに八こゑの  
鳥のこゑこゑ神風。山風さ。さ。さつとして明行そらをよく見れば。有しは  
三かさ山ほのくとして神はあがらせ給ひけり。大夫大君しんく五たいにめい  
じ。三人残りしみつの。をかづき。千度の礼拝万度の。をいさめて  
くはんぎよ有。ののう。此時よりぞはじまりけりみたりの翁の舞樂を表  
し式三番とは此めんえん扱こそ。こくどあんせんの今日の御きたうに。五こ  
くぶによつ秋津嶋かぐらは。三十一文字の和歌の道いもせの道。我神の道  
未ひろくやはらぐ。国こそゆたかなれ

W 長唄「櫓三番叟」

げに勇ましき神楽月。匂ふや梅の早咲きに。香りを添へて櫓の。櫓めでたき  
初芝居。(合)とうとうたらりたらり。たらりあがりららりとう。ちりや

たらりと恋する目許。色に名取りの在原や。なじよの翁の神さんも。心も清  
き川橋を。渡し初めたる教へどり。妹背嬉しき盃の。鳴るは滝の水。鳴るは  
滝の水。日は照るとも。現つ心に睦まじう。絶えず問うたり問はれたり。互  
ひの誠明かし合ふ。縁と契りのありうとう。凡そ先年の鶴は。櫓繁盛とうた  
うたり。また万代の池の龜は。甲に三座の市村や。こゝ鼻肩絶えず捧げたり。  
(合)千秋万歳の喜びの舞なれば。一さし舞ふも万歳樂。万歳樂。(合)おお  
さえおさえ喜びありや。恵みに洩れぬこ鼻肩を。外へはやらじと(合)思ふ  
お方を帰した朝の。後の後の移り香を。(合)袂に秘めていつまでも。暁深  
き閨の戸に。日影まばゆき鳥飛び。(合)憎い啼く音もかはいと聞けば。浮  
かぬ顔さへにつこりと。お直り候へ。(合)さあらば鈴を参らせつ。(合)恋  
の種蒔き粋な素袍に(合)立烏帽子。姿勇まし目ざましや。姿勇まし目ざま  
しや。

(浅川ノ蒲生)

X 長唄「菊五郎三番叟」

とうとうたらりたらり。たらりあがりららりとう。所千代までおはしま  
せ。千代も八千代も河原崎。櫓の栄え豊かなる。秋も更けたる翁草。我らも  
千秋さむらはつ。鳴るは滝の水。鳴るは滝の水。日は照るとも絶えずとつた  
り。問うて心の辻占も。逢うて嬉しき恋の仲。互ひに想ふ胸の閨。心の丈を

ぬり枕。明かして言はぬ女気の。言はにやならぬぞいの。恥かしや。末の末の末まで明かさせおいて。今となつて何のかのと。言はんしてもよい事かいな。いつそ初手から邪慳がよいわいな。その後朝の別れ酒。明くる夜告ぐる鳥跳び。おおさえおおさえ喜びありや。我がこの折りより外へはやらじと思ふ。外へはやらじ放さじと。引いて袂や三重の帯。「合方」回り気するも恋の欲。かはいとかけていとしいと。解くか解かぬか言葉の謎も。ほんにやるせがないものを。やるせ波よる住吉の。お前の松風も。「合方」千代の調べの面白や。げにも色そふ初紅葉。何れ若木の枝振りも。外に類ひも名に高き。三番三丁大入りを。重ね扇や今日ぞ賑はふ。  
(義丸譜ノ蒲生)

Y 長唄「蝶千鳥風流三番叟」

「前弾」うつる日の。歩みも遅き不老門。長生殿の奥深く。舞狂言の真似ことも。昔を今に狩衣。絵にあるやつな二人立ち。「合方」色もよく。染めて霞みの薄紅の。梅は匂ひの人は情けの。互ひ違ひの手枕や。風も洩らさぬ友垣に。轉り交はすもろ雀。めでたき御代をことほげば。しやつちよこばつたご挨拶。緑三番ぢやあんめいし。もつさもつさと酒機嫌。少将虎の雨の夜に。とんだ夢見た蝶千鳥。ついた縁で恥かしい。恋の狩場の闇踏み分けて。さて若衆かな女かな。いづれと迷ふ花道に。おはもじながらまかり出で。波に漂ふ沖つ船。しるべの灯し嬉しやと。離れまいぞや遅れまじ。駆け寄るさき

は本舞台。ぐつと睨んだ揚幕に。輝く今日の日本晴れ。おらが育ちは毎度のことだが江戸の真ん中。誰でも来なせえとつとつたらりと。丸めてくれべい見やつ見まねの荒事に。勇み勇みて興じける、春の日永にうち集ふ。この喜びは外へはやらじと。「合方」千秋万歳。唱ふることこそめでたけれ。

(栄一譜ノ蒲生)

1 寛文元年

三月十九日 靈台院殿へ奥方初御呼、祝有

操 番組 太夫江戸筑後掾 年二十三

式三番 但三番三斗

上より 龍田まぶて

あほうまつり 福の神の事

初段 狂言 あこき物くるい 伊勢アコギ浦魚ヲ盗テ父母ヤシナウ事

物クルイ父也

2 寛文七年四月廿二日

同日 昨日、相残小性近習半分并溝口金兵衛、山田勘右衛門堺丁へ遣之

番付 式三番

一 糸ひすはいかい半之丞

一 塩ひあそひ門弥

一 しかたりんき小さらし

一 梅まへの曲吉兵衛

一 恋のきれつりゆき系

一 夢のうき橋久米助

一 やつこ哥枕市之充 小かもん 多門

一 けんさ鶴 但一作日八無之

3 寛文七年五月

同日 天雨晚万晴

暇請之振舞、靈台院殿、豊州奥方、本多内蔵息女、藤太御出、

朝料理、辰后刻操興行、伊勢大掾呼、辰中刻初

番付

三番三 上瑠璃御前

北野まうて 同しやくひやつし

孫のまんあそひ

4 寛文七年七月

同廿五日 天晴

今盤之祝靈台院殿申請、依之内藤豊前殿奥方鳥越より被仰遣御誘引也、長下々女房共祝辰上刻靈台院殿御出小書院二而、三迄ノ振舞予長も袴着長かもしニテ御相供也、盃台靈台院殿御はしめ予二被下之、則返献其盃長二被下予二指、是は、靈台院殿御指図也、膳過テ此方より左右言遣豊州奥方御入来操言付、巳ノ上刻初、伊勢大掾也、浮雲も呼来、菓子持参す則逢、上る理語候へ之旨直ニ言之

番付 狂言 一段め 北野詣 袴着 しゝおとり 車僧

二ノ、花月洛陽 矢ふさめまつり (ニカクママ) に入にや

三番三 上留離 三段 順礼問答 らうたい ころもみのぶみ 糸ほうまつり

酒天童子六段 四ノ、小袖のえん、まくらおと、れんほのきつね



5 寛文八年

十二月二十一日 根井源五郎 村山麻之助 大森一学 山田勘右衛門  
齋藤周雪等振舞 小舞や久右衛門才覚して、太夫さしきかり、見物  
と也

番組

一、三番二 勘三郎弟 長十郎

一、袴着 桜井門弥 花井才三郎

一、ゑんの短冊 今村久米助 永井勘弥 弥五九郎

一、清水やつこ 多門庄左衛門 才三郎

一、惣おどり 子供出

一、時雨のそらねいり 小舞庄左衛門 十郎右衛門 主殿 庄兵衛

一、ちりやくのかけ物

作や九兵衛 権十郎 松島市之丞

6 寛文九年

四月十一日 曇天大風吹、朝少雨降、今晚祝二靈台院殿内藤豊州奥方…

…振舞、操言付、辰中刻過初、太夫伊勢大掾

上瑠璃 内式三番 但ゑほしの段

宇治橋姫六段 内初段、二段、五段小源太夫、永閑語 三段、四段、六段 清五郎語

中ノ語手也

7 寛文九年

九月二十一日 昨日大小姓一番、堀中八郎右衛門、水野平右衛門…  
今日小島十右衛門、長尾三太夫…大谷留齋等遣之、一昨日此方芝居  
同断

番付

一、式三番 但三番三斗り

一、佐夜中山 鈴木平右衛門 坂東又九郎 吉村吉兵衛

万能五郎兵衛 三郎右衛門 久内 玉川主膳

8 延宝元年

九月廿六日 靈台院お慰に操言付、辰中刻初之

杉山肥前掾、弟左近太夫

上瑠璃 花山院 六段有 次第三番三

初段 狂言 三條小かぢ つちの曲 住吉参 猿まはし

箱根詣てうふく 二段 けしやうのへんふく なんまの曲

9 延宝元年

十二月十三日 堺町へ、児小姓内助はしめ村山菴之丞、見物遣

見物の狂言

一、式三番

一、おとり

一、いこんの人たかへ

咲之助  
所三郎  
幸左衛門

10 延宝二年

一、五月十九日 吉辰二付、具足岩井吉左衛門二三云付、……操興行、

伊勢大掾呼、已上刻見物初

番組

三番上るり 和国美人哥論 六段

狂言 一、三面大黒

うはなり桜

一、花月六方

一、文殊智恵くらへ

一、若夷

一、初雪の児

一、なれ初花子

11 延宝三年

十二月十八日 娘縁組仰付候祝儀、朝奥ニテ振舞有

操、薩摩大夫、伊勢五郎右衛門、永閑、清五郎、小平太、二郎三郎、

右四人前へ一人つゝ出名乗、辰中刻始、縁座敷ニテ、大沢右近殿二段過まで

延寿院中二段ほど、喜多見宗幽老(トク)二段より未まで見物

12 延宝六年

三月九日 己酉、天曇時々雨降、京極甲州裡方已上刻被来、……

馳走に見物、鶴屋播磨と万能丸一円一所に成、当正月より堺町にて

為見物仕ヲ呼、表にて簾懸如例、未上刻二始、申中刻二相済

番付

一、福神三番三

えびす 小源太 福祿寿 大吉  
大黒 藤兵衛 布袋 三之丞

何も十斗より十二三歳の子共、頭に其面をかぶり、式三番をする

13 延宝六年

十月十七日 天快晴 千手観世音拜礼、今日八代屋敷ニテ奏者番下川外

記太田太左衛門等云合、予を慰振舞、依之飾西逢坂と云所ニ、比中有

之寄合芝居之狂言師中島弥二右衛門遣呼寄之為見、予は城之寄合二付、

何もへ対面、其より毘沙門へ参詣直……女乗物ニて行、宮内も供、

物女中八先へ遣、已上刻狂言はしまる

操番組 三番三

勇力板額女 六段

初段 語永閑

狂言

一、三人長者

米ま 九兵衛  
ちや平 太次兵衛  
あど 長十郎

一、鷹の硯

九兵衛  
長十郎  
五郎兵衛

一、うき世猿若

二郎三郎  
太次兵衛  
勘四郎

番組

三番三 山本吉三郎

ちりはまおとり  
女 松本市之丞  
同 川上蔦之丞  
同 竹島千太郎

前日二有太夫  
若衆 花井咲弥  
戸川連之丞  
伊藤金作

飛梅老松  
大名 連之丞  
下人 伊右衛門  
さうり取 菊川初右衛門

シテ 金作 神子 吉三郎  
ツレ 蔦之丞 神主 八十島藤右衛門

14 延宝七年四月

二十六日……為馳走操興行、元千代殿甲州も辰中刻御出、元千代殿八奥へ御通、……已上刻操始 太夫薩摩伊勢

番組

三番三上り柿本人丸

15 延宝八年四月

(若月本三テ補)  
十六日 大膳殿表へ出、操興行巳中刻二始

三番三

奥州攻 六段

狂言 三条小鍛冶 伊豆国姥が宿 吉原いなり  
ふく蔵坊 さんやれん拍子 名寄十番切 笹野三人  
上野山おとり 四季らん曲、大坂おとり

16 貞享二年

八月十四日 天曇晚方晴、五ツ時算新兵衛長州へ被越、久太郎操見物二

同道の事

操番組

式三番 高砂 但中入 上瑠璃 富士牧狩 小袖曾我  
より 十番切

初段 狂言 松竹はやし舞、風流茶の湯、小原木

二段 吉原狐二番続 買手はうせ、江戸名所柴垣  
物釣きつね

桜の渡りに水かけおどり、縁日参

17 貞享四年

三月二十一日 今日御目見首尾能基知へ被仰付、祝儀の為操興行、巳上刻二始之

上瑠璃 太郎坊根元記 六段、始前二内匠次左衛門、吉右衛門 次郎三郎  
次郎三郎名乗一人つゝ出 惣領也

三番三 初段 狂言

大福殿 よねま 九兵衛  
かゝ 十右衛門  
大黒 長十郎

庚申遊 男 次兵衛 長十郎  
女 二郎三郎

高雄昔語 高雄 二郎三郎 九兵衛  
若男 長十郎

18 元禄三年

十月十一日晚、今夜慰二門弥と云旨八人座頭と世三云芸するよし今朝十  
右衛門、右衛門内蔵語二付則呼寄近習詰所ニテ芸云付番付とて書出  
一、三番三 一、よねませりふ 一、のせかた 一、こんくわい  
一、しかた上るり  
此内四番聞、まことに三三人の声のまね、鼓太鼓三味線鈴一人にて勤  
此間一学三吉孫内など可呼寄と云付候得共方々へ相越、八弥孫内五右  
衛門庄右衛門など云者来、猿若、碁打、横笛などする、亥后刻二相濟

く不自由可有之、今度の祝儀の條、可情出候旨直三云聞、辰中刻二始、  
戌ノ上刻二濟  
操番付覚

三番三

上るり 大織冠 六段

初段 春の田かへし

米守 右の役者外

茶湯高砂

甚右衛門、四郎右衛門

19 元禄四年

六月十日 父子四人、京極甲州に振舞に行、操辰后刻二始

番組

三番三 太夫 土佐少掾橘正勝

塩屋文正 六段

春の耕し

初段 米まもり

高砂おどり

二段 武命

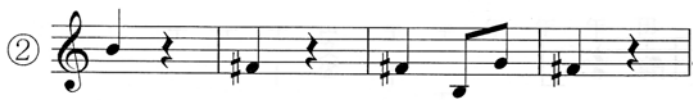
春の緑子

三段 心の二面

片影堂

20 元禄五年

九月五日 所替御加増祝儀二子共振舞、操興行、辰中刻二始以前二土佐  
少掾、頓通、与惣兵衛、つれ小太夫、長太夫、一人つゝ出目見、せま





# 〔聞書き〕 人形浄瑠璃文楽      その上演演目 演出 首など 吉田玉男師と吉田文雀師に聞く

鎌倉 恵子

はじめに

本稿は、人形浄瑠璃文楽技芸員の、重要無形財保持者吉田玉男師、同重要無形文化財保持者吉田文雀師に、文楽の戦前から戦後にかけての演技・演出の変遷や、いわゆる裏方事情等について伺ったお話に基づいている。

両師にお話を伺った年月日と場所は左記の通りである。

吉田玉男師匠

平成十四年 十一月二十二日 国立文楽劇場

平成十五年 三月二十四日 東宝撮影所

平成十五年 五月 十五日 国立劇場

平成十六年 五月 十四日 国立劇場

平成十六年 十一月 十五日 国立文楽劇場

吉田文雀師匠

平成十四年 十一月二十二日 国立文楽劇場

平成十五年 六月 十二日 国立文楽劇場

平成十六年 二月 十九日 国立劇場

平成十七年 八月 一日 国立文楽劇場

平成十七年 十一月 十五日 国立文楽劇場

吉田玉男師のお話からは、文楽では少ない花道の使用や、左遣いと足遣いの出遣いもなされる『勸進帳』や、本公演では見られない、巡業先での舞台に合わせた演出等を含む、昭和八年頃から現在に至る内容を、吉田文雀師のお話からは『日蓮聖人御法海』を始めとする、上演の少ない演目に関する内容を中心に、まとめることにした。

原稿は両師及び京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授後藤静夫氏にお目通しいただいた。最終的な文責は鎌倉にある。

人物名や代数、上演年月日、劇場名、作品名等は適宜（ ）に補った。このうち年月日、劇場名はたとえば昭和二十三年七月御園座上演の場合は、（昭和23・7 御園座）のように記した。

お忙しい中を、何度も聞き取り調査に応じて下さった吉田玉男師と吉田文雀師、両師の仲介の労を執られ調査の場を設定され、適切な助言を下さった、

かつて文楽協会・国立劇場に勤務され、文楽制作に関わられた後藤静夫氏のご協力がなければ、この稿はなし得なかった。改めて感謝申し上げる次第である。

また玉男師の体調の御都合により、時には同師に長年師事されている吉田玉女氏にもご協力いただき、さらに国立劇場デジタル情報課の桜井弘氏にもご教示いただいた。この方々にもお礼申し上げます。

なお、文雀師には上記以外に、昭和二十年代以来の舞台稽古時の慣習や人形遣いの職責、また大道具や人形製作の人々、劇場や首、演出等に関するお話も伺ったが、これは『芸能の科学』33に掲載する予定である。

## 一、吉田玉男師に聞く

### 『勸進帳』を中心に

『勸進帳』の弁慶に初めて出たのは昭和十四年、四ツ橋文楽座で足を遣いました(『安宅関』勸進帳の段)。栄三郎(吉田)さんという、私より十数年先輩の人形遣いがありました。三十二、三歳くらいで立役の足遣いの名手です。その人が栄三(初代 吉田)さんの二番弟子で足を遣っていましたが、岡山のお父さんが亡くなって国へ帰りました。それで代役をしました。本足ではないのです。私は、あの頃は大体番卒に出ていました。口上を言う兵次(吉田)さんという人と、万次郎(吉田)さん、平成十年五月に亡くなった玉昇(吉

田 後に玉米)、本名米谷さん、そういう年寄りの先輩ばかりの中で、私は普通でしたら介錯をしなければならぬのですが、番卒、本役でした。本役で若いのは私一人、玉次郎(吉田)師匠が小割1をしていました。

弁慶の足は、一遍遣いたいな遣いたいなと思っていましたら、丁度幸いに、栄三さんの方から「玉男、代われ」と言われました。それで私のツメの方は誰かが代わりました。この足は大変ですが、文楽に入って翌年ぐらいから、こんな足をやりたいなと思って『勸進帳』は見ていますから、誰かに教わりに行くことはありません。始めの間は黒衣ですが、返しになって道具が変わり光景が変わったところで、特別に左遣いも足遣いも出遣いです。その時は、花道は付けなくて、舞台横で廻りました。四ツ橋でも、いつも花道を付けていたわけではないです。一度付けたことがあります、付ける方が珍しかったです。先代栄三さんは花道を使ったのかな。私は昭和十五年に兵役に行きましたが、その間に花道を付けたことがあるかもしれません。朝日座では舟底にして、殆ど花道を付けていました。私も昭和五十三年七月と五十八年七月に、『勸進帳』で花道を使いました。花道が長いのは南座ですね。

坊主頭の弁慶は見たことにはないです。坊主頭は文三(四代 吉田)さんの頃やっていたのかな。関所の道具はいつも松羽目です。関所で梶下左忠太、番卒の小隊長のような役が時々出るので、最近出しませぬね。この役はこ馳走といえど馳走になる。もと玉造(四代 吉田)さんという人が林蔵という名前になって、健康の都合で、舞台のれっきとした役は遣えないので、この役を御馳走につけました。人形遣いや太夫の都合で出す役です。



弁慶を遣っていて、梶下がいてもいなくても気分は変わりません。

弁慶の足遣いは一回だけで、兵隊から帰ってきてからは義経を遣いました。義経、富樫と遣って、それで弁慶を遣っています。弁慶は紋十郎(二代 桐竹)さんが好きで、遣っていました。紋十郎さんは女形の人です。初代の栄三さんが弁慶をやっている時、紋十郎さんは義経。それで見よう見まねでやれました。それでも立役を遣っている栄三さんとは、遣っていました。大げさに振りをするんです。女形みたいに。義経の時はあまり仕草はつけません。義経は辛抱役ですね。義経は今まで見ていたのを参考にして、人によっていいところがありますからそこだけ採って、ややこしいところは採らないでやりました。義経の足は、やったことがないですね。『勸進帳』の時は殆どツメに出ていますから。

ツメ人形は昔と今とは違っています。今は殆ど足が付きません。昔は百姓には付いていなかったけれど、軍兵とか奴はみな、足が付いていました。わら足です。足は吊っていました。

弁慶の左を持ったことはあるし、富樫の左にも出ました。左にいった時にいろいろ覚えます。四天王は、一番先頭の伊勢の三郎を一度遣いました(昭和22・7 南座)。その次は義経(昭和23・7 御園座)だったと思います。

昭和四十年六月に三越劇場で富樫をやった時は、弁慶は栄三(二代)さんかな。玉助(三代 吉田)さんも弁慶をやっていますね。

富樫は問答のところだけです。相手の弁慶でそんなにやりにくい人はいませんでした。

富樫は「新寄、待て」で止める時は、まだはつきりと義経とわかってはいない。疑いは持ちますけれどね。弁慶が、何だかこう重々しい感じで殴っているというところを見て、察するのじゃないかな。見逃そつと思つまで少し間があります。それははつきりとは見せない。ちょっと面を振って入る。あれからどうなるのかな、富樫は。切腹は覚悟していますね。富樫の二度目の出の時、特に義経を見ないという意識はありません。

弁慶をやる時、参考にしたのは栄三師匠です。師匠は、延年の舞でも何でも、はつきりした形で遣います。問答の間でも理屈をつけながら万事やりまします。私が弁慶をやった時の足遣いは玉志(吉田)、その前は玉女(吉田)。左が玉昇(吉田)。常に足を持っている者が弁慶を遣えるようになるはずですから、見込んで付けます。

弁慶は人形そのものが重たい。延年の舞のところが一番大変で、あそこは舞台下駄を履かずに素足で遣います。その分高く人形差し上げなければなりません。手摺りは半手摺りです。その分、足遣いも大変です。問答のところはすべて太夫さん次第ですね。

延年の振りは榎茂都陸平さんが付け、その後も、舞台稽古の時には来ていました。都度都度、ちょっとしたところを変えていました。陸平さんは他にもいくつか、道行きなどの振付けをしていました。

陸平さんは始めの頃は、無理な振付けもしました。人形に慣れてきたら、だんだんと人形らしい振付けをしてくれるようになりました。左手を上にするところなら、左遣いが右の手で差し金を持ってしなければならぬ。そう

いうことも考えるようになりました。

舞踏的なものは振付けの人を頼んでいます。その時は振付師の動きを、足遣いも左遣いも三人一緒に見て習う。同じ演目でも、間があげば見てもらっています。朝日座からこつちは殆ど林扇矢(沢村龍之介)さんだったかな。扇矢さんは『曾根崎心中』以来何でも。ですが『勸進帳』は新たに誰も振りをつけていません。陸平さんが残した型です。

栄三郎さんが栄三さんの足を遣うのは、私が知ってからは、弁慶ぐらいです。それ以外の足はみな、栄之助(吉田)さんが遣っていました。栄之助さんが亡くなってから、私が遣うようになりました。栄三さんから「玉男にそろそろ、私の足を付けておくんははれ」と玉次郎さんに言つて。今はもう私が筆一本で、誰その足は誰それと決めてゆきます。なるべく門弟のいる人は門弟に遣わせます。門弟の最高の足遣いでね。肝心なところですよ。ですから今のところ「こんな人を、足付けてもろては困ります」と誰も言えません。足も左も私が付けています。

『恋女房染分手綱』の能の定之進、左はこの間の東京公演(平成16・9)は玉女。その前は文雀さん。左は難しい。玉女に遣わせていると、私より玉女の方がよく覚えていることもあります。足を遣って左を遣って、そうしたらその役はその人のものになります。私は栄三師匠のもとで足を遣ったものは、全部その時見えていて遣ってしまふ。足を遣っていた間の自信があるのですね。

弁慶は肚があまりなくて、仕草だけ、形だけ。形を手際よくやればいいよ

うに見えます。得な役ではありませんね。富樫の方がいい役だと思えますが、気疲れします。発散するところがない。弁慶は太夫と三味線に助けられるところがありません。

人形頭取 舞台稽古 大道具など

今はない職責に、昔は人形頭取<sup>2</sup>というのがありました。人形頭取は仕事の範囲が広がったです。今の小割より広い。昔は給金も頭取さんが持つて来てくれました。

その給金の支払いですが、私が文楽に入った時(昭和八年)は、一ヶ月二十五日間の公演です。給金はまず十五日分、一遍に包んでくる。十五日目にもまた十五日分くれる。それで余ります。翌月あと五日間残ってます。し残しです。し残り分だけ働いてその切れ目に、次の十五日分をきちんと持つてくる。ですから給与を払う日は皆、違いました。

人形頭取は小割もしました。小割というのは、配役が松竹からきましたら、一つの人形に対して左と足の人を付けることです。小割帳がありました。

出遣いが決まると、出遣いの者にだけ一人十枚くらいずつ、人形頭取が懐紙を配りました。顔を拭いたりする油とりです。化粧をしている人もいました。

昔は出遣いはあまりなくて、黒衣が普通でした。大阪の白井松次郎さんは、文楽の古いことを守っていこうとして、切場は黒衣で、道行のような景事の時は出遣いと決めていたのです。ところが東京に行くと、東京の大谷竹

次郎社長が、全部出遣いにしてしまつ。「人形遣いからスターを出さないかん」と言う。スター作りに一生をかけた。ですから昭和十六、七年頃から、東京へ行つたら出遣いでした。初役のような場合は、黒衣の方が思い切ったことが出来ます。ちょっと危険なことでもやってみようか、そんな時には黒衣の方がやりやすいですね。

入門当時、人形頭取の玉次郎師匠のことは何も知りませんでした。人形頭取をするのは偉い人、ということも知りませんでした。偉い人の割には、人形はあまり遣つていませんでした。その時分、『繪本太功記』の大序の浪花中納言、それだけ遣つて終り。楽屋で鍋物して一杯飲んで、あとは座つて頭取の仕事をするだけでした。頭取は早く楽屋に入る日も、そうでない日もありました。入つてもし欠員があつたら、「代役誰それ」「足誰それ」と言っていました。

戦前の舞台稽古では、人形遣いは全部、稽古袴を着けました。白に縦縞で木綿、それを着けてちゃんと出遣いの格好をしてやりました。稽古の時、人形遣いの方に、太夫の方には行っていないはずですが、南なんいちという食堂が、お弁当、おむすびを差し入れてくれました。おむすびにちょっとおかず、煮染めくらいがついて、それがどつと塗りの盆にのつて頭取部屋へ来るので、そこに若い者は皆、食べに行きました。

それから櫓太鼓、今はありませんが、戦後の一時期までやっていました。舞台稽古は夜遅くまで、十二時頃までかかりました。正月公演は昔は元旦が初日ですから、明るる日は朝から舞台。その上、早くから私ら若い者は接

拶回りで忙しかつたですね。

舞台装置は、昔のものをたどつてやっていますから、そんなに変わっていないと思います。大道具の人たちの名前は余り覚えていません。いつも同じ顔ぶれだったと思います。大道具はウチからでも一人や二人は器用なのが、自分たちでも作っていました。その時分は、本当の大工もいました。大きいものを作るのは、大工でした。覚えてるのは川辺の繁やん（繁太郎）。大新（大工新吉）。河井熊やん（熊太郎）。棟梁は繁やんで、その人が主な人形遣いの所へ、道具帳を持つて行つて相談していました。

大塚克三さんや松田種次さんが絡むようになったのは、私が入つた昭和八年頃からです。そんな時代には、私は道具帳を見なかつたから、色の付いた道具帳かどうか知りません。今ある道具調べ3というのはなくて、人形頭取さんだけが大家さん達と相談していました。あとは主な遣い手のところに、棟梁が「出来ました」と言つて見せていました。稽古の何日ぐらい前に持つてきたか、私らはわかりませんでした。前の公演の最中、最後の頃かな。それぞれ3の主な役には、見せに行つていたのでしよう。私らには届かなかつたです。

舞台稽古には暇がかかることがありました。道具帳があつても、初めてそこで道具を見て、「ここが狭い、コセコセしている」と言われることがあります。今は前もつて道具調べがあるから、進行が早くなりました。

道具にダメを出すのは難しい。人形頭取なら当事者がみんな、やはり許せたんでしょうね。昔、道具にうるさかつたのは、門造（五代 桐竹）さん、玉

造(四代 吉田)さん。栄三さんや文五郎さん(三代 吉田)はあまり言わない。ダメが出てちよつと直す間、太夫さんは、待つていました。

大道具方は、一番忙しい頃は十四、五人いました。私が入る一年半ほど前に、玉丸(吉田)、彦やんという道具方の甥、この人が道具方をしていました。玉造さん、つまり玉松(二代)さんの弟子になったのです。弟が先に文五郎さんの弟子になりました。文枝(吉田)といましたが、のち亀三(桐竹)になりました。戦後は、郵便の方へ行きました。

歌舞伎座や東劇(東京劇場)は文楽座と大きさが違います。長谷川大道具がない時分でも、歌舞伎座はその大道具方がちゃんと作っています。長谷川の時代になると赤帽、青帽というのがいました。赤い帽子と青い帽子を被っていて、それが道具の監督でした。道具帳を事前に渡しておいたのでしょうか。稽古の時、東劇や歌舞伎座に、棟梁の繁やんが来ていることがありました。

後ろの道具の絵は、昔はどこでもみな、大体ぼやつと描いてありました。

### 地方巡業

戦前は北海道などは行きません。宇都宮とか新潟もなかったです。北の方は、あまりなくて、東京までです。地方に行くとか舞台が大阪や東京より小さくて、いつもと違つたり方で人形を遣つてることがありました。

その時分は、行く先で道具を作るのは無理で、トラックに積んで行つていたとします。何でもトラックに積んでいましたからね。地方の舞台は、先

ほど申しましたように、大体小さいですから、道具が飾りきれない。そういう時は黒幕でその部分を隠してました。

映画館での公演もありました。それでよくスクリーンを傷つけた。そうすると罰金を払わないといけません。

巡業の時、人形や小道具はチッキで運びました。道具はよく覚えていないけれども、小屋によつては、行先にある物を使いました。歌舞伎の障子のよな物がある時は、それに敷居が付いています。それは人形遣いが動く時邪魔になるので、チョン切つてしまつて使いました。

『先代萩』の「御殿」では、栄御前が出る前に、普通は政岡や八汐達は奥へ入ります。けれども巡業先で、正面の襖に敷居がある時は、奥へ入れないので、栄御前が出る前に八汐とか沖ノ井とか、下手へ入つてまた下手から出てきました。それで上手や下手は襖で囲いました。巡業の時は、行く先々で違う道具が結構ありましたね。

### 劇場 楽屋のことなど

四ツ橋文楽座は人形芝居には、もつてこいの劇場でした。東京は劇場が大きい。大きいから、四の替わりぐらいまで出して、お客様を出来るだけ何回も見に来させようと思いました。白井さんが亡くなって、大谷さんになってから、東京の公演では、人形遣いは袴を止めることにしたのです。そのわけの一つは、戦争で昔の袴が焼けてしまつて無い。それでもらった着物の派手なのを女形の人などは、袴にしたので、人形が負けてしまつ。それは目立つた

でしょうね。それで袴だけに人形遣いはなりました。人形を活かすということには我々は賛成ですからね。

白井さんはやはり文楽には通じていました。白井さん、大谷さんと、それに付いている奥役は皆、大阪の方が文楽を知った人が多かったです。

その時分、東京公演は年に二回、七月と十二月でした。ですから旅回りみたいな感じがしました。戦前は東劇に行つて、それから歌舞伎座で二回やったことがあります。そして明治座、新橋演舞場にも出ました。演舞場は楽屋が舞台の裏にあつて、疲れないのです。歌舞伎座は楽屋が遠い所にあつて、舞台が閉じてから人形を持って行くのが大変でした。ですから東京の国立劇場が建つ前に、早くからいろいろな人が劇場の建て方を注文した時に、私は新橋演舞場や御園座のように、舞台の裏に楽屋があるようにしてもらいたいと言いました。

四ツ橋文楽座の二階は、人形の部屋が多かったです。舞台の奥行きは狭い。舞台の一番奥に背景をのせたら、人形は下手へ入つて次に上手から出る時は、廊下を通らないと駄目でした。舞台の裏は、一杯に背景があつて通れませんから。(次頁の平面図参照)

この四ツ橋は御霊文楽座を基本にして建てたのでしょつ。楽屋もね。御霊のことは知りませんが、四ツ橋の客席を枱席にしたようなものだったのでしょつね。

入門した時分は、三時か四時頃の開演で、夜の十時頃終わりました。その頃にならないとお客は来ない。心齋橋は十一時過ぎに終つてもカンカン、明

るかつたものです。昔ですから上の者から下の者まで、楽屋に泊まっています。結構、そこに住んでる人もいました。十一時半になつても煌々としていて、電車や市電も十二時頃まで動いていました。

楽屋は四畳半くらいの部屋で電気はついていました。火鉢の他、鏡台もありました。小さな鏡で、それをこちら側におきました。押し入れがあつて人形を吊つて、小さい鏡を見ながら足の稽古をしていました。玉次郎師匠と紋太郎(桐竹)さん、今の簗助さんのお父さんがいました。玉市(吉田)さんは向かい側の長火鉢の所で、玉市さんと玉次郎師匠が向かい合わせで、私と四人一緒。こんな小さな座布団を置いて、ここにおるでという印にしています。玉次郎師匠は、壁にもたれて寝ている時の方が多かったですね。四畳半に四人で、四人目の私は殆ど数に入っていない。幕が開いたら出て行って、師匠に「お前は部屋に座る時ないな」と言われてね、いるようなないような形です。舞台を見ている方がいいというようなものでした。

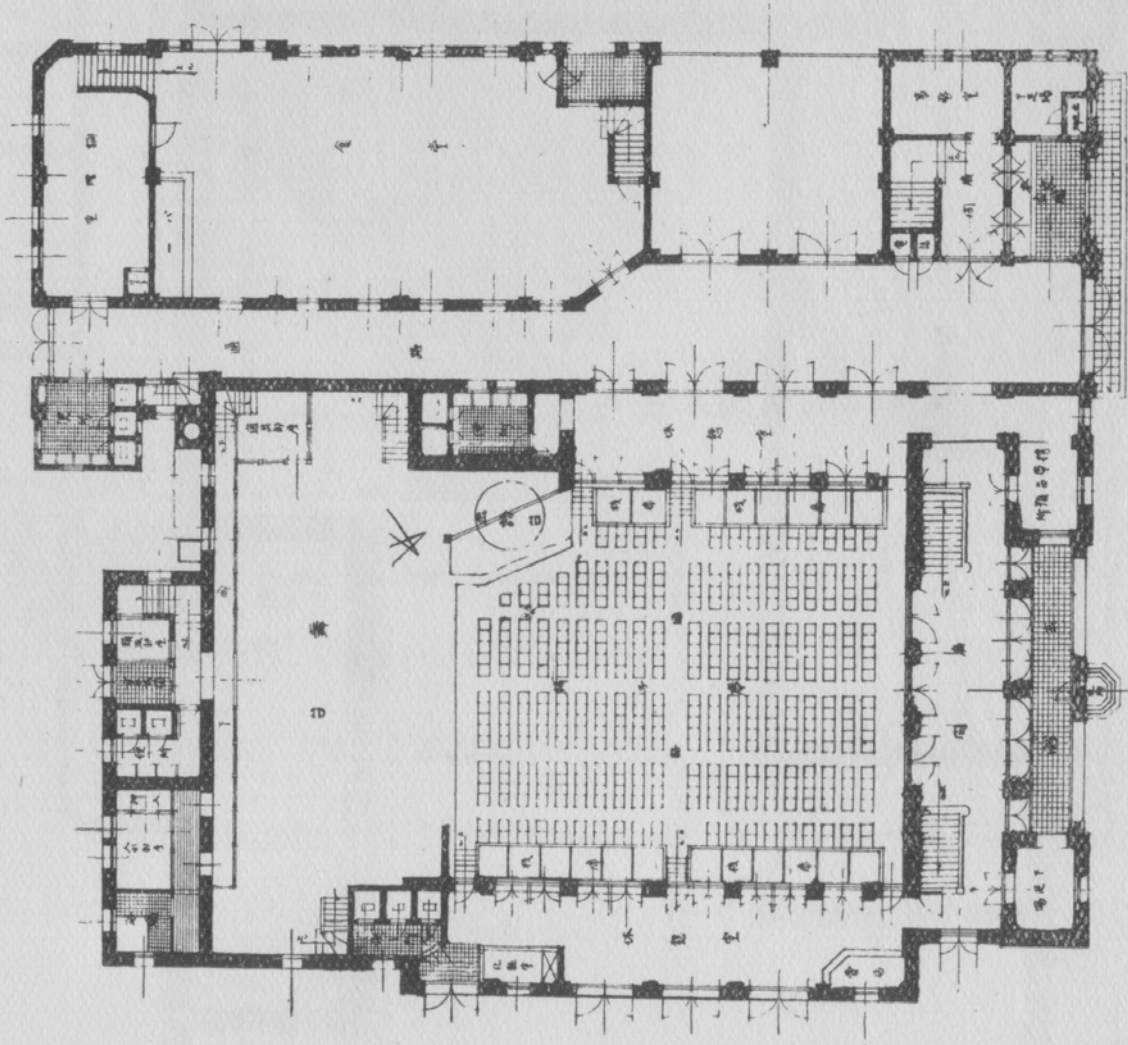
部屋は引き戸で、襖。暖簾を吊っていました。人形遣いの部屋は楽屋の一階にありました。四ツ橋の楽屋はね、隣が風呂場。夏なんかは風呂場の湿気で虫がわきます。鉄筋コンクリートではありません。一階から二階へ上る階段の所に三番叟棚がありました。兵次さんが作ったもので、御霊にはありませんでした。三番叟は兵次さんと決まっていました。兵次さんは口上と三番叟、ツメが付くという程度です。

二階へ上がったら栄三さんの部屋がありました。栄三さんの部屋は六畳弱だったかな。そこに弟子達もいました。こつち側に扇太郎(吉田)さんがい

四ツ橋文楽座楽屋図【136頁：一階 137頁：二階・三階】  
松竹土地建物興業株式会社刊『文楽座建築概要』より  
(昭和4年12月 文楽座竣工記念配布物 児玉竜一氏蔵)

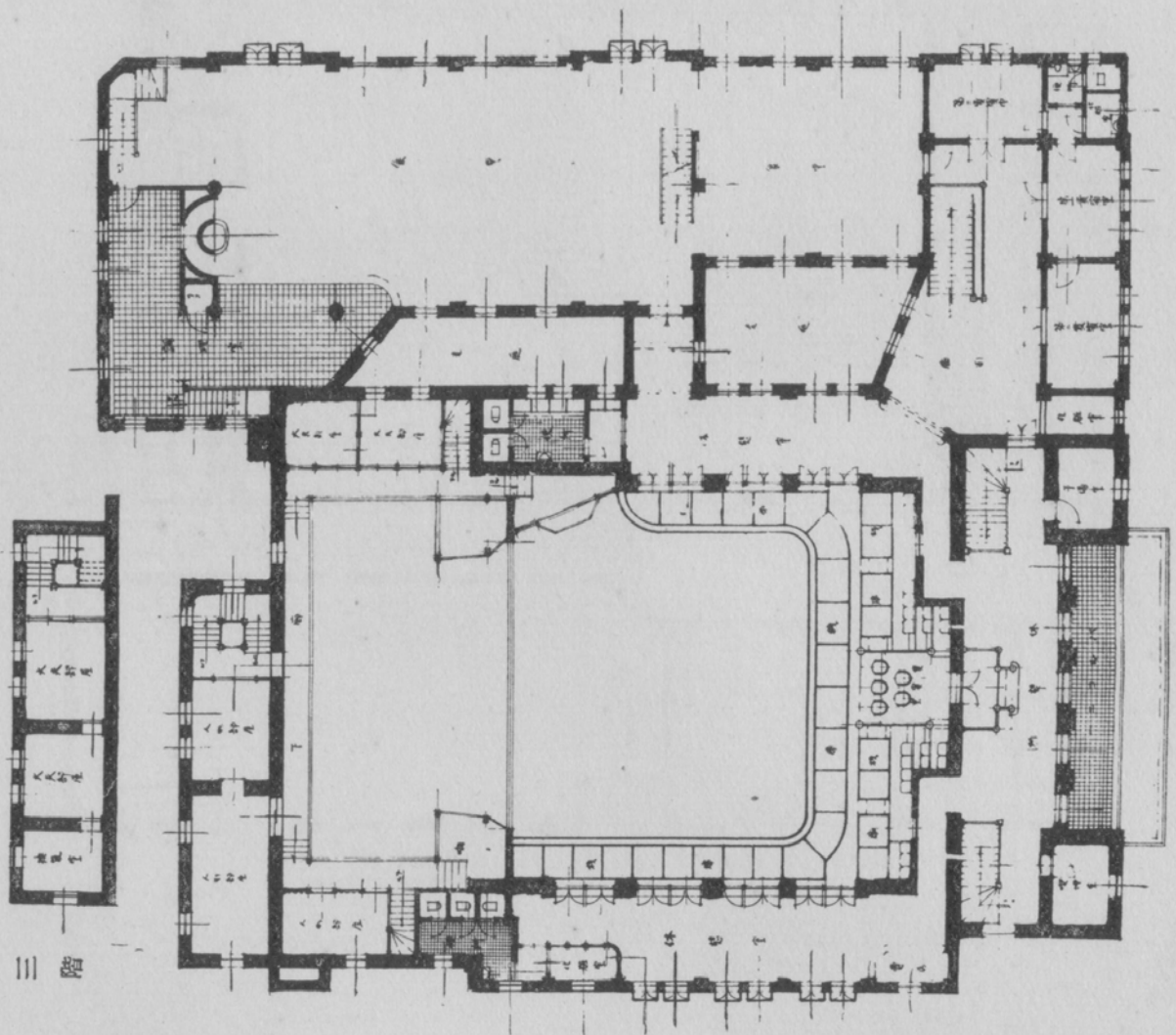
### 高階平面圖

建坪 三七二・〇五八〇坪



貳階平面圖

建坪 二七九·二六〇坪



參階平面圖

建坪 一五·五〇〇坪



た。二代目栄三(当時三代光造)さんと栄三郎さんと栄之助さんがいて、兵次さんもいたから、六人ですね。

文五郎さんの部屋も六畳くらいでした。文五郎さん、紋十郎さん、亀松(四代 桐竹 当時吉田文作)さん、文之助(吉田)さん、文二郎(吉田)さん、紋司(桐竹 後に二代吉田玉五郎)さんもいた。入る楽屋は決まっています。三階に大部屋もありました。玉松さんと玉七(二代 吉田)さんがここにいて、こつち側に門造さん、ここに玉幸(初代 吉田 後に三代玉助)さん、その隣が小兵吉(四代 吉田)さん、政亀(桐竹)さん。門造さんの隣に誰がいたかな。私が入ってから後、多三郎(吉田)さんがいた。大部屋でも小さい鏡は持っていました。栄三さんみたいな立派な鏡台を持っているのは、文五郎さんと紋十郎さんと、三人くらいでした。

小道具部屋があつて、ここに床山がいました。玉米(吉田)さんに利男(吉田)さんが髪をやっていました。

文五郎さんの部屋をこつちへ行ったら、囃子部屋です。ここから楽屋の向こつち、二階の廊下をずっと行くと、土佐大夫(六代 竹本)さんと津大夫(三代 竹本)さんの部屋。二人が一緒にいるようなことは滅多にありません。昼出た人はその後、帰ってしまいますから。駒大夫(七代 豊竹)さんの部屋がこつち。大きな部屋は古鞠大夫(二代 豊竹)、後の山城(豊竹山城少掾)さん。こつち側は弟子とか、三味線の人とかがいました。綱大夫(八代 竹本 当時四代織大夫)さんはここに一緒にいます。若大夫(十代 豊竹)さん、つまり呂大夫(三代)さんはここだったかな。鍛さん(五代 竹本)と駒さんと大隅(四代 竹

本)さん、文字大夫(七代 竹本 後に六代住大夫)さんもいたと思います。お三味線と太夫の部屋は一緒です。楽屋で一番大きな部屋は、人形の部屋でした。楽屋頭取<sup>4</sup>の部屋も別がありました。

モーターはなくても舞台の音は、人形頭取部屋にはよく聞こえます。下はよく聞こえます。上も聞こえないことはないでしょう。栄三さんの部屋は楽屋口が上がった所で、外の雑音が入って、全然聞こえません。

御霊の時の楽屋は知りませんが、師匠によると、四ツ橋のに似た感じらしいです。四ツ橋は広くなったことはなつたのでしょう。客席は近代的な椅子席にして、「紳士淑女の来るような所にしたから、あまり品が悪いといかん。舞台で怒りつけたり、殴ったり、蹴飛ばしたり、そういうことはせんように」という、お触れが出ていたらしい。

さっき申しましたように、四ツ橋の大きさは、文楽を見るのに一番適していました。音の通りはいい方です。そして遣いやすかった。四ツ橋は客席が二階まであつて、上から船底までが見えます。横へ来たら端までずっと見えます。正面には映写機の部屋がありました。

手摺りは、四ツ橋の時代は、下げたり上げたりすることができました。手でガチャガチャやって、途中で止められました。吊りものでもみな、道具方が手でやっていました。手摺りは一枚か三枚ありました。土手摺りと、波手摺りと雪、三つくらい。それが換えられました。大道具と同じ綱場の方の、太夫の床の後ろに手摺り用の綱がありました。玉次郎師匠が舞台に出る時は、足の低い下駄を履いて人形が遣えるように、手摺りを下げさせていまし



た。二尺八寸と一尺六寸の手摺りは、四つ橋の時代はずっとありました。焼けた後は、あまりそういう高低を注文つける人がいませんでしたから、手摺りは元の通りに直してあったどうか、気がつきませんでした。

#### 先人のこと

栄三さんの遣い方は、以前は女形をやっていたという感じはありません。文三さんは私には知らない人ですが、どんな遣い方か何となくわかりますね。まあ、昔の荒事師です。人形らしい恰好をする遣い方だと思います。細かいことを気にしない。型は決めましたけれど、肚まではあんまりない。玉助さん、玉幸さんもそんな遣い方をしていました。その人のやりやすいようにして、それで、目立つ。昔の人形芝居の遣い方でしょうね。その人物の心境なんかは見ていてもわからない。昔は難しい劇評などは出ませんから、それでいい時代だったのですね。

栄三さんは劇評を気にしていました。文五郎さんはあまりかまわなくて、栄三さんよりは劇評に目を通していませんでした。座席が変わって楽屋も変わって、お客様が変わって劇評も変わって、芸も変わってくる。四ツ橋になってからうんと変わったのでしょうかね。

栄三さんはいろいろいるところを改革していきました。たとえば、『鎌倉三代記』の高綱。彼は襷をかけていますが、文楽の場合、襷は余裕を取って、袖はぶらんぶらんして腕をむぎ出しにしていない。それで昔は襷をかけて腕まくりをしていました。栄三さんが遣った時も扇太郎さんという左遣いが、

高綱が足をかけて決まるところで、腕まくりをするようにしていました。けれども襷をかけているのに腕まくりするのは理屈にあわないので、玉次郎師匠が、たまたま栄三さんの左遣いがいない時に左へ行って止めさせた。栄三さんはいつも通り腕をまくるつもりでしたが、玉次郎師匠はパツと左手を胸の前にもってきて、やらせませんでした。玉次郎師匠は左遣いの名手でした。その頃の人形遣いは、襷をかけて、それが腕まくりをしている格好だということに、気がつかなかったのですね。それから栄三さんも直しました。

昔の照明では、何もかも派手に遣わないことには目立たない感じですね。今と栄三さんの時代とでは照明は違ってきますから。劇場に困らぶような芸をするようにします。今は臭い芸は具合が悪い。その時代時代が変わってきたのでしょうかね。

#### 照明 衣装

御霊文楽座の照明は、昔、灯火でやっていたようなのに近かったのでしょうかね。四ツ橋は御霊さんのとくらべたら、明るかった。朝日座になったらもっと明るくしていました。照明の技術者は、四ツ橋文楽座にはいました。御霊さんの時も一応、いたのでしょうね。太夫さんや人形遣いから照明が変わってどうこう、そんな話は聞いていません。人形遣いは照明について、あんまり気にしていません。明るくなったといっても、そんなに極端なことはないですからね、私もあまり気になりません。けれども、首を作る人は気にしていました。新品の首は「光ったらいかん、光ったらいかん」と、

それはやかましく言って、塗りで加減しました。

衣裳は松竹の衣裳部であって、それを行李に詰めて持って来ました。私が入った時は玉七(二代 吉田)さんが係りでした。人形頭取と一緒に行って、向こうの衣装方の偉い人と一緒に、襟から襦袢から下着からみな出して、これとこれとこれという風に選んでいたそうです。一時、千日前のダイエイの裏に衣裳部がありました。そのことしか知りませんね。衣裳部のこと。私に行ったことはありません。附帳はあるけれども、玉七さんがしていた時分は、頭で覚えているだけでした。今の衣裳部はちゃんと帳面があって、それに記入していますけれどね。昔は玉七さんの記憶だけです。玉七さんがいなくなつてから、戦後は紋太郎さん、今の養助さんのお父さんがやっています。この頃の衣裳は今のと殆ど変わりません。人形遣いで衣裳の柄まで注文する人はいないからね。衣裳の係の人がやっていました。

### 首に関して

人形の首が、今風の感じに変わってきたのは、大江巳之助さんからです。昔の首はどうしても、田舎臭い。木偶でくという感じですよ。

衣裳と首と鬘、これはみな文楽協会の所持品。胴が一番大事ですから、胴に手、足、そういうのはみな自前です。手足は大中小と三番、四番くらい持っています。だから全部で手足が十何番あります。それが卵色と白色とあります。首が卵なのに、手が白ではおかしい。白から卵色に塗るのは塗りやすいのですが、卵色を今度白にしようとしても、ちょっとやそつとでは白

くなりません。卵色のに何回も塗ります。そうすると塗り盛つてきて、手が水ぶくれみたいにくれてしまいます。そうすると遣いにくくなります。ですから卵色は卵色、白は白で持っています。二枚目の手は大体白。忠兵衛とか治兵衛とか、そんな手は白です。首の検非違使以上のものは、白にしたりしますね。卵色は卵色で同じような大きさのを持っています。

手足は殆ど大江さんに作って貰いました。今はもう新しいのは作らないです。今作るのですたら大江さんの弟子がおります。人形細工人の村尾さんで、大江さんの最後の弟子です。首は個人で持っているものもあります。手を製作して貰う時に、特別の注文はありません。みな、同じような手足です。手足の塗り直しは村尾さんともう一人、村尾さんの後輩がいます。手足は何回も塗ったら削ります。手足の材質は首と同じ桧。二枚目の桐の手を持っていたことがあります。軽いですが、桧の方が丈夫です。手はあまり軽すぎても具合悪いので、やはり桧の重さが適当です。

復員して戻ってきた頃は、空襲で神戸で焼けたのかな、文楽の殆どの首がありませんでした。一部は残ったわけですがね。そんな時分に淡路のお医者さんで、松谷辰造さんという趣味で人形持つてゐる方がいてね、そこから首を借りたり、小道具などもいろいろ借りました。刀もみな小道具の管轄です。刀も役に応じて大小いろいろある。小道具は、随分なくて、そういうものは一応みな、借りました。

その頃、由良亀さんという、文楽好きで細工人になつた人がいました。その由良亀さんの首も遣いました。この人の首は、素朴というか、ちょっと

荒っぽい作り方ですね。そんなに大江さんみたいにピシリしたのではなくてね。『夏祭浪花鑑』の義平次に遣う時は、義平次が泥から上がってくる方にするなら、間に合うような首です。それでも戦後、首が足りない時は、よく遣いました。

大江さんは徳島にありまして、注文して作って貰ったのです。家に斉藤清二郎の昔の写真があつて、それを彫る時、参考にするのに貸しました。それで娘の首を一番、送ってくれました。それから二枚目の首を、自分で作って貰ったこともあります。文七も自分で持っています。こちらの協会の首で間に合いますから、滅多に使いませんけれど。源太も大江さんに作って貰いました。そういう首も首部屋に預けています。私が遣う時にはその首を遣うことになっています。

文七も源太も検非違使もみな持っていました。けれども文楽協会の時分に頼まれて、首を二番か三番、売っています。娘は家に飾ってあります。文七と源太はここ（首部屋）に預けてあります。

私は二十一年の夏に兵隊から帰ってきました。それから三ヶ月、他の仕事をして、文楽に戻った頃には、首は一応揃っていました。それでも皆「これは借ったものや」と言っていました。少しずつ松竹衣裳部の方で衣裳や、小道具も作るようになってきました。私は、自前で拵えたものもあります。小道具に預けたままのは、ほっとくからどうなったかわかりませんね。今ここに（国立劇場楽屋）ある刀も自前で大事です。責任を持ってここに置いています。文楽の人形に合うような刀は、普通のとは変わっていますからね、誂え

ています。刀凝りです。刀に凝っています。刀でも他の小道具でも、自分で注文しているいろいろ作って貰いました。劇場の小道具ではなくて外の人に拵えて貰っています。なるべく貸さないようにして、自分が必要な時にはその刀を使う。抜かないものは中を、素材で工夫して軽くしています。歌舞伎で使うような刀を持ってきたら違いますからね。ボチボチと文楽風に直してくれましたけれど、長刀など作ったら大変ですね。

栄三さんの足を遣っていた頃、栄三さんは立役・座頭でした。『夏祭浪花鑑』の団七の首を、文七の首に変えたのは、栄三さんではなくてその前からです。『夏祭浪花鑑』の団七は文七が適当です。団七の首では悪者になりますから。あれは悪役ではないのだから、文七がそれらしい。

栄三さんは、由良助（『仮名手本忠臣蔵』とか菅丞相『菅原伝授手習鑑』）で遣う、孔明という描き眉の首を、眉が上がるように大江さんに作らせたことがあります。『忠臣蔵』四段目用に、「どうしても眉毛が欲しい」と言つてね。由良助が判官が切腹した刀を取り上げて、眺めて覚悟をする。自分は敵討ちをしなければならぬ。悔しいつてね。それでこうして、血の付いたところを舐める場面があります。そのためにこうと決まってテン、テン、テン、テン、テンと腕まくりをする。そういう恰好をする時に、眉毛が上がりんと頼りないということ。懐剣を見上げているところ、「睨んで」で眉を上げました。私らの師匠は栄三さんがそんな、眉が動く孔明を作ったりしたのに反対しました。「昔の人はそんなの無しでやった。遣い方によって、眉毛が上がっているように見せないかん」と言つて。その首は栄三さんの自前です。

ですから遣わない時は家へ持って帰っていました。それで戦災で焼けてしまいました。

私は眉が動く孔明は作らせていません。大江さんがいませんからね。孔明の首はなかなか難しい。大江さんがいなかったら、そういうものは作らせられません。大江さんの孔明は、前に作ったものにいいものがあります。それは孔明らしい。同じ孔明の首が上中下と三番あります。栄三さんは菅丞相の二段目の偽者の時、動かさないけれども眉毛付きを遣っていました。

三番ある孔明のうち、私が遣いたいのを文雀さんが心得ていて、首割くでまわしてくれま

す。私はある役について、首の種類を変えたことはありません。『鑑の権三重帷子』の時、首が壊れたので作って貰ったことはありません。朝日座で上演した時(昭和42・7)でね、四ツ橋文楽座は五百人ほどが入る小屋ですが、朝日座は中に二階もあるし千人入る。それでちょっと大振りの首に変えて、作って貰いました。その大振りにした首は、『鑑の権三』に一回か二回遣いました。その後、もう必要ないから松竹の方へ売りました。女形のも父親のも、首を持っていました。それも、文楽協会が首が足りないように言ったことがありまして、協会へ売りました。その首を今でも遣っています。

『忠臣蔵』五段目山崎街道の定九郎は、普通は文七の首を遣いますが、以前に大団七に変えたことはあります。でも公演半ばで止めました。昔は定九郎は褌袍を着てね、首は団七で今みたいな色男ではなかった。今の白塗りの悪党は歌舞伎の真似です。

劇場が大きくなってから、首を大きくしたことはあります。それは『妹背山』の道行「恋の芋環」。あそこの場合だけ、お三輪と求女と橘姫の首を大きくして、人形も衣裳も大きくしました。それで一遍やることになって(昭和31・8 道頓堀文楽座)、私が求女を遣いました。人形は二まわりぐらい大きくして、小学校一年生ぐらいの子の大きさで、今の検非違使より大きい。千人以上入れる道頓堀の文楽座の時です。大谷さんがそういうことを考えたのでしよう。それで文楽用の花道、舟底にしてあるの使って、やりましたけれどね、やはり情がない。足も重たい。今までの首の大きさでないといかん、ということになりました。評判を聞くところまでいきませんでした。一興行はやりましたが、扱いにくくて、人形遣いには評判が悪くて、それ一編ざりで止めました。

娘役の首が昔より少し大きいのは、劇場が大きくなってからです。立役は変わっていません。立役は今までのままで、腕次第で大きく見せるということです。

思いつくままに

公演前には、立稽古たてげいこというのがあります。舞台稽古の前の日で、人形は遣いません。こういう語りと、太夫が語るのを聞いていて、そのつもりで遣います。大阪の場合、一通り立稽古というのがある、それからこちらは遣う段取りを考えるわけです。その次の日が舞台稽古です。

人形遣いは、それぞれ首の後ろを見て遣うことになっています。下を見る

ことでもあります、あまり見ていると客席を、お客様を見ているように思われます。本当は私は近眼で、誰が来ているか、客席を見てわかりません。今月(平成16・11 国立文楽劇場)の由良助は、しんどいですね。判官切腹の間が一番しんどい。明け渡しも独り舞台、思い入ればかりです。難しいですよ。もちろんやり甲斐はあります。七段目もそうです。一応座頭ですからね。九段目はしんどい。

『菅原伝授手習鑑』の菅丞相も天拝山をやる時は堪えますな。牛に乗っている間がね、「春を忘るな」、あの間がしんどいです。動きがないような、首だけで懐手、そういうのが難しい。手振りをしないで、首だけで遣うのが難しい。

丞相が天拝山で火を噴く時は、首は丞相の首。火を噴くのは仕掛けの花火で、介錯人が花火に火をつけてピュと。昔から、下手なのがやると主遣いは焼かれる。今の清之助(吉田)が介錯人でやった時に焼かれました。自分にしたことはありません。天拝山は左へいったから、足は遣ったことはないです。

足遣いと左遣いは小割で決めます。その小割をやっています。左や足は主遣いの弟子がやることが多い。特別な時、『勸進帳』の弁慶などは、「あれに足遣わせてくれ」と言っ、別の師匠の弟子を頼んで来ることはあります。人形遣いが病氣したりしたら代役を立てなければなりません、下からやめられると小割は困ります。下が倒れると「寺子屋」(『菅原伝授手習鑑』)なんかは、小割をしにくくてね。「寺子屋」は足遣いが足りません。左をちょっと

稽古しかけた人に、いい役の足を遣わせたりしないと。そういうことがあって、下からやめられると困ります。

下は養成を出た人とそうでない人と両方です。ウチにいる弟子で、玉翔(吉田)というのは養成に入らないで、研究生で入ってます。そんな人がたまにいます。この四月(平成16・4)からの新しい研究生では、人形部志願は二人です。大学出の二十一歳と、もう一人は高校出で十九歳くらい。みなもう、年がいつていますけれど、その歳で足を稽古しなければなりません。太夫希望が一人と人形希望が二人。これはもう、二年目くらいから実習させようと思っっています。一年研修で教えてね。実習で見習う方が為になる。養成から上ってきた人と、研究の人と、本人の性分によって違ってゆきます。努力と性分ですね。

文五郎さんが「鮎屋」のお里を遣った時、初代の栄三さんは権太、私は六代君を遣っっています(昭和12・3 四ツ橋文楽座)。兵隊から帰って来た時は、この六代君を遣って十年目くらいかな。十九歳で六代君で二十九歳の時、もう維盛にしてくれました。三味線は清六師匠でした(昭和23・6 四ツ橋文楽座)。六代君を遣ったら、そのさきは維盛です。その時分から維盛を遣っっています。今の若い人はこんな風には、役もなかなか廻ってきませんしね、気の毒です。

(注1) 人形の左遣い、足遣い決めること。

(注2) 人形遣いから舞台全般にまで目を配る重要な役割で、人形遣い全員の意向で選ばれた。

(注3) 主な人形遣い、制作、大道具の係が前もって打合せをすること。

(注4) 楽屋全体の世話係で、本社から派遣されて来る松竹の社員。

(注5) それぞれの役に使用する首を決める作業。

## 二、吉田文雀師に聞く

『日蓮聖人御法海』に関して

『日蓮聖人御法海』は、この前ここで出た(平成13・7 国立文楽劇場)後、東京でも上演しようとしたのですが、国立劇場が、宗教色の強いものはちょっとまずいというので、それきりです。ここで出た時は、日蓮宗関係の方やお寺が何力所か、やって貰いたいといっただけでしたが、それも立ち消えです。

通してやったのは昭和六年が、最後でございます。「龍ノ口」を大阪中の島の公会堂で、宗教団体の催しでやったことがありました。あの段は宗教色が強いです。あとは「勘作住家」だけです。

昭和二十四年二月に四ツ橋文楽座で「勘作住家」をやった時、文五郎師匠がお伝で、師匠の左を遣いました。平成十三年にやりました時は、お伝の動きは文五郎師匠の通りです。日蓮の首は二十四年にはなかつたです。孔明の首を坊主にして使いました。二十五年に演舞場でやりました時は、良弁の首が出来たのでそれを使いました。昔から、日蓮は専用の首がなかったので、良弁さんの首を回したり、それらしい坊さんの首を使ったりしていました。

昔は、仏師の作った首をお坊さんの役にはよく使ったそうです。戦前には、仏師の作った首が何点があったようです。京都には仏師がたくさんいますからね。お坊さん役に使うために仏師に作らせたようです。御霊文楽座には、その仏師の彫った首が何点があったそうです。御霊文楽座にあった首

が全部松竹に移行されて、その中に仏師の彫ったものもあつたようですが、昭和二十年の空襲で全部灰になりました。最近でも、大阪のあるお店に飾つてある娘の人形に、仏師が拵えたのがあります。<sup>1)</sup>

三十七年にやりました時にも、首はやはり良弁です。

平成十三年の時は、私が日蓮という新しい首を大江巳之助さんに頼みました。良弁さんの場合は目が半眼ですが、日蓮の場合は見開いてます。この芝居は通して出すと、坊さんの人形が余計いります。少人数で出来る芝居と違って、費用がかかります。それと太夫さんが誰でも語れるものではありません。それで上演が少ないのです。

日蓮の首を新しく作つて貰つた時は、寺院に祀られている日蓮の像を参考にしました。信者のお客様には、信者さんとして、お祖師さんへのイメージというのがありますでしょう。それに似かよつてなかつたら、信者さんは承知しませんでしょう。ですから良弁をやめて、大江さんが日蓮像の写真を参考にして、日蓮を拵えました。写実ではありませんが、ある程度のところを捕まえないことには、お客様は納得できないと思います。宗教劇のお客様は、日蓮さんなら日蓮さんを信じておられる方ばかりですから、イメージがあるわけですよ。そのイメージになんか触れないことには、感動なさらないでしょう。

天理教の芝居(『梅薫教祖佛』)の時(昭和29・7・16 御園座 昭和30・2 旅興行、昭和30・4 天理教館)は、教祖は時代の婆にしました。もと田舎のお婆さんが霊力といいますが、神様のお力で偉くなられたわけですから、普通と

そんなに違う顔ではないと思います。

『三信記』(『弥陀本願三信記』)の蓮如上人は良弁の首を遣つています。

勘作の亡霊は、玉市さんがなさつた時(昭和24)、文五郎師匠の左を遣いながら見ていました。玉市さんは私の入座した時の師匠ですからね、三十七年に道頓堀文楽座で私が勘作を遣つた時は、そのやり方を変えませんでした。変えられるところではありません、あちらの方がよほどお上手なからです。

勘作の足は亡霊ということ、動きを目立たないようにしています。菅丞相でも木像はあまり動かしません。そういうようなことは演出の一種ですね。『卅三問堂棟由来』のお柳などでも、平太郎の目を覚まさせないようにという気持ちと、何やら精というものを感ぜさせるのと、お柳が枕元でいる動きですが、足音を入れないでやります。もっとも、足音を入れる方もある。入れて普通の女形の動きでおやりになる方もありますが、私は入れません。それは初代の紋十郎さんがそうされ、初代の栄三さんもそうされたと聞いているので、私も両師に倣つて足音は全然入れません。「わつとばかりに泣叫ぶ」まで足音は入れない。それが他の普通の人間の役とはちょっと違うような雰囲気、醸し出します。そういう演出もございます。

『日蓮聖人』で、勘作が登場するところは、以前、裾を引いた漏斗を使つたことがあります。歌舞伎のお岩さんのような裾をして、シューッと引き、消えて人形を持ち替えて出したことがあります。玉市さんもやりました。昭和二十四年の稽古の時に、一遍やってみましたけれど、「今時なあ、止めよ

うか」と初日には、止めてしまいました。

お伝を遣ったのは平成十三年ですが、その前に一回、昭和四十年から五十年頃でしたか、「尼ヶ崎太十会」という素人さんの浄瑠璃会で遣いました。文五郎師匠のしか知りませんから、その通りに遣いました。

『日蓮聖人』で、上手の障子屋台に勘作が入ると、中から鉦の音だけ聞こえてきます。ですからお伝が、村人の運んで来た死骸は誰のやると、こわこわそうつとあけてみる。あけてみたら亭主の顔だから驚いて、上手屋台の障子の所へ行って後ろ向きになって、また戻ってきて、両方見くらべる。鉦の音の方には人がいない。その間がお伝の一番の見せ場です。片手で後ろ向きしてこつちへ戻ってきて、またあつちへ戻る。あれがお伝の役で、一番難しい。こつちを覗いてまたこつちに寄って、きれいな形をお客様に見せないことには、お伝は見せるところがありません。きれいだなきれいだなお客様が思うから、次の狂乱になった姿が生きているのです。それで「涙は軒の川水に」は横たわって大落シです。大落シというのは普通、『太功記』十段目の光秀のように、男にしか使いません。女なのに大落シの節付けがされているということとは、無骨な武将が「ハーツ」と泣く以上の悲劇ということ。亭主と子供と母親と一遍に身内を三人失ってしまいますからね。もうこれ以上はない悲しみを見せるために、大落シを使って人形の方は大きく動きます。女形の大落シというのは、探しましたけれど他にありません。

文五郎師匠が舞台稽古の日にお伝を遣って、感激して涙をばらーとこぼしました。師匠が涙をこぼしたのはこの時と、三和会と分裂した後、『良弁杉

由来』の渚を舞台稽古で遣った時の二回です。こちらまでシーンときてね、感激しました。

涙をこぼすのは、お稽古の時です。お客様の前では、滅多にありません。

その他の上演が少ない演目について

「岩井風呂」(『宿無団七時雨傘』)などは、東京で一遍やってほしいと言われても、もう膝が悪くなったのでやれないでしょう。「鰻谷」(『桜鰯恨鮫鞘』)私は大好きです。一遍やってみたい。「大文字屋」(『紙子仕立両面鑑』)は今のお客様にはちよつとなじみにくい。「鰻谷」まででしょう。「極彩色娘扇」の兵助殺しは、体が不自由な兄弟を題材にしているので今は上演できません。「敵討襷襦袢」もこちらでは出ないでしょう。

『岸姫松轡鑑』はあざといですね。演じている者は、お客様に受けなかつたりしたら、「今日やる芝居と違うなあ」という気になってしまいます。歌舞伎の方でももう出ない。文楽では昭和三十年代までは、やっていました(昭和36・8 道頓堀文楽座)。「岸姫」の朝日奈は鬼若で遣います。鬼若は無邪気で強いというイメージですけども、強い中に悲しみを出すこともあります。感情のおもむくままに悲しい時は「うわあ」と一遍に出します。耐えて泣くの違って「わああ」と大泣きに泣きますからね。

今回の「万代池」(『摂州合邦』平成17・8 国立文楽劇場)の次郎丸も、鬼若です。鬼若に寸法がありましてね、あれは中くらいの寸法です。「万代池」



を出したのは昭和二十七年くらいでした。南座で復活したのですが(昭和37・10)、丸本のみままでありませんでした。いまは、それを整理したものでやっています<sup>2</sup>。その頃、つまり二十七年頃、文楽は一週間と公演が打てませんでした。幕があいたら、お客様より楽屋内の方が多かったという時代です。

「壬生村」(『木下蔭狭間合戦』)も出ませんね。私は昭和三十三年に堅田の小雀という、石川五右衛門の手下をやっています(『石川五右衛門』昭和33・3道頓堀文楽座)。あの時は娘を害する場面がありませんでした。最後に歌舞伎風の山門を見せるための上演です。山門の前の志賀の館で、五右衛門が葛籠抜けを見せます。山田庄一さんは、この劇場(国立文楽劇場)で葛籠抜けをやる時のために、欄間を是非仕込みたいという意図だったのですが、かないませんでした。

「流しの枝」(林住家)は『一谷嫩軍記』を通してやらないと、この場面だけでやっても面白くありません。通してやるから「流しの枝」が、戦場いくさばとまるで違う、のんびりした風景があり、古風な感じがして面白いのです。四段目は他とつながりがなくて面白くありません。東京で「流しの枝」をやったのは昭和五十年二月の国立劇場です。玉男さんが薩摩守忠度で、私が林でした。もう東京ではそういうものは一切出ないでしょうね。これからは、お客様が大勢いらっしやるような芝居でないと、出ません。

『競伊勢物語』は、玉男さんの有常と私の小よしでやりました(昭和62・7国立文楽劇場、昭和62・9国立小劇場)。これも、もう出ないかもしれません。紀有常や小よしに向いた方がいらっしやらないからです。

この間の『楠昔噺』(平成17・4国立文楽劇場)は、大阪の方々にはたいそう喜ばれました。東京の方は、あまり見いらっしやらなかったでしょう。あれも東京ではもう出ないと思います。東京でやってもあの洒落を、おわかりになる方は少ないでしょう。それにまたひどい新聞記者がいて、公演が終わって半月もたってから、あの芝居の評を出して、「夫婦のしゃべりは下ネタや」と書いてありました。もう少し書きよつが有りそうなものです。がっかりしました。

(注1) 文雀師は大江巳之助さんから、仏師の彫った首と文楽の首では、彫り方が違つと説明されたという。すなわち仏師の方は逐条法、文楽の方は散刀という方法で彫る。その相違は以下の通り。逐条法は、始めに彫りたてたら、ずっとそこから続けて彫る。散刀は、まず鼻の位置を一応決めて、耳の位置、目鼻の位置が定まると、後はそれに合わせて、いろいろなところから彫る。

(注2) 昭和三十七年に野沢松之輔作曲で復活。カットが多く、四十八年九月に国立劇場で手直しして上演。



# 能「卒都婆小町」の旋律復元

高桑 いづみ

能と言えば幽玄な古典芸能、と紹介される。動きが少なく、動くテンポや謡うテンポがゆっくりで分かりにくい、けれどなんだか高尚そう、という印象だろうか。

現在上演されている能の基本スタイルは、室町時代のはじめに観阿弥・世阿弥によって確立したが、その後600年以上たつ間に、演出は大きく変化を遂げた。世阿弥の頃は資料が少ないので、上演の様子は断片的にうかがうことしかできないが、桃山時代になると資料も増え、かなり様子がわかってくる。

桃山時代、と言えば豊臣秀吉も能に夢中だった。自身で難しい曲を何番も舞い、朝鮮侵攻の時には九州に能役者を同行させている。秀吉の夢中になった能とはどのようなものだったのか、その時代の演出を復元してみよう、という試みが2002年11月、横浜能楽堂でおこなわれた<sup>注1</sup>。早稲田大学文学部の竹本幹夫教授を中心に、国語学の坂本清恵氏（玉川大学助教授）と高桑が参加して2年間研究を重ねたが、高桑は、音楽担当として謡の旋律、リズムの復元に携わった。「卒都婆小町」、という現在では習イ物として半ば秘曲化されている作品の演出を過去の資料に基づきながら蘇らせ、秘曲化以前の姿で上演した意義は、「特殊演出」のプロジェクトを進める上でも大きな意味を持っていた。上演資料として使用した五線譜を提示しながら、復元のプロセスを簡単に報告しておく。

秀吉の時代と現在で最も大きく変化したのは、上演時間である。現在では動きも音楽もたいへんゆっくりしているので、一番上演するのに1時間半から2時間かかるのが普通だが、秀吉の時代には現在よりも1日の上演曲数が多かったことが知られている。例をあげてみよう。西の洞院時慶の日記には、文禄2（1593）年10月17日、民部法印の屋敷で太閤もご覧になって能が演じられた、という記録がある。

天晴、太閤御能於民部法印在之、... 中略 ... 太閤八御見物斗也。食御相伴也。大夫八観世氷室、忠則金剛、夕顔保昌、舟弁慶下間少進、卒都婆小町立羽、難波春日、以上、未下刻二果

観世大夫が「氷室」、金剛太夫が「忠則」、宝生太夫が「夕顔」、本願寺の坊官だった下間少進が「舟弁慶」、素人出身の虎屋立羽が「卒都婆小町」、春日太夫が「難波」を舞っている。「難波」はおそらく半能だろうが、6番の能があって未下刻に終わっている。未下刻とは、この時期午後2時半頃に相当するから、朝9時半頃舞い始めたとしても、5時間ほどの間に能を6番演じてしまったことになる。間に昼食をとった、と書かれているし、日記には記載がないが番組の冒頭に「翁」を舞うのが通常のやり方である。能と能の間には、おそらく狂言も演じた

であろう。能1番にかかる時間はもっと少なかった、と考えなければなるまい。

『能楽タイムス』昭和37年11月号には、昭和37年当時、能1番に要した時間が1曲ずつ記載されている。「翁」66分、「氷室」93分、「忠則」84分、「夕顔」89分、「舟弁慶」88分、「卒都婆小町」86分、「難波」31分と書かれた数字を合計すると能だけで537分も要する。狂言1番の平均時間を26分とし、狂言4番分をプラスすると全体で641分。現在では10時間半以上かかる番組を5時間足らずで終えてしまったのだから、現在の半分程度の時間で能が上演されていたことになる。

そこで、実際に現在より速いテンポで能が上演できるものなのか、桃山時代の演出を復元しながら試みてみようということになった。

復元の中心になったのは音楽である。能は一種の音楽劇だから、速いテンポで謡えば全体のテンポは速くなる。だが、ただテンポを速くすればよい、というものではない。ゆっくり謡うようになったことでさまざまなニュアンスや技巧が加味され、今日の洗練された謡が成立した。現在の技法のまま速く謡えば桃山の謡になる、というわけではない。そこで、桃山時代の旋律やリズムを検討することになった。

謡のリズムはたいへん規則的に整っている。なかでも中心となるのは平ノリで、七五調の句を八拍子にあてはめるのが基本である。現在は譜例 を基本としているが、江戸時代にはのように第1拍・第3拍・第5拍に文字を当てていたことがすでに判明している。文字が拍に当たるか当たらぬかという点が異なるだけだが、奇数拍に文字が当たらなければ、じっくり謡いたい、と思った場合、「つーき」というように謡い手の好みで多少延ばして謡うことが可能である。ところが、鼓は拍に当てて打つので、謡の文字が拍に当たっていると、謡い手の勝手に延ばすことができない。拍に当てて謡うだけで、謡はかなりリズムカルになるのである。ただ、文字を拍に当てるとハコビが単調になりがちなので、次第に拍からずらして謡うようになり、その結果現在の地拍子に移行していった、と考えられている。

承応2年(1653)に発行された謡の指南書『問謡記』に、「拍に当てて謡いだすときは少しずらして謡う方がよい」と記した箇所がある<sup>注2</sup>。謡の詞章は七五調とは限らない。字足らず、字余りの句を交えて変化をつけるのだが、例に挙げた句、「をとづれば」は上の句なしに下の句から謡い出すので、謡い出しが第1拍にあたる。ところが第1拍には大鼓がチョンと打つことになっており、大鼓の音と一緒に謡が聞き取りにくい。そのため第1拍にはあてず、少しずらして1拍半から謡い出せ、と指示しているのである。このようにずらす謡い方が積み重なって次第に今のようなリズムになり、テンポも変化していった、と考えられている。

実際、能役者に古い地拍子で謡っていただいたところ、自然にノリがつき、テンポが少しづつ速くなる、という傾向が見られた。拍に当たるか当たらないか、ほんの少しの違いだが、積み重ねによって全体のテンポに影響することが立証されたのである。

桃山時代には、旋律も現在よりもメロディックだったことも一部ではあるがすでに知られていた<sup>注3</sup>。天正11年(1583)と奥書のある謡伝書『塵芥抄』には、「呉服」の「上歌」をあげてカタカナで歌詞を書き、その右に「宮・商・角・徴・羽」と五音を付した箇所がある。五声は雅楽で伝統的に用いる音階で、謡の旋律を五声で表記することはほとんどない。このときは細かい旋律の動きを示したかったのだろうか、一字一字に五音をつけて、相対音高がわかるようになっている。謡の基本になるのは上音・中音・下音だが、『塵芥抄』では上音を宮、中音を徴、下音を商にあてている。謡は、旋律の進行がきっちり規定されているが、「呉服」を見ると現在とは音の動きが異なっている。詳細は別稿で論証した<sup>注4</sup>ので、関心のある方はそれを参照していただくこととし、ここでは現行との違いを簡単に説明しておこう。

まず上音から中音へ音を下げるとき、現在では上音より少し高めのウキを謡ってから中音に下げる、という約束事になっている。上音がレ、中音がラだとすると、レミラと進行するのが現在の謡だが、『塵芥抄』では順次進行でレシラと下がっている(譜例 )。中音から下音へ下げるとき、現在は中間の音を通らずにストレートに下がる。中音がラ、下音がミの場合、ラミという動きだが、当時は下ノ中音を経過してラソミと謡っていた(譜例 )。上音、中音、下音、と核になる音の間隔は変わらないのだが、経過音が変わることで、聞いたときの印象が大きく変わってくる。また、「呉服」の「上歌」は現在ではツヨ吟で謡う箇所である。つまり、現在ではメロディックではなく、息の強さを前面にだして音の高低差がないように謡っていくのだが、天正当時はヨワ吟と同じようにメロディックに謡っていたことになる。

「上歌」は拍子に合わせて謡うところだが、拍子に合わせず謡い流すところも、現在とは謡い方が違っていた。資料としたのは、桃山時代に活躍した下間少進手沢謡本である。100番のうち30番に五音の書き込みが見られたが、それらを解読した結果、現在ではほとんど一本調子で謡ってしまう[サシ]の部分もメロディックに謡ったことが判明した。

従来より、拍子に合わせず謡い流す部分では、詞章の横についているゴマの向きにあわせて右下がりのゴマのところで音を下げていたらしい、という説があった<sup>注5</sup>。右下がりのゴマで音を下げ、平らなゴマではまっすぐに音を変えずに謡うと、当時の京都弁のアクセントに近くなる、というのである。そこで、坂本さんに当時の京都アクセントを復元していただいたところ、ゴマの向きとアクセントはかなりの程度で一致することが確認できた。そこで室町後期の謡本を校合してゴマの向きの統計を取り<sup>注6</sup>、アクセントを反映させながらメロディックに謡うこととし、それにあわせて、セリフの部分も当時の京都アクセントでしゃべっていたこととした。

こうして現在よりも格段にメロディックで、リズムカルな謡ができあがったのである。

問題は、どの作品を復元するか、ということである。検討した結果、「卒都婆小町」を復元することになった。能には老女の小町をシテとする作品が3番あるが、江戸時代以降、老女物として大切に扱うようになり、他の曲にも増してゆっくり慎重に演じるようになっている。

ところがゆっくり慎重に演じたのでは、「卒都婆小町」本来のおもしろさが伝わりにくい。前半で僧との機知に富んだやりとりをみせ、後半で老女に深草の少将の霊が憑いて狂乱する、と変化の多い構成だが、現在のようにゆっくり演じると、問答のおもしろさ、前半と後半でがらっと雰囲気の変わる様子がわかりにくい。観阿弥作と言われているが、観阿弥らしい起伏にとんだ構成が、テンポアップすることで見えてくるのではないか、というのがひとつのねらいとなった。

実際、復元能は、50分で終わった。リズムカルでメロディックな謡に、キリシタン音楽を聴いているようだ、あるいは御詠歌のようだ、といった感想をいただいた。復元能はさっさと進行するので何番でも続けて見られるし、耳にメロディが残ってつい口ずさみたくなる、という感想もいただいた。エンターテインメント、として現在よりも気楽に能を楽しんでいた様子がうかがえたのである。

復元にはいろいろな制約がある。今回も、身体の使い方、鼓のリズムパターン、笛の旋律など、資料の残っていない部分は現在の通りになった。技法としては一部しか復元できなかったわけだが、それでも起伏に富んだ構成、作者の意図は明確にされ、桃山時代にどのように能が享受されていたか、推し量ることもできた。能の技法のどこが変わったのか、また変わらない部分はどこなのか知ることは、今後の能の伝承を考える上でも意味が大きいといえよう。今回は、実際に演技を担当される能楽師の方々に多大な協力をいただいた。ことにシテを担当された山本順之氏には、深謝申し上げたい。

注1 横浜能楽堂企画公演「秀吉が見た『卒都婆小町』 現代によみがえる400年前の能」

シテ・山本順之      ワキ・宝生欣哉      ワキツレ・殿田謙吉

笛・松田弘之      小鼓・大倉源次郎      大鼓・柿原崇志

後見・観世鏡之丞・清水寛二      地謡・阿部信之、西村高夫、岡田麗史ほか

イヤ   ハヨヤ   ハヤア   如此あひよりうたふ吉

注2 一、思ひを延る斗なり

をとつれ八

ヤ   此謡やうあしし

をとつれ八といふ所一拍子なり   ひようしにひしとあてゝ謡事あたり拍子とて嫌

ひ候   右の星付八拍子の跡程のあひたよりうたふ也

注3 広瀬政次「謡曲の音階に関する文献」『観世』第3巻第3号   1932

蒲生美津子『早歌の音楽的研究』三省堂   1983   など

注4 「下間少進手沢車屋本節付考」『能と狂言』創刊号   能楽学会編   2003.4

注5 桜井茂治「世阿弥の能楽書とアクセント」『國學院雑誌』66   1965

坂本清恵『中近世声調史の研究』笠間書院   2000

注6 校合に用いたのは以下の謡本である

- 観世節付本四種（永禄9～天正元年写）
- 室町末期筆堀池・淵田百拾九番本（天正填写）
- 室町末期筆 毛利家旧蔵本（天正填写）
- 小宮山藤右衛門元政本（天正填写）
- 室町末期筆長頼奥書百番本（天正填写）
- 伝松平伊豆守旧蔵本（慶長以前写）（以上法政大学鴻山文庫蔵）
- 室町末期写三番綴観世流謡本（早稲田大学演劇博物館所蔵）

譜例      1   2   3   4   5   6   7   8  
 つ...きもろ...ともに...いでていく。

譜例      1   2   3   4   5   6   7   8  
 つき...もろと...もにい...でていく。

譜例

現行  
ヨウ吟

上      上ウキ      中

譜例

現行  
ヨウ吟

中音      下音

塵芥抄

上      中ウキ      中

塵芥抄

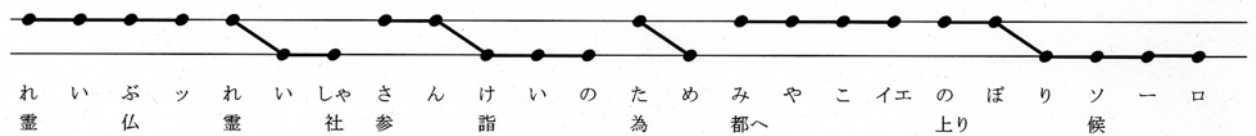
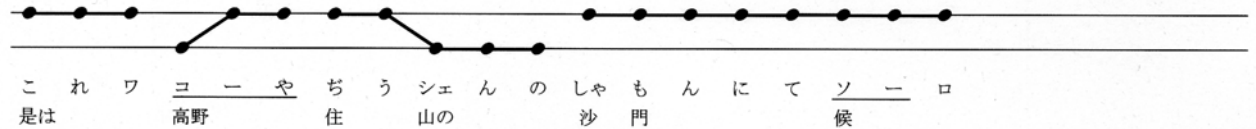
中      下/中      下

## 次第

ワキ



1名ノリ



## サシ

ワキ



## 道行

ワキ







うおや の な け れ ン ば わ ー が た め に こ こ ろ う お と む る こ ー も な し イ

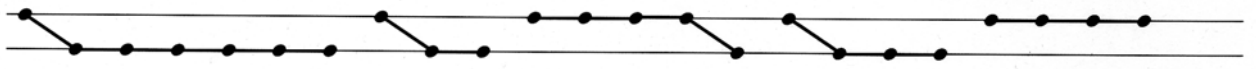


ち さ と う お ゆ く も と う お か ら ず の に ふ し や ま に と ま る こ そ ー

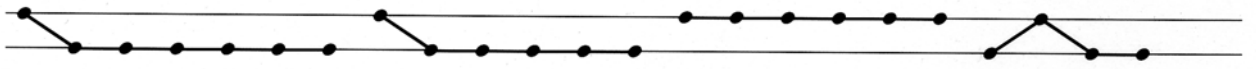


げ に す つ る み の な ー ら い な れ げ ー に す つ る み の な ー ら い な れ

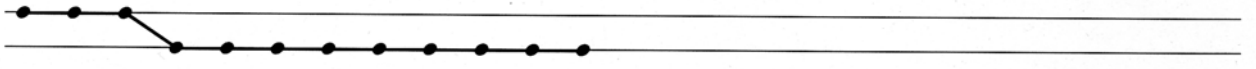
ワキ (現行下掛宝生)



い そ ぎ ソ ー ロ ー フ ォ ン ド に 。 こ れ ワ は や つ の く に あ べ の の  
急ぎ 候 程に 是 早 津 国 阿 部 野

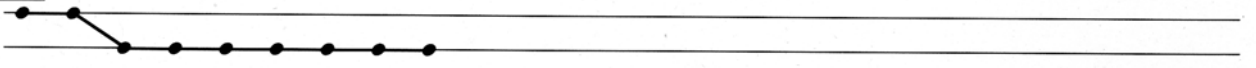


ま つ ば ら と か や モ ー し ソ ー ロ 。 こ の と こ ろ に し ば ら く  
松 原 申し 候 此 所 暫く



や す ら フ ォ ー ず る に て ソ ー ロ  
休 候

ツレ



も つ と も に て ソ ー ロ  
尤も 候

次第

シテ



み わ う き く さ う お さ そ ー み ー づ み わ う き く さ う お さ そ ー み ー づ



な き こ そ か な し か り ー け れ

# サシ

シテ



あわれやげにいにしいエわ きよーまんもつ ともふアなふアだしう



ふいすいのかんざしわあだとーオたうオやかにして よーりゆーのふアるのかじエになびくがごとしーイ



またおーじエつのさいエづりわ つゆうオふくめるいとふアぎの



かごとばかりにちりそむるーウふアなよりもなうオめづらしやー



いまわみんなんしづのめにさいエきたなまれ しよにんにふアぢうオさらし



うれしからぬつきふみにつもつてーエももとしエのんぼとなりてーエさむる

# 下歌

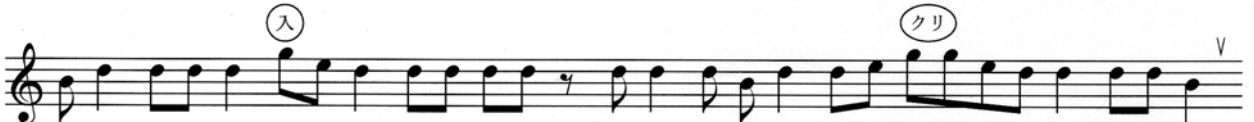


みやこわふいとめつ つましやーもしもそれとかいうまぐれ

# 上歌



つきもろともにいでていく x2 くもいももしんきや



うオー うちやまのやまもりも かかるうきみわよもーとがめじイ



こがく れてよーしなやー とぼのこいづかあきのやま ン



つきのかアつらのンかーわしエぶね こぎ ゆくふいとわたれやらん

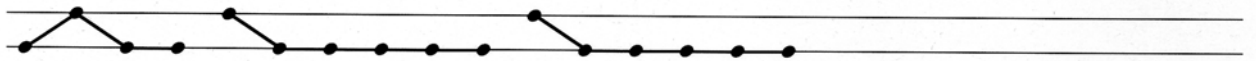


こーぎ ゆくふいとわたれやらん

着キゼリフ シテ

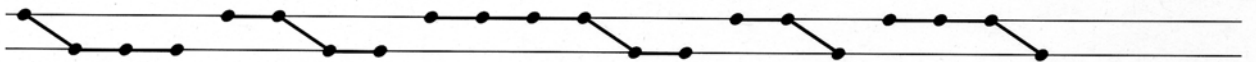


あまりにくるしう ソーローフォンどに。このところに  
余りに 苦しう 候 程に。 此 所に

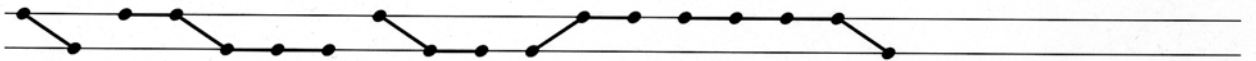


しばらく。やすまばやとフォもいソーロ  
暫く。 休まば やと 思ひ 候

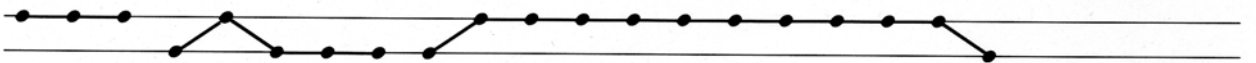
ワキ



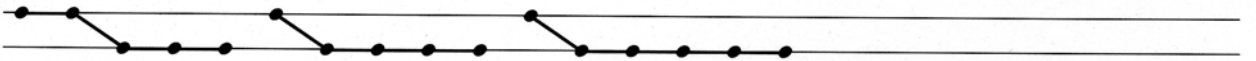
ノーノー これなるこッがい にんごらん ソーらイエ。  
なふなふ 是 成 乞 丐 人 御覧 候へ。



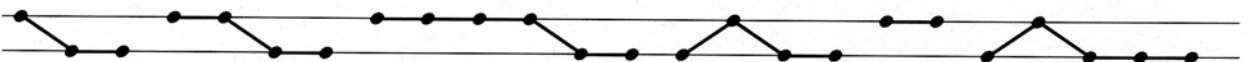
あらあさましと やつれファてて ソーローや。  
あら 浅ましと やつれ 果て 候や。



こしフォか けたるワ そとぼにてワ ソーらわぬか。  
腰を かけたるは 卒都婆にては 候らわぬか。



キョー けして のけばやとフォもいソーロ。  
教化して のけばやと 思ひ 候



いかにこれなるこッがい にんフォこののこし かけたるワ。  
いかに 是 成 乞丐人 おことの 腰 掛たるは。

か た じ け な く も ぶ っ た い し き ショー の そ と ぼ に て ワ な き か。  
 忝も 仏 体 色 性の 卒都婆にては なきか。

そ こ た ち の き て よ の と こ ろ に や す み ソー ら イエ  
 そこ 立 退て 余の 所に 休み 候へ

シテ

ぶ っ た い し き ショー の か た じ け な き と ワ の た ま イエ ども。  
 仏体 色性の 忝きとは 宣へとも。

こ れ フォン ド も じ も み イエ ず き ざ め る か た ち も な し。  
 是 程 文字も 見へず 刻める 形 も な し。

た ン ダ ア く ち き と こ そ み イエ た れ  
 只 朽木と こそ 見へたれ

ワキ

た と い み や ま の く ち き な り と も ふ ア な さ き し き わ か く れ な し

い わ ん や ぶ っ た い に き ざ め る き イ。  
 況や 仏体に 刻める 木。

な ん ど そ の し る し な か る べ き

シテ

わ れ も い や し き ん も れ ぎ な れ ど も こ こ ろ の ふ ア な の ま だ あ れ ば

た む け に な ど か な ら ざ ら ん さ て ぶ っ た い た る べ き い わ れ わ い か に

ワキツレ

それそとぼわこんごーさつ た かりにしゅっけしてさまやぎよーうおうおこないたもー

シテ

ウオこ ない な シェる か たち ワ い かに  
行 形

ワキ

ち す いくワ ふ う く う

シテ

ご たい ご り ん わ ふ い と の たい な に し に ふ エ だ て あ る べ き ぞ

ワキツレ

か たち わ それ に た が わ ず と も こ こ ろ く ど く わ か わ る べ し

シテ

さ て そ と ぼ の く ど く ワ い かに  
扱 卒都婆の 功德は いか

ワキ

い つ けん そ と は よ ー り さ ん な く ど ー

シテ

い ち ね ん ほ っ き ぼ だ い し ん そ れ も い か で か う お と る べ き

ワキツレ

ぼ だ い し ん あ ら ば な ど う き よ う お ば い と わ ぬ ぞ

シテ

す が た が よ う お も い と わ ば こ そ ー こ こ ろ こ そ ー い と ー い エ ー

ワキ

こころなきみなればこそぶつたいうおぼしらざるらめ

シテ

ぶつたいとしればこそそとぼにワちかづきたれ  
仏体と 卒都婆には 近づきたれ

ワキツレ

さらばなどらいうおぼなきでしきたるぞ

シテ

とてもふしたるこのそとぼ われもやすむわくるしいか

ワキ

それわじゅんねんにふづれたり

シテ

ぎやくえんなりとうかむべし  
逆縁 浮

ワキツレ

だいぼがあくも

シテ

クワンノのじひ  
観音 慈悲

ワキ

ほんどくがぐちも

シテ

もんじゅのちイエ  
文殊 智恵

ワキツレ

あくとゆーも じえんなり

シテ

ワキ

ほんのーとゆーも ぼだいなり ぼだいもと

シテ

ツレ

シテ

ういゑきにあらず みよーきよーまた うてなになし

ワキ

シテ



歌

地

入

げにふおんらいいちもッなきときわ ンふオと けも しよよーもふエンだてなし

もとよりぐちのぼんぶうオ すくわんためのほーべんの

ふかきちかいのぐワんなれば ぎやくいエンなりとうかむべーしと

ねんごろにも ー しエばア まことにさとれるふいにんなりとて

そうわこーべうオちにつけて さんどらいしたーまいエばー

シテ

われもそのときちからうオえーなうオたわむれのうたうオよむー

下ノ詠

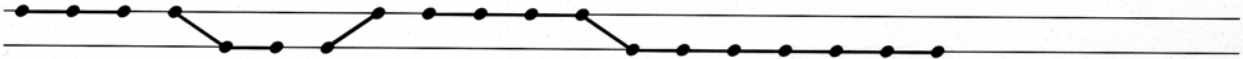
ごくらくのーうちならばこそあしからめ そとわなにかわくるしかるンベき

歌

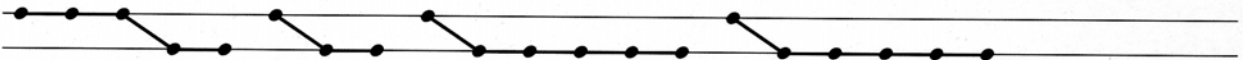
地

むつかーしのそーのきよーけやーむつか しのそーのきよーけや

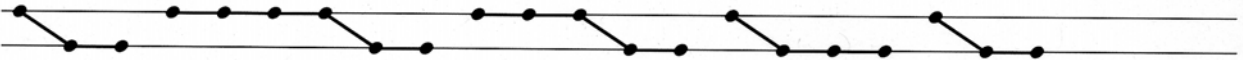
ワキ



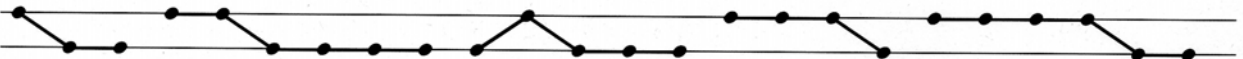
これワこころあるこッがいんにてソ一ロ  
是は心有乞丐人にて候



いにしエのなアウオたずねばやとウオもいソ一ロ。  
古の名を尋ばやと思ひ候。

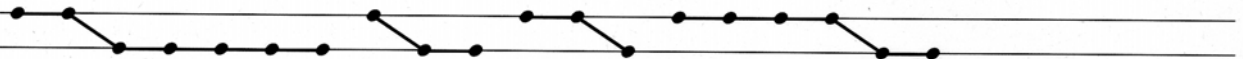


いかにこッがいんに。いにしエワいかなるものぞ。  
いかに乞丐人古はいか成者ぞ。

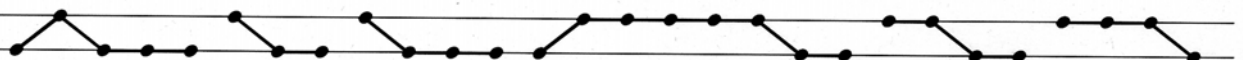


なアウオなのりたらばなきあとウオともらいソ一ローベシ

シテ



はずかしながらなアウオなのりソ一ローベシ  
恥しながら名を名乗候べし。



ミョ一チョ一にいりてなからんあとうオとむらいてたまわりソ一らイエ  
名帳に入りて跡を用いて

名ノリグリ



これわでわのぐんじうオののよしざねがむすめ



うオののこまちがなれるふアてにて一さむろなりーイ

サシ



いたわしやなこまちわさもいにしエわゆーじよにて



ふアのかたちかかやきかつらのまゆずみあおしてー





ふア く ふ ん うオ た い エ さ ず ら り よ ー の こ ろ も うオ ー し て ー



け い で ん の あ い だ に あ ま り し ぞ か し ー

シテ

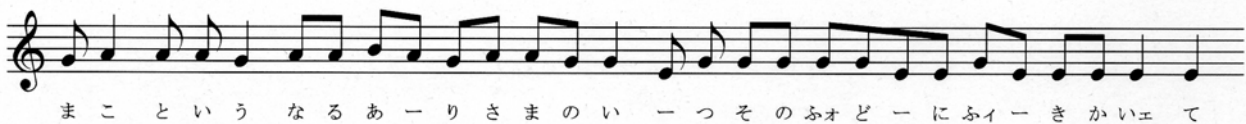


う た うオ よ み し うオ つ く り ー い エ い うオ す す む る ー さ か づ き わ



か ん げ っ そ で に し づ か な り ー

下 歌



ま こ と い う な る あ ー り さ ま の い ー つ そ の ふ オ ど ー に ふ イ ー き か い エ て

上 歌



こ ー べ に わ ー そ ー ふ オ う オ ー い た だ き



し エ ん げ ん た り し り よ ー び ん も ふ ア だ い エ に か し け て す み み だ ー れ

クリ



い エ ん い エ ん た り し そ ー が も い エ ざ ん の い ろ う オ う ー し の ー

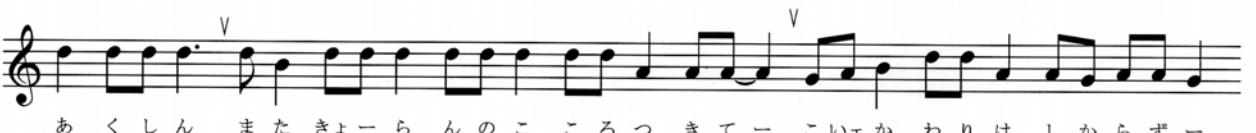


も も と し エ に ふ イ と と し エ た ら ぬ つ く も が み か か る



う オ も い わ あ り あ け の か ー げ ふ ア づ か し き わ ー が み か な

# ロンギ



お そう ノー な に ご と ぞ こ ま ち が も と イエ か よ オー よ ノー  
お 僧 な ふ 何 事 ぞ 小 町 が 許 へ 通 は ふ に よ

ワキ

お こ と こ そ こ ま ち よ。 な に と て う つ つ な き こ と う オ ぼ の た モー ぞ  
お 小 社 町 よ。 何 と て う つ つ な き 事 を は 宣 う ぞ

シテ

い や こ ま ち と い ふ ひ と づ。 あ ま り に い ろ が ふ コー て  
い や 小 町 と い ふ 人 は。 余 に 色 が 深 ふ て。

あ な た の た ま づ さ こ な た の ふ み。  
あ な た の 玉 章 こ な た の 文。

か き く れ て ふ る さ み だ れ の ー

そ ら ご と な り と も い ち ど の フ ェ ン じ も ノー て  
空 一 度 返 事

い ま も も と し ェ に な る が む く う て あ ら ー ふ い と こ い し や

あ ア ら ふ い と こ い し や ー や ー

ワキ

さ て た だ い ま づ い か ヨー な る も の の た ち よ り た る ぞ  
扱 只 今 は い か や う 成 者 の 立 ち 寄

シテ

こ ま ち に こ こ ろ ウ オ か け し フ ィ と ワ ウ オ ー き な か に も  
 小 町 に 心 を 懸 し 人 は 多 中 に も

こ と に ウ オ も い ふ か く さ の し い の シ ョ ー シ ョ ー の  
 思 ひ 深 草 の 四 位 少 将

地

歌 → 上歌

う ら み の か ず の め ぐ り き て く る ま の し ち に か ー よ わ ん ー

ふ い わ な ん ど き ぞ い う ぐ れ <sup>x2</sup> つ き こ そ と も よ か よ い ち ー の

し ェ ー き も り わ あ り と も オ と ま る ま じ や い で た た ん

歌

じ ょ う い エ の は か ま か と い っ て <sup>x2</sup> た て い エ ぼ し う オ か ざ う オ り

か り ぎ ぬ の そ で う オ う ち か づ い て ふ い と め し の ぶ の か よ い ち の

つ き に も ゆ く や み に も ゆ く あ め の よ も か じ エ の よ も

こ の ふ ア の し ぐ れ ゆ き ふ か し ー

の き の た ま み ン ず と ー く ー と く と

# 歌



# キリ





# 『系統別歌舞伎戯曲解題』索引

飯島 満

## 解説と解題

『系統別歌舞伎戯曲解題』は、渥美清太郎によって示された歌舞伎戯曲の俯瞰図である。

これまで上演されてきた歌舞伎戯曲、その全体像を把握するのは容易なことではない。歌舞伎の狂言内容を知る上で最も重要な台本は、そもそもが興行側の内部資料であった。江戸時代の歌舞伎台本は一般的に写本として伝存する<sup>注1</sup>。近現代に入ってから、印刷物として公にされてきた歌舞伎台本はその一部に過ぎない。

では、歌舞伎台本はどのくらい現存するのか。初演が近世に溯る作品については、所在目録が存在する<sup>注2</sup>。ところが、近現代の台本については、いまだに悉皆調査はなされていない。現存する歌舞伎台本そのものの概数を把握することすら、現状では覚束ないのである。さらに個人でそれら全てを通覧することなど、とてつもない難事業となるであろう。

『系統別歌舞伎戯曲解題』は、文字通り“歌舞伎戯曲”を“系統別”に分類し、“解題”をほどこしたものである。解題の対象は、台本の形態で伝存する江戸時代の歌舞伎に限定されてはいない。梗概あるいは断片的な記事によってのみ知られている作品や、年代的には近世以降となる諸作、当初は新劇・新国劇などで取り上げられていた作品、第二次世界大戦後に上演された作品等々も含まれている。また、初演が人形浄瑠璃(古浄瑠璃を含む)となる作品も解題の対象となっている。近世における歌舞伎と人形浄瑠璃の結びつきを考えれば、こうした目配りは当然でもあつただろうが、人形浄瑠璃には脚色されながら、ついに歌舞伎の題材とはならなかった系統の作品までもが解題の対象となっている。『系統別解題』は、著者渥美清太郎が知り得た歌舞伎、および歌舞伎と密接な関係にある周辺演劇、その全ての戯曲を体系だてようと試みた解題なのである。今回の索引作成の結果、立項された系統と戯曲の総数は、延べで約6800件に上ることが確認された。歌舞伎戯曲解題としては、今日においてなお、最大規模であろう。

あえて指摘するまでもなく、『系統別解題』が一個人の著作である以上、そこには少なからぬ不備があるのは当然である。しかしながら、歌舞伎として上演された戯曲の全体像、それに最も肉薄した空前の著作であつたことに何ら疑いの余地はない。

渥美清太郎(明治25年12月生 昭和34年8月歿)は、大正から昭和にかけて活躍した演劇評論家である。雑誌『演芸画報』を主宰し、その編集に従事する一方、『日本戯曲全集』歌舞伎篇全50巻、『大南北全集』全17巻ほか、数多くの脚本集の編纂校訂に携わつたことでも知られている。代表的な著作『日本演劇辞典』『邦楽舞踊辞典』は、いずれもが単著であつた。そこには、生前から周囲を驚嘆させていたという博覧強記が遺憾なく発揮されている。

『系統別解題』は、雑誌『芸能』の再刊第1巻第1号(昭和34年2月刊)から第27巻第

2号（昭和60年2月刊）にかけて、およそ四半世紀の長きにわたって連載されていた。その雑誌掲載期間からも明らかのように、連載が始まって程なく、著者は他界している。連載第8回目となった第1巻第8号（昭和34年10月刊）には、次のような付記がある。

渥美清太郎先生は去る八月二十日急逝されましたので、惜しくも今号が最終稿となりました。しかしこの「解題」は、すでに準備稿は整理済みで、四百字三千六百枚、項目千三百四十、狂言三千八百の大冊が残されています。この準備稿を、御遺族の御了解を得て今後もつづけて掲載してゆきたいと考えております。（編集部記）

雑誌掲載は第2巻1号（昭和35年1月刊）に再開される。以後、幾度かの休載を挟みながらも<sup>注3</sup>、『系統別解題』は連載268回で完結をみることとなる。最終回に添えられた「系統別歌舞伎戯曲解題」の完結にあたって「によれば、渥美清太郎の亡き後、「原稿整理の労」とっていたのは「長女の歌子さん」であったという。

豊かな情報量と様々な示唆に富む『系統別解題』は、その存在を知る者にとって、極めて有用性の高い基礎文献中の基礎文献として認識されてきた。

しかしながら、同時に非常に扱い難い文献でもあった。それは、単に長期間にわたって雑誌に分載されていたからではない。

『系統別解題』は、個々の系統に関して解説（項目によって長短は様々である）がなされた後、その系統に分類された戯曲の解題が続くといった構成をとることが多い。系統の配列は五十音順、戯曲の配列は基本的に上演年順である。

具体例として、「箴の梅」項（『芸能』第2巻第1号）の一部を引用する。

エビラノウメ（箴の梅）。時代物。生田の森の合戦に、梶原景季が箴へ梅を挿して活躍した逸話は、  
ナスノヨイチ、サイカイズズリ（那須与市西海硯）。一七三四（享保十九年）八月、豊竹座演。並木宗助作の人形劇の二段目に現れている。梶原景時は逆鱗論で義経に敗れ、無念の余り頼朝へ義経を讒せんとし、一子景季もそれに同意したが、景時の妻水谷は自殺してその無謀を諫めたので、親子も心を翻し、西国へ赴き、平家軍と戦う心となり、景季は母が形見の梅花を頭に挿して出陣するまで。院本は帝国文庫「並木宗輔浄瑠璃集」にあり。ヒラガナセイスイキ（ひらがな盛衰記）。  
中略  
エビラノウメ（箴の梅）。一九一四（大正三年）五月に作られたものだが、上演されたのは大正七年の初め。岡本綺堂作。大劇場は同九年三月の大阪中座が始まり。生田の森の合戦に、梶原源太（実川延若）が二度の駈けいで百姓甚五兵衛の娘梅ヶ枝（中村雀右衛門）から梅花をもらって箴へさし奮戦する。それを見て敵方の平重衡も感じる。梅ヶ枝が流れ矢に当って死ぬのを、源太の申うところが幕切れの短い一幕。脚本は「綺堂戯曲集」第八巻にあり。（参照「逆鱗」）。

【例1：「箴の梅」項】

系統《箴の梅》で解題がほどこされている戯曲は、【例1】に見る通り、『那須与市西海硯』



『ひらかな盛衰記』『箴の梅』である。『系統別解題』でこれらの作品の記述にたどり着くためには、まずは系統《箴の梅》に分類されていることを知っていなければならなかったのである。さもなければ、系統《箴の梅》に分類されているであろうことを推測できるだけの予備知識が不可欠であった。

それだけではない。

『系統別解題』では一つの戯曲が複数の系統にまたがっていることが非常に多い。本索引作成の結果、系統《箴の梅》に分類される『那須与市西海硯』は、ほかにも《乳母争い》《那須与一》《宗清》で、また『ひらかな盛衰記』は、《逆艦》《佐々木高綱》《番場忠太》《無間の鐘》でも扱われていることが確認された。両作品の解題はそれらの系統に分散している。にもかかわらず、系統《箴の梅》で明示されている参照項目は、【例1】の末尾にあるように、系統《逆艦》だけであった。連載のごく最初期であった以上、参照項目が不完全であったのは致し方がない。とはいえ、ある戯曲に関して、仮に系統《A》と系統《B》に解題を見出したとしても、それで解題記事の全てとなるのかは保証の限りではなかったのである。



渥美清太郎がどのような系統を立項していたのか、その全貌すら知るすべはなかった。もっとも、全系統名が提示されていたとしても、それだけでは『系統別解題』の検索に万全とはいえなかつたろう。渥美清太郎の発意と思われるような系統名も少なくないからである。個々の戯曲がどの系統に分類されていたのかは、その解題に行き当たった時点になって初めて知ることになったという体験は、これまで『系統別解題』を手にした者すべてが共有してきたのであった。

『系統別歌舞伎戯曲解題』、この労作を十全に活用するためには、系統名および戯曲名の索引が不可欠だったのである。

#### 索引作成に際しての修正箇所（1）

索引を作成する目的は、何よりもまず『系統別解題』を活用しやすくすることにある。そこで、データ入力にあたっては、雑誌本文との間で齟齬をきたすような修正はできるだけ避けることとした。系統名・戯曲名の読み、及び表記は、明らかな誤脱と判断された場合を除き、原則として『系統別解題』本文に従っている。

ただし、以下の諸点については、統一的に処理している。

1. 系統名・戯曲名で用いられるヨミガナ中の読点「、」は省略する。
2. ヨミガナの表記は現代表記に訂正する（四つ仮名・拗音・撥音など）。
3. 繰返し記号「くの字点」は「」「」とはせずに開く。
4. 常用漢字は通行字体、常用漢字外は正字体を用いる。

上記の訂正に関しては、索引中で一々断ることをしていない。

ところで、雑誌『芸能』の誌面（目次または本文）に表示された『系統別解題』の連載回には、一部誤りがある。

【表 1：回数表示の正誤】

号巻（刊行年月）	誌面の表示：誤	本来の回数：正
第 2 巻第 3 号(昭和 35 年 3 月刊)	第 10 回	第 11 回
第 2 巻第 4 号(昭和 35 年 4 月刊)	第 11 回	第 12 回
第 2 巻第 5 号(昭和 35 年 5 月刊)	第 12 回	第 13 回
第 3 巻第 3 号(昭和 36 年 3 月刊)	第 22 回	第 23 回
第 3 巻第 5 号(昭和 36 年 5 月刊)	第 24 回	第 25 回
第 5 巻第 5 号(昭和 38 年 5 月刊)	第 48 回	第 49 回
第 14 巻第 2 号(昭和 47 年 2 月刊)	第 141 回	第 140 回
第 140 回は欠番。第 181 回は重複。この期間の通算回数は全て一回分ずれている。		
第 19 巻第 8 号(昭和 52 年 8 月刊)	第 181 回	第 180 回

【表 1】で示したように、正しい回数とのずれは一回分多いか少ないかである。索引作成の際に入力したデータは、整理の都合上、その誤りを訂正している。例えば、第 19 巻 8 号（昭和 52 年 8 月刊）の連載回は、本索引では、誌面の“第 181 回”ではなく“第 180 回”に改められている。索引上の連載回数が雑誌面と異なっている場合は、混乱を避けるため、その表示回数には記号が付してある（凡例参照）。

#### 索引作成に際しての修正箇所（ 2 ）

先にも触れたように、索引作成にあたっては雑誌本文との間で齟齬が生じるような修正は極力控えている。ただし、利便性を考慮した上で、新たな系統名あるいは戯曲名を立てるべきではないかと判断した事例が若干ある。そうした項目には「\*」が付してある（凡例参照）。いうまでもなく、そのほとんどに関して検索に支障をきたすことはないが、本索引と『系統別解題』本文が呼応していない項目が二つある。ここで解説しておきたい。

【例 2】は「眉間割」項（『芸能』第 24 巻第 5 号）の冒頭である。この項には、『本朝三国志』以下、『祇園祭礼信仰記』『三日太平記』『絵本太功記』等々、通算で 16 作品もの戯曲解題が並んでいる。

問題は「眉間割」が“戯曲通称”だった点にある。『系統別解題』が戯曲通称として立項した場合、ある戯曲の場面・局面に対する通称であることが圧倒的に多い。【例 3】として「川

ミケンワリ（眉間割）。戯曲通称・歌舞伎脚本「時桔梗出世請状」馬壺の光秀の序幕、脚色は非常に多い。但し徳川期に近いため、明智は武智に改められているのが定式で、同時に信長は小田春永、秀吉は真柴久吉である。材料は初め「真書太閤記」、後に至つて絵本太功記から至給マツされている。まず古浄瑠璃時代には殆どなく、

ホンチヨウ、サンゴクシ（本朝三国志）、一七一九（享保四年）二月、竹本座演。近松門左衛門作における惟任判官光秀は、早くより謀叛の兆ある佞姦な人物で、……

以下略

【例 2：「眉間割」項】

越上使」項ほか（『芸能』第 6 巻第 3 号）を掲げる。いずれも、その「戯曲通称」が何という戯曲のどの部分に相当するのかが解説され、さらにその戯曲がどの系統に分類されているのかが参照項目の形で示されている。例えば、「蛙飛」は『小野道風青柳硯』二段目口の通称であり、『小野道風青柳硯』の解題は系統《小野道風》（『芸能』第 4 巻第 6 号）にあることが示されている。これが『系統別解題』における「戯曲通称」の書式である。幾つもの戯曲解題が列挙されるというのは、「眉間割」が「戯曲通称」であるのならば、不自然なのである。実際、「戯曲通称」として立項されながら複数の戯曲解題を含んでいたのは、他には後述の一項目だけであった。

カワゴエジョウシ（川越上使）。戯曲通称。人形劇「義経千本桜」序の切。堀川御所へ川越太郎が上使にくるくだりを指す。（参照「千本桜」。）

カワシヨウ（河庄）。戯曲通称。人形劇「天網島」上巻を指す。その改作たる「心中紙屋治兵衛」新地茶屋の段にも適用。歌舞伎に移入した場合でも同じである。（参照「小春治兵衛」。）

カワズトビ（蛙飛）。戯曲通称。人形劇「小野道風青柳硯」二段目口の、東寺の池で道風が、蛙の柳へ飛びつくを見るくだりを指す。（参照「小野道風」。）

【例 3：戯曲通称】

複数の戯曲解説が続くという不合理は、「眉間割」項の場合、脱文を想定することで説明がつくように思われる。【例2】の「」を挟んだ前後の文意の通りが悪いのである。当該箇所には脱文があり、そこには「眉間割」項の解説の後半が記され、続いて系統名としての「ミツヒデ(光秀)」が立項されていたのではないだろうか。『本朝三国志』以下は、系統《光秀》に分類される戯曲として解説が施されていたものと考えた方が無理がない。そこで、本索引では「眉間割」とは別に、系統名索引に時代物「光秀」を立項することとした。戯曲名索引でも『本朝三国志』以下は時代物の系統《光秀》に分類されている。

戯曲通称として立項され、なおかつ戯曲解説を含むもう一つの事例が「鯨屋」項(『芸能』第12巻第4号)である。

スシヤ(鯨屋)。戯曲通称。義太夫劇「義経千本桜」三段目の切、下市村鯨屋の段を指す。ハナヤグラ、ヒトメセンボン(花櫓詠吉野)。一八三五(天保六年)五月、大阪中の芝居演。西沢一鳳作。「千本桜」の通しに、鯨屋だけを改作したもの。鯨屋弥助(二代中村芝翫)実は監物太郎と、その女房お里(二代中村富十郎)が釣瓶鯨の言立て。六代君が鯨の夢を盗むのを見て、お里は若葉内侍(四代山下金作)と六代を我が家へ招じる。弥助はわざと悪を粧い、内侍を殺し、お里の兄いがみの権太(浅尾与六)は六代を討ち、梶原景時(七代片岡仁左衛門)へ渡す。……

中略

ヨシツネ、センボンザクラ(義経千本桜)。一八四五(弘化二年)八月、市村座演の鯨屋は、千本の後家小せん(岩井杜若)は、中将惟盛(十二代市村羽左衛門)と若葉内侍(市川団之助)を匿う。小せんの娘お里(坂東しづか)は鯨売弥助(二役羽左衛門)を見染め、聲にすることとなつたが、間に立つた医者寒斎の間違いで、弥助の兄いがみの権太(四代坂東彦三郎)が智入りに来て大騒動となり、お里と弥助は逃げたが、権太は二人を追つて殺し、小せんに斬られ、……

以下略

【例4：「鯨屋」項】

上記【例4】のように、戯曲通称「鯨屋」の解説の後に、天保6年(1835)5月『花櫓詠吉野』と弘化2年(1845)8月『義経千本桜』の戯曲解説が続いている。その解説内容から、双方ともに「鯨屋」を換骨奪胎した芝居であったことが知れる。「眉間割」項で想定した脱文が、ここにもあったかどうかは微妙である。しかしながら、この二つの解説が戯曲通称「鯨屋」項の一部であるというのは、「戯曲通称」として立項された他の『系統別解説』の項目と比較して、やはり不自然である。そこで戯曲通称「鯨屋」に加え、時代物の系統《鯨屋》を立項することとした。系統《鯨屋》の解説は『系統別解説』本文には存在しない。「眉間割」項【例2】の「」以下が、仮に本来は系統《光秀》の解説部分であったのだとしたら、系統《鯨屋》は、それに対応する解説が存在しない本索引唯一の例外ということになる。

結語

生前の渥美清太郎は『日本戯曲辞典』を構想していた。引用は、昭和19年8月に刊行され

た著書『日本演劇辞典』（新大衆社）の凡例からの一節である。

個々の戯曲に関する「戯曲」の項目は全然略した。その理由は、こと戯曲にわたると、如何に項目を小規模にとゞめても、この三四倍の量を要する。それでは現下の出版物としては適正を欠く。別に小生には、本書の姉妹篇として「日本戯曲辞典」編纂の企画あり、その原稿も相当に纏まつて居て、二三年のうちには上梓も可能と思われる。この方は可成り自信の持てる大部の物であるから、戯曲に関しては全部この方に譲りたい。

日本戯曲辞典は小生が一生の仕事のつもりで今懸命に編纂してある。これでは特に歌舞伎と人形劇の戯曲の「系統」を明確にするつもりである。

この『日本戯曲辞典』は実現しなかった<sup>注4</sup>。『日本演劇辞典』の刊行から十数年後に連載が開始された『系統別歌舞伎戯曲解題』は、「歌舞伎と人形劇の戯曲の「系統」を明確にするつもり」で準備を進めていた戯曲辞典の草稿を利用したものではなからうか。ことによると、企図していた『日本戯曲辞典』そのものだったのかもしれない。確かに『系統別解題』はそうした辞典的な歌舞伎戯曲総覧として重宝がられてきたのは事実である。そしてまた、項目によっては、辞典的な記述ゆえに、あまりにも簡略に過ぎる記述ゆえに、もう少し詳しい解説であつたらと、物足りなさを覚えるのもまた事実である。しかし、『系統別解題』以上に広範囲にわたる歌舞伎戯曲の世界地図は、今なお存在しない。歌舞伎戯曲の全体像を考える上で必要不可欠な文献の一つであり、近世演劇研究における基礎文献中の基礎文献たる所以もそこにある。

『系統別解題』は、その大部分が著者の最終的な校正を経ていない遺稿であつた。表記の不統一や誤脱等々の不可抗力ともいふべき瑕瑾以外にも、『系統別解題』の価値を決定的に損なうものではないが、少なからぬ項目の不備が認められる。

いま敢えて一つだけ遺憾な点を挙げるとするならば、系統《伊賀越》の欠落であろう。『系統別解題』「いノ部」は連載第8回から始まった。「あノ部」の最後が連載第7回の《安中草三》（アンナカソウザ）「いノ部」の冒頭は雑誌上では《井筒屋源六》（イツツヤゲンロク）<sup>注5</sup>となる。前述したように、連載第8回は渥美清太郎本人による最終稿であつた。「アンナカ」と「イツツヤ」の間に、「イガゴエ」を含む草稿が存在していたはずである<sup>注6</sup>。おそらく著者の急逝による混乱で、何回分かの原稿がどこかに紛れてしまったのであろう。他にも、例えば長谷川伸の諸作には全く言及がない。これもまた、何らかの事情によるものであろう。

歌舞伎は毎年のように新作が上演されている。当たり前だが、渥美清太郎が亡くなってから今日に至る約50年の間に、舞台上で上演された作品は『系統別解題』に含まれていない。新たに紹介され、あるいは翻刻されてきた作品も含まれていない。その意味においても『系統別解題』は不完全である。しかし、歌舞伎が歌舞伎であり続ける限り、「系統別」の「戯曲解題」は不完全であり続ける。いわば『系統別歌舞伎戯曲解題』は、渥美清太郎の逝去によって、ひ

とつの完結をみたのであった。

- 注1 現存最古の歌舞伎台本は宝永7年(1710)大坂萩野八重桐座『心中鬼門角』とされている。
- 注2 歌舞伎台帳研究会『歌舞伎台帳 所在目録及び書誌調査』1981年。
- 注3 休載は通算で47回。
- 注4 渥美清太郎は『演芸画報』誌上においても、昭和11年4月号から「歌舞伎狂言辞典(義太夫の部)」を連載したことがあった。同年11月号の「け」の部」で中絶。
- 注5 実際に五十音順に並べ替えると、「いノ部」の第1項目は系統《出雲のお国》となる。
- 注6 「円覚寺」「岡崎」「菫切」「遠眼鏡」「沼津」「奉書試合」「饅頭娘」が『伊賀越道中双六』の戯曲通称として、また「円覚寺」「伝法屋」が『伊賀越乗掛合羽』の戯曲通称として、それぞれ立項されており、その多くで「伊賀越」が参照項目となっている。「荒木又右衛門」が参照項目となっている場合もあるが、系統《荒木又右衛門》も『系統別解題』本文には見当たらない。

---

協力：埋忠美沙(早稲田大学大学院)・原田真澄(早稲田大学大学院)

## == 索引凡例 ==

『系統別歌舞伎戯曲解題』索引は、系統名索引と戯曲名索引が別立てとなっている。

系統名索引は次のような書式とする。

① ワンキュウ	② 椀久	③ 【世話物】	④ 268	⑤ 27-02,28
------------	---------	------------	----------	---------------

【例 1：系統名索引の書式（1）】

### ① 系統名の読み

『系統別解題』では、系統名の読みを「カタカナ」で示す。①がカタカナ表記となっているのはそのためである。

### ② 系統名

原則として『系統別解題』の表記に従う。

同一表記の系統が立項されていた場合、系統名には【例 2】のような枝番号を付す。

カゲキヨ	景清 <sup>2</sup>	【舞踊】	049	05-05,42
------	-----------------	------	-----	----------

【例 2：系統名索引の書式（2）】

索引作成の際に新たに付加された項目は、末尾に「\*」を付す。

ミツヒデ	光秀*	【時代物】	235	24-05,24
------	-----	-------	-----	----------

【例 3：系統名索引の書式（3）】

### ③ 戯曲類別

『系統別解題』では系統名の後に「時代物」「世話物」等の戯曲類別をおく。系統名に対する大分類である。項目によっては記されていないこともあるが、【例 4】で示すように、補うことはしていない。

アイツサンメイジノクミジュウ	会津産明治組重	【 】	001	01-01,39
----------------	---------	-----	-----	----------

【例 4：系統名索引の書式（4）】

### ④ 連載回

雑誌『芸能』の連載回の表示は一部に誤りがある【表 1】。索引作成の際に入力したデータでは、整理の必要上、その誤りが訂正されている。索引の連載回が雑誌『芸能』の表示と異なっている場合、【例 5】のように「」（誌面上の表示は本索引よりも 1 回分多い）もしくは「」（1 回分少ない）を付す。

イマヨウコカジ	今様小鍛冶	【舞踊劇】	011	02-03,65
スサノオノミコト	素盞雄尊	【王代物】	142	14-04,32

【例 5：系統名索引の書式（5）】

### ⑤ 巻号頁

雑誌『芸能』の「巻-号, 頁」。

戯曲名索引は次のような書式とする。

①	②	③	④	⑤	⑥
ワンヤキョウベエ 椀屋久兵衛.....	268	27-02,30	椀久	ワンキョウ	【世話物】

【例 6：戯曲名索引の書式（1）】

戯曲名索引の②から⑥の各項は、使用している付加記号を含め、要素としては系統名索引と同じものである。

連載回	戯曲名索引 ②	系統名索引 ④
巻号頁	③	⑤
系統名	④	②
系統名の読み	⑤	①
戯曲類別	⑥	③

① 戯曲名

戯曲名の読み・表記は、原則として『系統別解題』に従う。『系統別解題』では、戯曲名の読みを「カタカナ」で示す。①の読みがカタカナ表記となっているのはそのためである。

系統《A》と系統《B》で立項された戯曲で、同一の作品でありながら表記が異なっていることがある。こうした場合は、より一般的な表記に統一している。

補足すべき事項は、【例 7】のように戯曲名の後に注記した。注記の書式・内容はとくに規定しなかったが、索引としての体裁上、必要最低限の情報に止めた。一つの系統内に同一表記の別作品（あるいは表記は異なるが読みが同一となる別作品）が立項されていた場合には、おおむね[上演年 上演場所/作者]のいずれかを記すこととした。

イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育 [1777/紀上太郎].....	040	04-08,61	お祭佐七	オマツリサシチ	【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育 [1777/紀上太郎].....	047	05-03,47	鏡山	カガミヤマ	【時代物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育 [1777/紀上太郎].....	074	07-09,44	小糸佐七	コイトサシチ	【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育 [1798/桜田治助].....	074	07-09,44	小糸佐七	コイトサシチ	【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育 [天保期大坂].....	074	07-09,45	小糸佐七	コイトサシチ	【世話物】

【例 7：戯曲名索引の書式（2）】

なお「戯曲通称」として立項されているものについては、次のような書式とする。他の戯曲名索引の項目と異なるのは、④「戯曲名」、⑤「戯曲名の読み」であり、⑥「戯曲類別」は省略してある。

ウチイリ 討入 [戯曲通称].....	015	02-07,57	仮名手本忠臣蔵	カナデホンチュウシングラ	
------------------------	-----	----------	---------	--------------	--

【例 8：戯曲名索引の書式（3）】



# 系統名索引

アイオイジシ	相生獅子	【 〓】	001 01-01,36
アイゴノワカ	あいごの若	【 〓】	001 01-01,38
アイツサンメイジノクミジュウ	会津産明治組重	【 〓】	001 01-01,39
アオイノウエ	葵の上	【 〓】	001 01-01,40
アオキヤタロウ	青木弥太郎	【 〓】	001 01-01,40
アオトバナシ	青砥調	【 〓】	002 01-02,36
アオトフジツナ	青砥藤綱	【 〓】	002 01-02,38
アカオノリンゾウ	赤尾の林蔵	【 〓】	002 01-02,39
アカガキトックリ	赤垣徳利	【 〓】	002 01-02,40
アカシ	明石	【 〓】	002 01-02,40
アカシシガノスケ	明石志賀之助	【 〓】	002 01-02,40
アカゾメエモンエイガモノガタリ	赤染衛門栄華物語	【 〓】	002 01-02,41
アカツチドロゾウ	赤土泥蔵	【 〓】	002 01-02,41
アカマツマンユウ	赤松満祐	【 〓】	002 01-02,42
アキシオ	秋汐	【 哥沢劇】	002 01-02,43
アキタギミンデン	秋田義民伝	【 〓】	002 01-02,43
アキツシマ	秋津島	【 〓】	002 01-02,44
アキミチ	秋道	【 〓】	002 01-02,44
アクゲンダ	悪源太	【 時代物】	003 01-03,41
アクタロウ	悪太郎	【 舞踊劇】	003 01-03,42
アケガラス	明烏	【 世話物】	003 01-03,42
アケチノッキリ	明智乗切	【 時代物】	003 01-03,43
アゲマキ	揚巻	【 舞踊】	003 01-03,43
アゲマキスケロク	揚巻助六	【 世話物】	003 01-03,43
アコギノヘイジ	阿漕の平次	【 時代物】	003 01-03,45
アコヤ	阿古屋	【 時代物】	003 01-03,45
アサイナ	朝比奈	【 時代物】	003 01-03,46
アサイナカイライシ	朝比奈傀儡師	【 舞踊劇】	004 01-04,48
アサイナスエヒロ	朝比奈未広	【 舞踊劇】	004 01-04,49
アサイナツリギツネ	朝比奈釣狐	【 舞踊劇】	004 01-04,49
アサガオニッキ	朝顔日記	【 お家世話物】	004 01-04,49
アサクサレイゲンキ	浅草霊験記	【 時代物】	004 01-04,51
アサツマ	浅妻	【 舞踊劇】	004 01-04,52
アサマ	浅間	【 舞踊劇】	004 01-04,53
アサマヤマフンカ	浅間山噴火	【 世話物】	004 01-04,55
アシビキノヤマンバ	足曳の山姥	【 舞踊劇】	冬 <span style="margin-left: 1em;">の山姥</span>
アゼクラジュウシロウ	畦倉重四郎	【 〓】	004 01-04,55
アソヤマザクラ	遊山桜	【 時代物】	005 01-05,42
アタカノシンセキ	安宅の新関	【 舞踊劇】	005 01-05,42
アタカノセキ	安宅関	【 時代物】	005 01-05,43
アタカノマツ	安宅松	【 舞踊劇】	005 01-05,43
アタケジンペイ	安宅甚平	【 舞踊】	005 01-05,43
アタケマル	安宅丸 <sup>1</sup>	【 お家物】	005 01-05,44
アタケマル	安宅丸 <sup>2</sup>	【 舞踊劇】	005 01-05,45
アダチガハラ	安達原 <sup>1</sup>	【 時代物】	005 01-05,45

アダチガハラ	安達原 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	005 01-05,46
アタマハリノチュウシングラ	頭殴りの忠臣蔵	【 】	005 01-05,46
アブラウリ	油売	【世話物】	005 01-05,46
アブラジゴク	油地獄	【世話物】	005 01-05,47
アブラボウズ	油坊主	【世話物】	005 01-05,47
アブラヤ	油屋	【世話物】	005 01-05,48
アベノセイメイ	安倍清明	【時代物】	006 01-06,53
アベノナカマロ	安倍仲麿	【時代物】	006 01-06,53
アベノノッキリ	阿部の乗切	【世話物】	006 01-06,54
アマクサグンキ	天草軍記	【時代物】	006 01-06,54
アマコジュウユウシ	尼子十勇士	【時代物】	006 01-06,57
アマコロシ	尼殺し	【世話物】	006 01-06,57
アマノイワト	天岩戸	【舞踊劇】	006 01-06,57
アマヤドリ	雨舎り	【舞踊劇】	006 01-06,57
アメノハチノキ	雨の鉢の木	【舞踊劇】	006 01-06,58
アヤツリサンバ	操三番	【舞踊劇】	006 01-06,58
アヤメニンギョウ	菖蒲人形	【舞踊劇】	006 01-06,58
アラゴロウモヘエ	荒五郎茂兵衛	【世話物】	006 01-06,58
アラメヤマ	荒芽山	【時代物】	006 01-06,59
アリマノネコ	有馬猫	【お家世話物】	006 01-06,60
アワシマ	粟島	【時代物】	007 01-07,56
アワタグチ	粟田口	【世話物】	007 01-07,57
アワノジュウロベエ	阿波の十郎兵衛	【お家世話物】	007 01-07,57
アワモチ	粟餅	【舞踊劇】	007 01-07,58
アンエイロク	安栄録	【世話物】	007 01-07,59
アンセイミツグミサカズキ	安政三組盃	【世話物】	007 01-07,59
アンナカソウザ	安中草三	【世話物】	007 01-07,60
イズモノオクニ	出雲のお国 <sup>1</sup>	【時代物】	008 01-08,55
イズモノオクニ	出雲のお国 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	008 01-08,57
イセシンクロウ	伊勢新九郎	【 】	008 01-08,57
イセノサブロウ	伊勢三郎	【時代物】	009 02-01,60
イセモノガタリ	伊勢物語	【時代物】	009 02-01,60
イタチコソウ	鼬小僧	【世話物】	009 02-01,61
イチカワダンジュウロウ	市川団十郎	【世話物】	009 02-01,61
イチハラノ	市原野	【舞踊劇】	009 02-01,62
イッキウゼンジ	一休禅師	【時代物】	009 02-01,62
イッキウゼンジ	一休禅師*	【舞踊劇】	009 02-01,63
イッチュウブシ	一中節	【世話物】	009 02-01,63
イツツヤゲンロク	井筒屋源六	【世話物】	008 01-08,55
イッポンアシ	一本足	【舞踊】	009 02-01,63
イトウドウアン	伊藤道庵	【世話物】	010 02-02,54
イナカゲンジ	田舎源氏*	【舞踊劇】	010 02-02,54
イナカゲンジ	田舎源氏	【時代物】	010 02-02,54
イナカミコ	田舎巫女	【舞踊】	010 02-02,55
イナバコソウ	稲葉小僧	【時代物】	010 02-02,55
イヌガミ	犬神	【舞踊劇】	010 02-02,56
イバラキ	茨木	【舞踊劇】	010 02-02,57
イバラキヤコウサイ	茨木屋幸斎	【世話物】	010 02-02,58

イマガワジョウ	今川状	【時代物】	011 02-03,63
イマムラサキ	今紫	【世話物】	011 02-03,65
イマヨウコカジ	今様小鍛冶	【舞踊劇】	011 02-03,65
イマヨウドウジョウジ	今様道成寺	【舞踊劇】	道成寺
イモガヤド	妹が宿	【舞踊劇】	011 02-03,65
イモセヤマ	妹背山	【王代物】	011 02-03,66
イルカタイジ	入鹿退治	【時代物】	012 02-04,48
イロハシンスケ	いろは新助	【世話物】	012 02-04,51
イワクラソウゲン	岩倉宗玄	【時代物】	013 02-05,51
イワトノカゲキヨ	岩戸の景清	【時代物】	013 02-05,51
イワミジュウタロウ	岩見重太郎	【お家物】	013 02-05,52
インガモノシ	因果物師	【世話物】	013 02-05,52
ウイロウウリ	外郎売	【時代物】	013 02-05,52
ウエキヤ	植木屋	【お家物】	013 02-05,53
ウエノノセンソウ	上野の戦争	【世話物】	013 02-05,53
ウガイノカガリビ	鵜飼燎	【世話物】	014 02-06,57
ウキフネノアサズマ	浮船の朝妻	【舞踊劇】	朝妻
ウキヨセイゲン	浮世清玄	【世話物】	014 02-06,57
ウグイスツカ	鶯塚	【時代物・お家物】	014 02-06,57
ウゲツモノガタリ	雨月物語	【時代世話物】	014 02-06,58
ウシロメン	後面	【舞踊劇】	014 02-06,59
ウシワカ	牛若	【舞踊】	014 02-06,59
ウスグモノネコ	薄雲の猫	【世話物】	014 02-06,59
ウスユキ	薄雪	【時代物】	014 02-06,60
ウツシエ	写絵	【舞踊劇】	015 02-07,57
ウツノヤトウゲ	宇都谷峠	【世話物】	文弥殺し
ウツボサル	靱猿	【舞踊劇】	015 02-07,58
ウデノキサブロウ	腕の喜三郎	【世話物】	015 02-07,58
ウトウ	善知鳥	【世話物】	015 02-07,59
ウナギタニ	鰻谷	【世話物】	016 02-08,57
ウバアラソイ	乳母争い	【時代物】	016 02-08,58
ウバガモチ	姥ヶ餅	【舞踊劇】	016 02-08,58
ウブメ	うぶ女	【舞踊劇】	016 02-08,59
ウマオイ	馬追	【舞踊】	016 02-08,59
ウマキリ	馬切	【お家物】	016 02-08,59
ウメガエ	梅ヶ枝	【時代物】	無間の鐘
ウメガエノフミウリ	梅ヶ枝の文売	【舞踊】	016 02-08,59
ウメガワシンシチ	梅川新七	【世話物】	016 02-08,60
ウメガワチュウベエ	梅川忠兵衛	【世話物】	016 02-08,60
ウメゴヨミ	梅暦	【世話物】	017 02-09,49
ウメノヨシベエ	梅の由兵衛*	【舞踊劇】	017 02-09,49
ウメノヨシベエ	梅の由兵衛	【世話物】	017 02-09,49
ウラオモテセンダイハギ	裏表先代萩	【時代物】	018 02-10,53
ウラオモテセンボンザクラ	裏表千本桜	【時代物】	018 02-10,54
ウラオモテチュウシングラ	裏表忠臣蔵	【時代物】	018 02-10,55
ウラシマ	浦島	【時代物】	018 02-10,55
ウワジマソウドウ	宇和島騒動	【お家物】	019 02-11,47
ウワナリ	嫩	【時代物】	019 02-11,48

ウワバミオヨシ	蟒お由	【世話物】	019	02-11,48
エイコクコウシデン	英国孝子伝	【世話物】	019	02-11,49
エガラノヘイダ	荏柄平太	【時代物】	019	02-11,49
エジマイクシマ	江島生島	【世話物】	020	02-12,38
エジマヤソウドウ	江島屋騒動	【世話物】	020	02-12,39
エチゴジシ	越後獅子	【舞踊】	020	02-12,40
エチゴソウドウ	越後騒動	【お家物】	020	02-12,40
エチゴデンキチ	越後伝吉	【世話物】	020	02-12,41
エチゼンソウドウ	越前騒動	【お家物】	021	03-01,33
エトウシンペイ	江藤新平	【世話物】	021	03-01,33
エビラノウメ	籠の梅	【時代物】	021	03-01,34
エフリン	恵府林	【世話物】	021	03-01,34
エンノギョウジャ	役行者	【時代物】	021	03-01,34
エンマノコヘエ	閻魔の小兵衛	【世話物】	021	03-01,35
エンムスビ	縁結び	【舞踊劇】	021	03-01,36
エンメイイン	延命院	【世話物】	021	03-01,36
エンヤハンガン	塩谷判官	【時代物】	021	03-01,37
オウギウリタカオ	扇売高尾	【舞踊劇】	022	03-02,31
オウギヤクマガイ	扇屋熊谷	【時代物】	022	03-02,32
オウショウクン	王昭君	【時代物】	024	03-04,71
オウニンノラン	応仁の乱	【時代物】	025	03-05,65
オウミゲンジ	近江源氏	【時代物】	025	03-05,66
オウメクメノスケ	お梅桑之助	【世話物】	025	03-05,67
オオウチソウドウ	大内騒動	【時代物】	022	03-02,29
オオオカセイダン	大岡政談	【 】	022	03-02,30
オオカワトモエモン	大川友右衛門	【お家物】		血達磨
オオクボヒコザエモン	大久保彦左衛門	【お家物】	022	03-02,32
オオクマガワ	大隈川	【世話物】	023	03-03,64
オオクラキョウ	大蔵卿	【時代物】	023	03-03,64
オオサカジン	大阪陣	【時代物】	023	03-03,64
オオサカズキ	大杯	【お家物】	023	03-03,67
オオサカマンザイ	大阪万歳	【舞踊劇】	023	03-03,68
オオシオヘイハチロウ	大塩平八郎	【世話物】	023	03-03,68
オオタドウカン	太田道灌	【時代物】	024	03-04,72
オオツエ	大津絵	【舞踊劇】	024	03-04,72
オオトウノミヤ	大塔宮	【時代物】	024	03-04,73
オオトモノマトリ	大友真鳥	【時代物】	024	03-04,74
オオハゴイタ	大羽子板	【舞踊劇】		舞鶴屋
オオムラマスジロウ	大村益次郎	【世話物】	025	03-05,67
オオモリヒコシチ	大森彦七	【時代物】	026	03-06,61
オオヤママイリ	大山詣	【舞踊劇】	026	03-06,62
オカゲマイリ	お蔭参り	【舞踊劇】	026	03-06,63
オカザキノネコ	岡崎の猫	【世話物】	026	03-06,63
オガサワラソウドウ	小笠原騒動	【お家物】	026	03-06,64
オカメヨヘエ	お亀と兵衛	【世話物】	027	03-07,62
オギエロユウ	荻江露友	【世話物】	027	03-07,63
オキクコウスケ	お菊幸助	【世話物】	027	03-07,63
オキサジロベエ	おきさ二郎兵衛	【世話物】	027	03-07,65

オクミソウジロウ	お組宗次郎	【世話物】	027 03-07,65
オグラヤマ	小倉山	【舞踊劇】	027 03-07,65
オグリハンガン	小栗判官	【時代物】	028 03-08,67
オケハザマ	桶狭間	【時代物】	028 03-08,70
オコマサイザ	お駒才三	【世話物】	029 03-09,70
オサガカヘイジ	おさが嘉平次	【世話物】	029 03-09,71
オサカベ	小坂部	【時代物】	029 03-09,72
オサンモヘエ	お三茂兵衛	【世話物】	029 03-09,73
オシズレイサ	お静礼三	【世話物】	030 03-10,71
オシチキチサ	お七吉三	【世話物】	030 03-10,71
オシドリ	鴛鴦	【舞踊劇】	031 03-11,68
オシマイチロウエモン	お島市郎右衛門	【世話物】	031 03-11,70
オシュンデンベエ	お俊伝兵衛	【世話物】	031 03-11,70
オソノロクサ	お園六三	【世話物】	032 03-12,61
オソメノナナヤク	お染の七役	【世話物】	033 04-01,60
オソメヒサマツ	お染久松	【世話物】	033 04-01,61
オタカヤイチ	お高弥市	【世話物】	033 04-01,63
オタケダイニチニヨライ	お竹大日如来	【世話物】	034 04-02,61
オタマガイケ	お玉ヶ池	【世話物】	034 04-02,61
オチウド	落人	【舞踊劇】	034 04-02,62
オチヨハンベエ	お千代半兵衛	【世話物】	034 04-02,62
オツマハチロベエ	お妻八郎兵衛	【世話物】	034 04-02,63
オトコシゲノイ	男重の井	【世話物】	035 04-03,70
オトコシャベリ	男しゃべり	【舞踊劇】	035 04-03,71
オトコゾウリウチ	男草履打	【世話物】	035 04-03,71
オトコドウジョウジ	男道成寺	【舞踊劇】	035 04-03,72
オトコマイ	男舞	【舞踊】	035 04-03,72
オトコマサオカ	男政岡	【時代物】	035 04-03,72
オトコヤマウバ	男山姥	【時代物】	036 04-04,69
オトドイツカ	兄弟塚	【お家物】	036 04-04,69
オトヒメ	乙姫	【舞踊】	036 04-04,70
オトワタンシチ	音羽丹七	【世話物】	036 04-04,70
オナツセイジュウロウ	お夏清十郎	【世話物】	036 04-04,71
オナバケイナリ	女化稲荷	【世話物】	037 04-05,67
オニジヒョウシマイ	鬼次拍子舞	【舞踊劇】	037 04-05,67
オノエイダハチ	尾上伊太八	【世話物】	037 04-05,67
オノノコマチ	小野小町	【時代物】	037 04-05,68
オノノタカムラ	小野篁	【時代物】	038 04-06,62
オノノトウフウ	小野道風	【時代物】	038 04-06,62
オハツキュウベエ	お初久兵衛	【世話物】	038 04-06,63
オハツトクベエ	お初徳兵衛	【世話物】	038 04-06,63
オハナハンシチ	お花半七	【世話物】	038 04-06,64
オハラメ	大原女	【舞踊】	039 04-07,55
オハンチョウエモン	お半長右衛門	【世話物】	039 04-07,56
オビヒキ	帯曳	【舞踊】	040 04-08,59
オフサトクベエ	お房徳兵衛	【世話物】	040 04-08,59
オマツリ	お祭	【舞踊】	040 04-08,61
オマツリサシチ	お祭佐七	【世話物】	040 04-08,61

オミワ	お三輪	【舞踊劇】	041	04-09,54
オモイマスヤ	思升屋	【世話物】	041	04-09,54
オモトシンスケ	お元新助	【世話物】	041	04-09,55
オヤソトウベエ	お八十藤兵衛	【世話物】	041	04-09,55
オヤツノタイコ	御末刻太鼓	【お家物】	041	04-09,55
オワカイノスケ	お若伊之助	【世話物】	041	04-09,57
オンナオオサカズキ	女大杯	【世話物】	041	04-09,58
オンナカゲキヨ	女景清	【時代物】		阿古屋
オンナクスノキ	女楠	【時代物】	041	04-09,58
オンナクドウ	女工藤	【時代物】	042	04-10,67
オンナクマサカ	女熊坂	【時代物】	042	04-10,68
オンナクルマビキ	女車引	【舞踊劇】	042	04-10,68
オンナコウチャマ	女河内山	【世話物】	042	04-10,69
オンナゴエモン	女五右衛門	【時代物】	042	04-10,69
オンナサダクロウ	女定九郎	【世話物】	042	04-10,70
オンナサルマワシ	女猿廻し	【世話物】	042	04-10,70
オンナシバラク	女暫	【時代物】	043	04-11,48
オンナショセイ	女書生	【世話物】	043	04-11,49
オンナセイゲン	女清玄	【時代物】	043	04-11,49
オンナダテ	女伊達	【舞踊】	043	04-11,51
オンナタユウ	女太夫	【舞踊】	043	04-11,50
オンナダンシチ	女団七	【世話物】	043	04-11,51
オンナチュウシングラ	女忠臣蔵	【お家物】	044	04-12,41
オンナチョウベエ	女長兵衛	【世話物】	044	04-12,41
オンナナルカミ	女鳴神	【時代物】	044	04-12,41
オンナハチノキ	女鉢木	【時代物】	044	04-12,43
オンナヒニンアダウチ	女非人仇討	【お家物】	044	04-12,43
オンナベンケイ	女弁慶	【時代物】	044	04-12,43
オンナモドリカゴ	女戻駕	【舞踊劇】	044	04-12,44
カイソデン	恠鼠伝	【時代物】	044	04-12,44
カイドウクダリ	海道下り	【舞踊劇】	045	05-01,44
カイヤゼンキチ	貝屋善吉	【世話物】		越後伝吉
カイライシ	傀儡師	【舞踊劇】	045	05-01,44
カオミセニバンメ	顔見世二番目	【世話時代物】	045	05-01,45
カガソウドウ	加賀騒動	【お家物】	046	05-02,44
カガトビ	加賀鳶	【世話物】	046	05-02,45
カガノチヨ	加賀の千代	【お家物】		加賀騒動
カガノチヨ	加賀の千代	【時代物】		飛騨内匠
カガミジシ	鏡獅子	【舞踊劇】	046	05-02,46
カガミヤマ	鏡山	【時代物】	046	05-02,46
カガヤノキョウラン	加賀屋の狂乱	【舞踊】	047	05-03,47
ガカンジ	瓦罐寺	【時代物】	047	05-03,47
カキエモン	柿右衛門	【世話物】	047	05-03,47
カキノキキンスケ	柿木金助	【世話物】	047	05-03,48
ガクヌケ	額抜け	【舞踊劇】	047	05-03,49
カクベエ	角兵衛	【舞踊】	047	05-03,49
カゲカツダンゴ	影勝団子	【舞踊劇】	048	05-04,44
カゲキヨ	景清 <sup>1</sup>	【時代物】	048	05-04,44

カゲキヨ	景清 <sup>2</sup>	【舞踊】	049	05-05,42
カゴツルベ	籠釣瓶	【世話物】	049	05-05,42
カコノキョウシン	賀古教心	【時代物】	049	05-05,43
カゴヤ	駕籠屋	【舞踊】	049	05-05,43
カサデラ	笠寺	【時代物】	049	05-05,44
カサネ	累	【お家物】	049	05-05,44
カサネガフチ	累ヶ淵	【世話物】	050	05-07,43
カサハリブスケ	傘張り武助	【世話物】	050	05-07,44
カサモリオセン	笠森お仙	【世話物】	050	05-07,44
カシクアニコロシ	かしく兄殺し	【世話物】		お園六三
カシマオドリ	鹿島踊	【舞踊劇】	050	05-07,45
カシワザキ	柏崎	【時代物】	050	05-07,46
カジワラサイゴ	梶原最期	【時代物】	050	05-07,46
カスガノツボネ	春日局	【お家物】	050	05-07,47
カスガリュウジン	春日竜神	【舞踊劇】	050	05-07,47
カズサイチベエ	上総市兵衛	【世話物】	050	05-07,47
カタタオチ	堅田落	【時代物】	051	05-08,46
カツアワ	勝安房	【お家物】	051	05-08,47
カツオウリ	松魚売	【舞踊】	051	05-08,47
ガッポウ	合邦	【時代物】	051	05-08,48
ガッポウガツジ	合邦辻	【お家物】	051	05-08,48
カッポレ	活惚	【舞踊劇】	051	05-08,50
カツヤマ	勝山	【世話物】	051	05-08,50
カツラガワリキゾウ	桂川力蔵	【世話物】	052	05-09,42
カツラコゴロウ	桂小五郎	【世話物】	052	05-09,43
カナオカ	金岡	【 】	052	05-09,44
カマイリノゴエモン	釜煎の五右衛門	【時代世話物】	052	05-09,44
カマクラヤマ	鎌倉山	【お家物】	052	05-09,45
カマダマタハチ	鎌田又八	【お家物】	052	05-09,45
カマバラ	鎌腹	【お家物】	052	05-09,46
カマヒゲ	鎌髭	【時代物】	052	05-09,46
カミガタカオミセキョウゲン	上方顔見世狂言	【 】	053	05-10,39
カミナリ	雷	【舞踊】	053	05-10,40
カミナリセンドウ	雷船頭	【舞踊】	187	20-04,46
カミヤケイジュウロウ	神谷慶十郎	【世話物】	053	05-10,40
カミュイシンザ	髪結新三	【世話物】	053	05-10,41
カミュイトウジ	髪結藤次	【世話物】	053	05-10,41
カメヤマアダウチ	亀山仇討	【お家物】	053	05-10,42
カモノチョウメイ	鴨長明	【時代物】	055	05-12,42
カライト	唐糸	【時代物】		恠鼠伝
カリガネゴニンオトコ	鴈金五人男	【世話物】	055	05-12,42
カリガネゴニンオンナ	鴈金五人女	【世話物】	056	06-02,45
カリノタヨリ	雁の便り	【世話物】	056	06-02,46
カルカヤ	苺萱	【時代物】	056	06-02,47
カワタビ	革足袋	【世話物】	057	06-03,42
カワチジュウニンギリ	河内十人斬	【世話物】	057	06-03,42
カワナカジマ	川中島	【時代物】	057	06-03,42
カンウ	関羽 <sup>1</sup>	【時代物】	057	06-03,44

カンウ	関羽 <sup>2</sup>	【舞踊】	057 06-03,44
カンジョ	官女	【舞踊劇】	058 06-04,46
カンジンチョウ	勧進帳	【舞踊劇】	058 06-04,46
カンスケウチジニ	勘助討死	【時代物】	川中島
カンソグンダン	漢楚軍談	【時代物】	058 06-04,48
カンダマツリ	神田祭	【舞踊劇】	058 06-04,49
カントウコロク	邯鄲	【舞踊劇】	058 06-04,49
カンニンプクロ	関東小六	【時代物】	059 06-05,48
ガンニンボウズ	堪忍袋	【世話物】	059 06-05,49
カンネラモンペイ	願人坊主	【舞踊劇】	059 06-05,49
カンムテンノウ	貫練門平	【時代物】	大内騒動
ガンリュウジマ	桓武天皇	【時代物】	059 06-05,49
キオイジシ	巖流島	【お家時代物】	059 06-05,50
キクジドウ	勢獅子	【舞踊劇】	060 06-06,39
キクバタケ	菊慈童	【舞踊劇】	060 06-06,39
キシヒメ	菊畑	【時代物】	060 06-06,40
キシボジン	岸姫	【時代物】	060 06-06,40
ギシメイメイデン	鬼子母神	【時代物】	060 06-06,41
キジンノオマツ	義士銘々伝	【お家物】	060 06-06,41
キセン	鬼神のお松	【世話物】	060 06-06,43
キヅカンスケ	喜撰	【舞踊劇】	061 06-07,45
キツネシズカ	木津勘助	【世話物】	061 06-07,43
キツネツカ	狐静	【時代物】	061 06-07,46
キノエネマチ	狐墳	【舞踊劇】	061 06-07,46
キノツラユキ	甲子待	【舞踊】	062 06-08,33
キビダンジン	紀貫之	【時代物】	062 06-08,33
キブン	吉備大臣	【時代物】	062 06-08,33
ギヘイゴウモン	紀文	【世話物】	062 06-08,34
キヤリ	義平拷問	【世話物】	062 06-08,36
キュウスエ	木遣り	【舞踊劇】	062 06-08,37
キョウカクデン	灸据	【舞踊劇】	062 06-08,37
キョウガシマ	侠客伝	【時代物】	062 06-08,35
ギョウキ	経ヶ島	【時代物】	062 06-08,37
キョウタイインソウドウ	行基	【時代物】	063 06-09,42
キョウタイインソウドウ	鏡態院騒動	【 】	愛護若
キョクバ	鏡態院騒動	【お家物】	皿屋敷
キヨヒメ	曲馬	【舞踊劇】	063 06-09,43
キヨマサ	清姫	【時代物】	063 06-09,43
キヨミズモノガタリ	清正	【時代物】	063 06-09,44
キヨモリ	清水物語	【時代物】	063 06-09,45
キラレオトミ	清盛	【時代物】	063 06-09,45
キラレヨサ	切られお富	【世話物】	064 06-10,35
キリタロウ	切られ与三	【世話物】	064 06-10,35
キリヒトハ	霧太郎	【時代物】	064 06-10,36
キリミセジョロウ	桐一葉	【時代物】	064 06-10,37
キンカクジ	切見世女郎	【舞踊】	064 06-10,38
キンカンバン	金閣寺	【時代物】	064 06-10,38
	金看板	【世話物】	065 06-12,30



キンタイバシ	錦帯橋	【時代物】	065	06-12,30
キンピラ	金平	【時代物】	065	06-12,31
クウヤネンブツ	空也念仏	【時代物】	065	06-12,32
クサズリビキ	草摺引	【舞踊劇】	065	06-12,32
クズ	国栖	【王代物】	065	06-12,33
クズノハ	葛の葉	【時代物】	065	06-12,33
クズヤゼンキチ	屑屋善吉	【世話物】	066	07-01,35
クニサダチュウジ	国定忠治	【世話物】	066	07-01,35
クマガイ	熊谷	【時代物】	067	07-02,37
クマガイジンヤ	熊谷陣屋	【時代物】	067	07-02,38
クマサカ	熊坂	【時代物】	067	07-02,39
クマワカマル	阿新丸	【時代物】	067	07-02,41
クメノセンニン	糸の仙人	【時代物】	067	07-02,41
クモキリニザエモン	雲霧仁左衛門	【世話物】	068	07-03,42
クモノイト	蜘蛛の糸	【舞踊劇】	068	07-03,43
クモノヒョウシマイ	蜘蛛拍子舞	【舞踊劇】	068	07-03,44
クラマジシ	鞍馬獅子	【舞踊劇】	068	07-03,45
クラマヤマ	鞍馬山	【時代物】	068	07-03,45
クラヤミノウシマツ	暗闇の丑松	【世話物】	068	07-03,45
クルマゼンシチ	車善七	【世話物】	068	07-03,46
クロカミ	黒髪	【舞踊劇】	068	07-03,46
クロダソウドウ	黒田騒動	【お家物】	068	07-03,46
クロツカ	黒塚	【舞踊劇】		安達原 <sup>2</sup>
クロテグミ	黒手組	【世話物】	069	07-04,42
クロフネチュウエモン	黒船忠右衛門	【世話物】	070	07-05,37
クワナヤトクゾウ	桑名屋徳蔵	【世話物】	070	07-05,39
ケイアンタイヘイキ	慶安太平記	【お家世話物】	070	07-05,40
ケイコムスメ	稽古娘	【舞踊】	071	07-06,45
ケイセイ	傾城	【舞踊】	071	07-06,45
ケイセイアサマ	傾城浅間	【舞踊劇】		浅間
ケイセイカガミヤマ	傾城鏡山	【世話物】	071	07-06,46
ケイセイシゲノイ	傾城重の井	【世話物】	071	07-06,46
ケイセイドウジョウジ	傾城道成寺	【舞踊劇】	072	07-07,37
ケゾリ	毛剃	【世話物】	072	07-07,37
ゲダツ	解脱	【時代物】	072	07-07,38
ケツパントリ	血判取	【時代物】	072	07-07,39
ケヌキ	毛抜	【時代物】	072	07-07,40
ケヤムラ	毛谷村	【お家物】	073	07-08,36
ゲンジグルマ	源氏車	【世話物】	073	07-08,37
ゲンジモノガタリ	源氏物語	【時代物】	073	07-08,37
ゲンジョショウニン	玄恕上人	【時代物】	073	07-08,40
ゲンダ	源太	【舞踊】	074	07-09,40
ケンチョウジ	建長寺	【時代物】	074	07-09,40
ケンニンジ	建仁寺	【時代物】	074	07-09,40
ゲンロクオドリ	元禄踊	【舞踊劇】	074	07-09,41
ゲンロクチュウシングラ	元禄忠臣蔵	【お家物】	074	07-09,41
コアツモリ	小敦盛	【時代物】	074	07-09,42
コイソガハラ	小磯ヶ原	【世話物】	074	07-09,42

コイツカミ	鯉掴み	【時代物】	074	07-09,43
コイトサシチ	小糸佐七	【世話物】	074	07-09,43
コイナハンベエ	こいな半兵衛	【世話物】	074	07-09,45
コイニョウボウ	恋女房	【お家物】	075	07-10,42
コウガサブロウ	甲賀三郎	【時代物】	075	07-10,44
コウサカジンナイ	高坂基内	【お家世話物】	076	07-11,33
コウチャマ	河内山	【世話物】	076	07-11,34
コウボウダイシ	弘法大師	【時代物】	077	08-02,32
コウモンキ	黄門記	【お家世話物】	077	08-02,33
コウヤモノグレイ	高野物狂	【舞踊劇】	077	08-02,34
ゴエツグンダン	呉越軍談	【時代物】	077	08-02,35
コオリヤ	氷屋	【舞踊劇】	077	08-02,34
コカジ	小鍛冶	【時代物・舞踊劇】	077	08-02,35
コガネイコジロウ	小金井小次郎	【世話物】	078	08-03,39
コカンヘイベエ	小かん平兵衛	【世話物】	078	08-03,39
コギクハンベエ	小菊半兵衛	【世話物】	078	08-03,39
コギツネレイザ	小狐礼三	【世話物】	078	08-03,40
コキンヒコソウ	古今彦惣	【世話物】	079	08-04,34
コクセンヤ	国性爺	【時代物】	079	08-04,35
コザサ	小篠	【時代物】	079	08-04,37
コザルシチノスケ	小猿七之助	【世話物】	079	08-04,37
コサンキンゴロウ	小三金五郎	【世話物】	080	08-05,28
コシテンノウ	小四天王	【時代物】	080	08-05,29
コジマタカノリ	小島高德	【時代物】	080	08-05,30
ゴジュウサンツギ	五十三駅	【時代お家世話物】	081	08-06,36
ゴジョウザカノカゲキヨ	五条坂の景清	【舞踊】		景清 <sup>2</sup>
ゴジョウラクゲツ	孤城落月	【時代物】	081	08-06,40
ゴショノゴロゾウ	御所の五郎蔵	【時代世話物】	081	08-06,40
ゴスイデン	五翠殿	【時代物】	082	08-07,28
コスケ	小助	【世話物】	082	08-07,29
ゴセックマサオカ	五節句政岡	【お家物】	082	08-07,29
コソデウリ	小袖売	【時代物】	082	08-07,30
ゴダイリキ	五大力	【世話物】	082	08-07,30
コツヨセノイワフジ	骨寄せの岩藤	【お家物】	083	08-08,46
ゴトウ	五斗	【時代物】	083	08-08,48
ゴトウマタベエ	後藤又兵衛	【時代物】	083	08-08,48
コトゼメ	琴責	【時代物】		阿古屋
コトブキマンザイ	寿万歳	【舞踊】	083	08-08,49
コニシユキナガ	小西行長	【時代物】	083	08-08,49
コニシライザン	小西来山	【世話物】	083	08-08,50
ゴニチノカガソウドウ	後日の加賀騒動	【お家物】	084	08-09,23
ゴニチノソガ	後日の曾我	【時代物】	084	08-09,24
ゴニチノチュウシングラ	後日の忠臣蔵	【お家物】	084	08-09,25
ゴニンバヤシ	五人囃子	【舞踊劇】	084	08-09,26
コハダコヘイジ	木幡小平次	【世話物】	084	08-09,27
コハルジヘエ	小春治兵衛	【世話物】	084	08-09,28
ゴバンタダノブ	暮盤忠信	【時代物】	084	08-09,30
コマ	独楽	【舞踊】	086	08-11,27

コマガイケ	駒ヶ池	【世話物】	086	08-11,27
コマゾウヒョウシマイ	高麗蔵拍子舞	【舞踊劇】	086	08-11,28
コマチャッコ	小町奴	【世話物】	086	08-11,27
ゴミダユウ	芥太夫	【舞踊劇】	086	08-11,28
コムソウ	虚無僧	【舞踊劇】	086	08-11,28
コモチタカオ	子持高尾	【世話物】	086	08-11,29
コモチヤマンバ	嫗山姥	【時代物】	087	09-02,41
コモリ	子守	【舞踊劇】	086	08-11,29
コヤナギゴロシ	小柳殺し	【世話物】	087	09-02,41
コヨミ	暦	【時代物】	087	09-02,41
ゴロウ	五郎	【舞踊】	087	09-02,42
コワリデンナイ	小割伝内	【お家物】	087	09-02,42
ゴンサイ	権妻	【世話物】	087	09-02,43
ゴンザスケジュウ	権三助十	【世話物】	087	09-02,43
コンドウジュウゾウ	近藤重蔵	【世話物】	088	09-03,39
コンドウチュウノシン	近藤忠之進	【お家物】	088	09-03,39
ゴンパチコムラサキ	権八小紫	【世話物】	088	09-03,39
コンピラリショウキ	金比羅利生記	【お家物】	088	09-03,45
サイギョウ	西行	【時代物】	089	09-04,42
サイゴウタカモリ	西郷隆盛	【世話物】	089	09-04,43
サイユウキ	西遊記	【舞踊劇】	091	09-06,34
サエグサモノガタリ	三枝譚	【お家物】	091	09-06,34
サカイノタイコ	酒井の太鼓	【時代物】	091	09-06,35
サカキバラタカオ	榊原高尾	【お家物】	091	09-06,35
サカサキデワノカミ	坂崎出羽守	【時代物】	091	09-06,36
サカシタジケン	坂下事件	【お家物】	091	09-06,36
サカナヤソウゴロウ	魚屋宗五郎	【世話物】	091	09-06,37
サガミアマ	相模蛭	【舞踊】	092	09-07,40
サカヤ	酒屋	【世話物】	092	09-07,40
サカロ	逆鱗	【時代物】	092	09-07,40
サギムスメ	鷺娘	【舞踊劇】	092	09-07,41
サクラソウゴ	佐倉宗吾	【世話物】	092	09-07,41
サクラダジヘン	桜田事変	【世話物】	092	09-07,43
サクラモチ	桜餅	【世話物】	092	09-07,44
ササキタカツナ	佐々木高綱	【時代物】	092	09-07,45
ササノゴンザ	笹野権三	【世話物】	092	09-07,45
サダスケゴンパチ	定助権八	【世話物】	093	09-08,31
サッサナリマサ	佐々成政	【時代物】	093	09-08,31
サツマウタ	薩摩歌	【世話物】	093	09-08,32
サツマオドリ	薩摩踊	【舞踊】	093	09-08,33
ザトウ	座頭	【舞踊】	093	09-08,33
サナダノハリヌキツツ	真田の張抜筒	【時代物】	093	09-08,33
サナダユキムラ	真田幸村	【時代物】	093	09-08,34
サネットモ	実朝	【時代物】	094	09-09,30
サネモリ	実盛	【時代物】	094	09-09,30
サノシカジウロウ	佐野鹿十郎	【お家物】	094	09-09,32
サノヤツハシ	佐野ハツ橋	【世話物】	094	09-09,32
サマノスケノッキリ	左馬之助乗切	【時代物】		明智乗切

サヤアテ	鞘当	【時代物】	095 09-10,28
サラシサンバ	晒三番	【舞踊劇】	095 09-10,29
サラシナソウシ	更科草紙	【時代物】	尼子十勇士
サラシメ	晒女	【舞踊】	096 09-11,21
サラヤシキ	皿屋敷	【お家物】	096 09-11,21
サルマイ	猿舞	【舞踊劇】	097 10-01,18
サルマワシ	猿廻し	【舞踊】	097 10-01,18
サルワカ	猿若	【舞踊劇】	097 10-01,18
サンカツハンシチ	三勝半七	【世話物】	097 10-01,18
サンカツミチユキ	三勝道行	【舞踊劇】	098 10-03,27
ザンギリオトミ	散切お富	【世話物】	098 10-03,27
サンゴクシ	三国志	【時代物】	098 10-03,28
サンゴクヨウコ	三国妖狐	【舞踊劇】	098 10-03,28
サンジッコク	三十石	【お家物】	099 10-04,17
サンジャ	三社	【舞踊劇】	099 10-04,16
サンジャマツリ	三社祭	【舞踊劇】	099 10-04,16
サンジュウサンゲンドウトウシヤ	三十三間堂通し矢	【お家物】	100 10-05,16
サンショウダユウ	三莊太夫・山椒太夫	【時代物】	100 10-05,17
サンダイキ	三代記	【時代物】	100 10-05,19
サンニンカタワ	三人片輪	【世話物】	101 10-06,17
サンニンカタワ	三人片輪	【舞踊劇】	101 10-06,18
サンニンキチサ	三人吉三	【世話物】	101 10-06,18
サンニンシャッキョウ	三人石橋	【舞踊劇】	101 10-06,19
サンニンシンベエ	三人新兵衛	【世話物】	101 10-06,19
サンニンナマヨイ	三人生酔	【舞踊劇】	101 10-06,20
サンブゴコウ	三府五港	【世話物】	101 10-06,21
サンモンノゴエモン	楼門の五右衛門	【時代物】	101 10-06,21
シオクミ	汐汲	【舞踊劇】	101 10-06,22
シオバラタスケ	塩原多助	【世話物】	102 10-07,21
シキガワソガ	敷皮曾我	【時代物】	102 10-07,22
シキサンバ	式三番	【舞踊劇】	102 10-07,23
シキシマモノガタリ	敷島物語	【世話物】	103 10-08,32
シグレサイギョウ	時雨西行	【舞踊劇】	103 10-08,32
シゲタダ	重忠	【時代物】	103 10-08,33
シゲノイ	重の井	【お家物】	103 10-08,33
シゲヒラ	重衡	【時代物】	103 10-08,34
シゲモリ	重盛	【時代物】	103 10-08,35
ジシンカトウ	地震加藤	【時代物】	103 10-08,35
シズカゴゼン	静御前	【時代物】	103 10-08,36
シズガタケ	賤ヶ嶽	【時代物】	104 10-09,16
シズハタオビ	賤機帯	【舞踊劇】	104 10-09,17
シセンリョウ	四千両	【世話物】	104 10-09,17
シダコタロウ	信田小太郎	【時代物】	104 10-09,18
シタダシサンバ	舌出し三番	【舞踊劇】	104 10-09,20
シチキオチ	七騎落	【時代物】	104 10-09,21
シチキョウオチ	七卿落	【世話物】	104 10-09,21
シチフクジン	七福神	【舞踊劇】	104 10-09,21
シチャノクラ	質屋庫	【世話物】	104 10-09,22

ジツロクセンダイハギ	実録先代萩	【お家物】	104	10-09,22
ジツロクチュウシングラ	実録忠臣蔵	【お家物】	105	10-10,27
ジトウテンノウ	持統天皇	【王代物】	105	10-10,28
シニガミ	死神	【世話物】	105	10-10,28
ジネンコジ	自然居士	【時代物】	105	10-10,29
シノダツマ	信田妻	【時代物】		葛の葉
シノビグルマ	忍車	【舞踊劇】	105	10-10,29
シノブウリ	垣衣草売	【時代物・舞踊劇】	106	10-11,18
シバラク	暫	【時代物】	106	10-11,18
シヘイナナワライ	時平七笑	【時代物】	106	10-11,20
シマチドリ	島千鳥 <sup>1</sup>	【世話物】	107	10-12,18
シマチドリ	島千鳥 <sup>2</sup>	【世話物】	107	10-12,19
シマツソウドウ	島津騒動	【お家物】	107	10-12,18
シマノタメトモ	島の為朝	【時代物】	108	11-01,21
シマバラキョウゲン	島原狂言	【 】	108	11-01,21
シミズイッカク	清水一角	【お家物】	108	11-01,21
シミズノジロチョウ	清水次郎長	【世話物】	108	11-01,22
シモヨノカネ	霜夜の鐘	【世話物】	108	11-01,23
シャカ	釈迦	【時代物】	108	11-01,23
シャッキョウ	石橋	【舞踊劇】	109	11-02,28
ジャノメズシ	蛇の目鮓	【世話物】	109	11-02,29
ジャヤナギ	蛇柳	【時代物】	109	11-02,29
ジュウサンガネ	十三鐘	【時代物】	109	11-02,29
シュウシキ	秋色	【世話物】	109	11-02,30
シュウジャクジシ	執着獅子	【舞踊劇】	109	11-02,30
ジュウニカゲツチュウシングラ	十二ヶ月忠臣蔵	【お家物】	109	11-02,30
ジュウニダン	十二段	【時代物】	109	11-02,31
ジュウニダン	十二段	【舞踊劇】	109	11-02,32
ジュウニトキソガ	十二時曾我	【時代物】	110	11-03,18
ジュウニトキチュウシングラ	十二時忠臣蔵	【お家物】	110	11-03,18
ジュウハツカジョウモウシヒラキ	十八ヶ条申開	【お家物】	111	11-04,15
シュッセカゲキヨ	出世景清	【時代物】	111	11-04,15
シュテンドウジ	酒呑童子	【時代物】	111	11-04,16
シュンカン	俊寛	【時代物】	112	11-06,20
シュントクマル	俊徳丸	【時代物】		弱法師
ショウジキセイベエ	正直清兵衛	【世話物】	112	11-06,22
ショウジョウ	猩々	【舞踊】	112	11-06,22
ショウトクタイシ	聖徳太子	【王代物】	112	11-06,23
ショコクモノガタリ	諸国物語	【世話物】	113	11-07,22
ジライヤ	自来也	【お家物】	113	11-07,23
ジライヤ	児雷也	【時代物】	113	11-07,23
シラガキントキ	白髪金時	【時代物】	114	11-08,16
シラナミゴニンオトコ	白浪五人男	【時代世話物】		弁天小僧
シラナミゴニンオンナ	白浪五人女	【世話物】	115	11-09,16
シラヌイ	白縫	【時代物】	115	11-09,16
シラフジゲンダ	白藤源太	【世話物】	115	11-09,18
シロザケウリ	白酒売	【舞踊劇】	116	11-10,18
シロタエ	白妙	【舞踊劇】	116	11-10,19

シンアサガオ	新朝顔	【お家世話物】	朝顔日記
シンオオハシアダウチ	新大橋仇討	【お家世話物】	116 11-10,19
シンゴヨミ	新暦	【時代物】	116 11-10,20
シンシャッキョウ	新石橋	【舞踊劇】	116 11-10,20
シンゾウキョウダイ	新蔵兄弟	【世話物】	117 11-11,20
シンボチダイコ	新発意太鼓	【舞踊劇】	117 11-11,20
ジンムテンノウ	神武天皇	【王代物】	117 11-11,20
シンモンタツゴロウ	新門辰五郎	【世話物】	117 11-11,21
シンラン	親鸞	【時代物】	118 12-01,18
スイコデン	水滸伝	【時代物】	118 12-01,19
スイセンタンゼン	水仙丹前	【舞踊】	118 12-01,20
スイボダイ	酔菩提	【お家物】	118 12-01,20
スエヒロガリ	末広狩	【舞踊劇】	119 12-02,16
スオウトシ	素襖落	【舞踊劇】	119 12-02,16
スガワラ	菅原	【王代物】	119 12-02,17
スガワラシンノウ	菅原親王	【時代物】	119 12-02,18
スケロク	助六 <sup>1</sup>	【時代物・世話物】	120 12-03,15
スケロク	助六 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	121 12-04,22
スサノオノミコト	素盞雄尊	【王代物】	142 14-04,32
スシヤ	鮎屋*	【時代物】	121 12-04,22
スズカワゲンジュウロウ	鈴川源十郎	【世話物】	121 12-04,23
スズキトウキチロウ	鈴木藤吉郎	【世話物】	安政三組盃
スズキモンド	鈴木主水	【世話物】	122 12-05,14
ステオブネ	捨小舟	【世話物】	122 12-05,15
ストクイン	崇徳院	【時代物】	111 11-04,18
スペンサー	スペンサー	【舞踊劇】	122 12-05,15
スマ	須磨	【舞踊劇】	122 12-05,15
スマゴト	須磨琴	【舞踊劇】	122 12-05,16
スミダガワ	隅田川 <sup>1</sup>	【時代物】	122 12-05,16
スミダガワ	隅田川 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	123 12-06,34
スミダガワノッキリ	隅田川乗切	【世話物】	阿部の乗切
スミノリ	墨塗	【舞踊劇】	123 12-06,34
スモウ	相撲	【舞踊劇】	123 12-06,34
スワノアダウチ	諏訪仇討	【お家物】	123 12-06,35
セイオウボ	西王母 <sup>1</sup>	【舞踊・時代物】	123 12-06,35
セイオウボ	西王母 <sup>2</sup>	【舞踊・時代物】	123 12-06,35
セイガンジ	誓願寺	【時代物】	123 12-06,36
セイゲンサクラヒメ	清玄桜姫	【時代物】	123 12-06,36
セイシシンジュウ	盛絲心中	【世話物】	125 12-08,35
セイリキ	勢力	【世話物】	126 12-09,31
ゼカイ	善界	【時代物】	126 12-09,31
セカイメグリ	世界巡り	【時代物】	126 12-09,32
セガワゴキョウ	瀬川五郷	【世話物】	126 12-09,32
セガワノアダウチ	瀬川仇討	【世話物】	126 12-09,33
セキガハラ	関ヶ原	【時代物】	126 12-09,33
セキコンロク	石魂録	【時代物】	127 12-10,38
セキデラコマチ	関寺小町	【舞踊】	127 12-10,38
セキノト	関の扉	【舞踊劇】	127 12-10,39

セツタナオシチョウゴロウ	雪駄直し長五郎	【世話物】	128	12-11,26
ゼニヤゴヘエ	銭屋五兵衛	【世話物】	128	12-11,27
セミマル	蝉丸	【時代物】	128	12-11,28
セワノムネキヨ	世話の宗清*	【世話物】		宗清
セワバノマサオカ	世話場の政岡	【時代物】	129	12-12,26
ゼンコウジ	善光寺	【時代物】	129	12-12,27
センゴクソウドウ	仙石騒動	【お家物】	129	12-12,28
センダイハギ	先代萩	【お家物】	130	13-03,31
センニチデラシンジュウ	千日寺心中	【世話物】	130	13-03,32
センノリキュウ	千利休	【時代物】	130	13-03,32
センヒメ	千姫	【時代物】	130	13-03,33
センボンザクラ	千本桜	【時代物】	130	13-03,34
センリョウノボリ	千両幟	【世話物】	131	13-04,25
ソウゼンジババ	崇禅寺馬場	【時代物】	131	13-04,26
ゾウヒキ	象引	【時代物】	131	13-04,27
ソウマダイサク	相馬大作	【お家物】	132	13-05,34
ソウマヨシカド	相馬良門	【時代物】	133	13-06,42
ソガ	曾我	【時代物】	134	13-07,19
ソガノイシダン	曾我の石段	【時代物】	141	14-03,33
ソガノタイメン	曾我的対面	【時代物】	141	14-03,33
ソトオリヒメ	布通姫	【時代物】	143	14-05,20
ソネザキゴニンギリ	曾根崎五人斬	【世話物】	143	14-05,20
ダイカク	大覚	【時代物】	143	14-05,22
タイギユウロウ	対牛楼	【お家物】	143	14-05,22
ダイク	大工	【舞踊劇】	144	14-06,28
ダイクゴロシ	大工殺し	【世話物】	144	14-06,28
タイコウキ	太閤記	【時代物】	144	14-06,29
ダイコクマイ	大黒舞	【舞踊劇】	146	14-09,28
ダイコクワリノトウキチ	大黒割の藤吉	【時代物】	146	14-09,28
ダイトクジ	大徳寺	【時代物】	146	14-09,29
ダイブツクヨウ	大仏供養	【時代物】	147	14-10,28
ダイマルヤソウドウ	大丸屋騒動	【世話物】	147	14-10,30
ダイリビナ	内裏雛	【舞踊】	147	14-10,30
タカオザンゲ	高尾懺悔	【舞踊劇】	147	14-10,30
タカギオリエモン	高木折右衛門	【お家物】	148	14-12,25
タカサゴ	高砂	【時代物】	148	14-12,25
タカサゴタンゼン	高砂丹前	【舞踊劇】	148	14-12,26
タカタノババ	高田の馬場	【お家物】	148	14-12,26
タカトキ	高時	【時代物】	148	14-12,27
タカノチョウエイ	高野長英	【世話物】	148	14-12,28
タカハシオデン	高橋お伝	【世話物】	149	15-02,33
タカマツジョウミズゼメ	高松城水責	【時代物】	149	15-02,33
タキヤシャ	滝夜叉	【時代物】	149	15-02,34
タクベエジョウシ	宅兵衛上使	【お家物】	149	15-02,35
タケダオウミ	竹田近江	【世話物】	150	15-03,26
タケトリモノガタリ	竹取物語	【時代物】	150	15-03,27
タケナカハンベエ	竹中半兵衛	【時代物】	150	15-03,28
タケノウチノスクネ	竹内宿禰 <sup>1</sup>	【時代物】	150	15-03,28

タケノウチノスクネ	竹内宿禰 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	150	15-03,29
タコノタメトモ	凧の為朝	【時代物】	151	15-05,23
タダツナ	忠綱	【舞踊劇】	151	15-05,23
タダノブ	忠信	【舞踊劇】	151	15-05,23
タダノリ	忠度	【時代物】	151	15-05,24
タチヌスビト	太刀盗人	【舞踊劇】	151	15-05,25
ダッキノオヒャク	姐妃のお百	【世話物】	152	15-06,27
ダテソウドウ	伊達騒動	【お家物】	152	15-06,28
ダテマサムネ	伊達政宗	【時代物】	154	16-02,25
タニカゼ	谷風	【世話物】	154	16-02,25
タヌマソウドウ	田沼騒動	【お家物】	154	16-02,26
タネマキサンバ	種蒔三番	【舞踊劇】	154	16-02,26
タバコヤキハチ	菘屋喜八	【世話物】	154	16-02,27
タビスズメ	旅雀	【舞踊劇】	154	16-02,27
タビヤッコ	旅奴	【舞踊】	154	16-02,28
タマウサギ	玉兔	【舞踊】	154	16-02,28
タマギク	玉菊	【世話物・舞踊劇】	154	16-02,28
タマトリアマ	玉取蟹	【舞踊】	155	16-03,18
タマモノマエ	玉藻前	【舞踊】	155	16-03,18
タマヤ	玉屋	【舞踊】	155	16-03,22
タムラショウゲン	田村將軍	【時代物】	155	16-03,22
タメトモ	為朝	【時代物】	155	16-03,23
タモンキョウラン	多門狂乱	【舞踊劇】	156	16-04,16
ダルマ	達磨	【時代物】	156	16-04,16
タルヤオセン	樽屋おせん	【世話物】	156	16-04,17
タワラトウダ	田原藤太	【時代物】	156	16-04,17
ダンゴウリ	団子売	【舞踊劇】	156	16-04,18
ダンジュウロウキョウラン	団十郎狂乱	【舞踊劇】	156	16-04,18
ダンシロウボウス	団四郎坊主	【世話物】	156	16-04,19
ダンタイジ	団泰二	【世話物】	157	16-05,15
タンバヨサク	丹波与作	【お家物】	157	16-05,15
チキリイセヤ	伊勢屋	【世話物】	157	16-05,15
チグサノハナオケ	千草の花桶	【世話物】	157	16-05,16
チクブシマ	竹生島	【舞踊劇】	157	16-05,16
チゴガフチ	稚児淵	【お家物】	157	16-05,16
チダルマ	血達磨	【お家物】	157	16-05,20
チヂミヤシンスケ	縮屋新助	【世話物】	157	16-05,18
チブサノエノキ	乳房榎	【世話物】	158	16-10,36
チモライ	乳貰	【世話物】	158	16-10,37
チャセンウリ	茶筌売	【舞踊劇】	159	17-04,27
チャツボ	茶壺	【舞踊劇】	159	17-04,27
チャツミ	茶摘	【舞踊劇】	159	17-04,27
チャノユノカゲキヨ	茶の湯の景清	【時代物】	159	17-04,27
チュウジョウヒメ	中将姫	【時代物】	159	17-04,28
チュウシングラ	忠臣蔵	【お家物】	159	17-04,30
チュウシンコウシャク	忠臣講釈	【お家物】	161	17-06,14
チョイノセ	ちよい乗せ	【世話物】	161	17-06,15
チョウゴコウカミスキ	長五郎髪梳	【長唄メリヤス】	161	17-06,15



チョウサク	長作	【舞踊劇】	161	17-06,15
チョウサクイリオハナ	長作入りお花	【舞踊劇】	161	17-06,16
チョウセングンキ	朝鮮軍記	【時代物】	161	17-06,16
チョウセンナガヤ	朝鮮長屋	【世話物】	161	17-06,17
チョウノミチユキ	蝶の道行	【舞踊劇】	161	17-06,17
チョウハナガタ	蝶花形	【時代物】	161	17-06,17
チョウヘイレイ	徴兵令	【世話物】	161	17-06,18
チョウリョウ	張良	【舞踊劇】	161	17-06,18
チヨダノニンジョウ	千代田の刃傷	【お家物】	161	17-06,18
チリツカオマツ	塵塚お松	【世話物】	161	17-06,19
ツキノマキ	月の巻	【舞踊劇】	161	17-06,20
ツクシイチベエ	筑紫市兵衛	【お家物】	161	17-06,20
ツクダセンドウ	佃船頭	【舞踊】	161	17-06,20
ツクダノヨアラシ	佃夜嵐	【世話物】	161	17-06,20
ツチグモ	土蜘蛛	【舞踊劇】	161	17-06,21
ツチャチカラ	土屋主税	【お家物】	161	17-06,22
ツボサカ	壺坂	【世話物】	161	17-06,22
ツリオンナ	釣女	【舞踊劇】	162	17-07,47
ツリギツネ	釣狐	【舞踊劇】	162	17-07,47
ツリテンジョウ	釣天井	【お家物】	162	17-08,49
テイカ	定家	【時代物】	164	17-10,51
デッチ	丁稚	【舞踊】	164	17-10,52
テルトラハイゼン	輝虎配膳	【時代物】	165	18-01,48
テレメン	てれめん	【世話物】	165	18-01,48
テンイチボウ	天一坊	【お家物】	165	18-01,49
テンガチャヤ	天下茶屋	【お家物】	166	18-02,44
テンコ	天鼓	【時代物】	167	18-03,44
テンジクトクベエ	天竺徳兵衛	【時代物】	167	18-03,44
テンジテンノウ	天智天皇	【王代物】	168	18-04,42
テンジン	天神	【舞踊】	168	18-04,40
テンジンキ	天神記	【王代物】	168	18-04,40
テンポウスイコデン	天保水滸伝	【世話物】	168	18-04,42
テンモクザン	天目山	【時代物】	169	18-06,42
トウガネモエモン	東金茂右衛門	【世話物】	169	18-06,42
トウケンゴンベエ	唐犬権兵衛	【世話物】	170	18-07,38
ドウゲンゼンジ	道元禅師	【時代物】	170	18-07,39
トウジュウロウノコイ	藤十郎の恋	【世話物】	170	18-07,39
ドウジョウジ	道成寺	【舞踊劇】	171	18-09,46
トウジンゴロシ	唐人殺し	【お家物】	172	18-10,42
トウナイダンジリ	藤内楽車	【時代物】	174	19-02,40
トウヤタモノガタリ	藤弥太物語	【時代物】	174	19-02,41
トオヤマジンザ	遠山甚三	【世話物】	174	19-02,41
トオヤマセイダン	遠山政談	【世話物】	175	19-03,42
トオルダイジン	融大臣	【時代物】	176	19-04,44
トギタツ	研辰	【お家物】	176	19-04,45
トキワゴゼン	常盤御前	【時代物】	176	19-04,42
トクガワヨシノブ	徳川慶喜	【お家物】	178	19-06,43
トクサカリ	木賊苅	【舞踊】	179	19-07,43

ドクチャノタンスケ	毒茶の丹助	【お家物】	179	19-07,43
ドクマンジュウ	毒饅頭	【時代物】	177	19-05,42
トサエ	土佐絵	【舞踊劇】	177	19-05,43
トシマ	年増	【舞踊】	177	19-05,43
トツガワジケン	十津川事件	【お家物】	177	19-05,43
トックリカンベエ	徳利勘兵衛	【お家物】	178	19-06,43
トトヤノチャワン	魚屋の茶碗	【世話物】	180	19-08,38
トバエ	鳥羽絵	【舞踊】	180	19-08,39
トバヤジシ	鳥羽屋獅子	【舞踊】	180	19-08,39
ドモマタ	吃又	【お家物】	180	19-08,39
トモヤッコ	供奴	【舞踊】	181	19-10,42
トヨカワイナリ	豊川稲荷	【世話物】	181	19-10,42
トリスネエモン	鳥居強右衛門	【時代物】	181	19-10,42
トリオイオマツ	鳥追お松	【世話物】	181	19-10,43
トリサシ	鳥刺	【舞踊】	182	19-11,42
トリベヤマ	鳥辺山	【世話物】	182	19-11,42
トリメノイッカク	鳥目の一角	【世話物】	182	19-11,43
トリメノジョウシ	鳥目の上使	【時代物】	183	19-12,38
ドンツク	どんつく	【舞踊劇】	183	19-12,39
トントンノサンキチ	とんとんの三吉	【世話物】	183	19-12,39
トンビヤッコ	鳶奴	【舞踊】	185	20-02,41
ドンランキ	曇鸞記	【時代物】	185	20-02,41
ナオスケゴンベエ	直助権兵衛	【世話物】	184	20-01,36
ナカクニ	仲国	【舞踊劇】	184	20-01,36
ナカハママンジロウ	中浜万次郎	【世話物】	184	20-01,38
ナカミツ	仲光	【時代物】	184	20-01,37
ナカヤマモンドウ	中山問答	【お家物】	184	20-01,38
ナガラノヒトバシラ	長柄の人柱	【時代物】	186	20-03,42
ナスノヨイチ	那須与一	【時代物】	186	20-03,43
ナツセンドウ	夏船頭	【舞踊】	187	20-04,46
ナットウウリ	納豆売	【舞踊】	187	20-04,46
ナツマツリ	夏祭	【世話物】	187	20-04,47
ナナサトヒメキョウラン	七里姫狂乱	【舞踊劇】	188	20-05,42
ナナツメン	七面	【時代物】	188	20-05,42
ナベシマノネコ	鍋島の猫	【お家物】	188	20-05,43
ナミノツツミ	波の鼓	【世話物】	189	20-06,39
ナリヒラ	業平	【舞踊劇】	189	20-06,39
ナリヒラブンジ	業平文次	【世話物】	189	20-06,39
ナルカミ	鳴神	【時代物】	190	20-07,40
ナワナガトシ	名和長年	【時代物】	190	20-07,41
ニクヅキメン	肉附面	【時代物】	191	20-08,42
ニシキノマイギヌ	錦の舞衣	【世話物】	191	20-08,42
ニシゴリクマキチ	錦織熊吉	【世話物】	191	20-08,43
ニジュウシコウ	廿四孝	【時代物】	191	20-08,44
ニチゾウショウニン	日像上人	【時代物】	191	20-08,43
ニチレンキ	日蓮記	【時代物】	192	20-09,29
ニッシンセンソウ	日清戦争	【世話物】	193	20-10,43
ニッタウメジロウ	新田梅次郎	【世話物】	193	20-10,43

ニッポンダエモン	日本駄右衛門	【世話物】	193	20-10,44
ニニンアサマ	二人浅間	【舞踊劇】	194	20-11,33
ニニンザラシ	二人晒	【舞踊劇】	194	20-11,33
ニニンショウジョウ	二人狸々	【舞踊劇】	194	20-11,33
ニニンシンベエ	二人新兵衛	【世話物】	195	20-12,29
ニニンドウジョウジ	二人道成寺	【舞踊劇】	196	21-01,31
ニニンバカマ	二人袴	【舞踊劇】	196	21-01,32
ニニンマツワカ	二人松若	【舞踊劇】	196	21-01,32
ニニンヤッコ	二人奴	【舞踊】	196	21-01,33
ニニンワンキュウ	二人椀久	【舞踊劇】	196	21-01,33
ヌエタイジ	鶴退治	【時代物】	196	21-01,33
ヌノザラシ	布晒	【舞踊】	196	21-01,34
ヌレユカタ	濡浴衣	【舞踊劇】	196	21-01,34
ネギシハツケイ	根岸八景	【舞踊劇】	197	21-02,50
ネコノコイ	猫の恋	【時代物】	197	21-02,50
ネコノツマ	猫の妻	【舞踊】	197	21-02,50
ネズミコソウ	鼠小僧	【世話物】	197	21-02,51
ネズミノホコラ	鼠の祠	【時代物】	198	21-03,37
ネツウエモン	根津宇右衛門	【世話物】	197	21-02,50
ネビキノカドマツ	寿門松	【世話物】	198	21-03,38
ノギツネサンジ	野狐三次	【世話物】	199	21-04,35
ノザキムラ	野崎村	【世話物】	199	21-04,35
ノザラシゴスケ	野晒悟助	【世話物】	199	21-04,36
ノブナガ	信長	【時代物】	199	21-04,36
ノミトリオトコ	蚤取男	【舞踊】	200	21-05,40
ノリアイブネ	乗合船	【舞踊劇】	200	21-05,40
ノリヨリ	範頼	【時代物】	200	21-05,41
ノリヨリミチユキ	範頼道行	【舞踊劇】	200	21-05,43
ハイカイシ	俳諧師	【舞踊劇】	200	21-05,43
ハクインオショウ	白隠和尚	【世話物】	200	21-05,43
ハクセンソガ	白扇曾我	【舞踊劇】	200	21-05,43
ハコネゴロウ	箱根五郎	【舞踊劇】	201	21-06,34
ハコネノシカブエ	箱根の鹿笛	【世話物】	201	21-06,34
ハゴロモ	羽衣	【時代物・舞踊劇】	201	21-06,34
ハシベンケイ	橋弁慶	【時代物・舞踊劇】	201	21-06,36
バショウ	芭蕉	【時代物・お家物】	202	21-07,35
ハシラダテ	柱建	【舞踊劇】	202	21-07,34
バダライノミツヒデ	馬盤の光秀	【時代物】	202	21-07,36
ハチカツギヒメ	鉢かつぎ姫	【時代物】	202	21-07,36
ハチジン	八陣	【時代物】	203	21-08,36
ハチスカコロク	蜂須賀小六	【時代物】	203	21-08,37
ハチダンメ	八段目	【舞踊劇】	203	21-08,38
ハチノキ	鉢の木	【時代物】	203	21-08,39
ハッケンデン	八犬伝	【時代世話物】	204	21-09,39
ハッサクバイ	八朔梅	【舞踊劇】	205	21-10,38
ハッシュョウジン	八笑人	【舞踊劇】	205	21-10,38
ハトノヘイエモン	鳩の平右衛門	【お家物】	205	21-10,38
ハナイオウメ	花井お梅	【世話物】	206	21-11,35

ハナグルマ	花車	【舞踊】	206	21-11,36
ハナゴ	花子	【舞踊劇】	206	21-11,36
ハナサキツナゴロウ	花咲綱五郎	【舞踊劇】	206	21-11,36
ハナトク	花徳	【世話物】		お房徳兵衛
ハナヤ	花屋	【時代物】	206	21-11,37
ハナレゴマダイハチ	放駒大八	【世話物】	206	21-11,37
ハネノカムロ	羽根の禿	【舞踊】	206	21-11,37
ハママツカゼ	浜松風	【舞踊劇】	206	21-11,38
ハムレット	ハムレット	【世話物・お家物】	206	21-11,38
ハヤシシヘイ	林子平	【世話物】	207	21-12,42
ハラダ	原田	【時代物】	207	21-12,43
ハリツケマサオカ	磔刑政岡	【時代世話物】	207	21-12,43
ハルコマ	春駒	【舞踊劇】	207	21-12,43
ハルサメガサ	春雨傘	【世話物】	207	21-12,44
ハンガク	板額	【時代物】	207	21-12,45
ハンシチトリモノチョウ	半七捕物帳	【世話物】	208	22-02,38
バンズインチョウベエ	幡随院長兵衛	【世話物】	208	22-02,39
ハンダイナリ	半田稻荷	【舞踊】	208	22-02,40
バンバノチュウタ	番場忠太	【時代物】	208	22-02,41
ヒガキ	檜垣	【舞踊劇】	209	22-03,36
ヒキアゲ	引揚	【お家物】	209	22-03,36
ヒゴノコマゲタ	肥後の駒下駄	【世話物】	209	22-03,37
ヒザクリゲ	膝栗毛	【世話物】	209	22-03,37
ビジンノイキウメ	美人の生埋	【世話物】	209	22-03,39
ヒタチボウカイソン	常陸坊海尊	【時代物】	210	22-04,35
ヒダノタクミ	飛驒内匠	【時代物】	210	22-04,36
ヒダリジンゴロウ	左甚五郎	【時代物】	210	22-04,37
ヒトツヤ	一つ家	【時代物】	211	22-05,38
ヒトリワンキュウ	一人椀久	【舞踊】	211	22-05,39
ヒナスケキョウラン	雛助狂乱	【舞踊劇】	211	22-05,39
ヒナヅルサンバ	雛鶴三番	【舞踊劇】	212	22-06,37
ヒナニンギョウ	雛人形	【舞踊】	212	22-06,37
ヒニンノアダウチ	非人の仇討	【お家物】	212	22-06,37
ヒマネギノキヨモリ	日招ぎの清盛	【時代物】	213	22-07,42
ヒャクモノガタリ	百物語	【舞踊劇】	213	22-07,43
ビャッコタイ	白虎隊	【世話物】	213	22-07,43
ヒュウガジマ	日向島	【時代物】	213	22-07,44
ヒョウタンナマズ	瓢箪鯰	【舞踊】	214	22-08,26
ヒョウリュウキダン	漂流奇談	【世話物】	214	22-08,26
ヒヨシマル	日吉丸	【時代物】	214	22-08,27
ピワノカゲキヨ	琵琶の景清	【時代物】	214	22-08,28
ブアク	武悪	【舞踊劇】	214	22-08,28
フキトリツマ	吹取妻	【舞踊劇】	214	22-08,28
フキヤ	吹矢	【舞踊劇】	214	22-08,29
フクザワユキチ	福沢諭吉	【世話物】	215	22-09,28
フクスケ	福助	【舞踊】	215	22-09,29
フクスケノアサツマ	福助の浅妻	【舞踊劇】		浅妻
フジアサマ	富士浅間	【時代世話物】	215	22-09,29

フジダイコ	富士太鼓	【舞踊劇】	215	22-09,31
フジノセイ	藤の精	【舞踊劇】	216	22-10,28
フジムスメ	藤娘	【舞踊】	216	22-10,28
フジワラスミトモ	藤原純友	【時代物】	216	22-10,29
フタオモテ	双面	【舞踊劇】	216	22-10,29
フダショノレイゲン	札所の靈験	【世話物】	217	22-11,26
フタツチョウチョウ	双蝶々	【世話物】	217	22-11,27
ブッシャリ	仏舍利	【舞踊劇】	220	23-02,26
フデヤコウベエ	筆屋幸兵衛	【世話物】	220	23-02,26
フドウ	不動	【時代物】	220	23-02,27
フドウブンジ	不動文次	【世話物】	220	23-02,28
フドウマンキチ	不動万吉	【世話物】	220	23-02,28
フナコシジュウエモン	船越十右衛門	【世話物】		お園六三
フナベンケイ	船弁慶	【時代物】	220	23-02,29
フネノタカオ	船の高尾	【舞踊劇】	220	23-02,29
フミウリ	文売	【舞踊劇】	220	23-02,30
フユノヤマンバ	冬の山姥	【舞踊劇】	220	23-02,30
フリソデカジ	振袖火事	【世話物】	220	23-02,30
フリソデヤマンバ	振袖山姥	【舞踊劇】	221	23-03,22
フルデラ	古寺	【時代物】		田舎源氏
フルヤマンバ	古山姥	【舞踊劇】		山姥
フワカズエモン	不破数右衛門	【お家物】	221	23-03,22
フワナゴヤ	不破名古屋	【 】	221	23-03,23
ブンシチモットイ	文七元結	【世話物】	224	23-06,23
ブンヤ	文屋	【舞踊劇】	224	23-06,24
ブンヤゴロシ	文弥殺し	【世話物】	224	23-06,24
ブンリヒトエ	文里一重	【世話物】	224	23-06,24
ヘチマノカゲキヨ	糸瓜の景清	【舞踊】		景清 <sup>2</sup>
ベニカン	紅勘	【舞踊劇】	224	23-06,25
ベニザラカケザラ	紅皿欠皿	【時代世話物】	224	23-06,25
ベニスノショウニン	ベニスの商人	【世話物】	214	22-08,28
ベンケイ	弁慶	【時代物】	224	23-06,26
ベンケイジョウシ	弁慶上使	【時代物】	225	23-07,25
ベンテンコゾウ	弁天小僧	【時代世話物】	225	23-07,25
ベントウワリ	弁当割	【お家時代物】		巖流島
ハウカイボウ	法界坊	【時代世話物】	226	23-08,26
ボウシバリ	棒しばり	【舞踊劇】	227	23-09,23
ハウジョウヨシトキ	北条義時	【時代物】	227	23-09,24
ハウネンショウニン	法然上人	【時代物】	228	23-10,17
ハウリュウジ	法隆寺	【時代物】	228	23-10,17
ホクセツビダン	北雪美談	【お家物】	228	23-10,18
ホソカワノオクガタ	細川の奥方	【時代物】	228	23-10,18
ボタンドウロウ	牡丹灯籠	【時代物・世話物】	228	23-10,19
ホテイ	布袋	【舞踊劇】	228	23-10,20
ホトケゴゼン	仏御前	【時代物】	228	23-10,21
ホトケノハラ	仏の原	【お家物】	229	23-11,14
ホトトギスゴロシ	時鳥殺し	【時代物】	229	23-11,15
ホリベミョウカイニ	堀部妙海尼	【お家物】	229	23-11,15

ホンゴウコマチムスメ	本郷小町娘	【世話物】	229	23-11,16
ボンジノトクジロウ	梵字の徳次郎	【世話物】	229	23-11,16
ホンジョナナフシギ	本所七不思議	【世話物】	230	23-12,17
ホンゾウシモヤシキ	本蔵下屋敷	【お家物】	230	23-12,17
ボンテンゴク	梵天国	【時代物】	230	23-12,18
マイオウギ	舞扇	【舞踊劇】	230	23-12,18
マイゴフダ	迷子札	【世話物】	230	23-12,18
マイヅルヤ	舞鶴屋	【舞踊劇】	230	23-12,19
マイヅルヤトラショウショウ	舞鶴屋虎少将	【舞踊劇】		舞鶴屋
マカシヨ	まかしょ	【舞踊】	230	23-12,20
マキノカタ	牧の方	【時代物】	230	23-12,19
マキワリサンノジョウ	薪割り三之丞	【お家物】	230	23-12,20
マクラジシ	枕獅子	【舞踊劇】	230	23-12,21
マクラタンゼン	枕丹前	【舞踊劇】	230	23-12,21
マサカド	将門 <sup>1</sup>	【時代物】	231	24-01,19
マサカド	将門 <sup>2</sup>	【舞踊劇】	231	24-01,21
マサシゲ	正成	【時代物】	231	24-01,21
マサツラ	正行	【時代物】	231	24-01,23
マサノリ	正儀	【時代物】	232	24-02,17
マツオウシモヤシキ	松王下屋敷	【時代物】	232	24-02,18
マツカゼムラサメ	松風村雨	【時代物】	232	24-02,18
マツキリカンペイ	松切り勘平	【お家物】	232	24-02,20
マツダノケンカ	松田の喧嘩	【世話物】	232	24-02,21
マツナガヒサヒデ	松永久秀	【時代物】	232	24-02,21
マツノウチ	松の内	【舞踊劇】	233	24-03,22
マツノヤロハチ	松の家露八	【世話物】	233	24-03,22
マツマエソウドウ	松前騒動	【お家物】	233	24-03,23
マツマエヤゴロベエ	松前屋五郎兵衛	【世話物】	233	24-03,23
マツヤマカイジョウ	松山開城	【時代物】	233	24-03,24
マツラノタイコ	松浦の太鼓	【お家物】	232	24-02,17
マナイタノチョウベエ	俎板の長兵衛	【世話物】	233	24-03,25
マヤサン	摩耶山	【時代物】	233	24-03,26
ミイデラ	三井寺	【時代物】	234	24-04,30
ミウラアラジロウ	三浦荒次郎	【時代物】	234	24-04,31
ミウラコジロウ	三浦小次郎	【世話物】	234	24-04,32
ミウラノオオスケ	三浦大助	【時代物】	234	24-04,32
ミカツキオセン	三日月お仙	【時代物】	234	24-04,33
ミガワリオシュン	身替りお俊	【舞踊劇】	235	24-05,18
ミガワリオンド	身替り音頭	【時代物】	235	24-05,19
ミクライアラソイ	御位諍い	【時代物】	235	24-05,19
ミケンジャク	眉間尺	【時代物】	235	24-05,22
ミズウリ	水売	【舞踊】	235	24-05,23
ミズノジュウロウザエモン	水野十郎左衛門	【世話物】	235	24-05,23
ミツヒデ	光秀*	【時代物】	235	24-05,24
ミツメンコモリ	三つ面子守	【舞踊】	236	24-06,18
ミノノショウクロウ	美濃庄九郎	【時代物】	236	24-06,18
ミノワシンジュウ	箕輪心中	【世話物】	236	24-06,20
ミブダイネンブツ	壬生大念仏	【世話物】	236	24-06,20

ミブムラノゴエモン	壬生村の五右衛門	【時代物】	236	24-06,21
ミミツカシンジュウ	耳塚心中	【世話物】	237	24-07,23
ミメヨリ	美面より	【舞踊劇】	237	24-07,23
ミヤギノシノブ	宮城野信夫	【お家物】	237	24-07,23
ミヤジマノダンマリ	宮島のだんまり	【時代物】	238	24-08,19
ミヤモトサモンノスケ	宮本左門之助	【お家物】	239	24-09,33
ミヤモトムサシ	宮本武蔵	【お家時代物】		巖流島
ミョウトギツネ	女夫狐	【舞踊劇】	239	24-09,33
ミョウミョウグルマ	妙々車	【世話物】	239	24-09,34
ミヨキチゴロシ	美代吉殺し	【世話物】	239	24-09,35
ミヨシチョウケイ	三好長慶	【時代物】	240	24-10,23
ミワ	三輪	【時代物】	240	24-10,24
ムケンノカネ	無間の鐘	【時代物】	240	24-10,24
ムコハチニン	智八人	【舞踊劇】	241	24-11,16
ムシウリ	虫売	【舞踊劇】	241	24-11,17
ムスメカンジンチョウ	処女勧進帳	【時代物】	241	24-11,17
ムスメジシ	娘獅子	【舞踊】	241	24-11,17
ムスメタイコウキ	娘太閤記	【世話物】	241	24-11,17
ムスメナナクサ	娘七種	【舞踊劇】	241	24-11,52
ムタマガワ	六玉川	【舞踊劇】	242	24-12,20
ムツノタマガワ	睦玉川	【お家物】	242	24-12,20
ムネキヨ	宗清	【時代物】	242	24-12,21
ムネワリ	胸割	【時代物】	242	24-12,22
ムライチョウアン	村井長庵	【世話物】	242	24-12,22
ムラカミヨシテル	村上義光	【時代物】	243	25-01,22
ムラマサ	村正	【世話物】	243	25-01,23
ムラマツ	村松	【時代物】	243	25-01,23
メイジンチョウジ	名人長次	【世話物】	243	25-01,23
メカツラウリ	目鬢売	【舞踊劇】	244	25-02,21
メグミノケンカ	め組の喧嘩	【世話物】	243	25-01,24
メンカブリ	面被	【舞踊劇】	244	25-02,21
モウコシュウライ	蒙古襲来	【時代物】	244	25-02,21
モウリモトナリ	毛利元就	【時代物】	244	25-02,22
モチツキ	望月	【お家物・舞踊劇】	244	25-02,23
モドリカゴ	戻り駕	【舞踊劇】	244	25-02,25
モドリバシ	戻り橋	【舞踊劇】	245	25-03,13
モノグサタロウ	物臭太郎	【お家物】	245	25-03,14
モミジガリ	紅葉狩	【時代物】	245	25-03,15
モモヨグルマ	百夜車	【舞踊劇】	245	25-03,17
モリツナ	盛綱	【時代物】	246	25-04,26
モリツナジンヤ	盛綱陣屋	【時代物】	246	25-04,27
モリヒサ	盛久	【時代物】	246	25-04,28
モンガク	文覚	【時代物】	246	25-04,28
モンジユクスケ	文殊九助	【世話物】	247	25-05,19
ヤギユウマタジュウロウ	柳生又十郎	【お家世話物】	247	25-05,20
ヤグチノワタシ	矢口の渡	【時代物】	247	25-05,20
ヤグラサンバ	櫓三番	【舞踊】	248	25-06,28
ヤシキムスメ	屋敷娘	【舞踊】	248	25-06,28

ヤシロソウドウ	屋代騒動	【お家物】	248	25-06,28
ヤスダサクベエ	安田作兵衛	【時代物】	248	25-06,29
ヤスナ	保名	【舞踊】	248	25-06,29
ヤッコダコ	奴凧	【舞踊】	248	25-06,29
ヤッコドウジョウジ	奴道成寺	【舞踊劇】	248	25-06,30
ヤツハナガタ	八花形	【時代世話物】	249	25-07,22
ヤドナシダンシチ	宿なし団七	【世話物】	249	25-07,22
ヤナギ	柳	【時代物】	249	25-07,23
ヤナギサワソウドウ	柳沢騒動	【お家物】	249	25-07,24
ヤノネ	矢の根	【舞踊劇】	250	25-08,15
ヤブイリムスメ	藪入娘	【舞踊】	251	25-09,17
ヤブハラケンギョウ	藪原検校	【世話物】	251	25-09,17
ヤマダナガマサ	山田長政	【世話物】	251	25-09,19
ヤマトケルノミコト	日本武尊	【時代物】	251	25-09,19
ヤマトダンゴ	大和団子	【舞踊劇】	251	25-09,19
ヤマドリ	山鳥	【舞踊劇】	252	25-10,15
ヤマナカシカノスケ	山中鹿之助	【時代物】	252	25-10,15
ヤマブシセツタイ	山伏摂待	【時代物】	252	25-10,16
ヤマンバ	山姥	【舞踊劇】	251	25-09,17
ヤリモチカンスケ	槍持勘助	【世話物】	252	25-10,16
ユアガリオシュン	湯上りお俊	【舞踊劇】		身替りお俊
ユウギリ	夕霧	【世話物】	252	25-10,17
ユウズウネンブツ	融通念仏	【時代物】	253	25-11,21
ユウヅキセンドウ	夕月船頭	【舞踊】	253	25-11,21
ユウテンセンノスケ	祐天仙之助	【世話物】	253	25-11,21
ユキオンナ	雪女	【時代物】	253	25-11,22
ユキヒメ	雪姫	【時代物】	253	25-11,22
ユドノノチョウベエ	湯殿の長兵衛	【世話物】	253	25-11,23
ユメノイチロベエ	夢の市郎兵衛	【世話物】	254	25-12,25
ユヤ	熊野	【時代物・舞踊劇】	254	25-12,26
ユリワカ	百合若	【時代物】	254	25-12,27
ヨアラシオキヌ	夜嵐お絹	【世話物】	255	26-01,17
ヨウキヒ	楊貴妃	【時代物】	255	26-01,18
ヨウチソガ	夜討曾我	【時代物】	255	26-01,19
ヨコブエ	横笛	【時代物】	255	26-01,21
ヨゴロウキョウラン	与五郎狂乱	【舞踊劇】	256	26-02,23
ヨサク	与作	【舞踊劇】	256	26-02,23
ヨシイエ	義家	【時代物】	256	26-02,24
ヨシサダ	義貞	【時代物】	257	26-03,23
ヨシダケンコウ	吉田兼好	【時代物】	257	26-03,25
ヨシツネ	義経	【時代物】	257	26-03,26
ヨシトキ	義時	【時代物】	258	26-04,19
ヨシトモ	義朝	【時代物】	258	26-04,19
ヨシナカ	義仲	【時代物】	258	26-04,21
ヨシノダユウ	吉野太夫	【世話物】	259	26-05,25
ヨシワラスズメ	吉原雀	【舞踊劇】	259	26-05,25
ヨツヤカイダン	四谷怪談	【世話物】	259	26-05,26
ヨドギミ	淀君	【時代物】	260	26-06,20



ヨドクルマ	淀車	【世話物】	260	26-06,22
ヨドヤタツゴロウ	淀屋辰五郎	【世話物】	260	26-06,22
ヨナキイシ	夜啼石	【世話物】	261	26-07,24
ヨバイボシ	夜這い星	【舞踊劇】		流星
ヨメオドシダニ	嫁威谷	【時代世話物】	261	26-07,24
ヨメキリ	嫁切	【世話物】	261	26-07,25
ヨリエエ	頼家	【時代物】	261	26-07,26
ヨリトモ	頼朝	【時代物】	261	26-07,27
ヨリマサ	頼政	【時代物】	262	26-08,22
ヨリミツ	頼光	【時代物】	263	26-09,20
ヨロイガエ	鎧替	【時代物】	264	26-10,20
ヨロボウシ	弱法師	【時代物】	264	26-10,20
ライゴウアジャリ	頼豪阿闍梨	【時代物】	264	26-10,21
ライデンゲンパチ	雷電源八	【世話物】	264	26-10,21
ラカン	羅漢	【怪談劇】	264	26-10,23
ラシャメンオタツ	洋妾お辰	【世話物】	265	26-11,24
ラショウモン	羅生門	【時代物】	264	26-10,23
ランチョウ	蘭蝶	【世話物】	265	26-11,25
ランベイモノグルイ	蘭平物狂	【時代物】	265	26-11,25
リッシュンマメウチ	立春豆打ち	【舞踊】	265	26-11,26
リュウキュウノタメトモ	琉球の為朝	【時代物】	266	26-12,19
リュウセイ	流星	【舞踊劇】	265	26-11,26
リョウシ	漁師	【舞踊】	266	26-12,19
レツジョオフジ	烈女お藤	【お家物】	266	26-12,20
レップチヨザキ	烈婦千代咲	【お家物】	266	26-12,20
レンゲオウジョウ	蓮華往生	【世話物】	266	26-12,21
レンゲショウニン	蓮華上人	【時代物】	266	26-12,21
レンジシ	連獅子	【舞踊劇】	266	26-12,22
レンショウモノガタリ	蓮生譚	【時代物】	266	26-12,22
ロウゴノマサオカ	老後の政岡	【時代物】	266	26-12,22
ロウジョ	老女	【舞踊】	266	26-12,23
ロウジョムラオカ	老女村岡	【世話物】	266	26-12,23
ロウベンスギ	良弁杉	【時代物】	266	26-12,20
ロクヤタモノガタリ	六弥太物語	【時代物】	267	27-01,25
ロセイノユメ	艚清の夢	【世話物】	267	27-01,25
ロッカセン	六歌仙	【舞踊劇】	266	26-12,23
ワカサンジン	和歌三神	【舞踊劇】	267	27-01,26
ワカナツミ	若菜摘	【舞踊】	267	27-01,26
ワケノキヨマロ	和気清麿	【時代物】	267	27-01,26
ワシオサブロウ	鷲尾三郎	【時代物】	267	27-01,26
ワスレグサ	忘れ草	【舞踊劇】	267	27-01,27
ワタナベカザン	渡辺華山	【世話物】	267	27-01,27
ワラベジシ	童獅子	【舞踊劇】	267	27-01,27
ワンキュウ	椀久	【世話物】	268	27-02,28

# 戯曲名索引

アイアイガサチグサノイロイロ 相傘千種いろいろ	196	21-01,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
アイオイゲンジタカサゴノマツ 相生源氏高砂松	005	01-05,46	安達原 <sup>2</sup> アダチガハラ【舞踊劇】
アイオイゲンジタカサゴノマツ 相生源氏高砂松	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
アイオイジシ 相生獅子	109	11-02,28	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
アイキキョウカリガネゴモン 藍桔梗鷹金五紋	055	05-12,43	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
アイゴジユニダン 愛護十二段	001	01-01,38	あいごの若 アイゴノワカ【 】
アイゴノワカネグラノハコ 愛護若婿箱	001	01-01,38	あいごの若 アイゴノワカ【 】
アイゴノワカミヤコノフジ 愛護若都の富士	001	01-01,38	あいごの若 アイゴノワカ【 】
アイゴノワカメイカノカチドキ 愛護若名歌勝関	001	01-01,38	あいごの若 アイゴノワカ【 】
アイタサミタサイトシイノジ 逢見愛井字	088	09-03,43	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
アイツサンメイジノクミジュウ 会津産明治組重	001	01-01,39	会津産明治組重 アイツサンメイジノクミジュウ【 】
アイノヤマオンナカタキウチ 間山女敵討	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
アオイノウエ 葵の上[古浄瑠璃]	001	01-01,40	葵の上 アオイノウエ【 】
アオイノウエ 葵の上[1907/榎本虎彦]	001	01-01,40	葵の上 アオイノウエ【 】
アオウメツワリザカリ 青梅撰食盛	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
アオキノウメセキジツシンワ 青樹梅昔日新話	001	01-01,41	青木弥太郎 アオキヤタロウ【 】
アオトゾウシ 青砥稿	002	01-02,37	青砥調 アオトバナシ【 】
アオトゾウシ 青砥稿	020	02-12,41	越後伝吉 エチゴデンキチ【世話物】
アオトゾウシ 青砥稿	058	06-04,49	邯鄲 カンタン【舞踊劇】
アオトゾウシ 青砥稿	098	10-03,27	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
アオトゾウシ 青砥稿	242	24-12,22	村井長庵 ムライチョウアン【世話物】
アオトゾウシハナノニシキエ 青砥稿花紅彩画	225	23-07,25	弁天小僧 ベンテンコゾウ【時代世話物】
アオトバナシ 青砥調	002	01-02,36	青砥調 アオトバナシ【 】
アオトバナシ 青砥調	041	04-09,55	お元新助 オモトシンスケ【世話物】
アオトバナシ 青砥調	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
アカガキシユッタツ 赤垣出立	002	01-02,40	赤垣徳利 アカガキトックリ【 】
アカゴウシチシオノフナコシ 赤格子血汐船越	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
アカサカジョウサツキガッセン 赤坂城臯月合戦	100	10-05,19	三代記 サンダイキ【時代物】
アカザワヤマイトウデンキ 赤沢山伊東伝記	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
アカザワヤマクメノセンニン 赤沢山糸の仙人	068	07-03,42	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
アカシ 明石	002	01-02,40	明石 アカシ【 】
アカソメエモンエイガモノガタリ 赤染衛門栄華物語	002	01-02,41	赤染衛門栄華物語 アカソメエモンエイガモノガタリ【 】
アカツキノカネハアサクサ 払暁鐘浅草	183	19-12,38	鳥目の一角 トリメノイッカク【世話物】
アカネゾメ あかね染	098	10-03,27	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
アカネゾメノナカノコモリイド 茜染野中の隠井	017	02-09,50	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
アカマツエンシンミドリノジンマク 赤松円心緑陣幕	067	07-02,41	阿新丸 クマワカマル【時代物】

アカマツエンシンミドリノジンマク 赤松円心緑障幕	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
アカマツキミノシマダイ 赤松玉蟾見島台	011	02-03,64	今川状 イマガワジョウ【時代物】
アカマツマンユウメノシラハタ 赤松満祐梅白幡	002	01-02,43	赤松満祐 アカマツマンユウ【 】
アキケイセイ 秋傾城	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
アキノイロオトミヨサプロウ 穠色於富与三郎	064	06-10,35	切られお富 キラレオトミ【世話物】
アキノミノリトケテヌレギヌ 穠法解濡衣	069	07-04,40	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
アキバゴンゲンカイセンバナシ 秋葉権現廻船話	193	20-10,44	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
アクゲンダ 悪源太	003	01-03,42	悪源太 アクゲンダ【時代物】
アクゲンダヘイジカッセン 悪源太平治合戦	003	01-03,41	悪源太 アクゲンダ【時代物】
アクタガワモミジノシガラミ 芥川紅葉柵	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
アクタロウ 悪太郎	003	01-03,42	悪太郎 アクタロウ【舞踊劇】
アケガラスハナノヌレギヌ 明烏花濡衣	003	01-03,42	明烏 アケガラス【世話物】
アケガラスハンボノコウダン 明慈烏反哺講談	003	01-03,43	明烏 アケガラス【世話物】
アケガラススキノアケボノ 明烏雪の曙	003	01-03,42	明烏 アケガラス【世話物】
アケガラスユメノアウユキ 明烏夢泡雪	003	01-03,42	明烏 アケガラス【世話物】
アケチミツヒデ 明智光秀	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
アケボノソガノヨウチ 曙曾我夜討	159	17-04,30	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
アゲマキ 揚巻	003	01-03,43	揚巻 アゲマキ【舞踊】
アコウギシンパン 赤穂義士審判	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシンクラ【お家物】
アコギノヘイジ 阿漕の平次	003	01-03,45	阿漕の平次 アコギノヘイジ【時代物】
アサイナ 朝比奈	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
アサイナシマメグリ 朝夷巡島記	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
アサイナシマワタリ 朝比奈島渡	003	01-03,46	朝比奈 アサイナ【時代物】
アサイナスエヒロ 朝比奈末広	119	12-02,16	末広狩 スエヒロガリ【舞踊劇】
アサクサカンノンエンギ 浅草観音縁起	004	01-04,51	浅草靈験記 アサクサレイゲンキ【時代物】
アサクサカンノンエンギ 浅草観音縁起	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
アサクサレイゲンキ 浅草靈験記	157	16-05,20	血達磨 チダルマ【お家物】
アサヒカゲコウミョウバナシ 旭影光明晰	034	04-02,61	お竹大日如来 オタケダイニチニョライ【世話物】
アサヒカゲミツグミサカズキ 朝日影三組杯觴	093	09-08,33	薩摩踊 サツマオドリ【舞踊】
アサミドリツユノタマガワ 浅緑露玉川	126	12-09,33	瀬川五郷 セガワゴキョウ【世話物】
アシヤドウマンオオウチカガミ 芦屋道満大内鑑	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
アシヤドウマンオオウチカガミ 芦屋道満大内鑑	248	25-06,29	保名 ヤスナ【舞踊】
アジロフネ あじろ船	178	19-06,42	十津川事件 トツガワジケン【お家物】
アズマカイドウチャヤノムスメ 吾妻海道茶屋娘	194	20-11,31	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
アズマカガミカイダンバナシ 東鑑怪談晰	084	08-09,27	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
アズマカガミカイダンバナシ 東鑑怪談晰	098	10-03,26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
アズマカガミハイガノマキ 東鑑拝賀巻	094	09-09,30	実朝 サネトモ【時代物】
アズマカガミハイガノマキ 東鑑拝賀巻	227	23-09,24	北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
アズマカガミミカリノマキ 東鑑御狩巻	136	13-10,30	曾我 ソガ【時代物】

アズマカラゲシツノツマキ 東播賤妻木	039	04-07,55	大原女 オハラメ【舞踊】
アズマクダリゴジウサンツギ 吾嬬下五十三駅	019	02-11,47	浦島 ウラシマ【時代物】
アズマクダリゴジウサンツギ 吾嬬下五十三駅	060	06-06,43	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
アズマクダリゴジウサンツギ 吾嬬下五十三駅	081	08-06,39	五十三駅 ゴジウサンツギ【時代お家世話物】
アズマクダリゴジウサンツギ 吾嬬下五十三駅	165	18-01,50	天一坊 テンイチボウ【お家物】
アズマクダリサヨノナカヤマ 東海道佐誉中山	186	20-03,42	中山問答 ナカヤマモンドウ【お家物】
アズマクダリテンメイニッキ 東下向天明日記	186	20-03,42	中山問答 ナカヤマモンドウ【お家物】
アズマジシ 東都獅子	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
アズマジシ 東都獅子	241	24-11,17	娘獅子 ムスメジシ【舞踊】
アズマダイリハナモヨシカド 東都内裡花良門	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
アズマナリヒライロコマチ 吾妻業平色小町	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
アズマニシキエミセノニギワイ 東錦絵見勢繁喜	090	09-05,38	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
アズマノハナイワイノダイリ 吾妻花岩井内裡	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
アズマノハナソウマダイリ 吾妻花相馬内裡	043	04-11,49	女暫 オンナシバラク【時代物】
アズマノハナダンシロウボウス 東花団四郎坊主	156	16-04,19	団四郎坊主 ダンシロウボウス【世話物】
アタカカカダチ あたか高だち	058	06-04,47	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
アタカノシンセキ 安宅の新関	005	01-05,42	安宅の新関 アタカノシンセキ【舞踊劇】
アタカノセキ 安宅関	005	01-05,43	安宅関 アタカノセキ【時代物】
アタカノマツ 安宅の松	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
アタクラベコイノウキハシ 仇比恋の浮橋	041	04-09,57	お若伊之助 オウカイノスケ【世話物】
アタケマル 安宅丸[1884/竹柴繁造]	005	01-05,45	安宅丸 <sup>2</sup> アタケマル【舞踊劇】
アタケマル 安宅丸[1918/右田寅彦]	005	01-05,45	安宅丸 <sup>1</sup> アタケマル【お家物】
アタゴノホンジ 愛宕の本地	126	12-09,31	善界 セカイ【時代物】
アダチガハラ 安達ヶ原	005	01-05,46	安達原 <sup>2</sup> アダチガハラ【舞踊劇】
アダナグサユカリノヤツブサ 仇名草由縁八房	205	21-10,38	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
アダナサケコイジノシガラミ 仇情恋路柵	098	10-03,28	散切お富 ザンギリオトミ【世話物】
アタリセンボンヨシツネジッキ 当千本義経実記	085	08-10,27	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
アタリセンボンヨシツネジッキ 当千本義経実記	258	26-04,19	義経 ヨシツネ【時代物】
アタリドシサトミノヤツブサ 戌歳里見八熟梅	204	21-09,40	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
アタリドシハツトラソガ 的当歳初寅首我	140	14-02,27	首我 ソガ【時代物】
アタリドシフクトクソガ 当訥芝福德首我	224	23-06,23	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
アタリマトリョウシャノカケガク 当的神明社掛額	191	20-08,43	錦織熊吉 ニシゴリクマキチ【世話物】
アタルホウライシマモノガタリ 当蓬萊島譚	070	07-05,40	桑名屋徳蔵 クワナヤトクソウ【世話物】
アツタダイミョウジンノゴホンジ 熱田大明神の御本地	251	25-09,19	日本武尊 ヤマトタケルノミコト【時代物】
アツタトサスガタノウツシエ 有土佐容形写絵	216	22-10,28	藤娘 フジムスメ【舞踊】
アツバレケイセイマクラノトオリヤ 通傾城花大矢数	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
アツバレテギワキクノハタアゲ 通手術菊の旗上	070	07-05,42	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
アツバレテギワキクノハタアゲ 通手術菊の旗上	238	24-08,19	宮城野信夫 ミヤキノシノブ【お家物】
アナカシコクルワブンショウ 帰命曲輪障	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】

アネイモトダテノオオキド 姉妹達大礎	238	24-08, 18	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
アブラウリクルワバナシ 油売人廓話	005	01-05, 47	油売 アブラウリ【世話物】
アブラボウズアンヤノスミソメ 油坊主闇夜墨染	005	01-05, 47	油坊主 アブラボウズ【時代物】
アベケイズモロコシバナシ 安倍譜唐土譚話	006	01-06, 54	安倍仲麿 アベノナカマロ【時代物】
アベケイズモロコシバナシ 安倍譜唐土譚話	062	06-08, 34	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
アベノセイメイヤマトコトバ 安倍清明倭言葉	006	01-06, 53	安倍清明 アベノセイメイ【時代物】
アベノムネトウマツラノキヌガサ 安倍宗任松浦鱈	256	26-02, 25	義家 ヨシイエ【時代物】
アベノヤスナリイナバナノミテグラ 安部泰成因幡幣	155	16-03, 20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
アマクサニッシカブキノシンブン 天草日誌劇新聞	006	01-06, 56	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
アマクダルテンニョノヨメイリ 降天女嫁入	109	11-02, 28	釈迦 シヤカ【時代物】
アマツカゼネンリキノガ 天津風念力曾我	216	22-10, 30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
アマミダイユイノハマイデ 尼御台由井浜出	070	07-05, 42	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
アマヨノトギカサネモノガタリ 雨夜伽累譚	050	05-07, 43	累 カサネ【お家物】
アミウチ 網打	266	26-12, 19	漁師 リョウシ【舞踊】
アマダガイケシンテラマチ 阿弥陀池新寺町	191	20-08, 44	廿四孝 ニジュウシコウ【時代物】
アマダノムネワリ 阿弥陀胸割	242	24-12, 22	胸割 ムネワリ【時代物】
アミモヨウトウロノキクキリ 網模様灯籠菊桐	080	08-05, 27	小猿七之助 コザルシチノスケ【世話物】
アミモヨウトウロノキクキリ 網模様灯籠菊桐	154	16-02, 28	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】
アミモヨウトウロノキクキリ 網模様灯籠菊桐	203	21-08, 38	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】
アミモヨウトウロノキクキリ 網模様灯籠菊桐	214	22-08, 27	日吉丸 ヒヨシマル【時代物】
アメガシタシルキキョウノハタアゲ 天下知栝梗旗揚	202	21-07, 36	馬壘の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
アメツチタイヘイキ 天地太平記	043	04-11, 48	女暫 オンナシバラク【時代物】
アメノゴロウ 雨の五郎[通称]	087	09-02, 42	八重九重花姿絵 ヤエコノエハナノスガタエ
アメモヨウツキノカサモリ 雨催月笠森	050	05-07, 45	笠森お仙 カサモリオセン【世話物】
アヤツリアヤメニギョウ 操菖蒲人形	160	17-05, 35	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
アヤメノカタツナ 菖蒲の片手綱	140	14-02, 29	曾我 ソガ【時代物】
アヤメノマエミサオノユミハリ 菖蒲前操弦	263	26-09, 19	頼政 ヨリマサ【時代物】
アラカワフユウデン 荒川武勇伝	148	14-12, 25	高木折右衛門 タカギオリエモン【お家物】
アラキツクリヒゴノコマゲタ 新規作肥後木履	209	22-03, 37	肥後の駒下駄 ヒゴノコマゲタ【世話物】
アラシタツマ 嵐電馬	170	18-07, 39	藤十郎の恋 トウジュウロウノコイ【世話物】
アラセタイヒナノセワゴト 新嬢房雛世話事	030	03-10, 73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
アラタノカドタツミノコガネイ 新門辰巳小金井	078	08-03, 39	小金井小次郎 コガネイコジロウ【世話物】
アラタノカドタツミノコガネイ 新門辰巳小金井	117	11-11, 21	新門辰五郎 シンモンタツゴロウ【世話物】
アラミタマニツタノシントク 荒御霊新田神徳	247	25-05, 20	矢口の渡 ヤグチノワタシ【時代物】
アリガタシンゼイゲンジ 惶弓勢源氏	043	04-11, 48	女暫 オンナシバラク【時代物】
アリガタヤオエドノカゲキヨ 難有御江戸景清	013	02-05, 51	岩戸の景清 イワトノカゲキヨ【時代物】
アリガタヤオエドノカゲキヨ 難有御江戸景清	214	22-08, 28	琵琶の景清 ビワノカゲキヨ【時代物】
アリスガタジョウルリセカイ 在姿浄瑠璃世界	140	14-02, 26	曾我 ソガ【時代物】
アリスガタジョウルリセカイ 在姿浄瑠璃世界	148	14-12, 25	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】

アリシスガタユメニミズウミ 有姿夢湖水	198	21-03,37	鼠の祠 ネズミノホコラ【時代物】
アリマツゾメスモウユカタ 有松染相撲浴衣	006	01-06,60	有馬猫 アリマノネコ【お家世話物】
アワシマケイズヨメイリヒナガタ 粟島譜嫁入雛形	215	22-09,29	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
アワシマソノオノタケ 粟島園生竹	059	06-05,48	関東小六 カントウコロク【時代物】
アワシマダイミョウジンゴエンギ 粟島大明神御縁起	007	01-07,56	粟島 アワシマ【時代物】
アワシマダイミョウジンヒナマツリノユライ 粟島大明神雛祭由来	007	01-07,56	粟島 アワシマ【時代物】
アワセコソデチシオノソメイロ 初袷血汐の染色	239	24-09,35	美代吉殺し ミヨキチゴロシ【世話物】
アワタグチキワメノオリカミ 粟田口鑑定折紙	007	01-07,57	粟田口 アワタグチ【世話物】
アワタグチシメスフエタケ 粟田口霧一節截	007	01-07,57	粟田口 アワタグチ【世話物】
アンコウムケン 鮫鱈無間[通称]	240	24-10,25	梅若菜二葉曾我 ウメワカナフタバソガ
アンセイキブツツクダノヨアラシ 安政奇聞佃夜嵐	161	17-06,21	佃夜嵐 ツクダノヨアラシ【世話物】
アンセイミツグミサカズキ 安政三組盃	007	01-07,59	安政三組盃 アンセイミツグミサカズキ【世話物】
アントクテンノウユミヤノミツギ 安徳天皇兵器貢	246	25-04,28	盛久 モリヒサ【時代物】
イイタイロウノシ 井伊大老の死	092	09-07,44	桜田事変 サクラダジヘン【世話物】
イエサクラクルワノカケガク 家桜廓掛額	120	12-03,17	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
イエメイショイモセノカサヒモ 家名所妹背笠紐	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
イカノボリ いかのぼり	047	05-03,49	柿木金助 カキノキキンスケ【世話物】
イキウツシアサガオニッキ 生写舞日記	004	01-04,49	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
イキジクラベハデナナカチョウ 誦競艶仲町	217	22-11,28	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
イキテイルコヘイジ 生きてゐる小平次	084	08-09,28	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
イキニンギョウハナノナドコロ 生木偶花洛名所	077	08-02,35	氷屋 コオリヤ【舞踊劇】
イクタマシンジウ 生玉心中	029	03-09,71	おさが嘉平次 オサガカヘイジ【世話物】
イケドリスズキ 生捕鈴木	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
イサリブネレイゲンイルマガワ 漁船霊験入間川	004	01-04,52	浅草霊験記 アサクサレイゲンキ【時代物】
イシカワソメマサゴノシラナミ 石川染真砂白浪	236	24-06,21	壬生村の五右衛門 ミブムラノゴエモン【時代物】
イシダタミフタバジンマク 石畳嫩陣幕	126	12-09,34	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
イシダツメコマノマサゴジ 石田詰駒真砂路	122	12-05,16	須磨琴 スマゴト【舞踊劇】
イシダツメシウギノゲンバイ 石田詰将棊軍配	094	09-09,30	真田幸村 サナダユキムラ【時代物】
イシダツメシウギノゲンバイ 石田詰将棊軍配	126	12-09,34	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
イシダツメシウギノゲンバイ 石田詰将棊軍配	228	23-10,18	細川の奥方 ホソカワノオクガタ【時代物】
イシバシヤマカッセン 石橋山合戦	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
イシバシヤマシチキオチ 石橋山七騎落	102	10-07,22	敷皮曾我 シキガワソガ【時代物】
イシバシヤマシチキオチ 石橋山七騎落	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
イシバシヤマシチキオチ 石橋山七騎落	104	10-09,21	七騎落 シチキオチ【時代物】
イシヤマカイチョウ 石山開帳	266	26-12,21	蓮華上人 レンゲショウニン【時代物】
イシヤマキ 石山記	266	26-12,21	蓮華上人 レンゲショウニン【時代物】
イシンゼンゴ 維新前後	025	03-05,67	大村益次郎 オオムラマスジロウ【世話物】
イシンゼンゴ 維新前後	213	22-07,43	白虎隊 ビヤッコタイ【世話物】
イズインゼンゲンジカガミ 伊豆院宣源氏鏡	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】

イズコンデショウバイカガミ 伊豆小袖商売鑑	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
イズゴヨミハルノサキブレ 伊豆曆春人来鳥	262	26-08,21	頼朝 ヨリトモ【時代物】
イズミノクニウキナノタメイケ 和泉国浮名溜池	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
イズモノオクニ 出雲のお国[1910/伊原青々園]	008	01-08,57	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
イズモノオクニ 出雲のお国[1914/長谷川時雨]	008	01-08,57	出雲のお国 <sup>2</sup> イズモノオクニ【舞踊劇】
イセオンドイリエノハギ 伊勢音頭入江萩	003	01-03,41	悪源太 アクゲンダ【時代物】
イセオンドコイノネタバ 伊勢音頭恋寝刃[1796/近松徳三]	005	01-05,48	油屋 アブラヤ【世話物】
イセオンドコイノネタバ 伊勢音頭恋寝刃[1838 人形浄瑠璃]	005	01-05,49	油屋 アブラヤ【世話物】
イセオンドショウブガタナ 伊勢音頭菖蒲刀	005	01-05,48	油屋 アブラヤ【世話物】
イセヘイジウメノミテグラ 伊勢平氏額英幣	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
イセヘイジウメノミテグラ 伊勢平氏額英幣	098	10-03,25	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
イセヘイジウメノミテグラ 伊勢平氏額英幣	159	17-04,27	茶筌売 チャセンウリ【舞踊劇】
イセヘイジウメノミテグラ 伊勢平氏額英幣	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
イセヘイジエイガゴヨミ 伊勢平氏栄花暦	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
イセヘイジエイガゴヨミ 伊勢平氏栄花暦	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
イセヘイジエイガゴヨミ 伊勢平氏栄花暦	247	25-05,18	文覚 モンガク【時代物】
イセヘイジネンネンカガミ 伊勢平氏年々鑑	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
イセヘイジヒイキノカミカゼ 伊勢平氏撰神風	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
イセヘイジヒイキノカミカゼ 伊勢平氏撰神風	155	16-03,21	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
イセメイショウザトイエツト 伊勢名所業土産	072	07-07,37	傾城道成寺 ケイセイドウジョウジ【舞踊劇】
イセメイショウザトイエツト 伊勢名所業土産	151	15-05,23	忠綱 タダツナ【舞踊劇】
イセモノガタリ 伊勢物語	062	06-08,33	紀貫之 キノツラユキ【時代物】
イソチドリナルトノアダウチ 磯衛成渡讐	104	10-09,20	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
イタクラナイゼンノショウ 板倉内膳正	006	01-06,56	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
イタズラガミコイハクセモノ 徒髪恋曲者	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
イチカワダンジュウロウ 市川団十郎	009	02-01,61	市川団十郎 イチカワダンジュウロウ【世話物】
イチカワヤマサゴノゴヒイキ 市川哉真砂御撰	056	06-02,47	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
イチカワヤマンバ 市川山姥[通称]	251	25-09,19	薪荷雪間の市川 タキギニナウユキマノイチカワ
イチジュノカゲユキノトモドリ 一樹蔭雪佳	252	25-10,15	山鳥 ヤマドリ【舞踊劇】
イチジョウオオクラモノガタリ 一条大蔵譚	023	03-03,64	大蔵卿 オオクラキョウ【時代物】
イチノタニガイカノコウタイ 一谷凱歌小謡曲	183	19-12,38	鳥目の上使 トリメノジョウシ【時代物】
イチノタニガイカノコウタイ 一谷凱歌小謡曲	267	27-01,25	六弥太物語 ロクヤタモノガタリ【時代物】
イチノタニサカオトシ 一の谷坂落	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
イチノタニサカオトシ 一の谷坂落	067	07-02,37	熊谷 クマガイ【時代物】
イチノタニフタバグンキ 一谷嫩軍記	067	07-02,38	熊谷陣屋 クマガイジンヤ【時代物】
イチノタニフタバグンキ 一谷嫩軍記	151	15-05,25	忠度 タダノリ【時代物】
イチノタニフタバグンキ 一谷嫩軍記	267	27-01,25	六弥太物語 ロクヤタモノガタリ【時代物】
イチノタニムシャエノイエツト 一谷武者画土産	103	10-08,34	重衡 シゲヒラ【時代物】
イチノタニムシャエノイエツト 一谷武者画土産	267	27-01,25	六弥太物語 ロクヤタモノガタリ【時代物】

イチノタニムシヤエノイエツト 一谷武者画土産	267	27-01,26	鷲尾三郎 ワシオサブロウ【時代物】
イチノトミセイワネンダイキ 一富清和年代記	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
イチノトミセイワネンダイキ 一富清和年代記	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
イチハラノ 市原野	009	02-01,62	市原野 イチハラノ【舞踊劇】
イチバンノリメイキノサシモノ 魁駒松梅桜曙微	006	01-06,54	阿部の乗切 アベノノッキリ【お家物】
イチバンノリメイキノサシモノ 魁駒松梅桜曙微	224	23-06,25	紅血欠皿 ベニザラカケザラ【時代世話物】
イチフジライハイソガ 一富士礼拝曾我	138	13-12,25	曾我 ソガ【時代物】
イチヨウライフクシバノツワモノ 一陽来復洪谷兵	003	01-03,42	悪源太 アクゲンダ【時代物】
イチヨウライフクシバノツワモノ 一陽来復洪谷兵	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
イチロウシヨウカリバノムネアゲ 一膳職狩場棟上	202	21-07,35	柱建 ハシラダテ【舞踊劇】
イッキウゼンジ 一休禪師	009	02-01,63	一休禪師* イッキウゼンジ【舞踊劇】
イツクシマユキノカオミセ 敵島雪顔鏡	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
イツクシマユキノカオミセ 敵島雪顔鏡	247	25-05,18	文覚 モンガク【時代物】
イツクシマユキノミテグラ 敵島雪官幣	063	06-09,46	清盛 キヨモリ【時代物】
イツクシマユキノミテグラ 敵島雪官幣	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
イツクシマユキノミテグラ 敵島雪官幣	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
イツサイキ 一切記	074	07-09,42	小敦盛 コアツモリ【時代物】
イッシンオンナナルカミ 一心女雷師	044	04-12,41	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
イッシンゴカイノタマ 一心五界玉	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
イッシンゴカイノタマ 一心五界玉	076	07-11,33	甲賀三郎 コウガサブロウ【時代物】
イッシンゴカイノタマ 一心五界玉	246	25-04,29	文覚 モンガク【時代物】
イッシンニガビヤクドウ 一心二河白道[古浄瑠璃]	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
イッシンニガビヤクドウ 一心二河白道[1698 京]	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
イッシンニガビヤクドウ 一心二河白道[1675 江戸]	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
イッシンニガビヤクドウ 一心二河白道[1710 江戸]	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
イッセイチダイクリキノミョウノジ 一世一代功力妙法字	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
イツツガシラオトモノマトリ 五頭大伴魔取	025	03-05,64	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
イツツナリヒラカワチガヨイ 井筒業平河内通	235	24-05,20	御位争い ミクライアラソイ【時代物】
イツツヤゲンロクコイノカンザラシ 井筒屋源六恋寒晒	008	01-08,55	井筒屋源六 イツツヤゲンロク【世話物】
イトウリユウナリタノカケガク 一刀流成田掛額	232	24-02,21	松田の喧嘩 マツダノケンカ【世話物】
イツマデグサウキナノカエウタ 五大力恋翻	083	08-08,46	五大力 ゴダイリキ【世話物】
イツモキクチョウハツネノミチユキ 幾菊蝶初音道行	151	15-05,24	忠信 タダノブ【舞踊劇】
イデソヨツキハナノユキムラ 出来穠月花雪聚	093	09-08,34	真田の張抜筒 サナダノハリヌキツツ【時代物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育[1777/紀上太郎]	040	04-08,61	お祭佐七 オマツリサシチ【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育[1777/紀上太郎]	047	05-03,47	鏡山 カガミヤマ【時代物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育[1777/紀上太郎]	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育[1798/桜田治助]	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
イトザクラホンチョウソダチ 糸桜本町育[天保期大坂]	074	07-09,45	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
イトシトオモウコイノヤマカゼ 愛思恋山風	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】



イトセメテコイシトノブリ				お夏清十郎	オナツセイジウロウ【世話物】
最迫恋男客	037	04-05,66		小菊半兵衛	コギクハンベエ【世話物】
イトノサミダレ				大工殺し	ダイクゴロシ【世話物】
糸の五月雨	078	08-03,40		田舎源氏*	イナカゲンジ【舞踊劇】
イトノシグレコシジノヒトフシ				恋慕時雨袖旧寺	コイシグレソデニフルデラ
糸時雨越路一颯	144	14-06,28		田舎巫女	イナカミコ【舞踊】
イナカゲンジジュウニダン				稲葉小僧	イナバコソウ【時代物】
田舎源氏十二段	010	02-02,54		曾我	ソガ【時代物】
イナカゲンジツクノシノノメ				田沼騒動	タヌマソウドウ【お家物】
田舎源氏露東雲[別外題]	010	02-02,55		喜撰	キセン【舞踊劇】
イナカミコ				双蝶々	フタツショウウチョウ【世話物】
田舎巫女	010	02-02,55		柳沢騒動	ヤナギサワソウドウ【お家物】
イナバコソウアメノヨバナシ				対牛楼	タイギウロウ【お家物】
因幡小僧雨夜嘶	010	02-02,56		茨木	イバラキ【舞踊劇】
イナビカリタゴトノツキ				茨木屋幸斎	イバラキヤコウサイ【世話物】
稲光田毎月	140	14-02,30		信長	ノブナガ【時代物】
イナビカリタゴトノツキ				唐人殺し	トウジンゴロシ【お家物】
稲光田毎月	154	16-02,26		木津勘助	キツカンスケ【世話物】
イナリカイドウスミゾメザクラ				毛剃	ケソリ【世話物】
稲荷街道墨染桜	061	06-07,45		唐人殺し	トウジンゴロシ【お家物】
イナリツカチヨノフルミチ				今川状	イマガワジョウ【時代物】
稲荷塚千代古道	217	22-11,27		お千代半兵衛	オチヨハンベエ【世話物】
イヌクボウ				今川状	イマガワジョウ【時代物】
大公方	250	25-08,14		今川状	イマガワジョウ【時代物】
イヌノソウシウワサノタカドノ				今川状	イマガワジョウ【時代物】
犬荘土評判高樓	144	14-06,28		猫の恋	ネコノコイ【時代物】
イバラキ				因果物師	インガモノシ【世話物】
茨木	010	02-02,57		洋妾お辰	ラシャメンオタツ【世話物】
イバラキヤコウサイ				木幡小平次	コハダコヘイジ【世話物】
茨木屋幸斎	010	02-02,58		小三金五郎	コサンキンゴロウ【世話物】
イフウノギョウレツ				おきさ二郎兵衛	オキサジロベエ【世話物】
異風之行列	199	21-04,37		青砥調	アオトバナシ【 】
イマオリエゾニシキ				越後伝吉	エチゴデンキチ【世話物】
今織蝦夷錦	173	19-01,40		膝栗毛	ヒザクリゲ【世話物】
イマオリダイカンジマ				義家	ヨシイエ【時代物】
今織台貫島	061	06-07,43		不動文次	フドウブンジ【世話物】
イマオリハカタノイリフネ				高野物狂	コウヤモノグルイ【舞踊劇】
新織博多編入船	072	07-07,38		釣狐	ツリギツネ【舞踊劇】
イマオリハカタノイリフネ				薩摩歌	サツマウタ【世話物】
新織博多編入船	172	18-10,42			
イマガワシノビグルマ					
今川忍び車	011	02-03,64			
イマガワチュウシンデン					
今川忠臣伝	034	04-02,63			
イマガワホンリョウネコマタヤカタ					
今川本領猫魔館	011	02-03,63			
イマガワモノガタリ					
今川物語	011	02-03,63			
イマガワリョウシュン					
今川了俊	011	02-03,63			
イマゲンジロクジュウジョウ					
今源氏六十帖	197	21-02,50			
イマシメグサススキノザラシ					
誠草芒野晒	013	02-05,52			
イマダツキナニワノキキガキ					
今姐妃浪花聞書	265	26-11,25			
イマハムカシアサカノヌマ					
今昔安積沼	084	08-09,28			
イマハムカシオモカゲソガ					
今昔佛曾我	080	08-05,28			
イマミヤノシンジュウ					
今宮の心中	027	03-07,65			
イマムカシアイヤドバナシ					
今昔相宿嘶	002	01-02,37			
イマムカシアイヤドバナシ					
今昔相宿嘶	020	02-12,42			
イマムカシアイヤドバナシ					
今昔相宿嘶	209	22-03,38			
イマモウササントノカオミセ					
今噂三都顔見勢	256	26-02,25			
イマモンガクジョメイノホリモノ					
今文覚助命刺繍	220	23-02,28			
イマヨウコウヤモノグルイ					
今よう高野物狂	077	08-02,34			
イマヨウコンカイシノダツマ					
今様こんかい信田妻	162	17-07,48			
イマヨウサツマウタ					
今様薩摩歌	093	09-08,32			

イマヨウシキサンバソウ 今様四季三番叟	095	09-10,29	晒三番 サラシサンバ【舞踊劇】
イマヨウスマノウツシエ 今様須磨の写絵	122	12-05,15	須磨 スマ【舞踊劇】
イマヨウチクブシマ 今様竹生島[1862 江戸中村座]	157	16-05,16	竹生島 チクブシマ【舞踊劇】
イマヨウチクブシマ 今様竹生島[1914 東京帝国劇場]	157	16-05,16	竹生島 チクブシマ【舞踊劇】
イマヨウドウジョウジ 今様道成寺	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
イマヨウハナニアイツチ 今様花相槌	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
イマヨウマツノコトブキ 今様松の寿	035	04-03,72	男舞 オトコマイ【舞踊】
イマヨウモチツキ 今様望月	244	25-02,24	望月モチツキ【お家物・舞踊劇】
イマヨウモモヨグルマ 今様百夜車	246	25-04,26	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
イマヨウユリワカ 今様百合若	255	26-01,17	百合若 ユリワカ【時代物】
イモガヤド 妹が宿[一中節]	011	02-03,65	妹が宿 イモガヤド【舞踊劇】
イモガヤド 妹が宿[富本節]	011	02-03,65	妹が宿 イモガヤド【舞踊劇】
イモガヤドヒトメノセキモリ 妹舎贖関守	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
イモセツカマツニサクラ 妹背塚松桜	094	09-09,33	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
イモセツカマツニサクラ 妹背塚松桜	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
イモセツカマツニサクラ 妹背塚松桜	194	20-11,33	二人浅間 ニニンアサマ【舞踊劇】
イモセツカマツニサクラ 妹背塚松桜	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
イモセドリイロノミナモト 妹背鳥色源	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
イモセドリスガタノマサユメ 鴛鴦容姿の正夢	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
イモセノエンリショウノクミイト 妹背縁利生組糸	074	07-09,45	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
イモセノシカブエ 妹背鹿笛	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
イモセノタマクシゲ 妹背の玉くしげ	161	17-06,15	長五郎髪梳 チョウゴコウカミスキ【長唄メリヤス】
イモセヤマオンナテイキン 妹背山婦女庭訓	011	02-03,66	妹背山 イモセヤマ【王代物】
イモセヤマオンナテイキン 妹背山婦女庭訓	041	04-09,54	お三輪 オミワ【舞踊劇】
イモセヤマヒトメセンボン 妹背山眺望千本	012	02-04,48	妹背山 イモセヤマ【王代物】
イモセヤマヒトメセンボン 妹背山眺望千本	045	05-01,47	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
イモセヤマヒトメセンボン 妹背山眺望千本	058	06-04,49	邯鄲 カンタン【舞踊劇】
イモセヤマヒトメセンボン 妹背山眺望千本	085	08-10,26	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
イモセヤマヒトメセンボン 妹背山眺望千本	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
イリエノツキテルテノマツ 湖月照天松	028	03-08,69	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
イリエノツキテルテノマツ 湖月照天松	194	20-11,31	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
イリフネシダノデキアキ 入船信田出来糶	006	01-06,56	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
イリフネシダノデキアキ 入船信田出来糶	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
イリフネスミダガワ 入船角田川	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
イリフネソガニホンノトリカジ 入船曾我倭取楫	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
イリフネソガニホンノトリカジ 入船曾我倭取楫	167	18-03,46	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
イルカダイジンミヤコアラソイ 入鹿大臣皇都諍	012	02-04,49	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
イルマコトバダイミョウカタギ 入間詞大名賢儀	189	20-06,39	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
イルマコトバダイミョウカタギ 入間詞大名賢儀	202	21-07,35	芭蕉 バショウ【時代物・お家物】

イルマノゴショカブキノエソウシ 人間劇場絵本	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
イレフダ 入れ札	066	07-01,36	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
イロアゲセガワソメ 色揚瀬川染	029	03-09,70	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
イロイチザウメトシラタマ 色一座梅椿	174	19-02,42	遠山甚三 トオヤマジンザ【世話物】
イロエイリオトギゾウシ 彩入御伽草	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
イロエイリオトギゾウシ 彩入御伽草	084	08-09,27	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
イロエイリオトギゾウシ 彩入御伽草	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
イロエイリオトギゾウシ 彩入御伽草	167	18-03,44	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
イロエイリオトギゾウシ 彩入御伽草	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
イロクラベイチノヤアワセ 色競続箭戟	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
イロクラベチヨウノモンビ 艶双蝶紋日	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
イロクラベツキノカツラオ 色競月柱雄	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
イロクラベヒヨクノイシブミ 色競比翼塚	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
イロザカリハチジョウカガミ 色盛八丈鏡	029	03-09,70	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
イロザカリミサオノハナミチ 色盛松楓道	084	08-09,25	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
イロザトカイビヤクタイメンソガ 色里開關対面曾我	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
イロソコルニダイゲンジ 松二代源氏	134	13-07,18	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
イロタツナコイノセキフダ 色手綱恋の関札	050	05-07,45	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
イロニアウヨワノオモイバ 色逢夜半の思羽	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
イロニイロモジノタマツサ 色映紅葉章	228	23-10,20	布袋 ホテイ【舞踊劇】
イロニナリタリショウノクミイト 色成田利生組絲	074	07-09,45	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
イロノシナガワチグサノハナトク 艶品川千種花徳	040	04-08,61	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
イロノトリデソイネノシガラミ 色岩副寝柵	216	22-10,28	藤の精 フジノセイ【舞踊劇】
イロノミナトカラノイリフネ 色湊宝入船	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
イロハウタギシンノカブト いろは歌義臣兜	183	19-12,38	鳥目の上使 トリメノジョウシ【時代物】
イロハガナキキガキソウシ いろは仮名随筆	221	23-03,23	不破数右衛門 フワカズエモン【お家物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	052	05-09,46	鎌腹 カマバラ【お家物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	060	06-06,41	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	062	06-08,36	義平拷問 ギヘイゴウモン【世話物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	148	14-12,26	高田の馬場 タカタノババ【お家物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	160	17-05,30	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
イロハガナシジュウナナモジ いろは仮名四十七訓	205	21-10,38	鳩の平右衛門 ハトノヘイエモン【お家物】
イロハガナヨツヤカイダン いろは仮名四谷怪談	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
イロハグラミツグミサカズキ いろは蔵三組盃	249	25-07,24	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
イロハジッキ 伊呂波実記	105	10-10,27	実録忠臣蔵 ジツロクチュウシングラ【お家物】
イロハジッキ 伊呂波実記	232	24-02,18	松浦の太鼓 マツラノタイコ【お家物】
イロハニチレンキ いろは日蓮記	192	20-09,29	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
イロハモノガタリ いろは物語[1684/近松門左衛門]	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
イロハモノガタリ いろは物語[1807/佐川藤太]	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】

イロハユルオノエイワフジ				天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
松尾上岩藤	167	18-03,45		
イロマサルヒヨシノミテグラ				後面 ウシロメン【舞踊劇】
色勝日吉幣	014	02-06,59		
イロマサルモミジノユウバエ				島千鳥 <sup>1</sup> シマチドリ【世話物】
色増袖夕映	107	10-12,19		
イロマスマニシキノコノシタ				竹中半兵衛 タケナカハンベエ【時代物】
袖山錦木下	150	15-03,28		
イロマツバウキナノチリツカ				塵塚お松 チリツカオマツ【世話物】
色松葉浮名塵塚	161	17-06,20		
イロミグサシキノソメワケ				小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
色見草四季染分	078	08-03,38		
イロミグサツキノサカズキ				紅葉狩 モミジガリ【時代物】
色見草月盃	245	25-03,16		
イロミグサツクリヤマブシ				弁慶 ベンケイ【時代物】
紅葉造山伏	224	23-06,27		
イロモミジツギキノフツツカ				紅勘 ベニカン【舞踊劇】
艶紅曙接拙	224	23-06,25		
イロモヨウアオヤギソガ				阿古屋 アコヤ【時代物】
色模様青柳曾我	003	01-03,46		
イロモヨウアオヤギソガ				お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
色模様青柳曾我	033	04-01,62		
イロモヨウアオヤギソガ				双面 フタオモテ【舞踊劇】
色模様青柳曾我	216	22-10,30		
イロモヨウアオヤギソガ				法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
色模様青柳曾我	226	23-08,27		
イロモヨウチョットカリマメ				累 カサネ【お家物】
色彩間苺豆	049	05-05,47		
イワイウタンガノカオミセ				稲葉小僧 イナバコソウ【時代物】
岩井歌曾我対面	010	02-02,56		
イワイウタンガノカオミセ				柿木金助 カキノキンスケ【世話物】
岩井歌曾我対面	047	05-03,48		
イワイノジョウオンナナワバリ				将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
石井城女名和張	231	24-01,20		
イワイノミズシズガサラシノ				妹背山 イモセヤマ【王代物】
岩井水賤女晒布	011	02-03,66		
イワオノハナナミノシライシ				宮城野信夫 ミヤキノシノブ【お家物】
岩藤浪白石	237	24-07,24		
イワオノハナミネノクスノキ				大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
岩磐花峯楠	024	03-04,74		
イワオノハナミネノクスノキ				小島高德 コジマタカノリ【時代物】
岩磐花峯楠	080	08-05,31		
イワオバンジャクチトセノクスズリ				草摺引 クサズリヒキ【舞踊劇】
巖磐石千歳草摺	065	06-12,33		
イワクラソウゲンレンボノツマゴト				岩倉宗玄 イワクラソウゲン【時代物】
岩倉宗玄恋慕琴	013	02-05,51		
イワトノカゲキヨ				天岩戸 アマノイワト【舞踊劇】
岩戸の景清	006	01-06,57		
イワヌイロツユニヌレギヌ				散切お富 ザンギリオトミ【世話物】
黄色露濡衣	098	10-03,28		
イワミジュウタロウ				岩見重太郎 イワミジュウタロウ【お家物】
岩見重太郎	013	02-05,52		
ウイタドウシュメトイブムラ				七福神 シチフクジン【舞踊劇】
浮同志夢井生村	104	10-09,22		
ウイロウウリ				外郎売 ウイロウウリ【時代物】
外郎売	013	02-05,53		
ウエダムラ				心中宵庚申 シンジュウヨイゴウシン
上田村[戯曲通称]	013	02-05,53		
ウエノノセンソウ				上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
上野の戦争	013	02-05,54		
ウカイジモノガタリ				日蓮記 ニチレンキ【時代物】
鶴飼寺物語	192	20-09,29		
ウカイセキミノリノカワフネ				日蓮記 ニチレンキ【時代物】
鶴飼石御法川船	192	20-09,31		
ウガドウシャゲンジカガミ				三浦大助 ミウラノオオスケ【時代物】
宇賀道者源氏鑑	234	24-04,33		
ウカレゴコロホダシノカケワナ				玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
狂乱恋懸罨	155	16-03,21		
ウカレボウス				願人坊主 ガンニンボウス【舞踊劇】
浮かれ坊主	059	06-05,49		
ウキナタツミハオリノナカウラ				縮屋新助 チヂミヤシンスケ【世話物】
浮名異羽織中裏	157	16-05,19		
ウキナタツミハオリノナカウラ				美代吉殺し ミヨキチゴロシ【世話物】
浮名異羽織中裏	240	24-10,23		
ウキナノタテガク				小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
浮名の立額	080	08-05,28		
ウキナノモウセン				お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
浮名の毛氈	034	04-02,63		

ウキヨセイゲンサトノヨザクラ 浮世清玄廓夜桜	014	02-06,57	浮世清玄 ウキヨセイゲン【世話物】
ウキヨツカヒヨクノイナズマ 浮世柄比翼稲妻	088	09-03,43	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ウキヨツカヒヨクノイナズマ 浮世柄比翼稲妻	095	09-10,29	鞘当 サヤアテ【時代物】
ウキヨツカヒヨクノイナズマ 浮世柄比翼稲妻	224	23-06,22	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ウキヨツカヒヨクノイナズマ 浮世柄比翼稲妻	233	24-03,26	俎板の長兵衛 マナイトノチョウベエ【世話物】
ウキヨマタヘイホマレノスケダチ 浮世又平誉助剣	180	19-08,41	吃又 ドモマタ【お家物】
ウグイスツカナガラノフルコト 黄鳥墳長柄故事	014	02-06,58	鶯塚 ウグイスツカ【時代物・お家物】
ウケイリマンバインガ 有卦入万倍曾我	140	14-02,30	曾我 ソガ【時代物】
ウケコンダデシリノクロフネ 請込侠黒船	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
ウサハチマンボンジ 宇佐八幡本地	150	15-03,28	竹内宿禰 <sup>1</sup> タケノウチノスクネ【時代物】
ウシテンジンアケノミヤイリ 丑天神血染宮入	254	25-12,25	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
ウシロメン うしろ面	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ウシロメンハギノタマガワ 後面萩玉川	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ウシロメンハギノタマガワ 後面萩玉川	068	07-03,42	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
ウシワカセンニンギリ 牛若千人切	201	21-06,36	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ウシワカトラノマキ 牛若虎之巻	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
ウスゴオリ 薄氷	128	12-11,27	雪駄直し長五郎 セツタナオシチョウゴロウ【世話物】
ウスユキイマチュウジョウヒメ 薄雪今中将姫	014	02-06,60	薄雪 ウスユキ【時代物】
ウスユキモノガタリ 薄雪物語	014	02-06,60	薄雪 ウスユキ【時代物】
ウタアワセスガタノイロドリ 六歌仙容彩	061	06-07,46	喜撰 キセン【舞踊劇】
ウタアワセスガタノイロドリ 六歌仙容彩	189	20-06,39	業平 ナリヒラ【舞踊劇】
ウタアワセスガタノイロドリ 六歌仙容彩	224	23-06,24	文屋 ブンヤ【舞踊劇】
ウタアワセスガタノイロドリ 六歌仙容彩	267	27-01,24	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ウダイショウカマクラジツキ 右大将鎌倉実記	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
ウタノトクアマゴイコマチ 和歌徳雨乞小町	038	04-06,62	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ウタノトクメグミノヤマブキ 歌徳恵山吹	024	03-04,72	太田道灌 オオタドウカン【時代物】
ウタヒラキアキノナナクサ 詠開穉七草	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
ウタマクラヤマブキガッセン 歌枕棗棠花合戦	024	03-04,72	太田道灌 オオタドウカン【時代物】
ウチイリ 討入[戯曲通称]	015	02-07,57	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
ウチコボスアメニヌレゴト 打盆雨濡事	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
ウチツレテヒロニアイツチ 誘請色合榎	011	02-03,65	今様小鍛冶 イマヨウコカジ【舞踊劇】
ウチツレテヒロニアイツチ 誘請色合榎	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
ウチツレテヒロニアイツチ 誘請色合榎	101	10-06,18	三人片輪 サンニカタワ【舞踊劇】
ウチヒャクバンフジダイコ 内百番富士太鼓[1783/松貫四]	215	22-09,29	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ウチヒャクバンフジダイコ 内百番富士太鼓[並木春三]	215	22-09,31	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ウチミス 打ち水[通称]	098	10-03,28	黄色露濡衣 イワヌイロツクニヌレギヌ
ウツキノイロアゲ 卯月の潤色	027	03-07,63	お亀与兵衛 オカメヨヘエ【世話物】
ウツクシキユキノセカイ 媚皚雪世界	211	22-05,39	雛助狂乱 ヒナスケキョウラン【舞踊劇】
ウツシエクモイノユミ 写絵雲井弓	086	08-11,28	高麗蔵拍子舞 コマソウヒョウシマイ【舞踊劇】

ウツスツユキクノカズカズ 摸露菊数品	039	04-07,56	大原女 オハラメ【舞踊】
ウツツノカラゴロモ うつつの唐衣	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
ウツノミヤジョウシ 宇都宮城史	164	17-10,51	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ウツノミヤチヨウナノテハジメ 宇都宮新斧手始	162	17-08,50	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ウツノミヤニシキノツリヨギ 宇都宮紅葉釣衾	162	17-08,50	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ウツルマガキノアダナグサ 移籬仇名草	265	26-11,25	蘭蝶 ランチョウ【世話物】
ウデクラベハルノタテマエ 腕競春建前	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ウデダメシオボエノワザモノ 腕試覚剣法[別外題]	015	02-07,58	茲江戸小腕達引 ココガエドコウデノタテヒキ
ウトウ 善知鳥	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
ウナバラチヒロノタワムレ 海原千尋の戯れ	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
ウネメサヒラテイキン 采女正平庭訓	002	01-02,41	赤染衛門栄華物語 アカゾメエモンエイガモノガタリ【 】
ウノハナニセノイマカゴ 卯花二世今駕籠	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ウバラノサト 兔原の里[戯曲通称]	016	02-08,58	一谷嫩軍記 イチノタニフタバグンキ
ウブユイナリ 産湯稻荷[戯曲通称]	016	02-08,58	傾城阿波の鳴門 ケイセイアワノナルト
ウマトシタツナノシンジ 午歳手綱神祀事	075	07-10,43	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
ウメカオルイロハタンカ 梅薫いろは田家	030	03-10,71	お静礼三 オシズレイサ【世話物】
ウメカオルハルノハナカゴ 梅薫春花駕	044	04-12,44	女辰駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】
ウメカオルホマレソガ 梅薫誉曾我	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
ウメカオルユキゲノタキヤシャ 梅薫雪解滝夜叉	149	15-02,35	滝夜叉 タキヤシャ【時代物】
ウメガカマダダイリキバナシ 梅鎌田大力巷談	052	05-09,46	鎌田又八 カマダマタハチ【お家物】
ウメキョウダイナニワセンキ 梅兄弟浪花扇記	023	03-03,66	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ウメキョウダイナニワセンキ 梅兄弟浪花扇記	072	07-07,39	血判取 ケツバントリ【時代物】
ウメキョウダイナニワセンキ 梅兄弟浪花扇記	093	09-08,34	真田幸村 サナダユキムラ【時代物】
ウメゴヨミ 梅暦	017	02-09,49	梅暦 ウメゴヨミ【世話物】
ウメゴヨミアケボノソガ 梅暦曙曾我	044	04-12,42	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
ウメゴヨミアケボノソガ 梅暦曙曾我	055	05-12,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ウメゴヨミコンレイナゴヤ 梅暦婚礼名護屋	223	23-05,31	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ウメゴヨミタツミノソノ 梅暦辰巳園	017	02-09,49	梅暦 ウメゴヨミ【世話物】
ウメゴヨミハルノサキガケ 梅暦春色魁	017	02-09,49	梅暦 ウメゴヨミ【世話物】
ウメサクラアイオイソウシ 梅桜松双紙	107	10-12,17	時平七笑 シヘイナナウライ【時代物】
ウメサクラカブキノバンギミ 梅花王戯場番組	123	12-06,34	隅田川 <sup>2</sup> スミダガワ【舞踊劇】
ウメサクラニニンセミマル 梅桜仁蟬丸	129	12-12,26	蟬丸 セミマル【時代物】
ウメダシンジュウ 梅田心中	033	04-01,63	お高弥市 オタカヤイチ【世話物】
ウメノナニワサナダノグンバイ 梅浪花真田軍配	023	03-03,66	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ウメノナニワハヤザキゲンジ 梅浪花早咲源氏	044	04-12,44	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
ウメノハルゴジュウサンツギ 梅初春五十三駅	026	03-06,63	岡崎の猫 オカザキノネコ【世話物】
ウメノハルゴジュウサンツギ 梅初春五十三駅	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
ウメノハルゴジュウサンツギ 梅初春五十三駅	081	08-06,37	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
ウメノハルゴジュウサンツギ 梅初春五十三駅	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】

ウメノハルタテシノゴショゾメ 梅春侠客御所染	082	08-07,28	御所の五郎蔵 ゴショノゴロゾウ【時代世話物】
ウメノヨシベエ 梅の由兵衛	017	02-09,49	梅の由兵衛* ウメノヨシベエ【舞踊劇】
ウメマガキカスミノオビヒキ 梅籬霞帯曳	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
ウメモミジウグイスツカ 梅柚黄鳥墳	014	02-06,58	鶯塚 ウグイスツカ【時代物・お家物】
ウメモミジダテノオオキド 梅紅葉伊達大門	245	25-03,17	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
ウメモミジニシキノダテオリ 梅照葉錦伊達織	018	02-10,54	裏表先代萩 ウラオモテセンダイハギ【時代物】
ウメモミジニシキノダテオリ 梅照葉錦伊達織	082	08-07,29	小助 コスケ【世話物】
ウメモヨウウキナノイロゾメ 梅紋浮名の色染	195	20-12,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ウメヤシブウキナノイロアゲ 梅屋渋浮名色揚	017	02-09,49	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ウメヤナギコイノミチツレ 梅柳恋道連	128	12-11,27	雪駄直し長五郎 セツタナオシチョウゴロウ【世話物】
ウメヤナギサキガケソガ 梅柳魁首我	141	14-03,33	首我の石段 ソガノイシダン【時代物】
ウメヤナギサクラノカガゾメ 梅柳桜幸染	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
ウメヤナギハルノミチユキ 梅柳春道行	219	23-01,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ウメヤナギワカバナノカガゾメ 梅柳若葉加賀染	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ウメヤナギワカバナノカガゾメ 梅柳若葉加賀染	261	26-07,23	淀屋辰五郎 ヨドヤツツゴロウ【世話物】
ウメワカナフタバソガ 梅若菜二葉首我	055	05-12,44	鴈金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ウメワカナフタバソガ 梅若菜二葉首我	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
ウメワカナフタバソガ 梅若菜二葉首我	123	12-06,33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ウメワカナフタバソガ 梅若菜二葉首我	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ウラオモテサクラノイロマク 裏表桜彩幕	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
ウラオモテダテゾメコソデ 裏表伊達染小袖	018	02-10,54	裏表先代萩 ウラオモテセンダイハギ【時代物】
ウラオモテダテゾメコソデ 裏表伊達染小袖	082	08-07,29	小助 コスケ【世話物】
ウラオモテヤナギノウチウエ 裏表柳団画	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ウラオモテヤナギノウチウエ 裏表柳団画	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ウラシマタロウシチセノマゴ 浦島太郎七世孫	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
ウラシマタロウヤマトモノガタリ 浦島太郎倭物語	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
ウラシマネンダイキ 浦島年代記	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
ウラチドリミルメノシオクミ 浦千鳥見女汐汲	101	10-06,22	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
ウラミクスツユニヌレギヌ 恨葛露濡衣	242	24-12,23	村井長庵 ムライチヨウアン【世話物】
ウラミノコイゴロモ うらみの恋衣	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ウラモヨウキクノダテゾメ 裏模様菊伊達染	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ウラモン 裏門[戯曲通称]	019	02-11,47	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
ウルウシヨウガツキッショハジメ 閏正月吉書始	155	16-03,23	田村將軍 タムラシヨウゲン【時代物】
ウルウツキニニンカゲキヨ 閏月仁景清	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ウルウツキニニンカゲキヨ 閏月仁景清	057	06-03,44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
ウルウドシメイカノホマレ 閏訥子名和歌誉	235	24-05,22	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
ウルオイセイワゲンジ 潤清和源氏	010	02-02,57	茨木 イバラキ【舞踊劇】
ウワナリ 嫩	076	07-11,33	甲賀三郎 コウガサブロウ【時代物】
ウワナリソメワケモミジ 嫩染分紅葉	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】

ウワバミオヨシウワサノアダウチ 蟒於由曙評仇討	019	02-11,48	蟒お由 ウワバミオヨシ【世話物】
エアワセタイコウキ 総合大巧記	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
エイガノユメゼンセイアソビ 栄華の夢全盛遊	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
エイガノユメゼンセイアソビ 栄華の夢全盛遊	051	05-08,50	活惚 カッボレ【舞踊劇】
エイザマシフケヨスズカゼ 酔醒吹涼風	002	01-02,43	秋汐 アキシオ【哥沢劇】
エイヘイジカイサンキ 永平寺開山記	170	18-07,39	道元禅師 ドウゲンゼンシ【時代物】
エイリショウセツアサガオモノカタリ 絵入稗史葬物語	004	01-04,51	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
エガラノヘイダ 悦楽平太	019	02-11,49	荏柄平太 エガラノヘイダ【時代物】
エキョウダイコトリノサエズリ 画姻嬌燕子雀囀	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
エキョウダイコトリノサエズリ 画姻嬌燕子雀囀	151	15-05,24	忠信 タダノブ【舞踊劇】
エキョウダイハルノニシキ 画音音春錦	248	25-06,30	奴胤 ヤッコダコ【舞踊】
エグチノキミ 江口の君	103	10-08,32	時雨西行 シグレサイギョウ【舞踊劇】
エシキザクラハナノエドコウ 会式桜花江戸講	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
エジマイクシマ 江島生島	020	02-12,39	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
エジマヤインネンバナシ 江島屋因縁譚話	020	02-12,39	江島屋騒動 エジマヤソウドウ【世話物】
エチゴジシ 越後獅子[地歌]	020	02-12,40	越後獅子 エチゴジシ【舞踊】
エチゴジシ 越後獅子[長唄]	020	02-12,40	越後獅子 エチゴジシ【舞踊】
エチゴノデンキチ 越後の伝吉	020	02-12,42	越後伝吉 エチゴデンキチ【世話物】
エチゼンミクニノフウツカ 越前三国夫婦墳	196	21-01,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
エツクシヨシノザクラ 絵尽吉野桜	072	07-07,40	毛抜 ケヌキ【時代物】
エツクシヨシノザクラ 絵尽吉野桜	190	20-07,41	鳴神 ナルカミ【時代物】
エツノシラナミジライヤバナシ 越白瀟自来也談	113	11-07,23	自来也 ジライヤ【お家物】
エトウシンベイ 江藤新平[未定稿]	021	03-01,33	江藤新平 エトウシンベイ【世話物】
エドカノコトコドウジョウジ 江戸鹿兎男道成寺	035	04-03,72	男道成寺 オトコドウジョウジ【舞踊劇】
エドガノコムスメドウジョウジ 東鹿子娘道成寺	168	18-04,38	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
エドガノコムスメドウジョウジ 東鹿子娘道成寺	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
エドザクラキヨミズセイゲン 江戸桜清水清玄	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
エドザクラキヨミズセイゲン 江戸桜清水清玄	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
エドザクラテゴトノイエスト 江戸桜衆袖土産	177	19-05,43	土佐絵 トサエ【舞踊劇】
エドジイレダンシチジマ 江戸仕入団七編	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
エドジタテダンシチジマ 江戸仕立団七編	187	20-04,48	夏祭 ナツマツリ【世話物】
エドジマンコイノアキウド 江戸自慢恋商人	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
エドジョウアケワタシ 江戸城明渡	051	05-08,47	勝安房 カツアワ【お家物】
エドジョウアケワタシ 江戸城明渡	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
エドジョウアケワタシ 江戸城明渡	179	19-07,42	徳川慶喜 トクガワヨシノブ【お家物】
エドジョウソウゼメ 江戸城総攻	051	05-08,47	勝安房 カツアワ【お家物】
エドスナゴキチレイソガ 江戸砂子慶曾我	029	03-09,70	お駒才三 オコマサイサ【世話物】
エドスナゴキチレイソガ 江戸砂子慶曾我	082	08-07,31	五大力 ゴダイリキ【世話物】
エドスナゴミツキノイエツト 江戸砂子見突鱗	266	26-12,19	漁師 リョウシ【舞踊】



エドソダチオマツリサシチ 江戸育御祭佐七	041	04-09,54	お祭佐七 オマツリサシチ【世話物】
エドソダチニन्दウジョウジ 東育奴娘道成寺	196	21-01,32	二人道成寺 ニन्दウジョウジ【舞踊劇】
エドソメソガノヒナガタ 江戸染首我雛形	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
エドノエスガタ 江戸の絵姿	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
エドノハナアコウノシオガマ 江戸花赤穂塩竈	221	23-03,22	不破数右衛門 フワカズエモン【お家物】
エドノハナミマスソガ 江戸花三升曾我	115	11-09,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
エドノハナミマスソガ 江戸花三升曾我	235	24-05,18	身替りお俊 ミガワリオシュン【舞踊劇】
エドノハナワカヤギソガ 江戸花陽向曾我	050	05-07,44	笠森お仙 カサモリオセン【世話物】
エドノハナワカヤギソガ 江戸花陽向曾我	141	14-03,35	曾我の対面 ソガノタイメン【時代物】
エドノハルゴヒイキソガ 江戸春御撰曾我	140	14-02,28	曾我 ソガ【時代物】
エドノハルゴヒイキソガ 江戸春御撰曾我	207	21-12,44	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
エドノフジワカヤギソガ 江戸富士陽曾我	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
エドハッケイコイノワケザト 江戸八景恋訳里	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
エドムラサキオトコドウジョウジ 江戸紫男道成寺	248	25-06,30	奴道成寺 ヤッコドウジョウジ【舞踊劇】
エドムラサキコンゲンソガ 江戸紫根元曾我	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
エドムラサキササガオトコギ 江戸紫流石男気	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
エドムラサキタムケノナナモジ 江戸紫手向七字	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
エドムラサキトクガワゲンジ 江戸紫徳川源氏	020	02-12,38	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
エドムラサキヒヨクノカリガネ 江戸紫比翼鷹金	055	05-12,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
エドムラサキユカリノジツク 江戸紫由縁十徳	268	27-02,29	椀久 ワンキュウ【世話物】
エドメイショミドリソガ 江戸名所緑曾我	003	01-03,46	阿古屋 アコヤ【時代物】
エドメイショミドリソガ 江戸名所緑曾我	088	09-03,40	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
エドメイショミドリソガ 江戸名所緑曾我	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウウベエ【世話物】
エドメイショミドリソガ 江戸名所緑曾我	235	24-05,23	水野十郎左衛門 ミズノジュウロウザエモン【世話物】
エドメイショミヤコノトリオイ 江戸名所都鳥追	226	23-08,26	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
エドリョウゴクヨミセノハジマリ 江戸両国夜店始	249	25-07,23	宿なし団七 ヤドナシダンシチ【世話物】
エニシノハシ 縁の橋	128	12-11,27	雪駄直し長五郎 セツタナオシチョウゴロウ【世話物】
エニシノハナタビジノヨメイリ 縁花旅路の嫁入	203	21-08,39	八段目 ハチダンメ【舞踊劇】
エノシマソダチネオイノチゴキク 江島育根生児菊	225	23-07,26	弁天小僧 ベンテンコソウ【時代世話物】
エノシマハウノウケンダイ 江之島奉納見台	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
エビスコウムスブノオンカミ 象ひす講結御神	103	10-08,34	重の井 シゲノイ【お家物】
エビスモウデコイノツリバリ 戎詣恋釣針	162	17-07,47	釣女 ツリオンナ【舞踊劇】
エビラノウメ 箴の梅	021	03-01,34	箴の梅 エビラノウメ【時代物】
エホウタイコウキ 恵方大功記	145	14-08,26	太閤記 タイコウキ【時代物】
エホウナリタコヨミノマンキチ 恵方成田暦万吉	220	23-02,28	不動万吉 フドウマンキチ【世話物】
エボシノヒモトケテネルヨ 烏帽子紐解寝夜	004	01-04,49	朝比奈末広 アサイナスエヒロ【舞踊劇】
エボシノヒモトケテネルヨ 烏帽子紐解寝夜	102	10-07,21	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
エホンアサイナシマメグリ 絵本朝夷巡島記	004	01-04,48	朝比奈 アサイナ【時代物】
エホンガッポウガツジ 絵本合邦衢	051	05-08,48	合邦辻 ガッポウガツジ【お家物】

エホンタイコウキ 絵本太功記	130	13-03,33	千利休 センノリキユ【時代物】
エホンタイコウキ 絵本太功記	145	14-08,26	太閤記 タイコウキ【時代物】
エホンタイコウキ 絵本太功記	149	15-02,33	高松城水責 タカマツジョウミズゼメ【時代物】
エホンタイコウキ 絵本太功記	235	24-05,24	光秀* ミツヒデ【時代物】
エホンタイトウキ 絵本大当記	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
エホンチュウシングラ 絵本忠臣蔵	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
エホンチュウシングラ 絵本忠臣蔵	221	23-03,23	不破数右衛門 フワカズエモン【お家物】
エホンチュウシングラ 絵本忠臣蔵	261	26-07,25	嫁切 ヨメキリ【世話物】
エホンテンガチャムラ 絵本天下茶屋聚	166	18-02,45	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
エンカクジ 円覚寺[戯曲通称]	021	03-01,34	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
エンカクジ 円覚寺[戯曲通称]	021	03-01,34	伊賀越乗掛合羽 イガゴエノリカケガッパ
エンシュウナカヤマソメ 遠州中山染	184	20-01,38	中山問答 ナカヤマモンドウ【お家物】
エンシュウヤ 遠州屋[戯曲通称]	021	03-01,34	敵討優曇華亀山 カタキウチウキギノカメヤマ
エンシヨクアキサメノガタリ 艶色秋雨語	083	08-08,50	小西行長 コニシユキナガ【時代物】
エンシヨクバンゼイヨリマサ 艶色万歳頼政	262	26-08,23	頼政 ヨリマサ【時代物】
エンノギョウジャ 役の行者	021	03-01,35	役行者 エンノギョウジャ【時代物】
エンノギョウジャオオミネザクラ 役行者大峰桜	011	02-03,66	妹背山 イモセヤマ【王代物】
エンノギョウジャデンキ 役行者伝記	021	03-01,35	役行者 エンノギョウジャ【時代物】
エンマンタイヘイキ 円満太平記	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
エンムスビスガタハッケイ 縁結姿八景	241	24-11,16	聾八人 ムコハチニン【舞踊劇】
エンメイインヒジ 延命院秘事	021	03-01,37	延命院 エンメイイン【世話物】
エンヤハンガンコキョウノニシキ 塩谷判官故郷錦	021	03-01,37	塩谷判官 エンヤハンガン【時代物】
オアツラエゾメソガノヒナガタ 御詠染曽我雛形	052	05-09,46	鎌髭 カマヒゲ【時代物】
オイキノハレモミジノヒタタレ 老樹曠紅葉直垂	094	09-09,32	実盛 サネモリ【時代物】
オイシゲルナミノウネウネ 生茂波溶渦	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
オイテニマホミナトノクロフネ 追風真帆湊黒船	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
オイワイナリヨツヤノホンセツ 於岩稻荷四ツ谷本説	260	26-06,19	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
オイワイナリリシヨウノタマグシ 於岩稻荷験玉櫛	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
オウギノシバ 扇の芝	262	26-08,23	頼政 ヨリマサ【時代物】
オウギノマトサイカイイスズリ 扇的西海硯	016	02-08,58	乳母争い ウバアラソイ【時代物】
オウギビョウシオオオカセイダン 扇音全大岡政談	165	18-01,50	天一坊 テンイチボウ【お家物】
オウギフジホウライソガ 扇富士蓬萊曾我	102	10-07,23	敷皮曾我 シキガワソガ【時代物】
オウギヤカズシジュウシチホン 扇矢数四十七本	052	05-09,46	鎌腹 カマバラ【お家物】
オウシュウアダチガハラ 奥州安達原	005	01-05,45	安達原 <sup>1</sup> アダチガハラ【時代物】
オウシュウシノブイシ 奥州信夫石	009	02-01,60	伊勢物語 イセモノガタリ【時代物】
オウシュウシノブイシ 奥州信夫石	037	04-05,69	小野小町 オノノコマチ【時代物】
オウシュウダチユキノクルゴマ 奥州牧雪驪	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
オウシュウヒデヒラウハツノハナムコ 奥州秀衡有鬘婿	258	26-04,17	義経 ヨシツネ【時代物】
オウシュクバイツマドノオビヒキ 鶯宿梅妻戸帯引	139	14-01,19	曾我 ソガ【時代物】

オウショウクン 王昭君	024	03-04,71	王昭君 オウショウクン【時代物】
オウジンテンノウヤツノシラハタ 応神天皇八白幡	150	15-03,28	竹内宿禰 <sup>1</sup> タケノウチノスクネ【時代物】
オウセノヤレゴロモ 逢瀬の破衣	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
オウミウラダテノネビキ 大三浦達寿	153	15-09,40	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
オウミゲンジシカタコウシャク 近江源氏軀講釈	025	03-05,67	近江源氏 オウミゲンジ【時代物】
オウミゲンジシカタコウシャク 近江源氏軀講釈	072	07-07,39	血判取 ケツパントリ【時代物】
オウミゲンジシカタコウシャク 近江源氏軀講釈	083	08-08,49	後藤又兵衛 ゴトウマタベエ【時代物】
オウミゲンジシカタコウシャク 近江源氏軀講釈	130	13-03,33	千姫 センヒメ【時代物】
オウミゲンジシカタコウシャク 近江源氏軀講釈	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
オウミゲンジセンジンヤカタ 近江源氏先陣館	025	03-05,66	近江源氏 オウミゲンジ【時代物】
オウミゲンジセンジンヤカタ 近江源氏先陣館	083	08-08,49	後藤又兵衛 ゴトウマタベエ【時代物】
オウミゲンジセンジンヤカタ 近江源氏先陣館	246	25-04,27	盛綱陣屋 モリツナジンヤ【時代物】
オウミゲンジセンジンヤカタ 近江源氏先陣館	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
オウミノクニゲンゴロウブナ 近江国源五郎鮎	122	12-05,16	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
オエドノハナニギワイソガ 御江戸花帳曾我	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
オエドメイブツニシキエノハジマリ 東都銘物錦絵始	029	03-09,71	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
オエドメイブツニシキエノハジマリ 東都銘物錦絵始	056	06-02,46	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
オエドメイブツニシキエノハジマリ 東都銘物錦絵始	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
オエドメイブツニシキエノハジマリ 東都銘物錦絵始	182	19-11,43	鳥目の一角 トリメノイッカク【世話物】
オオアキナイヒルガコジマ 大商蛭小島	068	07-03,46	黒髪 クロカミ【舞踊劇】
オオアキナイヒルガコジマ 大商蛭小島	123	12-06,35	相撲 スモウ【舞踊劇】
オオアキナイヒルガコジマ 大商蛭小島	262	26-08,21	頼朝 ヨリトモ【時代物】
オオアタリテンガンキョウ 大当天眼鏡	105	10-10,29	死神 シニガミ【世話物】
オオアタリテンガンキョウ 大当天眼鏡	157	16-05,16	伊勢屋 チキリイセヤ【世話物】
オオイガワ 大井川[戯曲通称]	022	03-02,29	生写朝顔話 ショウウツシアサガオバナシ
オオイシサイゴノイチニチ 大石最後の日	074	07-09,41	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
オオイシズリサクランタンザク 大石摺桜花短冊	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
オオイソノトラオサナモノガタリ 大磯虎稚物語	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
オオイソノトラオサナモノガタリ 大磯虎稚物語	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
オオイチョウサカエカゲキヨ 大銀杏繁栄景清	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
オオオカエチゼンノカミトテンイチボウ 大岡越前守と天一坊	165	18-01,51	天一坊 テンイチボウ【お家物】
オオオカシラベメイヨノホンゼツ 大岡調高名本説	165	18-01,51	天一坊 テンイチボウ【お家物】
オオオカセイダンナツモスズカワ 大岡政談夏鈴川	121	12-04,23	鈴川源十郎 スズカワゲンジュウロウ【世話物】
オオオロチゲダツモノガタリ 大蛇解脱物語	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
オオオロチゲダツモノガタリ 大蛇解脱物語	171	18-09,47	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
オオカガリソガノカドマツ 大注連曾我門松	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
オオカザリコトブキノガ 大飾寿曾我	006	01-06,59	荒五郎茂兵衛 アラゴロウモヘエ【世話物】
オオカザリコトブキノガ 大飾寿曾我	139	14-01,21	曾我 ソガ【時代物】
オオカザリマンネンゴヨミ 大飾万年暦	206	21-11,38	ハムレット ハムレット【世話物・お家物】

オオガジンセイロク 大賀仁政録	022	03-02,31	大岡政談 オオオカセイダン【 】
オオガセイシンロク 大賀誠心録	087	09-02,43	権三助十 ゴンザスケジュウ【世話物】
オオカマデアキナイソガ 大龜商首我	260	26-06,23	淀屋辰五郎 ヨドヤツッコロウ【世話物】
オオクボヒコザエモン 大久保彦左衛門[1893/福地桜痴]	022	03-02,33	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
オオクボヒコザエモン 大久保彦左衛門[1936/岡本綺堂]	022	03-02,33	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
オオクマガワゲンザエモン 大隈川源左衛門	023	03-03,64	大隈川 オオクマガワ【世話物】
オオサカジョウ 大阪城	260	26-06,21	淀君 ヨドギミ【時代物】
オオサカジンショケノカキトメ 大阪陣諸家記録	023	03-03,66	大阪陣 オオサカジン【時代物】
オオサカスケロクシンジュウモノガタリ 大坂助六心中物語	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
オオサカセンニチデラシンジュウモノガタリ 大坂千日寺心中物語	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
オオサカツキシュセンノツワモノ 大杯觴酒戦強者	023	03-03,67	大杯 オオサカズキ【お家物】
オオサカマツリソロエ 大坂神事揃	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
オオザクライキオイスガ 大桜勢首我	062	06-08,37	灸据 キュウスエ【舞踊劇】
オオシオウワサノキキガキ 大塩噂聞書	024	03-04,71	大塩平八郎 オオシオヘイハチロウ【世話物】
オオシオヘイハチロウゲンコウロク 大塩平八郎言行録	024	03-04,71	大塩平八郎 オオシオヘイハチロウ【世話物】
オオズモウフジトゲンジ 大角力藤戸源氏	049	05-05,44	累 カサネ【お家物】
オオソガフジノマキガリ 大曾我富士牧狩	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】
オオダイジンコガネノマメマキ 誉大尽金の豆蒔	062	06-08,34	紀文 キブン【世話物】
オオタニギョウブ 大谷刑部	127	12-10,38	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
オオツエスガタノハナ 大津絵姿花	216	22-10,28	藤娘 フジムスメ【舞踊】
オオツエセンドウ 大津絵船頭	024	03-04,73	大津絵 オオツエ【舞踊劇】
オオツエソウシ 大津絵英紙	180	19-08,41	吃又 ドモマタ【お家物】
オオトウノミヤアサヒノヨロイ 大塔宮囃鏡	024	03-04,73	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
オオトウノミヤアサヒノヨロイ 大塔宮囃鏡	235	24-05,19	身替り音頭 ミガワリオンド【時代物】
オオトウノミヤアサヒノヨロイ 大塔宮囃鏡	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
オオトウノミヤクマノオチ 大塔宮熊野落	024	03-04,73	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
オオトウノミヤクマノオチ 大塔宮熊野落	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
オオトモノウジギョクザノクツ 大友王子玉座靴	065	06-12,33	国栖 クズ【王代物】
オオトモノマトリ 大友真鳥	024	03-04,74	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
オオトリゲゴジュウシゲン 大鳥毛五十四郡	091	09-06,35	榊原高尾 サカキバラタカオ【お家物】
オオトリゲゴジュウシゲン 大鳥毛五十四郡	152	15-06,28	伊達騒動 イダテソウドウ【お家物】
オオナカトミニギテノシラハタ 大中富幣帛白旗	053	05-10,40	上方顔見世狂言 カミガタカオミセキョウゲン【 】
オオネウマノハタエモン 大根馬の畑右衛門	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
オオハシリュウコイノテナライ 大橋流恋の手習	116	11-10,20	新大橋仇討 シンオオハシアダウチ【お家世話物】
オオハラモンドウ 大原問答	067	07-02,37	熊谷 クマガイ【時代物】
オオハラモンドウアオバナフエ 大原問答青葉笛	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
オオハラモンドウアオバナフエ 大原問答嫩葉籜	261	26-07,25	嫁威谷 ヨメオドシダニ【時代世話物】
オオフナモリエビノカオミセ 大船盛鰯顔見世	206	21-11,36	花車 ハナグルマ【舞踊】
オオフナモリエビノカオミセ 大船盛鰯顔見世	235	24-05,18	三日月お仙 ミカツキオセン【時代物】

オオフリソデケハイノミズウミ 大振袖粧湖	093	09-08,33	真田の張抜筒 サナダノハリヌキツツ【時代物】
オオフリソデケハイノミズウミ 大振袖粧湖	126	12-09,34	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
オオミウラダテノネビキ 大三浦達寿	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
オオミナトコガネノイズミ 大湊黄金泉	109	11-02,28	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
オオミネノホンジ 大峯の本地	021	03-01,35	役行者 エンノギョウジャ【時代物】
オオモリヒコシチ 大森彦七	026	03-06,62	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
オオモンクチヨロイガサネ 大門口鎧襲	008	01-08,57	伊勢新九郎 イセシンクロウ【 】
オオモンクチヨロイガサネ 大門口鎧襲	236	24-06,18	美濃庄九郎 ミノノシヨウクロウ【時代物】
オオヤカズシジュウシチホン 大矢数四十七本	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
オオヤスウリシヨシナノイチムラ 大安売諸品市村	004	01-04,55	畦倉重四郎 アゼクラジュウシロウ【 】
オオヨロイエビドウシノツカ 大鏡海老胴篠塚	024	03-04,74	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
オオヨロイエビドウシノツカ 大鏡海老胴篠塚	116	11-10,19	白妙 シロタエ【舞踊劇】
オカザキ 岡崎[戯曲通称]	026	03-06,63	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
オガサワラシヨレイノオクノテ 小笠原諸礼忠孝	027	03-07,62	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
オキゲノクモハラウアサゴチ 西南雲晴朝東風	090	09-05,38	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
オキナグサコイノタネマキ 翁草恋種時	154	16-02,27	種時三番 タネマキサンバ【舞踊劇】
オキナセンザイサンバソウ 翁千歳三番叟	102	10-07,23	式三番 シキサンバ【舞踊劇】
オキミヤゲイマオリジョウフ 置土産今織上布[1777/菅専助]	143	14-05,20	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
オキミヤゲイマオリジョウフ 置土産今織上布[安永頃浜芝居]	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
オクダヤ 奥田屋[戯曲通称]	027	03-07,65	博多小女郎浪枕 ハカタコジョロウナミマクラ
オクドウシャバンドウジュンレイ 群客坂東頌	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
オクニイリソガナカムラ 御国入首我中村	092	09-07,46	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
オクニイリソガナカムラ 御国入首我中村	098	10-03,25	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
オクニカブキ 阿国歌舞伎	008	01-08,57	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
オクニゴゼンケシヨウノスガタミ 阿国御前化粧鏡	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
オクニゴゼンケシヨウノスガタミ 阿国御前化粧鏡	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
オクニゴゼンケシヨウノスガタミ 阿国御前化粧鏡	167	18-03,45	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
オクニゴゼンケシヨウノスガタミ 阿国御前化粧鏡	228	23-10,19	牡丹灯笼 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
オクニゴゼンケシヨウノスガタミ 阿国御前化粧鏡	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
オクニゾメシュッセブタイ 阿国染出世舞台	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
オクニメイブツハナノスゲガサ 御国名物花菅笠	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
オクニワ 奥庭[戯曲通称]	027	03-07,65	鏡山旧錦絵 カガミヤマコキョウノニシキエ
オクニワ 奥庭[戯曲通称]	027	03-07,65	本朝廿四孝 ホンチョウニジュウシコウ
オグラノシキシ 小倉の色紙	027	03-07,62	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
オグラヤマヒヤクニンイッシュ 小倉山百人一首	164	17-10,51	定家 テイカ【時代物】
オグリカナメイシ 小栗鹿目石	028	03-08,68	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
オグリジュウニダン 小栗十二段	028	03-08,68	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
オグリジュウニダン 小栗十二段	042	04-10,68	女熊坂 オンナクマサカ【時代物】
オグリノハンガン 小栗の判官	028	03-08,67	小栗判官 オグリハンガン【時代物】

オグリハンガンクルマカイドウ 小栗判官車街道	028	03-08,67	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
オグルスノチョウベエ 小栗栖の長兵衛	236	24-06,18	光秀* ミツヒデ【時代物】
オケハザマナルミグンダン 桶狭間鳴海軍談	028	03-08,70	桶狭間 オケハザマ【時代物】
オサカベ 小刑部	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
オサカベヒメ 小坂部姫	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
オサダノアダウチ おさだの仇討	208	22-02,39	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】
オサナゴノカタキウチ 幼稚子敵討[1753 大坂]	088	09-03,45	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
オサナゴノカタキウチ 幼稚子敵討[1840 大坂]	089	09-04,42	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
オサナダチイロエノチョウチドリ 幼裁彩絵蝶千鳥	102	10-07,23	敷皮曽我 シキガワソガ【時代物】
オサメダチホマレノカガミ 納太刀誉鑑	204	21-09,37	鉢の木 ハチノキ【時代物】
オシエグサヨシワラスズメ 教草吉原雀	259	26-05,25	吉原雀 ヨシワラスズメ【舞踊劇】
オシチ お七	031	03-11,68	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
オシチウタサイモン お七歌祭文	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
オシチキチサ お七吉三	031	03-11,68	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
オシチキチサ お七と吉三	031	03-11,68	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
オシドリ 鴛鴦	123	12-06,35	相撲 スモウ【舞踊劇】
オシノフスマキイタムツゴト 鴛鴦襖聞睦	031	03-11,70	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
オシュンデンベエカワラノシンジュウ お俊伝兵衛河原の心中	031	03-11,70	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
オシュンデンベエジュウシチカイキ お俊伝兵衛十七回忌	031	03-11,70	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
オソザクラテニハノナナモジ 遅桜手爾波七字	020	02-12,40	越後獅子 エチゴジシ【舞踊】
オソザクラテニハノナナモジ 遅桜手爾波七字	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
オソザクラテニハノナナモジ 遅桜手爾波七字	092	09-07,40	相模蟹 サガミアマ【舞踊】
オソザクラテニハノナナモジ 遅桜手爾波七字	093	09-08,33	座頭 ザトウ【舞踊】
オソザクラテニハノナナモジ 遅桜手爾波七字	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
オソザクラハルナノウメガカ 遅桜榛名の梅香	007	01-07,60	安中草三 アンナカソウザ【世話物】
オソノシュツツ お園出立[戯曲通称]	032	03-12,61	彦山権現誓助剣 ヒコサンゴンゲンチカイノスケダチ
オソメヒサマツウキナノヨミウリ 於染久松色読版	033	04-01,60	お染の七役 オソメノナナヤク【世話物】
オソメヒサマツシンジュウ お染久松心中	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
オダノユキミツギノタマモノ 小田雪貢賜	202	21-07,36	馬廐の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
オタマガイケミツゴノアダウチ 於玉池三津娘鬘	034	04-02,61	お玉ヶ池 オタマガイケ【世話物】
オダヤカタフタゴニツキ 小田館双生日記	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
オダワラジ 小田原陣	154	16-02,25	伊達政宗 ダテマサムネ【時代物】
オチコチャマンバ 遠近山姥[通称]	251	25-09,18	四天王大江山入 シテンノウオオエヤマイリ
オツマハチロウベエ おつま八郎兵衛	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
オトギジュウニダン 御伽十二段	016	02-08,60	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
オトギゾウシハクモノノガタリ 御伽草紙百物語	152	15-06,27	姐妃のお百 ダッキノオヒヤク【世話物】
オトギバナシネズミコソウ 伝話根潤美幸増	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
オトギバナシハカタノイマオリ 御伽譚博多新織	011	02-03,65	今様小鍛冶 イマヨウコカジ【舞踊劇】
オトギバナシハカタノイマオリ 御伽譚博多新織	022	03-02,32	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】

オトギバナシハカタノイマオリ 御伽譚博多新織	069	07-04,40	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
オトギバナシハカタノイマオリ 御伽譚博多新織	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
オトギバナシハカタノイマオリ 御伽譚博多新織	101	10-06,18	三人片輪 サンニンカタワ【舞踊劇】
オトギバナシハコザキブンコ 御伽噺箱崎文庫	069	07-04,40	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
オドケニワカシャボンノタマトリ おどけ俄煮珠取	155	16-03,18	玉取蛭 タマトリアマ【舞踊】
オドケニワカシャボンノタマトリ おどけ俄煮珠取	155	16-03,22	玉屋 タマヤ【舞踊】
オトコイッピキキキジノヤスウリ 男一疋達引安売	054	05-11,40	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
オトコイッピキキキジノヤスウリ 男一疋達引安売	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
オトコイッピキスキノタテヒキ 堂島救出浜	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
オトコクラベミクニノミナト 男競三国湊	101	10-06,20	三人新兵衛 サンニンシンベエ【世話物】
オトコダテイツツカリガネ 男作五匁金[1742/竹田出雲]	055	05-12,43	匁金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
オトコダテイツツカリガネ 男作五匁金[1742/竹田出雲]	076	07-11,35	河内山 コウチャマ【世話物】
オトコダテイツツカリガネ 男作五匁金[文化文政頃上方]	055	05-12,43	匁金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
オトコダテイロモヨシワラ 男作女吉原	188	20-05,41	夏祭 ナツマツリ【世話物】
オトコダテサトノヨザクラ 男達廓夜桜	254	25-12,26	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
オトコダテシュッセノカゾエウタ 男作出世の真唄	115	11-09,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
オトコダテハツカイソガ 男伊達初買曾我	018	02-10,52	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
オトコダテハツカイソガ 男伊達初買曾我	065	06-12,32	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
オトコダテハツカイソガ 男伊達初買曾我	138	13-12,27	曾我 ソガ【時代物】
オトコダテバヤリ 男達ばやり	234	24-04,32	三浦小次郎 ミウラコジロウ【世話物】
オトコダテハルサメガサ 侠客春雨傘	207	21-12,44	春雨傘 ハルサメガサ【世話物】
オトコドウジョウジ 男道成寺	171	18-09,46	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
オトコナリケリオンナマサカド 男哉婦将門	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
オトコムケン 男無間	070	07-05,39	桑名屋徳蔵 クワナヤトクゾウ【世話物】
オトコムケン 男無間[通称]	240	24-10,25	けいせい花発船 ケイセイハナイカダ
オトコムスピカンスケジマ 雄結勘助島	061	06-07,44	木津勘助 キヅカンスケ【世話物】
オトコムスピチカイノリュウガン 男券誓立願	157	16-05,21	血達磨 チダルマ【お家物】
オトコモジソガモノガタリ 男文字曾我物語	003	01-03,46	阿古屋 アコヤ【時代物】
オトコヤマオエドノイシズエ 男山御江戸磐石	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
オトコヤマトリタテゲンジ 男山恵源氏	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
オトコヤマフリソデゲンジ 男山娘源氏	133	13-06,43	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
オトコヤマフリソデゲンジ 男山娘源氏	148	14-12,26	高砂丹前 タカサゴタンゼン【舞踊劇】
オトコヤマフリソデゲンジ 男山娘源氏	184	20-01,38	仲光 ナカミツ【時代物】
オトコヤマフリソデゲンジ 男山娘源氏	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
オトコヤマモリタテゲンジ 音駒山守護源氏	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
オトコヤマモリタテゲンジ 音駒山守護源氏	147	14-10,28	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
オトコヤマムンゼイクラベ 男山弓勢競	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
オトコヤマムンゼイクラベ 男山弓勢競	259	26-05,25	吉原雀 ヨシワラスズメ【舞踊劇】
オトシダマエビノテアソビ 御歳玉海老手遊	185	20-02,41	鳶奴 トンビヤッコ【舞踊】

オトニキクアサマノウツシエ 音菊浅間幻灯画	004	01-04,55	浅間山噴火 アサマヤマフンカ【世話物】
オトニキクイコクノイリフネ 音菊漢入船	167	18-03,46	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
オトニキクイチョウノクセモノ 音菊高麗恋	022	03-02,31	大岡政談 オオオカセイダン【 】
オトニキクイチョウノクセモノ 音菊高麗恋	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
オトニキクイチョウノクセモノ 音菊高麗恋	167	18-03,45	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
オトニキクイチョウノクセモノ 音菊高麗恋	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
オトニキクキョクバノカワムチ 音響曲駒鞭	063	06-09,43	曲馬 キョクバ【舞踊劇】
オトニヒビクセンナリヒサゴ 音響千成瓢	051	05-08,46	堅田落 カタタオチ【時代物】
オトニヒビクセンナリヒサゴ 音響千成瓢	147	14-10,28	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
オトワタンシチ 音羽丹七	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
オトワヤマレンボノタキ 音羽山恋慕飛泉	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
オナツキョウラン お夏狂乱	037	04-05,66	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
オナツセイジウロウ お夏清十郎	037	04-05,66	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
オナツセイジウロウサンジュウサンネンキ お夏清十郎三十三年忌	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
オナバケイナリツキノオボロヨ 女化稲荷月朧夜	037	04-05,67	女化稲荷 オナバケイナリ【世話物】
オニカゲムサシアブミ 鬼鹿毛無佐志鑑[1710/吾妻三八].	160	17-05,29	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
オニカゲムサシアブミ 鬼鹿毛無佐志鑑[1713/紀海音].	028	03-08,70	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
オニカゲムサシアブミ 鬼鹿毛無佐志鑑[1713/紀海音].	159	17-04,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
オニワカコンゲンブタイ 鬼若根元台	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
オノウタイヘイキ 御能太平記	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
オノエイダハチ 尾上伊太八	037	04-05,67	尾上伊太八 オノエイダハチ【世話物】
オノエキクゴロウイチダイバナシ 尾上梅寿一代噺	081	08-06,38	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
オノエキクゴロウイチダイバナシ 尾上梅寿一代噺	105	10-10,28	死神 シニガミ【世話物】
オノエキクゴロウイチダイバナシ 尾上梅寿一代噺	167	18-03,45	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
オノエキクゴロウイチダイバナシ 尾上梅寿一代噺	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
オノエキクゴロウイチダイバナシ 尾上梅寿一代噺	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
オノエショウロクセンタクバナシ 尾上松緑洗濯話	180	19-08,40	吃又 ドモマタ【お家物】
オノエノクモシズハタオビ 峰雲賤機帯	104	10-09,17	賤機帯 シズハタオビ【舞踊劇】
オノノコマチミヤコノトシダマ 小野小町都年玉	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
オノノタカムラジゴクサンダン 小野篁地獄讃談	038	04-06,62	小野篁 オノノタカムラ【時代物】
オノノトウフウ 小野道風	038	04-06,62	小野道風 オノノトウフウ【時代物】
オノノトウフウアオヤギスズリ 小野道風青柳硯	038	04-06,63	小野道風 オノノトウフウ【時代物】
オノノトウフウキ 小野道風記	038	04-06,62	小野道風 オノノトウフウ【時代物】
オバケシヨウ お化師匠	208	22-02,38	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】
オハツテンジンキ お初天神記	038	04-06,63	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
オハラメ 大原女	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
オビノアヤカツラノカワミズ 帯文桂川水	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
オビヒキコチョウノユウグレ 帯曳小蝶昏	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
オビヒキコチョウノユウグレ 帯曳小蝶昏	139	14-01,19	曾我 ソガ【時代物】



オビヒキハナノコバヤシ 帯曳花小林	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
オビヤ 帯屋[戯曲通称]	040	04-08,59	桂川連理柵 カツラガワレンリノシガラミ
オボロツキツイノカゲボシ 朧月一対影法師	098	10-03,28	散切お富 ザンギリオトミ【世話物】
オマンゲンゴベエ おまん源五兵衛	093	09-08,33	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
オモイイルツキノユミハリ 想入月弓張	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
オモイツクスレノキキカタ 偲照恋重荷	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
オモイツマアワセコソデ 想妻袷小袖	249	25-07,23	宿なし団七 ヤドナシダンシチ【世話物】
オモイノタキコイノウツリガ 思滝恋移香	044	04-12,42	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
オモカゲセツショウセキ 面影殺生石	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
オモカゲロツカセン 面影六歌仙	061	06-07,45	喜撰 キセン【舞踊劇】
オモカゲロツカセン 面影六歌仙	224	23-06,24	文屋 ブンヤ【舞踊劇】
オモカゲロツカセン 面影六歌仙	266	26-12,23	六歌仙 ロツカセン【舞踊劇】
オモシロタエユキノフルデラ 面白妙雪の旧寺	010	02-02,55	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
オモシロヤウキヨカラクリ 娯浮世機関	051	05-08,50	活惚 カッボレ【舞踊劇】
オモワククルワカタギ 思花街容性	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
オヤノヒカリミガクナタキリ 祖先光輝磨鈍切	200	21-05,42	範頼 ノリヨリ【時代物】
オヨバヌウデヒダリノホリモノ 拙腕左彫物	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
オリアワセダンシチジマ 織合団七縞[1787 人形浄瑠璃]	187	20-04,47	夏祭 ナツマツリ【世話物】
オリアワセダンシチジマ 織合団七縞[1844/西沢一鳳]	188	20-05,42	夏祭 ナツマツリ【世話物】
オリアワセツツレノニシキ 織合襷襦錦	212	22-06,39	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
オリドノノキモルツキ 織殿軒漏月	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
オンアツラエカリガネソメ 御詠鷹金染	056	06-02,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
オンアツラエゾメソガノヒナガタ 御詠染首我雛形	048	05-04,44	影勝団子 カゲカツダンゴ【舞踊劇】
オンアツラエヤオヤノコンダテ 御詠八百屋献立	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
オンナアルジハツユキノセカイ 女主初雪の世界	204	21-09,37	鉢の木 ハチノキ【時代物】
オンナイヒトメノセキモリ 恩愛贖関守	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
オンナエシカノウユキヒメ 女絵師狩野雪姫	065	06-12,30	金閣寺 キンカクジ【時代物】
オンナエシカノウユキヒメ 女絵師狩野雪姫	253	25-11,22	雪姫 ユキヒメ【時代物】
オンナカガミシヅカノスガタエ 女鑑静姿絵	191	20-08,43	錦の舞衣 ニシキノマイギヌ【世話物】
オンナカシマ 女鹿島	050	05-07,46	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
オンナカブキ 女歌舞伎	130	13-03,34	千姫 センヒメ【時代物】
オンナカブキチヨノハジメ 女歌舞伎千代始	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
オンナクスノキ 女楠	042	04-10,67	女楠 オンナクスノキ【時代物】
オンナクスノキケンボノキョウケン 女楠賢母の教訓	042	04-10,67	女楠 オンナクスノキ【時代物】
オンナクスノキタイヘイキ 女楠太平記	041	04-09,58	女楠 オンナクスノキ【時代物】
オンナクスノキテンカタイヘイキ 女楠天下太平記	148	14-12,27	高時 タカトキ【時代物】
オンナクスノキヨソオイカガミ 女楠靨粧鑑	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
オンナクスノキヨソオイカガミ 女楠靨粧鑑	042	04-10,67	女楠 オンナクスノキ【時代物】
オンナクドウヨソオイソガ 女工藤化粧首我	042	04-10,67	女工藤 オンナクドウ【時代物】

オンナゴリオシエノマゼハリ 御名残押絵交張	047	05-03,47	加賀屋の狂乱 カガヤノキョウラン【舞踊】
オンナゴリオシエノマゼハリ 御名残押絵交張	057	06-03,44	閑羽 <sup>2</sup> カンウ【舞踊】
オンナゴリオシエノマゼハリ 御名残押絵交張	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
オンナゴリオシエノマゼハリ 御名残押絵交張	180	19-08,39	鳥羽絵 トバエ【舞踊】
オンナゴリオバナトメソデ 御名残尾花留袖	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
オンナゴリゴシキノハナカゴ 余波五色花魁香	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
オンナゴリゴシキノハナカゴ 余波五色花魁香	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
オンナゴリサルノヒトマネ 御名残猿人真似	009	02-01,63	一本足 イッボンアシ【舞踊】
オンナコロシアブラノジゴク 女殺油地獄	005	01-05,47	油地獄 アブラジゴク【世話物】
オンナサンショウダユウ 女三莊太夫	100	10-05,19	三莊太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
オンナセツヨウエモンカガミ 女節用衣紋考見	235	24-05,21	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
オンナセミマル 女蟬丸	129	12-12,26	蟬丸 セミマル【時代物】
オンナタダノブ 女忠信[通称]	109	11-02,32	十二段君が色音 ジュウニダンキミガイロネ
オンナダテコウライヤジマ 女達高麗屋経緯	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
オンナダテスガタノハナ 女伊達姿花	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
オンナチュウシングラ 女忠臣蔵	044	04-12,41	女忠臣蔵 オンナチュウシングラ【お家物】
オンナナルカミカセンザクラ 嬬髪歌仙桜	037	04-05,69	小野小町 オノノコマチ【時代物】
オンナナルカミカセンザクラ 嬬髪歌仙桜	044	04-12,42	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
オンナナルカミセガワボウシ 女鳴神瀬川帽子	044	04-12,42	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
オンナヒニンココロノニシキ 女非人意錦	044	04-12,43	女非人仇討 オンナヒニアダウチ【お家物】
オンナヒニンノカタキウチ 女非人敵討	044	04-12,43	女非人仇討 オンナヒニアダウチ【お家物】
オンナベンケイ 女弁慶	044	04-12,43	女弁慶 オンナベンケイ【時代物】
オンナマイツルギノモミジ 女舞剣紅楓	097	10-01,19	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
オンナムシャウキスガッセン 女武者浮洲合戦	246	25-04,27	盛綱 モリツナ【時代物】
オンナムシャキクノセンヨキ 女武者菊千余騎	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
オンナムシャキクノセンヨキ 女武者菊千余騎	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
オンナモジフデノミチノク 女文字筆陸	116	11-10,20	新大橋仇討 シンオオハシアダウチ【お家世話物】
オンナモジフデノミチノク 女文字筆陸	238	24-08,18	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
オンナロウニン 女浪人	052	05-09,43	桂小五郎 カツラコゴロウ【世話物】
カイケイゲンジユキノシラハタ 会稽源氏雪白旗	262	26-08,22	頼朝 ヨリトモ【時代物】
カイケイコキョウノニシキ 会稽故郷錦	144	14-06,31	太閤記 タイコウキ【時代物】
カイケイコキョウノニシキギ 会稽檜錦木	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
カイゲイジサクラゲンバイ 甲斐源氏桜軍配	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
カイケイタガノホマレ 会稽多賀誉	051	05-08,50	合邦辻 ガッポウガツジ【お家物】
カイケイテンガチャムラ 会稽天下茶屋聚	166	18-02,45	天下茶屋 テンガチャ【お家物】
カイケイミヤギノニシキ 会稽宮城野錦繡	238	24-08,19	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
カイケイユキノコノシタ 会稽雪木下	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
カイケイユキノコノシタ 会稽雪木下	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
カイコクヘイダン 海国兵談	207	21-12,42	林子平 ハヤシヘイ【世話物】

ガイジンジュウニダン 凱陣十二段	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
ガイジンヤシマ 凱陣八島	058	06-04,48	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
ガイジンヤシマ 凱陣八島	206	21-11,36	花子 ハナゴ【舞踊劇】
ガイジンヤシマ 凱陣八島	252	25-10,16	山伏撰待 ヤマブシセツタイ【時代物】
ガイジンヤシマ 凱陣八島	257	26-03,28	義経 ヨシツネ【時代物】
カイゾナキヒトメミノブ 甲斐渚七面身延	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
カイドンコハダコヘイジ 怪談小幡小平次	084	08-09,28	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
カイドンサラヤシキジツキ 怪談皿屋敷実記	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
カイドンチブサノエノキ 怪談乳房榎[1897/久保田彦作]	158	16-10,36	乳房榎 チブサノエノキ【世話物】
カイドンチブサノエノキ 怪談乳房榎[1905 大阪]	158	16-10,37	乳房榎 チブサノエノキ【世話物】
カイドンツキノカサモリ 怪談月笠森	050	05-07,45	笠森お仙 カサモリオセン【世話物】
カイドンボタンドウロウ 怪異談牡丹灯笼[1885 大阪]	228	23-10,20	牡丹灯笼 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
カイドンボタンドウロウ 怪異談牡丹灯笼[1894/河竹新七]	228	23-10,20	牡丹灯笼 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
カイドウイチイズノハルコマ 街道一伊豆春駒	139	14-01,19	曾我 ソガ【時代物】
カイドウイチムネアゲソガ 街道一棟上曾我	055	05-12,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カイドウイチヤワラギソガ 国色和曾我	018	02-10,52	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
カイドウイチヤワラギソガ 国色和曾我	139	14-01,20	曾我 ソガ【時代物】
カイドウイチヤワラギソガ 国色和曾我	161	17-06,16	長作入りお花 チョウサクイリオハナ【舞踊劇】
カイドウイチヤワラギソガ 国色和曾我	254	25-12,25	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
カイドウウダリ 海道下り	045	05-01,44	海道下り カイドウウダリ【舞踊劇】
カイビヤクイマガワジョウ 開關今川状	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
カイビヤクイマガワジョウ 開關今川状	152	15-06,28	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
カイビヤクゲンブクソガ 開關元服曾我	138	13-12,25	曾我 ソガ【時代物】
カイライシ 傀儡師	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカライシ【舞踊劇】
カイライシ 傀儡師	045	05-01,44	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
カイライシヒゲノカドマツ 傀儡師髭の門松	004	01-04,48	朝比奈傀儡師 アサイナカライシ【舞踊劇】
カイリクレンショウアサヒノミハタ 海陸連勝日章旗	193	20-10,43	日清戦争 ニッシンセンソウ【世話物】
カエショウガイトノシグレ 替唱歌糸の時雨	079	08-04,34	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
カエスガエスオナゴリオオツエ 歌へず歌へず余波大津絵	024	03-04,72	大津絵 オオツエ【舞踊劇】
カエスガエスオナゴリオオツエ 歌へず歌へず余波大津絵	093	09-08,33	座頭 ザトウ【舞踊】
カエスガエスオナゴリオオツエ 歌へず歌へず余波大津絵	168	18-04,40	天神 テンジン【舞踊】
カエスガエスオナゴリオオツエ 歌へず歌へず余波大津絵	216	22-10,29	藤娘 フジムスメ【舞踊】
カエリキソクノヒトムレ 還木曾菊族	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
カエリクルワハナノダテゾメ 帰曲輪花伊達染	082	08-07,29	五節句政岡 ゴセツクマサオカ【お家物】
カエリザキゴニチノウメ 復咲後日梅	084	08-09,23	後日の加賀騒動 ゴニチノカガソウドウ【お家物】
カエリザキナゴリノイノチゲ 帰咲名残の命毛	037	04-05,67	尾上伊太八 オノエイダハチ【世話物】
カエリバナクマガイザクラ 栄花熊谷桜	049	05-05,42	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
カエリバナクマガイザクラ 栄花熊谷桜	067	07-02,37	熊谷 クマガイ【時代物】
カエリバナコンノウザクラ 復花金王桜	228	23-10,21	仏御前 ホトケゴゼン【時代物】

カエリバナノリノタムケ 狂華法手向	188	20-05,42	七里姫狂乱 ナナサトヒメキョウラン【舞踊劇】
カオニモジシグレノフリソデ 顔楓時雨の振袖	027	03-07,65	小倉山 オグラヤマ【舞踊劇】
カオニモジミスジノカネゴト 顔紅葉三筋兼言	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
カオミセジュウニダン 顔見世十二段	256	26-02,25	義家 ヨシイエ【時代物】
カオミセスオウノツマドリ 顔見世素袍褙取	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
カオヨウタガルタ 娥歌加留多	255	26-01,21	横笛 ヨコフエ【時代物】
カガノオキクイモセノナカクミ 加賀お菊妹背の中酌	027	03-07,63	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
カガノクニシノハラカッセン 加賀国篠原合戦	094	09-09,30	実盛 サネモリ【時代物】
カガノクニシノハラカッセン 加賀国篠原合戦	259	26-05,23	義仲 ヨシナカ【時代物】
カガミガイケオモカゲソガ 鏡池侂首我	004	01-04,48	朝比奈傀儡師 アサイナカライシ【舞踊劇】
カガミガイケオモカゲソガ 鏡池侂首我	139	14-01,20	首我 ソガ【時代物】
カガミガイケオモカゲソガ 鏡池侂首我	141	14-03,35	首我の対面 ソガノタイムン【時代物】
カガミガイケオモカゲソガ 鏡池侂首我	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
カガミガイケミサオノマツカゲ 鏡池操松影	020	02-12,39	江島屋騒動 エジマヤソウドウ【世話物】
カガミジタテクルワノツミヤグ 鏡仕立廓積夜具	071	07-06,46	傾城鏡山 ケイセイカガミヤマ【世話物】
カガミヤマコキョウノニシキエ 加々見山旧錦絵	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
カガミヤマコキョウノニシキエ 加々見山旧錦絵	046	05-02,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
カガミヤマゴニチノイシブミ 鏡山再盛花硯曳	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
カガミヤマゴニチノイシブミ 鏡山再盛花硯曳	117	11-11,21	新門辰五郎 シンモンタツゴロウ【世話物】
カガミヤマゴニチノイシブミ 鏡山再盛花硯曳	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
カガミヤマゴニチノイワフジ 加賀見山再岩藤	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
カガミヤマゴニチノイワフジ 加賀見山再岩藤	083	08-08,48	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
カガミヤマゴニチノイワフジ 加賀見山再岩藤	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
カガミヤマゴニチノオモカゲ 鏡山再続侂	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
カガミヤマサトノキキガキ 加賀見山廓写本	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
カガミヤマサトノキキガキ 加賀見山廓写本	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
カガミヤマサトノキキガキ 加賀見山廓写本	244	25-02,24	望月 モチツキ【お家物・舞踊劇】
カガミヤマチグサノニシキ 鏡山千草錦	046	05-02,45	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
カガミヤマニシキノモミジバ 鏡山錦柚葉	046	05-02,45	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
カキツバタイロノハツネヤ 燕子花色初音屋	044	04-12,44	女尻駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】
カキツバタイロモエドソメ 杜若艶色紫	095	09-10,28	佐野ハツ橋 サノヤツハシ【世話物】
カキツバタオトコドウジョウジ 家橋花男道成寺	035	04-03,72	男道成寺 オトコドウジョウジ【舞踊劇】
カキツバタオンナダテゾメ 紫女伊達染	154	16-02,23	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
カキツバタムケノハナカワド 杜若手向花川戸	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
カキツバタドウジョウジ 家橋道成寺	171	18-09,47	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
カキツバタナエノソメギヌ 杜若七重の染衣	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
カキツバタナエノソメギヌ 杜若七重の染衣	101	10-06,22	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
カキツバタナエノソメギヌ 杜若七重の染衣	164	17-10,52	手習子 テナライコ【舞踊】
カキナオシサンゴタイセツ 略三五大切	083	08-08,46	五大力 ゴダイリキ【世話物】

カキノモトキソウジョウアサヒグルマ 柿本紀僧正旭車	211	22-05,38	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
カグラウタアマゴイコマチ 神楽歌雨乞小町	127	12-10,39	閑寺小町 セキデラコマチ【舞踊】
カグラウタクモイノキョクマリ 神楽謡雲井曲穂	183	19-12,39	どんつく ドンツク【舞踊劇】
カグラウタクモイノキョクマリ 神楽謡雲井曲穂	196	21-01,33	鶴退治 ヌエタイジ【時代物】
カゲカツゲタ 景勝下駄[戯曲通称]	048	05-04,44	本朝廿四孝 ホンチョウニジュウシコウ
カゲキヨ かげきよ	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
カゲキヨ かげきよ	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
カゲキヨシラウメノハタ 景清白梅の旗	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
カゲシヤソデユメジノハツコイ 誓衣想初恋	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
カケタテマツルイロノウキヨエ 奉掛色浮世図画	039	04-07,56	大原女 オハラメ【舞踊】
カケタテマツルイロノウキヨエ 奉掛色浮世図画	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
カケタテマツルイロノウキヨエ 奉掛色浮世図画	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
カゲマサイカズチモンドウ 景政雷問答	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
カゲマサイカズチモンドウ 景政雷問答	256	26-02,25	義家 ヨシイエ【時代物】
カゴシマメイメイデンキ 鹿児島銘々伝記	090	09-05,38	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
カゴツルベ 籠釣瓶	049	05-05,43	籠釣瓶 カゴツルベ【世話物】
カゴツルベキタエノワザモノ 籠釣瓶鍛錬業物	049	05-05,42	籠釣瓶 カゴツルベ【世話物】
カゴツルベサトノエイザメ 籠釣瓶花街酔醒	049	05-05,42	籠釣瓶 カゴツルベ【世話物】
カコノキョウシンナナハカメグリ 賀古教心七墓廻	049	05-05,43	賀古教心 カコノキョウシン【時代物】
カサデラカンノゴエンギ 笠寺観音御縁起	049	05-05,44	笠寺 カサデラ【時代物】
カサニヨスルニガオノイロドリ 寄笠極彩色	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
カサネオウギチヨノマツワカ 重扇寿松若	193	20-10,43	新田梅次郎 ニッタウメジロウ【世話物】
カサネオウギツキノスガタミ 累扇月姿見	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
カサネガフチサテモノノチ 累淵切其後	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
カサネゲダツノウチシキ 累解脱鋪	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
カサネゲダツノハチスバ 累解脱蓮葉	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
カサネゲダツノハチスバ 累解脱蓮葉	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
カサネゲダツノハチスバ 累解脱蓮葉	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
カサネツマネヤノサヨギヌ 重襦袢の小夜衣[1842/桜田治助].	122	12-05,14	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
カサネツマネヤノサヨギヌ 重襦袢の小夜衣[1852/嶺琴八十助].	122	12-05,14	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
カサネドウジョウジ 累道成寺[通称]	154	16-02,23	垂帽子不器用娘 ヒラリボウシザイショノフツツカ
カサノロクロウキナノヌレギヌ 傘轆轤浮名濡衣	165	18-01,49	てれめん テレメン【世話物】
カサマツトウゲコシジノシラナミ 笠松峠越路白浪	061	06-07,43	鬼神のお松 キジンノオマツ【世話物】
カサモノグルイ 笠物狂[1705/近松門左衛門].	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
カサモノグルイ 笠物狂[1715/都一中].	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
カサモノグルイ 笠物狂[1715/都一中].	204	21-09,37	鉢の木 ハチノキ【時代物】
カサヤサンカツニジュウゴネンキ 笠屋三勝廿五年忌	097	10-01,18	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
カザリエビヨロイソガ 鰐鰯鎧曾我	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
カザリエビヨロイソガ 鰐鰯鎧曾我	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】

カザリエビヨロイソガ 鰯鯨鑑曾我	138	13-12,26	曾我 ソガ【時代物】
カザリエビヨロイソガ 鰯鯨鑑曾我	147	14-10,29	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
カザリエビヨロイソガ 鰯鯨鑑曾我	244	25-02,25	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
カサンノインキサキアラソイ 花山院后詠	073	07-08,37	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
カサンノインミヤコノタツミ 花山院都巽	073	07-08,38	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
カジヤ 鍛冶屋[戯曲通称]	050	05-07,46	新薄雪物語 シンウスユキモノガタリ
カシュウサクラガヤツチノダルマ 加州桜谷血達磨	157	16-05,20	血達磨 チダルマ【お家物】
カシユカタアセニナルカミ 貸浴衣汗雷	115	11-09,16	白浪五人女 シラナミゴニンオンナ【世話物】
カシラガキセイセモノガタリ 魁香樹いせ物語	200	21-05,40	乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
カシラノユキオトコヤマウバ 頭雪男山姥	036	04-04,69	男山姥 オトコヤマウバ【時代物】
カシワガトウゲキチレイスモウ 撲頼峠吉例相撲	095	09-10,29	晒三番 サラシサンバ【舞踊劇】
カシワギエモンコキンシュウ 柏木右衛門古今集	009	02-01,63	一休禅師 イッキユウゼンジ【時代物】
カシワギエモンコキンシュウ 柏木右衛門古今集	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
カシワザキ 柏崎	050	05-07,46	柏崎 カシワザキ【時代物】
カスガノツボネ 春日局[1891/福地桜痴]	050	05-07,47	春日局 カスガノツボネ【お家物】
カスガノツボネ 春日局[長唄]	050	05-07,47	春日局 カスガノツボネ【お家物】
カスガブッシマクラドケイ 春日仏師枕時鶏	123	12-06,36	誓願寺 セイガンジ【時代物】
カスガリュウジン 春日竜神[1870/河竹黙阿弥]	050	05-07,47	春日竜神 カスガリュウジン【舞踊劇】
カスガリュウジン 春日竜神[1937/山崎紫紅]	050	05-07,47	春日竜神 カスガリュウジン【舞踊劇】
カズサモメンコモンノヒトエジ 上総棉小紋単地	036	04-04,69	男政岡 オトコマサオカ【時代物】
カズサモメンコモンノヒトエジ 上総棉小紋単地	051	05-08,46	上総市兵衛 カズサイチベエ【世話物】
カズサモメンコモンノヒトエジ 上総棉小紋単地	066	07-01,35	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
カズサモメンコモンノヒトエジ 上総棉小紋単地	170	18-07,38	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
カズノミヤサマオツカイ 和宮様御使	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
カスミタツクモイノマイブリ 霞立雲井の舞振	201	21-06,36	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
カスミノイロツレテヒトムレ 霞色連一群	244	25-02,21	目鬘売 メカツラウリ【舞踊劇】
カズラキサヨアラシ 葛城小夜嵐	223	23-05,30	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
カゼサソウカネモヨツダケ 風誘鐘四竹	116	11-10,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
カゼニクルウカワベノメヤナギ 風狂川辺の芽柳	220	23-02,27	筆屋幸兵衛 フデヤコウベエ【世話物】
カゾウソガ 加増曾我	135	13-08,35	曾我 ソガ【時代物】
カタキウチアイアイバカマ 敵討相合袴	073	07-08,36	毛谷村 ケヤムラ【お家物】
カタキウチアズマハツケイ 敵討東八景	131	13-04,27	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
カタキウチアマノハシダテ 復讐天橋立[別外題]	013	02-05,52	岩見重太郎 イワミジュウタロウ
カタキウチアンエイロク 敵討安栄録	007	01-07,59	安栄録 アンエイロク【お家物】
カタキウチウキギノカメヤマ 敵討優曇華亀山	054	05-11,38	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
カタキウチウラノアサギリ 敵討浦朝霧	042	04-10,70	女定九郎 オンナサダクローウ【世話物】
カタキウチウラノアサギリ 敵討浦朝霧	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
カタキウチウラノアサギリ 敵討浦朝霧	087	09-02,42	小割伝内 コワリデンナイ【お家物】
カタキウチウサノフルイチ 敵討噂古市	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】

カタキウチウサノフルイチ 敵討噂古市	112	11-06,22	正直清兵衛 ショウジキセイベエ【世話物】
カタキウチオササモノガタリ 敵討稚物語	089	09-04,42	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
カタキウチオトドイツカ 敵討兄弟塚	036	04-04,69	兄弟塚 オトドイツカ【お家物】
カタキウチオヤツノタイコ 敵討御未刻太鼓	041	04-09,55	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
カタキウチカイケイノウメ 敵討会稽梅	239	24-09,33	宮本左門之助 ミヤモトサモンノスケ【お家物】
カタキウチガンリュウジマ 敵討巖流島[1737/中田万助]	059	06-05,50	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
カタキウチガンリュウジマ 敵討巖流島[1738/藤本斗文]	059	06-05,50	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
カタキウチガンリュウジマ 敵討巖流島[別外題]	059	06-05,51	敵討二島英勇記 カタキウチニトウエイユウキ
カタキウチコオリヤマゾメ 敵討郡山染	212	22-06,39	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
カタキウチゴジインガハラ 敵討護持院ケ原	176	19-04,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
カタキウチコススイノアケボノ 敵討湖水曙	123	12-06,35	諏訪仇討 スワノアダウチ【お家物】
カタキウチショウブノクミオビ 敵討繻組帯	212	22-06,39	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
カタキウチセンジュノスケダチ 敵討千手護助刀	054	05-11,41	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
カタキウチセンジュノスケダチ 敵討千手護助刀	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
カタキウチソウゼンジババ 敵討崇禅寺馬場[1758/竹田小出雲]	131	13-04,26	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
カタキウチソウゼンジババ 敵討崇禅寺馬場[1823/金沢竜玉]	131	13-04,26	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
カタキウチソメワケタツナ 敵討染分疆	071	07-06,47	傾城重の井 ケイセイシゲノイ【世話物】
カタキウチタカサゴノマツ 敵討高砂松	176	19-04,45	研辰 トギタツ【お家物】
カタキウチタカタノババ 復讐談高田馬場	148	14-12,27	高田の馬場 タカタノババ【お家物】
カタキウチタカネノタイコ 復讐高根鼓[1808/奈河七五三助]	215	22-09,31	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
カタキウチタカネノタイコ 復讐高根鼓[1831/西沢一鳳増補]	215	22-09,31	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
カタキウチチカイノシガラミ 敵討義恋柵	086	08-11,27	駒ヶ池 コマガイケ【世話物】
カタキウチチュウコウカガミ 敵討忠孝鑑	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
カタキウチツツレノニシキ 敵討襦袢錦	212	22-06,38	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
カタキウチデグチノヤナギ 敵討出口柳	244	25-02,23	望月 モチツキ【お家物・舞踊劇】
カタキウチドレモワザモノ 敵討揃達者	073	07-08,36	毛谷村 ケヤムラ【お家物】
カタキウチニトウエイユウキ 敵討二島英勇記	059	06-05,51	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
カタキウチニンガッポウ 讐兩人合法	051	05-08,49	合邦辻 ガッポウガッジ【お家物】
カタキウチネライノガンマト 敵討認鷹的	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
カタキウチネライノガンマト 敵討認鷹的	212	22-06,39	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
カタキウチノリアイバナシ 敵討乗合話	088	09-03,45	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
カタキウチハルモスミヨシ 讐報春住吉	167	18-03,44	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
カタキウチヒニンノジツロク 敵討非人の実録	104	10-09,20	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
カタキウチヒニンノジツロク 敵討非人の実録	212	22-06,39	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
カタキウチフダシヨノレイゲン 敵討札所の靈験	217	22-11,26	札所の靈験 フダシヨノレイゲン【世話物】
カタキウチホウエイマツリ 敵討宝永祀	261	26-07,23	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
カタキウチホマレノカツヤマ 敵討誉勝山	051	05-08,50	勝山 カツヤマ【世話物】
カタキウチミサオノスガタミ 敵討操姿鏡	126	12-09,33	瀬川仇討 セガワノアダウチ【世話物】
カタキウチメイカノアケボノ 敵討名歌曙	087	09-02,42	小割伝内 コワリデンナイ【お家物】

カタキウチメバエブンダン 敵討稚文談	089	09-04,42	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
カタキウチモガミノイナフネ 敵討最上民草船	059	06-05,48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カタキウチモガミノイナフネ 敵討最上民草船	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
カタキウチヤグラノタイコ 敵討櫓太鼓	031	03-11,67	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
カタキウチヤグラノタイコ 敵討櫓太鼓	041	04-09,57	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
カタキウチユキノアコウキ 讐怨解雪赤穂記	092	09-07,43	桜田事変 サクラダジヘン【世話物】
カタナヤハンシチウキナノフカガワ 刀屋半七浮名の深川	012	02-04,51	いろは新助 イロハシンスケ【世話物】
カタミグサヨツヤカイダン 形見草四谷怪談	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
カタミノシノブズリ 形見信夫摺	206	21-11,38	浜松風 ハママツカセ【舞踊劇】
カタミノシノブズリ 形見信夫摺	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
カタミノハナコロロソデノカ 筐花手向櫓	259	26-05,26	吉原雀 ヨシワラスズメ【舞踊劇】
カチオデラゴホンジ 勝尾寺御本地	049	05-05,44	賀古教心 カコノキョウシン【時代物】
カチズモウウキナノハナブレ 勝相撲浮名花触	116	11-10,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
カチドキミバエゲンジ 勝鬨草源氏	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
カチドキミバエゲンジ 勝鬨草源氏	067	07-02,40	熊坂 クマサカ【時代物】
ガツカイチョウジャ 月界長者	129	12-12,27	善光寺 ゼンコウジ【時代物】
カッボレ かっぱれ	059	06-05,49	願人坊主 ガンニンボウス【舞踊劇】
カツラガワアダナシラナミ 桂川仇白浪	039	04-07,56	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
カツラガワコイノシガラミ 桂川恋の柵	039	04-07,56	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
カツラガワレンリノシガラミ 桂川連理柵[1727大坂]	039	04-07,56	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
カツラガワレンリノシガラミ 桂川連理柵[1776/菅専助]	039	04-07,56	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
カチキフナイクサ 賞状舟軍	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
カドイデエボシノシタジ 首途烏帽子下地	093	09-08,32	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
カドイデキョウニンギョウ 門出京人形	118	12-01,20	水仙丹前 スイセンタンゼン【舞踊】
カドイデホウライサン 首途蓬莱山	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
カドケイセイ 門傾城	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
カドヤシマ 門出八島	257	26-03,28	義経 ヨシツネ【時代物】
カドマツシテンノウ 門松四天王	190	20-07,40	鳴神 ナルカミ【時代物】
カドレイシャソガノトシダマ 御慶曾我扇	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
カドレイシャソガノトシダマ 御慶曾我扇	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
カナウツシアツチモンドウ 仮名写安土問答	144	14-06,31	太閤記 タイコウキ【時代物】
カナウツシアツチモンドウ 仮名写安土問答	235	24-05,24	光秀* ミツヒデ【時代物】
カナオカ かな岡	052	05-09,44	金岡 カナオカ【 】
カナオカガフデ 金岡が筆	052	05-09,44	金岡 カナオカ【 】
カナガキアズマカガミ 仮名書吾妻面視	160	17-05,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
カナガキタイヘイキ かながき太平記	022	03-02,29	塩谷判官 エンヤハンガン【時代物】
カナガキムロマチブンダン 仮名書室町文談	145	14-08,28	太閤記 タイコウキ【時代物】
カナガキムロマチブンダン 仮名書室町文談	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
カナソウシヨクセンヤジツロク 仮名草紙国性爺実録	079	08-04,37	国性爺 コクセンヤ【時代物】



カナデソガネザシノフジガネ 仮名曾我当蓬莱	159	17-04,28	茶の湯の景清 チャノユノカゲキヨ【時代物】
カナデソガネザシノフジガネ 仮名曾我当蓬莱	160	17-05,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
カナデホンズリノタカシマ 仮名手本硯高島	002	01-02,40	赤垣徳利 アカガキトックリ【 】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1748 人形浄瑠璃]	159	17-04,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1749 江戸市村座]	229	23-11,15	堀部妙海尼 ホリベミョウカイニ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1833/三升屋二三治]	018	02-10,55	裏表忠臣蔵 ウラオモテチュウシングラ【時代物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1833/三升屋二三治]	034	04-02,62	落人 オチウド【舞踊劇】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1833/三升屋二三治]	150	15-03,26	宅兵衛上使 タクベエジョウシ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1833/三升屋二三治]	257	26-03,26	吉田兼好 ヨシダケンコウ【時代物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1839 江戸市村座]	184	20-01,36	直助権兵衛 ナオスケゴンベエ【世話物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1847/桜田治助]	048	05-04,44	角兵衛 カクベエ【舞踊】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1847/桜田治助]	049	05-05,43	駕籠屋 カゴヤ【舞踊】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1847/桜田治助]	154	16-02,28	旅奴 タビヤッコ【舞踊】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1847/桜田治助]	161	17-06,14	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1849/瀬川如阜]	111	11-04,15	十八ヶ条申開 ジュウハツカジョウモウシヒラキ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1849/瀬川如阜]	160	17-05,33	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1849/瀬川如阜]	209	22-03,36	引揚 ヒキアゲ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1849/藤本吉兵衛]	230	23-12,20	薪割り三之丞 マキワリサンノジョウ【お家物】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1860/音羽矢当七]	002	01-02,40	赤垣徳利 アカガキトックリ【 】
カナデホンチュウシングラ 仮名手本忠臣蔵[1860/音羽矢当七]	178	19-06,43	徳利勘兵衛 トックリカンベエ【お家物】
カナヤキンゴロウキナノガク 金屋金五郎浮名額	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
カナヤキンゴロウゴニチノヒナガタ 金屋金五郎後日雛形	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
カナヤコウメ 仮名屋小梅	206	21-11,36	花井お梅 ハナイオウメ【世話物】
カナヤマサエモンイワヤノシロ 金山左衛門岩屋城	002	01-02,44	秋道 アキミチ【 】
カネイリゲダツノキヌ 鐘入解脱衣	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
カネガナルケサノウウサ 鐘鳴今朝噂	012	02-04,51	いろは新助 イロハシンスケ【世話物】
カネノオトアメモフルツカ 鐘音雨古墳	241	24-11,16	聾八人 ムコハチニン【舞踊劇】
カネモヨツヤオホリノツツカゲ 鐘四谷御堀月影	004	01-04,55	浅間山噴火 アサマヤマフンカ【世話物】
カネモロトモユメノサメザヤ 鐘もろとも夢絞鞘	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ガノイワイ 賀の祝[戯曲通称]	052	05-09,44	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
カバノオンゾウシ 蒲の御曹子	200	21-05,41	範頼 ノリヨリ【時代物】
カバノオンゾウシアズマノドウカ 蒲御曹司東童歌	200	21-05,41	範頼 ノリヨリ【時代物】
カバノカンジャゴニチノキキガキ 蒲冠者後日聞書	200	21-05,42	範頼 ノリヨリ【時代物】
カバノカンジャフジトカッセン 蒲冠者藤戸合戦	246	25-04,26	盛綱 モリツナ【時代物】
カブキジタダテノカサネギ 劇場仕立伊達累	129	12-12,26	世話場の政岡 セワバノマサオカ【時代物】
カブキノシュンキョウ 歌舞伎春興	006	01-06,58	操三番 アヤツリサンバ【舞踊劇】
カブキノハナバンダイソガ 劇場花万代曾我	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジョウロウ【世話物】
カブキノハナバンダイソガ 劇場花万代曾我	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
カブキノハナバンダイソガ 劇場花万代曾我	259	26-05,25	吉原雀 ヨシワラスズメ【舞踊劇】

カブキモノガタリ 歌舞伎物語	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
カブキランショウキ 歌舞伎濫觴記	008	01-08,57	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
カヘイジスミカ 嘉平次住家[戯曲通称]	052	05-09,44	三日太平記 ミツカタイヘイキ
カマクラチフタツドモエ 釜淵双級巴	052	05-09,44	釜煎の五右衛門 カマイリノゴエモン【時代世話物】
カマクラアマショウケン 鎌倉尼將軍	261	26-07,26	頼家 ヨリイエ【時代物】
カマクラサンダイキ 鎌倉三代記[紀海音]	261	26-07,26	頼家 ヨリイエ【時代物】
カマクラサンダイキ 鎌倉三代記[近松半二]	072	07-07,39	血判取 ケツパントリ【時代物】
カマクラサンダイキ 鎌倉三代記[近松半二]	101	10-06,17	三代記 サンダイキ【時代物】
カマクラショウガツカイ 鎌倉正月買	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
カマクラソデニッキ 鎌倉袖日記	213	22-07,44	日向島 ヒユウガジマ【時代物】
カマクラヒジヤオトセン 鎌倉比事青砥銭	002	01-02,39	青砥藤綱 アオトフジツナ【 】
カマクラフウアラタマソガ 鎌倉風新玉首我	138	13-12,26	曾我 ソガ【時代物】
カマクラブカン 鎌倉武鑑	244	25-02,22	蒙古襲来 モウコシュウライ【時代物】
カマクラヤマサクラノゴショソメ 鎌倉山桜御所染	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
カマクラヤマサクラノニドザキ 鎌倉山蒲桜再咲	200	21-05,42	範頼 ノリヨリ【時代物】
カマクラヤマハルノアサヒナ 鎌倉山春朝比奈	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
カマクラヤマハルノアサヒナ 鎌倉山春朝比奈	053	05-10,40	神谷慶十郎 カミヤケイジウロウ【世話物】
カマダヒョウエマサキヨ 鎌田兵衛正清	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
カマダヒョウエメイショノサカスキ 鎌田兵衛名所盃	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
カマタリチョウテキタイジ 鎌足朝敵退治	012	02-04,48	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
カミアリツキイロノセワゴト 神有月色世話事	021	03-01,36	縁結び エンムスビ【舞踊劇】
カミカケテサンゴタイセツ 盟三五大切	083	08-08,46	五大力 ゴダイリキ【世話物】
カミカケテチカイノツマグシ 定結納爪櫛	002	01-02,37	青砥調 アオトバナシ【 】
カミカケテチカイノツマグシ 定結納爪櫛	020	02-12,41	越後伝吉 エチゴデンキチ【世話物】
カミカケテチカイノツマグシ 定結納爪櫛	209	22-03,37	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
カミカケテムスバカシワデ 神盟結拍手	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
カミコジタテリョウメンカガミ 紙子仕立両面鑑	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
カミコスガタスケロクシンジュウ 紙衣姿助六心中	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
カミジヤマウキナノコイグチ 神路山色瓊	005	01-05,49	油屋 アブラヤ【世話物】
カミノソノウバンゼイハチノキ 神園生万歳鉢木	002	01-02,39	青砥藤綱 アオトフジツナ【 】
カミノメグミワゴウノトリクミ 神明恵和合取組	015	02-07,59	腕の喜三郎 ウデノキサブロウ【世話物】
カミノメグミワゴウノトリクミ 神明恵和合取組	243	25-01,25	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
カミマツリシシノヒキモノ 禪獅鼻痕物	060	06-06,39	勢獅子 キオイジシ【舞踊劇】
カムリクラベヤツシクロヌシ 冠競和黒主	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
カムリコトバンガノユカリ 冠言葉曾我所縁	159	17-04,28	茶の湯の景清 チャノユノカゲキヨ【時代物】
カメガエモノガタリ 亀谷物語	055	05-12,42	鴨長明 カモノチヨウメイ【時代物】
カメヤマソメヨキリコウシャク 亀山染読切講釈	054	05-11,39	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
カメヤマノカタキウチ 亀山の敵討	054	05-11,39	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
カモクウヤウンドウクラベ 加茂空也運動競	065	06-12,32	空也念仏 クウヤネンブツ【時代物】

カラウタオウミハッケイ 詩近江八景	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
カラクジュホウキ 花洛受法記	191	20-08,43	日像上人 ニチゾウシヨウニン【時代物】
カラゴロモバジョウノニシキ 唐衣馬上錦	057	06-03,44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
カラサキシンジユウ 唐崎心中	074	07-09,45	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
カラサキハッケイビョウブ 唐崎八景屏風	074	07-09,45	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
カラサキヨルノハッケイ 唐崎夜八景	074	07-09,45	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
カラスナキ 烏啼〔戯曲通称〕	055	05-12,42	加賀見山旧錦絵 カガミヤマコキョウノニシキエ
カラニシキアキババナシ 紅楓秋葉話	194	20-11,31	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
カラニシキイロハブンコ 紅楓いろは文庫	044	04-12,41	女忠臣蔵 オンナチュウシングラ【お家物】
カラニシキエンシヨノイサオシ 唐錦艶書功	161	17-06,16	朝鮮軍記 チョウセンゲンキ【時代物】
カラヤマトキキガキソウシ 韓和聞書帖	161	17-06,16	朝鮮軍記 チョウセンゲンキ【時代物】
カリガネブンシチ 雁金文七	056	06-02,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カリガネブンシチアキノシモ 雁金文七秋の霜	055	05-12,42	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カリガネブンシチイッシュウキ 鷹金文七一周忌	055	05-12,42	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カリガネブンシチサンネンキ 雁金文七三年忌〔1704/宇治加賀掾〕	055	05-12,42	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カリガネブンシチサンネンキ 雁金文七三年忌〔1704/竹本義太夫〕	055	05-12,42	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
カリソメケイセイ 仮初傾城	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
カリノタヨリコイノタマズサ 雁便恋玉章	041	04-09,57	お若伊之助 オワカイノスケ【世話物】
カリマクラツユニヌレゴト 苧枕露濡事	155	16-03,20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
カルカヤ かるかや	056	06-02,47	苧萱 カルカヤ【時代物】
カルカヤドウ 苧萱堂	057	06-03,41	苧萱 カルカヤ【時代物】
カルカヤドウシン かるかや道心	056	06-02,47	苧萱 カルカヤ【時代物】
カルカヤドウシンツクシノイヱツト 苧萱桑門筑紫驒	057	06-03,41	苧萱 カルカヤ【時代物】
カワゴエジョウシ 川越上使〔戯曲通称〕	057	06-03,42	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
カワサキオンド 川崎踊拍子	005	01-05,48	油屋 アブラヤ【世話物】
カワショウ 河庄〔戯曲通称〕	057	06-03,42	心中紙屋治兵衛 シンジウカミヤジヘエ
カワショウ 河庄〔戯曲通称〕	057	06-03,42	天網島 テンノアミジマ
カワズトビ 蛙飛〔戯曲通称〕	057	06-03,42	小野道風青柳硯 オノノトウフウアオヤギスズリ
カワチイズミレンリノマツ 河内和泉連理松	264	26-10,21	弱法師 ヨロボウシ【時代物】
カワチオンドウラミノシラサヤ 河内音頭恨白鞘	057	06-03,42	河内十人斬 カワチジュウニンギリ【世話物】
カワチノクニウバガヒ 河内国姥火	005	01-05,44	安宅甚平 アタケジンベイ【お家物】
カワチノクニウバガヒ 河内国姥火	022	03-02,29	大内騒動 オオウチソウドウ【時代物】
カワチノクニウバガヒ 河内国姥火	244	25-02,23	毛利元就 モウリモトナリ【時代物】
カワチノクニハチカツギ 河州はちかつぎ	202	21-07,36	鉢かつぎ姫 ハチカツギヒメ【時代物】
カワツガケソガノホンセツ 河津懸曾我本説	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
カワナカジマアズマニシキエ 川中島東都錦絵	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
カワラヌイロツレテハルコマ 松色連春駒	128	12-11,26	関の扉 セキノト【舞踊劇】
カワラヌイロツレテハルコマ 松色連春駒	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
カワラヌハナゲンジノカオミセ 重年花源氏顔鏡	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】

カワラノウワサキヨウノセワゴト 河原噂京諺	079	08-04, 34	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
カワリザキソノノアサガオ 新種園朝顔	004	01-04, 51	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
カンウ 関羽	057	06-03, 44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
カンエイノハタモト 寛永の旗本	022	03-02, 33	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
カンカツイデタチクルワノサヤアテ 寛濶出立廓鞘当	095	09-10, 29	鞘当 サヤアテ【時代物】
カンギクツリコウロ 寒菊釣香炉	162	17-07, 47	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
カンギョウユキノスガタミ 寒行雪姿見	230	23-12, 20	まかしよ マカシヨ【舞踊】
カンコウ 菅公	168	18-04, 41	天神記 テンジンキ【王代物】
カンサクスマカ 勘作住家[戯曲通称]	058	06-04, 46	日蓮聖人御法海 ニチレンショウウニンミノリノウミ
ガンジツコガネノトシコシ 元日金年越	268	27-02, 29	椀久 ワンキュウ【世話物】
カンショウジョウ 菅相丞	168	18-04, 41	天神記 テンジンキ【王代物】
カンジンカンモンテクダノハジマリ 韓人漢文手管始[1789/並木五瓶]	173	19-01, 40	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
カンジンカンモンテクダノハジマリ 韓人漢文手管始[1804 江戸]	173	19-01, 41	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
カンジンチョウ 勧進帳[1840/並木五瓶]	058	06-04, 47	勧進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
カンジンチョウ 勧進帳[人形浄瑠璃]	058	06-04, 47	勧進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
カンゼミズオウギノモミジ 観世水扇楓	154	16-02, 23	伊達騒動 イダテソウドウ【お家物】
カンゼミズオウギノモミジ 観世水扇楓	220	23-02, 29	船の高尾 フネノタカオ【舞踊劇】
カンゼミズハルノヌレサギ 観世水春興濡鷺	103	10-08, 32	時雨西行 シグレサイギョウ【舞踊劇】
カンゼンショウアクコウシノホマレ 勧善懲悪孝子誉	066	07-01, 35	屑屋善吉 クズヤゼンキチ【世話物】
カンゼンショウアクツワモノノカオミセ 勧善懲悪四天王顔鑑	068	07-03, 44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
カンゼンショウアクノゾキガラクリ 勧善懲悪視機関	238	24-08, 19	宮島のだんまり ミヤジマノダンマリ【時代物】
カンゼンショウアクノゾキガラクリ 勧善懲悪視機関	242	24-12, 22	村井長庵 ムライチョウアン【世話物】
カンタン 邯鄲[1731 江戸中村座]	196	21-01, 34	布晒 ヌノザラシ【舞踊】
カンタン 邯鄲[1846/桜田治助]	002	01-02, 37	青砥調 アオトバナシ【 】
カンタン 邯鄲[1846/桜田治助]	020	02-12, 41	越後伝吉 エチゴデンキチ【世話物】
カンタン 邯鄲[1846/桜田治助]	058	06-04, 49	邯鄲 カンタン【舞踊劇】
カンタン 邯鄲[1921/岡本綺堂]	058	06-04, 49	邯鄲 カンタン【舞踊劇】
カンタンショククモノガタリ 邯鄲諸国譚	113	11-07, 22	諸国物語 ショククモノガタリ【世話物】
カンタンソノノキクチョウ 邯鄲園菊蝶	043	04-11, 51	女伊達 オンナダテ【舞踊】
カンタンソノノキクチョウ 邯鄲園菊蝶	086	08-11, 29	子守 コモリ【舞踊劇】
カンタンソノノキクチョウ 邯鄲園菊蝶	220	23-02, 30	冬の山姥 フユノヤマンバ【舞踊劇】
カンタンノキバノカゴ 邯鄲軒端籠	155	16-03, 18	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】
カンタンマクラモノガタリ 邯鄲枕物語	267	27-01, 25	艦清の夢 ロセイノユメ【世話物】
カントウコロク 関東小祿	059	06-05, 48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カントウコロクイマヨウスガタ 関東小六今様姿	059	06-05, 48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カントウコロクコキョウノニシキ 関東小六故郷錦	059	06-05, 48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カントウコロクダテオトコ 関東小六だて男	059	06-05, 48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カントウコロクノチノヒナガタ 関東小六後雛形	007	01-07, 57	粟島 アワシマ【時代物】
カントウコロクノチノヒナガタ 関東小六後雛形	036	04-04, 70	音羽丹七 オトワタンシチ【世話物】

カントウコロクノチノヒナガタ 関東小六後雛形	059	06-05,48	関東小六 カントウコロク【時代物】
カンドウバ 勘当場[戯曲通称]	058	06-04,49	ひらかな盛衰記 ヒラガナセイスイキ
カントウメイブツオトコダテカガミ 関東銘物男達鑑	002	01-02,41	明石志賀之助 アカシシガノスケ【 】
カントウメイブツオトコダテカガミ 関東銘物男達鑑	086	08-11,29	子持高尾 コモチタカオ【世話物】
カンニノボルザトウ 官にのぼる座頭[通称]	093	09-08,33	遅桜手爾波七字 オソザクラテニハノナナモジ
カンニンブクロヌウヤイトヤギ 堪忍袋縫哉糸柳	059	06-05,49	堪忍袋 カンニンブクロ【世話物】
カンノンレイゲンキ 観音霊験記	162	17-07,47	壺坂 ツボサカ【世話物】
カンバシヤギシノホマレ 芳哉義士誉	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
カンハッシュウツナギウマ 関八州繫馬	133	13-06,42	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
カンベイセツブク 勘平切腹[戯曲通称]	059	06-05,49	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
カンベイノシ 勘平の死	208	22-02,38	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】
カンムテンノウ 桓武天皇	059	06-05,50	桓武天皇 カンムテンノウ【時代物】
カンヨウキョウ 咸陽宮	058	06-04,48	漢楚軍談 カンソクンダン【時代物】
ガンリョウジマショウブヲミヤモト 巖流島勝負宮本	059	06-05,51	巖流島 ガンリョウジマ【お家時代物】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	023	03-03,64	大蔵卿 オオクラキョウ【時代物】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	060	06-06,40	菊畑 キクバタケ【時代物】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	201	21-06,37	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
キイチホウゲンサンリヤクノマキ 鬼一法眼三略巻	224	23-06,26	弁慶 ベンケイ【時代物】
キオイウタソガノハナダシ 祭礼歌曾我花籠	084	08-09,24	後日の曾我 ゴニチノソガ【時代物】
キオイゲンジミツギノタマモノ 勢源氏賞賜	068	07-03,45	鞍馬獅子 クラマジシ【舞踊劇】
キオイジシカブキノハナカゴ 勢獅子劇場花籠	060	06-06,39	勢獅子 キオイジシ【舞踊劇】
キオイジシボタンノハナガサ 勢獅子牡丹花笠	060	06-06,39	勢獅子 キオイジシ【舞踊劇】
キオイジシボタンノヒキモノ 競獅子富貴撰物	060	06-06,39	勢獅子 キオイジシ【舞踊劇】
キオイヘイケモノガタリ 勢平家物語	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	064	06-10,38	金閣寺 キンカクジ【時代物】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	199	21-04,36	信長 ノブナガ【時代物】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	206	21-11,36	花子 ハナゴ【舞踊劇】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	253	25-11,23	雪姫 ユキヒメ【時代物】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	232	24-02,21	松永久秀 マツナガヒサヒデ【時代物】
ギオンサイレイシンコウキ 祇園祭礼信仰記	235	24-05,24	光秀* ミツヒデ【時代物】
ギオンニョウゴコノエニシキ 祇園女御九重錦	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
ギオンニョウゴコノエニシキ 祇園女御九重錦	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
ギオンニョウゴコノエニシキ 祇園女御九重錦	249	25-07,24	柳 ヤナギ【時代物】
ギオンマテイチリキノダン 祇園町一力の段	182	19-11,42	鳥刺 トリサシ【舞踊】
キクガサネサカエカゲキヨ 菊重栄景清	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
キクジュノクサズリ 菊寿の草摺	065	06-12,33	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
キクスモウミクライサダム 菊相撲爵定	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】

キクチオオトモコンレイカガミ 菊池大友姻礼鏡	013	02-05,51	岩倉宗玄 イワクラソウゲン【時代物】
キクツキチクサノアカネゾメ 菊月千種の夕映	098	10-03,26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
キクニウレシキネヤノムツゴト 菊嬢聞睦言	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
キノエンツキノシラナミ 菊宴月白浪	084	08-09,25	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
キノツユ 菊の露	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
キケバムカシソガモノガタリ 聞住昔曾我物語	120	12-03,15	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
キゴトノハナヤシマノガイジン 雪八島凱陣	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
キザミタバコナニワミヤゲ 刻煙草浪花土産	154	16-02,27	菘屋喜八 タバコヤキハチ【世話物】
キシチュウシングラ 義士忠臣蔵	230	23-12,17	本蔵下屋敷 ホンソウシモヤシキ【お家物】
キシノヒメマツツワカガミ 岸姫松響鑑	060	06-06,40	岸姫 キシヒメ【時代物】
キシノヤナギオボロノヒトカゲ 岸柳臙人影	046	05-02,46	加賀鳶 カガトビ【世話物】
キシノヤナギオボロノヒトカゲ 岸柳臙人影	105	10-10,29	死神 シニガミ【世話物】
キシボジンジュウラセツジョノコライ 鬼子母神十羅刹女の由来	060	06-06,41	鬼子母神 キシボジン【時代物】
キシモゲダツ 鬼子母解脱	060	06-06,41	鬼子母神 キシボジン【時代物】
キシユウドウジョウジ 紀州道成寺	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
キジョウカンモロコシニツキ 鬼上官漢土日記	063	06-09,44	清正 キヨマサ【時代物】
キジョウカンモロコシニツキ 鬼上官漢土日記	103	10-08,35	地震加藤 ジシンカトウ【時代物】
ギシンデンヨミキリコウシャク 義臣伝読切講釈	013	02-05,53	植木屋 ウエキヤ【お家物】
ギシンデンヨミキリコウシャク 義臣伝読切講釈	060	06-06,41	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
ギシンデンヨミキリコウシャク 義臣伝読切講釈	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
キチサママイルユカリノオトズレ 吉様参由縁音信	031	03-11,68	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
キチレイイマガワジョウ 吉例今川状	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
キチレイイマガワジョウ 吉例今川状	223	23-05,31	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
キチレイコトブキノガ 吉例寿曾我	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイメン【時代物】
キツネクドウ 狐工藤[通称]	162	17-07,48	鏡池俤曾我 カガミガイケオモカゲソガ
キツネシズカケハイノスガタミ 狐静化粧鏡	061	06-07,46	狐静 キツネシズカ【時代物】
キツネツカウツサワミス 狐墳写沢水	061	06-07,46	狐墳 キツネツカ【舞踊劇】
キツネビ 狐火[戯曲通称]	061	06-07,46	本朝廿四孝 ホンチョウニジュウシコウ
キテカエルニシキノワカヤカ 被翻錦壮貌	228	23-10,20	布袋 ホテイ【舞踊劇】
キナイスミカ 喜内住家[戯曲通称]	061	06-07,46	太平記忠臣講釈 タイハイキチュウシンコウシャク
キヌガサジュエイグンキ 蓋寿永軍記	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
キヌガワクレナイノウシオ 絹川紅の潮	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
キヌガワモノガタリ 鬼怒川物語	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
キノエネソガダイコクバシラ 甲子曾我大国柱	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
キノエネソガダイコクバシラ 甲子曾我大国柱	115	11-09,18	白縫 シラヌイ【時代物】
キノエネマチ 甲子待	062	06-08,33	甲子待 キノエネマチ【舞踊】
キノエネマツリ 甲子祭	224	23-06,26	弁慶 ベンケイ【時代物】
キノクニブンザダイジンマイ 紀国文左大尽舞	062	06-08,35	紀文 キブン【世話物】
ギハオモシチュウシノイズエ 義重忠土礎	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】

キバカザリチュウシングラ 騎飾忠臣鞍	021	03-01,37	塩谷判官 エンヤハンガン【時代物】
キハチジョウミスジノタテジマ 黄八丈三筋寛綃	029	03-09,71	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
キビダイジンシナモノガタリ 吉備大臣支那譚	062	06-08,34	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
キビダンジン 吉備大臣	062	06-08,33	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
キブンダイジンクルワノイリフネ 紀文大尽廓入船	062	06-08,34	紀文 キブン【世話物】
キブンダイジンクルワノイリフネ 紀文大尽廓入船	220	23-02,30	振袖火事 フリソデカジ【世話物】
キミガテテヨシワラソダチ 遊女操吉原養育	153	15-09,40	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
キミハフネナミノウウジマ 君島船浪宇和島	019	02-11,47	宇和島騒動 ウウジマソウドウ【お家物】
キムラナガトノカミ 木村長門守	072	07-07,39	血判取 ケツパントリ【時代物】
キムラナガトノカミノデン 木村長門守之伝	072	07-07,39	血判取 ケツパントリ【時代物】
キュウシュウカルカヤガセキ 九州苺萱関	057	06-03,41	苺萱 カルカヤ【時代物】
キュウシュウヨジベエナダ 九州与次兵衛灘	144	14-06,30	太閤記 タイコウキ【時代物】
キュウシュウヨジベエナダ 九州与次兵衛灘	161	17-06,17	朝鮮軍記 チョウセンゲンキ【時代物】
キュウスエイワオノタタミヨギ 灸す糸巖の晝夜着	062	06-08,37	灸据 キュウスエ【舞踊劇】
キョウオウ 響応[戯曲通称]	062	06-08,35	時桔梗出世請状 トキモキキョウシュッセノウケジョウ
キョウカクコマチャッコ 侠客小町奴	086	08-11,27	小町奴 コマチャッコ【世話物】
キョウカクデンエトキバナシ 侠客伝画解説話	062	06-08,36	侠客伝 キョウカクデン【時代物】
キョウガシマムスメイケニエ 経ヶ島娘生贄	063	06-09,42	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
キョウガノコムスメドウジョウジ 京鹿子娘道成寺	171	18-09,47	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
キョウガノココキノタマトリ 京鹿子雪中珠取	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ギョウキタンジョウキ 行基誕生記	063	06-09,42	行基 ギョウキ【時代物】
キョウシジョウオクニカブキ 京四条お国歌舞伎	008	01-08,55	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
キョウスケロクシンジュウ 京助六心中	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
キョウニンギョウヒダリコガタナ 京人形左彫	210	22-04,39	左基五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
キョウハプタエカワリヒナガタ 京羽二重新雛形	039	04-07,54	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
キョウハプタエムスメカタギ 京羽二重娘気質	039	04-07,54	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
キョウミヤゲメイショイッツ 京土産名所并筒	079	08-04,34	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
キョウランイクシマ 狂乱生島	020	02-12,39	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
キョウランクモイノソデ 狂乱雲井袖	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
キョウランズズメヒヤクマデ 狂乱雀百迄	265	26-11,26	蘭平物狂 ランベイモノグルイ【時代物】
キョウランヒダリキキマス 狂乱左当升	156	16-04,19	団十郎狂乱 ダンジュウロウキョウラン【舞踊劇】
キョウランフブキノヒナガタ 狂乱雪吹の雛形	212	22-06,37	雛助狂乱 ヒナスケキョウラン【舞踊劇】
キョウワセイダンエンメイブクロ 享和政談延命袋	021	03-01,37	延命院 エンメイイン【世話物】
キョウワノハルリョウゴクキブン 享和春両国紀聞	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ギョウショウモンドウ 魚樵問答	019	02-11,47	浦島 ウラシマ【時代物】
キョハラウダイショウ 清原右大将	263	26-09,21	頼光 ヨリミツ【時代物】
キヨマサセイチュウロク 清正誠忠録	177	19-05,42	毒饅頭 ドクマンジュウ【時代物】
キヨミズセイゲンイオリノアケボノ 清水清玄庵室曙	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
キヨミズセイゲンオモカゲザクラ 清水清玄面影桜	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】

キヨミズセイゲンオモカゲザクラ 清水清玄面影桜	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
キヨミズセイゲンチカイノサクラ 清水清玄誓約桜	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
キヨミズセイゲンロクドウメグリ 清水清玄六道巡	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
キヨミズノゴホンジ 清水の御本地	063	06-09,45	清水物語 キヨミズモノガタリ【時代物】
キヨモリエイガノウテナ 清盛栄花台	063	06-09,46	清盛 キヨモリ【時代物】
キヨモリエイガノウテナ 清盛栄花台	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
キリコガタキョウノベニソメ 切籠形京都紅染	147	14-10,30	大丸屋騒動 ダイマルヤソウドウ【世話物】
キリタロウテングノサカモリ 霧太郎天狗酒麩	064	06-10,36	霧太郎 キリタロウ【時代物】
キリヒトハ 桐一葉	064	06-10,37	桐一葉 キリヒトハ【時代物】
キリヒトハ 桐一葉	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
キワメツキバンズイチョウベエ 極附幡随長兵衛[1881/河竹黙阿弥]	170	18-07,38	唐犬権兵衛 トウケンゴンベエ【世話物】
キワメツキバンズイチョウベエ 極附幡随長兵衛[1881/河竹黙阿弥]	253	25-11,23	湯殿の長兵衛 ユドノチョウベエ【世話物】
キワメツキバンズイチョウベエ 極附幡随長兵衛[1891/河竹新七]	253	25-11,23	湯殿の長兵衛 ユドノチョウベエ【世話物】
キンウギョクトワコクノイリフネ 金烏玉兎倭入船	006	01-06,54	安倍仲麿 アベノナカマロ【時代物】
キンウギョクトワコクノイリフネ 金烏玉兎倭入船	062	06-08,34	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
キンカザンオオトモノマトリ 金花山大友真鳥	025	03-05,64	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
キンカザンネビキノイリフネ 金花山魁情入船	154	16-02,24	伊達騒動 イダテソウドウ【お家物】
キンカザンネビキノイリフネ 金花山魁情入船	243	25-01,25	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
キンカザンユキノアケボノ 金花山雪曙	143	14-05,22	対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
キンカザンユキノアケボノ 金花山雪曙	204	21-09,39	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ギンガノイロセガキ 銀河の色施餓鬼	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
キンカンバンタテシノホンダナ 金看板侠客本店	065	06-12,30	金看板 キンカンバン【世話物】
キンジョウメイブツオトコ 金城名物男	206	21-11,37	放駒大八 ハナレゴマダイハチ【世話物】
キンセイカツシカモノガタリ 近世葛飾新説話	001	01-01,41	青木弥太郎 アオキヤタロウ【 】
ギンセカイマツニユキヒラ 銀積松行平	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ギンセカイマツニユキヒラ 銀積松行平	235	24-05,22	御位争い ミクライアラソイ【時代物】
キンセミナトノサキガケ 近世開港魁	051	05-08,47	勝安房 カツアワ【お家物】
キンセミナトノサキガケ 近世開港魁	052	05-09,43	桂小五郎 カツラコゴロウ【世話物】
キンセミナトノサキガケ 近世開港魁	089	09-04,43	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
キンセミナトノサキガケ 近世開港魁	117	11-11,21	新門辰五郎 シンモンタツゴロウ【世話物】
キンセミナトノサキガケ 近世開港魁	179	19-07,42	徳川慶喜 トクガワヨシノブ【お家物】
キンノザイサルシマダイリ 金幣猿島郡	063	06-09,43	清姫 キヨヒメ【時代物】
キンノザイサルシマダイリ 金幣猿島郡	248	25-06,30	奴道成寺 ヤッコドウジョウジ【舞踊劇】
キンノシャチホコウワサノタカナミ 金鯨噂高浪	047	05-03,49	柿本金助 カキノキンスケ【世話物】
キンバチ 近八[戯曲通称]	065	06-12,31	近江源氏先陣館 オウミゲンジセンジンヤカタ
キンピライッシンバクノフダ 金平一心猿の札	065	06-12,31	金平 キンピラ【時代物】
キンピラサイゴ 金平さいご	065	06-12,31	金平 キンピラ【時代物】
キンピラスエハルイクサロン 金平末春軍論	080	08-05,30	小四天王 コシテンノウ【時代物】
キンピラタンジョウキ 金平誕生記	065	06-12,31	金平 キンピラ【時代物】



キンピラホウモンアラソイ 金平法問諍	065	06-12,31	金平 キンピラ【時代物】
キンピラホウモンアラソイ 金平法問諍	253	25-11,23	湯殿の長兵衛 ユドノノチョウベエ【世話物】
キンピラロクジョウガヨイ 金平六条通	171	18-09,46	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
キンベイバイソガノタマモノ 金瓶梅首我松賜	118	12-01,19	水滸伝 スイコデン【時代物】
キンモンゴサンノキリ 金門五三桐	101	10-06,21	楼門の五右衛門 サンモンノゴエモン【時代物】
キンモンサキバコホマレノヤリモチ 金紋先箱誉槍持	252	25-10,16	槍持勘助 ヤリモチカンスケ【世話物】
キンリュウザンチカイノイシズエ 金竜山誓礎	211	22-05,39	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
キンリュウザンマクラノイシズエ 金竜山創礎	211	22-05,38	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
クウヤショウニンゴユライ 空也聖人御由来	065	06-12,32	空也念仏 クウヤネンブツ【時代物】
クガツノハナフタエヒナガタ 九月花双重雛形	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
クキョウダイショウブカタピラ 句兄弟菖蒲帷子	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
クサニシキウチカケノシシャ 草錦打掛女使者	072	07-07,40	毛抜 ケヌキ【時代物】
クサマクラツユニヌレギヌ 草枕露濡衣	189	20-06,39	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
クサマクラユメジノアイカゴ 草枕夢路相合駕	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
クサモミジニシキノキヌガワ 草楓錦絹川	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
クシニウキナミスジノウルシエ 櫛浮名三筋漆絵	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
クジラオビウキナノオリワケ 鯨帯色織分	040	04-08,58	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
クスノキカシュウデン 楠河州伝	231	24-01,21	正成 マサシゲ【時代物】
クスノキマサシゲカデンノゲンボウ 楠正成家伝軍法	231	24-01,21	正成 マサシゲ【時代物】
クスノキマサシゲゲンボウジツロク 楠正成軍法実録	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
クスノキマサシゲゲンボウジツロク 楠正成軍法実録	231	24-01,21	正成 マサシゲ【時代物】
クスノキミナトガワカッセン 楠湊川合戦	231	24-01,21	正成 マサシゲ【時代物】
クスノキムカシバナシ 楠昔噺	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
クスノキリュウハナミノマクバリ 樟紀流花見幕張	196	21-01,34	濡浴衣 ヌレユカタ【舞踊劇】
クダリヤシマ 下り八島	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
クチナワモノガタリ くちなは物語	014	02-06,58	雨月物語 ウゲツモノガタリ【時代世話物】
クツワノオトタツナノソメワケ 響音疆染分	010	02-02,56	稲葉小僧 イナバコソウ【時代物】
クツワノオトタツナノソメワケ 響音疆染分	012	02-04,51	いろは新助 イロハシンスケ【世話物】
クツワノオトタツナノソメワケ 響音疆染分	047	05-03,48	柿木金助 カキノキキンスケ【世話物】
クツワノオトタツナノソメワケ 響音疆染分	193	20-10,44	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
クドウサエモンフジニッキ 工藤左衛門富士日記	136	13-10,30	曾我 ソガ【時代物】
クニコトバクドキオンド 国言詢首頭	143	14-05,20	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
クニサダチュウジ 国定忠治[1913/山崎紫紅]	066	07-01,36	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
クニサダチュウジ 国定忠治[1932-7/真山青果]	066	07-01,36	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
クニサダチュウジ 国定忠治[1932-11/真山青果]	066	07-01,36	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
クニサダチュウジ 国定忠治[行友李風]	066	07-01,36	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
クニトミセツショウセキ 国富殺生石	155	16-03,20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
クニハヨロスヨケイセイザクラ 国花万世傾城桜	234	24-04,31	三浦荒次郎 ミウラアラジロウ【時代物】
クニフタツカサネブンダン 国尙累文談	049	05-05,47	累 カサネ【お家物】

クニユタカノセイオウボ 国豊かの西王母[通称] .....	123	12-06,36	八重九重花姿絵 ヤエココノエハナノスガタエ
クビキリダイセンリョウ 首斬代千両 .....	021	03-01,33	江藤新平 エトウシンベイ【世話物】
クベキヨイクモノイトスジ 来宵蜘蛛線[1837/桜田治助] .....	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
クベキヨイクモノイトスジ 来宵蜘蛛線[1864/桜田治助] .....	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
クマイタロウコウコウノマキ 熊井太郎孝行の巻 .....	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
クマガイシュツジン 熊谷出陣 .....	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
クマガイセンジンアラソイ 熊谷先陣争 .....	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
クマガイナゴリノサカズキ 熊谷名残盃 .....	067	07-02,37	熊谷 クマガイ【時代物】
クマガイレシヨウボウ 熊谷蓮生坊 .....	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
クマサカチョウハンモノミノマツ 熊坂長範物見松 .....	067	07-02,40	熊坂 クマサカ【時代物】
クマドリアタカノマツ 隈取安宅松[1769/金井三笑] .....	005	01-05,43	安宅松 アタカノマツ【舞踊劇】
クマドリアタカノマツ 隈取安宅松[1807/勝俣蔵] .....	005	01-05,43	安宅松 アタカノマツ【舞踊劇】
クマドリカスミノオビヒキ 隈取霞帯曳 .....	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
クマノゴンゲンカイチョウ 熊野権現開帳 .....	249	25-07,23	柳 ヤナギ【時代物】
クマノノゴホンジ 熊野の御本地 .....	082	08-07,28	五翠殿 ゴスイデン【時代物】
クマノノゴホンジ 熊野の御本地 .....	249	25-07,23	柳 ヤナギ【時代物】
クマノノゴンゲンキ 熊野之権現記 .....	082	08-07,28	五翠殿 ゴスイデン【時代物】
クミテミマスソガノハツユメ 綏三升曾我初夢 .....	031	03-11,70	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
クミテミマスソガノハツユメ 綏三升曾我初夢 .....	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
クメノセンニンヨシノザクラ 久米仙人吉野桜 .....	068	07-03,42	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
クメノセンニンヨシノザクラ 久米仙人吉野桜 .....	190	20-07,41	鳴神 ナルカミ【時代物】
クモイノハナマサゴノシラナミ 桜真砂白浪 .....	157	16-05,18	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
クモイノハナヨシノワカムシャ 雲井花吉野壮士 .....	231	24-01,23	正行 マサツラ【時代物】
クモイノハナヨシノワカムシャ 雲井花吉野壮士 .....	239	24-09,33	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
クモニマゴウエノハツハナ 天衣紛上野初花 .....	076	07-11,35	河内山 コウチャマ【世話物】
クモノイトアズサノユミハリ 蜘蛛絲梓弦 .....	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
クモノイトアズサノユミハリ 蜘蛛絲梓弦 .....	093	09-08,33	座頭 ザトウ【舞踊】
クモノイトヲヨツメバナシ 蜘蛛宿直嘶 .....	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
クモノウエノサンエノサクマエ 雲上野三衣策前 .....	076	07-11,34	河内山 コウチャマ【世話物】
クモノヒョウシマイ 蜘蛛拍子舞 .....	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
クモノヒョウシマイ 蜘蛛拍子舞 .....	263	26-09,21	頼光 ヨリミツ【時代物】
クラマジシオシエノヒナガタ 鞍馬獅子其影形 .....	068	07-03,45	鞍馬獅子 クラマジシ【舞踊劇】
クラマヤマ 鞍馬山 .....	068	07-03,45	鞍馬山 クラマヤマ【時代物】
クラヤミノウシマツ 暗闇の丑松 .....	068	07-03,45	暗闇の丑松 クラヤミノウシマツ【世話物】
クリカエシソガノオダマキ 繰返曾我觸 .....	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカイレイシ【舞踊劇】
クリカエシソガノオダマキ 繰返曾我觸 .....	139	14-01,20	曾我 ソガ【時代物】
クリカエシソガノタマズサ 繰返曾我章 .....	042	04-10,67	女工藤 オンナクドウ【時代物】
クリカエスカイカノフミツキ 繰返開化婦見月 .....	101	10-06,17	三人片輪 サンニンカタワ【世話物】
クリカエサトノフミツキ 繰返廓文月 .....	154	16-02,28	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】

クルイジシ 狂獅子	180	19-08,39	鳥羽屋獅子 トバヤジシ【舞踊】
クルマガエシカッセンザクラ 車遣合戦桜	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
クルマビキ 車引[戯曲通称]	068	07-03,46	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
クルマビキヤツシエスガタ 車引和絵姿	042	04-10,68	女車引 オンナクルマビキ【舞踊劇】
クルマビキヤツシスガタエ 車引和姿絵	168	18-04,41	天神記 テンジンキ【王代物】
クルワガヨイコマチソガ 色里通小町曾我	200	21-05,43	範頼道行 ノリヨリミチユキ【舞踊劇】
クルワガヨイコマチソガ 色里通小町曾我	264	26-10,21	頼豪阿蘭梨 ライゴウアジャリ【時代物】
クルワガヨイノゴロウ 廓通いの五郎[通称]	087	09-02,42	八重九重花姿絵 ヤエココノエハナノスガタエ
クルワクルワアキナイソガ 花街曲輪商曾我	208	22-02,39	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
クルワクルワアキナイソガ 花街曲輪商曾我	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
クルワクルワダテノオオヨセ 曲輪来伊達大寄	154	16-02,24	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
クルワツリギツネ 廓釣狐[通称]	162	17-07,48	釣狐廓掛罨 ツリギツネサトノカケワナ
クルワドウジョウジ 花街道成寺	075	07-10,43	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
クルワノナライイツツケバナシ 艶郷習昼夜正説	237	24-07,24	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
クルワノハナツインオミガサ 廓花対編笠	095	09-10,29	鞆当 サヤアテ【時代物】
クルワブンコシキシマモノガタリ 廓文庫敷島物語	103	10-08,32	敷島物語 シキシマモノガタリ【世話物】
クルワブンショウ 廓文章	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
クロカミ 黒髪	262	26-08,21	頼朝 ヨリトモ【時代物】
クロツカ 黒塚[1932/木村富子]	005	01-05,46	安達原 <sup>2</sup> アダチガハラ【舞踊劇】
クロツカ 黒塚[1939/木村富子]	005	01-05,46	安達原 <sup>2</sup> アダチガハラ【舞踊劇】
クロテグミクワノタテヒキ 黒手組曲輪達引	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
クロテグミツインシラツカ 黒手組一対白柄	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
クロフネイチダイオトコ 黒船一代男	070	07-05,37	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
クロフネテイルノミナト 黒船出入湊	070	07-05,37	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
クワナウラシマナミノオトヒメ 桑名浦島浪乙姫	019	02-11,47	浦島 ウラシマ【時代物】
クワナウラシマナミノオトヒメ 桑名浦島浪乙姫	081	08-06,40	五十三駅 ゴジウサンツギ【時代お家世話物】
クワナヤトクゾウイリフネモノガタリ 桑名屋徳蔵入船物語	070	07-05,39	桑名屋徳蔵 クワナヤトクゾウ【世話物】
ゲンジュツデグチノヤナギ 軍術出口柳	197	21-02,50	根津宇右衛門 ネツウエモン【世話物】
ゲンジュツデグチノヤナギ 軍術出口柳	249	25-07,24	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
クンシンワゴウノフナウタ 君臣和合の鱧賦	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>2</sup> タケノウチノスクネ【舞踊劇】
ゲンボウフジミサイギョウ 軍法富士見西行	089	09-04,43	西行 サイギョウ【時代物】
ゲンボウフジミサイギョウ 軍法富士見西行	259	26-05,23	義仲 ヨシナカ【時代物】
ケイオウカラメイジ 慶心から明治	215	22-09,28	福沢諭吉 フクザワユキチ【世話物】
ケイキイノチゴイ 慶喜命乞	051	05-08,47	勝安房 カツアワ【お家物】
ケイキイノチゴイ 慶喜命乞	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
ケイコフデナツイロハ 稽古筆七いろは	205	21-10,38	鳩の平右衛門 ハトノヘイエモン【お家物】
ケイセイアカザヤマ 傾城赤沢山	262	26-08,21	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ケイセイアコヤノマツ 傾城阿古屋の松	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ケイセイアコヤノマツ 傾城阿古屋の松	147	14-10,28	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】

ケイセイアコヤノマツ 傾城阿古屋の松	246	25-04,27	盛綱 モリツナ【時代物】
ケイセイアサクサノカネ 傾城浅草鐘	004	01-04,52	浅草靈驗記 アサクサレイゲンキ【時代物】
ケイセイアサマガタケ けいせい浅間嶽[1698京]	004	01-04,53	浅間 アサマ【舞踊劇】
ケイセイアサマガタケ けいせい浅間嶽[1698京]	244	25-02,25	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
ケイセイアサマガタケ けいせい浅間嶽[人形浄瑠璃]	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
ケイセイアサマガタケ 傾城浅間嶽[1792/桜田治助]	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
ケイセイアズマカガミ 傾情吾孀鑑	054	05-11,39	龜山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ケイセイアズマカガミ 傾情吾孀鑑	088	09-03,40	権八小紫 ゴンパチコムラサキ【世話物】
ケイセイアズマカガミ けいせい吾妻鏡	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
ケイセイアソヤマザクラ けいせい遊山桜	005	01-05,42	遊山桜 アソヤマザクラ【時代物】
ケイセイアソヤマザクラ けいせい遊山桜	103	10-08,35	地震加藤 ジシカトウ【時代物】
ケイセイアソヤマザクラ けいせい遊山桜	161	17-06,17	朝鮮軍記 チョウセンゲンキ【時代物】
ケイセイアマノハゴロモ けいせい天羽衣	201	21-06,35	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
ケイセイアワノナルト 傾城阿波の鳴門	007	01-07,57	阿波の十郎兵衛 アワノジュウロベエ【お家世話物】
ケイセイアワノナルト 傾城阿波の鳴門	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
ケイセイイズニッキ 傾城伊豆日記	234	24-04,33	三浦大助 ミウラノオオスケ【時代物】
ケイセイイチョウノユミ 傾情一張弓	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ケイセイイナカゲンジ けいせい鄙源氏	010	02-02,55	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
ケイセイイナカゲンジ けいせい鄙源氏	154	16-02,27	菘屋喜八 タバコヤキハチ【世話物】
ケイセイイナズマソウシ けいせい輝草紙	222	23-04,39	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイイモセノオシドリ けいせい妹背鷄	002	01-02,42	赤土泥蔵 アカツチドロゾウ【 】
ケイセイイモセノオシドリ けいせい妹背鷄	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
ケイセイイモセノオシドリ けいせい妹背鷄	244	25-02,23	毛利元就 モウリモトナリ【時代物】
ケイセイイライザクラ けいせい入相桜	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ケイセイイライザクラ けいせい入相桜	196	21-01,32	二人道成寺 ニニンドウジョウジ【舞踊劇】
ケイセイウキスノイワ 傾城浮洲岩	246	25-04,26	盛綱 モリツナ【時代物】
ケイセイエゾニシキ けいせい蝦夷錦	058	06-04,47	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
ケイセイエゾニシキ けいせい蝦夷錦	154	16-02,24	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ケイセイオウショウクン 傾城王昭君	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ケイセイオウショウクン 傾城王昭君	131	13-04,27	象引 ゾウヒキ【時代物】
ケイセイオオエヤマ けいせい大江山	111	11-04,17	酒吞童子 シュテンドウジ【時代物】
ケイセイオオエヤマ けいせい大江山	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】
ケイセイオオモングチ けいせい廓大門	008	01-08,57	伊勢新九郎 イセシンクロウ【 】
ケイセイオオモングチ けいせい廓大門	236	24-06,19	美濃庄九郎 ミノノショウクロウ【時代物】
ケイセイオオモングチ けいせい廓大門	268	27-02,29	椀久 ワンキュウ【世話物】
ケイセイオカタナリ 傾城内房成	003	01-03,43	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
ケイセイオグラノシキシ 契情小倉の色紙	027	03-07,62	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
ケイセイオトギボウコ けいせいお伽婢子	228	23-10,19	牡丹灯籠 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
ケイセイオトワノタキ 傾城音羽滝	007	01-07,56	粟島 アウシマ【時代物】

ケイセイオトワノタキ 傾城音羽滝	036	04-04,70	音羽丹七 オトワタンシチ【世話物】
ケイセイオモイマサ 傾城思升屋	041	04-09,54	思升屋 オモイマサ【世話物】
ケイセイカケハシモノガタリ けいせい棧物語	194	20-11,31	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
ケイセイカケモノゾロエ けいせい懸物揃	156	16-04,18	田原藤太 タワラトウダ【時代物】
ケイセイカセンザクラ けいせい歌仙桜	032	03-12,61	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ケイセイカタオカヤマ けいせい片岡山	113	11-07,22	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
ケイセイカタオカヤマ けいせい片岡山	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ケイセイカタオカヤマ けいせい片岡山	215	22-09,29	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ケイセイカタビラガツジ けいせい羅衣辻	168	18-04,38	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ケイセイカタビラガツジ けいせい羅衣辻	187	20-04,48	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ケイセイカネノナルト けいせい鐘鳴渡	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
ケイセイカヨウチドリ けいせい通千鳥	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
ケイセイキョウウチモウデ けいせい花洛衣	201	21-06,35	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
ケイセイキョウダイサン けいせい鏡台山	001	01-01,39	あいごの若 アイゴノワカ【 】
ケイセイキョウダイサン けいせい鏡台山	052	05-09,45	鎌田又八 カマダマタハチ【お家物】
ケイセイキョウダイサン けいせい鏡台山	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ケイセイキョウダイサン けいせい鏡台山	131	13-04,25	千両幟 センリョウノボリ【世話物】
ケイセイキョウダイサン けいせい鏡台山	248	25-06,28	屋代騒動 ヤシロソウドウ【お家物】
ケイセイキンカザン けいせい金花山	236	24-06,19	美濃庄九郎 ミノノショウクロウ【時代物】
ケイセイクホンノジョウド けいせい九品浄土	016	02-08,60	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ケイセイクルワゲンジ けいせい廓源氏	222	23-04,39	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイクルワゲンジ けいせい廓源氏	245	25-03,14	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
ケイセイクルワノカドマツ けいせい廓門松	009	02-01,62	一休禪師 イッキョウゼンジ【時代物】
ケイセイクルワノカドマツ けいせい廓門松	118	12-01,20	醉菩提 スイボダイ【お家物】
ケイセイクルワノカドマツ けいせい廓門松	199	21-04,36	野晒悟助 ノザラシゴスケ【世話物】
ケイセイコイノヒキフネ けいせい恋登船	100	10-05,16	三十石 サンジッコク【お家物】
ケイセイコイビキヤク けいせい恋飛脚[1773/菅専助]	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ケイセイコイビキヤク 傾城恋飛脚[1803/市岡和七]	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ケイセイコガネノシャチホコ けいせい黄金鱗	047	05-03,48	柿木金助 カキノキキンスケ【世話物】
ケイセイコガネノシャチホコ けいせい黄金鱗	076	07-11,34	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
ケイセイコガネノハカリメ けいせい金秤目	079	08-04,34	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
ケイセイコガネノハカリメ けいせい金秤目	152	15-06,30	伊達騒動 イダテソウドウ【お家物】
ケイセイコガネノヨドゴイ けいせい金淀鯉	260	26-06,22	淀屋辰五郎 ヨドヤツツゴロウ【世話物】
ケイセイコクセンヤ 傾城国性爺	079	08-04,36	国性爺 コクセンヤ【時代物】
ケイセイコシジノアケボノ けいせい北国曙[1789/奈河七五三助]	104	10-09,17	賤ヶ嶽 シズガタケ【時代物】
ケイセイコシジノアケボノ けいせい北国曙[1789/奈河七五三助]	146	14-09,29	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
ケイセイコシジノアケボノ けいせい北国曙[1806 人形浄瑠璃]	104	10-09,17	賤ヶ嶽 シズガタケ【時代物】
ケイセイコシジノアケボノ けいせい北国曙[1818 人形浄瑠璃]	146	14-09,29	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
ケイセイコシジノウメ けいせい北国梅	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】

ケイセイサカオモダカ けいせい逆沢瀉	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ケイセイサツマノクシ けいせい狭妻櫛	107	10-12,18	島津騒動 シマツソウドウ【お家物】
ケイセイサトノカナヤマ けいせい廓金山	007	01-07,58	阿波の十郎兵衛 アワノジュウロベエ【お家世話物】
ケイセイサトノフナウタ けいせい廓船謡	070	07-05,39	桑名屋徳蔵 クワナヤトクゾウ【世話物】
ケイセイサヨノナカヤマ けいせい小夜の中山	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
ケイセイサヨノナカヤマ けいせい小夜の中山	240	24-10,24	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ケイセイサンショウダユウ けいせい山椒太夫	010	02-02,58	茨木屋幸斎 イバラキヤコウサイ【世話物】
ケイセイサンショウダユウ けいせい山椒太夫	100	10-05,19	三莊太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
ケイセイサンドガサ 傾城三度笠	016	02-08,60	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ケイセイサンボンカラカサ けいせい三本傘	039	04-07,55	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ケイセイサンボンカラカサ けいせい三本傘	095	09-10,29	鞘当 サヤアテ【時代物】
ケイセイサンボンカラカサ けいせい三本傘	223	23-05,32	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイサンボンカラカサ けいせい三本傘	245	25-03,15	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
ケイセイシゲシゲヤウ けいせい繁夜話	047	05-03,48	柿木金助 カキノキンスケ【世話物】
ケイセイジダイカガミ けいせい時代鏡	228	23-10,18	北雪美談 ホクセツピダン【お家物】
ケイセイシナサダメ けいせい品評林	222	23-04,39	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイシノバスガイケ けいせい忍術池	010	02-02,55	稲葉小僧 イナバコソウ【時代物】
ケイセイシノバスガイケ けいせい忍術池	050	05-07,45	笠森お仙 カサモリオセン【世話物】
ケイセイシノバスガイケ けいせい忍術池	174	19-02,41	遠山甚三 トオヤマジンザ【世話物】
ケイセイシマバラカエルガッセン 傾城島原蛙合戦	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
ケイセイシマバラカエルガッセン 傾城島原蛙合戦	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
ケイセイジャガタラブミ けいせい咬嚙嘔恋文	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
ケイセイジャガタラブミ けいせい咬嚙嘔恋文	022	03-02,30	大内騒動 オオウチソウドウ【時代物】
ケイセイジャガタラブミ けいせい咬嚙嘔恋文	244	25-02,22	毛利元就 モウリモトナリ【時代物】
ケイセイジャガタラブミ けいせい咬嚙嘔恋文	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
ケイセイシュテンドウジ 傾城酒呑童子	010	02-02,58	茨木屋幸斎 イバラキヤコウサイ【世話物】
ケイセイシュテンドウジ 傾城酒呑童子	111	11-04,17	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
ケイセイシラヌイモノガタリ けいせい白縫譚	115	11-09,18	白縫 シラヌイ【時代物】
ケイセイスオウノダイリ けいせい素袍瓊	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
ケイセイスミダガワ けいせい隅田川	122	12-05,17	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ケイセイセツゲツカ けいせい雪月花	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ケイセイセツゲツカ けいせい雪月花	056	06-02,46	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
ケイセイセツヨウシュウ けいせい節用集	165	18-01,49	天一坊 テンイチボウ【お家物】
ケイセイセンゴクサク けいせい戦国策	129	12-12,28	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
ケイセイソガカマクラダイジン けいせい曾我鎌倉集	141	14-03,32	曾我 ソガ【時代物】
ケイセイソガカマクラダイジン けいせい曾我鎌倉集	214	22-08,28	琵琶の景清 ビワノカゲキヨ【時代物】
ケイセイソガクルワカガミ 契情曾我廓亀鑑	030	03-10,71	お静礼三 オシズレイサ【世話物】
ケイセイソガクルワカガミ 契情曾我廓亀鑑	037	04-05,67	尾上伊太八 オノエイダハチ【世話物】
ケイセイソガクルワカガミ 契情曾我廓亀鑑	071	07-06,46	傾城鏡山 ケイセイカガミヤマ【世話物】

ケイセイソガクルワカガミ 契情曾我廓龜鑑	074	07-09,42	小磯ヶ原 コイソガハラ【世話物】
ケイセイソガハルノフジガネ 景清曾我賑不尽	141	14-03,32	曾我 ソガ【時代物】
ケイセイソデノウミ 傾城袖の海	268	27-02,28	椀久 ワンキウ【世話物】
ケイセイソネノマツ けいせい曾根松	074	07-09,41	建仁寺 ケンニンジ【時代物】
ケイセイソメウケタツナ けいせい染分総	185	20-02,40	とんとんの三吉 トントンノサンキチ【世話物】
ケイセイタカサゴノマツ けいせい高砂松	056	06-02,46	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
ケイセイタマウサギ けいせい当玉兎	006	01-06,57	尼子十勇士 アマコジュウユウシ【時代物】
ケイセイタマウサギ けいせい当玉兎	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
ケイセイタマノタツナ けいせい玉手綱	075	07-10,43	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
ケイセイタマノタツナ けいせい玉手綱	165	18-01,48	てれめん テレメン【世話物】
ケイセイチカイノフミツカ けいせい誓文墳	032	03-12,61	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ケイセイチゴガフチ けいせい稚児淵[1769/近松徳二]	157	16-05,17	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
ケイセイチゴガフチ けいせい稚児淵[1817京]	157	16-05,18	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
ケイセイチゴガフチ けいせい稚児淵	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
ケイセイチョウジャノイリフネ けいせい長者艦	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
ケイセイチョウジャノイリフネ けいせい長者艦	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
ケイセイツクシノツマゴト けいせい筑紫駄	004	01-04,49	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
ケイセイツクバヤマ けいせい筑波山	169	18-06,42	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ケイセイツジガオカ 傾城躑躅岡	089	09-04,42	西行 サイキョウ【時代物】
ケイセイナズナノセツク けいせい薺節句	123	12-06,33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ケイセイナトリソガ けいせい優首我	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ケイセイナトリソガ けいせい優首我	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
ケイセイナニワノオダマキ 傾城浪花をだ巻	074	07-09,45	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ケイセイニガビヤクドウ 傾城二河白道	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ケイセイノカワサキオンド 傾城の川崎音頭	072	07-07,37	傾城道成寺 ケイセイドウジョウジ【舞踊劇】
ケイセイハカタオリ けいせい博多織	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
ケイセイハコデンジュ けいせい管伝授	083	08-08,50	小西行長 コニシユキナガ【時代物】
ケイセイハチスガワ けいせい蓮川	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ケイセイハチスガワ けいせい蓮川	229	23-11,14	仏の原 ホトケノハラ【お家物】
ケイセイハチスナイト けいせい蓮の糸	260	26-06,22	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
ケイセイハナイカダ けいせい花発船	002	01-02,42	赤土泥蔵 アカツチドロソウ【 】
ケイセイハナイカダ けいせい花発船	070	07-05,39	桑名屋徳蔵 クワナヤトクゾウ【世話物】
ケイセイハナイカダ けいせい花発船	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ケイセイハナイカダ けいせい花発船	244	25-02,23	毛利元就 モウリモトナリ【時代物】
ケイセイハナノエアワセ けいせい花絵合	222	23-04,38	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイハナノオオモンビ けいせい桜大紋日	065	06-12,30	錦帯橋 キンタイバン【時代物】
ケイセイハナノシラナミ けいせい花白浪	198	21-03,37	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ケイセイハナノトオリヤ けいせい花通矢	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジユウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ケイセイハナノヤマザキ けいせい花山崎	145	14-08,28	太閤記 タイコウキ【時代物】

ケイセイハナブサソウシ けいせい英草紙	064	06-10,37	霧太郎 キリタロウ【時代物】
ケイセイハマノマサゴ けいせい浜真砂 [1700 江戸]	095	09-10,28	鞆当 サヤアテ【時代物】
ケイセイハマノマサゴ けいせい浜真砂 [1700 江戸]	223	23-05,31	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイハマノマサゴ けいせい浜真砂 [1839 大坂]	042	04-10,69	女五右衛門 オンナゴエモン【時代物】
ケイセイハリマメグリ けいせい播州廻	096	09-11,21	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ケイセイハルノトリ けいせい青陽鷄	016	02-08,59	馬切 ウマキリ【お家物】
ケイセイハルノトリ けいせい青陽鷄	162	17-08,49	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ケイセイハンゴンコウ 傾城反魂香	180	19-08,39	吃又 ドモマタ【お家物】
ケイセイハンゴンコウ 傾城反魂香	221	23-03,24	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイヒバリヤマ 傾城雲雀山	159	17-04,29	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
ケイセイヒメハジメ けいせい飛馬始	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
ケイセイヒメハジメ けいせい飛馬始	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
ケイセイヒヤクマンゴク 傾城百万国	051	05-08,49	合邦辻 ガッポウガツジ【お家物】
ケイセイビョウブガウラ けいせい屏風浦	088	09-03,45	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
ケイセイビョウブガウラ けいせい屏風浦	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
ケイセイフクビキナゴヤ 傾城福引名護屋	072	07-07,37	傾城道成寺 ケイセイドウジョウジ【舞踊劇】
ケイセイフクビキナゴヤ 傾城福引名護屋	171	18-09,46	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ケイセイフクビキナゴヤ 傾城福引名護屋	223	23-05,31	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ケイセイフクビキナゴヤ 傾城福引名護屋	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ケイセイフジガタケ 傾城富士嶽	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
ケイセイフジノタカネ 傾城富士高根	094	09-09,32	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
ケイセイフジノタカネ 傾城富士高根	233	24-03,22	松の内 マツノウチ【舞踊劇】
ケイセイフタゴヤマ 傾城双子山	025	03-05,64	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
ケイセイボタンノソノ 契情牡丹園	109	11-02,28	石橋 シャツキョウ【舞踊劇】
ケイセイホトケノハラ けいせい仏の原 [1699 京]	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ケイセイホトケノハラ けいせい仏の原 [1699 京]	229	23-11,14	仏の原 ホトケノハラ【お家物】
ケイセイホトケノハラ けいせい仏の原 [1699 大坂]	229	23-11,14	仏の原 ホトケノハラ【お家物】
ケイセイマクラカガミ けいせい満蔵鑑	240	24-10,24	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ケイセイミカエリホンゾン けいせい願本尊	159	17-04,29	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
ケイセイミツウロコガタ 傾城三鱗形	246	25-04,29	文覚 モンガク【時代物】
ケイセイミツウロコガタ 傾城三鱗形	258	26-04,19	義時 ヨシトキ【時代物】
ケイセイミツウロコガタ 傾城三鱗形	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ケイセイミドリノハヤシ けいせい美鳥林	203	21-08,37	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】
ケイセイミブダイネンブツ 傾城壬生大念仏	236	24-06,20	壬生大念仏 ミブダイネンブツ【世話物】
ケイセイミヤコノニシキ けいせい花洛錦	201	21-06,35	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
ケイセイミヤコノハマオギ けいせい都浜荻	234	24-04,31	三浦荒次郎 ミウラアラジロウ【時代物】
ケイセイムケンノカネ 傾城無間鐘	241	24-11,16	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ケイセイムツノタマガワ けいせい睦玉川	154	16-02,24	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ケイセイムツノタマガワ けいせい睦玉川	242	24-12,20	睦玉川 ムツノタマガワ【お家物】



ケイセイムラサキタツナ 傾城紫手綱	088	09-03,40	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ケイセイモミジノウチカケ けいせい紅葉襦	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ケイセイモミジノウチカケ けいせい紅葉襦	152	15-06,28	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ケイセイモミジノウチカケ けいせい紅葉襦	230	23-12,18	舞扇 マイオウギ【舞踊劇】
ケイセイヤツノハナブサ けいせい八花魁	006	01-06,59	荒芽山 アラメヤマ【時代物】
ケイセイヤツノハナブサ けいせい八花魁	144	14-06,28	対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
ケイセイヤツノハナブサ けいせい八花魁	204	21-09,40	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ケイセイヤツノハナブサ 傾城八花形	249	25-07,22	八花形 ヤツハナカタ【時代世話物】
ケイセイヤツムネツクリ 契情八棟造	005	01-05,47	油地獄 アブラジゴク【世話物】
ケイセイヤナギガセキ けいせい柳鶏明	025	03-05,65	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
ケイセイヤナギサクラ けいせい楊柳桜	197	21-02,51	根津宇右衛門 ネツウエモン【世話物】
ケイセイヤナギサクラ けいせい楊柳桜	249	25-07,25	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ケイセイヤナギサクラ けいせい楊柳桜	260	26-06,23	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
ケイセイヤマザキガヨイ けいせい山崎通	198	21-03,39	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
ケイセイヤマトゾウシ けいせい倭莊子[1784 大坂]	100	10-05,16	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ケイセイヤマトゾウシ けいせい倭莊子[1818 人形浄瑠璃]	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ケイセイヤマトゾウシ けいせい倭莊子[1818 人形浄瑠璃]	161	17-06,17	蝶の道行 チョウノミチユキ【舞踊劇】
ケイセイユキミルヤマ けいせい会稽山	073	07-08,37	毛谷村 ケヤムラ【お家物】
ケイセイユキミルヤマ けいせい会稽山	116	11-10,19	新大橋仇討 シンオオハシアダウチ【お家世話物】
ケイセイヨシノノカネ けいせい吉野鐘	190	20-07,42	名和長年 ナワナガトシ【時代物】
ケイセイヨシノノカネ けいせい吉野鐘	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
ケイセイリュウジョガフチ けいせい竜女淵	229	23-11,14	仏の原 ホトケノハラ【お家物】
ケイセイワガタツソマ 契情我立袖	259	26-05,23	義仲 ヨシナカ【時代物】
ケサカケマツナリタノリケン 法懸松成田利剣	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
ケサカケマツナリタノリケン 法懸松成田利剣	192	20-09,30	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ケサカケマツナリタノリケン 法懸松成田利剣	220	23-02,28	不動 フドウ【時代物】
ケシコクミチユキ 稽首国道行	123	12-06,36	誓願寺 セイガンジ【時代物】
ゲダツ 解脱[1914/吉井勇]	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
ゲダツ 解脱[1932/山崎紫紅]	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
ケツショウキ 血笑記	001	01-01,40	会津産明治組重 アイツサンメイジノクミジュウ【 】
ケハイミズキヌガワツツミ 粧水絹川堤	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
ケワイムシャオウミゲンジ 粧武者近江源氏	180	19-08,40	吃又 トモマタ【お家物】
ケンエボンテリハノサカズキ 剣烏帽子照葉盃	245	25-03,17	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
ケンカバ 喧嘩場[戯曲通称]	073	07-08,37	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシンクラ
ケンケハチダイメグミノツワモノ 源家八代恵剛者	077	08-02,34	高野物狂 コウヤモノグルイ【舞踊劇】
ケンコウ 剣工	243	25-01,23	村正 ムラマサ【世話物】
ケンコウホウシモノミグルマ 兼好法師物見車	257	26-03,25	吉田兼好 ヨシダケンコウ【時代物】
ゲンザイマツカゼ 現在松風	232	24-02,18	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ゲンザンミヨリマサ 源三位頼政	263	26-09,20	頼政 ヨリマサ【時代物】

ゲンジエボシオリ 源氏烏帽子折	011	02-03,65	妹が宿 イモガヤド【舞踊劇】
ゲンジエボシオリ 源氏烏帽子折	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
ゲンジエボシオリ 源氏烏帽子折	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
ゲンジオオソウシ 源氏大草紙	003	01-03,46	朝比奈 アサイナ【時代物】
ゲンジオオソウシ 源氏大草紙	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
ゲンジカチョウタイゼン 源氏花鳥大全	073	07-08,38	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ゲンジサンダイシテンノウ 源氏三代四天王	259	26-05,23	義仲 ヨシナカ【時代物】
ゲンジジュウニダン 源氏十二段	067	07-02,39	熊坂 クマサカ【時代物】
ゲンジジュウニダンチョウセイシマダイ 源氏十二段長生島台	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【時代物】
ゲンジジュウニダンテングノダイリ 源氏十二段天狗内裏	109	11-02,31	十二段 ジュウニダン【時代物】
ゲンジシラハタノユライ 源氏白旗の由来	184	20-01,37	仲光 ナカミツ【時代物】
ゲンジダナ 源氏店[戯曲通称]	073	07-08,37	与話情浮名横櫛 ヨワナサケウキナノヨコグシ
ゲンジチョウキウワタマシノヨロコビ 源氏長久移徙悦	104	10-09,21	七騎落 シチキオチ【時代物】
ゲンジチョウキウワタマシノヨロコビ 源氏長久移徙悦	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ゲンジハンジョウシノダツマ 源氏繁昌信太妻	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
ゲンジホウライミツモノ 源氏蓬萊三ツ物	155	16-03,23	為朝 タメトモ【時代物】
ゲンジムシャホマレノセイリキ 源氏武者誉勢力	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
ゲンジモノガタリ 源氏物語	073	07-08,40	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ゲンジモノガタリアオイノマキ 源氏物語葵の巻	001	01-01,40	葵の上 アオイノウエ【 】
ゲンジモヨウフリソデヒナガタ 源氏模様娘雛形	010	02-02,54	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
ゲンジヨショウニンゴユライ 玄怨上人御由来	073	07-08,40	玄怨上人 ゲンジヨショウニン【時代物】
ケンジョノテナライナラビニシンゴヨミ 賢女手習并新曆	116	11-10,20	新曆 シンゴヨミ【時代物】
ゲンジレイゼイブシ 源氏冷泉節	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ゲンジロクジュウジョウ 源氏六十帖[古浄瑠璃]	073	07-08,39	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ゲンジロクジュウジョウ 源氏六十帖[1703 江戸]	073	07-08,39	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ゲンジロクジョウガヨイ 源氏六条通	073	07-08,38	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ケンシンダイシゴホウオンデンキ 見真大師御報恩伝記	118	12-01,19	親鸞 シンラン【時代物】
ゲンソウコウテイハナイクサ 玄宗皇帝花軍	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
ゲンソウコウテイホウライノツル 玄宗皇帝蓬萊鶴	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
ゲンソウモドリ 源蔵戻り[戯曲通称]	074	07-09,40	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
ケンチョウジ 建長寺	074	07-09,40	建長寺 ケンチョウジ【時代物】
ケンニンジクヨウ 建仁時供養	074	07-09,40	建仁寺 ケンニンジ【時代物】
ゲンブクソガサツキノフジガネ 初冠曾我臯月富士根	035	04-03,71	男草履打 オトコソウリウチ【お家物】
ゲンブクソガサツキノフジガネ 初冠曾我臯月富士根	037	04-05,67	尾上伊太八 オノエイダハチ【世話物】
ゲンブクソガサツキノフジガネ 初冠曾我臯月富士根	255	26-01,19	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ゲンベイスキワケツツジ 源平咲分つゝじ	022	03-02,32	扇屋熊谷 オウギヤクマガイ【時代物】
ゲンベインアルカミデンキ 源平雷伝記	190	20-07,40	鳴神 ナルカミ【時代物】
ゲンベイヌノヒキノタキ 源平布引滝	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
ゲンベイヌノヒキノタキ 源平布引滝	094	09-09,31	実盛 サネモリ【時代物】

ゲンベイハシラゴヨミ 源平柱礎曆	063	06-09,46	清盛 キヨモリ【時代物】
ゲンベイハシラゴヨミ 源平柱礎曆	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
ゲンベイハシラゴヨミ 源平柱礎曆	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
ゲンベイハシラゴヨミ 源平柱礎曆	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
ゲンベイヒヨドリゴエ 源平鶴鳥越	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ゲンベイヒヨドリゴエ 源平鶴鳥越	103	10-08,34	重衡 シゲヒラ【時代物】
ゲンベイヒヨドリゴエ 源平鶴鳥越	267	27-01,26	鷲尾三郎 ワシオサブロウ【時代物】
ゲンボクトチョウエイ 玄朴と長英	148	14-12,29	高野長英 タカノチョウエイ【世話物】
ケンマワシサトノダイツウ 拳禪廓大通	173	19-01,41	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
ゲンヤダナ 玄治店[戯曲通称]	073	07-08,37	与話情浮名横櫛 ヨワナサケウキナノヨコグシ
ゲンロクカブキユキノウチイリ 元禄劇場雪討入	221	23-03,23	不破数右衛門 フワカズエモン【お家物】
ゲンロクソガコガネノカメヤマ 元禄首我金瓶山	054	05-11,41	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1935-1/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1935-4/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1938-4/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1938-11/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1939-2/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1940-1/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵[1941-11/真山青果]	074	07-09,42	元禄忠臣蔵 ゲンロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクチュウシングラ 元禄忠臣蔵	105	10-10,28	実録忠臣蔵 ジツロクチュウシングラ【お家物】
ゲンロクフウハナミオドリ 元禄風花見踊	074	07-09,41	元禄踊 ゲンロクオドリ【舞踊劇】
コアツモリ 小敦盛	067	07-02,37	熊谷 クマガイ【時代物】
コアツモリ 小敦盛	074	07-09,42	小敦盛 コアツモリ【時代物】
コアツモリ 小敦盛	228	23-10,17	法然上人 ホウネンショウニン【時代物】
コイケイセイ 恋傾城	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
コイゴロモカリガネゾメ 恋衣鷹金染	023	03-03,68	大阪万歳 オオサカマンザイ【舞踊劇】
コイゴロモカリガネゾメ 恋衣鷹金染	056	06-02,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
コイゴロモカリガネゾメ 恋衣鷹金染	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
コイゴロモチカイノイワクラ 恋衣誓岩倉	013	02-05,51	岩倉宗玄 イワクラソウゲン【時代物】
コイゴロモユカリノハツザクラ 恋衣縁初桜	044	04-12,42	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
コイザクラウメワカソガ 恋花王梅若首我	052	05-09,45	鎌田又八 カマダマタハチ【お家物】
コイザクラウメワカソガ 恋花王梅若首我	142	14-04,33	素盞雄尊 スサノオノミコト【王代物】
コイザクラウメワカソガ 恋花王梅若首我	147	14-10,29	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
コイザクラハンゴンコウ 恋桜反魂香	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
コイシキノジヒダカノアケボノ 恋紀の路日高曙	063	06-09,44	清姫 キヨヒメ【時代物】
コイシグレソデニフルデラ 恋慕時雨袖旧寺	010	02-02,55	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
コイスチョウオシノオモイバ 恋九成鴛鴦思羽	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
コイスチョウヒナノタマクラ 恋すてふ鄙手枕	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
コイズモウネヤノカオブレ 恋角舩顔競	031	03-11,70	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】

コイズモウネヤノトリクミ 恋相撲闇の取組	026	03-06,62	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
コイズモウハルノカオブレ 恋慕相撲春顔触	243	25-01,24	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
コイズモウハルノカオブレ 恋慕相撲春顔触	260	26-06,22	淀車 ヨドクルマ【世話物】
コイズモウヤワラギソガ 恋相撲和合首我	037	04-05,66	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
コイソウバミウケノイレフダ 恋相場算請入札	264	26-10,22	雷電源八 ライデンゲンバチ【世話物】
コイソメテショウブカタビラ 濃染菖蒲締	157	16-05,21	血達磨 チダルマ【お家物】
コイチユウシャハツネノタビ 恋中車初音の旅	151	15-05,24	忠信 タダノブ【舞踊劇】
コイデンジュブンブノジンダテ 恋伝授文武陣立	126	12-09,34	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
コイニョウボウソメワケタツナ 恋女房染分手綱	075	07-10,42	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
コイニョウボウソメワケタツナ 恋女房染分手綱	103	10-08,34	重の井 シゲノイ【お家物】
コイニョウボウソメワケタツナ 恋女房染分手綱	256	26-02,23	与作 ヨサク【舞踊劇】
コイノイロハテクダノカキソメ 恋いろは菊書始	012	02-04,51	いろは新助 イロハシンスケ【世話物】
コイノオトコシラベノマツカゼ 恋男調松風	206	21-11,38	浜松風 ハママツカゼ【舞踊劇】
コイノクセカリノツマギク 恋癖仮妻菊	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
コイノサルヒキ 恋猿引	015	02-07,58	靱猿 ウツボサル【舞踊劇】
コイノセキケンカノドヒョウイリ 恋関喧嘩土俵入	264	26-10,22	雷電源八 ライデンゲンバチ【世話物】
コイノタヨリサトノカナブミ 恋飛脚郭以字文	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
コイノタヨリヤマトオウライ 恋飛脚大和往来	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
コイノテクダモンジュノチエノワ 恋計文殊智恵輪	103	10-08,32	時雨西行 シグレサイギョウ【舞踊劇】
コイノデンジュナレソメザクラ 恋教鶴鴿馴染桜	217	22-11,28	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
コイノデンジュブンブノジンダテ 恋伝授文武陣立	023	03-03,65	大阪陣 オオサカジン【時代物】
コイノデンジュブンブノジンダテ 恋伝授文武陣立	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
コイノナダネビキノトモツナ 恋灘根曳纜	070	07-05,39	桑名屋徳蔵 クワナヤトクゾウ【世話物】
コイノハックハシラゴヨミ 恋八卦柱曆	029	03-09,73	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
コイノハツネシラベノカケワナ 恋鼓調掛罨	239	24-09,34	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
コイノフチチシオノシホリソメ 恋淵血汐絞染	032	03-12,61	お園六三 オソノロクサ【世話物】
コイノミサオサトノフミツキ 色操廓文月	095	09-10,28	佐野ハツ橋 サノヤツハシ【世話物】
コイノミズウミ 恋の湖	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
コイノミチノクオンナトウソク 恋陸奥媚賊	060	06-06,43	鬼神のお松 キジンノオマツ【世話物】
コイノミナトハカタノヒトフシ 恋湊博多諷	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
コイノヤミウガイノカガリビ 恋闇鴉飼燎	014	02-06,57	鴉飼燎 ウガイノカガリビ【世話物】
コイノヨスガカナガキソガ 恋便仮名書首我	006	01-06,59	荒五郎茂兵衛 アラゴロウモヘエ【世話物】
コイノヨスガカナガキソガ 恋便仮名書首我	045	05-01,45	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
コイノヨスガカナガキソガ 恋便仮名書首我	139	14-01,21	首我 ソガ【時代物】
コイノワナテクダノカケアイ 恋罨奇掛合	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
コイヒトスジムスブツマゴト 恋弦結颯駉	122	12-05,16	須磨琴 スマゴト【舞踊劇】
コイムスMEMカシハチジョウ 恋娘昔八丈	029	03-09,70	お駒才三 オコマサイサ【世話物】
コイモノガタリ 恋物語	255	26-01,21	横笛 ヨコブエ【時代物】
コイモミジイロノミツマタ 濃楓色三股	220	23-02,30	船の高尾 フネノタカオ【舞踊劇】

コイモミジオグラノシキシ 濃紅葉小倉色紙	026	03-06,64	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
コイワタルエンノハシモト 恋渡縁橋本	122	12-05,15	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
コウガサブロウ 甲賀三郎	075	07-10,44	甲賀三郎 コウガサブロウ【時代物】
コウガサブロウイワモノガタリ 甲賀三郎産物語	076	07-11,33	甲賀三郎 コウガサブロウ【時代物】
コウキデンウノハノウプヤ 弘徽殿鶏羽産屋	073	07-08,38	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
コウキデンウワナリウチ 弘徽殿嫉妬打	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
ゴウシュウイシヤマゲンジクヨウ 江州石山源氏供養	073	07-08,39	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
コウシュウリュウタケダノマクバリ 甲州流武田幕張	169	18-06,42	天目山 テンモクザン【時代物】
コウショクウラカタモンドウ 好色占問答	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
コウショクシキシマモノガタリ 好色芝紀島物語	077	08-02,33	黄門記 コウモンキ【お家世話物】
コウショクシキシマモノガタリ 好色芝紀島物語	103	10-08,32	敷島物語 シキシマモノガタリ【世話物】
コウショクシキシマモノガタリ 好色芝紀島物語	210	22-04,36	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
コウショクシマダモノガタリ 好色島田語	086	08-11,28	駒ヶ池 コマガイケ【世話物】
コウショクデンジュ 好色伝授	127	12-10,39	関寺小町 セキデラコマチ【舞踊】
コウダンカゴツルベ 巷談籠釣瓶	049	05-05,43	籠釣瓶 カゴツルベ【世話物】
コウダンヒノキヤマジツキ 講談檜木山実記	091	09-06,35	榊原高尾 サカキバラタカオ【お家物】
コウダンヒノキヤマジツキ 講談檜木山実記	132	13-05,34	相馬大作 ソウマダイサク【お家物】
コウテイキタンロクジュウヨシュウ 孝悌譚六十余集	062	06-08,34	紀文 キブン【世話物】
コウテイキタンロクジュウヨシュウ 孝悌譚六十余集	210	22-04,37	飛騨内匠 ヒダノタクミ【時代物】
コウトウノナシ 勾当内侍	257	26-03,25	義貞 ヨシサダ【時代物】
コウボウダイシゴデンキ 弘法大師御伝記	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
コウボウダイシタンジヨウキ 弘法大師誕生記	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
コウミョウダイフクチョウ 高名大福帳	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
コウメトヨシベエ 小梅と由兵衛	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
コウモンキ 黄門記	077	08-02,34	黄門記 コウモンキ【お家世話物】
コウモンキオサナコウシャク 黄門記童幼講釈	005	01-05,44	安宅丸 <sup>1</sup> アタケマル【お家物】
コウモンキオサナコウシャク 黄門記童幼講釈	077	08-02,33	黄門記 コウモンキ【お家世話物】
コウモンキヤワタノオオヤブ 黄門記八幡大藪	005	01-05,45	安宅丸 <sup>1</sup> アタケマル【お家物】
コウモンキヤワタノオオヤブ 黄門記八幡大藪	077	08-02,34	黄門記 コウモンキ【お家世話物】
コウヤサン 高野山[戯曲通称]	077	08-02,34	苅萱桑門筑紫驒 カルカヤドウシンツクシノイエスト
コウヤサンカルカヤジツキ 高野山苅萱実記	057	06-03,41	苅萱 カルカヤ【時代物】
コウヤモノグルイ 高野物狂	077	08-02,34	高野物狂 コウヤモノグルイ【舞踊劇】
コウヨウグンカンイマヨウスガタ 甲陽軍艦今様姿	057	06-03,42	川中島 カワナカジマ【時代物】
コウヨウグンキウノハナガサネ 甲陽軍記卯花重	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
コエカケテヒケヤタカツナ 声花扱高綱	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ゴエツグンダンヒヨクノウテナ 呉越軍談比翼台	077	08-02,35	呉越軍談 ゴエツグンダン【時代物】
ゴウノヒメ 牛王姫	257	26-03,26	義経 ヨシツネ【時代物】
ゴカイサンシンランキ 御開山親鸞記	118	12-01,18	親鸞 シンラン【時代物】
コカジ 小鍛冶	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】

コガネサクダテノオオキド 菊伊達大門	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
コガネノハナムツノアサイナ 黄金花陸奥朝夷	004	01-04,48	朝比奈 アサイナ【時代物】
コギツネレイザスガタノニシキエ 小狐礼三姿錦絵	078	08-03,40	小狐礼三 コギツネレイザ【世話物】
コキマゼテイロノノリアイ 小菊交艶乗合船	200	21-05,41	乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
コキマゼテカオソガ 濃交華高尾首我	216	22-10,28	藤娘 フジムスメ【舞踊】
コキンゴウチジニ 小金吾討死[戯曲通称]	078	08-03,40	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
コクサイキシムスメオウギ 極彩色娘扇	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
コクセンヤカッセン 国性爺合戦	079	08-04,35	国性爺 コクセンヤ【時代物】
コクセンヤゴニチカッセン 国性爺後日合戦	079	08-04,36	国性爺 コクセンヤ【時代物】
コクセンヤスガタノウツシエ 国性爺姿写真鏡	079	08-04,35	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
コクセンヤタカラブネ 国性爺宝船	079	08-04,36	国性爺 コクセンヤ【時代物】
コクセンヤテガラニッキ 国仙野手柄日記	079	08-04,35	国性爺 コクセンヤ【時代物】
コクセンヤリハツノスガタミ 国性爺理髪姿視	053	05-10,42	髪結藤次 カミユイトウジ【世話物】
コクビヤクロンオリワケハカタ 黒白論織分博多	069	07-04,41	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
コクミンカイヘイ 国民皆兵	025	03-05,67	大村益次郎 オオムラマシロウ【世話物】
コクラジマジャショウノヨコタテ 小倉綺邪正経緯	027	03-07,62	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
コゴウ 小督	184	20-01,37	仲国 ナカクニ【舞踊劇】
ココガエドコウデノタテヒキ 茲江戸小腕達引	015	02-07,58	腕の喜三郎 ウデノキサブロウ【世話物】
ゴクオンナタイヘイキ 護国婦女太平記[1876/勝彦蔵]	250	25-08,14	柳沢騒動 ヤナキサワソウドウ【お家物】
ゴクオンナタイヘイキ 護国女太平記[1920/松居松葉]	250	25-08,14	柳沢騒動 ヤナキサワソウドウ【お家物】
ココニマタメバエノクセモノ 斯将優曲者	084	08-09,27	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
ココニマタメバエノクセモノ 斯将優曲者	098	10-03,25	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ココヘキセワタキノヨメイリ 茲来着綿菊嫁入	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
ココモクワイロノトモダチ 爰廓色友達	047	05-03,49	角兵衛 カクベエ【舞踊】
ココロツクシシラヌイモノガタリ 心筑紫白縫物語	115	11-09,17	白縫 シラヌイ【時代物】
ココロノコマイケンノヒトフシ 意駒異見諷	065	06-12,30	金看板 キンカンバン【世話物】
ココロノタケイウテミカグラ 心情語而御神楽	006	01-06,57	天岩戸 アマノイウト【舞踊劇】
ココロノナソチュウギノエアワセ 意中謎忠義画合	183	19-12,38	鳥目の上使 トリメノジョウシ【時代物】
ココロノナソトケタイロイト 心謎解色絲	040	04-08,61	お祭佐七 オマツリササチ【世話物】
ココロバカリエドノカケガク 意栗絵懸額	165	18-01,49	てれめん テレメン【世話物】
ココロバカリタカオガダテソメ 意計高尾伊達染	153	15-09,40	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ココンキョウダイツウモノソガ 古今兄弟兵首我	137	13-11,40	首我 ソガ【時代物】
コザサ 小篠	079	08-04,37	小篠 コザサ【時代物】
コザフネ 御座船[戯曲通称]	079	08-04,37	八陣守護城 ハチジンシュゴノボンジョウ
コザルシチノスケ 小猿七之助	080	08-05,27	小猿七之助 コザルシチノスケ【世話物】
ゴサンネンオウシュウゲンキ 後三年奥州軍記	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
コシジノハナオエドノトリテキ 越路花御江戸侠	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
コシテンノウノハジマリ 小四天王始	080	08-05,30	小四天王 コシテンノウ【時代物】
コジマタカノリ 小島高德	081	08-06,36	小島高德 コジマタカノリ【時代物】

ゴジウサンツギオウギノシクツケ 五十三駅扇宿附	026	03-06,63	岡崎の猫 オカザキノネコ【世話物】
ゴジウサンツギオウギノシクツケ 五十三駅扇宿附	081	08-06,40	五十三駅 ゴジウサンツギ【時代お家世話物】
ゴジウサンツギオウギノシクツケ 五十三駅扇宿附	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
ゴジウネンキウタネンブツ 五十年忌歌念仏	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ゴジウバシ 五条橋	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ゴシヨウギンガノトシダマ 館扇曾我訥芝玉	003	01-03,43	明智乗切 アケチノッキリ【時代物】
ゴシヨウギンガノトシダマ 館扇曾我訥芝玉	147	14-10,28	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
ゴシヨウギマサゴノシラナミ 館扇面真砂白浪	042	04-10,69	女五右衛門 オンナゴエモン【時代物】
ゴシヨグルマヒクヤソデツマ 五諸車引哉袖褌	042	04-10,68	女車引 オンナクルマビキ【舞踊劇】
ゴシヨグルマヒクヤソデツマ 五諸車引哉袖褌	168	18-04,41	天神記 テンジンキ【王代物】
ゴシヨザクラコウヨウゲンキ 御所桜紅葉軍記	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
ゴシヨザクラホリカワヨウチ 御所桜堀川夜討	009	02-01,60	伊勢三郎 イセノサブロウ【時代物】
ゴシヨザクラホリカワヨウチ 御所桜堀川夜討	174	19-02,41	藤弥太物語 トウヤタモノガタリ【時代物】
ゴシヨザクラホリカワヨウチ 御所桜堀川夜討	225	23-07,25	弁慶上使 ベンケイジョウシ【時代物】
ゴシヨモヨウゲンジノエドソメ 内裡模様源氏紫	010	02-02,54	田舎源氏* イナカゲンジ【舞踊劇】
ゴシヨモヨウゲンジノエドソメ 内裡模様源氏紫	084	08-09,26	五人囃子 ゴニンバヤシ【舞踊劇】
ゴシヨモヨウハギトアオイバ 御所模様萩葵葉	052	05-09,43	桂小五郎 カツラコゴロウ【世話物】
ゴシヨモヨウハギトアオイバ 御所模様萩葵葉	104	10-09,21	七卿落 シチキョウオチ【世話物】
コスイデン こすい天	082	08-07,28	五翠殿 ゴスイデン【時代物】
ゴゼンガカリスモウソガ 御前掛角力曾我	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
コセンジョウカネカケノマツ 古戦場鐘懸の松	023	03-03,65	大阪陣 オオサカジン【時代物】
コセンジョウカネカケノマツ 古戦場鐘懸の松	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
コソデグミカンネラモンベイ 小袖組貫練門平	022	03-02,29	大内騒動 オオウチソウドウ【時代物】
コソデソガ 小袖曾我	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】
コソデソガアザミノイロヌイ 小袖曾我薊色縫	104	10-09,17	四千両 シセンリョウ【世話物】
コソデマクゲンロクモヨウ 小袖幕元禄模様	074	07-09,41	元禄踊 ゲンロクオドリ【舞踊劇】
コソデモヨウ 小袖模様	082	08-07,30	小袖売 コソデウリ【時代物】
ゴソンジアズマノキャラ 御そんじ東伽羅	129	12-12,26	世話場の政岡 セワバノマサオカ【時代物】
ゴソンジアズマノキャラ 御そんじ東伽羅	154	16-02,23	伊達騒動 イダテソウドウ【お家物】
ゴソンジウメノヨシベエ 御存知梅の由兵衛	018	02-10,52	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ゴソンジズガモリ 御存鈴ヶ森[別外題]	121	12-04,23	鈴ヶ森 スズガモリ
コダイガタシンゾメユカタ 古代形新染浴衣	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ゴダイゲンジミツギノフリソデ 五代源氏眞振袖	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ゴダイゲンジミツギノフリソデ 五代源氏眞振袖	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
ゴダイゴテンノウ 後醍醐天皇	080	08-05,30	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
ゴタイヘイキシライシバナシ 暮太平記白石噺	237	24-07,24	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
コダイモヨウオウギノシゲヌイ 往古模様扇重縫	082	08-07,28	御所の五郎蔵 ゴシヨノゴロソウ【時代世話物】
コダイモヨウオウギノシゲヌイ 往古模様扇重縫	229	23-11,15	時鳥殺し ホトトギスゴロシ【時代物】
ゴタイリキコイノフウジメ 五大力恋緋	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】

ゴダイリキコイノフウジメ 五大力恋緋	082	08-07,31	五大力 ゴダイリキ【世話物】
ゴダイリキヒヨクノミツモン 五大力比翼三紋	082	08-07,31	五大力 ゴダイリキ【世話物】
ゴダカラアイゴソガ 袿愛護首我	161	17-06,15	長五郎髪梳 チョウゴコウカミスキ【長唄メリヤス】
ゴダカラアイゴソガ 袿愛護首我	217	22-11,30	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
コダンジケイセイ 小団次傾城	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
ゴチュウモンコウライヤジマ 御註文高麗屋縞	054	05-11,40	龜山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ゴチュウモンコウライヤジマ 御註文高麗屋縞	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ゴチュウモンシイレノアカネソメ 御註文仕入茜染	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ゴチュウモンシユスノオビヤ 御註文縺子帯屋	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
コツケイシチフクジン 滑稽七福神	205	21-10,38	八笑人 ハッショウジン【舞踊劇】
コツケイヒザクリゲ 滑稽膝栗毛	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ゴテンジク 五天竺	091	09-06,34	西遊記 サユウキ【舞踊劇】
ゴテンジク 五天竺	109	11-02,28	釈迦 シャカ【時代物】
ゴテンヤマサクラギソウシ 御殿山桜木草紙	052	05-09,43	桂小五郎 カツラコゴロウ【世話物】
ゴテンヤマサクラギソウジ 御殿山桜木草紙	091	09-06,37	坂下事件 サカシタジケン【お家物】
ゴトウノサンバ 五斗の三番[略称]	083	08-08,48	南蛮鉄後藤目貫 ナンバンテツゴトウノメヌキ
ゴトウノテッポウ 五斗の鉄砲[略称]	083	08-08,48	南蛮鉄後藤目貫 ナンバンテツゴトウノメヌキ
ゴトウマタベエ 後藤又兵衛	083	08-08,49	後藤又兵衛 ゴトウマタベエ【時代物】
コトノハグサマタユウバエ 月雪花歌再夕市	194	20-11,33	二人晒 ニニンザラシ【舞踊劇】
コトバノハナツキモミツヒデ 連歌月光秀	202	21-07,36	馬壘の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
コトバノハナフタミノブンダイ 連歌花二見文台	202	21-07,36	馬壘の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
コトバノハナモミジノヨザカリ 詞花紅成盛	165	18-01,50	天一坊 テンイチボウ【お家物】
コトブキアヤメソガ 寿宮蒲首我	005	01-05,44	安宅丸 <sup>1</sup> アタケマル【お家物】
コトブキウツボザル 寿靱猿	015	02-07,58	靱猿 ウツボサル【舞踊劇】
コトブキシキサンバソウ 寿式三番叟	102	10-07,23	式三番 シキサンバ【舞踊劇】
コトブキスエヒロ 寿末広	119	12-02,16	末広狩 スエヒロガリ【舞踊劇】
コトブキツルノイキオイ 寿白鶴登勢	053	05-10,40	上方顔見世狂言 カミガタカオミセキョウゲン【 】
コトブキニンショウジョウ 寿二人猩々	194	20-11,33	二人猩々 ニニンショウジョウ【舞踊劇】
コトブキバンゼイソガ 寿万歳首我	076	07-11,33	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
コトブキバンゼイソガ 寿万歳首我	139	14-01,20	首我 ソガ【時代物】
コトブキバンゼイソガ 寿万歳首我	159	17-04,27	茶の湯の景清 チヤノユノカゲキヨ【時代物】
コトブキマンザイ 寿万歳	083	08-08,49	寿万歳 コトブキマンザイ【舞踊】
コトブキミマスソガ 寿三升首我	098	10-03,27	三勝道行 サンカツミチユキ【舞踊劇】
コトブキレンリノマツ 寿連理の松	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジユウロウ【世話物】
ゴニチノチヨウベエ 後日の長兵衛	236	24-06,18	光秀* ミツヒデ【時代物】
ゴニンオトコイキジノハナクラベ 五人男使花姿競	056	06-02,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ゴニンオトコゲキジョウシンブン 五人男劇場新聞	056	06-02,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
コノシタカゲハザマガッセン 木下蔭狭間合戦	150	15-03,28	竹中半兵衛 タケナカハンベエ【時代物】
コノシタカゲハザマガッセン 木下蔭狭間合戦	203	21-08,38	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】



コノシタカゲハザマガッセン 木下蔭狭間合戦	236	24-06,21	壬生村の五右衛門 ミブムラノゴエモン【時代物】
コノシタツガメグミノマサゴジ 木下首我恵砂路	052	05-09,44	釜煎の五右衛門 カマイリノゴエモン【時代世話物】
コノシタツガメグミノマサゴジ 木下首我恵砂路	236	24-06,21	壬生村の五右衛門 ミブムラノゴエモン【時代物】
コノシタヤミコイハクセモノ 樹闇恋曲者	115	11-09,17	白縫 シラヌイ【時代物】
コノマノホシハコネノシカブエ 木間星箱根鹿笛	201	21-06,34	箱根の鹿笛 ハコネノシカブエ【世話物】
コノミ 木の実[戯曲通称]	084	08-09,27	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
コハクエンコンゲンスケロク 古柏莖根元助六	120	12-03,17	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
コハダノカイアメモフルヌマ 小幡怪異雨古沼	084	08-09,28	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
コハルナギオキツシラナミ 小春穂沖津白浪	078	08-03,40	小狐礼三 コギツネレイサ【世話物】
コハルナギオキツシラナミ 小春穂沖津白浪	194	20-11,31	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
コハルノエンミツグミササズキ 小春宴三組杯觴	106	10-11,18	忍車 シノビグルマ【舞踊劇】
コハルノエンミツグミササズキ 小春宴三組杯觴	191	20-08,42	肉附面 ニクツキメン【時代物】
コハルノエンミツグミササズキ 小春宴三組杯觴	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ゴバンタイヘイキ 暮盤太平記[1706/近松門左衛門]	159	17-04,30	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ゴバンタイヘイキ 暮盤太平記[1904/渡辺霞亭]	159	17-04,30	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ゴバンタダノブ ごばん忠信	084	08-09,30	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ゴバンタダノブゲンジノイシズエ 暮盤忠信源氏礎	085	08-10,27	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ゴバンタダノブユキノナチグロ 暮盤忠信雪黒白	085	08-10,26	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ゴバンタダノブユキノナチグロ 暮盤忠信雪黒白	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
ゴヒイキオンガノシマダイ 御摂恩賀仙	063	06-09,46	清盛 キヨモリ【時代物】
ゴヒイキオンガノシマダイ 御摂恩賀仙	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
ゴヒイキカンジンチョウ 御摂勸進帳	045	05-01,45	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
ゴヒイキカンジンチョウ 御摂勸進帳	050	05-07,45	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
ゴヒイキカンジンチョウ 御摂勸進帳	058	06-04,46	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
ゴヒイキカンジンチョウ 御摂勸進帳	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
ゴヒイキソガウルウショウガツ 御摂曾我閨正月	219	23-01,30	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ゴヒイキソガウルウショウガツ 御摂曾我閨正月	243	25-01,24	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
ゴヒイキメグミノアマゴイ 御摂恵雨乞	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
コビキチョウソガノタマモノ 木挽町曾我賜物	013	02-05,52	外郎売 ウイロウリ【時代物】
コビキチョウソガノタマモノ 木挽町曾我賜物	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ゴフウドキカブキノホンヨミ 後風土記劇本読	169	18-06,42	天目山 テンモクザン【時代物】
ゴフウドキカブキノホンヨミ 後風土記劇本読	181	19-10,43	鳥居強右衛門 トリスネエモン【時代物】
ゴフウドキセンテノジョウセキ 暮風土記魁升形	169	18-06,42	天目山 テンモクザン【時代物】
ゴフウドキセンテノジョウセキ 暮風土記魁升形	181	19-10,42	鳥居強右衛門 トリスネエモン【時代物】
コボリセイダンテンニンムスメ 小堀政談天人娘	031	03-11,68	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
コマ 独楽	086	08-11,27	独楽 コマ【舞踊】
コマウリ 独楽売	086	08-11,27	独楽 コマ【舞踊】
コマチショウショウミチユキ 小町少将道行	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
コマチベニカブキノヨソオイ 小町紅歌舞伎粧	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】

コマチムスメウワサノタカオカ 小町娘名声高岡	229	23-11,16	本郷小町娘 ホンゴウコマチムスメ【世話物】
コマチムランバイショウガツ 小町村芝居正月	025	03-05,64	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
コマチムランバイショウガツ 小町村芝居正月	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
コマチムランバイショウガツ 小町村芝居正月	045	05-01,45	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
コマチムランバイショウガツ 小町村芝居正月	235	24-05,22	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
コマムカイトノミノツミコミ 駒迎田実入魁込	195	20-12,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
コマヤマトクモイノシラナミ 高麗大和皇白浪	042	04-10,69	女五右衛門 オンナゴエモン【時代物】
コムソウ 虚無僧	086	08-11,28	虚無僧 コムソウ【舞踊劇】
コムロブシニシキノエドイリ 小室節錦江戸入	035	04-03,70	男重の井 オトコシゲノイ【世話物】
コメヤ 米屋[戯曲通称]	086	08-11,29	双蝶々曲輪日記 フタツチョウウチョウクルワニツキ
コメヤシンジュウ 米屋心中	031	03-11,70	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
コモチタカオマツノミサオ 子持高尾松貞節	086	08-11,29	子持高尾 コモチタカオ【世話物】
コモチヤマンバ 嫗山姥	087	09-02,41	嫗山姥 コモチヤマンバ【時代物】
コモチヤマンバ 嫗山姥	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
コモチヤマンバ 嫗山姥	263	26-09,21	頼光 ヨリミツ【時代物】
コヨミ 暦	087	09-02,41	暦 コヨミ【時代物】
ゴリンクダキ 五輪砕	257	26-03,26	義経 ヨシツネ【時代物】
コレタカコレヒトクライアラソイ 惟喬惟仁位諍[古浄瑠璃]	235	24-05,20	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
コレタカコレヒトミクライアラソイ 惟喬惟仁御位諍[並木正三]	009	02-01,60	伊勢物語 イセモノガタリ【時代物】
コレタカシンノウマジュツノカンムリ 惟喬親王魔術冠	235	24-05,21	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
コレハヒョウバンウキナノヨミウリ 是評判浮名読売	161	17-06,15	ちよい乗せ チョイノセ【世話物】
コレハホンジョナナフシギ 当本所七不思議	230	23-12,17	本所七不思議 ホンジョナナフシギ【世話物】
コレハミョウガキタイノリョウヤク 是茗荷奇代良薬	267	27-01,27	忘れ草 ワスレグサ【舞踊劇】
コロモサクラソガノミナト 頃桜曾我湊	013	02-05,51	岩倉宗玄 イワクラソウゲン【時代物】
コロモサクラソガノミナト 頃桜曾我湊	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
コロモヤヨイハナゴノケイス 頃宿花児譜	123	12-06,33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ゴンゲ 権下[通称]	088	09-03,42	其小唄夢廓 ソノコウタユメノヨシワラ
コンゲンクサズリビキ 根元草摺引[1759 江戸]	065	06-12,33	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
コンゲンクサズリビキ 根元草摺引[1884 東京]	065	06-12,33	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
コンゲンシダワゴウノタマ 根元信田和合玉	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
コンゲンソガ 根元曾我	102	10-07,22	敷皮曾我 シキガワソガ【時代物】
コンゲンソガ 根元曾我	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
コンゲンチャノユヤカタ 根本茶湯楼	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
コンゲンナナコマチ 混元七小町	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ゴンザゴンバチ 権三権八[通称]	092	09-07,46	御国入曾我中村 オクニイリソガナカムラ
ゴンザゴンバチ 権三権八[通称]	098	10-03,25	御国入曾我中村 オクニイリソガナカムラ
ゴンザトスケジュウ 権三と助十	087	09-02,43	権三助十 ゴンザスケジュウ【世話物】
ゴンジョウ 権上[通称]	088	09-03,42	其小唄夢廓 ソノコウタユメノヨシワラ
コンビラリショウオササアダウチ 金比羅利生稚鬘	089	09-04,42	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】

コンレイオトワノタキ 婚礼音羽滝	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
サイカイタイヘイキ 西海太平記	096	09-11,21	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
サイギョウホウシスミゾメザクラ 西行法師墨染桜	089	09-04,43	西行 サイギョウ【時代物】
サイゴウトオオクボ 西郷と大久保	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
サイゴウトフタヒメ 西郷と豚姫	090	09-05,39	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
サイトウゴサクラニッキ 斎藤吾佐倉日記	092	09-07,41	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
サイハンウタザイモン 再版歌祭文	161	17-06,15	ちよい乗せ チョイノセ【世話物】
サイミョウジドノヒャクニンジョウロウ 最明寺殿百人上臈	044	04-12,43	女鉢木 オンナハチノキ【時代物】
サイミョウジドノヒャクニンジョウロウ 最明寺殿百人上臈	203	21-08,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
サイワイソガナカムラ 遇首我中村	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
サオノウタキツツガワハツケイ 樟歌木津川八景	061	06-07,44	木津勘助 キツカンスケ【世話物】
サカイカイチョウミマスノハナゴロモ 堺開帳三升花衣	266	26-12,22	蓮生譚 レンショウモノガタリ【時代物】
サカキバラタカオ 榊原高尾	091	09-06,35	榊原高尾 サカキバラタカオ【お家物】
サカサキデワノカミ 坂崎出羽守[1921/山本有三]	091	09-06,36	坂崎出羽守 サカサキデワノカミ【時代物】
サカサキデワノカミ 坂崎出羽守[1926/松居松翁]	091	09-06,36	坂崎出羽守 サカサキデワノカミ【時代物】
サカサキデワノカミ 坂崎出羽守[1934/真山青果]	091	09-06,36	坂崎出羽守 サカサキデワノカミ【時代物】
サガテンノウカンロノアメ 嵯峨天皇甘露雨	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
サカノウエタムラマロ 坂上田村麿	155	16-03,22	田村將軍 タムラショウケン【時代物】
サガノオクヨウミョウキダン 嵯峨奥妖猫奇談	189	20-06,38	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
サガノノメイゲツ 嵯峨野の名月	184	20-01,37	仲国 ナカクニ【舞踊劇】
サガボウドウキ 佐賀暴動記	021	03-01,33	江藤新平 エトウシンベイ【世話物】
サカマチヨイノヨツツジ 坂町宵四辻	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
サガミニユドウセンビキイヌ 相模入道千疋犬	148	14-12,27	高時 タカトキ【時代物】
サカヤウタコイノナカクミ 酒肆諷恋酌	027	03-07,64	お菊幸助 オククコウスケ【世話物】
サキカエセユキノミヨシノ 莊雪三吉野	257	26-03,24	義貞 ヨシサダ【時代物】
サキガケゲンベイツツジ 魁源平躑躅	022	03-02,32	扇屋熊谷 オウギヤクマガイ【時代物】
サキガケナンバセンキ 魁難波戦記	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
サキガケナンバセンキ 魁難波戦記	093	09-08,34	真田の張抜筒 サナダノハリヌキツツ【時代物】
サキシムルレンリノキヨモト 詠梅松清元	159	17-04,27	茶筌売 チャセンウリ【舞踊劇】
サキマサウメノカチドキ 開増梅憎楽	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
サキワケハナノニシキエ 咲分花錦絵	144	14-06,28	対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
サクヤコノハナノヤツツサ 咲梅の八房	205	21-10,37	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
サクラギミンビメイノホマレ 佐倉義民美名誉	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
サクラゴテンゴジュウサンツギ 桜御殿五十三駅	009	02-01,62	一休禪師 イッキョウゼンジ【時代物】
サクラサクラキヨミズセイゲン 桜清水清玄	092	09-07,44	桜餅 サクラモチ【世話物】
サクラシグレ 桜時雨	259	26-05,25	吉野太夫 ヨシノダユウ【世話物】
サクラシンエマキ 佐倉新絵巻	092	09-07,43	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
サクラソウシゴニチブンダン 桜荘子後日文談	047	05-03,48	柿木金助 カキノキンスケ【世話物】
サクラソウシゴニチブンダン 桜荘子後日文談	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】

サクラダイナルトノイケウオ 桜鯛鳴門鮮	007	01-07,58	阿波の十郎兵衛 アワノジュウロベエ【お家世話物】
サクラツバウラミノサメザヤ 桜鱧恨鮫鞘	016	02-08,58	鰻谷 ウナギタニ【世話物】
サクラドキゼニノヨノナカ 何桜彼桜銭世中	214	22-08,28	ベニスの商人 ベニスノシヨウニン【世話物】
サクラドキハナノヨシワラ 桜時花吉原	222	23-04,40	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
サクラノゴシヨ 桜の御所	234	24-04,32	三浦荒次郎 ミウラアラジロウ【時代物】
サクラヒメアズマブンシヨウ 桜姫東文章	125	12-08,34	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
サクラヒメアズマブンシヨウ 桜姫東文章	157	16-05,18	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
サクラヒメシズノヒメザクラ 桜姫賤姫桜	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
サクラヒメミサオタイゼン 桜姫操大全	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
サクラブタイオウオミハツケイ 桜舞台近江八景	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
サクラブタイマクノダテゾメ 桜舞台幕伊達染	082	08-07,29	小助 コスケ【世話物】
サクラモノグルイ 桜もの狂い	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
サクラモミジオウミハツケイ 桜紅葉近江八景	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
サクラヤマニユウドウ 桜山入道	241	24-11,17	処女勸進帳 ムスメカンジンチョウ【時代物】
ササガウィツケ 笹川一家	126	12-09,31	勢力 セイリキ【世話物】
ササキサプロウフジトニッキ 佐々木三郎藤戸日記	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
ササキセンジン 佐々木先陣	246	25-04,26	盛綱 モリツナ【時代物】
ササキタカツナ 佐々木高綱	092	09-07,45	佐々木高綱 ササキタカツナ【時代物】
ササムスピトワタルフネ 笹結渡涉船	039	04-07,55	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ササメゴトヒヨクノトリガネ 当比翼鳥鐘	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
サザレイシゴタイハイキ 硝後太平記	160	17-05,29	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
サザレイシゴタイハイキ 硝後太平記	209	22-03,36	引揚 ヒキアゲ【お家物】
サザレイシスエヒロソガ 礫末広曾我	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
サザレイシスエヒロソガ 礫末広曾我	171	18-09,47	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
サザレイシスエヒロソガ 礫末広曾我	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
サザレイシスエヒロソガ 礫末広曾我	208	22-02,39	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
サザレイシスエヒロソガ 礫末広曾我	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
サザレイシヨツギノコトブキ 巖幾代寿舞	268	27-02,30	椀久 ワンキュウ【世話物】
サシカゴ さし駕籠[戯曲通称]	093	09-08,31	芦屋道満大内鑑 アシヤドウマンオオウチカガミ
サシモノシメイジンチョウジ 指物師名人長次	243	25-01,23	名人長次 メイジンチョウジ【世話物】
サダスケゴンバチ 定助権八	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
サダトウムネトウ 貞任宗任	256	26-02,27	義家 ヨシイエ【時代物】
サツキアメヌレタナカチヨウ 梅雨濡仲町	239	24-09,35	美代吉殺し ミヨキチゴロシ【世話物】
サツキギクナニシオツエ 五月菊名大津絵	216	22-10,28	藤娘 フジムスメ【舞踊】
サツキハナヨシオカゾメ 皐花吉岡染	070	07-05,41	慶安太平記 ケイアンタイハイキ【お家世話物】
サツキハナヨシオカゾメ 皐花吉岡染	238	24-08,19	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
サツキバレウエノノアサカゼ 皐月晴上野朝風	013	02-05,54	上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
サツキフジソガノハツユメ 皐富士曾我初夢	004	01-04,49	朝比奈釣狐 アサイナツリギツネ【舞踊劇】
サツキフジソガノハツユメ 皐富士曾我初夢	042	04-10,68	女工藤 オンナクドウ【時代物】

サツキマツソガノタチバナ 皐需曾我橋	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
サツキマツソガノタチバナ 皐需曾我橋	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
サツキレンガコイノシラナミ 皐連歌恋句白浪	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
サツキレンガコイノシラナミ 皐連歌恋句白浪	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
サツマウタ 薩摩歌	093	09-08,32	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
サツマウタゲイコカガミ 薩摩歌妓鑑	143	14-05,20	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
サツマウタテゴトノヒキソメ 薩摩歌九字弾初	083	08-08,46	五大力 ゴダイリキ【世話物】
サツマガタナミマノツキカゲ 薩摩湯浪間月影	090	09-05,39	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
サツマグシ 薩摩櫛	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
サツマナマリナサケノヒトフシ 薩摩訛情諷	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
サツマノカミタダノリ 薩摩守忠度	151	15-05,24	忠度 タダノリ【時代物】
サトウタダノブハツカシヨウガツ 佐藤忠信廿日正月	084	08-09,30	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
サトゲシキキノチャノユ 廓景色雪の茶会	060	06-06,41	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
サトコトバアワセカガミ 青楼詞合鏡	094	09-09,33	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
サトソダチモンビノヒナガタ 禿紋日雛形	007	01-07,57	粟島 アワシマ【時代物】
サトノイロアゲ 廓色揚	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
サトノハルコイノタネマキ 廓春情恋の種時	248	25-06,28	櫓三番 ヤグラサンバ【舞踊】
サトノハレギモミジノウチカケ 廓曠着紅葉襦袢	086	08-11,29	子持高尾 コモチタカオ【世話物】
サトノミサオムケンノカネゴト 廓操無間の鐘優	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
サトミハッケンシユウデン 里見八犬士勇伝	006	01-06,60	荒芽山 アラメヤマ【時代物】
サトミハッケンシユウデン 里見八犬士勇伝	205	21-10,37	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
サトミハッケンデン 里見八犬伝[1852 江戸]	143	14-05,22	対牛楼 タイギウロウ【お家物】
サトミハッケンデン 里見八犬伝[1852 江戸]	205	21-10,37	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
サトミハッケンデン 里見八犬伝[1868 江戸]	205	21-10,37	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
サトモヨウヒヨクノイナズマ 廓模様比翼稲妻	224	23-06,22	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
サナダウチイトノカケヒキ 真田打絲綬	093	09-08,34	真田の張抜筒 サナダノハリヌキツツ【時代物】
サナダサンダイキ 真田三代記	094	09-09,30	真田幸村 サナダユキムラ【時代物】
サネモリモノガタリ 実盛物語[通称]	094	09-09,31	源平布引滝 ゲンベイヌノビキノタキ
サノケイズソガノゴシヨソメ 佐野譜曾我館染	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
サノケイズユイシヨシラベ 佐野系図由緒調	154	16-02,26	田沼騒動 タヌマソウドウ【お家物】
サノゲンザエモン 佐野源左衛門	203	21-08,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
サノゲンザエモンナサケノハチノキ 佐野源左衛門情之鉢木	203	21-08,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
サノジロザエモン 佐野次郎左衛門	049	05-05,43	籠釣瓶 カゴツルベ【世話物】
サノツネヨハレノメンジョウ 佐野経世誉免状	204	21-09,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
サヨギヌタウツノヤトウゲ 小夜碓宇都谷峠	224	23-06,24	文弥殺し ブンヤゴロシ【世話物】
サヨゴロモオシノツルギバ 狭夜衣鴛鴦剣翅	021	03-01,37	塩谷判官 エンヤハンガン【時代物】
サヨノナカヤマ さよの中山	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
サヨノナカヤマツリガネノユライ 小夜中山鐘由来	104	10-09,18	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
サヨノナカヤマツリガネノユライ 小夜中山鐘由来	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】

サヨノナカヤマツリガネノユライ 小夜中山鐘由来	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
サヨノナカヤマヒイキノツリガネ 狭夜中山籠釣鐘	028	03-08,68	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
サラシメノラクガン 晒女の落鷹	096	09-11,21	晒女 サラシメ【舞踊】
サラヤシキケショウノスガタミ 皿屋敷化粧姿見	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
サルマワシカドデノヒトフシ 猿曳門出諷	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
サルワカ 猿若	097	10-01,18	猿若 サルワカ【舞踊劇】
サルワカサカエソガ さるわか栄曾我	140	14-02,28	曾我 ソガ【時代物】
サルワカサカエソガ さるわか栄曾我	241	24-11,52	娘七種 ムスメナナクサ【舞踊劇】
サルワカサンチョウメイカノカチドキ 猿若三鳥名歌関	085	08-10,27	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
サルワカサンチョウメイカノカチドキ 猿若三鳥名歌関	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
サルワカバンザイブタイ 猿若万代厦	198	21-03,39	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
サルワカバンダイブタイ 猿若万代厦	001	01-01,40	あいごの若 アイゴノワカ【 】
サルワカヒサゴノグンバイ 猿若瓢軍配	027	03-07,65	小倉山 オグラヤマ【舞踊劇】
サルワカヒサゴノグンバイ 猿若瓢軍配	053	05-10,39	鎌髭 カマヒゲ【時代物】
サルワカヒサゴノグンバイ 猿若瓢軍配	147	14-10,28	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
サルワカヒサゴノグンバイ 猿若瓢軍配	252	25-10,15	山鳥 ヤマドリ【舞踊劇】
サレバニヤコイノオモニ 去程恋重荷	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
サレバニヤコイノオモニ 去程恋重荷	246	25-04,26	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
サウムラサキイロノミナカミ 沢紫色水上	220	23-02,29	船の高尾 フネノタカオ【舞踊劇】
サンカイナゴヤ 参会名護屋	106	10-11,18	暫 シバラク【時代物】
サンカイナゴヤ 参会名護屋	223	23-05,30	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
サンカイヤゴヤ 参会名護屋	095	09-10,28	鞘当 サヤアテ【時代物】
サンガツオウギノエアワセ 大都会成扇絵合	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
サンガツオウギノエアワセ 大都会成扇絵合	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
サンカツグシアカネノイロザシ 三勝櫛赤根色指	098	10-03,27	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
サンカツハンシチアカネノイロアゲ 三勝半七茜色揚	097	10-01,18	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
サンガノショウソガノシマダイ 三賀荘曾我島台	034	04-02,63	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
サンガノショウソガノシマダイ 三賀荘曾我島台	092	09-07,46	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
サンガノショウソガノシマダイ 三賀荘曾我島台	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイメン【時代物】
サンガノショウムロノハナヨメ 三庄睦花嫩	044	04-12,44	女尻駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】
サンガノショウユキノタマモノ 三箇荘雪賜	204	21-09,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
サンゲンキキョウガハラ 三軍桔梗原	057	06-03,43	川中島 カワナカジマ【時代物】
サンゴクミアゲドウロウ 和漢笠組上灯籠	101	10-06,19	三人石橋 サンニンシャッキョウ【舞踊劇】
サンゴクサンチョウリョウヤクバナシ 三国三朝良薬断	267	27-01,27	忘れ草 ワスレグサ【舞踊劇】
サンゴクブソウヒサゴノグンバイ 三国無双瓢軍扇	051	05-08,46	堅田落 カタタオチ【時代物】
サンゴクブソウヒサゴノグンバイ 三国無双瓢軍扇	147	14-10,28	大徳寺 ダイトクジ【時代物】
サンゴクブソウヤッコノウケジョウ 三国無双奴請状	144	14-06,30	太閤記 タイコウキ【時代物】
サンゴクヨウコモノガタリ 三国妖狐物語	098	10-03,28	三国妖狐 サンゴクヨウコ【舞踊劇】
サンゴクヨウフデン 三国妖婦伝	155	16-03,20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】

サンジツコクヨフネノハジマリ 三十石燈始	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
サンジツコクヨフネノハジマリ 三十石燈始	099	10-04,17	三十石 サンジツコク【お家物】
サンジャノタクセン 三社託宣	159	17-04,30	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
サンジウサンネンキタモトノシラシボリ 卅三年忌袂白絞	033	04-01,61	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
サンシユウビョウブガウラ 讃州屏風浦	077	08-02,32	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
サンシヨウダユウ さんせう太夫[説経与七郎]	100	10-05,17	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウ 山椒太夫[岡本文弥]	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウ 山椒太夫[伊藤出羽掾]	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウ 三莊太夫[1707京]	100	10-05,19	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウコガネノトリドシ 三莊太夫金鶏歳	100	10-05,19	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウゴニンムスメ 三莊太夫五人嬢	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウヨシワラスズメ 山椒太夫霞原雀	010	02-02,58	茨木屋幸齋 イバラキヤコウサイ【世話物】
サンシヨウダユウヨシワラスズメ 山椒太夫霞原雀	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウダユウレンボノミナト 山椒太夫恋慕湊	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンシヨウダユウ【時代物】
サンシヨウマスマイリノチョウジメ 三升榊勝鬨帳貫	212	22-06,37	雛鶴三番 ヒナヅルサンバ【舞踊劇】
サンシヨウマスマイリノチョウジメ 三升榊勝鬨帳貫	246	25-04,26	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
サンゼソウエニシノオグルマ 三世相縁の緒車	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
サンゼソウエニシノホンアミ 三世相縁本阿弥	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
サンゼソウニシキブンシヨウ 三世相錦繡文章	032	03-12,63	お園六三 オソノロクサ【世話物】
サンゼソウニシキブンシヨウ 三世相錦繡文章	099	10-04,16	三社祭 サンジャマツリ【舞踊劇】
サンゼソウニシキブンシヨウ 三世相錦繡文章	211	22-05,39	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
サンゼドウジョウジ 三世道成寺	171	18-09,46	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
サンゼニガビヤクドウ 三世二河白道	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
サンゼンセカイヤリクリオウライ 三千世界商往来	126	12-09,32	世界巡り セカイメグリ【時代物】
サンゼンリョウタカラノワカヤマ 三千両宝和歌山	016	02-08,59	馬切 ウマキリ【お家物】
サンダイバナシコウザノシンサク 三題嘶高座新作	053	05-10,41	髪結藤次 カミユイトウジ【世話物】
サンダイバナシトヤノチャワン 三題嘶魚屋茶碗	180	19-08,38	魚屋の茶碗 トヤノチャワン【世話物】
サンタマリア 聖母	006	01-06,56	天草軍記 アマクサゲンキ【時代物】
サンドガサコイノノリカケ 三度笠恋の乗掛	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
サンニンキチサクルワノハツガイ 三人吉三廓初買	101	10-06,18	三人吉三 サンニンキチサ【世話物】
サンニンキチサクルワノハツガイ 三人吉三廓初買	224	23-06,24	文里一重 フンリヒトエ【世話物】
サンニンキチサトモエノシラナミ 三人吉三巴白浪	101	10-06,19	三人吉三 サンニンキチサ【世話物】
サンニンシャッキョウ 三人石橋	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
サンニンシャッキョウ 三人石橋	109	11-02,29	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
サンニンマトリ 三人真鳥	025	03-05,64	大友真鳥 オオトモノマトリ【時代物】
サンニンワライ 三人笑い[戯曲通称]	101	10-06,21	新薄雪物語 シンウスユキモノガタリ
サンニンワライココロノアイツチ 三人笑意中合槌	015	02-07,56	薄雪 ウスユキ【時代物】
サンバガラスヤマシロメイシヨ 三羽鳥山城名所	248	25-06,29	安田作兵衛 ヤスタサクベエ【時代物】
サンブクツイウタノスガタエ 三幅対和歌姿画	035	04-03,72	男舞 オトコマイ【舞踊】

サンブクツイウタノスガタエ 三幅対和歌姿画	047	05-03,47	加賀屋の狂乱 カガヤノキョウラン【舞踊】
サンブクツイウタノスガタエ 三幅対和歌姿画	200	21-05,43	俳諧師 ハイカイシ【舞踊劇】
サンブクツイカキソメソガ 三幅対書初首我	072	07-07,37	毛剃 ケソリ【世話物】
サンブクツイカブキノイロドリ 三幅対戯場彩色	095	09-10,29	鞆当 サヤアテ【時代物】
サンブクツイメイカノアマゴイ 三幅対名歌雨乞	006	01-06,57	雨舎り アマヤドリ【舞踊劇】
サンブゴウウツスゲントウ 三府五湊写幻灯	101	10-06,21	三府五港 サンブゴコウ【世話物】
サンボンギカワラノシンジュウ 三本木河原の心中	031	03-11,70	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
サンモンゴサンノキリ 楼門五三桐	101	10-06,22	楼門の五右衛門 サンモンノゴエモン【時代物】
シアクナナシマオサナジンドリ 塩飽七島稚陣取	263	26-09,19	頼政 ヨリマサ【時代物】
シイレソガカリガネソメ 仕入曾我鷹金染	055	05-12,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
シイレモノレンリノオビヤ 仕人物連理帯屋	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
シオガマダイジン 塩竈大臣	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
シオザカイナナクサバナシ 汐境七草嘸	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】
シオバラタスケイチダイキ 塩原多助一代記	102	10-07,22	塩原多助 シオバラタスケ【世話物】
シオバラタスケケイザイカガミ 塩原多助経済鑑	102	10-07,21	塩原多助 シオバラタスケ【世話物】
シオバラニダイカガミ 塩原二代鑑	102	10-07,22	塩原多助 シオバラタスケ【世話物】
シカイタイヘイモチツキノコマ 四海太平望月駒	129	12-12,28	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
シカクバシラサルノクセマイ 三升猿曲舞	097	10-01,18	猿舞 サルマイ【舞踊劇】
シカケノソデウキナノカエモン 仕掛袖浮名替紋	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
シガノカタキウチ 志賀の敵討	202	21-07,35	芭蕉 バショウ【時代物・お家物】
シカマノカチンゾメ 飾間襦布染	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
シガヤマサンバソウ 志賀山三番叟[通称]	104	10-09,20	再春松種蒔 マタクルハルズズナノタネマキ
シカンケイセイ 芝翫傾城	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
シキウツシイロハニッキ 真写いろは日記	150	15-03,26	宅兵衛上使 タクベエジョウシ【お家物】
シキウツシイロハニッキ 真写いろは日記	232	24-02,20	松切り勘平 マツキリカンベイ【お家物】
シキウツシココロノハナカゴ 四季写手向花籠	147	14-10,30	内裏雛 ダイリヒナ【舞踊】
シキウツシトサエノフツツカ 四季写土佐画拙	036	04-04,70	乙姫 オトヒメ【舞踊】
シキウツシトサエノフツツカ 四季写土佐画拙	053	05-10,40	雷 カミナリ【舞踊】
シキウツシトサエノフツツカ 四季写土佐画拙	253	25-11,21	夕月船頭 ユウツキセンドウ【舞踊】
シキガワモンドウ 敷皮問答[戯曲通称]	102	10-07,23	夜討曾我狩場曙 ヨウチソガカリバナアケボノ
シキサンコンカグラジン 式三献神楽獅子	260	26-06,23	淀屋辰五郎 ヨドヤツツゴロウ【世話物】
シキシマミサオグンキ しぎしま操軍記	216	22-10,29	藤原純友 フジワラスミトモ【時代物】
シキトリドリテイレノハチウエ 四季眺所作の花	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
シキノナガメマルニイノトシ 四季詠い歳	187	20-04,46	夏船頭 ナツセンドウ【舞踊】
シキノナガメマルニイノトシ 四季詠い歳	248	25-06,28	屋敷娘 ヤシキムスメ【舞踊】
シキノナガメメイガノタマクラ 四季眺栄華手枕	267	27-01,26	艦清の夢 ロセイノユメ【世話物】
シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	050	05-07,46	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	051	05-08,47	松魚売 カツオウリ【舞踊】
シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】



シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	092	09-07,41	鶯娘 サギムスメ【舞踊劇】
シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	208	22-02,40	半田稲荷 ハンダイナリ【舞踊】
シキノナガメヨセテミツダイ 四季詠寄三大字	212	22-06,37	雛人形 ヒナニンギョウ【舞踊】
シキノヒナアサクサハツケイ 時翫雑浅草八景	004	01-04,52	浅草霊験記 アサクサレイゲンキ【時代物】
シキノヒナアサクサハツケイ 時翫雑浅草八景	099	10-04,16	三社祭 サンジャマツリ【舞踊劇】
シキノヒナアサクサハツケイ 時翫雑浅草八景	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
シキノヒナアサクサハツケイ 時翫雑浅草八景	267	27-01,26	和歌三神 ワカサンジン【舞踊劇】
シキノワンキュウ 四季の椀久	211	22-05,39	一人椀久 ヒトリワンキュウ【舞踊】
シギハマグリ 鳴蛤[戯曲通称]	103	10-08,32	国性爺合戦 コクセンヤカッセン
シキフウリュウサイシキオウギ 四季風流彩色扇	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
シキモヨウシラヌイモノガタリ 四季模様白縫譚	115	11-09,18	白縫 シラヌイ【時代物】
シキレイイマガワジョウ 式例今川状	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
シキレイヤワラギソガ 式例和笄我	120	12-03,15	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
シグレグモムライノヤレガサ 時雨雲村井破傘	242	24-12,23	村井長庵 ムライチョウアン【世話物】
シグレサイギョウ 時雨西行	103	10-08,32	時雨西行 シグレサイギョウ【舞踊劇】
シゲリカゲケイオウニツキ 茂辰影慶応日記	013	02-05,54	上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
シジュウシチコクチュウヤドケイ 四十七刻忠筋計	108	11-01,21	清水一角 シミズイッカク【お家物】
シジュウシチコクチュウヤドケイ 四十七刻忠筋計	110	11-03,18	十二時忠臣蔵 ジュウニトキチュウシングラ【お家物】
シジュウシチコクチュウヤドケイ 四十七刻忠筋計	255	26-01,19	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
シジュウハツテコイノショワケ 四十八手恋所訳	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
シジュウハツテコイノショワケ 四十八手恋所訳	123	12-06,35	相撲 スモウ【舞踊劇】
ジシュコウ 十種香[戯曲通称]	111	11-04,15	本朝廿四孝 ホンチョウニジュウシコウ
シズカ 静	104	10-09,16	静御前 シズカゴゼン【時代物】
シズカアズマクダリ 静あづまくだり	103	10-08,36	静御前 シズカゴゼン【時代物】
シズカホウラクノマイ 静法楽の舞	103	10-08,36	静御前 シズカゴゼン【時代物】
シセンリョウイチョウノアイモン 四千両銀杏合紋	104	10-09,18	四千両 シセンリョウ【世話物】
シセンリョウコバンノウメノハ 四千両小判梅葉	104	10-09,18	四千両 シセンリョウ【世話物】
ジダイセワオンナセツヨウ 時代世話女節用	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
ジダイセワスイコデン 盟話水滸伝	194	20-11,32	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
シダカイケイザン 信田会稽山	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
シタダシサンバソウ 舌出し三番叟[通称]	154	16-02,27	翁草恋種蒔 オキナグサコイノタネマキ
シダチョウジャバシラ 信田長者柱	104	10-09,19	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
シタテオロシサツマジョウフ 仕立卸薩摩上布	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
シタテバエムカシハチジョウ 仕立花昔綺	029	03-09,70	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
シダノコタロウ 信田小太郎	104	10-09,18	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
シダヤカタミツギノフナウタ 信田館貢物船謡	026	03-06,64	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
シダユズリハホウライソガ 信田樗蓬菜曾我	018	02-10,52	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
シチキオチ 七騎落	104	10-09,21	七騎落 シチキオチ【時代物】
シチジノハナアリシエスガタ 七字の花在姿絵	010	02-02,55	田舎巫女 イナカミコ【舞踊】

シチニンピクニ 七人比丘尼	234	24-04,30	摩耶山 マヤサン【時代物】
シチフクジン 七福神	104	10-09,21	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
シチフクジンタイメン 七福神対面	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
シチマイツツキハナノスガタエ 七枚続花の姿絵	057	06-03,44	関羽 <sup>2</sup> カンウ【舞踊】
シチマイツツキハナノスガタエ 七枚続花の姿絵	059	06-05,49	願人坊主 ガンニンボウス【舞踊劇】
シチマイツツキハナノスガタエ 七枚続花の姿絵	102	10-07,21	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
シチマイツツキハナノスガタエ 七枚続花の姿絵	266	26-12,23	老女 ロウジョ【舞踊】
シチャノクラココロノイレカエ 質庫魂入替	104	10-09,22	質屋庫 シチャノクラ【世話物】
ジツアクシチビョウエカゲキヨ 実悪七兵衛景清	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ジツゲツセイキョウウセイダン 日月星享和政談	021	03-01,36	延命院 エンメイイン【世話物】
ジツゲツセイチュウヤノオリワケ 日月星昼夜織分	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
ジツゲツセイチュウヤノオリワケ 日月星昼夜織分	265	26-11,26	流星 リュウセイ【舞踊劇】
ジツロクウメガワチュウベエ 実録梅川忠兵衛	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ジツロクセンリョウノボリ 実録千両幟	131	13-04,25	千両幟 センリョウノボリ【世話物】
ジツロクタマモノマエ 実録玉藻前	155	16-03,22	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
ジツロクチュウシングラ 実録忠臣蔵	105	10-10,28	実録忠臣蔵 ジツロクチュウシングラ【お家物】
ジツロクチュウシングラ 実録忠臣蔵	161	17-06,22	土屋主税 ツチャチカラ【お家物】
シテンノウブユノタマガワ 四天王産湯玉川	009	02-01,62	市原野 イチハラノ【舞踊劇】
シテンノウブユノタマガワ 四天王産湯玉川	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
シテンノウブユノタマガワ 四天王産湯玉川	106	10-11,19	暫 シバラク【時代物】
シテンノウブユノタマガワ 四天王産湯玉川	111	11-04,17	酒吞童子 シュテンドウジ【時代物】
シテンノウブユノタマガワ 四天王産湯玉川	134	13-07,18	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
シテンノウオエドノカブラヤ 四天王御江戸鍋	206	21-11,36	花咲綱五郎 ハナサキツナゴロウ【舞踊劇】
シテンノウオオエヤマイリ 四天王大江山入	111	11-04,18	酒吞童子 シュテンドウジ【時代物】
シテンノウオオエヤマイリ 四天王大江山入	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
シテンノウオオエヤマイリ 四天王大江山入	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】
シテンノウジオサナモクソウ 四天王寺稚木像	210	22-04,36	飛騨内匠 ヒダノタクミ【時代物】
シテンノウジガランカガミ 四天王寺伽藍鑑	113	11-07,22	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
シテンノウジガランカガミ 四天王寺伽藍鑑	210	22-04,37	飛騨内匠 ヒダノタクミ【時代物】
シテンノウジノボリクヨウ 四天王寺幟供養	113	11-07,22	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
シテンノウセキヤブリ 四天王関破	263	26-09,20	頼光 ヨリミツ【時代物】
シテンノウトノイノキセワタ 四天王宿直着綿	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
シテンノウトノイノキセワタ 四天王宿直着綿	068	07-03,44	蜘蛛拍子舞 クモノヒョウシマイ【舞踊劇】
シテンノウトノイノキセワタ 四天王宿直着綿	263	26-09,21	頼光 ヨリミツ【時代物】
シテンノウマスカガミ 四天王十寸鏡	080	08-05,30	小四天王 コシテンノウ【時代物】
シテンノウムシャシュギョウ 四天王武者執行	080	08-05,30	小四天王 コシテンノウ【時代物】
シテンノウモミジノエドグマ 四天王楓江戸粧	045	05-01,46	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
シテンノウモミジノエドグマ 四天王楓江戸粧	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
シテンノウモミジノエドグマ 四天王楓江戸粧	133	13-06,43	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】

シテンノウモミジノエドグマ 四天王楓江戸粧	221	23-03,22	振袖山姥 フリソデヤマンバ【舞踊劇】
シテンノウモミジノエドグマ 四天王楓江戸粧	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】
シテンノウヤグラノイシズエ 四天王櫓礎	134	13-07,18	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
シテンノウヤグラノイシズエ 四天王櫓礎	235	24-05,18	三日月お仙 ミカヅキオセン【時代物】
シドウジ 志渡寺[戯曲通称]	105	10-10,28	花上野誉の石碑 ハナノウエノホマレノイシブミ
ジトウテンノウウタゲンボウ 持統天皇歌軍法	105	10-10,28	持統天皇 ジトウテンノウ【王代物】
ジトウテンノウミヤコウツシ 持統天皇都移	105	10-10,28	持統天皇 ジトウテンノウ【王代物】
シドデラ 志渡寺[通称]	089	09-04,42	花上野誉の石碑 ハナノウエノホマレノイシブミ
シナサダメソウマノモンビ 粧相馬紋日	007	01-07,57	粟島 アウシマ【時代物】
シナサダメソウマノモンビ 粧相馬紋日	036	04-04,70	音羽丹七 オトワタンシチ【世話物】
シナサダメソウマノモンビ 粧相馬紋日	059	06-05,48	関東小六 カントウコロク【時代物】
シナドノカゼゲンコウゲンキ 科戸風元寇軍記	244	25-02,21	蒙古襲来 モウコシュウライ【時代物】
シナノゲンジキソモノガタリ 信濃源氏木曾物語	258	26-04,21	義仲 ヨシナカ【時代物】
ジネンコジ 自然居士	105	10-10,29	自然居士 ジネンコジ【時代物】
ジネンコジカコモノガタリ 自然居士過去物語	105	10-10,29	自然居士 ジネンコジ【時代物】
ジネンコジソガモノガタリ 自然居士曾我物語	105	10-10,29	自然居士 ジネンコジ【時代物】
シノキリ 四の切[戯曲通称]	105	10-10,29	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
シノダツマ 信田妻[古浄瑠璃]	065	06-12,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
シノダツマ 信田妻[古浄瑠璃]	162	17-07,47	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
シノダツマ しのだづま[1699京]	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
シノダツマケワイノスガタミ 信田妻粧鏡	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
シノダツマゴニチ 信田妻後日	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
シノダノモリオンナウラカタ 信田森女占	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
シノハラカッセン 篠原合戦	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
シノピアウハルノユキドケ 忍逢春雪解	076	07-11,35	河内山 コウチャマ【世話物】
シノビグルマ 忍車	106	10-11,18	忍車 シノビグルマ【舞踊劇】
シノビグルマ 忍車	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
シノビヨルコイハクセモノ 忍夜恋曲者	016	02-08,57	善知鳥 ウトウ【時代物】
シノビヨルコイハクセモノ 忍夜恋曲者	231	24-01,21	将門 <sup>2</sup> マサカド【舞踊劇】
シノブガオカコイハクセモノ 忍岡恋曲者	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
シノブグサコイノウツシエ 垣衣恋写絵	106	10-11,18	垣衣草壳 シノブウリ【時代物・舞踊劇】
シノブグサコイノウツシエ 垣衣恋写絵	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
シノブグサコイノウツシエ 垣衣恋写絵	226	23-08,27	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
シノブグサタムケノホッシン 垣衣草手向発心	227	23-09,23	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
シノブグサチドリノモンビ 垣衣草千鳥紋日	045	05-01,44	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
シノブグサチドリノモンビ 垣衣草千鳥紋日	106	10-11,18	垣衣草壳 シノブウリ【時代物・舞踊劇】
シノブグサチドリノモンビ 垣衣草千鳥紋日	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
シノブコイスズメノイロドキ 忍恋雀色時	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
シマチドリオキツシラナミ 島千鳥沖津白浪	107	10-12,19	島千鳥 <sup>2</sup> シマチドリ【世話物】

シマチドリツキノシラナミ 島衛月白浪	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
シマチドリツキノシラナミ 島衛月白浪	107	10-12,18	島千鳥 <sup>1</sup> シマチドリ【世話物】
シマノセンザイジヨウワカナマエ 島の千歳女若の前	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
シマメグリイロノタメトモ 島廻色為朝	064	06-10,35	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
シマメグリイロノタメトモ 島廻色為朝	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
シマメグリウソノキキガキ 島廻戯聞書	082	08-07,30	五大力 コダイリキ【世話物】
シマメグリウソノキキガキ 島廻戯聞書	107	10-12,18	島津騒動 シマツソウドウ【お家物】
シマメグリツキノユミハリ 島廻月弓張	108	11-01,21	島の為朝 シマノタメトモ【時代物】
シマモノガタリウキナノタツナミ 島物語浮名立浪	020	02-12,39	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
シミズノジロチョウ 清水の次郎長	108	11-01,22	清水次郎長 シミズノジロチョウ【世話物】
シミンノハシラコツカノイシズエ 四民柱国家基礎	091	09-06,35	三枝譚 サエグサモノガタリ【お家物】
シメマシヨシメマシヨヒキノカケゴエ 七五三升撰喝采	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
シメロヤレイロノカケゴエ 能色相図	058	06-04,49	神田祭 カンダマツリ【舞踊劇】
シモノツルギソネザキシンジウ 霜剣曾根崎心中	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
シモヨノカネジウジノツジウラ 霜夜鐘十字辻笹	108	11-01,23	霜夜の鐘 シモヨノカネ【世話物】
ジャカゴガフチシットノアダナミ 蛇籠淵嫉妬仇浪	063	06-09,43	清姫 キヨヒメ【時代物】
ジャカニョライタンジョウエ 釈迦如来誕生会	108	11-01,23	釈迦 シャカ【時代物】
シャカノホンジ 釈迦の本地	108	11-01,23	釈迦 シャカ【時代物】
シャカハッソウキ 釈迦八相記	108	11-01,23	釈迦 シャカ【時代物】
シャツキョウ 石橋[地唄]	109	11-02,30	執着獅子 シュウジャクジシ【舞踊劇】
シャベリ しゃべり[通称]	087	09-02,41	姫山姥 コモチヤマンバ
シャベリ しゃべり[戯曲通称]	109	11-02,29	姫山姥 コモチヤマンバ
シャムロブネ 暹羅船	207	21-12,42	ハムレット ハムレット【世話物・お家物】
シャモンクウカイ 沙門空海	077	08-02,33	弘法大師 コウボウダイシ【時代物】
シュウイタイコウキ 拾遺太閤記	146	14-09,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
シュウゲンウツボザル 祝言鞆猿曳	015	02-07,58	鞆猿 ウツボサル【舞踊劇】
ジュウサンサイノヨリトモ 十三歳の頼朝	262	26-08,22	頼朝 ヨリトモ【時代物】
シュウシキザクラ 秋色桜	109	11-02,30	秋色 シュウシキ【世話物】
シュウシキザクラウエノノハヤザキ 秋色桜上野早咲	109	11-02,30	秋色 シュウシキ【世話物】
シュウジャクジシ 執着獅子	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
シュウジャクジシ 執着獅子	109	11-02,28	石橋 シャツキョウ【舞踊劇】
ジュウジョウゲンジモノグサタロウ 十帖源氏物ぐさ太郎	095	09-10,28	鞘当 サヤアテ【時代物】
ジュウジョウゲンジモノグサタロウ 十帖源氏物ぐさ太郎	130	13-03,32	千利休 センノリキウ【時代物】
ジュウジョウゲンジモノグサタロウ 十帖源氏物ぐさ太郎	221	23-03,24	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ジュウジョウゲンジモノグサタロウ 十帖源氏物ぐさ太郎	245	25-03,14	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
ジュウニダン 十二段	067	07-02,39	熊坂 クマサカ【時代物】
ジュウニダン 十二段	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【時代物】
ジュウニダンキミガイロネ 十二段君が色音	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【舞踊劇】
ジュウニダンソウシ 十二段草子	257	26-03,26	義経 ヨシツネ【時代物】

ジュウニダンツキノヨソオイ 十二段月粧	146	14-09,26	太閤記 タイコウキ【時代物】
ジュウニダンヒミツノマキ 十二段閨尽	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【時代物】
ジュウニダンヒミツノマキ 十二段閨尽	258	26-04,17	義経 ヨシツネ【時代物】
ジュウニダンユメノウキハシ 十二段夢の浮橋	224	23-06,26	紅血欠血 ヘニザラカケザラ【時代世話物】
ジュウニトキカイケイソガ 十二時會稽曾我	110	11-03,18	十二時曾我 ジュウニトキシソガ【時代物】
ジュウニトキカイケイソガ 十二時會稽曾我	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ジュウニトキシソガジツデン 十二時曾我実伝	110	11-03,18	十二時曾我 ジュウニトキシソガ【時代物】
ジュウニトキシソガノホンセツ 十二時曾我本説	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ジュウニトキチュウシンジツキ 十二時忠臣実記	110	11-03,19	十二時忠臣蔵 ジュウニトキチュウシングラ【お家物】
ジュウニヒトエコマチザクラ 重重人重小町桜	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ジュウニヒトエコマチザクラ 重重人重小町桜	038	04-06,62	小野篁 オノノタカムラ【時代物】
ジュウニヒトエコマチザクラ 重重人重小町桜	127	12-10,39	閨の扉 セキノト【舞踊劇】
ジュウハチコウイマヨウソガ 十八公今様曾我	138	13-12,25	曾我 ソガ【時代物】
ジュエイノアキダイブツクヨウ 寿永秋大仏供養	147	14-10,29	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
シュエンソガオウムガエシ 酒宴曾我鸚鵡返	039	04-07,55	大原女 オハラメ【舞踊】
シュジュサツタチカイノカケガク 種々薩埵誓掛額	007	01-07,56	粟島 アワシマ【時代物】
シュジュサツタチカイノカケガク 種々薩埵誓掛額	036	04-04,71	音羽丹七 オトワタンシチ【世話物】
シュジュサツタチカイノカケガク 種々薩埵誓掛額	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
シュジュサツタチカイノカケガク 種々薩埵誓掛額	211	22-05,39	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
シュゼンジモノガタリ 修禅寺物語	261	26-07,27	頼家 ヨリイエ【時代物】
シュゼンジョウアタゴレンガ 酒戦場愛宕連歌	202	21-07,36	馬壘の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
シュツジン 出陣	244	25-02,22	蒙古襲来 モウコシュウライ【時代物】
シュツセオサナヤッコ 出世稚握虎	199	21-04,36	信長 ノブナガ【時代物】
シュツセカゲキヨ 出世景清[1686/近松門左衛門]	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
シュツセカゲキヨ 出世景清[1686/近松門左衛門]	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
シュツセカゲキヨ 出世景清[1686/近松門左衛門]	111	11-04,15	出世景清 シュツセカゲキヨ【時代物】
シュツセカゲキヨ 出世景清[1707 江戸]	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
シュツセスミダガワ 出世隅田川	122	12-05,17	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
シュツセタイコウキ 出世太功記[別外題]	144	14-06,30	三日太平記 ミツカタイヘイキ
シュツセタイヘイキ 出世太平記[薩摩外記]	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
シュツセタイヘイキ 出世太平記[薩摩外記]	257	26-03,25	義貞 ヨシサダ【時代物】
シュツセタイヘイキ 出世太平記[1710 江戸市村座]	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
シュツセタイヘイキ 出世太平記[別外題]	144	14-06,30	三日太平記 ミツカタイヘイキ
シュツセタイヘイキ/ミツカタイヘイキ 三日太平記	235	24-05,24	出世太平記 シュツセタイヘイキ【別外題】
シュツセノハナヤリ 出世の花槍	097	10-01,18	猿舞 サルマイ【舞踊劇】
シュツセムスメヒサゴノカンザシ 出世娘瓢箪	241	24-11,17	娘太閤記 ムスメタイコウキ【世話物】
シュツセモミジガリ 出世紅葉狩	245	25-03,17	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
シュツセヤッコオサナモノガタリ 出世握虎稚物語	144	14-06,30	太閤記 タイコウキ【時代物】
シュツセヤッコグンバイカガミ 出世握虎軍配鑑	146	14-09,26	太閤記 タイコウキ【時代物】

シュテンドウジ 酒呑童子[新宮内正本].....	111	11-04,16	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュテンドウジ 酒呑童子[土佐浄瑠璃].....	111	11-04,16	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュテンドウジシュッショウキ 酒呑童子出生記.....	111	11-04,17	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュテンドウジシュッショウキ 酒呑童子出生記.....	264	26-10,23	羅生門 ラショウモン【時代物】
シュテンドウジマクラノコトノハ 酒呑童子枕言葉.....	111	11-04,16	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュテンドウジムカシガタリ 酒呑童子語.....	111	11-04,17	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュテンドウジムカシガタリ 酒呑童子話.....	264	26-10,23	羅生門 ラショウモン【時代物】
シュテンドウジワカザカリ 酒呑童子若壮.....	111	11-04,16	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
シュトクインサヌキデンキ 崇徳院讃岐伝記.....	111	11-04,18	崇徳院 ストクイン【時代物】
シュトクインサヌキデンキ 崇徳院讃岐伝記.....	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
シュビモヨツヤイロニオオヤマ 首尾四谷色大山.....	026	03-06,62	大山詣 オオヤママイリ【舞踊劇】
シュメノハンガンモリヒサ 主馬判官盛久.....	246	25-04,28	盛久 モリヒサ【時代物】
ジュラクマチ 聚楽町[戯曲通称].....	111	11-04,18	迎駕籠死期茜染 ムカイゴチシゴノアカネゾメ
シュンカン 俊寛.....	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
シュンカンシマモノガタリ 俊寛島物語[通称].....	112	11-06,20	姫小松子日廻遊 ヒメコマツネノヒノアソビ
シュンカンフタツオモカゲ 俊寛双面影.....	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
シュンキョウカガミジシ 春興鏡獅子.....	001	01-01,37	相生獅子 アイオイジシ【 】
シュンキョウカガミジシ 春興鏡獅子.....	046	05-02,46	鏡獅子 カガミジシ【舞踊劇】
シュンシヨクウメゴヨミ 春色有米曆.....	017	02-09,49	梅曆 ウメゴヨミ【世話物】
シュンシヨクウメゴヨミ 春色梅開曆.....	017	02-09,49	梅曆 ウメゴヨミ【世話物】
ジュンシヨクエドムラサキ 潤色江戸紫.....	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ジュンシヨクオンナカリガネ 潤色女雁金.....	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ジュンシヨクオンナカリガネ 潤色女雁金.....	056	06-02,46	鴈金五人女 カリガネゴニンオンナ【世話物】
シュンシヨクユミハリツキ 春色弓張月.....	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
ジュンレイウタ 巡礼歌[戯曲通称].....	112	11-06,21	傾城阿波の鳴門 ケイセイアワノナルト
ショウウツシアサガオバナシ 生写朝顔話.....	004	01-04,50	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
ショウウツシカガミノスガタエ 正写加賀観姿画.....	071	07-06,46	傾城鏡山 ケイセイカガミヤマ【世話物】
ショウガツバ 正月場[戯曲通称].....	112	11-06,21	敵討襷褌錦 カタキウチツツレノニシキ
ジョウカンヤ 上爛屋[戯曲通称].....	112	11-06,21	祇園祭礼信仰記 ギオンサイレイシンコウキ
ショウギンボウリュウコノマキ 将棊軍法竜虎巻.....	070	07-05,40	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ショウグンエドヲサル 將軍江戸を去る.....	051	05-08,47	勝安房 カツアワ【お家物】
ショウグンエドヲサル 將軍江戸を去る.....	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
ショウグンエドヲサル 將軍江戸を去る.....	179	19-07,42	徳川慶喜 トクガワヨシノブ【お家物】
ジョウシュウオリタテシノオオジマ 上州織侠客大編.....	066	07-01,35	国定忠治 クニサダチュウジ【世話物】
ショウシヨウミチユキ 少将道行.....	245	25-03,17	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
ショウジョウユキノエイサメ 猩々雪酔覚.....	112	11-06,23	猩々 ショウジョウ【舞踊】
ショウチクバイアズマカガミ 松竹梅東鑑.....	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ショウチクバイユキノアケボノ 松竹梅雪曙.....	031	03-11,67	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ショウトクタイシ 聖徳太子.....	112	11-06,23	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】

ショウトクタイシエデンキ 聖徳太子絵伝記	112	11-06,23	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
ショウトクタイシゴホンジ 聖徳太子御本地	112	11-06,23	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
ショウトクタイシメグミノイケミズ 聖徳太子利生の池水	073	07-08,36	毛抜 ケヌキ【時代物】
ショウトクタイシシリショウノイケミズ 聖徳太子利生の池水	190	20-07,41	鳴神 ナルカミ【時代物】
ジョウドサンダンキ 浄土讃談記	118	12-01,18	親鸞 シンラン【時代物】
ジョウドスゴロクフルヤサイニチ 浄土双六振斎日	101	10-06,19	三人吉三 サンニンキチサ【世話物】
ショウナンコウ 小楠公	231	24-01,23	正行 マサツラ【時代物】
ショウネクラベアネガワズキン 性根競姉川頭巾	070	07-05,37	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
ショウブタチツイノキョウカク 菖蒲太刀対侠客	062	06-08,35	侠客伝 キョウカクデン【時代物】
ショウフダツキコンゲンクサズリ 正札附根元草摺	065	06-12,33	草摺引 クサズリヒキ【舞踊劇】
ショウホンタイヘイキ 正本太平記	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
ジョウロウノマコトカイカノヨザクラ 娼妓誠開花夜桜	011	02-03,65	今紫 イマムラサキ【世話物】
ジョウロウノマコトカイカノヨザクラ 娼妓誠開花夜桜	035	04-03,72	男舞 オトコマイ【舞踊】
ショカツコウメイカナエゲンダン 諸葛孔明鼎軍談	098	10-03,28	三国志 サンゴクシ【時代物】
ジョウロウノマコトオサダノチュウコウ 倡女誠長田忠孝	068	07-03,45	鞍馬山 クラマヤマ【時代物】
ジョウロウノマコトオサダノチュウコウ 倡女誠長田忠孝	183	19-12,38	鳥目の上使 トリメノジョウシ【時代物】
ジライヤゴウケツモノガタリ 児雷也豪傑譚話	114	11-08,15	児雷也 ジライヤ【時代物】
ジライヤゴニチモノガタリ 児雷也後編譚話	114	11-08,15	児雷也 ジライヤ【時代物】
ジライヤモノガタリ 自来也物語	113	11-07,23	自来也 ジライヤ【お家物】
シラガキントキシュッセノウワナリ 白髪金時出世髯	114	11-08,16	白髪金時 シラガキントキ【時代物】
シラギクキンゴロウ 白菊欣五郎	250	25-08,14	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
シラヌイモノガタリ しらぬい譚	115	11-09,16	白縫 シラヌイ【時代物】
シラハタダイミョウジンゴホンジ 白旗大明神御本地	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
シラベノマツカゼ 調松風	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
シロクレナイサクラノゴショゾメ 源平盛桜柳営染	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
シロヤマノツキ 城山の月	090	09-05,39	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
シンアサガオニッキ 新朝顔日記	004	01-04,51	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
シンウスユキモノガタリ 新薄雪物語	015	02-07,56	薄雪 ウスユキ【時代物】
シンカサネチグサノハナヨメ 新累女千種花嫁	027	03-07,65	お組宗次郎 オクミソウジロウ【世話物】
シンカサネチグサノハナヨメ 新累女千種花嫁	049	05-05,47	累 カサネ【お家物】
シンカサネモノガタリ 新累世俗話	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
シンキイッケントリノハツコエ 新規一拳酉魁声	098	10-03,28	三国妖狐 サンゴクヨウコ【舞踊劇】
シンキョクイモガヤド 新曲妹が宿	011	02-03,66	妹が宿 イモガヤド【舞踊劇】
シンキョクウラシマ 新曲浦島	019	02-11,47	浦島 ウラシマ【時代物】
シンキョクコチヨウノユメ 新曲胡蝶夢	004	01-04,51	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
シンキョクタカオザンゲ 新曲高尾懺悔	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
シンキョクユメニチヨウリョウ 新曲夢張良	161	17-06,18	張良 チョウリョウ【舞踊劇】
ジングウコウゴウサンカンゼメ 神功皇后三韓責	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>1</sup> タケノウチノスクネ【時代物】
シンクルワナクサモンビ 新曲輪七草紋日	006	01-06,56	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】

シンケイカサネガフチ 真景累ヶ淵[ 1898/竹柴万二 ]	050	05-07,43	累ヶ淵 カサネガフチ【世話物】
シンケイカサネガフチ 真景累ヶ淵[ 1922/竹柴金作 ]	050	05-07,44	累ヶ淵 カサネガフチ【世話物】
シンケイカサネガフチ 真景累ヶ淵[ 1926/木村錦花 ]	050	05-07,44	累ヶ淵 カサネガフチ【世話物】
シンケイカサネガフチ 真景累ヶ淵[ 1927/木村錦花 ]	050	05-07,44	累ヶ淵 カサネガフチ【世話物】
シンコカジ 新小鍛冶	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
シンゴテンアイオイコマツ 新御殿相生小松	228	23-10,21	仏御前 ホトケゴゼン【時代物】
シンサギムスメ 新鷺娘[ 通称 ]	092	09-07,41	花翫曆色所八景 ハナゴヨミイロノショウケ
シンサラヤシキツキノアマガサ 新血屋舗月雨量	091	09-06,37	魚屋宗五郎 サカナヤソウゴロウ【世話物】
シンジシ 新獅子	060	06-06,39	勢獅子 キオイジシ【舞踊劇】
シンジュウアスノウワサ 心中翌の噂	033	04-01,61	お染の七役 オソメノナナヤク【世話物】
シンジュウウキナノサメザヤ 心中浮名の鮫鞘	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
シンシュウオバステヤマ 信州姨捨山	257	26-03,23	義貞 ヨシサダ【時代物】
シンシュウオロクグシ 信州お六櫛	002	01-02,37	青砥調 アオトバナシ【 】
シンシュウオロクグシ 信州お六櫛	020	02-12,42	越後伝吉 エチゴデンキチ【世話物】
シンジュウカサネイツツ 心中重井筒	040	04-08,59	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
シンジュウカミヤジヘ 心中紙屋治兵衛	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
シンシュウカワナカジマカッセン 信州川中島合戦	057	06-03,42	川中島 カワナカジマ【時代物】
シンシュウカワナカジマカッセン 信州川中島合戦	165	18-01,48	輝虎配膳 テルトライセン【時代物】
シンジュウキモンカド 心中鬼門角	033	04-01,61	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
シンジュウコノミヒツツ 心中この身一つ	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
シンジュウゼンセイオモカゲノヒバチ 心中全盛面影火鉢	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
シンジュウダキボタン 心中抱牡丹	027	03-07,62	お亀与兵衛 オカメヨヘエ【世話物】
シンジュウチャヤバナシ 心中茶屋咄	130	13-03,32	千日寺心中 センニチデラシンジュウ【世話物】
シンジュウテンノアミジマ 心中天の網島* [ 別外題 ]	084	08-09,29	天網島 テンノアミジマ
シンジュウナニワノハルサメ 心中浪華春雨	033	04-01,60	お園六三 オソノロクサ【世話物】
シンジュウナミダノタマノイ 心中涙の玉の井	038	04-06,63	お初久兵衛 オハツキウベエ【世話物】
シンジュウニマイエソウシ 心中二枚絵草紙	031	03-11,70	お島市郎右衛門 オシマイチロウエモン【世話物】
シンジュウフタツカゴ 心中二駕籠	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
シンジュウフタツハラオビ 心中二腹帯	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
シンジュウマンネンソウ 心中万年草	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
シンジュウヤイバハコオリノツイタチ 心中刃は氷の朔日	078	08-03,39	小かん平兵衛 コカンヘイベエ【世話物】
シンジュウヨイゴウシン 心中宵庚申	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
シンジュウヨメナノツユ 心中嫁菜露	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
シンシュンニワトリタイヘイキ 新春鳥太平記	024	03-04,73	大塔宮 オトウノミヤ【時代物】
ジンセイホマレノキキガキ 仁誠誉聞書	175	19-03,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
シンセツコガネノハナカゴ 新説黄金廻花籠	010	02-02,54	伊藤道庵 イトウドウアン【世話物】
シンセンセツショウセキ 新撰殺生石	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
シンセンモミジガリ 新撰紅葉狩	245	25-03,15	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
シンソウキョウウダイ 新蔵兄弟	105	10-10,29	死神 シニガミ【世話物】



シンゾウキョウダイ 新蔵兄弟	117	11-11,20	新蔵兄弟 シンゾウキョウダイ【世話物】
シンゾウツリフネキダン 新造艦奇談	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ジンドアイスキョウソウキブン 神代杉常総紀聞	132	13-05,35	相馬大作 ソウマダイサク【お家物】
シントカダチ 新高館	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
シントクホウエゴヨミ 新宅恵方暦	029	03-09,73	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
シンチョクヨメイリコカジ 神勅嫁入小鍛冶	077	08-02,35	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
シントウコカジハツウママイリ 新刀小鍛冶初午参	077	08-02,35	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
シントクマル しんとく丸	264	26-10,20	弱法師 ヨロボウシ【時代物】
シンナンバセンキ 新難波戦記	023	03-03,66	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ジンバオリチュウギノタマモノ 陣羽織忠義曠賜	074	07-09,45	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
シンハシラダテ 新柱建	202	21-07,35	柱建 ハシラダテ【舞踊劇】
シンバンウタザイモン 新版歌祭文	199	21-04,35	野崎村 ノザキムラ【世話物】
シンバンカサネモノガタリ 新版累物語	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
シンバンコシゴエジョウ 新版腰越状	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
シンバンコシノシラナミ 新版越白浪	061	06-07,43	鬼神のお松 キジンノオマツ【世話物】
シンバンタカダチベンケイジョウ 新版高館弁慶状	058	06-04,46	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
シンバンナナツイロハ 新彫刻七いろは	160	17-05,33	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
シンバンヒョウゴノツキシマ 新板兵庫の築島	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
シンバンムツノタマガワ 新板む津の玉川	129	12-12,26	世話場の政岡 セワバノマサオカ【時代物】
シンバンヨイゴウシン 新板宵庚申	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
シンヒョクヅカ 新比翼塚	125	12-08,35	盛縁心中 セイシンシンジュウ【世話物】
シンブタイイロハノカキシメ 新台いろは書始	111	11-04,15	十八ヶ条申開 ジュウハツカジョウモウシヒラキ【お家物】
シンブタイイロハノカキシメ 新台いろは書始	232	24-02,17	松浦の太鼓 マツラノタイコ【お家物】
シンブタイワオノクスノキ 新舞台巖楠	081	08-06,36	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
シンブタイワオノクスノキ 新舞台巖楠	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
シンブタイエチゴノタテヨミ 新舞台越後立読	020	02-12,40	越後騒動 エチゴソウドウ【お家物】
シンブタイキヨミズモウデ 新舞台清水群参	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
シンベエショウフカタビラ 新兵衛菖蒲帷子	195	20-12,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
シンベンサエグサモノガタリ 新編三枝譚	091	09-06,34	三枝譚 サエグサモノガタリ【お家物】
シンボチダイコ 新発意太鼓	117	11-11,20	新発意太鼓 シンボチダイコ【舞踊劇】
ジンムテンノウ 神武天皇	117	11-11,21	神武天皇 ジンムテンノウ【王代物】
シンメイマツリオンナダンシチ 神明祭礼女団七	043	04-11,51	女団七 オンナダンシチ【世話物】
シンモツ 進物[戯曲通称]	117	11-11,21	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシンクラ
シンモヨウコノミノアミジマ 新模様御詠網島	084	08-09,30	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
シンモンタツゴロウ 新門辰五郎[1901/竹柴古芝]	117	11-11,21	新門辰五郎 シンモンタツゴロウ【世話物】
シンモンタツゴロウ 新門辰五郎[1928/林和]	118	12-01,18	新門辰五郎 シンモンタツゴロウ【世話物】
シンヤカタバンゼイノイシズエ 新館万歳礎	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
シンヨシワラスズメ 新よし原雀	259	26-05,26	吉原雀 ヨシワラスズメ【舞踊劇】
シンヨシワラセガワノアダウチ 新吉原瀬川復讐	126	12-09,33	瀬川仇討 セガワノアダウチ【世話物】

シンランキ しんらん記	118	12-01,18	親鸞 シンラン【時代物】
シンリキテイカアズマアソビ 神力定家東遊	164	17-10,52	定家 テイカ【時代物】
シンレイスガワラジッキ 神霊菅原道実記	168	18-04,41	天神記 テンジンキ【王代物】
シンレイヤグチノワタシ 神霊矢口渡	247	25-05,20	矢口の渡 ヤグチノワタシ【時代物】
スイコデン 水滸伝	118	12-01,20	水滸伝 スイコデン【時代物】
スイコデンソガノフウリュウ 水滸伝曽我風流	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
スイコデンノリンチュウ 水滸伝の林冲	118	12-01,20	水滸伝 スイコデン【時代物】
スイコデンユキノダンマリ 水滸伝雪挑	047	05-03,47	瓦鐘寺 ガカンジ【時代物】
スイコヒョウウセイノキンピン 水滸標和製金瓶	118	12-01,20	水滸伝 スイコデン【時代物】
スイジャクモノグサタロウ 垂迹物くさ太郎	245	25-03,14	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
スイタシカワソイヤナギ 好借川傍柳	161	17-06,16	長作入りお花 チョウサクイリオハナ【舞踊劇】
スイテングウメグミノフカガワ 水天宮利生深川	220	23-02,26	筆屋幸兵衛 フデヤコウベエ【世話物】
スイボダイゴドウノノザラシ 粹菩提悟道野晒	199	21-04,36	野晒悟助 ノザラシゴスケ【世話物】
スイボダイシンシュノマタロク 酔菩提新酒又六	119	12-02,16	酔菩提 スイボダイ【お家物】
スエヒロエホウソガ 扇恵方曽我	006	01-06,59	荒五郎茂兵衛 アラゴロウモヘエ【世話物】
スエヒロエホウソガ 扇恵方曽我	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
スエヒロジュウニダン 末広十二段	009	02-01,60	伊勢三郎 イセノサブロウ【時代物】
スエヒロジュウニダン 末広十二段	067	07-02,39	熊坂 クマサカ【時代物】
スエヒロジュウニダン 末広十二段	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【時代物】
スオウトシナスモノガタリ 襖落那須語	119	12-02,16	素襖落 スオウトシ【舞踊劇】
スガクラベデイリノミナト 容競出入湊	070	07-05,37	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
スガタノカガミセキデラコマチ 姿の鏡関寺小町	127	12-10,39	関寺小町 セキデラコマチ【舞踊】
スガタノダテケイセイカタギ 姿伊達契情容儀	152	15-06,30	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
スガタノハナアキノナナクサ 姿花穂七種	179	19-07,43	木賊苺 トクサカリ【舞踊】
スガタノハナアズマノダテソメ 姿花江戸伊達染	153	15-09,41	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
スガタノハナトリイノイロザシ 姿花鳥居の色彩	044	04-12,44	女尻駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】
スガタノハナノチノヒナガタ 姿花后雛形	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
スガタノハナノチノヒナガタ 姿花后雛形	086	08-11,29	子守 コモリ【舞踊劇】
スガタノハナムスメドウジョウジ 容艶花娘道成寺	083	08-08,50	小西行長 コニシユキナガ【時代物】
スガタノハナユキノクロヌシ 姿花雪黒主	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
スガタノハナユキノクロヌシ 姿花雪黒主	209	22-03,36	檜垣 ヒガキ【舞踊劇】
スガタミスミダガワ 姿視隅田川	188	20-05,42	七面 ナナツメン【時代物】
スガモノサトヒヨクノミチユキ 巢鴨里比翼道行	104	10-09,18	四千両 シセンリョウ【世話物】
スガワラシンノウギョウジョウキ 菅原親王行状記	119	12-02,18	菅原親王 スガワラシンノウ【時代物】
スガワラデンジュテナライカガミ 菅原伝授手習鑑	119	12-02,17	菅原 スガワラ【王代物】
スガワラリュウカナガキソガ 菅原流国字曽我	136	13-10,31	曽我 ソガ【時代物】
スガワラリュウカナガキソガ 菅原流国字曽我	142	14-04,32	曽我の対面 ソガノタイムン【時代物】
スギサカ 杉坂〔戯曲通称〕	119	12-02,18	彦山権現誓助剣 ヒコサンゴンゲンチカイノスケダチ
スギサカヤ 杉酒屋〔戯曲通称〕	119	12-02,18	妹背山婦女庭訓 イモセヤマオンナテイキン

スケツネオウゲキズ				賤機帯 シズハタオビ【舞踊劇】
祐経扇系図	104	10-09,17		
スケロク				
助六	003	01-03,44		揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
スケロククルワノエドザクラ				
助六廓家桜	120	12-03,16		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノナトリグサ				
助六曲輪名取草	120	12-03,16		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノハナミチ				
助六廓花街	120	12-03,15		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノハナミチ				
助六廓花街	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノフタバグサ				
助六花街二葉草	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノモモヨグサ				
助六曲輪菊[1819 江戸]	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロククルワノモモヨグサ				
助六曲輪菊[1915 東京]	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロクサクラノフタエオビ				
助六桜の二重帯[1807 江戸]	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロクサクラノフタエオビ				
助六桜の二重帯[1822 江戸]	120	12-03,17		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スケロクスガタノウラウメ				
助六姿裏梅	003	01-03,43		揚巻 アゲマキ【舞踊】
スケロクスガタノウラウメ				
助六姿裏梅	121	12-04,22		助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
スケロクユカリノエドザクラ				
助六所縁江戸桜	120	12-03,16		助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
スシオマル				
都志王丸	100	10-05,18		三莊太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
スシヤ				
鮎屋[戯曲通称]	121	12-04,22		義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
スズガモリ				
鈴ヶ森[戯曲通称]	121	12-04,23		恋娘昔八丈 コイムスメムカシハチジョウ
スズガモリ				
鈴ヶ森[戯曲通称]	121	12-04,23		驪山比翼塚 メグロノヒヨクツカ
スズガモリツイノミホツカ				
鈴森対澗杭[別題]	121	12-04,23		鈴ヶ森 スズガモリ
スズノオトシシノタワムレ				
鈴音獅子翫	006	01-06,58		操三番 アヤツリサンバ【舞踊劇】
スダツツミコイノツマカラゲ				
隅田堤恋奮	082	08-07,29		小助 コスケ【世話物】
スダノハルゲイシャカタギ				
隅田春妓女容性	018	02-10,52		梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
スダノハルゲイシャカタギ				
隅田春妓女容性	240	24-10,25		無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ステオブネヨロズノオオジメ				
捨小舟万大注連	122	12-05,15		捨小舟 ステオブネ【世話物】
スマデラアオバノフエ				
須磨寺青葉笛	067	07-02,38		熊谷 クマガイ【時代物】
スマノウラ				
須磨の浦[戯曲通称]	122	12-05,16		一谷嫩軍記 イチノタニフタバグンキ
スマノウラガイカノコウタイ				
須磨浦凱歌小謡	267	27-01,25		六弥太物語 ロクヤタモノガタリ【時代物】
スマノミヤコゲンベイツジ				
須磨都源平躑躅[1730/文耕堂]	022	03-02,32		扇屋熊谷 オウギヤクマガイ【時代物】
スマノミヤコゲンベイツジ				
須磨都源平躑躅[1730/文耕堂]	151	15-05,24		忠度 タダノリ【時代物】
スマノミヤコゲンベイツジ				
須磨都源平躑躅[1832/西沢一鳳増補]	022	03-02,32		扇屋熊谷 オウギヤクマガイ【時代物】
スマダガワ				
隅田川[古浄瑠璃]	122	12-05,16		隅田川 <sup>1</sup> スマダガワ【時代物】
スマダガワ				
隅田川[清元]	123	12-06,34		隅田川 <sup>2</sup> スマダガワ【舞踊劇】
スマダガワウキヨノスガタミ				
隅田川浮世の鏡	200	21-05,41		乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
スマダガワウサノタカドノ				
墨川高評楼	144	14-06,28		対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
スマダガワゴニチノオモカゲ				
隅田川続碁[1784/奈河七五三助]	216	22-10,30		双面 フタオモテ【舞踊劇】
スマダガワゴニチノオモカゲ				
隅田川続碁[1784/奈河七五三助]	226	23-08,26		法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
スマダガワゴニチノオモカゲ				
隅田川続碁[1823 人形浄瑠璃]	217	22-11,26		双面 フタオモテ【舞踊劇】
スマダガワゴニチノオモカゲ				
隅田川続碁[1823 人形浄瑠璃]	227	23-09,23		法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
スマダガワツイノカガモン				
隅田川対高賀紋	122	12-05,14		鈴木主水 スズキモンド【世話物】

スミダガワツイノカガモン 隅田川対高賀紋	168	18-04,42	天保水滸伝 テンボウスイコデン【世話物】
スミダガワツイノカガモン 隅田川対高賀紋	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
スミダガワノッキリコウダン 隅田川乗切講談	006	01-06,54	阿部の乗切 アベノノッキリ【お家物】
スミダガワハナノゴシヨソメ 隅田川花御所染	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
スミダガワハナノゴシヨソメ 隅田川花御所染	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
スミダガワハナノゴシヨソメ 隅田川花御所染	196	21-01,32	二人松若 ニニンマツワカ【舞踊劇】
スミダガワハルツゲソガ 隅田川鶯音曾我	030	03-10,71	お静礼三 オシズレイサ【世話物】
スミダガワハルツゲソガ 隅田川鶯音曾我	041	04-09,58	お若伊之助 オワカイノスケ【世話物】
スミダガワヤナギノダテギヌ 隅田川柳伊達絹	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
スミダガワヤナギノダテギヌ 隅田川柳伊達絹	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
スミダガワヤナギノダテギヌ 隅田川柳伊達絹	123	12-06,33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
スミダガワヤナギノダテギヌ 隅田川柳伊達絹	152	15-06,29	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
スミナガスクモモノシラナミ 墨流雲間の白浪	010	02-02,56	稲葉小僧 イナバコソウ【時代物】
スミスリオンナ 墨塗女	123	12-06,34	墨塗 スミスリ【舞踊劇】
スミスリロッカセン 墨塗り六歌仙[通称]	267	27-01,24	六歌仙狂画墨塗 ロッカセンキョウウガノスミスリ
スミヨシモウデオンナギョウレツ 住吉詣婦女行列	167	18-03,44	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
スモウシュウケン 相撲祝言	207	21-12,45	板額 ハンガク【時代物】
スモウバ 相撲場[戯曲通称]	123	12-06,35	関取千両幟 セキトリセンリョウノボリ
スモウバ 相撲場[戯曲通称]	123	12-06,35	双蝶々曲輪日記 フタツチョウチョウウクルワニッキ
スワノホンジカネイエ 諏訪本地兼家	075	07-10,44	甲賀三郎 コウカサブロウ【時代物】
スワノミズウメイカノアダウチ 諏訪湖名家復讐	123	12-06,35	諏訪仇討 スワノアダウチ【お家物】
セイオウボ 西王母	123	12-06,36	西王母 <sup>2</sup> セイオウボ【舞踊】
セイガンジホンジ 誓願寺本地	123	12-06,36	誓願寺 セイガンジ【時代物】
セイゲンナナトセノボウコン 清玄七年の亡魂	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
セイサツワタシ 制札渡し[戯曲通称]	125	12-08,34	一谷嫩軍記 イチノタニフタバゲンキ
セイシゴノミヒヨクノシンガタ 盛絲好比翼新形	125	12-08,35	盛絲心中 セイシシンジュウ【世話物】
セイショウコウ 清正公	063	06-09,45	清正 キヨマサ【時代物】
セイゾロイ 勢揃い[戯曲通称]	126	12-09,31	青砥稿花紅彩画 アオトソウシハナノニシキエ
セイゾロイ 勢揃い[戯曲通称]	126	12-09,31	曾我評判比翼男 ソガヒョウバンヒョクオトコ
セイダンコイノアゼミチ 政談恋畦道	004	01-04,55	畦倉重四郎 アゼクラジュウシロウ【 】
セイダンサガノヨザクラ 情談佐賀の夜桜	189	20-06,38	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
セイチュウギシゲンロクカブキ 誠忠義士元祿歌舞伎	105	10-10,27	実録忠臣蔵 ジツロクチュウシングラ【お家物】
セイチュウギシゲンロクカブキ 誠忠義士元祿歌舞伎	221	23-03,23	不破数右衛門 フワカズエモン【お家物】
セイチュウホマレノタカナワ 誠忠誉高輪	178	19-06,43	徳利勘兵衛 トックリカンベエ【お家物】
セイチュウホマレノツワモノ 誠忠誉強勇	178	19-06,42	十津川事件 ツツガワジケン【お家物】
セINANセンソウキキガキ 西南戦争聞書	090	09-05,39	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
セINANユメモノガタリ 西南夢物語	090	09-05,38	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
セイヨウドウチュウヒザクリゲ 西洋道中膝栗毛	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
セイヨウバナシニホンノウツシエ 西洋噺日本写絵	019	02-11,49	英国孝子伝 エイコクコウシデン【世話物】

セイヨウビダン 西洋美談	047	05-03,47	柿右衛門 カキエモン【世話物】
セイワゲンジジウゴダン 清和源氏十五段	042	04-10,68	女熊坂 オンナクマサカ【時代物】
セイワゲンジジウゴダン 清和源氏十五段	058	06-04,48	勸進帳 カンジンチャウ【舞踊劇】
セイワゲンジジウゴダン 清和源氏十五段	252	25-10,16	山伏撰待 ヤマブシセツタイ【時代物】
セイワゲンジニダイノユミトリ 清和源氏二代将	133	13-06,43	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
セイワゲンジニダイノユミトリ 清和源氏二代将	245	25-03,13	戻り橋 モドリバシ【舞踊劇】
セイワゲンジニダイノユミトリ 清和源氏二代将	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
セイワニダイオオヨセゲンジ 清和二代遼源氏	133	13-06,43	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
セイワニダイオシノツツモノ 清和二代棍猛者	036	04-04,69	男山姥 オトコヤマウバ【時代物】
セカイアワセチヨウウチヨウコモン 世界袷蝶々全小紋	219	23-01,29	双蝶々 フタツチヨウウチヨウ【世話物】
セカイノイロハナノベンケイ 世界の花色弁慶	085	08-10,27	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
セカイノイロハナノベンケイ 世界の花色弁慶	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
セカイノハナオグリガイデン 世界花小栗外伝	028	03-08,69	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
セカイノハナスガラデンジュ 世界花菅原伝授	042	04-10,68	女車引 オンナクルマビキ【舞踊劇】
セカイノハナスガラデンジュ 世界花菅原伝授	168	18-04,41	天神記 テンジンキ【王代物】
セキガハラ 関ヶ原	127	12-10,38	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
セキガハラカミノアオイバ 関原神葵葉	126	12-09,35	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
セキガハラカミノアオイバ 関原神葵葉	228	23-10,19	細川の奥方 ホソカワノオクガタ【時代物】
セキガハラトウザイゲンキ 関ヶ原東西軍記	126	12-09,35	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
セキガハラトウザイゲンキ 関ヶ原東西軍記	228	23-10,18	細川の奥方 ホソカワノオクガタ【時代物】
セキガハラホマレノカチドキ 関原誉凱歌	126	12-09,35	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
セキコンロクハルノコマギク 石魂録春高麗菊	127	12-10,38	石魂録 セキコンロク【時代物】
セキジノハラオオサカゲンキ 関路原達坂軍記	126	12-09,35	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
セキデラコマチ 関寺小町	127	12-10,39	関寺小町 セキデラコマチ【舞踊】
セキトリイチノトリイ 関取一鳥居	002	01-02,44	秋津島 アキツシマ【 】
セキトリショウブカタビラ 関取菖蒲締	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
セキトリショウブカタビラ 関取菖蒲締	218	22-12,23	双蝶々 フタツチヨウウチヨウ【世話物】
セキトリセンリョウノボリ 関取千両幟	131	13-04,25	千両幟 センリョウノボリ【世話物】
セキトリニダイノショウブツケ 関取二代勝負附	002	01-02,44	秋津島 アキツシマ【 】
ゼサイヤ 是斎屋[戯曲通称]	128	12-11,26	祇園祭礼信仰記 ギオンサイレイシンコウキ
セックアソビコイノテナライ 節句遊恋の手習	101	10-06,21	三人生酔 サンニンナマヨイ【舞踊劇】
セツゲツカノダンマリ 雪月花のだんまり	078	08-03,40	小狐礼三 コギツネレイサ【世話物】
セツゲツカミツノナガメ 雪月花三景	077	08-02,34	高野物狂 コウヤモノグルイ【舞踊劇】
セツゲツカミツノナガメ 雪月花三景	184	20-01,37	仲国 ナカクニ【舞踊劇】
セッシュウガッポウガツジ 摂州合邦辻	051	05-08,48	合邦 ガッポウ【時代物】
セッシュウガッポウガツジ 摂州合邦辻	264	26-10,20	弱法師 ヨロボウシ【時代物】
セッシュウワタナベハシクヨウ 摂州渡辺橋供養	246	25-04,29	文覚 モンガク【時代物】
セッシュウワタナベハシクヨウ 摂州渡辺橋供養	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
セッシュウセキ 殺生石	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】

セトレン 瀬戸連[通称] .....	266	26-12,22	連獅子 レンジシ
ゼニヤゴヘ 銭屋五兵衛 .....	128	12-11,28	銭屋五兵衛 ゼニヤゴヘ【世話物】
ゼニヤゴヘオヤコ 銭屋五兵衛父子 .....	128	12-11,28	銭屋五兵衛 ゼニヤゴヘ【世話物】
セミシグレウラミノヤイバ 蝉時雨恨刃 .....	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロヘ【世話物】
セミノスケガラ 蝉のぬげがら .....	003	01-03,43	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
セミマル 蝉丸 .....	128	12-11,28	蝉丸 セミマル【時代物】
セミマルニドノシュッセ せみ丸二度出世 .....	128	12-11,28	蝉丸 セミマル【時代物】
セミマルヨウロウノタキ 蝉丸養老滝 .....	129	12-12,26	蝉丸 セミマル【時代物】
セミマロ 蝉麻呂 .....	129	12-12,26	蝉丸 セミマル【時代物】
セワコトバカンソグンダン 世話言漢楚軍談 .....	058	06-04,48	漢楚軍談 カンソグンダン【時代物】
セワジタテカラノヌイバリ 世話仕立唐繡針 .....	174	19-02,40	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
セワリョウリスズキボウチョウ 世話料理鱸包丁 .....	173	19-01,40	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
ゼンアクウキヨエソウシ 善悪浮世画草紙 .....	021	03-01,36	閻魔の小兵衛 エンマノコヘ【世話物】
ゼンアクリョウメンコノテガシワ 善悪両面兎手柏 .....	152	15-06,27	姐妃のお百 ダッキノオヒヤク【世話物】
ゼンアクリョウワミョウミョウグルマ 善悪両輪妙々車 .....	239	24-09,34	妙々車 ミョウミョウグルマ【世話物】
センギバ 詮議場[戯曲通称] .....	129	12-12,27	新薄雪物語 シンウスユキモノガタリ
ゼンクネンオウシュウガッセン 前九年奥州合戦 .....	256	26-02,25	義家 ヨシイエ【時代物】
ゼンコウジ 善光寺 .....	129	12-12,27	善光寺 ゼンコウジ【時代物】
ゼンコウジミドウクヨウ 善光寺御堂供養 .....	129	12-12,27	善光寺 ゼンコウジ【時代物】
センゴクツミミナトノイリフネ 仙石積湊大入船 .....	129	12-12,29	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
センゴクブネナギノアケボノ 千石船和波明曙 .....	129	12-12,29	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
センゴクブネホカゲノシラハマ 千石船帆影白浜 .....	129	12-12,29	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
センザイシュウ 千載集 .....	151	15-05,24	忠度 タダノリ【時代物】
センザインソガケンジノイシズエ 千歳曾我源氏礎 .....	085	08-10,27	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
センザインソガケンジノイシズエ 千歳曾我源氏礎 .....	104	10-09,16	静御前 シズカゴゼン【時代物】
センザインソガケンジノイシズエ 千歳曾我源氏礎 .....	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
センザインソガケンジノイシズエ 千歳曾我源氏礎 .....	252	25-10,16	山伏摂待 ヤマブシセツタイ【時代物】
ゼンジンソガ 禅師曾我 .....	084	08-09,24	後日の曾我 ゴニチノソガ【時代物】
センジョウジキノヨカタリ 千畳敷其世語 .....	240	24-10,23	三好長慶 ミヨシチヨウケイ【時代物】
センジンウキスノイワ 先陣浮洲巖 .....	246	25-04,27	盛綱 モリツナ【時代物】
ゼンセイアズマノキャラ 全盛東伽羅 .....	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ゼンセイアズマノキャラ 全盛東伽羅 .....	043	04-11,51	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ゼンセイアズマノキャラ 全盛東伽羅 .....	153	15-09,40	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ゼンセイアソビコガネノマメマキ 全盛遊黄金豆時 .....	062	06-08,35	紀文 キブン【世話物】
ゼンセイダテノクルワイリ 全盛伊達曲輸入 .....	022	03-02,31	扇売高尾 オウギウリタカオ【舞踊劇】
ゼンセイダテノクルワイリ 全盛伊達曲輸入 .....	153	15-09,41	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ゼンセイトラガイシ 全盛虎女石 .....	004	01-04,49	朝比奈末広 アサイナスエヒロ【舞踊劇】
ゼンセイトラガイシ 全盛虎女石 .....	102	10-07,21	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
ゼンセイトラガイシ 全盛虎女石 .....	141	14-03,35	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】

ゼンセイトラガイシ 全盛虎女石	170	18-07,37	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ゼンセイミサオノハナグルマ 全盛操花車	033	04-01,63	お高弥市 オタカヤイチ【世話物】
ゼンセイミサオノハナグルマ 全盛操花車	062	06-08,37	木遣り キヤリ【舞踊劇】
セントアイコウジンチカイノアダウチ 千体荒神誓仇討	053	05-10,41	神谷慶十郎 カミヤケイジウロウ【世話物】
ゼンタイヘイキ 前太平記	149	15-02,35	滝夜叉 タキヤシャ【時代物】
ゼンタイヘイキマガイノギョクデン 前太平記擬玉殿	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
センニチデラナゴリノカネ 千日寺名残の鐘	097	10-01,19	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
センニンリュウオウイセイアラソイ 仙人竜王威勢争	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
センボンザクラチュウギデン 千本桜忠義伝	151	15-05,23	忠信 タダノブ【舞踊劇】
ソウイチザイロノセカイ 惣一座色の世界	075	07-10,42	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ソウゼンジババ 崇禅寺馬場	131	13-04,27	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
ソウヒキ 象引[1701 江戸]	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ソウヒキ 象引[1913/平木白星]	132	13-05,34	象引 ソウヒキ【時代物】
ソウヒキ 象引[1933/山崎紫紅]	132	13-05,34	象引 ソウヒキ【時代物】
ゾウホイモセヤマ 増補妹背山	011	02-03,66	妹背山 イモセヤマ【王代物】
ゾウホウゲツモノガタリ 増補雨月物語	014	02-06,58	雨月物語 ウゲツモノガタリ【時代世話物】
ゾウホオオエヤマ 増補大江山	245	25-03,14	戻り橋 モドリバシ【舞踊劇】
ゾウホオンナルカミ 増補女鳴神	044	04-12,42	女鳴神 オンナルカミ【時代物】
ゾウホカブトグンキ 増補兜軍記	238	24-08,19	宮島のだんまり ミヤジマノダンマリ【時代物】
ゾウホサルマワシ 増補猿曳諷	042	04-10,70	女猿廻し オンナサルマワシ【世話物】
ゾウホシンチョウキ 増補信長記	200	21-05,40	信長 ノブナガ【時代物】
ゾウホタイコウキ 増補太閤記	146	14-09,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
ゾウホチュウシングラ 増補忠臣蔵	230	23-12,17	本蔵下屋敷 ホンゾウシモヤシキ【お家物】
ゾウホテナライカガミ 増補手習鑑	232	24-02,18	松王下屋敷 マツオウシモヤシキ【時代物】
ゾウホテンジクトクベエ 増補天竺徳兵衛	167	18-03,46	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ゾウホフタツドモエ 増補双級巴	052	05-09,45	釜煎の五右衛門 カマイリノゴエモン【時代世話物】
ゾウホフタツドモエ 増補双級巴	236	24-06,21	壬生村の五右衛門 ミブムラノゴエモン【時代物】
ゾウホモモヤマモノガタリ 増補桃山譚	057	06-03,44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
ゾウホモモヤマモノガタリ 増補桃山譚	103	10-08,36	地震加藤 ジシカトウ【時代物】
ゾウホヤオヤノコンダテ 増補八百屋献立	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
ゾウホヨツヤカイダン 増補四津谷怪談	260	26-06,19	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
ソウマダイリマガイノギョクデン 相馬内裏擬玉殿	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
ソウマタロウミバエブンダン 相馬太郎草文談	133	13-06,42	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
ソウマヘイシニダイバナシ 相馬平氏二代譚	133	13-06,42	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
ソウママツリオトニキクツキ 相馬祭音幾久月	016	02-08,57	善知鳥 ウトウ【時代物】
ソウリウチ 草履打[戯曲通称]	134	13-07,18	加賀見山旧錦絵 カガミヤマコキョウノニシキエ
ソガオウギハッケイ 曾我扇八景	135	13-08,35	曾我 ソガ【時代物】
ソガカイケイザン 曾我会稽山	110	11-03,18	十二時曾我 ジュウニトキシソガ【時代物】
ソガカイケイザン 曾我会稽山	200	21-05,42	範頼 ノリヨリ【時代物】

ソガキョウダイ 曾我兄弟	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ソガキョウダイオモイノハリユミ 曾我梅菊念力弦	032	03-12,63	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ソガキョウダイオモイノハリユミ 曾我梅菊念力弦	040	04-08,58	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ソガキョウダイオモイノハリユミ 曾我梅菊念力弦	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ソガキョウダイオモイノハリユミ 曾我梅菊念力弦	242	24-12,20	六玉川 ムタマガウ【舞踊劇】
ソガゴニンキョウダイ 曾我五人兄弟	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
ソガサンパンツツキ 曾我三番続	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ソガジュウバンギリ 曾我十番斬	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ソガスガタノフジ 曾我姿富士	135	13-08,35	曾我 ソガ【時代物】
ソガトラガイシウス 曾我虎が磨	135	13-08,35	曾我 ソガ【時代物】
ソガナカムラアキノトリコミ 曾我中村穰取込	075	07-10,42	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ソガナカムラアキノトリコミ 曾我中村穰取込	084	08-09,24	後日の曾我 ゴニチノソガ【時代物】
ソガナカムラアキノトリコミ 曾我中村穰取込	165	18-01,50	天一坊 テンイチボウ【お家物】
ソガナゲシマダ 曾我投島田	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
ソガナナツイロハ 曾我七以呂波	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】
ソガニシキノキチョウ 曾我錦几帳	135	13-08,35	曾我 ソガ【時代物】
ソガヒイキフタモトザクラ 曾我鼻貞二本桜	106	10-11,18	垣衣草売 シノブウリ【時代物・舞踊劇】
ソガヒイキフタモトザクラ 曾我鼻貞二本桜	141	14-03,35	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ソガヒイキフタモトザクラ 曾我鼻貞二本桜	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
ソガヒョウバンヒョクオトコ 曾我評判比翼男	002	01-02,42	赤土泥蔵 アカツチドロソウ【 】
ソガヒョウバンヒョクオトコ 曾我評判比翼男	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ソガヒョウバンヒョクノオトコ 曾我評判比翼男	170	18-07,38	唐犬権兵衛 トウケンゴンベエ【世話物】
ソガホウライサン 曾我蓬莱山	169	18-06,43	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ソガマツリイキジクラベ 曾我祭侠競	188	20-05,41	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ソガマンネンバシラ 曾我万年柱	072	07-07,39	解脱 ゲダツ【時代物】
ソガムスメチョウジャ 曾我娘長者	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ソガモノガタリ 曾我物語	141	14-03,32	曾我 ソガ【時代物】
ソガモヨウアイゴノワカマツ 曾我綉愛護若松	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ソガモヨウイモセノクミオビ 曾我綉妹背組帯	040	04-08,58	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ソガモヨウイモセノクミオビ 曾我綉妹背組帯	201	21-06,34	箱根五郎 ハコネゴロウ【舞踊劇】
ソガモヨウイモセノクミオビ 曾我綉妹背組帯	230	23-12,19	舞鶴屋 マイヅルヤ【舞踊劇】
ソガモヨウカメヤマソメ 蝶衛亀山染	054	05-11,41	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ソガモヨウタテシノゴショゾメ 曾我綉侠御所染	082	08-07,28	御所の五郎蔵 ゴショノゴロソウ【時代世話物】
ソガモヨウタテシノゴショゾメ 曾我綉侠御所染	229	23-11,15	時鳥殺し ホトギスゴロシ【時代物】
ソガモヨウヒョクノトリクミ 曾我蝶衛比翼結	044	04-12,41	女長兵衛 オンナチョウベエ【世話物】
ソガモヨウフタゴノアダウチ 蝶衛子復讐	092	09-07,46	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
ソクカリガネブンシチ 続雁金文七	056	06-02,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ソクケンジ 続源氏	073	07-08,38	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ソクサンゴクシ 続三国志	221	23-03,24	不破名古屋 フワナゴヤ【 】



ソクセツビダンコウモンキ 俗説美談黄門記	077	08-02,33	黄門記 コウモンキ【お家世話物】
ソデカイシカナザワジツキ 袖懐紙金沢実記	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
ソデカイシカナザワジツキ 袖懐紙金沢実記	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ソデガウラコイノアダナミ 袖浦恋仇浪	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
ソデガウラコイノミチユキ 袖浦恋紀行	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
ソデガウラコキョウノニシキ 袖浦故郷錦	040	04-08,61	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ソデガウラナミダノヌレゴト 袖浦泪濡事	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
ソデキチョウチカイノアサツマ 袖机帳誓別朝妻	143	14-05,22	対牛楼 タイギュウロウ【お家物】
ソデキチョウチカイノアサツマ 袖机帳誓別朝妻	205	21-10,37	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ソデニッキバンシュウメグリ 袖簿播州廻	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
ソデニッキバンシュウメグリ 袖簿播州廻	130	13-03,33	千姫 センヒメ【時代物】
ソデニッキバンシュウメグリ 袖簿播州廻	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ソデニッキフタツドモエ 袖日記双巴	049	05-05,42	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ソデハギサイモン 袖萩祭文[戯曲通称]	143	14-05,20	奥州安達原 オウシュウアダチガハラ
ソデフルユキヨシノシュウイ 袖振雪吉野拾遺	239	24-09,33	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
ソネザキシンジュウ 曾根崎心中	038	04-06,63	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
ソネザキモヨウ 曾根崎模様	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
ソネザキモヨウ 曾根崎模様	039	04-07,56	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ソノイモセハナニオボロ 其妹背花朧	052	05-09,42	勝山 カツヤマ【世話物】
ソノイロドリトウキノコウエキ 其粉飾陶器交易	047	05-03,47	柿右衛門 カキエモン【世話物】
ソノウツシエマツニカエデ 其図画松楓	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ソノウツシエマツニカエデ 其図画松楓	194	20-11,33	二人浅間 ニニンアサマ【舞踊劇】
ソノウラウメイキジノタテヒキ 当裏梅魁香達引	056	06-02,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ソノウラウメイキジノタテヒキ 当裏梅魁香達引	076	07-11,34	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
ソノウワサタツヤアダナミ 其噂立仇浪	175	19-03,43	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
ソノオウギヤウキナノコイカゼ 其扇屋浮名恋風	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
ソノオモカゲアサマガタケ 其倂浅間嶽	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
ソノオモカゲダテノウツシエ 其面影伊達写絵	153	15-09,42	伊達騒動 イダソウドウ【お家物】
ソノオモカゲダテノウツシエ 其面影伊達写絵	220	23-02,29	船の高尾 フネノタカオ【舞踊劇】
ソノオモカゲニニンワンキュウ 其面影二人椀久	196	21-01,33	二人椀久 ニニンワンキュウ【舞踊劇】
ソノコウタユメノヨシワラ 其小唄夢廓	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ソノコウヘンハナノココロエ 第二番目九変化	005	01-05,43	安宅松 アタカノマツ【舞踊劇】
ソノコウヘンハナノココロエ 第二番目九変化	058	06-04,46	官女 カンジョ【舞踊劇】
ソノコウヘンハナノココロエ 第二番目九変化	265	26-11,26	流星 リウウセイ【舞踊劇】
ソノココノエサイシキザクラ 其九絵彩四季桜	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ソノココノエサイシキザクラ 其九絵彩四季桜	053	05-10,40	雷 カミナリ【舞踊】
ソノココノエサイシキザクラ 其九絵彩四季桜	164	17-10,52	丁稚 デッチ【舞踊】
ソノサミセンホマレノタカネ 其三味線誉高調	079	08-04,35	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
ソノスガタシチマイギショウ 其容形七枚起請	086	08-11,28	虚無僧 コムソウ【舞踊劇】

ソノスガタダンシチジマ 其姿団七編	188	20-05,42	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ソノスガタハナノウツシエ 其姿花図絵	101	10-06,19	三人石橋 サンニンシャッキョウ【舞踊劇】
ソノスガタマイラセソロ 其姿まひらせ候	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ソノトキワツアダナカネゴト 其常磐津仇兼言	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ソノナノミカリガネソメ 其名鷹金染	056	06-02,46	鷹金五人女 カリガネゴニンオンナ【世話物】
ソノノユキコイノクミダイ 園雪恋組題	015	02-07,57	薄雪 ウスユキ【時代物】
ソノママニスガタウツシエ 其儘姿写絵	015	02-07,57	写絵 ウツシエ【舞踊劇】
ソノママニタビジノヨメイリ 其儘旅路の嫁入	203	21-08,38	八段目 ハチダンメ【舞踊劇】
ソノママニムスメナナクサ 其儘娘七種	241	24-11,52	娘七種 ムスメナナクサ【舞踊劇】
ソノムカシコイノエドソメ 其往者恋江戸染	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ソバヤ 蕎麦屋[戯曲通称]	143	14-05,22	天衣紛上野初花 クモニマゴウウエノノハツハナ
ソメカエテウキヨノエドツマ 翻脚浮世江戸襷	041	04-09,55	お元新助 オモトシンスケ【世話物】
ソメカエテウキヨノエドツマ 翻脚浮世江戸襷	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
ソメカエテウキヨノエドツマ 染替蝶桔梗	219	23-01,28	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ソメカエテウキヨノエドツマ 染替蝶桔梗	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
ソメタツナタケニハルコマ 染疆竹春駒	020	02-12,40	越後騒動 エチゴソウドウ【お家物】
ソメタツナタケニハルコマ 染疆竹春駒	035	04-03,70	男重の井 オトコシゲノイ【世話物】
ソメタツナハツウマソガ 染手綱初午曾我	035	04-03,70	男重の井 オトコシゲノイ【世話物】
ソメモヨウアキノナナクサ 染模様秋野七草	033	04-01,61	お染の七役 オソメノナナヤク【世話物】
ソメモヨウイモセノカドマツ 染模様妹背門松	057	06-03,42	革足袋 カワタビ【世話物】
ソメワケテクルワノエドツマ 染分花街江戸襷	071	07-06,47	傾城重の井 ケイセイシゲノイ【世話物】
ソメワケテチドリノエドツマ 染分千鳥江戸襷	071	07-06,47	傾城重の井 ケイセイシゲノイ【世話物】
ソメワケテモミジノエドツマ 染分紅地江戸襷	056	06-02,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ソラモオボロツキノカサモリ 空朧月笠森	050	05-07,45	笠森お仙 カサモリオセン【世話物】
ソンジマイラセソウロウソガ 存参らせ候曾我	002	01-02,40	明石志賀之助 アカシシガノスケ【 】
ダイアクソウ 大悪僧	217	22-11,27	札所の靈験 フダシヨノレイゲン【世話物】
ダイカクダイソウジョウゴデンキ 大覚大僧正御伝記	143	14-05,22	大覚 ダイカク【時代物】
ダイガシラカスミノイロマク 台頭霞彩幕	015	02-07,58	腕の喜三郎 ウデノキサプロウ【世話物】
ダイガシラカスミノイロマク 台頭霞彩幕	097	10-01,19	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ダイガシラカスミノイロマク 台頭霞彩幕	170	18-07,37	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ダイガシラミドリノイロマク 台頭緑彩幕	097	10-01,19	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ダイガランホウモツカガミ 大伽藍宝物鏡	012	02-04,48	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ダイガンジョウジュテンガチャムラ 大願成就殿下茶屋聚	166	18-02,44	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
ダイキョウジムカシゴヨミ 大経師昔暦[1706/近松門左衛門]	029	03-09,73	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ダイキョウジムカシゴヨミ 大経師昔暦[1837京]	165	18-01,49	てれめん テレメン【世話物】
ダイク 大工	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ダイクムスメ 大工娘	041	04-09,58	女大杯 オンナオオサカズキ【世話物】
タイケツ 対決[戯曲通称]	144	14-06,29	けいせい睦玉川 ケイセイムツノタマガワ
タイケツ 対決[戯曲通称]	144	14-06,29	伊達競阿国戯場 イダケラベオクニカブキ

タイケツ 対決[戯曲通称] . . . . .	144	14-06,29	放下僧弓勢鉢木	ホウカソウユンゼイハチノキ
タイケツ 対決[戯曲通称] . . . . .	144	14-06,29	早苗鳥伊達聞書	ホトトギスダテノキキガキ
タイケツ 対決[戯曲通称] . . . . .	144	14-06,29	伽羅先代萩	メイボクセンダイハギ
タイケンモンヘイシカッセン 待賢門平氏合戦 . . . . .	258	26-04,19	義朝	ヨシトモ【時代物】
タイケンモンヨルノイクサ 待賢門夜軍 . . . . .	262	26-08,23	頼政	ヨリマサ【時代物】
タイコウエンシヨアワセ 太功艶書合 . . . . .	161	17-06,16	朝鮮軍記	チョウセンゲンキ【時代物】
タイコウキシソノナモタカマツ 太閤記其名高松 . . . . .	149	15-02,34	高松城水責	タカマツジョウミズゼメ【時代物】
タイコウケンキチヨウセンノマキ 太閤軍記朝鮮巻 . . . . .	063	06-09,44	清正	キヨマサ【時代物】
タイコウケンキチヨウセンノマキ 太閤軍記朝鮮巻 . . . . .	161	17-06,17	朝鮮軍記	チョウセンゲンキ【時代物】
タイコウゴニチノハタアゲ 太功後編の旗揚 . . . . .	003	01-03,43	明智乗切	アケチノッキリ【時代物】
タイコウゴニチノハタアゲ 太功後編の旗揚 . . . . .	145	14-08,27	太閤記	タイコウキ【時代物】
タイコノオトダイモクオドリ 太鼓音題目伎踊 . . . . .	104	10-09,18	四千両	シセンリョウ【世話物】
タイコノオトチユウノサンリャク 太鼓音智勇三略 . . . . .	091	09-06,35	酒井の太鼓	サカイノタイコ【時代物】
タイコノオトチユウノサンリャク 太鼓音智勇三略 . . . . .	183	19-12,39	鳥目の上使	トリメノジョウシ【時代物】
タイコヤグラメグミノイシズエ 太鼓櫓恵礎 . . . . .	031	03-11,67	お七吉三	オシチキチサ【世話物】
ダイシガワラリショウノツマグシ 大師河原利裙櫓 . . . . .	249	25-07,23	宿なし団七	ヤドナシダンシチ【世話物】
タイジユウ 太十[戯曲通称] . . . . .	146	14-09,29	絵本太功記	エホンタイコウキ
ダイジヨ 大序[戯曲通称] . . . . .	146	14-09,29	仮名手本忠臣蔵	カナデホンチュウシングラ
タイショカン 大織冠[古浄瑠璃] . . . . .	012	02-04,48	入鹿退治	イルカタイジ【時代物】
タイショカン 大職冠[近松門左衛門] . . . . .	012	02-04,49	入鹿退治	イルカタイジ【時代物】
タイショカンニダイノタマトリ 大職冠二代玉取 . . . . .	012	02-04,48	入鹿退治	イルカタイジ【時代物】
タイショカンマオウガッセン 大織冠魔王合戦 . . . . .	012	02-04,48	入鹿退治	イルカタイジ【時代物】
ダイダイコウ 太々講[戯曲通称] . . . . .	146	14-09,29	伊勢音頭恋寝刃	イセオンドコイノネタバ
ダイダイリオオトモノマトリ 大内裏大友真鳥 . . . . .	025	03-05,64	大友真鳥	オオトモノマトリ【時代物】
ダイダンナカンジンチヨウ 大侯勸進帳 . . . . .	258	26-04,18	義経	ヨシツネ【時代物】
ダイブツデンバンダイノイシズエ 大仏殿万代石楚 . . . . .	213	22-07,44	日向島	ヒユウガジマ【時代物】
ダイブツミミツカシンジュウ 大仏耳塚心中 . . . . .	237	24-07,23	耳塚心中	ミミツカシンジュウ【世話物】
タイハイイロハギョウレツ 泰平いろは行列 . . . . .	160	17-05,30	忠臣蔵	チュウシングラ【お家物】
タイハイオクニカブキ 泰平於国歌舞伎[1709/津打九平次] . . . . .	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup>	イズモノオクニ【時代物】
タイハイオクニカブキ 太平阿国歌舞伎[1724 江戸] . . . . .	008	01-08,56	出雲のお国 <sup>1</sup>	イズモノオクニ【時代物】
タイヘイカブトノカザリ 太平頭髻飾 . . . . .	100	10-05,19	三代記	サンダイキ【時代物】
タイヘイキアシハガッセン 太平記足羽合戦 . . . . .	257	26-03,24	義貞	ヨシサダ【時代物】
タイヘイキクスイノマキ 太平記菊水之巻 . . . . .	070	07-05,42	慶安太平記	ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
タイヘイキクスイノマキ 太平記菊水之巻 . . . . .	156	16-04,16	多門狂乱	タモンキョウラン【舞踊劇】
タイヘイキサザレイシ 太平記さづれ石 . . . . .	160	17-05,29	忠臣蔵	チュウシングラ【お家物】
タイヘイキチュウシンコウシャク 太平記忠臣講釈 . . . . .	060	06-06,41	義士銘々伝	ギシメイメイデン【お家物】
タイヘイキチュウシンコウシャク 太平記忠臣講釈 . . . . .	062	06-08,36	義平拷問	ギヘイゴウモン【世話物】
タイヘイキチュウシンコウシャク 太平記忠臣講釈 . . . . .	149	15-02,35	宅兵衛上使	タクヘエジョウシ【お家物】
タイヘイキチュウシンコウシャク 太平記忠臣講釈 . . . . .	161	17-06,14	忠臣講釈	チュウシンコウシャク【お家物】

タイヘキヒメガジョウ 泰平記姫ヶ城	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
タイヘキヒメガジョウ 泰平記姫ヶ城	052	05-09,45	鎌田又八 カマダマタハチ【お家物】
タイヘキヒャクモノガタリ 太平記百怪物語	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
タイヘイタカムラサンゼオウライ 泰平堂三世往来	038	04-06,62	小野篁 オノノタカムラ【時代物】
タイヘイナルトノフナウタ 太平鳴門の船謡	007	01-07,58	阿波の十郎兵衛 アワノジュウロベエ【お家世話物】
タイヘイフナヅクシ 泰平船尽	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
ダイミョウコトシゴヨミ 大名今年暦	029	03-09,73	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ダイミョウナグサミノガ 大名なぐさみ曾我	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
タイメンハナノハルコマ 対面花春駒	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
タイメンハナノハルコマ 対面花春駒	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ダイモツ 大物〔戯曲通称〕	147	14-10,30	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
ダイモンジャ 大文字屋〔戯曲通称〕	147	14-10,30	紙子仕立両面鑑 カミコジタテリョウメンカガミ
タイヤテリリュウサイタンピラキ 鯛屋貞柳歳旦蘭	182	19-11,42	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
タイラノコレモチガイジンモミジ 平維茂凱陣紅葉	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
タイラノコレモチモミジガリ 平の維茂紅葉狩	245	25-03,15	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
タイラノマサカド 平将門	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
タエマチュウジョウヒメマンダラノユライ 当麻中将姫曼荼羅の由来	159	17-04,29	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
タエマノチュウジョウヒメ 当麻中将姫	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
タガイノムネハレテキヨモト 互胸晴清元	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
タカウジショウグンニダイカガミ 尊氏将軍二代鑑	021	03-01,37	塩谷判官 エンヤハンガン【時代物】
タカオサンゲ 高尾さんげ	148	14-12,25	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
タカオサンゲノダン 高尾さんげの段	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
タカオダイミョウジンモミジノタマガキ 高尾大明神楓籬	152	15-06,29	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
タカオノミヤホンジノカイチョウ 高雄宮本地開帳	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
タカオノミヤホンジノカイチョウ 高雄宮本地開帳	152	15-06,30	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
タカオノモンガク 高雄の文覚〔通称〕	247	25-05,18	貞操花鳥羽恋塚 ミサオノハナトバノコイツカ
タカギオリエモンブドウノジツロク 高木織右武実録	148	14-12,25	高木折右衛門 タカギオリエモン【お家物】
タカギオリエモンブドウノジツロク 高木織右武実録	157	16-05,21	血達磨 チダルマ【お家物】
タカギオリエモンブドウノジツロク 高木織右武実録	244	25-02,24	望月 モチツキ【お家物・舞踊劇】
タカキヤバシケンカノショウブツケ 高台橋争勝負附	264	26-10,21	雷電源八 ライデンゲンバチ【世話物】
タカキヤバシチブミノカラス 高台橋畷烏	264	26-10,21	雷電源八 ライデンゲンバチ【世話物】
タカサゴ 高砂	148	14-12,25	高砂 タカサゴ【時代物】
タカソドメメサクラマツ 誰袖梅桜松	204	21-09,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
タカタチ たかたち	257	26-03,26	義経 ヨシツネ【時代物】
タカダチベンケイジョウ 高館弁慶状	224	23-06,26	弁慶 ベンケイ【時代物】
タカネウジ 高ねうち	117	11-11,21	神武天皇 ジンムテンノウ【王代物】
タカネノユキダテノジツロク 高根雪伊達実録	104	10-09,23	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
タカノチョウエイ 高野長英	148	14-12,29	高野長英 タカノチョウエイ【世話物】
タカヤスガヨイ 高安通	189	20-06,39	業平 ナリヒラ【舞踊劇】

タカラキタヤマコガネノイシズエ 宝来山金礎	053	05-10,39	上方顔見世狂言 カミガタカオミセキョウゲン【 】
タカラソガニョゴノシマダイ 宝首我女護島台	138	13-12,25	曾我 ソガ【時代物】
タカラブネ 宝船	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
タカラブネハンガクオンナゴシヨ 宝船盤額女御所	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
タキギニナウキマノイチカワ 新荷雪間の市川	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
タキグチヨコブエモミジノウウラン 滝口横笛紅葉之遊覧	255	26-01,21	横笛 ヨコブエ【時代物】
タキヤシャ 滝夜叉	149	15-02,34	滝夜叉 タキヤシャ【時代物】
タキヤマゲンバケショウモノガタリ 滝山玄蕃化性物語	011	02-03,63	今川状 イマガワジョウ【時代物】
タケス 竹雀[戯曲通称]	150	15-03,26	妹背山婦女庭訓 イモセヤマオンナテイキン
タケダシンゲン 武田信玄	057	06-03,44	川中島 カワナカジマ【時代物】
タケトリモノガタリ 竹取物語	150	15-03,28	竹取物語 タケトリモノガタリ【時代物】
タケナカトリデ 竹中砦[戯曲通称]	150	15-03,28	木下蔭狭間合戦 コノシタカゲハザマガッセン
タケノコ 筍[戯曲通称]	150	15-03,29	本朝廿四孝 ホンチョウニジユウシコウ
タケノハルコケイノサンショウ 竹比春虎溪三笑	015	02-07,56	薄雪 ウスユキ【時代物】
タケノハルコケイノサンショウ 竹比春虎溪三笑	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
タケノハルヨシワラスズメ 竹春吉原雀	154	16-02,23	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
タケノマ 竹の間[戯曲通称]	151	15-05,23	伽羅先代萩 メイボクセンダイハギ
タコザカナ 蛸肴[戯曲通称]	151	15-05,23	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシンクラ
ダジョウニューウドウヒョウゴノミサキ 太政入道兵庫岬	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ダジョウニューウドウヒョウゴノミサキ 太政入道兵庫岬	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
ダジョウニューウドウヒョウゴノミサキ 太政入道兵庫岬	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
タスケタマエカミノマニマニ 賜助御羸肩	168	18-04,40	天神記 テンジンキ【王代物】
タソヤアンドン たそや行灯	233	24-03,22	松の家露八 マツノヤロハチ【世話物】
タソヤタソナウテノアダモノ 誰全噂仇者	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
タタカイノアト 戦の後	025	03-05,66	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
タダナオキョウギョウジョウキ 忠直卿行状記	021	03-01,33	越前騒動 エチゼンソウドウ【お家物】
タダノマンチュウ 多田満仲	184	20-01,37	仲光 ナカミツ【時代物】
タダフミドウジョウジ 忠文道成寺[通称]	248	25-06,30	道成寺思恋曲者 ドウジョウジコイハクセモノ
タチツクリムサシノワザモノ 太刀作武蔵業物	059	06-05,51	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
タチヌスビト 太刀盗人	151	15-05,25	太刀盗人 タチヌスビト【舞踊劇】
タツガシロレンリノカネ 竜城連理鐘	156	16-04,17	田原藤太 タワラトウダ【時代物】
タツタガワモミジノシラサギ 立田河紅葉白鷺	257	26-03,25	義貞 ヨシサダ【時代物】
タツミノソノ 辰巳の園	017	02-09,49	梅暦 ウメゴヨミ【世話物】
タテクラベアズマハツケイ 倣吾妻八景	183	19-12,38	鳥目の一角 トリメノイッカク【世話物】
ダテクラベオクニカブキ 伊達競阿国戯場[1778/桜田治助].	049	05-05,45	累 カサネ【お家物】
ダテクラベオクニカブキ 伊達競阿国戯場[1778/桜田治助].	152	15-06,28	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ダテクラベオクニカブキ 伊達競阿国戯場[1779/達田弁二].	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
ダテクラベオクニカブキ 伊達競阿国戯場[1782/烏亭焉馬].	152	15-06,29	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ダテクラベオクニカブキ 伊達競阿国戯場[1808江戸].	153	15-09,41	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】

ダテクラベカシクノベニガキ 競かしくの紅翅	032	03-12,62	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ダテクラベクルワニッキ 侠競廓日記	005	01-05,46	油売 アブラウリ【世話物】
ダテゼンセイクルワカガミ 伊達全盛花街鏡	071	07-06,46	傾城鏡山 ケイセイカガミヤマ【世話物】
ダテゾメシカタクウシャク 伊達染仕形講釈	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
ダテゾメシカタクウシャク 伊達染仕形講釈	152	15-06,29	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ダテゾメシカタクウシャク 伊達染仕形講釈	223	23-05,31	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ダテニシキツイノユミトリ 伊達錦対将	015	02-07,59	善知鳥 ウトウ【時代物】
ダテニシキツイノユミトリ 伊達錦対将	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
ダテノジュウヤク 伊達の十役[通称]	154	16-02,23	慙紅葉汗顔見勢 ハジモミジアセノカオミセ
タテヒキコトバノハナカワド 侠詞花川戸	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
タテヒキコトバノハナカワド 侠詞花川戸	233	24-03,25	俎板の長兵衛 マナイタノチョウベエ【世話物】
ダテビキヤククルワオウライ 達飛脚花街往来	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ダテヒョウジョウハルノヨミモノ 伊達評定春読物	104	10-09,23	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
ダテマサムネ 伊達政宗	154	16-02,25	伊達政宗 ダテマサムネ【時代物】
ダテムスビヤッコカガミ 伊達結奴鑑	070	07-05,41	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ダテムスメコイノヒガノコ 伊達娘恋緋鹿子	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ダテモヨウアズマハツケイ 達模様吾妻八景	078	08-03,39	小菊半兵衛 コギクハンベエ【世話物】
ダテモヨウゲタツノキヌガワ 伊達綉解脱絹川	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
ダテモヨウゲタツノキヌガワ 伊達綉解脱絹川	220	23-02,28	不動 フドウ【時代物】
ダテモヨウコミノオリワケ 伊達模様好織分	104	10-09,23	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
ダテモヨウソガノヒナガタ 伊達彩首我雛形	035	04-03,72	男政岡 オトコマサオカ【時代物】
ダテモヨウソメテキサラギ 晴模様染衣更着	002	01-02,38	青砥調 アオトバナシ【 】
ダテモヨウソメテキサラギ 晴模様染衣更着	004	01-04,55	畦倉重四郎 アゼクラジョウシロウ【 】
ダテモヨウソメテキサラギ 晴模様染衣更着	022	03-02,31	大岡政談 オオオカセイダン【 】
ダテモヨウソメテキサラギ 晴模様染衣更着	068	07-03,43	雲霧仁左衛門 クモキリニザエモン【世話物】
ダテユカタクノソメワケ 伊達浴衣菊染分	071	07-06,47	傾城重の井 ケイセイシゲノイ【世話物】
ダテユカタクノイロアゲ 達浴衣一對色揚	095	09-10,28	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
タトエゲンジオウチコトバ 准源氏大内言葉	249	25-07,25	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
タネヒサゴシンショタイコウキ 種瓢真書太閤記	146	14-09,28	大黒割の藤吉 ダイコクワリノトウキチ【時代物】
タネヒサゴシンショタイコウキ 種瓢真書太閤記	203	21-08,38	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】
タネヒサゴシンショタイコウキ 種瓢真書太閤記	214	22-08,27	日吉丸 ヒヨシマル【時代物】
タノミマスソガノカミガキ 頼三升首我神垣	174	19-02,42	遠山甚三 トオヤマジンザ【世話物】
タノミマスソガノカミガキ 頼三升首我神垣	219	23-01,30	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
タノモノカリツクノタマクラ 田雁露手枕	161	17-06,17	朝鮮長屋 チョウセンナガヤ【世話物】
タバコキリ 菖切[戯曲通称]	154	16-02,27	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
タビコロモスガタノハナヨメ 旅衣姿花嫩	160	17-05,35	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
タビスズメアイヤドバナシ 旅雀我好話	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
タビスズメミヨシノデキアキ 旅娘三芳穠	154	16-02,27	旅雀 タビスズメ【舞踊劇】
タマウサギ 玉兔	048	05-04,44	影勝団子 カゲカツダンゴ【舞踊劇】

タマウサギツキノカゲカツ 玉兎月影勝	048	05-04,44	影勝団子 カゲカツダンゴ【舞踊劇】
タマウサギツキノカゲカツ 玉兎月影勝	154	16-02,28	玉兎 タマウサギ【舞踊】
タマカツラシチニンケショウ 玉黒髪七人化粧	015	02-07,59	善知鳥 ウトウ【時代物】
タマギク 玉菊	155	16-03,18	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】
タマクシゲハコザキブンコ 玉櫛笥箱崎文庫	069	07-04,41	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
タマクシゲフタバノモミジ 玉匣二葉柚	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
タマクシゲフタリウラシマ 玉筐両浦島	019	02-11,47	浦島 ウラシマ【時代物】
タマクシゲヨソオイソガ 玉櫛粧曾我	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
タマクシゲヨソオイソガ 玉櫛粧曾我	094	09-09,32	佐野ハツ橋 サノヤツハシ【世話物】
タマサン 玉三[戯曲通称]	155	16-03,18	玉藻前囃袂 タマモノマエアサヒノタモト
タマツシマホンジ 玉津島本地	143	14-05,20	布通姫 ソトオリヒメ【時代物】
タマツバキゲンベイソガ 玉翫椿源平曾我	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
タマツバキゲンベイソガ 玉翫椿源平曾我	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
タマツバキゲンベイソガ 玉翫椿源平曾我	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
タマテバコホマレノコトブキ 玉手箱誉寿	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
タマトリ 珠取[戯曲通称]	155	16-03,18	苅萱桑門筑紫鞆 カルカヤドウシンツクシノイエツト
タマツリボタンドウロウ 精霊祀牡丹灯籠	228	23-10,20	牡丹灯籠 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
タマモノマエ 玉藻前	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエアサヒノタモト 玉藻前囃袂[1751/浪岡橋平]	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエアサヒノタモト 玉藻前囃袂[1806/佐川藤太]	155	16-03,19	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエアサヒノタモト 玉藻前囃袂[文政頃大坂浜芝居]	155	16-03,22	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエオバナノニシキ 玉藻前尾花錦織	155	16-03,20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエカツラノマユズミ 玉藻前桂黛	155	16-03,20	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエクモイノハレギヌ 玉藻前御園公服	155	16-03,21	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
タマモノマエクモイノハレギヌ 玉藻前御園公服	195	20-12,30	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
タマヨバイトバノコイツカ 復鳥羽恋塚	246	25-04,29	文覚 モンガク【時代物】
タムケノシキシカキツノフツツカ 法四季紙家橘拙	154	16-02,28	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】
タムケヤマモミジノミテグラ 手向山紅葉御幣	107	10-12,18	時平七笑 シヘイナナワライ【時代物】
タムラ たむら	155	16-03,22	田村將軍 タムラショウグン【時代物】
タムラ 田村	155	16-03,22	田村將軍 タムラショウグン【時代物】
タムラショウグンハツカンノン 田村將軍初観音	155	16-03,22	田村將軍 タムラショウグン【時代物】
タムラマロスズカカッセン 田村麿鈴鹿合戦	003	01-03,45	阿漕の平次 アコギノヘイジ【時代物】
タメトモユミヤノオヤフネ 為朝射親船	111	11-04,18	崇徳院 ストクイン【時代物】
タメトモユミヤノオヤフネ 為朝射親船	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
タメトノシラシボリ 袂の白絞	033	04-01,61	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
タリキホンガンキ 他力本願記	228	23-10,17	法然上人 ホウネンショウニン【時代物】
ダルマノホンジ 達磨の本地	156	16-04,16	達磨 ダルマ【時代物】
タルヤオセン 樽屋おせん[1916/大森痴雪]	156	16-04,17	樽屋おせん タルヤオセン【世話物】
タルヤオセン 樽屋おせん[1928/林和]	156	16-04,17	樽屋おせん タルヤオセン【世話物】

タレモウワサイロトキクツキ 誰噂色菊月	040	04-08,61	お祭佐七 オマツリサシチ【世話物】
タレモミライロニヤツシ 誰身色和事	155	16-03,21	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
ダンゴウリ 団子売[人形浄瑠璃]	156	16-04,18	団子売 ダンゴウリ【舞踊劇】
ダンゴウリ 団子売[1939 東京歌舞伎座]	156	16-04,18	団子売 ダンゴウリ【舞踊劇】
ダンゴウリ 団子売[常磐津]	156	16-04,18	団子売 ダンゴウリ【舞踊劇】
タンシュウセンネンギツネ 丹州千年狐	167	18-03,44	天鼓 テンコ【時代物】
タンシュウテテウチグリ 丹州爺打栗	036	04-04,69	男山姥 オトコヤマウバ【時代物】
タンシュウテテウチグリ 丹州爺打栗	114	11-08,16	白髪金時 シラガキントキ【時代物】
ダンセンソガ 団扇曽我	134	13-07,19	曽我 ソガ【時代物】
ダンドクセン 檀特山[戯曲通称]	157	16-05,15	一谷嫩軍記 イチノタニフタバゲンキ
ダンノウラカプトグンキ 壇浦兜軍記	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
ダンノウラカプトグンキ 壇浦兜軍記	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ダンノウラカプトグンキ 壇浦兜軍記	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
タンバヨサク 丹波与作	103	10-08,33	重の井 シゲノイ【お家物】
タンバヨサク 丹波与作	157	16-05,15	丹波与作 タンバヨサク【お家物】
タンバヨサクタツナオビ 丹波与作手綱帯	157	16-05,15	丹波与作 タンバヨサク【お家物】
チオンインノキバノフルガサ 知恩院軒端古傘	009	02-01,63	一本足 イッボンアシ【舞踊】
チカイテシイロトイウナゾ 誓文色謂謎	045	05-01,45	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
チカイクスビウキナノタテガク 盟結艶立額	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
チカゴロカワラノタテヒキ 近頃河原の達引[人形浄瑠璃]	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
チカゴロカワラノタテヒキ 近頃河原の達引[1802/並木五瓶]	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
チカゴロカワラノタテヒキ 近頃河原の達引[1830/勝俵蔵]	032	03-12,61	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
チカゴロカワラノタテヒキ 近頃河原の達引[1830/勝俵蔵]	197	21-02,51	鼠小僧 ネズミコゾウ【世話物】
チカゴロコイノヨガタリ 近頃恋世語	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
チキリイセヤ ちきり伊勢屋	157	16-05,16	伊勢屋 チキリイセヤ【世話物】
チギルコイハルノアワモチ 契恋春粟餅	007	01-07,58	粟餅 アワモチ【舞踊劇】
チグサノアキサガノツキカゲ 千種秋嵯峨月影	184	20-01,37	仲国 ナカクニ【舞踊劇】
チグサノカリグラ 千種の狩倉	140	14-02,29	曽我 ソガ【時代物】
チグサノノベコイノフタミチ 千種野恋の両道	075	07-10,42	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
チグサノノベツユニヌレゴト 千種野辺露濡事	098	10-03,26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
チグサノハナ 千種の花[通称]	009	02-01,62	月隈穠野花 ツキノクマアキノノハナ
チグサノハナイロノヨザカリ 千種の花色世盛	218	22-12,24	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
チグサノハナイロノヨザカリ 千種の花色世盛	251	25-09,19	大和団子 ヤマトダンゴ【舞踊劇】
チグサノハナオンドノシンウタ 千種花音頭新唄	005	01-05,49	油屋 アブラヤ【世話物】
チグサノハナツキノコオリ 千種花月氷	077	08-02,35	氷屋 コオリヤ【舞踊劇】
チグサノミダレザキ 千種の乱咲	268	27-02,29	椀久 ワンキュウ【世話物】
チグサムスビイロノデキアキ 千種結色出来糰	078	08-03,40	小菊半兵衛 コギクハンベエ【世話物】
チグサムスビムカシエゾシ 千種結旧画草紙	027	03-07,63	お亀与兵衛 オカメヨヘエ【世話物】
チクマガワ 筑摩川	046	05-02,45	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】



チゴガフチ 児ケ淵	157	16-05,18	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
チゴガフチハナノシラナミ 児淵花白浪	157	16-05,17	稚児淵 チゴガフチ【お家物】
チゴゲンジドウチュウゲンキ 児源氏道中軍記	067	07-02,39	熊坂 クマサカ【時代物】
チゴゲンジドウチュウゲンキ 児源氏道中軍記	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【時代物】
チゴザクラジュウサンガネ 児桜十三鐘	001	01-01,39	あいごの若 アイゴノワカ【 】
チゴザクラジュウサンガネ 児桜十三鐘	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
チゴトリイトビイリキツネ 児華表飛入阿紫	067	07-02,40	熊坂 クマサカ【時代物】
チゴトリイトビイリキツネ 児華表飛入阿紫	068	07-03,45	鞍馬獅子 クラマジシ【舞踊劇】
チゴトリイトビイリキツネ 児華表飛入阿紫	103	10-08,36	静御前 シズカゴゼン【時代物】
チゴモヨウソガノゴショゾメ 児模様首我館染	090	09-05,38	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
チゴモヨウソガノゴショゾメ 児模様首我館染	102	10-07,23	敷皮首我 シキガワソガ【時代物】
チジンユウサンメンノダイコク 智仁勇三面大黒	146	14-09,26	太閤記 タイコウキ【時代物】
チトセノツルエドイリスゴロク 千歳鶴東入双六	081	08-06,38	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
チャウスヤマガイカノジンダテ 茶白山凱歌陣立	023	03-03,66	大阪陣 オオサカジン【時代物】
チャウスヤマガイカノジンダテ 茶白山凱歌陣立	083	08-08,49	後藤又兵衛 ゴトウマタベエ【時代物】
チャセンザケ 茶筌酒[ 戯曲通称 ]	159	17-04,27	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
チャツボ 茶壺	159	17-04,27	茶壺 チャツボ【舞踊劇】
チャヤバ 茶屋場[ 戯曲通称 ]	159	17-04,27	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
チュウギツカチカイノオオイシ 忠義墳盟約大石	060	06-06,41	義士銘々伝 キシメイメイデン【お家物】
チュウコウイロハタンカ 忠孝いろは短歌	060	06-06,42	義士銘々伝 キシメイメイデン【お家物】
チュウコウウメノカナザワ 忠孝梅金沢	084	08-09,23	後日の加賀騒動 ゴニチノカガソウドウ【お家物】
チュウコウギツクシノアダウチ 忠孝義筑紫仇討	161	17-06,20	筑紫市兵衛 ツクシイチベエ【お家物】
チュウコウギホマレノマツガエ 忠孝義誉松ケ枝	233	24-03,24	松前屋五郎兵衛 マツマエヤゴロベエ【世話物】
チュウコウショウブガタナ 忠孝菖蒲刀	054	05-11,41	龜山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
チュウコウソメワケタツナ 忠孝染分疆	035	04-03,71	男重の井 オトコシゲノイ【世話物】
チュウコウソメワケタツナ 忠孝染分疆	239	24-09,35	美代吉殺し ミヨキチゴロシ【世話物】
チュウコウホマレノフタミチ 忠孝誉両街	051	05-08,48	合邦辻 ガッボウガツジ【お家物】
チュウコウムサシアブミ 忠孝武蔵鎧	162	17-08,50	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
チュウコウリョウゴクオリ 忠孝両国織	160	17-05,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウジョウヒメ 中将姫	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメキョウビイナ 中将姫京雛	030	03-10,72	お七吉三 オンチキチサ【世話物】
チュウジョウヒメキョウビイナ 中将姫京雛	159	17-04,29	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメコセキノマツ 中将姫古跡の松	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメゴホンジ 中将姫御本地	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメタエマエンギ 中将姫当麻縁記	159	17-04,30	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメハチスノマンダラ 中将姫蓮曼茶羅	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウジョウヒメミツノクルマ 中将姫三つの車	159	17-04,29	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
チュウシンアオトガタナ 忠臣青砥刀	011	02-03,63	今川状 イマガワジョウ【時代物】
チュウシンアカツキノトリ 忠臣晴金鶏	084	08-09,25	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】

チュウシンイロハグンダン 忠臣いろは軍談	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシンイロハジツキ 忠臣いろは実記	105	10-10,27	実録忠臣蔵 ジツロクチュウシングラ【お家物】
チュウシンイロハジツキ 忠臣いろは実記	160	17-05,33	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラエンシュツ 忠臣蔵演出[解説]	160	17-05,33	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラゴジュウサンツギ 忠臣蔵五十三紀	081	08-06,39	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
チュウシングラゴジュウサンツギ 忠臣蔵五十三紀	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
チュウシングラゴニチノジツロク 忠臣蔵後日実録	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
チュウシングラゴニチノタテマエ 忠臣蔵後日建前	042	04-10,70	女定九郎 オンナサダクロウ【世話物】
チュウシングラゴニチノタテマエ 忠臣蔵後日建前	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
チュウシングラゴニチノタテマエ 忠臣蔵後日建前	209	22-03,37	引揚 ヒキアゲ【お家物】
チュウシングラシチダンガエシ 忠臣蔵七段返し	160	17-05,35	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラジュウイチダンガエシ 忠臣蔵十一段返し	161	17-06,14	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラスガタノエアワセ 忠臣蔵形容画合	160	17-05,35	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラネツギノイシズエ 忠臣蔵増補柱礎	160	17-05,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシングラネンジュウギョウジ 忠臣蔵年中行事	108	11-01,22	清水一角 シミズイッカク【お家物】
チュウシングラネンジュウギョウジ 忠臣蔵年中行事	109	11-02,30	十二ヶ月忠臣蔵 ジュウニカゲツチュウシングラ【お家物】
チュウシンコガネノタンザク 忠臣金短冊	028	03-08,70	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
チュウシンコガネノタンザク 忠臣金短冊	159	17-04,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシンフタバグラ 忠臣双葉蔵	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
チュウシンミガワリモノガタリ 忠臣身替物語	065	06-12,31	金平 キンピラ【時代物】
チュウシンレンリノハチウエ 忠臣連理迺鉢植	013	02-05,53	植木屋 ウエキヤ【お家物】
チュウナゴンユキヒラフタゴザクラ 中納言業平存桜	235	24-05,21	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
チュウシンイロハジツキ 忠臣いろは実記	108	11-01,22	清水一角 シミズイッカク【お家物】
チョイノセ ちよいのせ	057	06-03,42	革足袋 カワタビ【世話物】
チュウコクヒダリジンゴロウ 彫刻左小刀	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
チュウコチョウカガミノニガオエ 蝶小蝶団鏡写絵	128	12-11,27	雪駄直し長五郎 セツタナオシチョウゴロウ【世話物】
チュウジャエイタイグラ 長者永代蔵	025	03-05,65	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
チュウセイデンシラガキントキ 長生殿白髪金時	114	11-08,16	白髪金時 シラガキントキ【時代物】
チュウセンダネマガイノカンザシ 朝鮮種偽簪	161	17-06,17	朝鮮長屋 チョウセンナガヤ【世話物】
チュウチドリスマノクミウチ 蝶千鳥須磨組討	042	04-10,68	女工藤 オンナクドウ【時代物】
チュウチドリスマノクミウチ 蝶千鳥須磨組射	092	09-07,43	桜田事変 サクラダジヘン【世話物】
チュウチドリソガノジツデン 蝶千鳥曾我実伝	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
チュウチドリソガノジツロク 蝶千鳥曾我実録	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
チュウチュウフタゴノキョウダイ 蝶全存梅菊	219	23-01,30	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
チュウトツルヒヨクノオビヒキ 蝶鶴比翼の帯引	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
チュウトツルヒヨクノオビヒキ 蝶鶴比翼の帯引	251	25-09,17	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
チュウトミマスオウギノカガボネ 蝶三升扇加賀製	129	12-12,29	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
チュウハナガタコイムコゲンジ 蝶花形恋智源氏	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
チュウハナガタコイムコゲンジ 蝶花形恋智源氏	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>2</sup> タケノウチノスクネ【舞踊劇】

チョウハナガタコイムコゲンジ 蝶花形恋智源氏	256	26-02,27	義家 ヨシイエ【時代物】
チョウハナガタメイカノシマダイ 蝶花形名歌島台	161	17-06,17	蝶花形 チョウハナガタ【時代物】
チョウモヒヨクヤマザキオドリ 蝶鷲山崎踊	219	23-01,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
チョットミホウワキガマコト 須叟三保浮気実	081	08-06,37	五十三駅 ゴジウサンツギ【時代お家世話物】
チヨノハジメオンドノセト 千代初音頭瀬渡	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
チヨノホマレマツヤマビダン 千代誉松山美談	233	24-03,25	松山開城 マツヤマカイジョウ【時代物】
チョハツカイ 猪八戒	091	09-06,34	西遊記 サイユウキ【舞踊劇】
チヨバンゼインガノシマダイ 鶴寿亀曾我島台	064	06-10,37	霧太郎 キリタロウ【時代物】
チヨバンゼインガノシマダイ 鶴寿亀曾我島台	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
チラシガキコイノブンショウ 散書恋文章	041	04-09,55	お八十藤兵衛 オヤソトウベエ【世話物】
チンゼイハチロウエイケツモノガタリ 鎮西八郎英傑譚	266	26-12,19	琉球の為朝 リュウキュウノタメトモ【時代物】
チンゼイハチロウゴウマノカブラヤ 鎮西八郎降魔鎧	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
チンゼイハチロウタメトモ 鎮西八郎為朝	155	16-03,23	為朝 タメトモ【時代物】
チンゼイハチロウモロコシブネ 鎮西八郎唐土船	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
チンゼイハチロウモロコシブネ 鎮西八郎唐土船	258	26-04,20	義朝 ヨシトモ【時代物】
チンゼイハチロウモロコシブネ 鎮西八郎唐土船	266	26-12,19	琉球の為朝 リュウキュウノタメトモ【時代物】
ツイゼンカサネオウギ 追善累扇子	167	18-03,45	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ツイゼンソガ 追善曾我	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ツイノアミガサ 対編笠	095	09-10,29	鞘当 サヤアテ【時代物】
ツウゾクケイセイサンゴクシ 通俗傾城三国志	221	23-03,24	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ツウゾクサイユウキ 通俗西遊記	091	09-06,34	西遊記 サイユウキ【舞踊劇】
ツエセツカン 杖折檻〔戯曲通称〕	161	17-06,20	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
ツガイノチョウユメニオウヨ 番蝶夢逢夜	040	04-08,58	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ツギアワセコシジノメイボク 接合北国梅	046	05-02,44	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
ツギカエテネギシノイシズエ 接木根岸礎	175	19-03,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
ツキトウメカオルオボロヨ 月梅薫籠夜	206	21-11,35	花井お梅 ハナイオウメ【世話物】
ツキトウメメグミノカゲキヨ 月梅撰景清	214	22-08,26	日向島 ヒユウガジマ【時代物】
ツキトウメヤワラギソガ 月梅和曾我	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
ツキトハナココロニトモドリ 月花茲友鳥	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
ツキニウタウオギエノヒトフシ 月謡荻江一節	027	03-07,63	荻江露友 オギエロユウ【世話物】
ツキノエンマスノイガグリ 月宴升毬栗	098	10-03,27	散切お富 ザンギリオトミ【世話物】
ツキノエンヤナギノエアワセ 月宴柳絵合	250	25-08,14	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ツキノカオモナカノナトリグサ 月顔最中名取草	037	04-05,67	鬼次拍子舞 オニジヒョウシマイ【舞踊劇】
ツキノカケザラコイジノヨイヤミ 月欠皿恋路宵闇	224	23-06,26	紅皿欠皿 ベニザラカケザラ【時代世話物】
ツキノクマアキノノハナ 月隈穉野花	009	02-01,62	市原野 イチハラノ【舞踊劇】
ツキノシラハボンジノホリモノ 月白刃梵字彫物	229	23-11,16	梵字の徳次郎 ボンジノトクジロウ【世話物】
ツキノデムラロクヤノヒトフシ 月出村廿六夜諷	195	20-12,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ツキノトモツイノミチユキ 月友対道行	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ツキノムサシノアキノセワゴト 月武蔵野穉狂言	075	07-10,41	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】

ツキノムサシノアキノセワゴト 月武蔵野穉狂言	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ツキノヤナギサトノカミスキ 月柳廓髪梳	023	03-03,68	大阪万歳 オオサカマンザイ【舞踊劇】
ツキミツキヨケイノアダウチ 月視月余慶鬻討	007	01-07,59	安栄録 アンエイロク【お家物】
ツキミツキヨケイノアダウチ 月視月余慶鬻討	061	06-07,45	木津勘助 キヅカンスケ【世話物】
ツキミノハレメイガノイチジク 月見曠名画一軸	041	04-09,57	お若伊之助 オワカイノスケ【世話物】
ツキミノハレメイガノイチジク 月見曠名画一軸	157	16-05,21	血達磨 チダルマ【お家物】
ツキモデムラツユノタマヤ 月出村白露玉屋	196	21-01,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ツキユキハナナゴリノブンダイ 月雪花名残文台	004	01-04,52	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ツキユキハナナゴリノブンダイ 月雪花名残文台	112	11-06,23	猩々 ショウジョウ【舞踊】
ツキユキハナナゴリノブンダイ 月雪花名残文台	154	16-02,28	玉兔 タマウサギ【舞踊】
ツキユキハナナゴリノブンダイ 月雪花名残文台	230	23-12,20	まかしよ マカシヨ【舞踊】
ツキユキハナマキエノサカズキ 月雪花時絵の扨	161	17-06,20	月の巻 ツキノマキ【舞踊劇】
ツキユキハナマキエノサカズキ 月雪花時絵の扨	187	20-04,46	納豆売 ナットウウリ【舞踊】
ツキユキハナミツグミサカズキ 月雪花三組杯觴	092	09-07,41	鶯娘 サギムスメ【舞踊劇】
ツキユキハナミツグミサカズキ 月雪花三組杯觴	266	26-12,20	漁師 リョウシ【舞踊】
ツキユキハナメイカノスガタエ 月雪花名歌姿画	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
ツキユキハナメイカノスガタエ 月雪花名歌姿画	265	26-11,26	蘭平物狂 ランベイモノグルイ【時代物】
ツキユキハナメイカノスガタエ 月雪花名歌姿画	266	26-12,20	漁師 リョウシ【舞踊】
ツクシガタマツヨノチヨザキ 筑紫湯松千代咲	266	26-12,20	烈婦千代咲 レッブチヨザキ【お家物】
ツクシコウダンナミノシラヌイ 筑紫巷談浪白縫	069	07-04,40	黒田騒動 クロダソウドウ【お家物】
ツグムゲンジウグイスツカ 芽源氏鶯塚	014	02-06,57	鶯塚 ウグイスツカ【時代物・お家物】
ツクリカエシンコウキ 添削信仰記	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
ツジガハナナツヨソオイ 辻花七化粧	266	26-12,19	漁師 リョウシ【舞踊】
ツタモミジウツノヤトウゲ 鳶紅葉宇都谷峠	224	23-06,24	文弥殺し ブンヤゴロシ【世話物】
ツタモヨウチヅメノゴシュイン 鳶模様血染御書	158	16-10,36	血達磨 チダルマ【お家物】
ツチグモ 土蜘蛛	161	17-06,22	土蜘蛛 ツチグモ【舞踊劇】
つちやちから 土屋主税	161	17-06,22	土屋主税 ツチヤチカラ【お家物】
ツナヤカタ 綱館	010	02-02,57	茨木 イバラキ【舞踊劇】
ツノクニトウイノタマガワ 摂津国橋衣玉川	170	18-07,37	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ツノクニナガラノヒトバシラ 摂津国長柄人柱	012	02-04,49	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ツノクニナガラノヒトバシラ 摂津国長柄人柱	186	20-03,42	長柄の人柱 ナガラノヒトバシラ【時代物】
ツノクニミナトガワガッセン 摂津国湊川合戦	070	07-05,41	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ツノクニメオトイケ 津国女夫池	240	24-10,23	三好長慶 ミヨシチヨウケイ【時代物】
ツノトサプロウ 津戸三郎	257	26-03,28	義経 ヨシツネ【時代物】
ツノビタイシットノジャヤナギ 角額嫉蛇柳	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ツボサカレイゲンキ 壺坂靈験記	161	17-06,22	壺坂 ツボサカ【世話物】
ツボネイワフジヒヨクノウチカケ 局岩藤比翼襦袢	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ツボヤキユウベエ 壺屋久兵衛[別外題]	268	27-02,30	美名辰春錦欄手 ホマレタツハルノニシキデ
ツマガサネアワセカタビラ 榎重袷羅衣	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】

ツマガサネイロノフルテヤ 棲重潤色古手屋	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ツマガサネカネテキクツキ 棲重嚙菊月	029	03-09,71	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
ツマガサネカネテキクツキ 棲重嚙菊月	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ツマガサネカンスケジマ 棲重勸助編	061	06-07,44	木津勸助 キヅカンスケ【世話物】
ツマガサネカタノハナグラベ 髯客顔花競	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
ツマガサネチシオノアカバネ 棲重血汐鼓	092	09-07,45	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
ツマガサネナニワノハチモンジ 棲重浪花八文字	016	02-08,58	鰻谷 ウナギタニ【世話物】
ツマガサネナニワノハチモンジ 棲重浪花八文字	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ツマガサネミドリノイロアゲ 棲重緑色揚	122	12-05,14	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
ツマコウシカウワサノアダウチ 妻乞鹿浮佐野髻	094	09-09,32	佐野鹿十郎 サノシカジュウロウ【お家物】
ツマミシボリチゾメノノザラシ 摘絞鮮血染野晒	157	16-05,15	団泰二 ダンタイジ【世話物】
ツمامカエイロノフミツキ 妻迎艶文月	219	23-01,28	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ツمامカエシズガタツクリ 妻迎賤調布	146	14-09,29	大黒割の藤吉 ダイコクワリノトウキチ【時代物】
ツモルコイユキノセキノト 積恋雪閑扉	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ツモルコイユキノセキノト 積恋雪閑扉	128	12-11,26	閑の扉 セキノト【舞踊劇】
ツユコソデムカシハチジョウ 梅雨小袖昔八丈	053	05-10,41	髪結新三 カミュイシンザ【世話物】
ツユゴロモスイゲツジョウワ 梅雨衣酔月情話	206	21-11,35	花井お梅 ハナイオウメ【世話物】
ツユシグレモミジノアイガサ 露時雨紅葉合傘	001	01-01,41	青木弥太郎 アオキヤタロウ【 】
ツユトオバナノベノヌレゴト 露尾花野辺濡事	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ツユノチョウクルワノメイゲツ 露蝶廓名月	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ツリギツネ 釣狐[1687 江戸]	162	17-07,47	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ツリギツネ 釣狐[1882/河竹黙阿弥]	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ツリギツネサトノカケワナ 釣狐廓掛罨	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ツリギツネハルノランギク 釣狐春乱菊	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ツリテンジョウ 釣天井	162	17-08,50	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ツルガジョウ 鶴ヶ城	001	01-01,40	会津産明治組重 アイツサンメイジノクミジュウ【 】
ツルガノツサンガイグラ つるがの津三階蔵	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ツルガノツサンガイグラ つるがの津三階蔵	229	23-11,14	仏の原 ホトケノハラ【お家物】
ツルコロシ 鶴殺し[戯曲通称]	164	17-10,51	奥州安達原 オウシュウアダチガハラ
ツルノチトセソガノカドマツ 鶴千歳曾我門松	009	02-01,63	一休禅師 イッキウゼンジ【時代物】
ツルノチトセソガノカドマツ 鶴千歳曾我門松	119	12-02,16	醉菩提 スイボダイ【お家物】
ツルノチトセソガノカドマツ 鶴千歳曾我門松	199	21-04,36	野晒悟助 ノザラシゴスケ【世話物】
ツレツレグサ つれづれ草[1681/近松門左衛門]	257	26-03,25	吉田兼好 ヨシダケンコウ【時代物】
ツレツレグサ つれづれ草[1759 上方]	257	26-03,26	吉田兼好 ヨシダケンコウ【時代物】
ツレヲタヨリココニオオツエ 連方便茲大津画	024	03-04,72	大津絵 オオツエ【舞踊劇】
ツレヲタヨリココニオオツエ 連方便茲大津画	216	22-10,29	藤娘 フジムスメ【舞踊】
ツワモノアズマヤツクリ 兵四阿屋造	010	02-02,57	茨木 イバラキ【舞踊劇】
ツワモノコンゲンソガ 兵根元曾我	065	06-12,32	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
ツワモノコンゲンソガ 兵根元曾我	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】

ツワモノコンゲンソガ 兵根元曾我	141	14-03,33	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ツワモノコンゲンソガ 兵根元曾我	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
テイキンイモセヤマジツキ 庭訓妹背山実記	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
デキアキコイノヤマザキ 豊穠恋山崎	218	22-12,25	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
デキアキヤワタマツリ 当糰八幡祭	218	22-12,24	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
デキアキヤワタマツリ 当糰八幡祭	251	25-09,19	大和団子 ヤマトダンゴ【舞踊劇】
テクダノワナキヤツツツリヒゲ 奇畷娼釣髭	004	01-04,49	朝比奈釣狐 アサイナツリギツネ【舞踊劇】
テッシュウトジロチヨウ 鉄舟と次郎長	108	11-01,22	清水次郎長 シミズノジロチヨウ【世話物】
テッポウバ 鉄砲場[戯曲通称]	164	17-10,52	義経腰越状 ヨシツネコシゴエジョウ
テッポウワタシ 鉄砲渡し[戯曲通称]	164	17-10,52	本朝廿四孝 ホンチヨウニジュウシコウ
テニハヨカエテクルワブンショウ 翻詞廓文章	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
テライリ 寺入り[戯曲通称]	164	17-10,52	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
テラコヤ 寺子屋[戯曲通称]	164	17-10,52	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
テンイチボウ 天一坊	165	18-01,51	天一坊 テンイチボウ【お家物】
テンイチボウオオオカセイダン 天一坊大岡政談	165	18-01,51	天一坊 テンイチボウ【お家物】
テンカイチカガミヤマジツキ 天下一鏡山実記	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
テンカイチチュウシンカガミ 天下一忠臣照鏡	111	11-04,15	十八ヶ条申開 ジュウハツカジョウモウシヒラキ【お家物】
テンカイチチュウシンカガミ 天下一忠臣照鏡	209	22-03,37	引揚 ヒキアゲ【お家物】
テンカタイヘイキ 天下太平記	042	04-10,67	女楠 オンナクスノキ【時代物】
テングチャヤ 天下茶屋	167	18-03,44	天下茶屋 テングチャヤ【お家物】
テングハウチ 天狗羽討	080	08-05,30	小四天王 コシテンノウ【時代物】
テンジクトクベエ 天竺徳兵衛	168	18-04,38	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエイコクバナシ 天竺徳兵衛韓嘶[1804/鶴屋南北]	168	18-04,39	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエイコクバナシ 天竺徳兵衛韓嘶[1832 江戸]	167	18-03,45	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエイコクバナシ 天竺徳兵衛韓嘶[1832 江戸]	224	23-06,22	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
テンジクトクベエイコクバナシ 天竺徳兵衛韓嘶[1849 江戸]	194	20-11,32	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
テンジクトクベエキキガキオウライ 天竺徳兵衛聞書往来	168	18-04,38	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエコキョウノトリカジ 天竺徳兵衛故郷取楯	168	18-04,39	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエサトノスガタミ 天竺徳兵衛郷鏡	168	18-04,39	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジクトクベエバンリノイリフネ 天竺徳兵衛万里入船	167	18-03,46	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
テンジテンノウ 天智天皇	168	18-04,42	天智天皇 テンジテンノウ【王代物】
テンジテンノウカリホノイオリ 天智天皇苅穂庵	168	18-04,42	天智天皇 テンジテンノウ【王代物】
デンジュノウンリュウ 伝授の雲竜	253	25-11,22	雪姫 ユキヒメ【時代物】
デンジュバ 伝授場[戯曲通称]	168	18-04,40	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
テンジンキ 天神記	168	18-04,40	天神記 テンジンキ【王代物】
テンジンゴシュウシヨウキ 天神御出生記	168	18-04,40	天神記 テンジンキ【王代物】
テンチジンサンジャノアミフネ 天地人三社網船	099	10-04,16	三社祭 サンジャマツリ【舞踊劇】
テンノアミジマ 天網島	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
テンノウジヒガンノチュウニチ 天王寺彼岸中日	067	07-02,41	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】

テンボウエンゲキシ 天保演劇史	176	19-04,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
テンボウザンナガメノオオシオ 天保山眺望大塩	024	03-04,71	大塩平八郎 オオシオヘイハチロウ【世話物】
テンボウスイコデン 天保水滸伝	168	18-04,42	天保水滸伝 テンボウスイコデン【世話物】
デンボウヤ 伝法屋[戯曲通称]	169	18-06,42	伊賀越乗掛合羽 イガゴエノリカケガッパ
テンボウロッカセン 天保六佳撰	076	07-11,35	河内山 コウチャマ【世話物】
テンマングウアイジュノメイボク 天満宮花梅桜松	107	10-12,17	時平七笑 シヘイナナワライ【時代物】
テンマングウナタネノゴクウ 天満宮菜種御供	106	10-11,20	時平七笑 シヘイナナワライ【時代物】
トウエイザンノウフノネガイシヨ 東叡山農夫願書	092	09-07,43	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
トウカイキダシネコマタヤシキ 東海寄談音児館	081	08-06,39	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
トウカイキダシネコマタヤシキ 東海寄談音児館	264	26-10,23	羅漢 ラカン【怪談劇】
トウカイドウイロハニツキ 東駅いろは日記	026	03-06,63	岡崎の猫 オカザキノネコ【世話物】
トウカイドウイロハニツキ 東駅いろは日記	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
トウカイドウコイノセキフダ 東海道恋の関札	035	04-03,70	男重の井 オトコシゲノイ【世話物】
トウカイドウシチリノワタシ 東海道七里艇梁	008	01-08,57	伊勢新九郎 イセシンクロウ【 】
トウカイドウフリワケスゴロク 東海道振分双六	041	04-09,57	御末刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
トウカイドウユクミグルマ 東海道温泉汲車	028	03-08,68	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
トウカイドウユクミグルマ 東海道温泉汲車	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
トウカイドウヨツヤカイダン 東海道四谷怪談[1825/鶴屋南北]	184	20-01,36	直助権兵衛 ナオスケゴンベエ【世話物】
トウカイドウヨツヤカイダン 東海道四谷怪談[1825/鶴屋南北]	259	26-05,26	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
トウカイドウヨツヤカイダン 東海道四谷怪談[1831 人形浄瑠璃]	260	26-06,19	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
トウガネモエモン 東金茂右衛門[読本浄瑠璃]	169	18-06,42	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
トウガネモエモンアズマカズラ 唐金茂右衛門東曼	169	18-06,42	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
トウキョウノムカシバナシ 東京の昔話	233	24-03,23	松の家露八 マツノヤロハチ【世話物】
ドウゲントトキヨリ 道元と時頼	170	18-07,39	道元禅師 ドウゲンゼンシ【時代物】
ドウジマタノミノツミコミ 堂島田実畳	070	07-05,37	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
トウジュウロウノコイ 藤十郎の恋	170	18-07,39	藤十郎の恋 トウジュウロウノコイ【世話物】
ドウジョウジゲンザイウロコ 道成寺現在蛇鱗	063	06-09,43	清姫 キヨヒメ【時代物】
ドウジョウジコイハクセモノ 道成寺思恋曲者	063	06-09,44	清姫 キヨヒメ【時代物】
ドウジョウジコイハクセモノ 道成寺思恋曲者	248	25-06,30	奴道成寺 ヤッコドウジョウジ【舞踊劇】
ドウジョウジマタモカネイリ 道成寺二人鐘入	196	21-01,32	二人道成寺 ニニンドウジョウジ【舞踊劇】
トウスモウハナノエドカタ 唐相撲花江戸方	145	14-08,28	太閤記 タイコウキ【時代物】
トウスモウハナノエドカタ 唐相撲花江戸方	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
トウスモウハナノエドカタ 唐相撲花江戸方	235	24-05,25	光秀* ミツヒデ【時代物】
トウスモウハナノエドカタ 唐相撲花江戸方	244	25-02,25	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
トウセイウスユキ 当世薄雪	014	02-06,60	薄雪 ウスユキ【時代物】
トウセイオクニカブキ 当世阿国歌舞伎	008	01-08,55	出雲のお国 <sup>1</sup> イズモノオクニ【時代物】
トウセイキゾクセン 当世奇族撰	002	01-02,41	赤土泥蔵 アカツチドロソウ【 】
トウセイゲンヤダナ 当世玄冶店	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
トウセイトラノマキ 当世虎の巻	126	12-09,33	瀬川五郷 セガウゴキョウ【世話物】

トウセイハチモンジ 当世八文字	170	18-07,38	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
トウセイヒザクリゲ 当世膝栗毛	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
トウセンバナシイマコクセンヤ 唐船噺今国性爺	079	08-04,36	国性爺 コクセンヤ【時代物】
トウダイキョウカクデン 当代侠客伝	117	11-11,20	新蔵兄弟 シンゾウキョウダイ【世話物】
ドウチュウカメヤマバナシ 道中亀山噺	054	05-11,38	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ドウチュウセンガントイ 道中千貫樋	011	02-03,64	今川状 イマガワジョウ【時代物】
ドウチュウヒザクリゲ 道中膝栗毛(赤坂の段)	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ドウチュウヒザクリゲ 道中膝栗毛(野寺の段)	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ドウチュウヒザクリゲ 道中膝栗毛(組討の段)	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ドウチュウヒザクリゲ 道中膝栗毛(市子の段)	209	22-03,39	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ドウチュウヒョウバンカタキウチ 道中評判敵討	053	05-10,42	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ドウチュウムスメカガガサ 道中娘管笠	071	07-06,47	傾城重の井 ケイセイシゲノイ【世話物】
ドウチュウムスメカガガサ 道中娘管笠	075	07-10,42	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
トウテンコウ 東天紅[戯曲通称]	174	19-02,40	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
トウナイトロウダンジリロップウ 藤内太郎台六法	174	19-02,40	藤内楽車 トウナイダンジリ【時代物】
トウナイダンジリ 藤内だんじり	174	19-02,40	藤内楽車 トウナイダンジリ【時代物】
トウノゲンソウ 唐玄宗	255	26-01,18	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】
トウフカイ 豆腐買[戯曲通称]	174	19-02,40	鎌倉三代記 カマクラサンダイキ
ドウミョウジ 道明寺[戯曲通称]	174	19-02,41	菅原伝授手習鑑 スガワラデンジュテナライカガミ
トウリモノノセイオウボ 桃李物の西王母[通称]	123	12-06,36	西王母 セイオウボ
トウリュウオグリハンガン 当流小栗判官	028	03-08,67	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
トウリュウジュウニダン 当流十二段	109	11-02,31	十二段 ジュウニダン【時代物】
トウリュウハゴロモノマツ 当流羽衣松	201	21-06,36	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
トオトウミガタコイノシラナミ 遠江瀧恋賊	194	20-11,32	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
トオメガネ 遠眼鏡[戯曲通称]	174	19-02,41	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
トオヤマザクラテンボウニッキ 遠山桜天保日記	175	19-03,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
トオヤマザクラテンボウニッキ 遠山桜天保日記	220	23-02,28	不動 フドウ【時代物】
トオルダイジンエイガノミチノク 融大臣詠歌陸奥	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
トオルダイジンシオガマザクラ 融大臣塩竈桜花	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
トカイヤ 渡海屋[戯曲通称]	176	19-04,45	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
トキエテヒラクゲンケノシラハタ 時得開源家白旗	262	26-08,22	頼朝 ヨリトモ【時代物】
トキツカゼイリフネソガ 時津風入船曾我	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
トキツカゼイリフネソガ 時津風入船曾我	070	07-05,41	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
トキツカゼイリフネソガ 時津風入船曾我	141	14-03,35	曾我的対面 ソガノタイメン【時代物】
トキツカゼイリフネソガ 時津風入船曾我	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
トキツカゼイリフネソガ 時津風入船曾我	218	22-12,23	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
トキニウツタリオヤツノタイコ 時討御未刻太鼓	041	04-09,56	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
トキニオウギダテノウツシエ 当館扇伊達写絵	082	08-07,29	小助 コスケ【世話物】
トキニオウシュウシツポノイシブミ 当奥州壺碑	045	05-01,46	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】



トキニオウシュウツボノイシブミ 当奥州壺碑	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
トキニオウシュウツボノイシブミ 当奥州壺碑	130	13-03,33	千姫 センヒメ【時代物】
トキニオウシュウツボノイシブミ 当奥州壺碑	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
トキノハナダテノキキガキ 当梅伊達抄	032	03-12,63	お園六三 オソノロクサ【世話物】
トキノハナダテノキキガキ 当梅伊達抄	207	21-12,43	磔刑政岡 ハリツケマサオカ【時代世話物】
トキハイマクルワノハナミチ 時今廓花道	145	14-08,28	太閤記 タイコウキ【時代物】
トキハイマクルワノハナミチ 時今廓花道	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
トキハイマヤッコノウケジョウ 時梟握虎券	157	16-05,16	竹生島 チクブシマ【舞踊劇】
トキモキキョウオダノホウサク 時桔梗小田豊作	202	21-07,36	馬盤の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
トキモキキョウシュッセノウケジョウ 時桔梗出世請状	199	21-04,37	信長 ノブナガ【時代物】
トキモキキョウシュッセノウケジョウ 時桔梗出世請状	202	21-07,36	馬盤の光秀 バダライノミツヒデ【時代物】
トキモキキョウシュッセノウケジョウ 時桔梗出世請状	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
トキモヨシノセンボンザクラ 時節吉野千本桜	018	02-10,54	裏表千本桜 ウラオモテセンボンザクラ【時代物】
トキモヨシノセンボンザクラ 時節吉野千本桜	085	08-10,26	暮盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
トキワギタイヘイキ 瑞樹太平記	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
トキワギタイヘイキ 瑞樹太平記	057	06-03,44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
トキワゴゼンミチユキ 常盤御前道行	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
トキワノイロオウギノウツシエ 松朝扇うつし絵	009	02-01,63	一本足 イッボンアシ【舞踊】
トキワノハルハゴロモソガ 常磐春羽衣曾我	201	21-06,36	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
トクサママイルオハツテンジン 徳様参於初天神	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
トクワカゲンジノスエヒロ 徳若源氏扇	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
トケシオピアヤセノカワミズ 解帯綾瀬河	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
トコサカズキョアケノスイセン 床蓋响水仙	156	16-04,18	田原藤太 タワラトウダ【時代物】
トコサカズキョアケノスイセン 床蓋响水仙	231	24-01,19	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
トコロバイカイコイノヌキガキ 南詠恋抄書[1780/並木五瓶]	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
トコロバイカイコイノヌキガキ 南詠恋抄書[1842/奈河政橋]	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
トサニツキ 土佐日記	062	06-08,33	紀貫之 キノツラクキ【時代物】
トサバンシハツニノオオフネ 土佐半紙初荷艦	184	20-01,38	中浜万次郎 ナカハママンジロウ【世話物】
トリアワセオデンノカナブミ 綴合於伝仮名書	149	15-02,33	高橋お伝 タカハシオデン【世話物】
トシトクソガマツノシマダイ 歳徳曾我松島台	036	04-04,70	兄弟塚 オトドイヅカ【お家物】
トシトクソガマツノシマダイ 歳徳曾我松島台	116	11-10,19	新大橋仇討 シンオオハシアダウチ【お家世話物】
トシトクソガマツノシマダイ 歳徳曾我松島台	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
トシノイテイキジノヤスウリ 歳市胆安売	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
トツクリカンベエ 徳利勘兵衛	002	01-02,40	赤垣徳利 アカガキトツクリ【 】
ドッコノダロクイチダイバナシ 独鈷駄六一代断	038	04-06,63	小野道風 オノトウフウ【時代物】
トノツクリゲンジジュウニダン 殿造源氏十二段	067	07-02,40	熊坂 クマサカ【時代物】
トノツクリゲンジジュウニダン 殿造源氏十二段	244	25-02,25	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
トノツクリシノダツマ 殿造篠田妻	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
トノツクリシノダツマ 殿造篠田妻	162	17-07,47	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】

トノツクリセンジョウウガタケ 殿造千丈嶽	111	11-04,17	酒吞童子 シュテンドウジ【時代物】
トバノコイツカモノガタリ 鳥羽恋塚物語	246	25-04,28	文覚 モンガク【時代物】
トバヤジシ 鳥羽屋獅子	180	19-08,39	鳥羽屋獅子 トバヤジシ【舞踊】
トミガオカコイノヤマガネ 富岡恋山鐘	195	20-12,30	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
トミガオカコイノヤマビラキ 富岡恋山開	195	20-12,30	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
トミヒトシンノウサガニシキ 富仁親王嵯峨錦	210	22-04,37	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
トミヒトシンノウサガニシキ 富仁親王嵯峨錦	253	25-11,23	雪姫 ユキヒメ【時代物】
トモエダイコ 巴太鼓	259	26-05,23	義仲 ヨシナカ【時代物】
トモヨブコエネグラノツバメ 友呼声鳩燕	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
トヤマジョウユキゲノキヨミズ 富山城雪解清水	093	09-08,31	佐々成政 サッサナリマサ【時代物】
トヨカワイナリレイゲンキ 豊川稲荷霊験記	181	19-10,42	豊川稲荷 トヨカワイナリ【世話物】
トヨクニマンザイ 豊国万歳[通称]	023	03-03,68	月柳廓髪梳 ツキノヤナギサトノカミスキ
トラガイシネンリキソガ 虎石想曾我	035	04-03,72	男草履打 オトコゾウリウチ【お家物】
トラガイシネンリキソガ 虎石想曾我	197	21-02,51	鼠小僧 ネズミコゾウ【世話物】
トラガリ 虎狩[戯曲通称]	181	19-10,42	国性爺合戦 コクセンヤカッセン
トラショウウシヨウミチユキ 虎少将道行	110	11-03,18	十二時曾我 ジュウニトキソガ【時代物】
トラノマキ 虎の巻	060	06-06,40	菊畑 キクバタケ【時代物】
トリオイオマツカイジョウバナシ 鳥追於松海上話	181	19-10,43	鳥追お松 トリオイオマツ【世話物】
トリガナクアズマノセウゴト 鶏鳴吾妻世話事	226	23-08,27	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
トリガネカタミノキヌギヌ 鶏鐘篋衣々	223	23-05,32	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
トリベヤマ 鳥辺山[地歌]	182	19-11,42	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
トリベヤマ 鳥辺山[宮園]	182	19-11,42	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
トリベヤマシンジュウ 鳥辺山心中[1706京]	182	19-11,42	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
トリベヤマシンジュウ 鳥辺山心中[1915/岡本綺堂]	182	19-11,43	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
トリムスメ 鶏娘[戯曲通称]	182	19-11,43	由良湊千軒長者 ユラノミナトセンゲンチヨウジャ
ドロジアイ 泥仕合[戯曲通称]	183	19-12,39	夏祭浪花鑑 ナツマツリナニワカガミ
ドロバ 泥場[戯曲通称]	183	19-12,39	夏祭浪花鑑 ナツマツリナニワカガミ
ドンドロ どんどろ[戯曲通称]	183	19-12,39	傾城阿波の鳴門 ケイセイアワノナルト
ドンブラコ どんぶらこ[戯曲通称]	185	20-02,41	楠昔噺 クスノキムカシバナシ
ドンランタンシゴデンキ 曇鸞大師御伝記	185	20-02,41	曇鸞記 ドンランキ【時代物】
ナイスケテガラノフチ 内助手柄剃	005	01-05,43	安宅甚平 アタケジンベイ【お家物】
ナオスケゴンベエ 直助権兵衛	184	20-01,36	直助権兵衛 ナオスケゴンベエ【世話物】
ナガサキシンプンイマシメカガミ 長崎新聞警戒鑑	157	16-05,15	団泰二 ダンタイジ【世話物】
ナカゾウジマハカタノイマオリ 仲蔵縞博多今織	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
ナガツボネ 長局[戯曲通称]	184	20-01,37	加賀見山旧錦絵 カガミヤマコキョウノニシキエ
ナガマチオンナハラキリ 長町女切腹	038	04-06,64	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ナカヤマドウジョウジ 中山道成寺	072	07-07,37	傾城道成寺 ケイセイドウジョウジ【舞踊劇】
ナガラチヨウジャウグイスツカ 長柄長者黄鳥墳	014	02-06,58	鶯塚 ウグイスツカ【時代物・お家物】
ナガラノヒトバシラ 長柄の人柱	186	20-03,43	長柄の人柱 ナガラノヒトバシラ【時代物】

ナギノハアサヒゲンジ 榊葉旭源氏	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ナゴソノセキ なこそ関	256	26-02,27	義家 ヨシイエ【時代物】
ナゴヤオビクモニイナズマ 名古屋帯雲稲妻	222	23-04,40	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ナゴヤサンザ 名古屋山三	222	23-04,38	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ナゴヤサンザプロウ 名古屋山三郎	221	23-03,23	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ナゴヤサンザロクジョウガヨイ 名古屋山三六条通	221	23-03,24	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ナゴリノハシツクシ 名残の橋づくし	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
ナゴリノホシツキヨ 名残の星月夜	094	09-09,30	実朝 サネトモ【時代物】
ナゴリノホシツキヨ 名残の星月夜	227	23-09,24	北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
ナサケザカリイロノナカクミ 名酒盛色の中汲	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
ナスノノイコン 那須野のいこん	186	20-03,43	那須与一 ナスノヨイチ【時代物】
ナスノフナイコン 那須の船いこん	186	20-03,43	那須与一 ナスノヨイチ【時代物】
ナスノヨイチコザクラオドシ 那須与一小桜緋	187	20-04,46	那須与一 ナスノヨイチ【時代物】
ナスノヨイチサイカイスズリ 那須与市西海硯	016	02-08,58	乳母争い ウバアラソイ【時代物】
ナスノヨイチサイカイスズリ 那須与市西海硯	021	03-01,34	箆の梅 エビラノウメ【時代物】
ナスノヨイチサイカイスズリ 那須与市西海硯	187	20-04,46	那須与一 ナスノヨイチ【時代物】
ナスノヨイチサイカイスズリ 那須与市西海硯	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
ナソノオビチョットクヘエ 謎帯一寸徳兵衛	188	20-05,40	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ナソラエテユキノキクスイ 倣花雪菊水	071	07-06,44	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ナチノタキチカイノモンガク 那智滝祈誓文覚	220	23-02,28	不動 フドウ【時代物】
ナチノタキチカイノモンガク 那智滝祈誓文覚	247	25-05,19	文覚 モンガク【時代物】
ナツコダチザンゲノムツゴト 茂織梅睦言	022	03-02,31	扇売高尾 オウギウリタカオ【舞踊劇】
ナツコダチヒノキヤマモノガタリ 南部樹檜木山語	132	13-05,35	相馬大作 ソウマダイサク【お家物】
ナツノアメヌレタオミコシ 夏雨濡神輿	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ナツマツリナニワカガミ 夏祭浪花鑑	187	20-04,47	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ナツモミジレンリノマクラ 夏楓連理枕	016	02-08,60	梅川新七 ウメガワシンシチ【世話物】
ナツヤナギウバタマガワ 夏柳烏玉川	109	11-02,29	蛇柳 ジャヤナギ【時代物】
ナツユカタセイジユウロウゾメ 夏浴衣清十郎染	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジユウロウ【世話物】
ナトリグサハイケモノガタリ 牡丹平家譚	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
ナトリグサハイケモノガタリ 牡丹平家譚	103	10-08,35	重盛 シゲモリ【時代物】
ナトリグサハイケモノガタリ 牡丹平家譚	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
ナナエザキナニワノイエツト 七重咲浪花土産	004	01-04,52	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ナナエザキナニワノイエツト 七重咲浪花土産	016	02-08,60	梅ヶ枝の文売 ウメガエノフミウリ【舞踊】
ナナエザキナニワノイエツト 七重咲浪花土産	071	07-06,45	稽古娘 ケイコムスメ【舞踊】
ナナエザキナニワノイエツト 七重咲浪花土産	109	11-02,29	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
ナナエザキナニワノイエツト 七重咲浪花土産	265	26-11,26	立春豆打ち リッシンマメウチ【舞踊】
ナナエヤエサキワケザクラ 七重八重咲分桜	079	08-04,37	国性爺 コクセンヤ【時代物】
ナナクサヨソオイスガ 七種粧曽我	076	07-11,33	高坂基内 コウサカジンナイ【お家世話物】
ナナクサワカナノイサオシ 七草若菜功	006	01-06,55	天草軍記 アマクサグンキ【時代物】

ナナクサワカヤギソガ 七種娯首我	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ナナクサワカヤギソガ 七種娯首我	068	07-03,42	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
ナナクサワカヤギソガ 七種娯首我	091	09-06,35	榊原高尾 サカキバラタカオ【お家物】
ナナクサワカヤギソガ 七種娯首我	093	09-08,32	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
ナナクサワカヤギソガ 七種娯首我	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
ナナコマチ 七小町[古浄瑠璃]	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ナナコマチ 七小町[1727/竹田出雲]	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ナナコマチスガタノサイシキ 七小町容彩四季	043	04-11,50	女太夫 オンナタクウ【舞踊】
ナナコマチヤグラノアマゴイ 七小町櫓雲	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ナナツメン 七つ面	049	05-05,42	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ナナツメン 七つ面[1908 大坂]	188	20-05,43	七面 ナナツメン【時代物】
ナナツメン 七つ面[1928/竹柴金作]	188	20-05,43	七面 ナナツメン【時代物】
ナナトコロメグミノハツカネ 七所御撰初鉄漿	016	02-08,59	馬追 ウマオイ【舞踊】
ナナトコロメグミノハツカネ 七所御撰初鉄漿	123	12-06,36	西王母 <sup>2</sup> セイオウボ【舞踊】
ナナトコロメグミノハツカネ 七所御撰初鉄漿	251	25-09,17	藪入娘 ヤブイリムスメ【舞踊】
ナニオオクラネヤノムツゴト 名大蔵閨の睦言	023	03-03,64	大蔵卿 オオクラキョウ【時代物】
ナニオオシマホマレノツヨユミ 名大島功誉強弓	151	15-05,23	風の為朝 タコノタメトモ【時代物】
ナニオオツエリョウザノマゼハリ 名大津絵劇交張	024	03-04,72	大津絵 オオツエ【舞踊劇】
ナニオオボシカナガキフデ 名大星国字書筆	084	08-09,26	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
ナニオオボシカナガキフデ 名大星国字書筆	111	11-04,15	十八ヶ条申開 ジュウハツカジョウモウシヒラキ【お家物】
ナニタカキアキタギミンデン 名高秋田義民伝	002	01-02,43	秋田義民伝 アキタギミンデン【 】
ナニタカキホリモノセイダン 首立喜彫物政談	175	19-03,42	遠山政談 トオヤマセイダン【世話物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	021	03-01,36	延命院 エンメイイン【世話物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	022	03-02,32	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	052	05-09,46	鎌田又八 カマダマタハチ【お家物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	179	19-07,43	毒茶の丹助 ドクチャノタンスケ【お家物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	233	24-03,23	松前屋五郎兵衛 マツマエヤゴロベエ【世話物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	248	25-06,28	屋代騒動 ヤシロソウドウ【お家物】
ナニタカシマリウタジツロク 名高手毬諷実録	266	26-12,21	蓮華往生 レンゲオウジョウ【世話物】
ナニユウガオアメノフルデラ 名夕貌雨の古寺	010	02-02,55	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
ナニワガタイリエノオオシオ 浪花瀧入江大塩	023	03-03,68	大塩平八郎 オオシオヘイハチロウ【世話物】
ナニワカッセンホマレノゴウユウ 浪花合戦誉強勇	023	03-03,65	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ナニワソメヤツハナガタ 難波染八花形	249	25-07,22	八花形 ヤツハナガタ【時代世話物】
ナニワブンショウユウギリツカ 浪花文章夕霧塚	165	18-01,48	てれめん テレメン【世話物】
ナニワブンショウユウギリツカ 浪花文章夕霧塚	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ナニワマルコガネノニワトリ 難波丸金鶏	084	08-09,25	後日の忠臣蔵 ゴニチノチュウシングラ【お家物】
ナニワミヤゲモチツキ 浪花土産望月	244	25-02,24	望月モチツキ【お家物・舞踊劇】
ナニワメイショウセキノツジ 浪花名所古跡辻	051	05-08,49	合邦辻 ガッポウガツジ【お家物】
ナニワヤクシャヒョウバン 難波役者評判	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】

ナノハナアケボノソガ 菜花曙曾我	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ナノミキクハツネノミチユキ 名巳菊初音道行	239	24-09,34	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
ナハマッセチヨダノマツ 名末世千代田松	161	17-06,19	千代田の刃傷 チヨダノニンジョウ【お家物】
ナベマツリテイジヨクラベ 鍋祀貞婦競	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ナマゼガワアマコロシ 生瀬川尼殺	006	01-06,57	尼殺し アマコロシ【世話物】
ナマメカシチグサノニシキエ 媚千種錦絵	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ナミノアラシシマモノガタリ 浪花山風島物語	197	21-02,50	根岸八景 ネギシハツケイ【舞踊劇】
ナミノアラシシマモノガタリ 浪花山風島物語	255	26-01,17	夜嵐お絹 ヨアラシオキヌ【世話物】
ナミノリソガハナノケイセイ 波乗曾我花景清	141	14-03,32	曾我 ソガ【時代物】
ナミノリフネエノシマシング 浪乗船江島新語	020	02-12,39	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
ナミノリフネカイカノハツユメ 浪乗船開化初夢	089	09-04,43	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
ナミマクライコクノキキガキ 波枕韓聞書	167	18-03,44	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ナミマクラウキナノタカハシ 波枕浮名の高橋	149	15-02,33	高橋お伝 タカハシオデン【世話物】
ナミマクラツキノアサツマ 浪枕月浅妻	004	01-04,52	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ナミマクラミサオノヌレゴト 浪枕水棹の濡事	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ナモタカトキテングノサカモリ 名高時天狗酒宴	148	14-12,28	高時 タカトキ【時代物】
ナモタカハギアカオノタテレ 名高萩赤尾侠客	002	01-02,39	赤尾の林蔵 アカオノリンゾウ【 】
ナモタチバナホツコクキダン 盛名橋北国奇談	088	09-03,39	近藤忠之進 コンドウチュウノシン【お家物】
ナラチョウジダイ 奈良朝時代	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ナラブルハナワカキノアダウチ 競双花若木仇討	034	04-02,61	お玉ヶ池 オタマガイケ【世話物】
ナリタサンキフダノユライ 成田山木札由来	224	23-06,26	紅皿欠皿 ベニザラカケザラ【時代世話物】
ナリタサンフンジンフドウ 成田山分身不動	037	04-05,69	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ナリタサンフンジンフドウ 成田山分身不動	101	10-06,22	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
ナリタサンフンジンフドウ 成田山分身不動	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
ナリタミチハツネノヤブハラ 成田道初音藪原	251	25-09,17	藪原検校 ヤブハラケンギョウ【世話物】
ナリヒビクオヤツノタイコ 鳴響御未刻太鼓	041	04-09,56	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
ナリヒビクチャリネノキョクバ 鳴響茶利音曲馬	063	06-09,43	曲馬 キョクバ【舞踊劇】
ナリヒラカワチガヨイ 業平河内通	235	24-05,20	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
ナリヒラコマチ 業平小町[通称]	189	20-06,39	花菖蒲曳手数多 ハナショウブヒクテアマタ
ナリヒラブンジ 業平文次	189	20-06,40	業平文次 ナリヒラブンジ【世話物】
ナリヒラブンジミサオノタテヒキ 業平文辞松達撰	189	20-06,40	業平文次 ナリヒラブンジ【世話物】
ナリワタルナニワノウワサ 鳴渡浪花噂	023	03-03,68	大塩平八郎 オオシオヘイハチロウ【世話物】
ナルカミ 鳴神	190	20-07,41	鳴神 ナルカミ【時代物】
ナルカミフドウキタヤマザクラ 雷神不動北山桜	072	07-07,40	毛抜 ケヌキ【時代物】
ナルカミフドウキタヤマザクラ 雷神不動北山桜	190	20-07,40	鳴神 ナルカミ【時代物】
ナルカミフドウキタヤマザクラ 雷神不動北山桜	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
ナレソメオモイノヤノネ 馴染思の雛	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカイレイシ【舞踊劇】
ナワタツノウワサノヒキマド 縄手綱噂の引窓	243	25-01,24	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
ナワナガトシ 名和長年	190	20-07,42	名和長年 ナワナガトシ【時代物】

ナラシタウサツマオドリ 名慕薩摩踊	093	09-08,33	薩摩踊 サツマオドリ【舞踊】
ナンコウサクライノエキ 楠公桜井駅	231	24-01,22	正成 マサシゲ【時代物】
ナンダイモンアキノヒガン 南大門秋彼岸	123	12-06,36	西王母 <sup>1</sup> セイオウボ【時代物】
ナントエンジョウ 南都炎上	103	10-08,34	重衡 シゲヒラ【時代物】
ナントジュウサンガネ 南都十三鐘	109	11-02,29	十三鐘 ジュウサンガネ【時代物】
ナンバンテツゴトウノメヌキ 南蛮鉄後藤目貫	083	08-08,48	五斗 ゴトウ【時代物】
ナンブザカ 南部坂[戯曲通称]	191	20-08,42	四十七刻忠筋計 シジュウシチコクチュウヤドケイ
ナンボクイクサモンドウ 南北軍問答	231	24-01,23	正行 マサツラ【時代物】
ニオノウミコウメイスズリ 嶋海高名硯	023	03-03,65	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ニカイガサエノシマモウデ 二蓋笠江島参詣	247	25-05,20	柳生又十郎 ヤギユウマタジュウロウ【お家世話物】
ニカイガサヤギユウジツキ 二蓋笠柳生実記	247	25-05,20	柳生又十郎 ヤギユウマタジュウロウ【お家世話物】
ニガツドウ 二月堂	266	26-12,20	良弁杉 ローベンスギ【時代物】
ニシキキテコイノヤマモリ 錦着恋山守	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
ニシキドマルヤマカッセン 錦戸丸山合戦	257	26-03,28	義経 ヨシツネ【時代物】
ニシニールアカツキノカネ 西入暁の鐘	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ニシハチジョウケンジャノイサオシ 西八条賢者功績	103	10-08,35	重盛 シゲモリ【時代物】
ニシヒガシコイノトリクミ 西東恋取組	087	09-02,41	小柳殺し コヤナギゴロシ【世話物】
ニジュウヨジカイセイシンワ 廿四時改正新話	181	19-10,43	鳥追お松 トリオイオマツ【世話物】
ニジョウジョウノマサキヨ 二条城の清正	063	06-09,45	清正 キヨマサ【時代物】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	036	04-04,70	乙姫 オトヒメ【舞踊】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	086	08-11,28	芥太夫 ゴミダユウ【舞踊劇】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	181	19-10,42	供奴 トモヤッコ【舞踊】
ニジリガキナナツイロハ 拙筆力七以呂波	214	22-08,26	瓢箪鯨 ヒョウタンナマス【舞踊】
ニセカケタエニシノミジカヨ 二世契縁の短夜	161	17-06,20	塵塚お松 チリツカオマツ【世話物】
ニセカケテサトノホリモノ 盟約廓彫物	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ニセカケテチカイノイジツク 盟約誓十徳	268	27-02,30	椀久 ワンキュウ【世話物】
ニセチギルエニシノクミイト 二世契縁の綬糸	074	07-09,44	小系佐七 コイトサシチ【世話物】
ニセノエンハナノウテナ 二世の縁花の台[1784 大坂]	100	10-05,16	三十三間堂通し矢 サンジュウサンゲンドウトウシャ【お家物】
ニセノエンハナノウテナ 二世の縁花の台[1784 人形浄瑠璃]	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジュウサンゲンドウトウシャ【お家物】
ニセノエンハナノウテナ 二世の縁花の台[1818 人形浄瑠璃]	161	17-06,17	蝶の道行 チョウノミチユキ【舞踊劇】
ニセムラサキカノコドウジョウジ 似紫鹿子道成寺	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ニセムラサキカノコドウジョウジ 似紫鹿子道成寺	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ニダイゲンジホマレノミガワリ 二代源氏誉身換	184	20-01,38	仲光 ナカミツ【時代物】
ニチョウノユミチグサノシゲトウ 二張弓千種重藤	094	09-09,31	実盛 サネモリ【時代物】
ニチレンキ にちれんき[古浄瑠璃]	192	20-09,29	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンキ 日蓮記[1894/福地桜痴]	193	20-10,42	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンキチゴスズリ 日蓮記児硯	192	20-09,29	日蓮記 ニチレンキ【時代物】

ニチレンキミノリノサクラ 日蓮記御法花王	192	20-09,30	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンショウニンキ 日蓮上人記	192	20-09,29	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンショウニンツジセツポウ 日蓮聖人辻説法	193	20-10,43	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンショウニンミノリノウミ 日蓮聖人御法海	192	20-09,30	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニチレンダイシシンジツデン 日蓮大師真実伝	193	20-10,42	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ニッコウヨウメイモン 日光陽明門	211	22-05,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ニッポンオウダイキ 日本王代記	062	06-08,33	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
ニッポンオウダイキ 日本王代記	117	11-11,21	神武天皇 ジンムテンノウ【王代物】
ニッポンケンジョウカガミ 日本賢女鑑	023	03-03,65	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ニッポンケンジョウカガミ 日本賢女鑑	260	26-06,20	淀君 ヨドギミ【時代物】
ニッポンセイオウボ 日本西王母	123	12-06,36	西王母 <sup>1</sup> セイオウボ【時代物】
ニッポンダイイチメカリノシンジ 日本第一和布苅神事	050	05-07,46	梶原最期 カジワラサイゴ【時代物】
ニッポンダイイチメカリノシンジ 日本第一和布苅神事	058	06-04,46	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
ニッポンダイイチメカリノシンジ 日本第一和布苅神事	065	06-12,30	錦帯橋 キンタイバシ【時代物】
ニッポンダイイチメカリノシンジ 日本第一和布苅神事	085	08-10,26	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ニッポンダイイチメカリノシンジ 日本第一和布苅神事	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
ニッポンバレロリョウノユキドケ 日本晴露領雪解	088	09-03,39	近藤重蔵 コンドウジュウゾウ【世話物】
ニッポンホウライザン 日本蓬莱山	150	15-03,27	竹取物語 タケトリモノガタリ【時代物】
ニトウノガクアグルミヤモト 二刀額面捧宮本	059	06-05,51	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
ニドノウメバチカナザワヒョウジョウ 再梅鉢金沢評定	084	08-09,23	後日の加賀騒動 ゴニチノカガソウドウ【お家物】
ニニンアサマ 二人浅間[通称]	094	09-09,33	妹背塚松桜 イモセツカマツニサクラ
ニニンアサマ 二人浅間[通称]	123	12-06,38	妹背塚松桜 イモセツカマツニサクラ
ニニンアサマ 二人浅間[通称]	216	22-10,30	妹背塚松桜 イモセツカマツニサクラ
ニニンキンゴロウ 二人金五郎[通称]	154	16-02,23	御ぞんじ東伽羅 ゴゾンジアズマノキャラ
ニニンバカマ 二人袴	196	21-01,32	二人袴 ニニンバカマ【舞踊劇】
ニニンムコミクライサダメ 二人髻座定	077	08-02,35	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
ニノクチムラ 新口村[戯曲通称]	196	21-01,33	けいせい恋飛脚 ケイセイコイビキヤク
ニホンショウニンカイカノサキガケ 日本商人開化魁	128	12-11,27	銭屋五兵衛 セニヤゴヘエ【世話物】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	094	09-09,32	佐野ハツ橋 サノヤツハシ【世話物】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	138	13-12,27	曾我 ソガ【時代物】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	194	20-11,33	二人浅間 ニニンアサマ【舞踊劇】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
ニホンツツミトリノネソガ 日本塘鷄音曾我	245	25-03,15	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
ニホンバンショウヒダノタクミ 日本番匠飛驒内匠	210	22-04,36	飛驒内匠 ヒダノタクミ【時代物】
ニホンフリンデハジメ 日本振袖始	142	14-04,32	素盞雄尊 スサノオノミコト【王代物】
ニユウノヤマダアオウミノツルギ 丹生山田青海剣	073	07-08,39	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ニョジャクニガビヤクドウ 女若二河白道	123	12-06,38	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ニョニンソクシンジョウブツキ 女人即身成仏記	143	14-05,22	大覚 ダイカク【時代物】

ニワカカシマオドリ 俄鹿島踊	050	05-07,46	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
ニワカセンニン 俄仙人	068	07-03,42	桑の仙人 クメノセンニン【時代物】
ニンキズモウハルノコヤナギ 人気角舩春小柳	087	09-02,41	小柳殺し コヤナギゴロシ【世話物】
ニンギョウウリコマンノサガタミ 人形売独楽姿見	086	08-11,27	独楽 コマ【舞踊】
ニンゲンバンジカネノヨノナカ 人間万事金世中	021	03-01,34	恵府林 エフリン【世話物】
ニンジョウ 刃傷[戯曲通称]	196	21-01,33	早苗鳥伊達聞書 ホトトギスダテノキキガキ
ニンジョウ 刃傷[戯曲通称]	196	21-01,33	伽羅先代萩 メイボクセンダイハギ
ニンジョウバナシブンシチモットイ 人情噺文七元結	224	23-06,23	文七元結 ブンシチモットイ【世話物】
ニントクテンノウマンネングルマ 仁徳天皇万年車	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>1</sup> タケノウチノスクネ【時代物】
ヌイナライオビヤシナノヤ 縫習帯屋信濃屋	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ヌエシゲトウサキワケクウシャ 鶴重藤咲分勇者	268	27-02,28	童獅子 ワラベジシ【舞踊劇】
ヌシヤタレコイノヤマブキ 主誰恋山吹	048	05-04,44	影勝団子 カゲカツダンゴ【舞踊劇】
ヌノビキタキノイロイト 布びいき滝色系	254	25-12,27	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
ヌマツ 沼津[戯曲通称]	196	21-01,34	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
ヌレタソデウキナノホコロビ 濡袖浮名綻	022	03-02,31	大岡政談 オオオカセイダン【 】
ヌレタソデウキナノホコロビ 濡袖浮名綻	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ヌレタドウシユメニアイガサ 濡党夢相傘	161	17-06,15	ちよい乗せ チョイノセ【世話物】
ヌレテウレシキウキネノミズトリ 濡嬉浮寝鳩	021	03-01,35	閻魔の小兵衛 エンマノコヘエ【世話物】
ヌレユカタマツニフジナミ 濡衫松藤浪	196	21-01,34	濡浴衣 ヌレユカタ【舞踊劇】
ネガイノイトエニシノオダマキ 願絲縁苧環	041	04-09,54	お三輪 オミワ【舞踊劇】
ネギシハツケイ 根岸八景	255	26-01,18	夜嵐お絹 ヨアラシオキヌ【世話物】
ネコノコネコネコノコ 子子子子子	044	04-12,41	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
ネズミコソウタビマクラ 鼠小僧旅枕	198	21-03,37	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ネズミコモンキクノイロアゲ 鼠小紋菊重色揚	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ネズミコモンハルギノヒナガタ 鼠小紋春着雛形	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ネズミコモンハルノシンガタ 鼠小紋東君新形	041	04-09,55	お元新助 オモトシンスケ【世話物】
ネズミコモンハルノシンガタ 鼠小紋東君新形	041	04-09,57	お若伊之助 オワカイノスケ【世話物】
ネズミコモンハルノシンガタ 鼠小紋東君新形	056	06-02,47	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
ネズミコモンハルノシンガタ 鼠小紋東君新形	198	21-03,36	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ネズミナキイロニオウヨ 鼠啼色逢夜	014	02-06,59	薄雲の猫 ウスグモノネコ【世話物】
ネツジンジャチュウシンカガミ 根津神社忠臣鏡	197	21-02,51	根津宇右衛門 ネツウエモン【世話物】
ネビキノカドマツ 寿門松[1718/近松門左衛門]	198	21-03,38	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
ネビキノカドマツ 寿門松[1718/近松門左衛門]	217	22-11,27	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ネビキノカドマツ 寿門松[1911 東京]	198	21-03,39	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
ネモスズカワキョウホウセイダン 音鈴川享保政談	121	12-04,23	鈴川源十郎 スズカワゲンジュウロウ【世話物】
ネリクヨウイモセノエンニチ 練供養妹背縁日	015	02-07,56	薄雪 ウスユキ【時代物】
ネリクヨウイモセノエンニチ 練供養妹背縁日	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ネリクヨウイモセノエンニチ 練供養妹背縁日	161	17-06,15	長作 チョウサク【舞踊劇】
ネリクヨウイモセノエンニチ 練供養妹背縁日	188	20-05,40	夏祭 ナツマツリ【世話物】



ネンネンソガクルワニツキ 年首我曲輪日記	159	17-04,28	茶の湯の景清 チャノユノカゲキヨ【時代物】
ネンネンソガクルワニツキ 年首我曲輪日記	219	23-01,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ネンブツオウジョウキ 念仏往生記	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
ネンリキソガチカイノハリユミ 念力首我誓張弓	142	14-04,32	首我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ネンリキヤタテスキ 念力箭立楯	140	14-02,27	首我 ソガ【時代物】
ネンリキヤタテスキ 念力箭立楯	200	21-05,42	範頼 ノリヨリ【時代物】
ネンリキヤタテスキ 念力箭立楯	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ノギクノカケワナ 野菊の掛罨	140	14-02,29	首我 ソガ【時代物】
ノギツネサンジカタミノサイカイ 野狐三次筐再会	199	21-04,35	野狐三次 ノギツネサンジ【世話物】
ノコンノユキカツイロソガ 残雪罨首我	101	10-06,22	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
ノコンノユキカツイロソガ 残雪罨首我	106	10-11,18	垣衣草売 シノブウリ【時代物・舞踊劇】
ノチノツキシユエンノシマダイ 后月酒宴の島台	047	05-03,49	角兵衛 カクベエ【舞踊】
ノベノカキオキ 延紙の書置	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
ノボリゴイタキノシラハタ 升鯉滝白旗	021	03-01,35	閻魔の小兵衛 エンマノコヘエ【世話物】
ノボリゴイタキノシラハタ 升鯉滝白旗	041	04-09,57	お若伊之助 オワカイノスケ【世話物】
ノボリヤシマ のぼり八島	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ノボリヤシマ のぼり八島	257	26-03,27	義経 ヨシツネ【時代物】
ノボレノボレイロニオオヤマ 登々色大山	026	03-06,62	大山詣 オオヤママイリ【舞踊劇】
ノミトリオトコ 蚤取男	200	21-05,40	蚤取男 ノミトリオトコ【舞踊】
ノリアイブネエホウマンザイ 乗合船恵方万歳[1866 人形浄瑠璃].....	200	21-05,41	乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
ノリアイブネエホウマンザイ 乗合船恵方万歳[1896 東京].....	200	21-05,41	乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
ノリアイブネエホウマンザイ 乗合船恵方万歳[1902 東京].....	200	21-05,41	乗合船 ノリアイブネ【舞踊劇】
ノリカケナサケノナツコダチ 乗掛情の夏木立	256	26-02,23	与作 ヨサク【舞踊劇】
ノリノハナシキノウテナ 法花四季台	039	04-07,56	大原女 オハラメ【舞踊】
ノリノハナシキノウテナ 法花四季台	050	05-07,46	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
ノリノハナスガタノイロイロ 法花姿色全	026	03-06,62	大山詣 オオヤママイリ【舞踊劇】
ノリノハナスガタノイロイロ 法花姿色全	215	22-09,29	福助 フクスケ【舞踊】
バイタンオウシュンメノヒキツナ 売炭翁春馬引綱	102	10-07,22	塩原多助 シオバラタスケ【世話物】
ハカイソガ 破戒首我	141	14-03,32	首我 ソガ【時代物】
ハカタオリコイノオモニ 博多織恋鑑	010	02-02,58	茨木屋幸斎 イバラキヤコウサイ【世話物】
ハカタオリコイノオモニ 博多織恋鑑	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
ハカタオリコイノオモニ 博多織恋鑑	174	19-02,40	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
ハカタコジョロウナミマクラ 博多小女郎浪枕	072	07-07,37	毛剃 ケソリ【世話物】
ハギダイミョウケイセイカタキウチ 萩大名傾城敵討	022	03-02,30	大内騒動 オオウチソウドウ【時代物】
ハギノツコムスブツキカゲ 萩露結月影	101	10-06,21	三府五港 サンブゴコウ【世話物】
ハクインオシヨウ 白隠和尚	200	21-05,43	白隠和尚 ハクインオシヨウ【世話物】
ハコイリアヤメニンギョウ 箱入あやめ木偶	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ハゴシノツキオンナクマサカ 葉越廼月女熊坂	042	04-10,68	女熊坂 オンナクマサカ【時代物】
ハコネザイクルマノサシモノ 箱根細工車指物	068	07-03,46	車善七 クルマゼンシチ【世話物】

ハコネヤマカッセン 箱根山合戦	006	01-06,54	安倍仲麿 アベノナカマロ【時代物】
ハコネレイゲンイザリノアダウチ 箱根靈験壁仇討	093	09-08,31	佐々成政 サッサナリマサ【時代物】
ハゴロモ 羽衣	201	21-06,36	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
ハゴロモコトブキノガ 羽衣寿曾我	201	21-06,36	羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
ハザマグンキナルミノキキガキ 狭間軍記成海録	028	03-08,70	桶狭間 オケハザマ【時代物】
ハザマグンキナルミノキキガキ 狭間軍記成海録	050	05-07,47	春日竜神 カスガリユウジン【舞踊劇】
ハシクヨウボンジノモンガク 橋供養梵字文覚	220	23-02,28	不動 フドウ【時代物】
ハシクヨウボンジノモンガク 橋供養梵字文覚	247	25-05,19	文覚 モンガク【時代物】
ハシダテオトコ 橋立男	131	13-04,26	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
ハシノシモツキノナギナタ 橋霜月長刀	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ハシベンケイ 橋弁慶[1825 人形浄瑠璃]	201	21-06,37	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ハシベンケイ 橋弁慶[1859 河竹黙阿弥]	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
ハシベンケイ 橋弁慶[1912 東京]	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ハシマニツナグコブネノヨバナシ 橋間繫小船夜話	080	08-05,27	小猿七之助 コザルシチノスケ【世話物】
ハシモト 橋本[ 戯曲通称 ]	202	21-07,35	双蝶々 曲輪日記 フタツチヨウチヨウクルワニッキ
ハジモミジアセノカオミセ 慙紅葉汗顔見勢	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
ハジモミジアセノカオミセ 慙紅葉汗顔見勢	154	16-02,23	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ハズカシキオモカゲソガ 花挿佛曾我	042	04-10,68	女工藤 オンナクドウ【時代物】
ハタヤ 機屋[ 戯曲通称 ]	202	21-07,35	芦屋道満大内鑑 アシヤドウマンオオウチカガミ
バダライノミツヒデ 馬盗の光秀[ 通称 ]	236	24-06,17	時桔梗出世請状 トキモキキョウシュッセノウケジョウ
ハチカツギヒメ 鉢かつぎ姫	202	21-07,36	鉢かつぎ姫 ハチカツギヒメ【時代物】
ハチガツケイセイ 八月傾城	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
ハチジンシュゴノホンジョウ 八陣守護城[1807/中村漁岸]	203	21-08,36	八陣 ハチジン【時代物】
ハチジンシュゴノホンジョウ 八陣守護城[1808 大坂]	203	21-08,36	八陣 ハチジン【時代物】
ハチダイメダンジュウロウ 八代目団十郎	009	02-01,61	市川団十郎 イチカワダンジュウロウ【世話物】
ハチノキオオカガミ 鉢木大鑑	204	21-09,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ハチマンガネウラミノミジカヨ 八幡鐘念煙短夜	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ハチマンタロウアズマノハツウメ 八幡太郎東初梅	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
ハチマンタロウブトクカガミ 八幡太郎武徳鑑	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
ハチマンタロウヨシイエ 八幡太郎義家	256	26-02,24	義家 ヨシイエ【時代物】
ハチマンマツリヨミヤノニギワイ 八幡祭小望月賑	157	16-05,18	縮屋新助 チヂミヤシンスケ【世話物】
ハチマンリョウクモトナルカミ 八万両雲霧成神	068	07-03,43	雲霧仁左衛門 クモキリニザエモン【世話物】
ハツアキナイオオミセソガ 初商大見世曾我	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ハツアキナイオオミセソガ 初商大見世曾我	241	24-11,52	娘七種 ムスメナナクサ【舞踊劇】
ハツアケボノカオミセソガ 初曙観曾我	035	04-03,71	男草履打 オトコソウリウチ【お家物】
ハツアケボノカオミセソガ 初曙観曾我	055	05-12,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ハツアケボノカオミセソガ 初曙観曾我	076	07-11,34	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
ハツアケボノカオミセソガ 初曙観曾我	078	08-03,39	小菊半兵衛 コギクハンベエ【世話物】
ハツアケボノカオミセソガ 初曙観曾我	075	07-10,41	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】

ハツアワセアキマツリ 初袷秋間祭	007	01-07,60	安中草三 アンナカソウザ【世話物】
ハツアワセカリガネゴモン 初袷雁五紋	056	06-02,46	鷹金五人女 カリガネゴニンオンナ【世話物】
ハツアワセチシオノソメイロ 袷小袖血汐染色	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ハツウマアオバナフエ 初午青葉笛	067	07-02,38	熊谷 クマガイ【時代物】
ハツカイワダノサカモリ 初買和田宴	006	01-06,59	荒五郎茂兵衛 アラゴロウモヘエ【世話物】
ハツカイワダノサカモリ 初買和田宴	138	13-12,27	曾我 ソガ【時代物】
ハツガスミアサマガタケ 初霞浅間嶽	004	01-04,55	浅間 アサマ【舞踊劇】
ハツガスミオンナサルヒキ 初霞女猿廻	042	04-10,70	女猿廻し オンナサルマワシ【世話物】
ハツガスミオンナサルヒキ 初霞女猿廻	143	14-05,21	曾根崎五人斬 ソネザキゴニンギリ【世話物】
ハツガスミオンナサルヒキ 初霞女猿廻	174	19-02,42	遠山甚三 トオヤマジンザ【世話物】
ハツガスミソラモスミヨシ 初霞空住吉	051	05-08,50	活惚 カッポレ【舞踊劇】
ハツカリガネゲイシャヒョウバン 初雁芸者評判	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ハツカリケイセイ 初雁傾城	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
ハッケンデンウウサノタカドノ 八犬伝評判楼閣	143	14-05,22	対牛楼 タイギユウロウ【お家物】
ハッケンデンウウサノタカドノ 八犬伝評判楼閣	204	21-09,40	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ハツコイソガ 初恋曾我	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ハツコウシンガクノアソビ 初庚申楽遊	062	06-08,33	紀貫之 キノツラユキ【時代物】
ハツゴヨミアキナイソガ 初曆商曾我	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ハツゴヨミコトブキノガ 初曆寿曾我	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ハツゴヨミコトブキノガ 初曆寿曾我	236	24-06,18	美濃庄九郎 ミノノショウクロウ【時代物】
ハツゴヨミニギワイソガ 初曆闇曾我	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ハツゴヨミニギワイソガ 初曆闇曾我	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
ハツサクバイツキノシモツキ 八朔梅月の霜月	063	06-09,42	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ハツサクバイツキノシモツキ 八朔梅月の霜月	205	21-10,38	八朔梅 ハツサクバイ【舞踊劇】
ハツザクラアサマガタケ 初桜浅間嶽	004	01-04,55	浅間 アサマ【舞踊劇】
ハッシュウジン 八笑人	205	21-10,38	八笑人 ハッシュウジン【舞踊劇】
ハッシュウジンコツケイチャバン 八笑人滑稽茶番	205	21-10,38	八笑人 ハッシュウジン【舞踊劇】
ハツシラガ 初白髪	260	26-06,21	淀君 ヨドギミ【時代物】
ハツダヨリカリノタマズサ 初便雁玉章	056	06-02,47	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
ハツダヨリクルワノタマズサ 初便廓玉章	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ハツノボリアタルノリモノ 初上京当輿	068	07-03,46	車善七 クルマゼンシチ【世話物】
ハツハナスミダガワ 初花隅田川	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
ハツハナスミダガワ 初花隅田川	122	12-05,17	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ハツハナスミダガワ 初花隅田川	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ハツビヤクヤチョウヒサゴノカンザシ 八百八町瓢箪筭	146	14-09,26	太閤記 タイコウキ【時代物】
ハツビヤクヤチョウヒサゴノカンザシ 八百八町瓢箪筭	232	24-02,22	松永久秀 マツナガヒサヒデ【時代物】
ハツビヤクヤチョウヒサゴノカンザシ 八百八町瓢箪筭	236	24-06,17	光秀* ミツヒデ【時代物】
ハツミドリホウネンシラベ 初緑豊年調	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
ハツミユキサノハチノキ 初深雪佐野鉢木	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】

ハツモウデコトブキノガ 初詣寿曾我	141	14-03,33	曾我の石段 ソガノイシダン【時代物】
ハツモトユイカヨイソガ 初鬢通曾我	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ハツモトユイカヨイソガ 初鬢通曾我	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
ハツモトユイカヨイソガ 初鬢通曾我	138	13-12,26	曾我 ソガ【時代物】
ハツモトユイソガノキョウダイ 初元結曾我鏡台	092	09-07,46	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
ハツモミジオグラノシキシ 初紅葉小倉色紙	026	03-06,64	小笠原騒動 オガサワラソウドウ【お家物】
ハツモミジフタキノアダウチ 初紅葉二樹鬮討	041	04-09,57	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
ハツモンピクルワソガ 初紋日艶郷曾我	076	07-11,33	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
ハツモンピクルワソガ 初紋日艶郷曾我	215	22-09,30	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ハツモンピヨソオイソガ 初紋日扮飾曾我	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ハツヤグラウワサノタカシマ 初櫓囃高島	101	10-06,19	三人吉三 サンニンキチサ【世話物】
ハツヤグラタネマキサンバソウ 初櫓豊歳三番叟	006	01-06,58	操三番 アヤツリサンバ【舞踊劇】
ハツユメソガタカラノイリフネ 初夢曾我宝入船	219	23-01,28	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ハデクラベイツツカリガネ 艶競五鴈金	055	05-12,45	鴈金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ハデクラベサトノミサオ 艶色競廓操	195	20-12,30	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ハデスガタオンナマイギヌ 艶容女舞衣	092	09-07,40	酒屋 サカヤ【世話物】
ハデスガタオンナマイギヌ 艶容女舞衣	097	10-01,19	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ハナアヤメイロハレンガ 花菖いろは連歌	056	06-02,47	雁の便り カリノタヨリ【世話物】
ハナアヤメイロハレンガ 花菖いろは連歌	060	06-06,42	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
ハナアヤメブンロクソガ 花菖蒲文禄曾我	054	05-11,39	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ハナイカダガンリュウジマ 花筏巖流島	059	06-05,50	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
ハナイカダヨドガワバナシ 花船淀川語	100	10-05,16	三十石 サンジツコク【お家物】
ハナイクサジュエイノハル 花軍寿永春	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ハナイクサジュエイノハル 花軍寿永春	147	14-10,29	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
ハナイバラコチョウノイロドリ 花茨胡蝶廻彩色	265	26-11,24	洋妾お辰 ラシャメンオタツ【世話物】
ハナウタイオギエノヒトフシ 花謡諷萩江一節	027	03-07,63	萩江露友 オギエロユウ【世話物】
ハナウツギイガノリョウトウ 花卯木伊賀両刀	050	05-07,44	傘張り武助 カサハリブスケ【世話物】
ハナカゴ 花籠〔戯曲通称〕	206	21-11,36	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
ハナガスマナトリオウギ 花霞名盛扇	039	04-07,54	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ハナガスマナトリオウギ 花霞名盛扇	098	10-03,26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ハナガタミゴジュウサンツギ 花摘籠五十三駅	041	04-09,57	御未刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
ハナガタミゴジュウサンツギ 花摘籠五十三駅	081	08-06,39	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
ハナガタミハンニョオウギ 花筐班女扇	226	23-08,26	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
ハナガツミオクモノガタリ 花勝見奥譚	258	26-04,19	義経 ヨシツネ【時代物】
ハナカツラフウリュウドウジョウジ 花鬘風流道成寺	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ハナカワドキオイノマナイタ 花川戸侠俎	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ハナカワドミガワリノダン 花川戸身替の段	115	11-09,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
ハナカワドミガワリノダン 花川戸身替の段	235	24-05,18	身替りお俊 ミガワリオシュン【舞踊劇】
ハナキョウダイアイオイソガ 梅桜松曾我	042	04-10,67	女工藤 オンナクドウ【時代物】

ハナキョウダイアイオイスガ 梅桜松曾我	141	14-03,35	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ハナキョウダイオトコハルコマ 花兄弟壮士春駒	207	21-12,44	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ハナキョウダイサイワイソガ 秀水仙梅幸曾我	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ハナキョウダイネンジュウギョウジ 花嬢十二月所作	006	01-06,58	菖蒲人形 アヤメニンギョウ【舞踊劇】
ハナキョウダイネンジュウギョウジ 花嬢十二月所作	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
ハナキョウダイネンジュウギョウジ 花嬢十二月所作	267	27-01,26	若菜摘 ワカナツミ【舞踊】
ハナクラベイセモノガタリ 競伊勢物語[1775/奈河亀輔]	009	02-01,60	伊勢物語 イセモノガタリ【時代物】
ハナクラベイセモノガタリ 競伊勢物語[1775 人形浄瑠璃]	009	02-01,60	伊勢物語 イセモノガタリ【時代物】
ハナクラペイロニアイカタ 菊競艶相肩	044	04-12,44	女戾駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】
ハナクラベカスミノサルグマ 花競霞猿隈	202	21-07,34	柱建 ハシラダテ【舞踊劇】
ハナクラベシキノコトブキ 花競四季寿	127	12-10,39	閑寺小町 セキデラコマチ【舞踊】
ハナグルマイワイオウギ 花車岩井扇	206	21-11,36	花車 ハナグルマ【舞踊】
ハナケイズミヤコカガミ 花系図都鑑	123	12-06,37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ハナケイズミヤコカガミ 花系図都鑑	210	22-04,38	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ハナケンジョウ 花献上[戯曲通称]	206	21-11,36	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
ハナゴヨミアケテミチノキ 花暦開紀行	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ハナゴヨミイロノショウワケ 花翫曆色所八景	049	05-05,42	景清 <sup>2</sup> カゲキヨ【舞踊】
ハナゴヨミイロノショウワケ 花翫曆色所八景	092	09-07,41	鶯娘 サギムスメ【舞踊劇】
ハナゴヨミイロノショウワケ 花翫曆色所八景	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
ハナゴヨミイロノショウワケ 花翫曆色所八景	161	17-06,20	佃船頭 ツクダセンドウ【舞踊】
ハナゴヨミイロノショウワケ 花翫曆色所八景	177	19-05,43	年増 トシマ【舞踊】
ハナゴヨミサンダイバナシ 花暦三題噺	205	21-10,38	八笑人 ハッショウジン【舞踊劇】
ハナゴロモイロハエンギ 花衣いろは縁起	074	07-09,40	玄怨上人 ゲンジョシヨウニン【時代物】
ハナサソウカブキオドリ 花誘劇場踊	248	25-06,28	櫓三番 ヤグラサンバ【舞踊】
ハナショウブウキギノカメヤマ 花菖蒲浮木亀山	054	05-11,41	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ハナショウブウキナノカオブレ 花菖蒲浮名顔触	116	11-10,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
ハナショウブカツシカソウシ 花菖蒲葛飾草紙	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ハナショウブサノノヤツハシ 花菖蒲佐野八橋	052	05-09,45	鎌倉山 カマクラヤマ【お家物】
ハナショウブサノノヤツハシ 花菖蒲佐野八橋	094	09-09,33	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
ハナショウブスノノウチイリ 花菖蒲裾野討入	255	26-01,19	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ハナショウブヒクテアマタ 花菖蒲曳手数多	189	20-06,39	業平 ナリヒラ【舞踊劇】
ハナススキヒヨクノイシブミ 尾花比翼碑	088	09-03,43	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ハナズモウゲンジビキ 花相撲源氏張胆	031	03-11,69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
ハナズモウゲンジビキ 花相撲源氏張胆	154	16-02,26	種時三番 タネマキサンバ【舞踊劇】
ハナズモウチョウウチウモンビ 花相撲蝶々紋日	034	04-02,61	お竹大日如来 オタケダイニチニョライ【世話物】
ハナズモウチョウウチウモンビ 花相撲蝶々紋日	217	22-11,29	双蝶々 フタツチウウチウ【世話物】
ハナズモウメグミノタテイル 花相撲め組連入	243	25-01,25	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
ハナダスキカイケイノカチンゾメ 花禪会稽褐布染	059	06-05,51	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
ハナテオケチグサノナゲイル 花手桶千種投入	157	16-05,16	千草の花桶 チグサノハナオケ【世話物】

ハナドウロウチグサノアケボノ 花灯籠千種朝朝	156	16-04,17	樽屋おせん タルヤオセン【世話物】
ハナトミツユキノクスノキ 花麗見雪楠	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
ハナトミマススクノコトブキ 花三升菊寿	123	12-06,34	隅田川 <sup>2</sup> スミダガワ【舞踊劇】
ハナトミマスヨシノユキ 花三升吉野深雪	016	02-08,59	うぶ女 ウブメ【舞踊劇】
ハナトミマスヨシノユキ 花三升吉野深雪	042	04-10,67	女楠 オンナクスノキ【時代物】
ハナニアダチコイノヨアラシ 花安達恋の夜嵐	005	01-05,46	安達原 <sup>2</sup> アダチガハラ【舞踊劇】
ハナニアダチコイノヨアラシ 花安達恋の夜嵐	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
ハナニチョウイロノデキアキ 種花蝶蝶色成穠	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチョウ【世話物】
ハナニチョウイロノデキアキ 種花蝶蝶色成穠	256	26-02,23	与五郎狂乱 ヨゴロウキョウラン【舞踊劇】
ハナニチョウマガキノウカレメ 菊蝶東籬妓	236	24-06,18	三つ面子守 ミツメンコモリ【舞踊】
ハナニチョウマガキノウカレメ 菊蝶東籬妓	241	24-11,17	娘獅子 ムスメジシ【舞踊】
ハナニトリサキガケソガ 花鳥魁首我	056	06-02,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ハナノアトフジノサカシタ 桜田拾遺藤坂下	091	09-06,36	坂下事件 サカシタジケン【お家物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 花魁蒼八総[1836/西沢一鳳]	143	14-05,22	対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 花魁蒼八総[1836/西沢一鳳]	204	21-09,39	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 梅魁蒼八総[1836/山田案山子]	006	01-06,59	荒芽山 アラメヤマ【時代物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 梅魁蒼八総[1836/山田案山子]	144	14-06,28	対牛楼 タイギョウロウ【お家物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 梅魁蒼八総[1836/山田案山子]	204	21-09,40	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ハナノアニツボミノヤツブサ 梅魁蒼八総[1836/山田案山子]	211	22-05,38	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
ハナノアニバンズイチョウベエ 花兄幡随長兵衛	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ハナノアメヌレタヨメイリ 花雨濡嫁入	261	26-07,26	嫁切 ヨメキリ【世話物】
ハナノイロカイタズラムスメ 花色香嬢娘	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ハナノイロヤツシクロヌシ 花艶和黒主	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ハナノイロヤツシクロヌシ 花艶和黒主	245	25-03,17	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
ハナノウエノサツキノアマグモ 花上野臯月雨雲	013	02-05,54	上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
ハナノウエノホマレノイシブミ 花上野誉の石碑	089	09-04,42	金比羅利生記 コンビラリショウキ【お家物】
ハナノエドエカブキノイロザシ 花江戸絵戯場彩	200	21-05,43	白扇曾我 ハクセンソガ【舞踊劇】
ハナノオエドチヂブジュンレイ 花東都秩父順礼	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
ハナノオエドマサカドマツリ 花御江戸将門祭	231	24-01,20	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
ハナノクモイノチノステガネ 花雲命捨鐘	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
ハナノクモカネニイルツキ 花雲鐘入月	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
ハナノクモサクラノアケボノ 花雲佐倉曙[1852/嶺琴八十助]	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
ハナノクモサクラノアケボノ 花雲佐倉曙[1852/佐久間松長軒]	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
ハナノクモリノミチクサ 花雲法道草	125	12-08,35	盛絲心中 セイシシンジュウ【世話物】
ハナノクモヤヨイノイロゴロモ 花雲癩色衣	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ハナノクモヤヨイノイロゴロモ 花雲癩色衣	180	19-08,40	吃又 ドモマタ【お家物】
ハナノゴシヨ 花の御所	025	03-05,66	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
ハナノサカズキオオエヤマ 花盞大江山	111	11-04,17	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
ハナノサカズキオオエヤマ 花盞大江山	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】

ハナノサガネコマタソウシ 花嵯峨猫魔稗史	188	20-05,43	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
ハナノナミゲンザイドウジョウジ 花浪現在道成寺	063	06-09,44	清姫 キヨヒメ【時代物】
ハナノノツキウタウヒトフシ 英皎うとふ一謡	016	02-08,57	善知鳥 ウトウ【時代物】
ハナノノツキウタウヒトフシ 英皎うとふ一謡	149	15-02,34	滝夜叉 タキヤシャ【時代物】
ハナノハルヒトメセンキン 花姿詠千金	061	06-07,44	木津勘助 キヅカンスケ【世話物】
ハナノホカニワカノキョクツキ 花競俄曲突	007	01-07,58	粟餅 アワモチ【舞踊劇】
ハナノホカニワカノキョクツキ 花競俄曲突	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ハナノホカフリソデドウジョウジ 娘形外媚道成寺	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ハナノホカフリソデドウジョウジ 娘形外媚道成寺	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ハナノミヤコヤカズノホマレ 花洛矢数誉	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ハナノミヤコヤマシロメイシヨ 花洛中山城名所	186	20-03,42	中山問答 ナカヤマモンドウ【お家物】
ハナノユウベマツチノスガガキ 花昏待乳山清攬	101	10-06,20	三人新兵衛 サンニンシンベエ【世話物】
ハナノユキツモルクリゴト 花雪積線言	086	08-11,29	子持高尾 コモチタカオ【世話物】
ハナハサクラギアコウノシオガマ 日本花赤穂塩竈	160	17-05,30	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ハナフサシンノランキョク 英獅子乱曲	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
ハナフサシンノランキョク 英獅子乱曲	230	23-12,21	枕獅子 マクラジシ【舞踊劇】
ハナフサシュウジャクジシ 英執着獅子	109	11-02,30	執着獅子 シュウジャクジシ【舞踊劇】
ハナフタイカスミノサルヒキ 花舞台霞の猿曳	015	02-07,58	鞆猿 ウツボサル【舞踊劇】
ハナフタイソノノウスユキ 花王舞台團薄雪	015	02-07,57	薄雪 ウスユキ【時代物】
ハナフタイヨシヤオトコ 花舞台丹前侠客	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ハナフフキウタノナドコロ 花雪歌清水	015	02-07,57	薄雪 ウスユキ【時代物】
ハナフフキコイノテカガミ 花雪恋手鑑	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
ハナフフキゴニチブンダン 桜田雪後日文談	092	09-07,43	桜田事変 サクラダジヘン【世話物】
ハナフフキセイチュウビダン 桜田雪盛忠美談	092	09-07,43	桜田事変 サクラダジヘン【世話物】
ハナフフキフジノスゲガサ 花吹雪富士菅笠	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ハナフフキフジノスゲガサ 花吹雪富士菅笠	215	22-09,30	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ハナミ 花見[戯曲通称]	206	21-11,37	加賀見山旧錦絵 カガミヤマコキョウノニシキエ
ハナミズバシ 花水橋[戯曲通称]	206	21-11,37	伊達競阿国戯場 イダテケイアキニカブキ
ハナミドウヤマトブンコ 花観台大和文庫	109	11-02,28	釈迦 シャカ【時代物】
ハナミドウヤマトブンコ 花観台大和文庫	119	12-02,16	未広狩 スエヒロガリ【舞踊劇】
ハナミドキヒサゴタイコウキ 花見時瓢太閤記	146	14-09,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
ハナミドキヒサゴタイコウキ 花見時瓢太閤記	149	15-02,34	高松城水責 タカマツジョウミズゼメ【時代物】
ハナミドリニシキノガ 花緑錦曽我	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ハナミドリニシキノガ 花緑錦曽我	167	18-03,44	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ハナモウセンフタツハラオビ 花毛氈二つ腹帯	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
ハナモミジコウソゴデンキ 花楓高祖御伝記	193	20-10,42	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ハナモミジシノウコウショウ 花紅葉土農工商	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
ハナモミジシノウコウショウ 花紅葉土農工商	144	14-06,28	大工 ダイク【舞踊劇】
ハナモミジシノウコウショウ 花紅葉土農工商	220	23-02,30	文売 フミウリ【舞踊劇】

ハナモミジナニワノナガメ 花楓浪花眺	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ハナモミジネツノカミガキ 花紅葉根津神籬	197	21-02,51	根津宇右衛門 ネットウエモン【世話物】
ハナモヨシダイワオノマツワカ 花吉田岩尾松若	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ハナモヨシダイワオノマツワカ 花吉田岩尾松若	129	12-12,28	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
ハナヤ はなや	206	21-11,37	花屋 ハナヤ【時代物】
ハナヤカタアイゴノサクラ 花館愛護桜	001	01-01,39	あいごの若 アイゴノワカ【 】
ハナヤカタアイゴノサクラ 花館愛護桜	120	12-03,15	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
ハナヤカタイモセノマツカネ 花館甥松金	190	20-07,40	鳴神 ナルカミ【時代物】
ハナヤグラタチバナケイズ 花櫓橋系図	024	03-04,74	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
ハナヤグラタチバナケイズ 花櫓橋系図	026	03-06,62	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
ハナヤグラタチバナケイズ 花櫓橋系図	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
ハナヤグラタチバナケイズ 花櫓橋系図	231	24-01,23	正行 マサツラ【時代物】
ハナヤグラタチバナケイズ 花櫓橋系図	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
ハナヤグラチモトノナガメ 花櫓千本詠	018	02-10,54	裏表千本桜 ウラオモテセンボンザクラ【時代物】
ハナヤグラチモトノナガメ 花櫓千本詠	220	23-02,29	船弁慶 フナベンケイ【時代物】
ハナヤグラヒトメセンボン 花櫓詠吉野	018	02-10,54	裏表千本桜 ウラオモテセンボンザクラ【時代物】
ハナヤグラヒトメセンボン 花櫓詠吉野	121	12-04,22	鯨屋* スシャ【時代物】
ハナヤグラヒトメセンボン 花櫓詠吉野	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
ハナヤグラヨシノタダノブ 花矢倉吉野忠信	085	08-10,27	碁盤忠信 ゴパンタダノブ【時代物】
ハナヤグラヨシノタダノブ 花矢倉吉野忠信	258	26-04,19	義経 ヨシツネ【時代物】
ハナヨロイクルワノアケボノ 襲廓曙	234	24-04,31	三浦荒次郎 ミウラアラジロウ【時代物】
ハナレヌナカヒヨクノガクムク 契比翼額襖	080	08-05,29	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ハナワサンシンラゲンジ 華和讃新羅源氏	118	12-01,18	親鸞 シンラン【時代物】
ハナワサンシンラノゴデンキ 華和讃新羅伝記	118	12-01,19	親鸞 シンラン【時代物】
ハニユムラ 埴生村	049	05-05,47	累 カサネ【お家物】
ハハソダチユキマノウグイス 母育雪間鶯	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
ハバレン 馬場連[通称]	266	26-12,22	連獅子 レンジシ
ハマノマサゴマキエノタカシマ 浜真砂時絵高島	052	05-09,45	釜煎の五右衛門 カマイリノゴエモン【時代世話物】
ハママツ 浜松[戯曲通称]	206	21-11,38	生写朝顔晰 ショウウツシアサガオバナシ
ハママツカゼ 浜松風	206	21-11,38	浜松風 ハママツカゼ【舞踊劇】
ハママツカゼ 浜松風	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ハママツカゼコイノコトノハ 浜松風恋歌	206	21-11,38	浜松風 ハママツカゼ【舞踊劇】
ハママツヤ 浜松屋[戯曲通称]	206	21-11,38	青砥稿花紅彩画 アオトウゾウシハナノニシキエ
ハムレット はむれっと	207	21-12,42	ハムレット ハムレット【世話物・お家物】
ハヤガクモンカイカゴヨミ 早教訓開化節用	191	20-08,43	錦織熊吉 ニシゴリクマキチ【世話物】
ハヤザキスミダガワ 早咲隅田川	122	12-05,17	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
ハヤリウタヒヨクノミツモン 時花唄比翼三紋	170	18-07,37	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ハヤリコソデヨメイリモヨウ 時花服嫁入模様	037	04-05,66	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ハラダ 原田	207	21-12,43	原田 ハラダ【時代物】



ハラダカイ 原田甲斐	105	10-10,27	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
ハラミトキワ 孕常盤	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
ハラミトキワ 孕常盤	176	19-04,43	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
ハラミトキワ 孕常盤	201	21-06,37	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ハラミトキワ 孕常盤	224	23-06,26	弁慶 ベンケイ【時代物】
ハラミトキワ 孕常盤	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ハリオウギチョウセンゲンキ 張扇子朝鮮軍記	083	08-08,50	小西行長 コニシユキナガ【時代物】
ハリオウギチョウセンゲンキ 張扇子朝鮮軍記	161	17-06,16	朝鮮軍記 チョウセンゲンキ【時代物】
ハリヌキツツサナダノニュウジョウ 張抜筒真田入城	093	09-08,34	真田の張抜筒 サナダノハリヌキツツ【時代物】
ハラアキナイコイノヤマザキ 春商恋山崎	218	22-12,23	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ハルガスミチョウノミチクサ 春霞蝶道草	201	21-06,34	箱根五郎 ハコネゴロウ【舞踊劇】
ハルゲシキウメノヨシベエ 春景色梅由兵衛	018	02-10,52	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ハルコマ 春駒	256	26-02,26	義家 ヨシイエ【時代物】
ハルズモウウチワノダテヒモ 春相撲団伊達紐	018	02-10,54	裏表先代萩 ウラオモテセンダイハギ【時代物】
ハルズモウウチワノダテヒモ 春相撲団伊達紐	153	15-09,42	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ハルダカラアズマニンギョウ 春宝東人形	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカライシ【舞踊劇】
ハルナツヨカケテハツタビ 春夏掛初旅	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ハルナノウメカオルウチワエ 様名梅香団扇絵	007	01-07,60	安中草三 アンナカソウザ【世話物】
ハルノアケボノクルワソガ 春曙廓曾我	044	04-12,41	女鳴神 オンナナルカミ【時代物】
ハルノコマオグリガイデン 春鬼柳小栗外伝	028	03-08,69	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
ハルノシラベムスメナナクサ 春調娘七種	241	24-11,52	娘七種 ムスメナナクサ【舞踊劇】
ハルノセカイニギワイソガ 春世界華麗曾我	046	05-02,47	鏡山 カガミヤマ【時代物】
ハルノセカイニギワイソガ 春世界華麗曾我	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
ハルノセカイニギワイソガ 春世界華麗曾我	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ハルノニシキダテゾメソガ 春錦伊達染曾我	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ハルノニシキダテゾメソガ 春錦伊達染曾我	046	05-02,47	鏡山 カガミヤマ【時代物】
ハルノニシキダテゾメソガ 春錦伊達染曾我	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
ハルノニシキダテゾメソガ 春錦伊達染曾我	148	14-12,25	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
ハルノノベカザシノタモト 春野辺桜袂	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
ハルノノベチグサノハナオケ 春野辺干草花桶	157	16-05,16	干草の花桶 チグサノハナオケ【世話物】
ハルノユキドケ 春の雪解	208	22-02,38	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】
ハルノユキドケ 春雪解睦言	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ハルノヨイイロトユヤミ 春宵色夕闇	225	23-07,25	弁天小僧 ベンテンコソウ【時代世話物】
ハルノヨショウジノウメ 春夜障子梅	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
ハルハムカシユカリノハナブサ 春昔由縁英	116	11-10,18	白酒売 シロザケウリ【舞踊劇】
ハルハムカシユカリノハナブサ 春昔由縁英	121	12-04,22	助六 <sup>2</sup> スケロク【舞踊劇】
ハルハムカシユカリノハナブサ 春昔由縁英	206	21-11,37	羽根の禿 ハネノカムロ【舞踊】
ハルフカミイロハソガ 春深いるは曾我	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシンクラ【お家物】
ハルマツヤタニノモロゴエ 春待谷諸声	044	04-12,44	女戾駕 オンナモドリカゴ【舞踊劇】

ハルモカクヤタチカエリバナ 春斯立帰花	247	25-05,18	文覚 モンガク【時代物】
ハレモヨウソメテキサラギ 晴模様染衣更着	087	09-02,43	権三助十 ゴンザスケジュウ【世話物】
ハレコクソラナミノウワジマ 蒼天麗浪宇和島	019	02-11,48	宇和島騒動 ウワジマソウドウ【お家物】
ハレワタルクモイノキョク 晴鼓雲井曲	215	22-09,31	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ハンカチノオトコカガミ 繁花地男鑑	264	26-10,22	雷電源八 ライデンゲンバチ【世話物】
ハンガンセツブク 判官切腹[戯曲通称]	207	21-12,45	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
バンシュウサラヤシキ 播州皿屋敷[1741/為永太郎兵衛]	096	09-11,21	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
バンシュウサラヤシキ 播州皿屋敷[1860 大坂]	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ハンシロウノシオクミ 半四郎の汐汲[通称]	101	10-06,22	杜若七重の染衣 カキツバタナエノソメギヌ
バンズイチョウベエ 幡随長兵衛[1800/並木五瓶]	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
バンズイチョウベエ 幡随長兵衛[1891 歌舞伎座]	234	24-04,32	三浦小次郎 ミウラコジロウ【世話物】
バンズイチョウベエ 幡随長兵衛[1910/塚原洪柿園]	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
バンズイチョウベエ 幡随長兵衛[1935/岡本綺堂]	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
バンズイチョウベエショウジンマナイタ 幡随長兵衛精進俎板	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
バンゼイオクニカブキ 万歳阿国歌舞伎	036	04-04,69	男政岡 オトコマサオカ【時代物】
バンゼイオクニカブキ 万歳阿国歌舞伎	179	19-07,43	毒茶の丹助 ドクチャノタンスケ【お家物】
バンゼイオンナハチノキ 万歳女鉢木	002	01-02,39	青砥藤綱 アオトフジツナ【 】
バンゼイオンナハチノキ 万歳女鉢木	204	21-09,37	鉢の木 ハチノキ【時代物】
バンゼイオンナハチノチ 万歳女鉢木	036	04-04,71	お夏清十郎 オナツセイジュウロウ【世話物】
バンゼイゴシキノマツ 万歳五色松	132	13-05,34	象引 ソウヒキ【時代物】
バンダイコダカライマガワジョウ 万代子宝今川状	011	02-03,64	今川状 イマガワジョウ【時代物】
バンダイフエキシバインハジマリ 万代不易戯場始	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
バンチョウサラヤシキ 番町皿屋敷	096	09-11,23	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
バンバノチュウタコウバイエビラ 番場忠太紅梅籠	208	22-02,41	番場忠太 バンバノチュウタ【時代物】
バンミンダイフクチョウ 万民大福帳	106	10-11,18	暫 シバラク【時代物】
ヒガシヤマサクラソウシ 東山桜荘子	010	02-02,54	田舎源氏 イナカゲンジ【時代物】
ヒガシヤマサクラソウシ 東山桜荘子	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
ヒガシヤマドノアサヒノウウギ 東山殿旭扇	057	06-03,44	関羽 <sup>1</sup> カンウ【時代物】
ヒガシヤマドノオサナモノガタリ 東山殿幼稚物語	024	03-04,72	太田道灌 オオタドウカン【時代物】
ヒガシヤマドノカブキノダンマク 東山殿劇場段幕	099	10-04,17	三十石 サンジッコク【お家物】
ヒガシヤマドノカブキノダンマク 東山殿劇場段幕	224	23-06,22	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ヒガシヤマドノツイゼンノウ 東山殿追善能	025	03-05,65	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
ヒガシヤマドノネノヒノアソビ 東山殿子日遊	025	03-05,65	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
ヒガシヤマドノムロマチカッセン 東山殿室町合戦	025	03-05,65	応仁の乱 オウニンノラン【時代物】
ヒカルゲンジンデカガミ 光源氏袖鏡	073	07-08,39	源氏物語 ゲンジモノガタリ【時代物】
ヒガンザクラ 彼岸桜	087	09-02,41	姫山姥 コモチャマンバ【時代物】
ヒキヌイテイロノニバンメ 引抜色の二番目	220	23-02,29	船弁慶 フナベンケイ【時代物】
ヒキヌイテカスミノカリミセ 姿替霞仮宅	050	05-07,45	鹿島踊 カシマオドリ【舞踊劇】
ヒキマド 引窓[戯曲通称]	209	22-03,37	双蝶々曲輪日記 フタツツョウウルクワニツキ

ヒコザエモントイッシンタスケ 彦左衛門と一心太助	233	24-03,24	松前屋五郎兵衛 マツマエヤゴロベエ【世話物】
ヒコサンゴンゲンチカイノスケダチ 彦山権現誓助剣	073	07-08,36	毛谷村 ケヤムラ【お家物】
ヒコソウオウミハツケイ 彦三近江八景	079	08-04,34	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
ヒザクラ 緋桜	266	26-12,20	烈女お藤 レツジョオオフジ【お家物】
ビジョゴゼン 美女御前	184	20-01,37	仲光 ナカミツ【時代物】
ヒジリメンウツキノモミジバ 緋縮緬卯月紅葉	027	03-07,62	お亀与兵衛 オカメヨヘエ【世話物】
ヒダカガワイリアイザクラ 日高川入相花王	063	06-09,43	清姫 キヨヒメ【時代物】
ヒダカガワイリアイザクラ 日高川入相花王	216	22-10,29	藤原純友 フジワラスミトモ【時代物】
ヒダカガワキノクニメイショ 日高川紀国名所	063	06-09,44	清姫 キヨヒメ【時代物】
ヒタチボウカイソン 常陸坊海尊	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
ヒダノタクミ 飛驒内匠	210	22-04,36	飛驒内匠 ヒダノタクミ【時代物】
ヒダノタクミショコクバナシ 飛驒内匠諸国噺	210	22-04,37	飛驒内匠 ヒダノタクミ【時代物】
ヒダリコガタナ 左小刀	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ヒデオリノサイゴ 秀頼の最期	260	26-06,21	淀君 ヨドギミ【時代物】
ヒトカナデイマヨウカンタン 一奏今様邯鄲	058	06-04,49	邯鄲 カンタン【舞踊劇】
ヒトカナデコダカラソガ 一曲奏子宝曽我	126	12-09,32	瀬川五郷 セガワゴキョウ【世話物】
ヒトクドリハルツゲソガ 人来鳥春告曽我	197	21-02,50	猫の妻 ネコノツマ【舞踊】
ヒトツボシチョウジャノクライリ 一つ星長者倉入	265	26-11,26	流星 リウウセイ【舞踊劇】
ヒトツヤ 一つ家	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
ヒトツヤ 一つ家	211	22-05,39	一つ家 ヒトツヤ【時代物】
ヒトノクニヨリミツギノイリフネ 従韓貢入船	235	24-05,25	光秀* ミツヒデ【時代物】
ヒトノナサケフカガワマツリ 人情深川祭	198	21-03,37	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ヒトフデガキリョウメンウチワ 一筆描両面団扇	066	07-01,35	屑屋善吉 クズヤゼンキチ【世話物】
ヒトヨグサイツキガフネ 一節草斎宮が船	088	09-03,41	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ヒトリタイムン 一人対面[戯曲通称]	211	22-05,39	蝶千鳥曽我実伝 チョウチドリソガジツデン
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	026	03-06,63	岡崎の猫 オカザキノネコ【世話物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	040	04-08,58	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	054	05-11,41	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	060	06-06,43	義士銘々伝 キシメイメイデン【お家物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	081	08-06,36	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリケ【世話物】
ヒトリタビゴジュウサンツギ 独道中五十三駅	261	26-07,24	夜啼石 ヨナキイシ【世話物】
ヒトリワンキュウ 一人椀久	211	22-05,39	一人椀久 ヒトリワンキュウ【舞踊】
ヒナガタオサナソガ 雛形稚曽我	227	23-09,23	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
ヒナガタスソノカスミ 雛形裾野霞	230	23-12,21	枕獅子 マクラジシ【舞踊劇】
ヒナツルサンバソウ 雛鶴三番叟	212	22-06,37	雛鶴三番 ヒナツルサンバ【舞踊劇】
ヒナツルトキワゲンジ 雛常盤源氏	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ヒナツルトキワゲンジ 雛常盤源氏	048	05-04,46	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ヒナノシマバラユイショノキクスイ 鄙島原由緒菊水	071	07-06,44	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】

ヒナマツリカミジノモモ 雛祭神路桃	071	07-06,45	傾城 ケイセイ【舞踊】
ヒナマツリカミジノモモ 雛祭神路桃	207	21-12,44	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ヒニンノカタキウチ 非人の敵討[1664 大坂]	212	22-06,37	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
ヒニンノカタキウチ 非人の敵討[古浄瑠璃]	212	22-06,38	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
ヒノイズルクニゴジノハタカゼ 日出国五字旗風	244	25-02,22	蒙古襲来 モウコシュウライ【時代物】
ヒノキヤマタビジノキキガキ 檜木山旅路聞書	132	13-05,35	相馬大作 ソウマダイサク【お家物】
ヒバリヤマコマツナギマツ 雲雀山駒絆松樹	159	17-04,30	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
ヒバリヤマヒメステマツ 鷗山姫捨松	159	17-04,28	中将姫 チュウジョウヒメ【時代物】
ヒメカザリニシキソガ 姫飾錦曽我	138	13-12,26	曽我 ソガ【時代物】
ヒメクラベフタバエソウシ 姫競双葉絵草紙	028	03-08,69	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
ヒメコマツネノヒノアソビ 姫小松子日廻遊[1757/吉田冠子]	112	11-06,20	俊寛 シュンカン【時代物】
ヒメコマツネノヒノアソビ 姫小松子日廻遊[1793/江戸]	037	04-05,67	鬼次拍子舞 オニジヒョウシマイ【舞踊劇】
ヒメモドリ 姫戻り[戯曲通称]	211	22-05,39	妹背山婦女庭訓 イモセヤマオンナテイケン
ヒャクニチソガ 百日曾我[1697 竹本座]	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】
ヒャクニチソガ 百日曾我[1701 片岡座]	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】
ヒャクニンマチウワサノヒトフシ 百人町高評一諷	122	12-05,15	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
ヒャクビョウデンタツナノソメワケ 百猫伝手綱染分	075	07-10,43	恋女房 コイニョウボウ【お家物】
ヒャクマヤマンバ 百魔山姥	251	25-09,17	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
ヒャクマンゴクミイリノカナザワ 百万石実入金沢	046	05-02,45	加賀騒動 カガソウドウ【お家物】
ヒャクミョウデンタツナノソメワケ 百猫伝手綱染分	188	20-05,43	鍋島の猫 ナベシマノネコ【お家物】
ビャッコタイ 白虎隊	213	22-07,43	白虎隊 ビャッコタイ【世話物】
ヒュウガカゲキヨ 日向景清	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
ヒュウガカゲキヨ 日向景清	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ヒョウゴノツキシマ 兵庫の築島	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ヒョウゴノミサキエイガノフナウタ 兵庫岬栄華船謡	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ヒョウタンダナ 瓢箪棚[戯曲通称]	214	22-08,26	彦山権現誓助剣 ヒコサンゴンゲンチカイノスケダチ
ヒョウバンフキヤノマト 評判吹矢的	215	22-09,28	吹矢 フキヤ【舞踊劇】
ヒョウリュウキダンセイヨウカブキ 漂流奇談西洋劇	214	22-08,26	漂流奇談 ヒョウリュウキダン【世話物】
ヒョクツカオバナノテラニシ 比翼塚尾花寺西	088	09-03,43	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ヒョクノカガモン 比翼加賀紋	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
ヒョクノチョウハルノソガキク 比翼蝶春曾我菊	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ヒョクノトリベヤマ 比翼鳥辺山	079	08-04,35	古今彦惣 コキンヒコソウ【世話物】
ヒョクノトリベヤマ 比翼鳥辺山	165	18-01,49	てれめん テレメン【世話物】
ヒョクモンイトシイノジ 比翼紋愛井の字	081	08-06,40	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
ヒョクモンチカイノヤリウメ 双紋誓槍梅	093	09-08,31	定助権八 サダスケゴンバチ【世話物】
ヒヨシマルワカキノサクラ 日吉丸稚桜	214	22-08,27	日吉丸 ヒヨシマル【時代物】
ヒョククリザトウ ひよっくり座頭[通称]	093	09-08,33	歌へず歌へず余波大津絵 カエスガエスオナゴリオツエ
ヒライゴンバチヨシワラガヨイ 平井権八吉原衢[1793/並木五瓶]	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ヒライゴンバチヨシワラガヨイ 平井権八吉原通[文政頃/奈河篤助]	093	09-08,31	定助権八 サダスケゴンバチ【世話物】

ヒライゴンバチヨシワラガヨイ 平井権八吉原通[文政頃/奈河篤助].....	170	18-07,38	唐犬権兵衛 トウケンゴンベエ【世話物】
ヒラガタケユキミノジンドリ 比良嶽雪見陣立.....	104	10-09,16	賤ヶ嶽 シズガタケ【時代物】
ヒラガナイズニッキ 平仮名伊豆日記.....	123	12-06,34	相撲 スモウ【舞踊劇】
ヒラガナセイスイキ ひらかな盛衰記.....	021	03-01,34	箴の梅 エビラノウメ【時代物】
ヒラガナセイスイキ ひらかな盛衰記.....	092	09-07,40	逆鱗 サカロ【時代物】
ヒラガナセイスイキ ひらかな盛衰記.....	092	09-07,45	佐々木高綱 ササキタカツナ【時代物】
ヒラガナセイスイキ ひらかな盛衰記.....	208	22-02,41	番場忠太 バンバノチュウタ【時代物】
ヒラガナセイスイキ ひらかな盛衰記.....	240	24-10,25	無間の鐘 ムケンノカネ【時代物】
ヒラリボウシザイショノフツツカ 垂帽子不器用娘.....	049	05-05,46	累 カサネ【お家物】
ヒラリボウシザイショノフツツカ 垂帽子不器用娘.....	154	16-02,23	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ヒルガゴジマブユウモンドウ 蛭小島武勇問答.....	262	26-08,20	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ヒワチャゾメクリダシコモン 媚茶染繰出小紋.....	017	02-09,50	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ビワノウミハツケイブンダン 琵琶湖八景文談.....	074	07-09,46	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ビワノカゲキヨ 琵琶の景清.....	141	14-03,32	曾我 ソガ【時代物】
ビワノナドコロツキノカゲキヨ 琵琶名所月景清.....	214	22-08,28	琵琶の景清 ビワノカゲキヨ【時代物】
ピンノホツレカゼニホススキ 鬢縫風穂芒.....	131	13-04,25	千両幟 センリョウノボリ【世話物】
ブアク 武悪.....	214	22-08,28	武悪 ブアク【舞踊劇】
フウインキリ 封印切[戯曲通称].....	214	22-08,29	けいせい恋飛脚 ケイセイコイビキヤク
フウインキリ 封印切[戯曲通称].....	214	22-08,29	恋飛脚大和往来 コイビキヤクヤマトオウライ
フウインキリ 封印切[戯曲通称].....	214	22-08,29	冥途の飛脚 メイドノヒキヤク
フウキジザイサキガケソガ 富貴自在魁曽我.....	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
フウキョクヒザクリゲ 風曲膝栗毛.....	081	08-06,39	五十三駅 ゴジュウサンツギ【時代お家世話物】
フウキョクヒザクリゲ 風曲膝栗毛.....	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
フウジブミサカエソガ 封文栄曾我.....	139	14-01,19	曾我 ソガ【時代物】
フウジブミメダクカシク 封文めでたくかしく.....	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
フウセンノリウワサノタカドノ 風船乗評判高樓.....	122	12-05,15	スペンサー スペンサー【舞踊劇】
フウゾクタイヘイキ 風俗太平記.....	193	20-10,44	日本駄右衛門 ニッポンダエモン【世話物】
フウリュウアイオイジシ 風流相生獅子.....	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
フウリュウワダサカモリ 風流和田酒盛.....	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
フエニスムツキノシラナミ 留澄月白浪[別外題].....	009	02-01,62	市原野 イチハラノ
フキトリツマ 吹取妻.....	214	22-08,28	吹取妻 フキトリツマ【舞踊劇】
フクザウユキチ 福沢諭吉.....	215	22-09,28	福沢諭吉 フクザウユキチ【世話物】
フクシマヤ 福島屋[戯曲通称].....	215	22-09,29	三世相錦繡文章 サンゼソウニシキブンショウ
フクシュウキブンシカノマキフデ 復讐紀聞鹿巻筆.....	094	09-09,32	佐野鹿十郎 サノシカジョウロウ【お家物】
フクジュカイオウミゲンジ 福寿海近江源氏.....	017	02-09,50	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
フクジュカイオウミゲンジ 福寿海近江源氏.....	246	25-04,27	盛綱 モリツナ【時代物】
フクジュカイムリョウデンキ 福寿海駒量伝記.....	215	22-09,30	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
フクスケアズマノフジバカマ 福助東藤袴.....	215	22-09,29	福助 フクスケ【舞踊】
フグダイコ 河豚太鼓.....	208	22-02,39	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】

フクボタンアズマダイリ 福牡丹吾妻内裡	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
フケルヨサツキノヨコグシ 深与三玉兎横櫛	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
フジカズラコイノシガラミ 藤蔓恋の柵	236	24-06,20	箕輪心中 ミノワシンジユウ【世話物】
フジカワフネノリアイバナシ 藤川船崎話	054	05-11,40	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
フジゴンケンツクバノユライ 富士権現筑波由来	150	15-03,27	竹取物語 タケトリモノガタリ【時代物】
フジダイコ 富士太鼓	215	22-09,31	富士太鼓 フジダイコ【舞踊劇】
フジツクバフタエガスミ 富士筑波二重霞	120	12-03,17	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
フジトミマスエヒロソガ 富治三升扇曾我	047	05-03,49	柿木金助 カキノキンスケ【世話物】
フジトミマスエヒロソガ 富治三升扇曾我	102	10-07,22	敷皮曾我 シキガワソガ【時代物】
フジトミマスエヒロソガ 富治三升扇曾我	262	26-08,22	頼朝 ヨリトモ【時代物】
フジノユキミツギソガ 富士雪貢物曾我	187	20-04,48	夏祭 ナツマツリ【世話物】
フジビタイツクバノシゲヤマ 富士額男女繁山	043	04-11,49	女書生 オンナシヨセイ【世話物】
フシメイナリ 伏見稲荷[戯曲通称]	216	22-10,28	義経千本桜 ヨシツネセンボンザクラ
フシミチヨウジシンノヨバナシ 伏見街地震夜話	109	11-02,29	蛇の目鱈 ジャノメズシ【世話物】
フジミツクスイボウツカ 富士見月通者墳	150	15-03,26	竹田近江 タケダオウミ【世話物】
フジミルサトサカエソガ 富士見里栄曾我	138	13-12,26	曾我 ソガ【時代物】
フジミルサトサカエソガ 富士見里栄曾我	141	14-03,35	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
フジミルサトサカエソガ 富士見里栄曾我	230	23-12,21	枕獅子 マクラジシ【舞踊劇】
フジミルサトヤワラギソガ 富士見里和曾我	072	07-07,40	毛抜 ケヌキ【時代物】
フジミルサトヤワラギソガ 富士見里和曾我	123	12-06,33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
フジワラヒデサトタワラケイズ 藤原秀郷依系図	156	16-04,18	田原藤太 タワラトウダ【時代物】
フタイノハナワカヤギソガ 舞台花若栄曾我	062	06-08,34	紀文 キブン【世話物】
フタエギヌコイノウラカタ 二重衣恋占	206	21-11,36	花咲綱五郎 ハナサキツナゴロウ【舞踊劇】
フタオモテシノブノイロザシ 両顔葱色彩	216	22-10,31	双面 フタオモテ【舞踊劇】
フタオモテチュウギノカガミ 双面忠義鑑	235	24-05,19	身替り音頭 ミガワリオンド【時代物】
フタオモテツキノスガタエ 両顔月姿絵	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
フタオモテハナニイリアイ 双面花入相	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
フタゴスミダガワ 双生隅田川	122	12-05,16	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
フタゴスミダガワ 双生隅田川	226	23-08,26	法界坊 ホウカイボウ【時代世話物】
フタツオウギナガラノマツ 双扇長柄松	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
フタツダマ 二つ玉[戯曲通称]	217	29-11,26	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
フタツチョウイロノデキアキ 双蝶色成曙	034	04-02,61	お竹大日如来 オタケダイニチニョライ【世話物】
フタツチョウイロノデキアキ 双蝶色成曙	217	22-11,30	双蝶々 フタツチョウウチョウ【世話物】
フタツチョウウチョウクルワニッキ 双蝶々曲輪日記	217	22-11,27	双蝶々 フタツチョウウチョウ【世話物】
フタツドモエマサゴノシラナミ 双綴巴真砂白浪	052	05-09,45	釜煎の五右衛門 カマイリノゴエモン【時代世話物】
フタツビキニシキノマンマク 二引錦幔幕	011	02-03,64	今川状 イマガワジョウ【時代物】
フタツモンカタナノメイゲツ 双紋刀銘月	039	04-07,54	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
フタバノハルコトブキソガ 松春寿曾我	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカイレイシ【舞踊劇】
フタバノハルコトブキソガ 松春寿曾我	013	02-05,51	岩倉宗玄 イワクラソウゲン【時代物】

フタバノハルコトブキノガ 松春寿曾我	094	09-09,33	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
フタバレイジンアズマノヒナガタ 秀伶人吾妻雛形	215	22-09,29	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
フタバレイジンアズマノヒナガタ 秀伶人吾妻雛形	264	26-10,20	弱法師 ヨロボウシ【時代物】
フタリスズカタイナイサグリ 殛静胎内摺	005	01-05,43	安宅関 アタカノセキ【時代物】
フタリスズカタイナイサグリ 殛静胎内摺	058	06-04,48	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
フタリスズカタイナイサグリ 殛静胎内摺	258	26-04,17	義経 ヨシツネ【時代物】
フタリツマナカモヨシベエ 二人女房中も由兵衛	018	02-10,53	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
フタリツマバイリュウシンブン 正権妻梅柳新聞	087	09-02,43	権妻 ゴンサイ【世話物】
フダンザクラシモウサミヤゲ 不断桜下総土産	092	09-07,42	佐倉宗吾 サクラソウゴ【世話物】
フッシャリ 仏舎利	220	23-02,26	仏舎利 フッシャリ【舞踊劇】
フッボウシャリノミヤコ 仏法舎利都	112	11-06,23	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
フデハジメイロハソガ 筆始いろは曾我	136	13-10,30	曾我 ソガ【時代物】
フデハジメソガノフクビキ 筆魁曾我福鼻辰	141	14-03,33	曾我の石段 ソガノイシダン【時代物】
フデハジメソガノフクビキ 筆魁曾我福鼻辰	142	14-04,32	曾我的対面 ソガノタイメン【時代物】
フドウ 不動[1912/岡鬼太郎]	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
フドウ 不動[長唄]	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
フドウデンライキ 武道伝来紀	131	13-04,26	崇禅寺馬場 ソウゼンジババ【お家物】
フナベンケイ 船弁慶	220	23-02,29	船弁慶 フナベンケイ【時代物】
フナヨソオイミツギタイヘイキ 鱧貢太平記	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
フナワカレ 船別れ[戯曲通称]	220	23-02,29	生写朝顔話 ショウウツシアサガオバナシ
フネニウチコムハシマノシラナミ 船打込橋間白浪	027	03-07,65	お組宗次郎 オクミノウジロウ【世話物】
フブキノハナコマチオシズ 吹雪花小町於静	030	03-10,71	お静礼三 オシズレイサ【世話物】
フミウリ 文売り	023	03-03,67	大阪陣 オオサカジン【時代物】
フミツキウラミノキリコ 文月恨切子	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
フミツキウラミノサメザヤ 文月恨鮫鞘	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
フユウノホマレシュッセカゲキヨ 武勇誉出世景清	003	01-03,45	阿古屋 アコヤ【時代物】
フユウノホマレシュッセカゲキヨ 武勇誉出世景清	111	11-04,15	出世景清 シュッセカゲキヨ【時代物】
フリソデカジ 振袖火事	221	23-03,22	振袖火事 フリソデカジ【世話物】
フリソデシノダツマ 振袖信田妻	056	06-02,45	鷹金五人女 カリガネゴニンオンナ【世話物】
フリソデシノダツマ 振袖信田妻	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
フリソデシノダツマ 振袖信田妻	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
フリソデシノダツマ 振袖信田妻	237	24-07,23	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
フリソデスマダガワ 振袖隅田川	216	22-10,30	双面 フタオモテ【舞踊劇】
フリソデテンジンキ 振袖天神記	052	05-09,44	金岡 カナオカ【 】
フリソデテンジンキ 振袖天神記	168	18-04,40	天神記 テンジンキ【王代物】
フリソデフタバナルカミ 振袖嫩鳴神	190	20-07,41	鳴神 ナルカミ【時代物】
フリツムハナニダイゲンジ 降積花二代源氏	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
フルヤマンバ 古山姥[通称]	251	25-09,18	四天王大江山入 シテンノウオオエヤマイリ
ブレイコウ 無礼講	235	24-05,19	身替り音頭 ミガワリオンド【時代物】

フワナゴヤユキノダテガサ 不破名護屋雪棹	223	23-05,32	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ブンシチモットイナサケノウツシエ 文七元結情写真	224	23-06,23	文七元結 ブンシチモットイ【世話物】
フンジンクサズリビキ 分身草摺引	065	06-12,33	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
フンジンスガタミソガ 分身鏡首我	139	14-01,19	首我 ソガ【時代物】
ブンブゴニンオトコ 文武五人男	058	06-04,47	勸進帳 カンジンチョウ【舞踊劇】
ブンブリョウトウオウギノアダウチ 文武蔵両刀扇髷	059	06-05,51	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
ヘイアンジョウサザレイシ 平安城細石	059	06-05,49	桓武天皇 カンムテンノウ【時代物】
ヘイアンジョウミヤコウツシ 平安城都遷	059	06-05,49	桓武天皇 カンムテンノウ【時代物】
ヘイアンジョウミヤコサダメ 平安城都定	059	06-05,49	桓武天皇 カンムテンノウ【時代物】
ヘイケニョゴノシマ 平家女護島	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
ヘイケニョゴノシマ 平家女護島	112	11-06,20	俊寛 シュンカン【時代物】
ヘイケニョゴノシマ 平家女護島	130	13-03,33	千姫 センヒメ【時代物】
ヘイケニョゴノシマ 平家女護島	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
ヘイケヒョウバンキ 平家評判記	063	06-09,42	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ヘイケヒョウバンキ 平家評判記	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ヘイケヒョウバンキ 平家評判記	205	21-10,38	八朔梅 ハッサクバイ【舞踊劇】
ヘイケヒョウバンキ 平家評判記	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
ヘインウコク 平相国	213	22-07,43	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
ヘタザイクニドノハリマゼ 拙業再張交	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
ベニキキョウオンナダンシチ 紅色桔梗女団七	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ベニナガシ 紅流し[戯曲通称]	224	23-06,26	国性爺合戦 コクセンヤカッセン
ヘビヤマ 蛇山[戯曲通称]	224	23-06,26	東海道四谷怪談 トウカイドウヨツヤカイダン
ベンケイキョウミヤゲ 弁慶京土産	201	21-06,37	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ベンケイタンジョウキ 弁慶誕生記	224	23-06,26	弁慶 ベンケイ【時代物】
ベンザイテンリシヨウモノガタリ 弁財天利生物語	014	02-06,60	薄雪 ウスユキ【時代物】
ベンテンムスメオノシラナミ 弁天娘女男白浪	225	23-07,26	弁天小僧 ベンテンコゾウ【時代世話物】
ホウオンニチレンキ 報恩日蓮記	192	20-09,30	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ホウカソウユンゼイハチノキ 放下僧弓勢鉢木	152	15-06,28	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ホウカソウユンゼイハチノキ 放下僧弓勢鉢木	204	21-09,37	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ホウガンヨシノカッセン 判官吉野合戦	084	08-09,30	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ボウシバリ 棒しばり	227	23-09,23	棒しばり ボウシバリ【舞踊劇】
ボウシュウナエウチノマツ 防州苗打松	100	10-05,16	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ホウジョウクダイメイカノイサオシ 北条九代名家功	148	14-12,28	高時 タカトキ【時代物】
ホウジョウジライキ 北条時頼記	044	04-12,43	女鉢木 オンナハチノキ【時代物】
ホウジョウジライキ 北条時頼記	191	20-08,42	肉附面 ニクツキメン【時代物】
ホウジョウジライキ 北条時頼記	203	21-08,39	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ホウショジアイ 奉書試合[戯曲通称]	227	23-09,24	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
ホウショジアイ 奉書試合[戯曲通称]	227	23-09,24	柳生荒木誉奉書 ヤギユウアラキホマレノホウショ
ホウショジアイ 奉書試合[戯曲通称]	227	23-09,24	柳生流伊賀水月 ヤギユウリュウイガノスイゲツ



ホウネンエイタイグラ 豊年永代蔵	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ホウノウタイヘイキ 奉納太平記	256	26-02,25	義家 ヨシイエ【時代物】
ボウフセキミサオノトキワギ 望夫石貞操松樹	127	12-10,38	石魂録 セキコンロク【時代物】
ホウベンシノダツマ 方便信田妻	066	07-01,33	葛の葉 クズノハ【時代物】
ホウライソガシマモノガタリ 宝来曾我鳥物語	020	02-12,38	江島生島 エジマイクシマ【世話物】
ホウライソガシマモノガタリ 宝来曾我鳥物語	070	07-05,40	桑名屋徳蔵 クワナヤトクソウ【世話物】
ホウリュウカク 芳流閣[戯曲通称]	228	23-10,17	八犬伝の芝居
ホウリュウカククモモノイナズマ 芳流閣雲間稲妻	228	23-10,17	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ホウリュウジカイチョウ 法隆寺開帳	228	23-10,17	法隆寺 ホウリュウジ【時代物】
ホクセツビダンジダイカガイ 北雪美談時代鏡	228	23-10,18	北雪美談 ホクセツビダン【お家物】
ホクセツビダンジダイカガミ 北雪美談時代鏡	035	04-03,72	男草履打 オトコソウリウチ【お家物】
ホケキョウシュゴ 法華経守護	060	06-06,41	鬼子母神 キシボジン【時代物】
ホシアイゲンジグルマ 星合源氏車	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ホシアイゲンジグルマ 星合源氏車	060	06-06,39	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
ホシアイゲンジグルマ 星合源氏車	215	22-09,30	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ホシアイスカエカゲキヨ 星合栄景清	049	05-05,42	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ホシアイスカエカゲキヨ 星合栄景清	188	20-05,43	七面 ナナツメン【時代物】
ホシカプトゴバンタダノブ 兜碁盤忠信	085	08-10,26	碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
ホシカプトユンゼイカガミ 星兜弓勢鑑	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ホシツキヨケンモンジツキ 星月夜見聞実記	020	02-12,38	荏柄平太 エガラノヘイダ【時代物】
ホシツキヨケンモンジツキ 星月夜見聞実記	227	23-09,24	北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
ホシヤドルツユノタマギク 星舎露玉菊	155	16-03,18	玉菊 タマギク【世話物・舞踊劇】
ホソカワタダオキノツマ 細川忠興の妻	228	23-10,19	細川の奥方 ホソカワノオクガタ【時代物】
ホタルフタツイロトユツキ 蛸双色夕月	032	03-12,60	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
ボタントウキ 牡丹灯記	228	23-10,20	牡丹灯籠 ボタンドウロウ【時代物・世話物】
ボタンニョウオウギノイロドリ 牡丹蝶扇彩	074	07-09,41	元禄踊 ゲンロクオドリ【舞踊劇】
ボタンニョウオウギノイロドリ 牡丹蝶扇彩	116	11-10,20	新石橋 シンシャツキョウ【舞踊劇】
ボタンニョウハツガフミバコ 牡丹蝶初筐	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ボタンニョウハツガフミバコ 牡丹蝶初筐	047	05-03,46	鏡山 カガミヤマ【時代物】
ホツコキダンホマレノアダウチ 北国奇談誉仇討	088	09-03,39	近藤忠之進 コンドウチュウノシン【お家物】
ホトケゴゼンオウギグルマ 仏御前扇車	184	20-01,37	仲国 ナカクニ【舞踊劇】
ホトケゴゼンオウギグルマ 仏御前扇車	228	23-10,21	仏御前 ホトケゴゼン【時代物】
ホトトギスアイヤドバナシ 郭公相宿話	041	04-09,56	御末刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
ホトトギスアマヨノサカズキ 時鳥雨夜盃	261	26-07,26	嫁切 ヨメクリ【世話物】
ホトトギスアマヨノミノカサ 百音鳥雨夜簑笠	157	16-05,19	縮屋新助 チヂミヤシンスケ【世話物】
ホトトギスアメニオウシュウ 時鳥雨逢州	229	23-11,15	時鳥殺し ホトトギスゴロシ【時代物】
ホトトギスイロノヨガタリ 郭公色夜語	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ホトトギスウキナノアダクメ 田長鳥浮名仇夢	161	17-06,20	塵塚お松 チリツカオマツ【世話物】
ホトトギスクモモノツキ 時鳥雲間月	229	23-11,15	時鳥殺し ホトトギスゴロシ【時代物】

ホトトギスコジョウノラクゲツ 沓手鳥孤城落月	081	08-06,40	孤城落月 コジョウラクゲツ【時代物】
ホトトギスコジョウノラクゲツ 沓手鳥孤城落月	260	26-06,21	淀君 ヨドギミ【時代物】
ホトトギスササモスギモト 時鳥酒杉本	112	11-06,22	正直清兵衛 ショウジキセイヘエ【世話物】
ホトトギスソノノムツゴト 蜀魂其夜の睦言	153	15-09,40	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
ホトトギスダテノキキガキ 早苗鳥伊達聞書	104	10-09,22	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
ホトトギスハナアルサト 時鳥花有里	151	15-05,24	忠信 タダノブ【舞踊劇】
ホトトギスハナノソラドケ 杜鵑花空解	034	04-02,63	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
ホトトギスミサオバナシ 時鳥貞婦噺	004	01-04,50	朝顔日記 アサガオニッキ【お家世話物】
ホトトギスミサオバナシ 時鳥貞婦噺	078	08-03,39	小菊半兵衛 コギクハンベエ【世話物】
ホトトギスミズニヒビクネ 時鳥水響音	180	19-08,38	魚屋の茶碗 トトヤノチャワン【世話物】
ホトトギスワカバナアオヤマ 時鳥若葉の青山	122	12-05,15	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
ホノボノウラノアサギリ 弘暁浦朝霧	087	09-02,43	小割伝内 コワリデンナイ【お家物】
ホマレソガサツキノネンリキ 誉曾我皐月念力	255	26-01,19	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ホマレタツハルノニシキデ 美名辰春錦欄手	268	27-02,30	椀久 ワンキュウ【世話物】
ホラガタケ 洞ヶ嶽[戯曲通称]	229	23-11,15	姫小松日廻遊 ヒメコマツネノヒノアソビ
ホリカワ 堀川[戯曲通称]	229	23-11,15	猿曳門出諷 サルマワシカドデノヒトフシ
ホリカワ 堀川[戯曲通称]	229	23-11,15	近頃河原の達引 チカゴロカワラノタテヒキ
ホリカワナミノツツミ 堀川波の鼓	189	20-06,39	波の鼓 ナミノツツミ【世話物】
ホリバタ 堀端[戯曲通称]	229	23-11,15	樟紀流花見幕張 クスノキリュウハナミノマクバリ
ホリベミョウカイニ 堀部妙海尼	229	23-11,15	堀部妙海尼 ホリベミョウカイニ【お家物】
ボンオドリミヤコフウリュウ 盆踊都風流	074	07-09,41	元禄踊 ゲンロクオドリ【舞踊劇】
ホンカイドウトラガイシ 本海道虎石	135	13-08,34	曾我 ソガ【時代物】
ホンケガエリムカシゴヨミ 本卦復昔暦	029	03-09,73	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ホンゴウコマチウワサノイズクラ 本郷小町噂の伊豆倉	229	23-11,16	本郷小町娘 ホンゴウコマチムスメ【世話物】
ホンソウドダン 本蔵土壇	230	23-12,17	本蔵下屋敷 ホンソウシモヤシキ【お家物】
ホンダヨシミツヤマトカガミ 本田善光日本鑑	129	12-12,27	善光寺 センコウジ【時代物】
ホンチョウイトノネジメ 本調糸音色	040	04-08,61	お祭佐七 オマツリサシチ【世話物】
ホンチョウイトヤノムスメ 本町糸屋娘	074	07-09,45	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
ホンチョウサンゴクシ 本朝三国志	144	14-06,29	太閤記 タイコウキ【時代物】
ホンチョウサンゴクシ 本朝三国志	235	24-05,24	光秀* ミツヒデ【時代物】
ホンチョウシラベノイロイト 本律調艶糸	040	04-08,61	お祭佐七 オマツリサシチ【世話物】
ホンチョウソダチウキナノハナムコ 本町育浮名花聳	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
ホンチョウダンドクセン 本朝檀特山	009	02-01,62	一休禅師 イッキウゼンジ【時代物】
ホンチョウニジュウシコウ 本朝廿四孝	057	06-03,42	川中島 カワナカジマ【時代物】
ホンチョウニジュウシコウ 本朝廿四孝	191	20-08,44	廿四孝 ニジュウシコウ【時代物】
ホンチョウマルイロエノクミアゲ 本町丸彩絵組上	074	07-09,44	小糸佐七 コイトサシチ【世話物】
ホンチョウマルトモエノイナズマ 本町丸鱧触稲妻	155	16-03,22	玉屋 タマヤ【舞踊】
ホンチョウヨウブンショウ 本朝用文章	067	07-02,41	阿新丸 クマワカマル【時代物】
ボンテンゴク 梵天国	230	23-12,18	梵天国 ボンテンゴク【時代物】

ボンテンゴクタカラブネ 梵天国宝船	230	23-12, 18	梵天国 ボンテンゴク【時代物】
ホンリョウソガ 本領首我	135	13-08, 35	首我 ソガ【時代物】
マイオウギウラミノヤイバ 舞扇恨廻刃	191	20-08, 42	錦の舞衣 ニシキノマイギヌ【世話物】
マイオウギサカエマツワカ 舞扇栄松若	193	20-10, 43	新田梅次郎 ニッタウメジロウ【世話物】
マイオウギソノウノウメ 舞扇園生梅	230	23-12, 18	舞扇 マイオウギ【舞踊劇】
マイオウギチグサノイロギヌ 舞扇千種装	230	23-12, 18	舞扇 マイオウギ【舞踊劇】
マイオウギチノヨマツワカ 舞扇栄松稚	123	12-06, 33	隅田川 <sup>1</sup> スミダガワ【時代物】
マイオウギナトリノツキ 舞扇名取月	230	23-12, 18	舞扇 マイオウギ【舞踊劇】
マイオウギナンカノハナシ 舞扇南柯話	098	10-03, 26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
マイオウギマサキノカツラ 舞団扇証鬘	123	12-06, 37	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
マイゴフダサバキノイシズエ 迷子札裁断柱礎	230	23-12, 18	迷子札 マイゴフダ【世話物】
マイラセソロレンリノタチバナ 参らせ候連理の橘	088	09-03, 40	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
マイラセソロレンリノタチバナ 参らせ候連理の橘	241	24-11, 17	虫売 ムシウリ【舞踊劇】
マエノダイリジマオウジョウウツシ 前内裏島王城遷	155	16-03, 23	田村將軍 タムラショウグン【時代物】
マガイオリヤマトニシキ 偽織大和錦	053	05-10, 41	神谷慶十郎 カミヤケイジウロウ【世話物】
マガイコウトウセイカンザシ 偽甲当世簪	161	17-06, 17	朝鮮長屋 チョウセンナガヤ【世話物】
マガイハカタドッコノキキビシ 偽博多独鈷菊菱	073	07-08, 37	源氏車 ゲンジグルマ【世話物】
マガイメッキレンゲノクミアゲ 偽鍍金蓮華組上	266	26-12, 21	蓮華往生 レンゲオウジョウ【世話物】
マキノカタ 牧の方	227	23-09, 24	北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
マキノカタ 牧の方	230	23-12, 19	牧の方 マキノカタ【時代物】
マクラジシ 枕獅子	001	01-01, 36	相生獅子 アイオイジシ【 】
マクラジシ 枕獅子	109	11-02, 28	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
マクラジドウ 枕慈童[1851 大坂]	060	06-06, 40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
マクラジドウ 枕慈童[1852 江戸]	060	06-06, 40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
マクラジドウ 枕慈童[1861 長唄]	060	06-06, 40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
マクラジドウ 枕慈童[1892/河竹新七]	060	06-06, 40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
マゴイチセツブク 孫市切腹[戯曲通称]	230	23-12, 20	絵本太功記 エホンタイコウキ
マコモガクレオシノオモイバ 真菰隠鴛鴦思羽	002	01-02, 42	赤土泥蔵 アカツチドロソウ【 】
マコモガクレオシノオモイバ 真菰隠鴛鴦思羽	031	03-11, 69	鴛鴦 オシドリ【舞踊劇】
マサオカチュウギ 政岡忠義[戯曲通称]	231	24-01, 19	伽羅先代萩 メイボクセンダイハギ
マサカドカムリカッセン 将門冠合戦	231	24-01, 19	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
マサカドショウゾクエノキ 将門装束榎	156	16-04, 18	田原藤太 タワラトウダ【時代物】
マサカドショウゾクエノキ 将門装束榎	230	23-12, 21	枕丹前 マクラタンゼン【舞踊劇】
マサカドショウゾクエノキ 将門装束榎	231	24-01, 19	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
マサキヨホンジョウ 正清本城[戯曲通称]	231	24-01, 19	八陣守護城 ハチジンシュゴノホンジョウ
マタアタラシクミツノサカズキ 復新三組盞	026	03-06, 62	大山詣 オオヤママイリ【舞踊劇】
マタアタラシクミツノサカズキ 復新三組盞	045	05-01, 44	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
マタアタラシクミツノサカズキ 復新三組盞	071	07-06, 45	傾城 ケイセイ【舞踊】
マタクルハルスズナノタネマキ 再春松種時	104	10-09, 20	舌出し三番 シタダシサンバ【舞踊劇】

マタコニコブキノハナダシ 再茲歌舞伎花轢	040	04-08,61	お祭 オマツリ【舞踊】
マタコニコブキノハナダシ 再茲歌舞伎花轢	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>2</sup> タケノウチノスクネ【舞踊劇】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	036	04-04,70	乙姫 オトヒメ【舞踊】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	049	05-05,42	景清 <sup>2</sup> カゲキヨ【舞踊】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	096	09-11,21	晒女 サラシメ【舞踊】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	109	11-02,29	石橋 シャッキョウ【舞踊劇】
マタコニスガタハッケイ 閨茲姿八景	235	24-05,23	水売 ミズウリ【舞踊】
マタソロショウロクオサカバナシ 復再松緑刑部話	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
マタメグリクルワノイロダコ 再廻廓色胤	248	25-06,29	奴胤 ヤッコダコ【舞踊】
マタモチュウシンアコウノジツロク 再忠臣赤穂実録	005	01-05,46	頭殴りの忠臣蔵 アタマハリノチュウシングラ【 】
マタコウグレアメノハチノキ 再夕暮雨の鉢木	006	01-06,58	雨の鉢の木 アメノハチノキ【舞踊劇】
マツカザリオタカラスゴロク 門松宝双六	006	01-06,57	尼子十勇士 アマコジュウユシ【時代物】
マツカザリオタカラスゴロク 門松宝双六	252	25-10,15	山中鹿之助 ヤマナカシカノスケ【時代物】
マツカザリカマクラビラキ 松飾鎌倉開	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
マツカゼ 松風	101	10-06,22	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
マツカゼ 松風	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
マツカゼツキノウラクサ 松風月浦草	102	10-07,21	汐汲 シオクミ【舞踊劇】
マツカゼムラサメソクタイカガミ 松風村雨束帯鑑	015	02-07,58	靉猿 ウツボサル【舞踊劇】
マツカゼムラサメソクタイカガミ 松風村雨束帯鑑	232	24-02,18	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
マツキリ 松伐[戯曲通称]	232	24-02,20	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
マツシタカヘイジレンガヒョウバン 松下嘉平治連歌評判	235	24-05,25	光秀* ミツヒデ【時代物】
マツダイラチョウシチロウ 松平長七郎	016	02-08,59	馬切 ウマキリ【お家物】
マツナガダンジョウ 松永弾正	233	24-03,22	松永久秀 マツナガヒサヒデ【時代物】
マツナミビウ 松波琵琶[戯曲通称]	233	24-03,22	源平布引滝 ゲンベイヌノビキノタキ
マツニイチョウツルカメソガ 松扇杏鶴亀曾我	108	11-01,21	島の為朝 シマノタメトモ【時代物】
マツニイリエイロエノカガソメ 松入江彩加賀染	129	12-12,29	仙石騒動 センゴクソウドウ【お家物】
マツニナダカキモミジノキョウバシ 松高名紅葉京橋	232	24-02,21	松田の喧嘩 マツダノケンカ【世話物】
マツニテソロオトコソガタ 松似候男姿	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
マツノアシタカスミノイロドリ 松朝霞彩色	236	24-06,18	三つ面子守 ミツメンコモリ【舞踊】
マツノアシタカスミノイロドリ 松朝霞彩色	248	25-06,29	奴胤 ヤッコダコ【舞踊】
マツノウチ 松の内[河東節]	094	09-09,32	佐野八ツ橋 サノヤツハシ【世話物】
マツノタクウスmanoワケザト 松君須磨廓	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
マツノニワサキツキカゲモヨウ 松庭前月影模様	233	24-03,23	松前騒動 マツマエソウドウ【お家物】
マツノミドリチヨダノニンジョウ 松緑千代田刃傷	161	17-06,19	千代田の刃傷 チヨダノニンジョウ【お家物】
マツフクカゼナミノウワナリ 松吹風波嫩	019	02-11,48	嫩 ウワナリ【時代物】
マツヨノコムロブシ 待夜小室節[1707/近松門左衛門]	103	10-08,33	重の井 シゲノイ【お家物】
マツヨノコムロブシ 待夜小室節[1707/近松門左衛門]	157	16-05,15	丹波与作 タンバヨサク【お家物】

マツヨノコムロロシ 待夜小室節[1911 東京].....	256	26-02,23	与作 ヨサク【舞踊劇】
マツヨノヒメコソデウリ 待夜の姫小袖売.....	082	08-07,30	小袖売 コソデウリ【時代物】
マツヲアルジテンガチャムラ 松主殿下茶屋聚.....	166	18-02,45	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
マナイタノチョウベエ 俎板の長兵衛[通称].....	208	22-02,40	靈驗曾我籬 レイゲンソガノカミガキ
マネテミマスシキノワザオギ 倣三枳四季俳優.....	035	04-03,72	男舞 オトコマイ【舞踊】
マネテミマスシキノワザオギ 倣三升四季俳優.....	185	20-02,41	鳶奴 トンビヤッコ【舞踊】
マネテミマスヨツヤノキキガキ 当三升四谷聞書.....	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
マホジュウブンフクノカミカゼ 真帆十分福神風.....	104	10-09,22	七福神 シチフクジン【舞踊劇】
ママコイジメ 継子苛め[戯曲通称].....	233	24-03,26	釜淵双級巴 カマガフチフタツドモエ
ママタキ 飯炊[戯曲通称].....	233	24-03,26	伽羅先代萩 メイボクセンダイハギ
マムキソガムシャエノカケガク 当曾我武絵懸額.....	196	21-01,33	鶴退治 ヌエタイジ【時代物】
マヤサンカイチョウ 摩耶山開帳.....	234	24-04,30	摩耶山 マヤサン【時代物】
マリコユミオサナアソビ 鞠小弓稚遊.....	019	02-11,46	浦島 ウラシマ【時代物】
マルゴシレンリノマツ 丸腰連理松.....	027	03-07,65	おきさ二郎兵衛 オキサジロベエ【世話物】
マルツカヤマ 円塚山[戯曲通称].....	233	24-03,26	八犬伝の芝居
マンゲツオグリノヤカタ 満月小栗館.....	028	03-08,68	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
マンゴクドリチャイレノスミツキ 万石取茶入隅附.....	021	03-01,33	越前騒動 エチゼンソウドウ【お家物】
マンジュウムスメ 饅頭娘[戯曲通称].....	234	24-04,30	伊賀越道中双六 イガゴエドウチュウスゴロク
マンニジュウネムスコカガミ 満二十年息子鑑.....	161	17-06,18	徴兵令 チョウヘイレイ【世話物】
マンマトシュビナルトノシラナミ 盲首尾鳴門白浪.....	007	01-07,58	阿波の十郎兵衛 アワノジュウロベエ【お家世話物】
ミイデラキョウジョ 三井寺狂女.....	234	24-04,30	三井寺 ミイデラ【時代物】
ミウラダンジョウスガタノヨロイ 三浦弾正風俗鎧.....	070	07-05,40	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ミウラノオオスケコウバイタツナ 三浦大助紅梅鞆.....	234	24-04,33	三浦大助 ミウラノオオスケ【時代物】
ミウラホウジョウケンボウクラベ 三浦北条軍法比.....	234	24-04,31	三浦荒次郎 ミウラアラジロウ【時代物】
ミエイコウノリノハチノキ 御影講法の鉢木.....	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
ミエイドウシンジュウ 御影堂心中.....	008	01-08,55	井筒屋源六 イツツヤゲンロク【世話物】
ミエガサネモミジノフネ 三重襲櫓船.....	268	27-02,28	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミエガスミウレシキカオドリ 三重霞嬉敷顔鳥.....	004	01-04,49	朝比奈傀儡師 アサイナカライシ【舞踊劇】
ミエガスミウレシキカオドリ 三重霞嬉敷顔鳥.....	065	06-12,33	草摺引 クサズリビキ【舞踊劇】
ミエダスセタイノアケボノ 三重襷賭曙.....	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
ミエノオビハナノイロアゲ 三重帯花の潤色.....	188	20-05,40	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ミエノオビハナノイロアヤ 三重帯花の色綾.....	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ミオツクシナニワイカダ 漣標浪花筏.....	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ミオツクシナニワノナガメ 漣標浪花眺.....	252	25-10,19	夕霧 ユウギリ【世話物】
ミガワリザゼン 身替座禅.....	206	21-11,36	花子 ハナゴ【舞踊劇】
ミガワリユミハリツキ 身替弓張月.....	184	20-01,37	仲光 ナカミツ【時代物】
ミクニコジョロウアケボノサクラ 三国小女郎曙桜.....	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ミクニノミナトメイショウカタビラ 三国湊名所帷子.....	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ミクマノカガロウスガタ 三熊野かげろつ姿.....	180	19-08,40	吃又 ドモマタ【お家物】

ミケンジャク 眉間尺	235	24-05,22	眉間尺 ミケンジャク【時代物】
ミケンジャクゾウノミツギ 眉間尺象貢	235	24-05,22	眉間尺 ミケンジャク【時代物】
ミケンワリ 眉間割[戯曲通称]	235	24-05,24	絵本太功記 エホンタイコウキ
ミケンワリ 眉間割[戯曲通称]	235	24-05,24	時桔梗出世請状 トキモキキョウシュッセノウケジョウ
ミサオカガミニョウボノココロエ 貞操鑑女房心得	247	25-05,19	文覚 モンガク【時代物】
ミサオカガミビジンノイキウメ 操鑑美人の生理	209	22-03,39	美人の生理 ビジンノイキウメ【世話物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	005	01-05,47	油坊主 アブラボウズ【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	111	11-04,18	崇徳院 ストクイン【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	237	24-07,23	美面より ミメヨリ【舞踊劇】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	242	24-12,22	宗清 ムネキヨ【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	247	25-05,18	文覚 モンガク【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	263	26-09,20	頼政 ヨリマサ【時代物】
ミサオノハナトバノコイツカ 貞操花鳥羽恋塚	264	26-10,21	頼豪阿闍梨 ライゴウアジャリ【時代物】
ミジカヨウキナノチラシガキ 短夜仇散書	032	03-12,62	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ミジカヨウキナノチラシガキ 短夜仇散書	074	07-09,43	鯉掴み コイツカミ【時代物】
ミシタマダレユキノフルサト 顔観玉簾雪故郷	245	25-03,15	物臭太郎 モノグサタロウ【お家物】
ミシマバナシサダスケゴンバチ 三島嘶定助権八	093	09-08,31	定助権八 サダスケゴンバチ【世話物】
ミスイリ 水入[戯曲通称]	235	24-05,23	助六所縁江戸桜 スケロクユカリノエドザクラ
ミズニオモダカハレギノトウケン 水沢瀉曠着唐犬	170	18-07,38	唐犬権兵衛 トウケンゴンベエ【世話物】
ミズノジュウロウザエモン 水野十郎左衛門	235	24-05,23	水野十郎左衛門 ミズノジュウロウザエモン【世話物】
ミダレオウギフリソドドウジョウジ 乱扇振袖道成寺	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ミダレガミヨルノアマガサ 乱髪夜編笠	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ミダレゴコロサトノテゴト 狂乱廓三面	268	27-02,30	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミダレコンバル みだれ金春	147	14-10,30	大丸屋騒動 ダイマルヤソウドウ【世話物】
ミダレザキエニシノハナガサ 乱咲縁花笠	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ミダレソロネグラノキクチョウ 乱候塙菊蝶	156	16-04,16	多門狂乱 タモンキョウラン【舞踊劇】
ミダレソロヤナギノクロカミ 乱候柳黒髪	268	27-02,29	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミダレテケサコイノヤマザキ 乱朝恋山崎	217	22-11,30	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ミダレテケサコイノヤマザキ 乱朝恋山崎	256	26-02,23	与五郎狂乱 ヨゴロウキョウラン【舞踊劇】
ミチノクンゼイゲンジ 陸奥勢源氏	196	21-01,33	二人椀久 ニニンワンキュウ【舞踊劇】
ミチノクンゼイゲンジ 陸奥勢源氏	256	26-02,25	義家 ヨシイエ【時代物】
ミチノクンゼイゲンジ 陸奥勢源氏	268	27-02,28	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミチユキアイアイゴタツ 道行相合炬燵	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキアズマカラゲ 道行吾妻からげ	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ミチユキイロノイノジ 道行色のいの字	198	21-03,39	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
ミチユキウキナノハツトリ 道行浮名の初鶏	033	04-01,63	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
ミチユキウキネノトモドリ 道行浮塙鷗	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】

ミチユキエイガノツキ 道行栄花月	032	03-12,61	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
ミチユキエニシノハナブサ 道行縁花房	039	04-07,54	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ミチユキオモイノタマカズラ 道行念玉蔓	015	02-07,56	薄雪 ウスユキ【時代物】
ミチユキオモイノタマカズラ 道行念玉蔓	161	17-06,15	長作 チョウサク【舞踊劇】
ミチユキコイトイウジ 道行恋というじ	037	04-05,65	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ミチユキコイノオダマキ 道行恋苧環[1815 江戸中村座]	041	04-09,54	お三輪 オミワ【舞踊劇】
ミチユキコイノオダマキ 道行恋の小田巻[井上流京舞]	041	04-09,54	お三輪 オミワ【舞踊劇】
ミチユキコイノオモニ 道行恋思荷	075	07-10,41	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ミチユキコイノヒキヤク 道行恋飛脚	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキコキョウノハルサメ 道行故郷の陽雨	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキサンドガサ 道行三度笠	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキシアンノホカ 道行思案余	040	04-08,59	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ミチユキシキノナガメ 道行四季のながめ	162	17-08,50	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ミチユキシグレノヤナギ 道行時雨柳	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
ミチユキシットノアダナミ 道行妬仇浪	063	06-09,44	清姫 キヨヒメ【時代物】
ミチユキシモヨノキク 道行霜夜菊	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ミチユキセガワノアダナミ 道行瀬川の仇浪	039	04-07,57	お半長右衛門 オハンチョウエモン【世話物】
ミチユキタビジノハナムコ 道行旅路の花髻[1833/三升屋二三治]	034	04-02,62	落人 オチウド【舞踊劇】
ミチユキタビジノハナムコ 道行旅路の花髻[1860 江戸]	034	04-02,62	落人 オチウド【舞踊劇】
ミチユキタビジノヨメイリ 道行旅路の嫁入	026	03-06,63	お蔭参り オカゲマイリ【舞踊劇】
ミチユキタビジノヨメイリ 道行旅路の嫁入	160	17-05,29	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ミチユキタビジノヨメイリ 道行旅路の嫁入	203	21-08,39	八段目 ハチダンメ【舞踊劇】
ミチユキタムケノハナゲモリ 道行手向の花曇	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ミチユキツイノキヌガワ 道行対絹川	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキツイノハナカイラギ 道行対の花かいらぎ	212	22-06,38	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
ミチユキツイノフリソデ 道行両花道振袖	196	21-01,32	二人道成寺 ニニンドウジョウジ【舞踊劇】
ミチユキツジガハナソメ 道行辻花染	044	04-12,40	女団七 オンナダンシチ【世話物】
ミチユキトタレモユウツキ 道行誰夕月	219	23-01,28	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ミチユキナサケノサンドガサ 道行情の三度笠	017	02-09,48	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミチユキナサケノミナカミ 道行情水上	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ミチユキノベノカキオキ 道行野辺の書置	084	08-09,29	小春治兵衛 コハルジヘエ【世話物】
ミチユキハツネノタビ 道行初首旅	151	15-05,23	忠信 タダノブ【舞踊劇】
ミチユキヒトメノシゲヌイ 道行人目の重縫	182	19-11,42	鳥辺山 トリベヤマ【世話物】
ミチユキヒヨクノキクチョウ 道行比翼の菊蝶	036	04-04,72	お夏清十郎 オナツセイジウロウ【世話物】
ミチユキヒヨクノソデビヨウブ 道行比翼袖屏風	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
ミチユキヒヨクノハツタビ 道行比翼の初旅	195	20-12,29	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ミチユキマルニツノモジ 道行丸い字	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ミチユキユメジノシガラミ 道行夢路柵	033	04-01,62	お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
ミチユキユメノイトユウ 道行夢系遊	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】

ミチユキワカナノカサネツマ 道行若菜の重寝	218	22-12,25	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ミツイチヨウゴソンジエドソメ 三銀杏御存地染	088	09-03,44	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ミツイレコソガノカオミセ 三升首我顔見勢	142	14-04,32	曾我の対面 ソガノタイムン【時代物】
ミツオウギクモイノツキ 三扇雲井月	045	05-01,45	傀儡師 カイライシ【舞踊劇】
ミツカタイヘイキ 三日太平記	144	14-06,30	太閤記 タイコウキ【時代物】
ミツカタイヘイキ 三日太平記	232	24-02,22	松永久秀 マツナガヒサヒデ【時代物】
ミツカタイヘイキ 三日太平記	235	24-05,24	光秀* ミツヒデ【時代物】
ミツカラカサアカツキコソデ 三傘暁小袖	017	02-09,47	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
ミツカラカサアカツキコソデ 三傘暁小袖	098	10-03,27	三勝道行 サンカツミチユキ【舞踊劇】
ミツギソガフジノキセワタ 貢首我富士着綿	027	03-07,64	お菊幸助 オキクコウスケ【世話物】
ミツギノハナゲンジビイキ 貢花雪源氏鼻貞	068	07-03,45	鞍馬山 クラマヤマ【時代物】
ミツギノハナゲンジビイキ 貢花雪源氏鼻貞	242	24-12,21	宗清 ムネキヨ【時代物】
ミツキノリョウシ 見突の漁師	266	26-12,19	漁師 リョウシ【舞踊】
ミツギブネタイヘイキ 貢船太平記	024	03-04,73	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
ミツギブネタイヘイキ 貢船太平記	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
ミツギモノイリフネナゴヤ 貢物入船名古屋	268	27-02,28	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミツグミホマレノカゲキヨ 三組誉景清	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ミツグミホマレノカゲキヨ 三組誉景清	213	22-07,44	日向島 ヒユウガジマ【時代物】
ミツグミマキエノサカズキ 三升時絵屋	161	17-06,15	ちよい乗せ チョイノセ【世話物】
ミツクレナイネヤヲモルセキ 三紅閨守関	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ミツニンギョウユカリノサイシキ 三人形紅の彩色	086	08-11,29	子守 コモリ【舞踊劇】
ミツノアサハツノシメナワ 三朝初湯注連縄	101	10-06,18	三人片輪 サンニンカタワ【世話物】
ミツノホマレカイケイソガ 三津誉会稽曾我	075	07-10,42	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ミツノホマレカイケイソガ 三津誉会稽曾我	140	14-02,27	曾我 ソガ【時代物】
ミツビョウシアニアイツチ 三津拍子相合槌	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
ミツメンワンキュウ 三つ面椀久	268	27-02,30	椀久 ワンキュウ【世話物】
ミドウマエアヤメカタビラ 御堂前菖蒲帷子	041	04-09,56	御末刻太鼓 オヤツノタイコ【お家物】
ミドウマエアヤメカタビラ 御堂前菖蒲帷子	078	08-03,39	小菊半兵衛 コギクハンベエ【世話物】
ミドリノハナハルツゲソガ 松梅鶯曾我	088	09-03,43	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ミドリノハナハルツゲソガ 松梅鶯曾我	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ミナカミチョウノハツガイ 水上蝶羽番	040	04-08,59	帯曳 オビヒキ【舞踊】
ミナトマチ 湊町[戯曲通称]	236	24-06,20	寿連理の松 コトブキレンリノマツ
ミナメザメユリワカダイジン 皆覚百合若大臣	255	26-01,17	百合若 ユリワカ【時代物】
ミナモトノヨシツネショウギキョウ 源義経将基経	210	22-04,35	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
ミナモトノヨシツネショウギキョウ 源義経将基経	257	26-03,28	義経 ヨシツネ【時代物】
ミナモトノヨシトモ 源義朝	258	26-04,21	義朝 ヨシトモ【時代物】
ミナモトノヨリエマリハジメ 源頼家鞠始	261	26-07,26	頼家 ヨリエ【時代物】
ミノウキクモハレテアキカゼ 身曇晴秋風	098	10-03,28	散切お富 ザンギリオトミ【世話物】
ミノツジウラキクノヒトモト 身辻占菊株	165	18-01,49	てれめん テレメン【世話物】



ミノブマイリカイノユウテン 身延詣甲斐融転	253	25-11,21	祐天仙之助 ユウテンセンノスケ【世話物】
ミノリノアキセイショウデンキ 実成穉清正伝記	177	19-05,42	毒饅頭 ドクマンジュウ【時代物】
ミノリヨシコガネノキクツキ 実成金菊月	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ミノワノシンジュウ 箕輪の心中	236	24-06,20	箕輪心中 ミノワシンジュウ【世話物】
ミバエゲンジウワマナツル 実栄源氏祝真鶴	104	10-09,21	七騎落 シチキオチ【時代物】
ミバエゲンジミチノクニツキ 草源氏陸奥日記	009	02-01,60	伊勢三郎 イセノサブロウ【時代物】
ミハマツヤマキラクノハツユメ 躰松山帰洛初夢	111	11-04,18	崇徳院 ストクイン【時代物】
ミハマツヤマキラクノハツユメ 躰松山帰洛初夢	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
ミマスドッコハカタノウチカケ 三升独鈷博多襠	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
ミメヨリ みめより	237	24-07,23	美面より ミメヨリ【舞踊劇】
ミヤコイツチュウ 都一中	009	02-01,63	一中節 イツチュウブシ【世話物】
ミヤコキヨミズヨガイチョウ 花洛清水夜開帳	039	04-07,55	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
ミヤコサンジュウサンゲンドウムナギノユライ 都三十三間堂棟由来	249	25-07,24	柳 ヤナギ【時代物】
ミヤコシンブントクイノツヤダネ 都新聞得意艶種	009	02-01,61	鼈小僧 イタチコソウ【世話物】
ミヤコゾメギオウカツギ 都染妓王被	043	04-11,48	女暫 オンナシバラク【時代物】
ミヤコゾメシノフハチノキ 都染葱鉢木	002	01-02,39	青砥藤綱 アオトフジツナ【 】
ミヤコドリナガレノシラナミ 都鳥廓白浪	092	09-07,44	桜餅 サクラモチ【世話物】
ミヤコドリナガレノシラナミ 都鳥廓白浪	250	25-08,13	柳沢騒動 ヤナギサワソウドウ【お家物】
ミヤコドリメイショノワタシ 都鳥名所渡	043	04-11,50	女清玄 オンナセイゲン【時代物】
ミヤコドリメイショノワタシ 都鳥名所渡	196	21-01,32	二人松若 ニニンマツワカ【舞踊劇】
ミヤコドリヤヨイノワタシ 都鳥弥生渡	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ミヤコノヒナガタ 京ひながた	053	05-10,39	上方顔見世狂言 カミガタカオミセキョウゲン【 】
ミヤコミヤゲヤマトブンコ 都土産大和文庫	032	03-12,61	お俊伝兵衛 オシュンデンベエ【世話物】
ミヤコメイショ 都名所	266	26-12,22	蓮生譚 レンショウモノガタリ【時代物】
ミヤバシライワオノブタイ 宮柱巖舞台	113	11-07,22	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
ミヤマノハナトドカヌエダブリ 深山桜及兼樹振	155	16-03,18	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
ミヤマノハナトドカヌエダブリ 深山桜及兼樹振	248	25-06,29	保名 ヤスナ【舞踊】
ミヤモトムサシ 宮本武蔵	060	06-06,39	巖流島 ガンリュウジマ【お家時代物】
ミユキツキエイガノハチノキ 雪視月栄花鉢木	042	04-10,69	女車引 オンナクルマビキ【舞踊劇】
ミョウガヤナメグミノカゲキヨ 冥加哉恩恵景清	214	22-08,28	琵琶の景清 ビワノカゲキヨ【時代物】
ミョウシンジ 妙心寺[戯曲通称]	239	24-09,33	絵本太功記 エホンタイコウキ
ミョウトボシウキナノテンジン 女夫星浮名天神	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツクベエ【世話物】
ミョウトボシオウヨコマチ 女夫星逢夜小町	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ミョウトボシオウヨコマチ 女夫星逢夜小町	096	09-11,22	皿屋敷 サラヤシキ【お家物】
ミヨシチョウケイキヌタグンダン 三好長慶礎軍談	240	24-10,23	三好長慶 ミヨシチョウケイ【時代物】
ミヨシチョウケイサトノアゲマキ 三好長慶廓総角	240	24-10,24	三好長慶 ミヨシチョウケイ【時代物】
ミヨノトクタイシャノオンテン 聖世徳大赦恩典	001	01-01,41	青木弥太郎 アオキヤタロウ【 】
ミヨノハルヨロコビソガ 御代陽春暦曾我	062	06-08,34	吉備大臣 キビダンジン【時代物】
ミルメノシオクミ 見女の汐汲[通称]	101	10-06,22	浦千鳥見女汐汲 ウラチドリミルメノシオクミ

ミワタンゼンノウ 三輪丹前能	240	24-10,24	三輪 ミワ【時代物】
ミンナミニクリキノムシボシ 南爾寄来妙法経	192	20-09,31	日蓮記 ニチレンキ【時代物】
ミンナミニクリキノムシボシ 南爾寄来妙法経	260	26-06,19	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
ムカイカゴチシゴノアカネゾメ 迎駕籠死期茜染	017	02-09,50	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ムカシアブミブンブノイサオシ 昔鑑文武功	006	01-06,54	阿部の乗切 アベノノッキリ【お家物】
ムカシアブミブンブノイサオシ 昔鑑文武功	022	03-02,33	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
ムカシアブミブンブノイサオシ 昔鑑文武功	233	24-03,24	松前屋五郎兵衛 マツマエヤゴロベエ【世話物】
ムカシアブミブンブノイサオシ 昔鑑文武功	266	26-12,21	蓮華往生 レンゲオウジョウ【世話物】
ムカシオトコカスガノコマチ 昔男春日野小町	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ムカシオトコユキノヒナガタ むかし男雪雛形	215	22-09,30	富士浅間 フジアサマ【時代世話物】
ムカシオリホンバハチジョウ 往昔織本場八丈	053	05-10,41	髪結新三 カミユイシンザ【世話物】
ムカシガタリウグイスツカ 昔語黄鳥墳	014	02-06,58	鶯塚 ウグイスツカ【時代物・お家物】
ムカシガタリサンショウダユウ 昔談柄三荘太夫	100	10-05,19	三荘太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
ムカシゴメマンゴクドオシ 昔米万石通	217	22-11,27	双蝶々 フタツチョウチョウ【世話物】
ムカシシトウチシオノオモカゲ 昔慕血汐俤	034	04-02,62	お千代半兵衛 オチヨハンベエ【世話物】
ムカシバナシガクノタワムレ 昔嘶顔面戯	047	05-03,49	額抜け ガクヌケ【舞踊劇】
ムカシバナシホマレソガ 昔嘶誉曾我	170	18-07,38	唐犬権兵衛 トウケンゴンベエ【世話物】
ムカシブリカエテシンベエ 昔風俗替新兵衛	196	21-01,31	二人新兵衛 ニニンシンベエ【世話物】
ムカシムカシオイワノカイダン 昔於岩怪談	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
ムカシムカシココロニシワラ 往昔元吉原	002	01-02,40	明石志賀之助 アカシシガノスケ【 】
ムカシムカシコハダノカイダン 住古鯉怪談	060	06-06,40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
ムカシムカシコハダノカイダン 住古鯉怪談	084	08-09,27	木幡小平次 コハダコヘイジ【世話物】
ムカシムカシソネザキムラノウワサ 住古曾根崎村噂	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
ムカシムカシモトノヨシワラ 往昔元吉原	254	25-12,25	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
ムカシモヨウカメヤマゾメ 往昔模様亀山染	054	05-11,38	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
ムカシモヨウネズミコモン 昔模様鼠小紋	198	21-03,37	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
ムケンノカネシンドウジョウジ 無間鐘新道成寺	072	07-07,37	傾城道成寺 ケイセイドウジョウジ【舞踊劇】
ムケンノカネシンドウジョウジ 無間鐘新道成寺	171	18-09,46	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ムサシアブミホマレノオオクボ 武蔵鑑誉大久保	022	03-02,33	大久保彦左衛門 オオクボヒコザエモン【お家物】
ムシウリ 虫売	088	09-03,40	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ムスピガミヒスイノヤナギ 結髪翡翠柳	080	08-05,28	小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
ムスピダイソガノカリガネ 結題曾我鷹	055	05-12,45	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
ムスメオウギツイノタテヒキ 娘扇一对侠鼻扇	243	25-01,24	め組の喧嘩 メグミノケンカ【世話物】
ムスメカゲキヨヤシマニツキ 嬢景清八島日記	048	05-04,45	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ムスメカゲキヨヤシマニツキ 嬢景清八島日記	147	14-10,28	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
ムスメカゲキヨヤシマニツキ 嬢景清八島日記	213	22-07,44	日向島 ヒユウガジマ【時代物】
ムスメカンジンチョウ 処女勧進帳	241	24-11,17	処女勧進帳 ムスメカンジンチョウ【時代物】
ムスメゴノミウキナノヨコグシ 処女翫浮名横櫛	064	06-10,35	切られお富 キラレオトミ【世話物】
ムスメジシ 娘獅子	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】

ムスメソガガイジンヤシマ 娘首我凱陣八島	030	03-10,72	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ムスメソガガイジンヤシマ 娘首我凱陣八島	254	25-12,25	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
ムスメヒョウバンゼンアクカガミ 処女評判善悪鏡	115	11-09,16	白浪五人女 シラナミゴニンオンナ【世話物】
ムタマガワイロエノスガタミ 六玉川彩絵姿鏡	194	20-11,33	二人晒 ニニンザラシ【舞踊劇】
ムタマガワイロエノスガタミ 六玉川彩絵姿鏡	242	24-12,20	六玉川 ムタマガウ【舞踊劇】
ムタマガワコトジノカリガネ 六玉川琴柱の鴈	242	24-12,20	六玉川 ムタマガウ【舞踊劇】
ムタマガワシュウカノスガタミ 六玉川秀歌姿見	064	06-10,38	切見世女郎 キリミセジョロウ【舞踊】
ムタマガワシュウカノスガタミ 六玉川秀歌姿見	242	24-12,20	六玉川 ムタマガウ【舞踊劇】
ムチサクラウサノミテグラ 鞭桜宇佐幣	151	15-05,25	忠度 タダノリ【時代物】
ムツチドリコイノシラナミ 陸奥千鳥女白浪	060	06-06,43	鬼神のお松 キジノオマツ【世話物】
ムツノシラハギロウゴノマサオカ 陸白萩老後政岡	266	26-12,23	老後の政岡 ロウゴノマサオカ【時代物】
ムツノハナイズノハタアゲ 雪伊豆旗揚	086	08-11,28	高麗蔵拍子舞 コマゾウヒョウシマイ【舞踊劇】
ムツノハナウメノカオミセ 雪梅顔見勢	005	01-05,43	安宅松 アタカノマツ【舞踊劇】
ムツノハナウメノカオミセ 雪梅顔見勢	224	23-06,27	弁慶 ベンケイ【時代物】
ムツノハナサクラノフルゴト 六花桜故事	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】
ムツノハナフリソデヤマンバ 雪振袖山姥	221	23-03,22	振袖山姥 フリソデヤマンバ【舞踊劇】
ムツノハナモノミノマツ 切雪物見松	067	07-02,40	熊坂 クマサカ【時代物】
ムツノハナヤシマノガイジン 雪八島凱陣	005	01-05,43	安宅松 アタカノマツ【舞踊劇】
ムツマジキミョウトギツネ 睦女夫義経	239	24-09,34	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
ムツマシツキコイノテドリ 睦月恋手取	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ムツマシツキホウライソガ 諏蓬萊首我	140	14-02,28	首我 ソガ【時代物】
ムツマシツキヤハズノモンビ 睦月笹紋日	230	23-12,19	舞鶴屋 マイヅルヤ【舞踊劇】
ムネキヨ 宗清	068	07-03,45	鞍馬山 クラマヤマ【時代物】
ムネトウ 宗任	257	26-03,23	義家 ヨシイエ【時代物】
ムネノカラクリゴゾウメガネ 胸機関五臓眼鏡	053	05-10,41	神谷慶十郎 カミヤケイジウロウ【世話物】
ムネユキキョウ 宗行卿	227	23-09,24	北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
ムラカミヨシテル 村上義光	243	25-01,23	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
ムラサキヒフチドリノウキオリ 紫被布千鳥浮織	042	04-10,69	女河内山 オンナコウチャマ【世話物】
ムラススキウラミノハッコツ 村薄恨白骨	030	03-10,73	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ムラススキウラミノハッコツ 村薄恨白骨	147	14-10,31	高尾懺悔 タカオザンゲ【舞踊劇】
ムラマツ 村松	243	25-01,23	村松 ムラマツ【時代物】
ムレキヨタキヒイキノセイリキ 群清滝轟眞勢力	126	12-09,31	勢力 セイリキ【世話物】
ムレキヨタキヒイキノセイリキ 群清滝轟眞勢力	168	18-04,42	天保水滸伝 テンボウスイコデン【世話物】
ムレタカマツユキノシラハタ 群高松雪藩	109	11-02,32	十二段 ジュウニダン【舞踊劇】
ムレタカマツユキノシラハタ 群高松雪藩	202	21-07,34	橋弁慶 ハシベンケイ【時代物・舞踊劇】
ムレタカマツユキノシラハタ 群高松雪藩	258	26-04,18	義経 ヨシツネ【時代物】
ムロノウメホウガンビイキ 恵咲梅判官轟眞	239	24-09,34	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
ムロノウメミバエゲンジ 室棟草源氏	062	06-08,37	経ヶ島 キョウガシマ【時代物】
ムロマチゴシヨ 室町御所	232	24-02,22	松永久秀 マツナガヒサヒデ【時代物】

ムロマチセンジョウジキ 室町千畳敷	240	24-10,23	三好長慶 ミヨシチヨウケイ【時代物】
ムロマチドノエイガノブタイ 室町殿栄華舞台	088	09-03,40	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
ムロマチドノエイガノブタイ 室町殿栄華舞台	241	24-11,17	虫売 ムシウリ【舞踊劇】
ムロマチドノサクラノブタイ 室町殿花王舞台	223	23-05,32	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ムロマチドノサクラブタイ 室町殿花王舞台	034	04-02,63	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
メイカノトクミマスノタマガキ 名歌徳三升玉垣	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
メイゲツゴニンオトコ 名月五人男	055	05-12,44	鷹金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
メイゲツハチマンマツリ 名月八幡祭	157	16-05,19	縮屋新助 チヂミヤシンスケ【世話物】
メイコウカキエモン 名工柿右衛門	047	05-03,47	柿右衛門 カキエモン【世話物】
メイサクキリコノアケボノ 名作切籠曙	156	16-04,17	樽屋おせん タルヤオセン【世話物】
メイサンアキタブキ 名産秋田踏	152	15-06,28	姐妃のお百 ダツキノオヒャク【世話物】
メイジイチダイオンナ 明治一代女	206	21-11,36	花井お梅 ハナイオウメ【世話物】
メイジダイイチネン 明治第一年	090	09-05,40	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
メイジタイヘイキ 明治太平記	025	03-05,67	大村益次郎 オオムラマシジロウ【世話物】
メイジネンカンアズマニツキ 明治年間東日記	013	02-05,53	上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
メイショゴジンユキノマサガタ 比良御陣雪升形	104	10-09,16	賤ヶ嶽 シズガタケ【時代物】
メイショズエハナノコノシタ 旧礎花大樹	145	14-08,27	太閤記 タイコウキ【時代物】
メイドノヒキヤク 冥途の飛脚	016	02-08,60	梅川忠兵衛 ウメガワチュウベエ【世話物】
メイヒツケイセイカガミ 名筆傾城鑑	180	19-08,40	吃又 ドモマタ【お家物】
メイブツウバガモチ 名物姥ヶ餅	016	02-08,58	姥ヶ餅 ウバガモチ【舞踊劇】
メイボクカサネモノガタリ 薫樹累物語	050	05-07,43	累 カサネ【お家物】
メイボクカサネモノガタリ 薫樹累物語	152	15-06,29	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
メイボクセンダイハギ 伽羅先代萩[1777/奈河亀輔]	130	13-03,31	先代萩 センダイハギ【お家物】
メイボクセンダイハギ 伽羅先代萩[1777/奈河亀輔]	154	16-02,24	伊達騒動 ダテソウドウ【お家物】
メイボクセンダイハギ 伽羅先代萩[1777/奈河亀輔]	210	22-04,36	常陸坊海尊 ヒタチボウカイソン【時代物】
メイボクセンダイハギ 伽羅先代萩[1785/松貫四]	130	13-03,32	先代萩 センダイハギ【お家物】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	002	01-02,38	青砥調 アオトバナシ【 】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	022	03-02,30	大岡政談 オオオカセイダン【 】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	044	04-12,43	女非人仇討 オンナヒニンアダウチ【お家物】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	068	07-03,43	雲霧仁左衛門 クモキリニザエモン【世話物】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	121	12-04,23	鈴川源十郎 スズカワゲンジュウロウ【世話物】
メイヨジンセイロク 名誉仁政録	126	12-09,33	瀬川仇討 セガワノアダウチ【世話物】
メイワプリスガタノスケロク 明和振容姿助六	207	21-12,44	春雨傘 ハルサメガサ【世話物】
メオトオビムスメヒョウバンキ 恋夫帯娘評判記	029	03-09,71	お駒才三 オコマサイザ【世話物】
メオトゴトアメニヤナギ 妻夫事雨柳	116	11-10,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
メオトザケカワラヌナカナカ 女夫酒替奴中仲	068	07-03,45	鞍馬獅子 クラマジシ【舞踊劇】
メオトザラシ 女夫晒	196	21-01,34	布晒 ヌノザラシ【舞踊】
メオトザラシ 女夫晒[通称]	194	20-11,33	月雪花歌再夕市 コトノハグサマタトユウバエ
メオトマツタカサゴタンゼン 女夫松高砂丹前	148	14-12,26	高砂丹前 タカサゴタンゼン【舞踊劇】

メグミニウルオウアメノハチノキ 恵潤雨鉢木	052	05-09,45	鎌倉山 カマクラヤマ【お家物】
メグミノハナヨシノシュウイ 御摂花吉野拾遺	239	24-09,34	女夫狐 ミョウトギツネ【舞踊劇】
メクラカゲキヨ 盲景清[戯曲通称]	244	25-02,21	月梅撰景清 ツキノウメメグミノカゲキヨ
メクラカゲキヨ 盲景清[戯曲通称]	244	25-02,21	嬢景清八島日記 ムスメカゲキヨヤシマニツキ
メクラナガヤウメガカガトビ 盲長屋梅加賀鳶	046	05-02,45	加賀鳶 カガトビ【世話物】
メクラナガヤウメガカガトビ 盲長屋梅加賀鳶	105	10-10,29	死神 シニガミ【世話物】
メクラヒヨウスケ 盲兵助[戯曲通称]	244	25-02,21	極彩色娘扇 ゴクサイシキムスメオウギ
メクラヒヨウスケ 盲兵助[戯曲通称]	244	25-02,21	時逢坂増井達引 トキニオウサカマスイノタテヒキ
メグリアウコイノタナバタ 巡逢恋七夕	265	26-11,26	流星 リュウセイ【舞踊劇】
メグロノヒヨクツカ 驪山比翼塚	088	09-03,40	権八小紫 ゴンパチコムラサキ【世話物】
メグロノヒヨクツカ 驪山比翼塚	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウウエ【世話物】
メセヤ 召せや[通称]	106	10-11,18	残雪霖曾我 ノコンノユキカツイロソガ
メダシヤナギミドリノマツマエ 芽出柳翠緑松前	233	24-03,24	松前屋五郎兵衛 マツマエヤゴロベエ【世話物】
メダシヤナギミドリノマツマエ 芽出柳翠緑松前	247	25-05,20	柳生又十郎 ヤギユウマタジュウロウ【お家世話物】
メデタクカシクケイセイノハジマリ 目出度かしく傾城始	236	24-06,19	美濃庄九郎 ミノノショウクロウ【時代物】
メンコウフハイノタマ 面向不背玉	012	02-04,50	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
モウテオリソエイロノタネマキ 舞奏いろの種時	146	14-09,28	大黒舞 ダイコクマイ【舞踊劇】
モチツキ 望月	157	16-05,21	血達磨 チダルマ【お家物】
モチマルチョウジャコガネノカンザシ 持丸長者金弁釵	261	26-07,23	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
モトサマカシクノフミツキ もと様可しく文月	032	03-12,62	お園六三 オソノロクサ【世話物】
モトフネ 元船[戯曲通称]	244	25-02,25	博多小女郎浪枕 ハカタコジョロウナミマクラ
モトミシハナオトギヘイケ 雪御伽平家	155	16-03,21	玉藻前 タマモノマエ【舞踊】
モトミシハナオトギヘイケ 雪御伽平家	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
モトメツカミガワリニツタ 求女塚身替新田	257	26-03,23	義貞 ヨシサダ【時代物】
モドリカゴイロニアイカタ 戻駕色相肩	145	14-08,28	太閤記 タイコウキ【時代物】
モドリカゴイロニアイカタ 戻駕色相肩	244	25-02,25	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
モドリカゴクルワタイゼン 戻駕廓大全	245	25-03,13	戻り駕 モドリカゴ【舞踊劇】
モドリバシ 戻橋[通称]	245	25-03,13	戻橋恋の角文字 モドリバシコイノツノモジ
モドリバシコイノツノモジ 戻橋恋の角文字	245	25-03,13	戻り橋 モドリバシ【舞踊劇】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	009	02-01,62	市原野 イチハラノ【舞踊劇】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	045	05-01,46	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	111	11-04,17	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	134	13-07,18	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	156	16-04,19	団十郎狂乱 ダンジュウロウキョウラン【舞踊劇】
モドリバシセナニゴヒイキ 戻橋背御撰	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】
モドリバシツナガカオミセ 戻橋綱顔鏡	133	13-06,43	相馬良門 ソウマヨシカド【時代物】
モドリバシツナガカオミセ 戻橋綱顔鏡	265	26-11,24	羅生門 ラショウモン【時代物】
モミグルマユキノタカドノ 観車雪高樓	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
モミジガサイトノニシキギ 紅葉傘絲錦色木	015	02-07,59	善知鳥 ウトウ【時代物】

モミジガリ 紅葉狩	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
モミジガリツルギノホンジ 楯狩剣本地	245	25-03,16	紅葉狩 モミジガリ【時代物】
モミジドキヘイケノヨザカリ 紅葉時平家世盛	103	10-08,35	重盛 シゲモリ【時代物】
モミジニシカフリソデソガ 紅葉鹿振袖曾我	197	21-02,51	鼠小僧 ネズミコソウ【世話物】
モミジノアヤツツレノニシキ 紅葉成綾襪禮錦	104	10-09,20	信田小太郎 シダコタロウ【時代物】
モミジノソナゴリノニシキエ 紅葉袖名残錦絵	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
モミジノニシキカメヤマガヨイ 楓錦亀山通	054	05-11,39	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
モモチドリオオインガヨイ 百千鳥大磯流通	109	11-02,29	蛇柳 ジャヤナギ【時代物】
モモチドリオオインガヨイ 百千鳥大磯流通	139	14-01,19	曾我 ソガ【時代物】
モモチドリオキツシラナミ 百千鳥沖津白浪	061	06-07,43	鬼神のお松 キジノオマツ【世話物】
モモチドリクルワソガ 百千鳥艶郷曾我	093	09-08,32	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
モモチドリクルワソガ 百千鳥艶郷曾我	109	11-02,30	執着獅子 シュウジャクジシ【舞踊劇】
モモチドリクルワソガ 百千鳥艶郷曾我	157	16-05,20	血達磨 チダルマ【お家物】
モモチドリナルトノシラナミ 百千鳥鳴戸白浪	203	21-08,37	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】
モモチドリナルトノシラナミ 百千鳥鳴戸白浪	252	25-10,19	夕霧 ユウギリ【世話物】
モモチドリニギワイソガ 百衛賑曾我	224	23-06,25	文里一重 ブンリヒトエ【世話物】
モモチドリネノヒノハツコイ 百千鳥子日初恋	140	14-02,26	曾我 ソガ【時代物】
モモチドリムスメドウジョウジ 百千鳥娘道成寺	171	18-09,47	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
モモノハイズノスガタミ 桃葉伊豆鏡	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
モモヤマモノガタリ 桃山譚	103	10-08,35	地震加藤 ジシンカトウ【時代物】
モモヨカヨウコイジノフカクサ 百夜通恋路深草	038	04-06,61	小野小町 オノノコマチ【時代物】
モモヨギクイロノヨノナカ 百夜菊色の世中	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
モモヨギクイロノヨノナカ 百夜菊色の世中	209	22-03,36	檜垣 ヒガキ【舞踊劇】
モモヨグルマ 百夜車	038	04-06,60	小野小町 オノノコマチ【時代物】
モモヨグルマ 百夜車	245	25-03,17	百夜車 モモヨグルマ【舞踊劇】
モモヨコマチ 百夜小町	037	04-05,69	小野小町 オノノコマチ【時代物】
モモヨコマチ 百夜小町	061	06-07,45	喜撰 キセン【舞踊劇】
モコルオモイホタルノカネゴト 萌思螢兼言	259	26-05,27	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
モリツナセンジン 盛綱先陣	246	25-04,27	盛綱 モリツナ【時代物】
モリヒサ 盛久	246	25-04,28	盛久 モリヒサ【時代物】
モロコシオリニホンノテキキ 唐土織日本手利	174	19-02,40	唐人殺し トウジンゴロシ【お家物】
モロタツナオウシュウグロ 諸鞆奥州黒	039	04-07,55	お花半七 オハナハンシチ【世話物】
モンガクカンジンチョウ 文覚勸進帳[通称]	247	25-05,18	那智滝祈誓文覚 ナチノタキチカイノモンガク
モンジュノチエギミンノイサオシ 文殊智恵義民功	247	25-05,19	文殊九助 モンジユクスケ【世話物】
モンツクシゴニンオトコ 紋尽五人男	056	06-02,44	鴈金五人男 カリガネゴニンオトコ【世話物】
モンツクシゴニンオトコ 紋尽五人男	076	07-11,34	高坂甚内 コウサカジンナイ【お家世話物】
モンドザクラエニシノシライト 主水桜実録白糸	122	12-05,14	鈴木主水 スズキモンド【世話物】
ヤエガスミシズハタオビ 八重霞賤機帯	104	10-09,17	賤機帯 シズハタオビ【舞踊劇】
ヤエガスミソガノクミイト 八重霞曾我組絲	006	01-06,57	天岩戸 アマノイワト【舞踊劇】

ヤエガスマソガノクミイト 八重霞曾我組縁	032	03-12,63	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ヤエガスマソガノクミイト 八重霞曾我組縁	141	14-03,33	曾我の石段 ソガノイシダン【時代物】
ヤエガスマナニワノハマオギ 八重霞浪花浜萩	032	03-12,61	お園六三 オソノロクサ【世話物】
ヤエガスマハナニカケアイ 八重霞桜花掛合	009	02-01,63	一本足 イッボンアシ【舞踊】
ヤエガスマハナニカケアイ 八重霞桜花掛合	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ヤエガスマハナニカケアイ 八重霞桜花掛合	053	05-10,40	雷 カミナリ【舞踊】
ヤエガスマハナニカケアイ 八重霞桜花掛合	176	19-04,45	融大臣 トオルダイジン【時代物】
ヤエガスマヨシワラモヨウ 八重霞吉原模様	120	12-03,15	助六 <sup>1</sup> スケロク【時代物・世話物】
ヤエギリクルワバナシ 八重桐廓話[通称]	087	09-02,41	姫山姥 コモチャマンバ
ヤエココノエハナノスガタエ 八重九重花姿絵	087	09-02,42	五郎 ゴロウ【舞踊】
ヤエココノエハナノスガタエ 八重九重花姿絵	123	12-06,36	西王母 <sup>2</sup> セイオウボ【舞踊】
ヤエココノエハナノスガタエ 八重九重花姿絵	180	19-08,39	鳥羽絵 トバエ【舞踊】
ヤエヒトエコトノハソガ 重重人重歌曾我	139	14-01,20	曾我 ソガ【時代物】
ヤエムスビジライヤモノガタリ 柵自来也談	113	11-07,23	自来也 ジライヤ【お家物】
ヤエムスビハナノギョウレツ 館結花行列	046	05-02,47	鏡山 カガミヤマ【時代物】
ヤオヤ 八百屋[戯曲通称]	247	25-05,20	心中宵庚申 シンジュウヨイゴウシン
ヤオヤ 八百屋[戯曲通称]	247	25-05,20	増補八百屋献立 ソウホヤオヤノコンダテ
ヤオヤオシチウタサイモン 八百屋お七歌祭文	030	03-10,71	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ヤオヤオシチコイノヒザクラ 八百屋お七恋緋桜	030	03-10,71	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ヤオヤオシチモノガタリ 八百屋お七物語	031	03-11,67	お七吉三 オシチキチサ【世話物】
ヤクモショウジョウ 八雲狸々	142	14-04,33	素盞雄尊 スサノオノミコト【王代物】
ヤクモタツツツノツマグシ 八雲立湯津妻櫛	142	14-04,33	素盞雄尊 スサノオノミコト【王代物】
ヤグラダイコオトモヨシワラ 櫓太鼓鳴音吉原	002	01-02,41	明石志賀之助 アカシガノスケ【 】
ヤグラダイコオトモヨシワラ 櫓太鼓鳴音吉原	014	02-06,59	薄雲の猫 ウスグモノネコ【世話物】
ヤグラダイコオトモヨシワラ 櫓太鼓鳴音吉原	198	21-03,37	鼠の祠 ネズミノホコラ【時代物】
ヤグラダイコオトモヨシワラ 櫓太鼓鳴音吉原	254	25-12,25	夢の市郎兵衛 ユメノイチロベエ【世話物】
ヤグラダイコシュッセノトリクミ 櫓太鼓出世取組	154	16-02,26	谷風 タニカゼ【世話物】
ヤグラダイコナリタノアダウチ 櫓太鼓成田仇討	052	05-09,42	桂川力蔵 カツラガワリキソウ【世話物】
ヤサスガタオウミハツケイ 侠客形近江八景	075	07-10,41	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ヤサフウリュウカゲキヨガイデン 優風流景清外伝	147	14-10,29	大仏供養 ダイブツクヨウ【時代物】
ヤサヘイケカブキノゲンバイ 優平家戯場軍配	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
ヤシマオチカンジョノナリワイ 八島落官女の業	058	06-04,46	官女 カンジョ【舞踊劇】
ヤシヤマル 夜叉丸	002	01-02,44	秋道 アキミチ【 】
ヤスナ 保名	248	25-06,29	保名 ヤスナ【舞踊】
ヤッコアサイナオオイソガヨイ 奴朝比奈大磯通	137	13-11,40	曾我 ソガ【時代物】
ヤッコカゲキヨ 奴景清[通称]	151	15-05,23	伊勢名所業土産 イセメイショウザタイエツト
ヤッコカツヤマホマレノスケダチ 奴勝山誉助太刀	052	05-09,42	勝山 カツヤマ【世話物】
ヤッコダコサトノハルカゼ 奴廓廓春風	248	25-06,30	奴廓 ヤッコダコ【舞踊】
ヤッコヤッコエドノハナヤリ 奴江戸花槍	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】

ヤッコヤッコエドノハナヤリ 奴江戸花槍	042	04-10,69	女五右衛門 オンナゴエモン【時代物】
ヤッコヤッコエドノハナヤリ 奴江戸花槍	097	10-01,18	猿舞 サルマイ【舞踊劇】
ヤッコヤッコエドノハナヤリ 奴江戸花槍	216	22-10,28	藤の精 フジノセイ【舞踊劇】
ヤツマトイキオイトソガ 八の勢首我	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
ヤツムネタイヘイキ 八棟太平記	148	14-12,28	高時 タカトキ【時代物】
ヤトントロツク ヤトントロツク[通称]	146	14-09,28	舞奏いろの種時 モウテオリソエイロノタネマキ
ヤドナシダンシチ 宿無団七	187	20-04,47	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ヤドナシダンシチシグレノカラカサ 宿無団七時雨傘[1768/並木正三]	249	25-07,22	宿なし団七 ヤドナシダンシチ【世話物】
ヤドナシダンシチシグレノカラカサ 宿無団七時雨傘[1805 人形浄瑠璃]	249	25-07,23	宿なし団七 ヤドナシダンシチ【世話物】
ヤドナシダンシチチネンキ 宿無団七七年忌	187	20-04,47	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ヤドヤ 宿屋[戯曲通称]	249	25-07,23	けいせい筑紫歌 ケイセイツクシノツマゴト
ヤドヤ 宿屋[戯曲通称]	249	25-07,23	生写朝顔話 ショウウツシアサガオバナシ
ヤナギサクラクルワバナシ 柳桜青楼噺	035	04-03,71	男しゃべり オトコしゃべり【舞踊劇】
ヤナギシマウワサノニシキエ 柳島噂錦絵	183	19-12,38	鳥目の一角 トリメノイッカク【世話物】
ヤナギニカゼフキヤノイトスジ 柳風吹矢の糸条	215	22-09,28	吹矢 フキヤ【舞踊劇】
ヤナギニヒナシヨチヨウノサエズリ 柳雑諸鳥囀	014	02-06,59	後面 ウシロメン【舞踊劇】
ヤナギニヒナシヨチヨウノサエズリ 柳雑諸鳥囀	092	09-07,41	鷺娘 サギムスメ【舞踊劇】
ヤナギニヒナシヨチヨウノサエズリ 柳雑諸鳥囀	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ヤナギノイトヒクヤゴヒイキ 柳絲引話撰	006	01-06,58	操三番 アヤツリサンバ【舞踊劇】
ヤナギノイトユウシヨノカラクリ 柳絲遊所操	061	06-07,46	喜撰 キセン【舞踊劇】
ヤナギノイトユウシヨノカラクリ 柳絲遊所操	267	27-01,24	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ヤノネ 矢の根	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
ヤノネゴロウ 鎌五郎[1729/村瀬源三郎]	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
ヤノネゴロウ 矢の根五郎[1830/瀬川如臈]	140	14-02,29	曾我 ソガ【時代物】
ヤハギノヒヨシツキモユミハリ 矢矧日吉月弓張	203	21-08,38	蜂須賀小六 ハチスカコロク【時代物】
ヤハギノヒヨシツキモユミハリ 矢矧日吉月弓張	214	22-08,28	日吉丸 ヒヨシマル【時代物】
ヤブツバキタレトコロビネ 藪椿誰転寝	126	12-09,32	瀬川五郷 セガワゴキョウ【世話物】
ヤボシラスヤハタヤマザキ 野暮しらず八幡山崎	217	22-11,29	双蝶々 フタツチヨウチヨウ【世話物】
ヤマウバシキノハナフサ 山姥四季英	039	04-07,56	大原女 オハラメ【舞踊】
ヤマガエリマケヌキキョウ 山帰強桔梗	026	03-06,62	大山詣 オオヤママイリ【舞踊劇】
ヤマザキヨジベエハンチュウブシ 山崎与次兵衛半中節	198	21-03,38	寿門松 ネビキノカドマツ【世話物】
ヤマシロノクニチクシヨウツカ 山城の国畜生塚	168	18-04,39	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ヤマダナガマサホマレノゲンセン 山田長政誉軍扇	251	25-09,19	山田長政 ヤマダナガマサ【世話物】
ヤマトウタゴゴクノシキシ 大和歌五穀色紙	037	04-05,68	小野小町 オノノコマチ【時代物】
ヤマトウタタケトリモノガタリ 大和歌竹取物語	150	15-03,27	竹取物語 タケトリモノガタリ【時代物】
ヤマトウタツキミノマツ 倭歌月見松	235	24-05,20	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
ヤマトガナアリワラケイズ 倭仮名在原系図	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ヤマトガナアリワラケイズ 倭仮名在原系図	235	24-05,20	御位諍い ミクライアラソイ【時代物】
ヤマトガナアリワラケイズ 倭仮名在原系図	265	26-11,25	蘭平物狂 ランベイモノグルイ【時代物】



ヤマトガナイロノナナモジ 倭仮名色七文字	074	07-09,40	源太 ゲンダ【舞踊】
ヤマトガナイロノナナモジ 倭仮名色七文字	097	10-01,18	猿廻し サルマワシ【舞踊】
ヤマトガナタムケノイツモジ 大和い手向五字	014	02-06,59	牛若 ウシワカ【舞踊】
ヤマトガナタムケノイツモジ 大和い手向五字	086	08-11,29	子守 コモリ【舞踊劇】
ヤマトコトバスイコデン 和訓水滸伝	072	07-07,38	毛剃 ケソリ【世話物】
ヤマトダイオウ 日本大王	117	11-11,20	神武天皇 ジンムテンノウ【王代物】
ヤマトタケルノミコトアズマカガミ 日本武尊吾妻鑑	251	25-09,19	日本武尊 ヤマトタケルノミコト【時代物】
ヤマトダニタキノオトワユ 大和谷滝音羽湯	068	07-03,42	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
ヤマトニシキアサヒノハタアゲ 大和錦朝日旗掲	178	19-06,42	十津川事件 トツガワジケン【お家物】
ヤマトニシキヨシノダイリ 大和錦吉野内裡	024	03-04,74	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
ヤマトノクニイデノシタヒモ 大和国井手下紐	169	18-06,43	東金茂右衛門 トウガネモエモン【世話物】
ヤマトノクニクメノセンニン 大和国久米仙人	067	07-02,41	糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
ヤマトノクニヒニンノカタキウチ 大和国非人敵討	212	22-06,37	非人の仇討 ヒニンノアダウチ【お家物】
ヤマトノクニメオトザカ 大和の国女夫坂	093	09-08,32	薩摩歌 サツマウタ【世話物】
ヤマトバン 大和橋	016	02-08,59	馬切 ウマキリ【お家物】
ヤマトメイショセンボンザクラ 大和名所千本桜	045	05-01,47	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
ヤマトモジイロハノカオミセ 倭いろは鏡	044	04-12,41	女長兵衛 オンナチョウベエ【世話物】
ヤマトモジコイノコトノハ 大和文字恋の歌	015	02-07,57	薄雪 ウスユキ【時代物】
ヤマノダン 山の段[戯曲通称]	252	25-10,16	妹背山婦女庭訓 イモセヤマオンナテイキン
ヤマノダン 山の段[戯曲通称]	252	25-10,16	由良湊千軒長者 ユラノミナトセンゲンチョウウジャ
ヤマビラキメグロノシンフジ 山開目黒新富士	088	09-03,39	近藤重蔵 コンドウジュウソウ【世話物】
ヤママタヤマハナノヤマガツ 大和大和花山樵	045	05-01,47	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
ヤママタヤマハナノヤマガツ 大和大和花山樵	251	25-09,18	山姥 ヤマンバ【舞踊劇】
ヤママタヤマヲツメバナシ 魏嵬宿直嘶	068	07-03,44	蜘蛛の糸 クモノイト【舞踊劇】
ヤマンバンキノハナバサ 山姥四季英	220	23-02,30	冬の山姥 フユノヤマンバ【舞踊劇】
ヤミノウメヒャクモノガタリ 闇梅百物語	009	02-01,63	一本足 イッボンアシ【舞踊】
ヤミノウメヒャクモノガタリ 闇梅百物語	029	03-09,72	小坂部 オサカベ【時代物】
ヤミノウメヒャクモノガタリ 闇梅百物語	213	22-07,43	百物語 ヒャクモノガタリ【舞踊劇】
ヤミノウメユメノタマクラ 闇梅夢手枕	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ヤヨイノハナアサクサマツリ 弥生の花浅草祭	099	10-04,16	三社祭 サンジャマツリ【舞踊劇】
ヤヨイノハナアサクサマツリ 弥生の花浅草祭	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>2</sup> タケノウチノスクネ【舞踊劇】
ヤヨイノハナイロハノホンゼツ 寤花いろは本説	160	17-05,32	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ヤヨイノハナオエドノイリフネ 桜花大江戸入船	083	08-08,47	骨寄せの岩藤 コツヨセノイワフジ【お家物】
ヤヨイノハナオエドノイリフネ 桜花大江戸入船	098	10-03,26	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ヤリノゴンザカサネカタビラ 鐘の権三重帷子	092	09-07,45	笹野権三 ササノゴンザ【世話物】
ヤレゴヨミ 破れ暦	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ユイガノココンヤケイズ 纈纈紺屋譜	071	07-06,44	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ユイガノココンヤケイズ 纈纈紺屋譜	238	24-08,19	宮城野信夫 ミヤギノシノブ【お家物】
ユイガノコダテゾメソガ 結鹿伊達染曾我	139	14-01,20	曾我 ソガ【時代物】

ユイナライカノコドウジョウジ 結俣鹿子道成寺	172	18-10,42	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ユイノショウセツ 由井正雪	071	07-06,44	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ユウガオダナ 夕顔棚[戯曲通称]	252	25-10,16	絵本太功記 エホンタイコウキ
ユウガスミアサマガタケ 夕霞浅間嶽	004	01-04,54	浅間 アサマ【舞踊劇】
ユウキョクサンニンコカジ 優曲三人小鍛冶	078	08-03,38	小鍛冶 コカジ【時代物・舞踊劇】
ユウギリアフノナルト 夕霧阿波鳴渡	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリイザエモン 夕ぎり伊左衛門	252	25-10,19	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリサンゼソウ 夕霧三世相	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリシチネンキ 夕霧七年忌	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリツイゼンモノガタリ 夕霧追善物語	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリナゴリノショウガツ 夕霧名残の正月	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウギリユカリノツキミ 夕霧由縁の月見	252	25-10,18	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウクンアサツマブネ 傀儡浅妻船	075	07-10,41	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ユウクンアサツマブネ 傀儡浅妻船	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ユウクンアサツマブネ 傀儡浅妻船	116	11-10,19	新大橋仇討 シンオオハシアダウチ【お家世話物】
ユウクンエモンカガミ 遊君衣紋鑑	180	19-08,40	吃又 ドモマタ【お家物】
ユウクンサンゼソウ 遊君三世相	252	25-10,17	夕霧 ユウギリ【世話物】
ユウクンヨロイソガ 遊君鎧曾我	017	02-09,50	梅の由兵衛 ウメノヨシベエ【世話物】
ユウシモノガタリ ゆふし物語	103	10-08,33	重忠 シゲタダ【時代物】
ユウショクカマクラヤマ 有職鎌倉山	052	05-09,45	鎌倉山 カマクラヤマ【お家物】
ユウショクカマクラヤマ 有職鎌倉山	162	17-08,49	釣天井 ツリテンジョウ【お家物】
ユウジョゲンバイゼンセイクラベ 遊女源平全盛競	012	02-04,49	入鹿退治 イルカタイジ【時代物】
ユウジョマコトグサ 遊女誠草	038	04-06,63	お初徳兵衛 オハツトクベエ【世話物】
ユウジョロン 遊女論	223	23-05,30	不破名古屋 フワナゴヤ【 】
ユウズウダイネンブツ 融通大念仏[古浄瑠璃]	253	25-11,21	融通念仏 ユウズウネンブツ【時代物】
ユウズウダイネンブツ 融通大念仏[1811/佐川藤太]	253	25-11,21	融通念仏 ユウズウネンブツ【時代物】
ユウダチ 夕立[通称]	115	11-09,16	貸浴衣汗雷 カシユカタアセニナルカミ
ユウダチクモバラフノヨコグシ 夕立雲斑甲横櫛	064	06-10,35	切られお富 キラレオトミ【世話物】
ユウダチツカハルノイナズマ 夕立碑春電	043	04-11,49	女書生 オンナショセイ【世話物】
ユカシタ 床下[戯曲通称]	253	25-11,22	伊達競阿国戯場 イダケラベオクニカブキ
ユカシタ 床下[戯曲通称]	253	25-11,22	伽羅先代萩 メイボクセンダイハギ
ユカリノイロノベノヒトモト 紫野辺一本	241	24-11,52	娘太閤記 ムスメタイコウキ【世話物】
ユカリノヨヨミウタ 由縁の暦歌	030	03-10,70	お三茂兵衛 オサンモヘエ【世話物】
ユカンバキチサ 湯灌場吉三[戯曲通称]	253	25-11,22	吉様参由縁音信 キチサママイルユカリノオトズレ
ユキオンナ 雪女	253	25-11,22	雪女 ユキオンナ【時代物】
ユキオンナ 雪女[戯曲通称]	253	25-11,22	雪女五枚羽子板 ユキオンナゴマイハゴイタ
ユキオンナケイズハチノキ 雪女譜鉢木	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ユキオンナゴマイハゴイタ 雪女五枚羽子板	002	01-02,42	赤松満祐 アカマツマンユウ【 】
ユキオンナゴマイハゴイタ 雪女五枚羽子板	174	19-02,40	藤内楽車 トウナイダンジリ【時代物】

ユキケイセイ 雪傾城	071	07-06,46	傾城 ケイセイ【舞踊】
ユキゲノマツミサオノキヌガサ 雪解松操織	176	19-04,44	常盤御前 トキワゴゼン【時代物】
ユキコカシ 雪こかし[戯曲通称]	253	25-11,22	仮名手本忠臣蔵 カナデホンチュウシングラ
ユキゼメ 雪責[戯曲通称]	253	25-11,22	明烏花濡衣 アケガラスハナノヌレギヌ
ユキゼメ 雪責[戯曲通称]	253	25-11,22	吉様参由縁音信 キチサママイルユカリノオトズレ
ユキゼメ 雪責[戯曲通称]	253	25-11,22	鷗山姫捨松 ヒバリヤマヒメステマツ
ユキトスミクルワノタテヒキ 白柄黒手廓達引	069	07-04,42	黒手組 クロテグミ【世話物】
ユキトツキハナノクロヌシ 雪月花黒主	045	05-01,46	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
ユキトツキハナノクロヌシ 雪月花黒主	207	21-12,43	春駒 ハルコマ【舞踊劇】
ユキトミルヤマサキワケゲンジ 会稽山咲分源氏	044	04-12,45	恠鼠伝 カイソデン【時代物】
ユキノオバナヨルノトコトワ 雪尾花夜常	010	02-02,56	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
ユキノナドコロヨメオドシダニ 雪国嫁威谷	261	26-07,25	嫁威谷 ヨメオドシダニ【時代世話物】
ユキノミサオテイチュウビダン 雪中松貞忠美談	233	24-03,23	松前騒動 マツマエソウドウ【お家物】
ユキノコウベイリヤノアゼミチ 雪暮夜入谷畦道	076	07-11,35	河内山 コウチャヤマ【世話物】
ユキヒラオバナノキツネ 行平尾花狐	232	24-02,20	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ユキヒラソナレノマツ 行平磯馴松[1738/文耕堂]	232	24-02,19	松風村雨 マツカゼムラサメ【時代物】
ユキヒラソナレノマツ 行平磯馴松[1808 江戸]	206	21-11,38	浜松風 ハママツカゼ【舞踊劇】
ユキヒラソナレノマツ 行平磯馴松[1812 江戸]	206	21-11,38	浜松風 ハママツカゼ【舞踊劇】
ユキミツキエイガノハチノキ 雪視月栄華鉢木	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ユキモヨイネヤノスゴモリ 雪催閨巢籠	024	03-04,74	大塔宮 オオトウノミヤ【時代物】
ユキモヨシノキゴトノカオミセ 雪芳野来人顔鏡	010	02-02,57	犬神 イヌガミ【舞踊劇】
ユキモヨシノキゴトノカオミセ 雪芳野来人顔鏡	190	20-07,42	名和長年 ナワナガトシ【時代物】
ユキモヨシノキゴトノカオミセ 雪芳野来人顔鏡	220	23-02,27	不動 フドウ【時代物】
ユズリハコングンソガ 楪根元首我	048	05-04,44	影勝団子 カゲカツダンゴ【舞踊劇】
ユズリハコングンソガ 楪根元首我	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
ユミハジメハルノシゲドウ 弓始春重籐	094	09-09,32	実盛 サネモリ【時代物】
ユミハリツキゲンケノカブラヤ 弓張月源家鎗矢	108	11-01,21	島の為朝 シマノタメトモ【時代物】
ユミハリツキハルノユウバエ 弓張月春廻夕栄	111	11-04,18	崇徳院 ストクイン【時代物】
ユメアワセフジノウドンゲ 夢合富士優曇華	005	01-05,44	安宅丸 <sup>1</sup> アタケマル【お家物】
ユメジノコイココロノヨビイト 夢路恋心の呼絲	019	02-11,48	蟒お由 ウワバミオヨシ【世話物】
ユメジノコマ 夢路駒	256	26-02,23	与作 ヨサク【舞踊劇】
ユメニオオツエメンノミチツレ 夢大津絵面道連	180	19-08,41	吃又 トモマタ【お家物】
ユメミグサアメトナルクモ 桜花雨契雲	103	10-08,32	敷島物語 シキシマモノガタリ【世話物】
ユメミグサイロニナルカミ 夢艶色鳴神	204	21-09,40	八犬伝 ハッケンデン【時代世話物】
ユメミグサウキナノシノブヨ 桜花艶忍夜	167	18-03,46	天竺徳兵衛 テンジクトクベエ【時代物】
ユメミグサハカゲノヒトコエ 夢見草葉蔭一声	066	07-01,35	屑屋善吉 クズヤゼンキチ【世話物】
ユメムスブアサツマブネ 夢結朝妻船	004	01-04,53	浅妻 アサツマ【舞踊劇】
ユメムスブコイノヤマヤマ 夢結恋山崎大和	110	11-03,19	十二時忠臣蔵 ジュウニトキチュウシングラ【お家物】
ユメムスブコイノヤマヤマ 夢結恋山崎大和	255	26-01,19	楊貴妃 ヨウキヒ【時代物】

ユメムスブコガネノミチノク 夢結黄金の陸奥	013	02-05,54	上野の戦争 ウエノノセンソウ【世話物】
ユメムスブチョウニトリオイ 夢結蝶鳥追	042	04-10,68	女熊坂 オンナクマサカ【時代物】
ユメムスブチョウニトリオイ 夢結蝶鳥追	070	07-05,38	黒船忠右衛門 クロフネチュウエモン【世話物】
ユメムスブチョウニトリオイ 夢結蝶鳥追	128	12-11,26	雪駄直し長五郎 セツタナオシチョウゴロウ【世話物】
ユメムスブチョウニトリオイ 夢結蝶鳥追	219	23-01,30	双蝶々 フタツチョウウチョウ【世話物】
ユメムスブツユニヌレゴト 夢結露濡事	049	05-05,47	累 カサネ【お家物】
ユメムスブツユノコロビネ 夢結露転寝	060	06-06,43	義士銘々伝 ギシメイメイデン【お家物】
ユメモノガタリカタミノイシブミ 夢物語笹碑	148	14-12,29	高野長英 タカノチョウエイ【世話物】
ユメモノガタリロセイノスガタエ 夢物語盧生容画	047	05-03,47	瓦罐寺 ガカンジ【時代物】
ユメモノガタリロセイノスガタエ 夢物語盧生容画	148	14-12,28	高野長英 タカノチョウエイ【世話物】
ユメモノガタリロセイノスガタエ 夢物語盧生容画	267	27-01,27	渡辺華山 ワタナベカザン【世話物】
ユヤ 熊野	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
ユヤノニカイ 湯屋の二階	208	22-02,38	半七捕物帳 ハンシチトリモノチョウ【世話物】
ユヤモノガタリ 遊屋物語	254	25-12,26	熊野 ユヤ【時代物・舞踊劇】
ユラセンゲンツキノミナト 由良千軒玉蟾湊	100	10-05,19	三莊太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
ユラノミナトセンゲンチョウジャ 由良湊千軒長者	100	10-05,18	三莊太夫・山椒太夫 サンショウダユウ【時代物】
ユリワカコウライグンキ 百合稚高麗軍記	254	25-12,27	百合若 ユリワカ【時代物】
ユリワカダイジン ゆり若大臣	254	25-12,27	百合若 ユリワカ【時代物】
ユリワカダイジンイワオノマクラ 百合若大臣巖枕	255	26-01,17	百合若 ユリワカ【時代物】
ユリワカダイジンノモリノカガミ 百合若大臣野守鏡	254	25-12,27	百合若 ユリワカ【時代物】
ユリワカマロ 百合若麿	254	25-12,27	百合若 ユリワカ【時代物】
ユリワカモロコシブネ 百合若唐船	255	26-01,17	百合若 ユリワカ【時代物】
ユルシノイロアヤメニンギョウ 艶菖蒲人形	210	22-04,39	左甚五郎 ヒダリジンゴロウ【時代物】
ヨイゴウシンゴダンノコンダテ 宵庚申後段献立	075	07-10,42	こいな半兵衛 コイナハンベエ【世話物】
ヨイナカツナヒキキノハナダシ 能中綱撰の花轆	150	15-03,29	竹内宿禰 <sup>2</sup> タケノウチノスクネ【舞踊劇】
ヨイナカツナヒキキノハナダシ 能中綱撰の花轆	196	21-01,33	二人奴 ニニンヤッコ【舞踊】
ヨイナカトミキヨメノミカグラ 能中富清御神楽	006	01-06,57	天岩戸 アマノイワト【舞踊劇】
ヨイナカトミキヨメノミカグラ 能中富清御神楽	099	10-04,16	三社 サンジャ【舞踊劇】
ヨウチソガカリバナアケボノ 夜討曾我狩場曙	255	26-01,20	夜討曾我 ヨウチソガ【時代物】
ヨウメイテンノウシヨクニンカガミ 用命天皇職人鑑	112	11-06,23	聖徳太子 ショウトクタイシ【王代物】
ヨウロウノタキ 養老滝	006	01-06,53	安倍仲麿 アベノナカマロ【時代物】
ヨゴウシャクセイリキバナシ 夜講釈勢力譚話	126	12-09,31	勢力 セイリキ【世話物】
ヨゴウシャクダテノタテヨミ 夜講釈伊達立読	104	10-09,23	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
ヨコソネノヘイタロウ 横曽根の平太郎	118	12-01,18	親鸞 シンラン【時代物】
ヨコソネノヘイタロウ 横曽根の平太郎	249	25-07,23	柳 ヤナギ【時代物】
ヨサフロウイノチノツキシロ 与三郎命の月魄	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
ヨシカタサイゴ 義賢最期[通称]	094	09-09,31	源平布引滝 ゲンペイヌノビキノタキ
ヨシカタサイゴ 義賢最期[戯曲通称]	256	26-02,23	源平布引滝 ゲンペイヌノビキノタキ
ヨシサダサイゴ 義貞最期	257	26-03,24	義貞 ヨシサダ【時代物】

ヨシダゴテンマネグフリソデ				坂崎出羽守 サカサキデワノカミ【時代物】
吉田御殿招振袖	091	09-06,36		
ヨシダゴテンマネグフリソデ				千姫 センヒメ【時代物】
吉田御殿招振袖	130	13-03,33		
ヨシツネアズマロップウ				義経 ヨシツネ【時代物】
義経東六法	257	26-03,27		
ヨシツネコシゴエジョウ				五斗 ゴトウ【時代物】
義経腰越状	083	08-08,48		
ヨシツネコシゴエジョウ				淀君 ヨドギミ【時代物】
義経腰越状	260	26-06,20		
ヨシツネシタカダチ				大阪陣 オオサカジン【時代物】
義経新高館	023	03-03,64		
ヨシツネシタカダチ				淀君 ヨドギミ【時代物】
義経新高館	260	26-06,20		
ヨシツネシンフクミジョウ				五斗 ゴトウ【時代物】
義経新含状	083	08-08,48		
ヨシツネセンボンザクラ				千本桜 センボンザクラ【時代物】
義経千本桜[1747 人形浄瑠璃]	130	13-03,34		
ヨシツネセンボンザクラ				赤土泥蔵 アカツチドロソウ【 】
義経千本桜[1845/桜田治助]	002	01-02,42		
ヨシツネセンボンザクラ				裏表千本桜 ウラオモテセンボンザクラ【時代物】
義経千本桜[1845/桜田治助]	018	02-10,55		
ヨシツネセンボンザクラ				鮎屋* スシヤ【時代物】
義経千本桜[1845/桜田治助]	121	12-04,22		
ヨシツネツイゼンオンナマイ				曾我 ソガ【時代物】
義経追善女舞	134	13-07,19		
ヨシツネフトコロスズリ				義経 ヨシツネ【時代物】
義経懐中硯	257	26-03,28		
ヨシトキノサイゴ				北条義時 ホウジョウヨシトキ【時代物】
義時の最期	227	23-09,24		
ヨシトモカイケイザン				義朝 ヨシトモ【時代物】
義朝会稽山	258	26-04,20		
ヨシナカクンコウキ				菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
義仲勲功記	060	06-06,40		
ヨシナカクンコウキ				義仲 ヨシナカ【時代物】
義仲勲功記	259	26-05,24		
ヨシノシズカゴバンタダノブ				碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
吉野静暮盤忠信	085	08-10,26		
ヨシノシズカヒトメセンボン				静御前 シズカゴゼン【時代物】
吉野静人目千本	103	10-08,36		
ヨシノシュウイ				正儀 マサノリ【時代物】
吉野拾遺	232	24-02,17		
ヨシノタダノブ				碁盤忠信 ゴバンタダノブ【時代物】
吉野忠信	084	08-09,30		
ヨシノノミヤコオンナクスノキ				名和長年 ナワナガトシ【時代物】
吉野都女楠	190	20-07,41		
ヨシノノミヤコオンナクスノキ				義貞 ヨシサダ【時代物】
吉野都女楠	257	26-03,23		
ヨシノノミヤコオンナクスノキ				女楠 オンナクスノキ【時代物】
吉野都女楠	041	04-09,58		
ヨシノハナクスノキビダン				お染久松 オソメヒサマツ【世話物】
吉野花王楠美談	033	04-01,63		
ヨシノミウケ				吉野太夫 ヨシノダウウ【世話物】
吉野身請	259	26-05,25		
ヨシミツナンバナイケ				善光寺 センコウジ【時代物】
善光難波池	129	12-12,28		
ヨシヤオトコタンゼンスガタ				三浦小次郎 ミウラコジロウ【世話物】
よし也男丹前姿	234	24-04,32		
ヨシワラサイケンス				遠山甚三 トオヤマジンザ【世話物】
吉原細見図	174	19-02,41		
ヨシワラスズメ				義家 ヨシイエ【時代物】
吉原雀	256	26-02,26		
ヨシワラニワカノバンツケ				お高弥市 オタカヤイチ【世話物】
吉原俄番附	033	04-01,63		
ヨシワラニワカノバンツケ				木遣り キヤリ【舞踊劇】
吉原俄番附	062	06-08,37		
ヨシワラニワカノバンツケ				小三金五郎 コサンキンゴロウ【世話物】
吉原俄番附	080	08-05,29		
ヨセテミマスウチワノエアワセ				後面 ウシロメン【舞踊劇】
群三升団扇絵合	014	02-06,59		
ヨセテミマスウチワノエアワセ				糸の仙人 クメノセンニン【時代物】
群三升団扇絵合	068	07-03,42		
ヨセテミマスウチワノエアワセ				元禄踊 ゲンロクオドリ【舞踊劇】
群三升団扇絵合	074	07-09,41		
ヨセテミマスウチワノエアワセ				羽衣 ハゴロモ【時代物・舞踊劇】
群三升団扇絵合	201	21-06,36		
ヨセテミマスハナノニシキエ				傾城 ケイセイ【舞踊】
寄三升花四季画	071	07-06,46		

ヨセテミマスハナノニシキエ 寄三升花四季画	200	21-05,40	蚤取男 ノミトリオトコ【舞踊】
ヨセテユキノチノハチノキ 会稽雪後日鉢木	204	21-09,38	鉢の木 ハチノキ【時代物】
ヨソオイロッカセン 化粧六歌仙	061	06-07,45	喜撰 キセン【舞踊劇】
ヨソオイロッカセン 化粧六歌仙	224	23-06,24	文屋 ブンヤ【舞踊劇】
ヨソオイロッカセン 化粧六歌仙	266	26-12,23	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ヨツギソガ 世継曾我	084	08-09,24	後日の曾我 ゴニチノソガ【時代物】
ヨツゲンジオモイノフカガワ 四紅葉思恋深川	116	11-10,18	白藤源太 シラフジゲンダ【世話物】
ヨツノイトウラミノカゲキヨ 四絃恨景清	214	22-08,28	琵琶の景清 ビワノカゲキヨ【時代物】
ヨツノウミタイラノヨザカリ 四海平清盛	002	01-02,36	青砥調 アオトバナシ【 】
ヨツノウミタイラノヨザカリ 四海平清盛	064	06-10,34	清盛 キヨモリ【時代物】
ヨツノウミタイラノヨザカリ 四海平清盛	213	22-07,42	日招ぎの清盛 ヒマネギノキヨモリ【時代物】
ヨツハナビシヒヨクノヨシワラ 四花菱比翼吉原	052	05-09,42	勝山 カツヤマ【世話物】
ヨツヤヒョウバンムスメカイダン 四谷評判娘怪談	260	26-06,20	四谷怪談 ヨツヤカイダン【世話物】
ヨドギミ 淀君	260	26-06,21	淀君 ヨドギミ【時代物】
ヨドゴイシュッセノオトコヤマ 淀鯉出世雄床山	260	26-06,23	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
ヨドゴイシュッセノタキノボリ 淀鯉出世滝徳	260	26-06,22	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
ヨドヤバシコガネノニワトリ 淀屋橋黄金の鶏	261	26-07,23	淀屋辰五郎 ヨドヤタツゴロウ【世話物】
ヨニウトウアズマダイリ 世善知鳥東内裡	016	02-08,57	善知鳥 ウトウ【時代物】
ヨニウトウソウマノフルゴシヨ 世善知相馬旧殿	016	02-08,57	善知鳥 ウトウ【時代物】
ヨニウトウソウマノフルゴシヨ 世善知相馬旧殿	231	24-01,21	将門 <sup>2</sup> マサカド【舞踊劇】
ヨニオオサカニツイノメオト 世大坂二対女夫	244	25-02,21	面被 メンカブリ【舞踊劇】
ヨニヒビクタイコノイサオシ 世響太鼓功	091	09-06,35	酒井の太鼓 サカイノタイコ【時代物】
ヨニヒビクオトワノタキ 世響音羽滝	124	12-07,29	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ヨニヒビクオトワノタキ 世響音羽滝	172	18-10,41	道成寺 ドウジョウジ【舞踊劇】
ヨノウササスノユキドケ 世噂雪解	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ヨブコドリオグリジッキ 呼小鳥小栗実記	028	03-08,69	小栗判官 オグリハンガン【時代物】
ヨミウリミツドモエ よみ売三巴	038	04-06,64	お初徳兵衛 オハツクベエ【世話物】
ヨメイリイズニッキ 嫁入伊豆日記	138	13-12,25	曾我 ソガ【時代物】
ヨメイリシノダツマ 嫁入信田妻	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
ヨメオドシダニ 嫁おどし谷	261	26-07,25	嫁威谷 ヨメオドシダニ【時代世話物】
ヨメカガミウスユキザクラ 嫩鑑薄雪桜	070	07-05,40	慶安太平記 ケイアンタイヘイキ【お家世話物】
ヨメトリヒダノタクミ 嫩飛驒内匠	210	22-04,36	飛驒内匠 ヒダノタクミ【時代物】
ヨメナツミ 嫁菜摘	219	23-01,28	双蝶々 フタツチヨウチョウ【世話物】
ヨリエクンコウキ 頼家勲功記	261	26-07,26	頼家 ヨリエ【時代物】
ヨリトモ 頼朝	262	26-08,22	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ヨリトモイズニッキ 頼朝伊豆日記	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ヨリトモグンバイカガミ 頼朝軍配鑑	123	12-06,34	相撲 スモウ【舞踊劇】
ヨリトモサンダイキ 頼朝三代記	261	26-07,26	頼家 ヨリエ【時代物】
ヨリトモシチキオチ 頼朝七騎落	104	10-09,21	七騎落 シチキオチ【時代物】

ヨリトモシチキオチ 頼朝七騎落	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ヨリトモハマデ 頼朝浜出	250	25-08,15	矢の根 ヤノネ【舞踊劇】
ヨリトモシマモウデ 頼朝三島詣	262	26-08,19	頼朝 ヨリトモ【時代物】
ヨリマサ よりまさ[1646 古浄瑠璃]	196	21-01,33	鶴退治 ヌエタイジ【時代物】
ヨリマサ よりまさ[1646 古浄瑠璃]	262	26-08,22	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサ よりまさ[1665 古浄瑠璃]	262	26-08,22	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサオウギノシバ 頼政扇子芝	262	26-08,23	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサゴヨウノマツ 頼政五葉松	263	26-09,19	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサツイゼンノシバ 頼政追善芝	262	26-08,23	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサヌエモノガタリ 頼政鶴物語	262	26-08,23	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリマサマンネンゴヨミ 頼政万年曆	263	26-09,19	頼政 ヨリマサ【時代物】
ヨリミツクンコウムカシバナシ 頼光勲功往昔噺	111	11-04,18	酒呑童子 シュテンドウジ【時代物】
ヨリヨシコングウサンカッセン 頼義金剛山合戦	119	12-02,18	菅原親王 スガラシンノウ【時代物】
ヨルノツルオモイノユキドケ 夜鶴思雪解	041	04-09,55	お元新助 オモトシンスケ【世話物】
ヨルノツルオモイノユキドケ 夜鶴思雪解	158	16-10,37	乳貰 チモライ【世話物】
ヨルノツルスガタノアワユキ 夜鶴姿泡雪	224	23-06,25	文里一重 ブンリヒトエ【世話物】
ヨルノツルユキノケゴロモ 夜の鶴雪壺	016	02-08,59	うぶ女 ウブメ【舞踊劇】
ヨロイガエ 鎧替	264	26-10,20	鎧替 ヨロイガエ【時代物】
ヨロイグサカタミノエドビワ 牡丹記念海老朧	232	24-02,17	正儀 マサノリ【時代物】
ヨロイザクラコキョウノニシキ 鎧桜故郷錦	160	17-05,31	忠臣蔵 チュウシングラ【お家物】
ヨロイノホンゾンオンナハチノキ 鎧之本尊女鉢木	002	01-02,39	青砥藤網 アオトフジツナ【 】
ヨロイノホンゾンオンナハチノキ 鎧之本尊女鉢木	044	04-12,43	女鉢木 オンナハチノキ【時代物】
ヨロズヤスケロクニダイノカミコ 万屋助六二代衾	003	01-03,44	揚巻助六 アゲマキスケロク【世話物】
ヨロボウシ 弱法師	264	26-10,20	弱法師 ヨロボウシ【時代物】
ヨワナサケウキナノツマグシ 与話情浮名妻櫛	064	06-10,36	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
ヨワナサケウキナノヨコグシ 与話情浮名横櫛	064	06-10,35	切られ与三 キラレヨサ【世話物】
ヨワナサケウキナノヨコグシ 与話情浮名横櫛	156	16-04,16	為朝 タメトモ【時代物】
ライカ 雷火	158	16-10,36	血達磨 チダルマ【お家物】
ライゴウアジャリ 頼豪阿闍梨	264	26-10,21	頼豪阿闍梨 ライゴウアジャリ【時代物】
ライコウアトメロン 頼光跡目論	263	26-09,21	頼光 ヨリミツ【時代物】
ライコウモキリ 頼光蜘蛛切	263	26-09,20	頼光 ヨリミツ【時代物】
ライコウシンアトメロン 頼光新跡目論	126	12-09,33	関ヶ原 セキガハラ【時代物】
ライザン 来山	084	08-09,23	小西来山 コニシライザン【世話物】
ランギクマクラジドウ 乱菊枕慈童[1756/浅田一鳥]	060	06-06,40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
ランギクマクラジドウ 乱菊枕慈童[1756/浅田一鳥]	259	26-05,24	義仲 ヨシナカ【時代物】
ランギクマクラジドウ 乱菊枕慈童[1758 江戸]	060	06-06,40	菊慈童 キクジドウ【舞踊劇】
ランジャタイニッタケイズ 蘭奢待新田系図	024	03-04,73	大塔宮 オトウノミヤ【時代物】
ランジャタイニッタケイズ 蘭奢待新田系図	026	03-06,61	大森彦七 オオモリヒコシチ【時代物】
ランジャタイニッタケイズ 蘭奢待新田系図	080	08-05,31	小島高德 コジマタカノリ【時代物】

ランジャタイニッタケイズ 蘭奢待新田系図	243	25-01,22	村上義光 ムラカミヨシテル【時代物】
ランジャタイニッタケイズ 蘭奢待新田系図	257	26-03,24	義貞 ヨシサダ【時代物】
リッシュンヒメコマツ 立春姫小松	112	11-06,21	俊寛 シュンカン【時代物】
リュウジョサンジュウニソウ 竜女三十二相	063	06-09,45	清盛 キヨモリ【時代物】
リュウトミマスタカネノクモキリ 竜三升高根雲霧	013	02-05,52	因果物師 インガモノシ【世話物】
リュウトミマスタカネノクモキリ 竜三升高根雲霧	068	07-03,43	雲霧仁左衛門 クモキリニザエモン【世話物】
リョウコクコウダン 両国巷談	035	04-03,70	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
リンカン 林爛[通称]	101	10-06,20	若木花容彩四季 ワカキノハナスガタノサイシキ
レイゲンカメヤマボコ 霊験亀山鉾	035	04-03,69	お妻八郎兵衛 オツマハチロベエ【世話物】
レイゲンカメヤマボコ 霊験亀山鉾	054	05-11,40	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
レイゲンソガノカミガキ 霊験曾我籬	054	05-11,39	亀山仇討 カメヤマアダウチ【お家物】
レイゲンソガノカミガキ 霊験曾我籬	088	09-03,42	権八小紫 ゴンバチコムラサキ【世話物】
レイゲンソガノカミガキ 霊験曾我籬	208	22-02,40	幡随院長兵衛 バンズインチョウベエ【世話物】
レイゲンソガノカミガキ 霊験曾我籬	233	24-03,25	俎板の長兵衛 マナイタノチョウベエ【世話物】
レイゲンソガノカミガキ 霊験曾我籬	261	26-07,25	嫁切 ヨメキリ【世話物】
レイゲンミヤトガワ 霊験宮戸川	004	01-04,52	浅草霊験記 アサクサレイゲンキ【時代物】
レツジョハツコ 烈女初子	105	10-10,27	実録先代萩 ジツロクセンダイハギ【お家物】
レンガチャヤホマレノブンダイ 連歌茶屋誉文台	166	18-02,44	天下茶屋 テンガチャヤ【お家物】
レンジシ 連獅子[1861 江戸]	001	01-01,36	相生獅子 アイオイジシ【 】
レンジシ 連獅子[1861 江戸]	266	26-12,22	連獅子 レンジシ【舞踊劇】
レンジシ 連獅子[1872 東京]	001	01-01,37	相生獅子 アイオイジシ【 】
レンジシ 連獅子[1872 東京]	266	26-12,22	連獅子 レンジシ【舞踊劇】
レンジシ 連獅子[1901 東京]	001	01-01,37	相生獅子 アイオイジシ【 】
レンジシ 連獅子[1901 東京]	266	26-12,22	連獅子 レンジシ【舞踊劇】
レンショウモノガタリ 蓮生譚	266	26-12,22	蓮生譚 レンショウモノガタリ【時代物】
レンショウモンドウ 蓮生問答	072	07-07,40	毛抜 ケヌキ【時代物】
レンリノヒガンザクラ 連理彼岸桜	030	03-10,72	お七吉三 オンチキチサ【世話物】
ロウジョムラオカココノエニシキ 老女村岡九重錦	090	09-05,39	西郷隆盛 サイゴウタカモリ【世話物】
ロウジョムラオカココノエニシキ 老女村岡九重錦	266	26-12,23	老女村岡 ロウジョムラオカ【世話物】
ロウベンスギノユライ 良弁杉の由来	266	26-12,20	良弁杉 ロウベンスギ【時代物】
ロウモン 楼門[戯曲通称]	266	26-12,23	国性爺合戦 コクセンヤカッセン
ロッカクドウ 六角堂[戯曲通称]	266	26-12,23	桂川連理柵 カツラガワレンリノシガラミ
ロクソンオウツネモト 六孫王経元	231	24-01,19	将門 <sup>1</sup> マサカド【時代物】
ロクソンオウツネモト 六孫王経元	263	26-09,20	頼光 ヨリミツ【時代物】
ロクヤタモノガタリ 六弥太物語	151	15-05,25	忠度 タダノリ【時代物】
ロッカセンキョウガノスミヌリ 六歌仙狂画墨塗	061	06-07,46	喜撰 キセン【舞踊劇】
ロッカセンキョウガノスミヌリ 六歌仙狂画墨塗	267	27-01,24	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ロッカセンミタテフウゾク 六歌仙見立風俗	267	27-01,24	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ロッカセンヤツシフウゾク 六歌仙和略風俗	159	17-04,27	茶摘 チャツミ【舞踊劇】



ロッカセンヤツシフウゾク 六歌仙和略風俗	267	27-01,24	六歌仙 ロッカセン【舞踊劇】
ワカキノアダナグサ 若木仇名草	265	26-11,25	蘭蝶 ランチョウ【世話物】
ワカキノハナシキノフリゴト 壮花四季の所作	209	22-03,38	膝栗毛 ヒザクリゲ【世話物】
ワカキノハナスガタノサイシキ 若木花容彩四季	101	10-06,20	三人生酔 サンニンナマヨイ【舞踊劇】
ワカキノハナスガタノサイシキ 若木花容彩四季	162	17-07,48	釣狐 ツリギツネ【舞踊劇】
ワカキノハナスマノハツユキ 若木花須磨初雪	151	15-05,25	忠度 タダノリ【時代物】
ワカゴマノリゾメソガ 若駒驩曾我	097	10-01,20	三勝半七 サンカツハンシチ【世話物】
ワカゴロモデハチスノアケボノ 我衣手蓮曙[常磐津]	026	03-06,60	お梅桑之助 オウメクメノスケ【世話物】
ワカザカリヘイケモノガタリ 壮平家物語	043	04-11,49	女暫 オンナシバラク【時代物】
ワカザカリヘイケモノガタリ 壮平家物語	045	05-01,46	顔見世二番目 カオミセニバンメ【世話時代物】
ワカザカリヘイケモノガタリ 壮平家物語	048	05-04,47	景清 <sup>1</sup> カゲキヨ【時代物】
ワカザカリヘイケモノガタリ 壮平家物語	156	16-04,15	為朝 タメトモ【時代物】
ワカザカリヘイケモノガタリ 壮平家物語	230	23-12,18	舞扇 マイオウギ【舞踊劇】
ワガスムモリユキノウラウメ 我住森六花裡梅	066	07-01,34	葛の葉 クズノハ【時代物】
ワガセコガコイノアイツチ 我背子恋の合槌	068	07-03,44	蜘蛛拍子舞 クモノヒョウシマイ【舞踊劇】
ワカバノウメウキナノヨコグシ 若葉梅浮名横櫛	064	06-10,35	切られお富 キラレオトミ【世話物】
ワカミドリカサマツトウゲ 若緑笠松峠	061	06-07,43	鬼神のお松 キジンノオマツ【世話物】
ワカミドリキオイソガ 若緑勢曾我	013	02-05,52	外郎売 ウイロウリ【時代物】
ワカミドリスエヒロガリ 稚美鳥末広	119	12-02,16	末広狩 スエヒロガリ【舞踊劇】
ワカミドリフタバノマツ 若緑二葉松	220	23-02,26	二葉松 フタバノマツ【お家物】
ワカムラサキエドッコソガ 若紫江戸子曾我	040	04-08,60	お房徳兵衛 オフサトクベエ【世話物】
ワカムラサキエドッコソガ 若紫江戸子曾我	056	06-02,46	鷹金五人女 カリガネゴニンオンナ【世話物】
ワカムラサキエドッコソガ 若紫江戸子曾我	188	20-05,40	夏祭 ナツマツリ【世話物】
ワケノキヨマロ 和気清麿	267	27-01,26	和気清麿 ワケノキヨマロ【時代物】
ワケフタツクルワノチョウハナガタ 色情曲輪蝶花形	100	10-05,17	三十三間堂通し矢 サンジウサンゲンドウトウシヤ【お家物】
ワケフタツクルワノチョウハナガタ 色情曲輪蝶花形	124	12-07,28	清玄桜姫 セイゲンサクラヒメ【時代物】
ワケフタツクルワノチョウハナガタ 色情曲輪蝶花形	218	22-12,25	双蝶々 フタツチヨウチョウ【世話物】
ワケフタツニニンドウジョウジ 恋袂二人道成寺	196	21-01,32	二人道成寺 ニニンドウジョウジ【舞踊劇】
ワゴウイチジタイヘイキ 和合一字太平記	196	21-01,34	布晒 ヌノザラシ【舞踊】
ワゴウイチジタイヘイキ 和合一字太平記	231	24-01,23	正行 マサツラ【時代物】
ワコクオンナミケンジャク 和国女眉間尺	235	24-05,23	眉間尺 ミケンジャク【時代物】
ワコクゴスイデン 和国御翠殿	082	08-07,28	五翠殿 ゴスイデン【時代物】
ワコクバシウワサノヨガタリ 倭橋評判三題嚙	053	05-10,42	髪結藤次 カミユイトウジ【世話物】
ワコクビジンウタアラソイ 和国びじん哥詠	082	08-07,30	小袖売 コソデウリ【時代物】
ワセオクテニワカノスガタエ 当稻俄姿画	009	02-01,62	市原野 イチハラノ【舞踊劇】
ワセオクテニワカノスガタエ 当稻俄姿画	248	25-06,30	奴道成寺 ヤッコドウジョウジ【舞踊劇】
ワダカッセンオンナマイツル 和田合戦女舞鶴	207	21-12,45	板額 ハンガク【時代物】
ワダカッセンセイチュウロク 和田合戦誠忠録	003	01-03,47	朝比奈 アサイナ【時代物】
ワダノサカモリ 和田酒盛	134	13-07,19	曾我 ソガ【時代物】

ワタリゾメキンタイキョウ					
渡初錦帯橋	065	06-12,31	錦帯橋	キンタイバシ	【時代物】
ワボクロンナンバセンキ					
和睦論難波戦記	023	03-03,66	大阪陣	オオサカジン	【時代物】
ワラベウタシキシマモノガタリ					
童歌敷島譚	103	10-08,32	敷島物語	シキシマモノガタリ	【世話物】
ワランベタワムレノメンカブリ					
童子戯面被	244	25-02,21	面被	メンカブリ	【舞踊劇】
ワンキュウウキョジツカイ					
椀久浮世十界	268	27-02,28	椀久	ワンキュウ	【世話物】
ワンキュウスエノマツヤマ					
椀久末松山[1708/紀海音]	268	27-02,29	椀久	ワンキュウ	【世話物】
ワンキュウスエノマツヤマ					
椀久末松山[1912 東京]	268	27-02,29	椀久	ワンキュウ	【世話物】
ワンキュウスエノマツヤマ					
椀久末松山[1906 大阪]	268	27-02,29	椀久	ワンキュウ	【世話物】
ワンキュウミチユキ					
椀久道行	268	27-02,29	椀久	ワンキュウ	【世話物】
ワンヤキュウベエ					
椀屋久兵衛	268	27-02,30	椀久	ワンキュウ	【世話物】

芸能部プロジェクト報告書  
『伝統芸能の特殊な上演に関する調査研究』

平成 18 年（2006）3 月 30 日発行

---

編集・発行

独立行政法人文化財研究所  
東京文化財研究所芸能部

〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

電話 03-3823-4928